

一般国道49号
安田バイパス関係発掘報告書Ⅰ

大 坪 遺 跡

2 0 0 6

新 潟 県 教 育 委 員 会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号
安田バイパス関係発掘報告書Ⅰ

おお っほ 遺 跡
大 坪

2006

新潟県教育委員会
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道49号は新潟市と福島県いわき市の間の249km、日本海側と太平洋側を結ぶ主要幹線道路としての役割を担っています。また、日常生活や地域経済を支える重要な基盤施設でもあるため、近年、著しく交通量が増えてきました。それに伴い、交通渋滞や交通事故の増加など生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで阿賀野市六野瀬から寺社を結ぶ、延長5.6kmの安田バイパスの建設は、これらの問題を解消し、安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと期待されています。

本書は、この安田バイパスの建設に先立ち、平成16年度に実施した大坪遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、中世前期の大きな集落跡であることが明らかとなりました。長さ10mを超える大型の掘立柱建物ははじめ、数多くの建物や竪穴状遺構のほか、副葬品を伴った木棺墓などが検出されました。また遺跡の東側には、集落と低地を区画するような全長300m以上もある溝も発見されています。また、多数の白磁や高麗青磁、漆碗などの貴重な遺物も出土しており、白河荘や越後城氏との関連も考えられています。

今回の調査結果が地域の歴史を解明するための研究資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大なご協力とご支援を賜った阿賀野市教育委員会、ならびに地元住民の方々、また、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別のご高配を賜った国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

新潟県教育委員会

教育長 武藤克己

例 言

- 1 本書は、新潟県阿賀野市寺社字大坪甲 2219-2ほかに所存する『大坪遺跡』の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は一般国道49号安田バイパスの建設に伴い、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したもので、発掘調査は調査主体である県教委が財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に委託し、平成16年度に実施したものである。埋文事業団は発掘調査作業、整理作業、および関連諸工事について株式会社 帆苅組の支援を受けて調査を行った。調査面積は10,000m²である。
- 3 出土遺物および調査・整理作業に係わる各種資料は、一括して県教委が保管・管理している。
- 4 遺物の注記は「オオツボ」とし、調査年度（西暦の下2ケタ）・出土地点・遺構名・層位名を続けて記入した。
- 5 本書の図中で示す方位は、全て真北である。グリッドの長軸方向は真北から10°43'54"西偏する。
- 6 遺構番号は種別に係わりなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号は全て一致している。
- 7 文中の注はすべて脚注とし、節ごとに番号を付した。引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 8 調査成果の一部は現地説明会（平成16年8月28日・11月20日）遺跡発掘報告会（平成17年3月6日）などで公表しているが、本報告書をもって正式な報告とする。
- 9 本報告書の作成にあたり、航空写真撮影・遺構の図化は以下の機関に委託した。
航空写真撮影……株式会社イビソク 遺構の図化……株式会社新和測量設計事務所
- 10 遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、株式会社セブアスに委託して編集をした。完成データを第一印刷株式会社に渡して印刷した。
- 11 次に示す項目は、機関・個人に分析を委託した。

第Ⅵ章 1 製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査……株式会社九州テクノロジーサーチ・TACセンター

（大澤正巳・鈴木瑞穂）

第Ⅵ章 2 漆器の科学分析……漆器文化財研究所（四柳嘉章）

第Ⅵ章 3 木製品の樹種……株式会社パレオラボ（三村昌史）

第Ⅵ章 4 花粉分析・5 プラントオパール分析・7 寄生虫卵分析……株式会社パレオラボ（鈴木 茂）

第Ⅵ章 6 珪藻分析……株式会社パレオラボ（黒沢一男）

第Ⅵ章 8 放射性炭素年代測定……株式会社パレオラボ

（小林祐一・羽生越子・伊藤 茂・山形秀樹 Zaur Lomotatidze・Ineza Jorjoliani）

- 12 本報告書の執筆は、荒川隆史（埋文事業団調査課 班長）河崎昭一（同 主任調査員）島津賢男（同 主任調査員）清田明子（同 文化財調査員）高田賢治（株式会社帆苅組文化財技術室主任調査員）がこれにあたり、編集は荒川が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

第1章・第2章1・第3章……河崎 第2章2・第V章4A……清田 第4章1・2・3・4A・4B・4D・4E・4G・5A・5F・第V章1・6……荒川 第4章4C・4F・4H・5B・5D・5E・5G……島津 第4章5B・5C・第V章2・3・4B・4C・5……高田

- 13 発掘調査から本報告書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げます。（敬称略 五十音順）

阿賀野市教育委員会 阿賀野市寺社自治会 国土交通省新潟国道事務所

（財）石川県埋蔵文化財センター 珠洲市立珠洲焼資料館 吉田東伍記念博物館

相羽 重徳	甘粕 健	五十嵐和博	諫山えりか	石川日出志	伊藤 啓雄	岩瀬 由美
遠藤慎之介	大安 尚寿	岡村 道雄	金子 拓男	川上 貞雄	小林 昌二	小嶋 芳孝
坂井 秀弥	狭川 真一	笹沢 正史	関 雅之	高桑 弘美	高橋 一樹	高濱 信行
田中 耕作	田村 裕	鶴巻 康志	中島 栄一	中山 俊道	廣田 康也	藤田 邦雄
古澤 委史	堀江 格	増子 正三	水澤 幸一	宮本長二郎	向井 裕知	八重樫忠郎
矢田 俊文	山口 博之	川口 陽子	山本 信夫	横山 勝栄	吉岡 康暢	吉田 敬
吉田 博行	渡辺 文男					

目 次

第 I 章 序 章

1 調査に至る経緯	1
2 調査と整理作業	1
A バイパス両側の用排水路と農道移管部分の確認調査	1
B バイパスの確認調査	4
C 発掘調査	4
D 調査体制	5
E 整理作業	6

第 II 章 遺跡の位置と環境

1 位置と地理的環境	7
2 歴史的環境	9
A 周辺の遺跡	9
B 横峯経塚と越後平家城氏	11
C 寺社集落の成立と更正図	12

第 III 章 調査の概要

1 グリッドの設定	15
2 層 序	15
3 遺構・遺物の概要	16

第 IV 章 遺 構

1 記述の方法	18
2 遺構の分類	19
3 地区の呼称	22
4 北地区の遺構	22
A 掘立柱建物	22
B 木 棺 墓	29
C 土 坑	30
D 井 戸	32
E 土師器焼成遺構	34
F 水田状遺構	35
G 大型溝SD1	35
H 溝	36
5 南地区の遺構	40
A 掘立柱建物	40
B 竪穴状遺構	43
C 火 葬 墓	44

D	土 坑	44
E	井 戸	48
F	大型溝SD1・橋脚状遺構	49
G	溝	49

第V章 遺 物

1	土 器	52
A	出土状況	52
B	記述の方法	52
C	古代の土器	54
D	中世の土器	55
E	近世の土器	61
F	弥生土器	61
2	土 製 品	61
3	石 製 品	61
A	記述の方法	61
B	分布と出土状況	62
C	各 説	63
4	金 属 品	64
A	銭 貨	64
B	金属製品	65
C	製鉄・鍛冶関係遺物	66
5	木 製 品	69
A	成品・加工材	69
B	柱 根	70
6	漆 器	72

第VI章 科学分析

1	出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査	74
A	いきさつ	74
B	調査方法	74
C	調査結果	75
D	まとめ	80
2	出土漆器の科学分析	88
A	分析の方法	88
B	分析結果	88
C	小 結	91
3	出土木製品の樹種	98
A	はじめに	98
B	試料と方法	98
C	結果および考察	98
D	ま と め	100
E	見出された樹種	100

4	花粉化石	104
A	はじめに	104
B	試料	104
C	分析方法	106
D	分析結果	108
E	遺跡周辺の古植物	111
5	プラント・オパール	115
A	はじめに	115
B	試料と分析方法	115
C	分析結果	115
D	稲作について	117
E	遺跡周辺のイネ科植物	117
6	堆積物中の珪藻化石群集	119
A	はじめに	119
B	試料及び分析方法	119
C	珪藻化石の環境指標種群について	119
D	珪藻化石群集の特徴	120
E	おわりに	124
7	寄生虫卵	126
A	試料と分析方法	126
B	分析結果および考察	126
8	放射性炭素年代測定	128
A	はじめに	128
B	試料と方法	128
C	結果	128
D	考察	129

第VII章 ま と め

1	遺跡の時期	131
A	古代	131
B	中世	131
2	中世初期の遺構について	133
A	遺構の変遷	133
B	木棺墓について	136
3	中世集落の位置付け	137
	〈要約〉	140
	〈引用・参考文献〉	141

挿図目次

第 1 図	遺跡の位置	2	第 36 図	SE1328 遺構の主要花粉化石分布図	109
第 2 図	遺跡の調査位置	3	第 37 図	SE1997 遺構の主要花粉化石分布図	109
第 3 図	試掘トレンチ位置図	3	第 38 図	SE3794 遺構の主要花粉化石分布図	110
第 4 図	発掘調査範囲図	5	第 39 図	SD3081 遺構の主要花粉化石分布図	110
第 5 図	遺跡と周辺の地形	8	第 40 図	SD3538 遺構の主要花粉化石分布図	110
第 6 図	遺跡と土地利用図	8	第 41 図	SD673 遺構の主要花粉化石分布図	111
第 7 図	周辺の遺跡	10	第 42 図	SX2708 遺構の主要花粉化石分布図	111
第 8 図	周辺の地形と遺跡分布	13	第 43 図	SE1328 遺構の主要花粉化石分布図	113
第 9 図	神社仏閣用地絵図	13	第 44 図	SD3538 遺構の主要花粉化石分布図	113
第 10 図	大字寺社更正図と土地利用	14	第 45 図	SX2708 遺構の主要花粉化石分布図	113
第 11 図	グリッド設定図	15	第 46 図	花粉化石	114
第 12 図	土層柱状図と地区呼称	17	第 47 図	SD3081 遺構のプラント・オパール分布図	116
第 13 図	遺構の平面・断面形態の分類	19	第 48 図	SD3538 遺構のプラント・オパール分布図	116
第 14 図	遺構覆土の堆積形状の分類	19	第 49 図	SD673 遺構のプラント・オパール分布図	116
第 15 図	掘立柱建物の計測位置	20	第 50 図	SX2708 遺構のプラント・オパール分布図	116
第 16 図	掘立柱建物の柱間による分類 (庇の柱間も含む)	21	第 51 図	プラント・オパール	118
第 17 図	土坑・井戸の長深比および 平・断面構成比	22	第 52 図	SD3081 における珪藻化石分布図	120
第 18 図	土器・陶磁器類の出土状況	53	第 53 図	SD3538 における珪藻化石分布図	121
第 19 図	土師器皿・皿小皿分類図	56	第 54 図	SD673 における珪藻化石分布図	121
第 20 図	製鉄・鍛冶関係遺物 出土分布図 (点数)	68	第 55 図	SX2708 における珪藻化石分布図	122
第 21 図	製鉄・鍛冶関係遺物 出土分布図 (重量: g)	68	第 56 図	SE1328 における珪藻化石分布図	123
第 22 図	側面形態の分類	71	第 57 図	SE1997 における珪藻化石分布図	123
第 23 図	尖度	71	第 58 図	SE3794 における珪藻化石分布図	124
第 24 図	新潟県下の製鉄・鍛冶遺跡出土砂鉄・ 製錬滓の化学分析結果	81	第 59 図	堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真	125
第 25 図	FeO-TiO ₂ 二元平衡状態図	82	第 60 図	寄生虫卵	127
第 26 図	炉壁・炉内洋の顕微鏡組織	83	第 61 図	測定番号 PLD-3428 : 柱根 № 3 掘立柱建物 SB6 の P190 出土	130
第 27 図	炉底塊・流出溝洋の顕微鏡組織	84	第 62 図	測定番号 PLD-3429 : 柱根 № 4 掘立柱建物 SB7 の P278 出土	130
第 28 図	椀形鍛冶洋・炉内洋の顕微鏡組織	85	第 63 図	測定番号 PLD-3430 : 柱根 № 11 掘立柱建物 SB5 の P1761 出土	130
第 29 図	含鉄鉄滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織	86	第 64 図	測定番号 PLD-3431 : 柱根 № 31 掘立柱建物 SB38 の P3336 出土	130
第 30 図	EPMA 調査結果 反射電子像 (COMP) (70% 縮小) および定量分析値	87	第 65 図	測定番号 PLD-3432 : 柱根 № 36 溝 SD1 の P4024 出土	130
第 31 図	出土漆器実測図	94	第 66 図	遺構出土の土師器と供伴陶磁器	132
第 32 図	漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (1)	96	第 67 図	掘立柱建物の主軸方位による分類	135
第 33 図	漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (2)	97	第 68 図	屋敷敷の位置	136
第 34 図	出土木製品木材組織光学顕微鏡写真	103	第 69 図	村松町茨塚遺跡の木棺墓	137
第 35 図	試料採取位置	104			

表 目 次

第 1 表	周辺の遺跡	9	第 23 表	SD3081 における珪藻化石産出表	120
第 2 表	遺構略号	18	第 24 表	SD3538 における珪藻化石産出表	121
第 3 表	古代～中世の土器出土破片数	52	第 25 表	SD673 における珪藻化石産出表	121
第 4 表	中国銭一覧	64	第 26 表	SX2708 における珪藻化石産出表	122
第 5 表	近世銭貨一覧	65	第 27 表	SE1328 における珪藻化石産出表	123
第 6 表	金属製品器種・遺構別出土数	65	第 28 表	SE1997 における珪藻化石産出表	123
第 7 表	供試材の履歴と調査項目	74	第 29 表	SE3794 における珪藻化石産出表	124
第 8 表	供試材の組成	76	第 30 表	測定試料及び処理	128
第 9 表	出土遺物の調査結果のまとめ	82	第 31 表	放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果	129
第 10 表	赤外線吸収スペクトル	92			
第 11 表	赤外線吸収スペクトル	92			
第 12 表	赤外線吸収スペクトル	93			
第 13 表	赤外線吸収スペクトル (下地)	93			
第 14 表	柱根の樹種同定結果	99			
第 15 表	木製品の樹種同定結果	99			
第 16 表	柱根の用材	100			
第 17 表	建物毎にみた掘立柱建物柱材の用材	100			
第 18 表	器種別にみた木製品の用材	100			
第 19 表	産出花粉化石一覧表 (1)	105			
第 20 表	産出花粉化石一覧表 (2)	106			
第 21 表	産出花粉化石一覧表 (3)	107			
第 22 表	試料 1 g 当たりのプラント・オパール個数	116			

〈観察表〉

遺構観察表	143
土器観察表	179
土製品観察表	187
石器・石製品観察表	187
銭貨観察表	187
金属製品観察表	188
製鉄・鍛冶関係遺物観察表	188
漆製品観察表	189
木製品成品・加工材観察表	190
柱根観察表	192

図 版 目 次

【図面】

図版 1	遺構全体図
図版 1-2	遺構全体図
図版 2	中世遺構全体略図
図版 3	遺構分割図 (1)
図版 4	遺構分割図 (2)
図版 5	遺構分割図 (3)
図版 6	遺構分割図 (4)
図版 7	遺構分割図 (5)
図版 8	遺構分割図 (6)
図版 9	遺構分割図 (7)
図版 10	遺構分割図 (8)
図版 11	遺構分割図 (9)
図版 12	遺構分割図 (10)
図版 13	遺構分割図 (11)
図版 14	遺構分割図 (12)
図版 15	遺構実測図 (1) 北地区掘立柱建物 SB1～3
図版 16	遺構実測図 (2) 北地区掘立柱建物 SB4・8
図版 17	遺構実測図 (3) 北地区掘立柱建物 SB5

- 図版 18 遺構実測図 (4) 北地区掘立柱建物 SB5
図版 19 遺構実測図 (5) 北地区掘立柱建物 SB3・6
図版 20 遺構実測図 (6) 北地区掘立柱建物 SB7
図版 21 遺構実測図 (7) 北地区掘立柱建物 SB9・10
図版 22 遺構実測図 (8) 北地区掘立柱建物 SB11
図版 23 遺構実測図 (9) 北地区掘立柱建物 SB12・14・15
図版 24 遺構実測図 (10) 北地区掘立柱建物 SB16・17
図版 25 遺構実測図 (11) 北地区掘立柱建物 SB18・19
図版 26 遺構実測図 (12) 北地区掘立柱建物 SB20・21
図版 27 遺構実測図 (13) 北地区掘立柱建物 SB22・23
図版 28 遺構実測図 (14) 北地区掘立柱建物 SB24・25
図版 29 遺構実測図 (15) 北地区掘立柱建物 SB26～28
図版 30 遺構実測図 (16) 北地区掘立柱建物 SB29・30
図版 31 遺構実測図 (17) 北地区掘立柱建物 SB31～33
図版 32 遺構実測図 (18) 北地区掘立柱建物 SB34～36
図版 33 遺構実測図 (19) 北地区掘立柱建物 SB37～38
図版 34 遺構実測図 (20) 幕北地区 SK453・456
図版 35 遺構実測図 (21) 幕北地区 SK2732
図版 36 遺構実測図 (22) 北地区土坑
図版 37 遺構実測図 (23) 北地区土坑
図版 38 遺構実測図 (24) 北地区土坑・井戸
図版 39 遺構実測図 (25) 北地区井戸
図版 40 遺構実測図 (26) 北地区井戸
図版 41 遺構実測図 (27) 北地区井戸・水田状遺構
図版 42 遺構実測図 (28) 北地区土師器焼成遺構
図版 43 遺構実測図 (29) 北地区土師器焼成遺構
図版 44 遺構実測図 (30) 北地区土師器焼成遺構・ピット
図版 45 遺構実測図 (31) 北地区溝
図版 46 遺構実測図 (32) 北地区溝
図版 47 遺構実測図 (33) 北地区溝
図版 48 遺構実測図 (34) 南地区掘立柱建物 SB13・40
図版 49 遺構実測図 (35) 南地区掘立柱建物 SB41～43
図版 50 遺構実測図 (36) 南地区掘立柱建物 SB44・45・47
図版 51 遺構実測図 (37) 南地区掘立柱建物 SB46・48～50
図版 52 遺構実測図 (38) 南地区掘立柱建物 SB51～54
図版 53 遺構実測図 (39) 南地区竪穴状遺構
図版 54 遺構実測図 (40) 火葬墓・19～20C～D土坑群
図版 55 遺構実測図 (41) 19～20C～D土坑群
図版 56 遺構実測図 (42) 南地区19BC・20CD21土坑群・その他の土坑
図版 57 遺構実測図 (43) 南地区井戸
図版 58 遺構実測図 (44) SD杭列
図版 59 遺構実測図 (45) 南地区溝
図版 60 土器実測図 (1) 古代の土器 (1)
図版 61 土器実測図 (2) 古代の土器 (2)
図版 62 土器実測図 (3) 古代の土器 (3)
図版 63 土器実測図 (4) 古代の土器 (4)
図版 64 土器実測図 (5) 古代の土器 (5)
図版 65 土器実測図 (6) 中世の土器 (1)

- 図版 66 土器実測図 (7) 中世の土器 (2)
 図版 67 土器実測図 (8) 中世の土器 (3)
 図版 68 土器実測図 (9) 中世の土器 (4)
 図版 69 土器実測図 (10) 中世の土器 (5)
 図版 70 土器実測図 (11) 中世の土器 (6)
 図版 71 土器実測図 (12) 中世の土器 (7)
 図版 72 土器実測図 (13) 中世の土器 (8)
 図版 73 土器実測図 (14) 中世の土器 (9)
 図版 74 土器実測図 (15) 中世の土器 (10)
 図版 75 中世・近世の土器・弥生時代の土器・土製品
 図版 76 石製品実測図 (1) 北・南地区
 図版 77 石製品実測図 (2) 北・南地区
 図版 78 石製品実測図 (3) 北・南地区
 図版 79 石製品実測図 (4) 金属製品実測図 (1) 鉄貨 北・南地区
 図版 80 金属製品実測図 (2) 製鉄関係遺物実測図 (1) 北・南地区
 図版 81 製鉄関係遺物実測図 (2) 北・南地区
 図版 82 漆器実測図・出土平面図
 図版 83 木製品実測図 (1) 成品 北・南地区
 図版 84 木製品実測図 (2) 成品・柱根等 北・南地区
 図版 85 木製品実測図 (3) 柱根 北・南地区
 図版 86 木製品実測図 (4) 柱根等 北・南地区

【写真】

- 図版 87 遺跡遠景 (西から) 遺跡遠景 (東から)
 図版 88 遺跡近景 (北から) 完掘 (北から)
 図版 89 掘立柱建物 北地区 SB4・5・7~9・18 (北から) SB4・5 (東から)
 図版 90 遺構 SK453・456 SK2732 SK3477・3915 SX1786・SD1
 図版 91 白磁・青磁・青白磁・高麗青磁・白地鉄絵
 図版 92 漆器・一分判金
 図版 93 遺構 1 北地区 SB1・2・SB1-P81・SB1-SC20・SB3・SD1・北地区完掘
 図版 94 遺構 2 北地区 SB4・8・17・18・SB4-P520・SB4-P524
 図版 95 遺構 3 北地区 SB4-P527・SB4-P518・SB4-P1484・SB4-P529・SB4-P530・SB8-P274・SB8-P316
 図版 96 遺構 4 北地区 SB5・SB5-P1761・SB5-P1763
 図版 97 遺構 5 北地区 SB5-P1766・SB5-P1205・SB5-P663・SB5-P1769・SB5-P1765・2850・SB5-P1782
 図版 98 遺構 6 北地区 SB6・7・14~16・SB9・17・18
 図版 99 遺構 7 北地区 SB11・35~37・SB12・20・21・23~25
 図版 100 遺構 8 北地区 SB19・22・SB11-P2570・2571・SB10・34・26~30
 図版 101 遺構 9 北地区 SB31~33・38・39・SB38-P3336・SB38-P3335・SB38-P3337
 図版 102 遺構 10 北地区 SK453
 図版 103 遺構 11 北地区 SK456・2732
 図版 104 遺構 12 北地区 SK36・153・181・219・437・261・540・670
 図版 105 遺構 13 北地区 SK805・821・1040・1803・SK1904-P1089・SK1094・1701・1966
 図版 106 遺構 14 北地区 SK1980・1982・2023・2026・2022・2025・2080・2343・SD1374・SK2383・2966
 図版 107 遺構 15 北地区 SK2866・3039・SD3038・SK3171・3295・3266・3434・3443
 図版 108 遺構 16 北地区 SE952-P951・SE3002・1760・1788・1249・1851

- 図版 109 遺構 17 北地区 SE1320・1322・1328・2013・1749・1998
- 図版 110 遺構 18 北地区 SE1996・1999・1997・3094・SX2711・2708・2710
- 図版 111 遺構 19 北地区 SX1746・1786・1921・1973・1992
- 図版 112 遺構 20 北地区 P2660・SD1・2・3・4473
- 図版 113 遺構 21 北地区 SD2・3・32・4473・28・118・173
- 図版 114 遺構 22 北地区 SD218・281・263・295・435・673・674・675
- 図版 115 遺構 23 北地区 SD1116・1374・1332・2422・1774・1801・1971・1968・2061・2232・2728
- 図版 116 遺構 24 北地区 SD2470・1984・3347・3348・3349・3400
- 図版 117 遺構 25 北地区 SD3402・3429・3433・3536・3077・3078・3081・SK3094・SD3538
- 図版 118 遺構 26 南地区 完掘（北から）・SB41・42・43・40・完掘（北から）
- 図版 119 遺構 27 南地区 SB13・45～47・SB40・P3139・SB40-3122・SB48・49
- 図版 120 遺構 28 南地区 SB50・53・51・52・SK3793・3915・4252
- 図版 121 遺構 29 南地区 SK4259・4312・4311・4320・4319
- 図版 122 遺構 30 南地区 SK3477・3148・3151・3890・4178・3208
- 図版 123 遺構 31 南地区 SK3181・3205・3225・3481・3719・3721・3887・4178
- 図版 124 遺構 32 南地区 SK3742・3749・3718・3771・3773・3772・3779・3780
- 図版 125 遺構 33 南地区 SK3784・3786・3840・3898・4202・3936・3937・4299
- 図版 126 遺構 34 南地区 SK4248・4265・SE3650・3651・4375・3906
- 図版 127 遺構 35 南地区 SE3683・3794・3938・4037
- 図版 128 遺構 36 南地区 P3503・4104・4099・SD3538
- 図版 129 遺構 37 南地区 SD3175・3222・3231・3183・3232・3482・3576・3733・3734
- 図版 130 遺構 38 南地区 SD3734・3744・3745・3747・3187・3232・3682・3756・3763・3764
- 図版 131 遺構 39 南地区 SD4026・4206・1・3947・4272・4251・4287
- 図版 132 遺構 40 南地区 SD4251・4783・4006・3930・3935・P4024・4025・4026・4027
- 図版 133 古代の土器 (1)
- 図版 134 古代の土器 (2)
- 図版 135 古代の土器 (3) ・中世の土器 (1)
- 図版 136 世の土器 (2)
- 図版 137 中世の土器 (3)
- 図版 138 中世の土器 (4)
- 図版 139 中世の土器 (5)
- 図版 140 中世の土器 (6) ・近世の土器・弥生時代の土器・土製品
- 図版 141 石器 (1) 北・南地区
- 図版 142 石器 (2) ・鉄貨・金属製品 北・南地区
- 図版 143 鉄滓・木製品 (1) 北・南地区
- 図版 144 木製品 (2) 柱根 (1) 北・南地区
- 図版 145 柱根 (2) 北・南地区

第1章 序 章

1 調査に至る経緯

一般国道49号(福島県いわき市～新潟市)は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。県内では、沿線の阿賀町・阿賀野市と新潟市を結ぶ地域幹線道路として重要な役割を果たしている。道路は阿賀野市(旧安田町)の市街地部を通過しており幅員が狭小なため、その交通量に対応できず交通混雑と交通騒音、交通事故などの生活環境に与える影響が問題となってきた。阿賀野市六野瀬から阿賀野市寺社の間5.6kmの安田バイパスは、これらの問題を解消し安全で円滑な交通を目標に車道4車線に両側に歩道を設けた構造で計画されたものである。

大坪遺跡(第1図)のある安田バイパスの用地着手は昭和54年、工事着手は昭和56年である。昭和60年11月19日には阿賀野市六野瀬から阿賀野市寺社間の4.3kmで暫定供用されている。その後14年の歳月を経て、平成11年度末供用区間1.3kmで事業復活している。これを受けて国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所(以下、国交省)と県教委は分布調査と試掘確認調査などに関する協議を本格化させている。

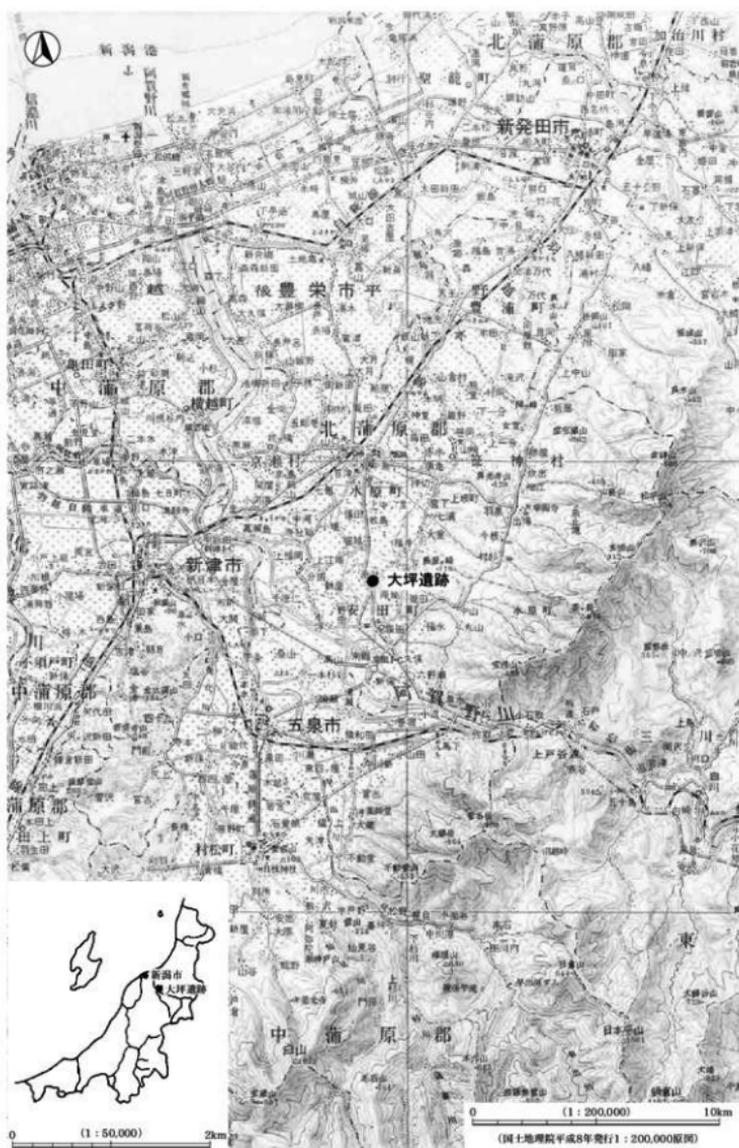
平成13年度の分布調査では、バイパス法線で土師器・須恵器などが採取された。さらに同年7月の現国道49号の歩道改良に伴う試掘調査によって、遺物包含層や遺構の存在が明らかになり、遺跡が周知化された。平成15年1月と2月に県教委は、バイパス両側に作られる排水路と農道に移管する側道部分の確認調査を実施した。調査の結果、遺物が確認できた約150mと未買取を含めた約180mの区間の排水路工事については工事立会いとし、バイパスの本線部分は平成15年度以降に別途試掘確認調査をする旨を国交省に通知した。

埋文事業団は県教委の委託を受け、平成15年4月14日～25日まで本線部分の確認調査を行った。その結果、起点(福島)側と終点(新潟)側で遺構・遺物を確認した。起点側の03-37～48トレンチでは中世の遺物包含層が存在し遺構も検出された(第3図)。発掘調査必要面積は11,600m²と県教委に報告した。

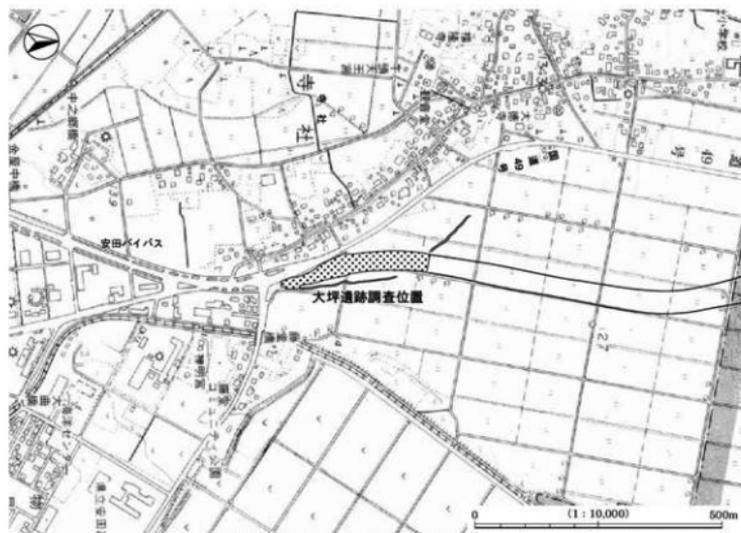
2 調査と整理作業

A バイパス両側の用排水路と農道移管部分の確認調査

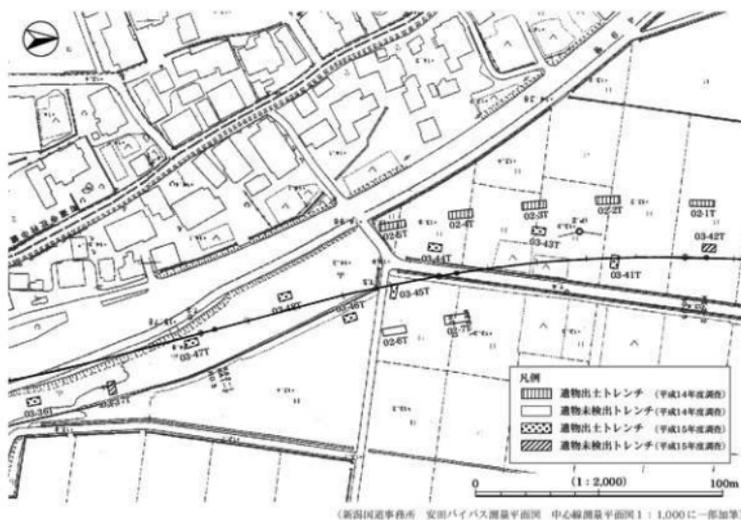
平成15年1月27日、28日、31日、2月3日～6日の7日間バイパス両側の用排水路と農道部分の試掘調査を実施した(第3図)。調査範囲内に任意に02-1～7Tのトレンチを設定し、重機による掘削と人力による精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置などを図化した。02-1Tでは弥生土器1点、02-2T土師器1点、02-3T土師器12点、02-4T土師器10点、02-5T土師器15点、02-4Tで地表面から80cmでピットと考える遺構を4基確認した。調査の結果、遺構・遺物の確認できた02-1～5Tの間約150mと遺物の確認できなかった02-6T・7T、図には記されていないが、北側の02-8T～11Tと未買取のため調査できなかった部分を含めた約180mの区間を用排



第1図 遺跡の位置



第2図 道路の調査位置



第3図 試掘トレンチ位置図

水路の掘削については工事立会いとした。

平成15年3月5日、未買取のため工事を施工しない約7m間を除く約173mの区間について工事立会いをした。確認調査の後の協議で、この部分は表土から約20cm以下は掘削をしない工法となった。縄文土器1点（後期深鉢）、珠洲焼3点（すり鉢1点）、土師器5点、近世陶磁器3点が出土した。

B バイパスの確認調査

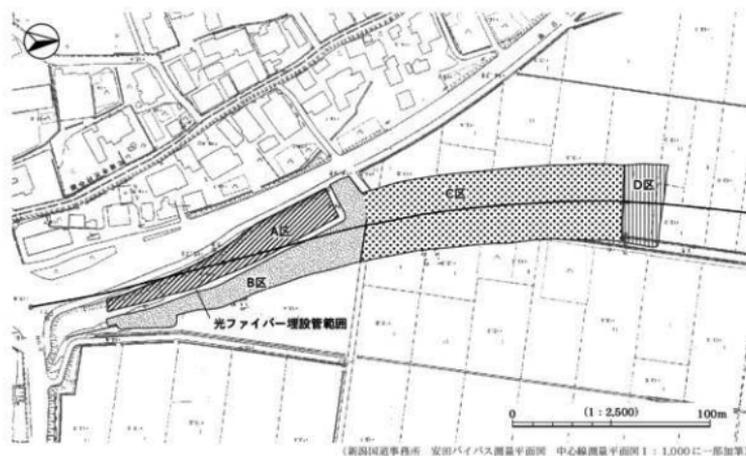
平成15年4月14日～25日に、バイパス西側の用排水路と農道部分の確認調査の結果を受け、バイパス法線内に調査坑（第3図）を任意に設定し、重機（バックホー）および人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録した。調査対象面積は、52,000㎡、実質調査面積は574㎡、確認率1.1%である。起点側・終点側の2か所で遺構・遺物の存在を確認した。ここでの説明は起点側だけとする。起点側では、03-36・41T、03-43～48Tの標高13.5m付近において遺物包含層（層厚10～20cm）を検出し、中世の遺物が出土した。03-36Tで溝状遺構1条、03-43Tで土坑2・小穴1基、03-45Tで溝状遺構1条、03-47Tで溝状遺構1条、03-48Tで性格不明の落ち込みを確認した。03-44Tでは、中世の遺物に混じり、古代・弥生の遺物が出土した。しかし、古代・弥生の包含層を確認することはできなかった。03-36T・46T・48Tでは、約1.5～2mの盛土があり、盛土下の標高13.5m付近から遺物包含層を検出した。取り扱いについては、調査の結果からSTA・No.0.5～15+25mの11,600㎡を調査面積とした。なお、4月21日起点側の03-37TにおいてNTTの光ファイバーケーブル埋設管が存在することが明らかになった。

C 発掘調査

発掘調査は平成16年5月12日～12月4日に行った。調査範囲は第4図のA～D区で、調査面積は10,000㎡である。A区は1.5m～2mの盛土が施されていたため、周囲に矢板を打設し、調査を行った。A・B区の境界には新潟と福島を結ぶNTTの光ファイバーケーブルが施設されていたため、県教委と協議の結果、これを中心とする2.5mについて調査対象外とすることとした。この範囲の南半については両脇に矢板を打設し、北半については光ファイバーケーブル両脇の幅1mを重機で遺構確認面（IVb層）まで掘り下げて遺物・遺構の有無を確認した後に、トンバックと呼ばれる土留め材を設置し、光ファイバーケーブルの崩落を防いだ。以上の土留め作業は国土交通省が行った。また、A・B区の南端から南へ長さ約10mの範囲も調査対象範囲であったが、東北電力のケーブルなどが埋設されていたため、県教委と協議の結果、調査対象外とした。D区は当初調査範囲外であったが、大型溝SD1が続いていることが分かり、県教委と国交省と協議した結果、追加して調査を行うこととした。また、B区の南東隅に隣接する国交省用地について、大型溝SD1掘削のため国交省の了解を得て調査を行った。

調査工程

5月12日からC区の表土掘削を開始し、6月1日からC区北側から包含層発掘を開始した。包含層発掘は基本的にデルタホーと呼ばれる両刃の大ジョレンで行い、必要に応じて移植ゴテを用いた。包含層から出土した遺物は小グリッド・層位・日付を記して取り上げた。包含層発掘終了後、引き続きデルタホーを用いて遺構精査を行い、IVb層上面まで掘り下げて遺構の有無を確認した。遺構はIII層・IVa層でも確認できるものもあった。遺構の調査は基本的に半截して土層を視察し、必要に応じて断面図を作成した。



第4図 発掘調査範囲図

また、木棺墓・井戸・土師器焼成遺構などについては、出土遺物の地点や出土状態の平面図を作成した。C区で検出した大型掘立柱建物SB4・5の柱穴については、検出面で柱痕の平面図を作成し、半載して断面図を作成後、柱痕のみを掘削してから、完掘した。また、木棺墓からは漆器が出土したが、現地である程度掘り上げ周囲の土ごとウレタンで固めて取り上げ、室内で細部の掘り上げを行った。11～12D～Eグリッドは、水田耕作などによる攪乱が多く認められた。A区の包含層発掘は8月16日、B区の包含層発掘は9月27日から開始し、それぞれC区と同様に遺構精査および遺構掘削を行った。B区は水田耕作や用水路等による後世の攪乱により遺物包含層がかなり削平されていた。D区もSD1より東側部分は攪乱が多かった。航空撮影は9月17日と11月14日の2度行った。現地説明会は2度開催し、8月28日は約350名、11月20日は約120名の参加者が訪れた。

D 調査体制

[バイパス両側の用排水路と農道部分の工事に伴う試掘確認調査 平成14年度]

調査期間 平成15年1月27日・28日・31日 2月3日～6日

調査主体 新潟県教育委員会(教育長 板屋越麟一)

調査 調査担当 金子 優子(新潟県教育庁文化行政課臨時任用職員)

調査職員 波多野 孝(新潟県教育庁文化行政課主任調査員)

[バイパスの試掘確認調査 平成15年度]

調査期間 平成15年4月14日～25日

調査主体 新潟県教育委員会(教育長 板屋越麟一)

調査 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団(事務局長 黒井 幸一)

管理 総括 黒井 幸一(専務理事・事務局長)

管理 長谷川二三男(総務課長)

2 調査と整理作業

庶務	高野 正司（総務課主任）
調査 調査総括	藤巻 正信（調査課長）
調査指導	田海 義正（本発掘調査課長代理）
調査担当	尾崎 高宏（文化財調査員）
調査職員	田中 一穂（専門嘱託員）

〔発掘調査 平成16年度〕

調査期間	平成16年5月12日～12月4日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 板屋越嗣一）
調査 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団（事務局長 黒井幸一）	
管理総括	黒井 幸一（専務理事・事務局長）
管理	長谷川二三男（総務課長）
庶務	高野 正司（総務課主任）
調査総括	藤巻 正信（調査課長）
調査指導	田海 義正（本発掘調査課長代理）
調査担当	荒川 隆史（調査課主任調査員）
調査職員	高橋 知之（調査課主任調査員）平成16年9月17日まで
	島津 賢男（調査課主任調査員）
	清田 明子（調査課文化財調査員）
	河崎 昭一（調査課主任調査員）平成16年9月21日から
	嶋影 壮憲（株式会社帆荷組文化財技術室調査員）平成16年10月1日まで
	高田 賢治（株式会社帆荷組文化財技術室主任調査員）平成16年9月21日から

E 整理作業

出土遺物の水洗・註記作業は調査現場で発掘調査と並行して実施した。本格的な整理作業は阿賀野市大字保田字上野林6127-12帆荷組機材センターに整理作業所を設け、平成16年12月から平成17年3月まで行った。整理参加者は以下のとおりである。

整理担当	荒川 隆史（調査課主任調査員）
整理職員	島津 賢男（調査課主任調査員） 清田 明子（調査課文化財調査員）
	河崎 昭一（調査課主任調査員） 高田 賢治（株式会社帆荷組文化財技術室主任調査員）
整理作業員	真壁 鈴子 近藤 真理子 石川 宏美 涌井 桃子 田中加代子
	小菅 真里 釣巻 奈美子 佐藤 直美 大瀧 明美 佐藤あさ子

第二章 遺跡の位置と環境

1 位置と地理的環境

大坪遺跡のある阿賀野市は新潟県の北東、北蒲原部の南に位置する。この阿賀野市は平成16年4月に安田町・水原町・笹神村・京ヶ瀬村の4町村が合併して誕生した、人口48,000余人の新市である。

阿賀野市の地勢は、東に標高912.5mの五頭山や標高974.2mの菱ヶ岳等を主峰とする五頭山地と標高約100mの笹神丘陵、西には阿賀野川とその支流が作り上げた沖積平野から成り立っている(第1・5図)。

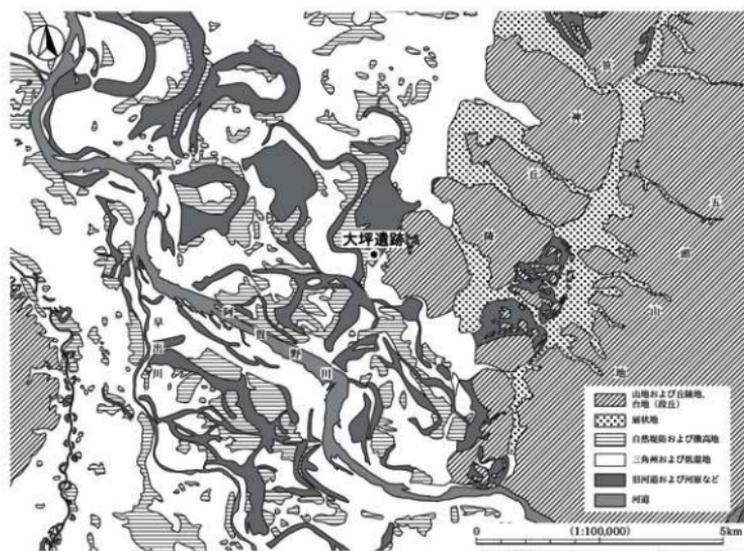
笹神丘陵の北西面(平野側)には、五頭山麓古窯跡群(古代)、笹神古窯(中世)や安田瓦の原料粘土を供給している「カキ庵地層」がある。この庵地層は、第四期更新世後期に形成された上野林丘陵をつくる層である。

阿賀野川は福島県会津盆地から、飯豊山地と越後山脈間の山間地を越える先行川として流れる。阿賀野市草水・五泉市馬下付近より蒲原平野に流れ出し、これより下流は大きく蛇行しながら流れ、多くの自然堤防をつくり、それに伴う後背湿地を形成してきた。1730年(享保15)に新発田藩は新田開発のために、阿賀野川右岸低地の排水を促進する目的で現在の新潟市松ヶ崎で砂丘を切り開き、直接日本海に流す工事を行なった。これにより早出川合流付近での乱流が少なくなり、旧安田町から旧横越町までの流れが全体的に西に移動している。1912年(大正2)から行なわれた阿賀野川第1期改修工事をはじめ、現在まで4回の改修事業により、旧横越町焼山の曲がった流れがなくなるなど、網の目のように流れていた川全体が整備された[国土交通省北陸地方整備局阿賀野川河川工事事務所2004](第5・6・7図)。その阿賀野川の旧河道が上流から旧安田町六野瀬、旧水原町唐仁、同上福岡、旧横越町焼山付近で顕著に認められる。

大坪遺跡の存続した時代は阿賀野川が乱流し、湿地帯が広がり微高地や自然堤防が散在したと見られる(第5図)。この自然堤防に平安時代以降の遺跡が認められる(第7・8図)。大坪遺跡も標高約13mの自然堤防に立地する。現況は水田で周辺一帯には田圃が広がる。遺跡の発掘調査区は国道49号に隣接し、国道の西には旧国道に沿って寺社集落が形成される(図版87)。寺社集落の西には阿賀野川の流れの一つの旧河道がある(第5・6図)。現在は水田に姿を変えているが(図版87)、1897年(明治30)の安田村の土地利用状況(第6図)をみると、寺社集落の西は未だ水田化されていない荒蕪地となっている。このことは遺跡が営まれていた頃は川が流れ、河川の利用に適した地であったとも推測できる。現在の阿賀野川は遺跡の西2.5km付近を流れる。

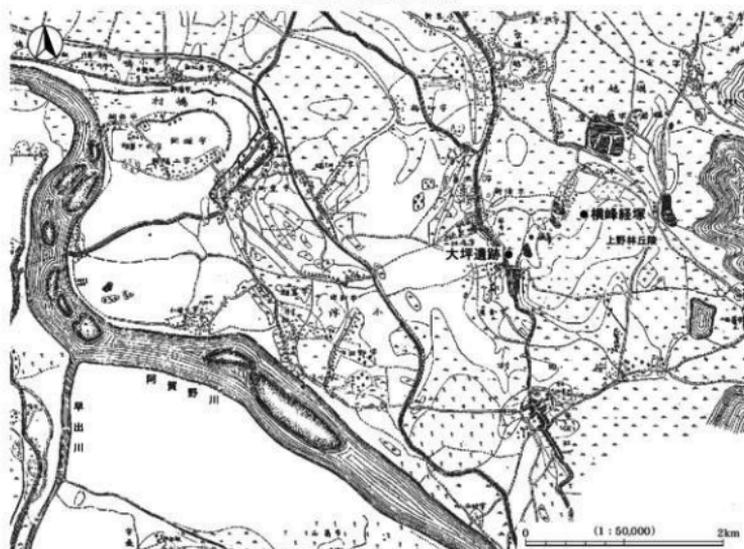
遺跡の東には面積約276ha、標高約17m～32mの上野林(庵地)丘陵(笹神丘陵の一部)があり、縄文時代を中心に多くの遺跡が分布する(第7・8図)。次にこの丘陵の開発を横峯遺跡と中道遺跡、上野林J・E遺跡の調査報告書から引用してみたい。1966年(昭和41年)に丘陵の西側約80haを対象に県営圃場整備事業が計画された(1976年には開畑に変更)。1972年(昭和47)には農業振興指定地域に指定され、1974年に上野林基盤整備協力組合による地盤の切り下げと土取り工事が開始された。この工事に伴い町教育委員会は、開発計画区域内に所在する横峯B遺跡等(縄文)の緊急発掘調査を実施している[川上ほか1981]。

この上野林丘陵から五頭山地の麓で採れる良質な粘土は、古代から窯業に利用されている。現代でも鈍い灰藍色光沢を帯びる安田瓦や水田暗果用の陶管、庵地焼の生産などの地場産業を支えている。



(昭和61年3月発行土地分類基本調査図新津・津川を基に作成)

第5図 遺跡と周辺の地形



(明治30年再版安田村原図)

第6図 遺跡と土地利用図

2 歴史的環境

A 周辺の遺跡

大坪遺跡の位置する阿賀野川右岸の阿賀野市周辺は古代においては、越後国沼垂郡に属していたと考えられる。古代以降の周辺の遺跡について触れてみたい。

8世紀後半から9世紀前半の遺跡では、旧笹神村の発久遺跡(36)[川上1991]において掘立柱建物が発出された。延暦14年(795)の月期干支が書かれた暦椽木簡や返抄木簡のほか、多数の墨書土器が出土した。1999年(平成11)には、公に属す職業的な軍人「建見」の宿直報告木簡が出土した。『類聚三代格』延暦11年6月14日太政官符には、建見の守備する施設の一つに兵庫がある。先の暦椽木簡、墨書土器の大量出土などをあわせると、国が掌握する官衙があったものとみられる[相沢2003]。腰廻遺跡(35)では弥生時代終末から中世までの遺物が見られる複合遺跡である。古墳時代の須恵器蓋杯・高杯・提瓶など5世紀末から6世紀代の陶器系の土器がまとめて出土しており、滑石製の勾玉や子持勾玉も注目される。古代では「宝亀五年」(774)の紀年銘のある荷札木簡、長さ60cm以上の県下最大級の畜串も出土した[遠藤2003]。小山崎遺跡(23)[川上1979]では、9世紀から10世紀にかけての鉄滓、フイゴ羽口、炉壁などが出土し、製鉄あるいは鍛冶を行っていたことがわかる。

笹神丘陵では9世紀になると窯業が盛んになる。1958年(昭和33)この地で最初に学術発掘調査された清見寺1号窯址は、焼成部長7.2m、窯床幅1.5m、傾斜約28度を測り、須恵器杯・甕などを生産している[中川ほか1962]。このとき9基の窯の分布が報告されているが、その後の開発で多くは埋滅したものとみられる[笹神村史]。猿沢2号窯址は1972(昭和47)に発掘調査され、食器具や貯蔵具、窯道具が出土している[中川ほか1973]。出土遺物から操業は9世紀第2四半期と見られる。これら笹神丘陵に存在した古代窯は総称して五頭山麓古窯址群とも呼ばれている。

窯業は中世にも引き継がれ、須恵器系中世陶器と瓷器系中世陶器の両方を生産した全国唯一の生産地「笹神古窯」と呼ばれる。13世紀前半に操業を開始したのは須恵器系中世陶器を生産した窯で、旧笹神村笹岡の菅中炙中世窯跡(址)などが挙げられる。つづいて瓷器系中世陶器の生産が始まり、1963年(昭和38)に学術調査された権兵衛沢窯址は、13世紀代の窯で知多窯や常滑窯に近い製品が生産されていた[中川ほか1970]。旧安田町六野瀬では1991年(平成2)に磐越自動車道建設に伴い2基の窯が調査された。窯は13世紀第3四半期の操業と考えられ、常滑焼や加賀焼などの系統を曳く瓷器系中世陶器の生産が行なわれた[小田2002]。

12世紀後半になると阿賀野川右岸地域も荘園の支配下に置かれるようになった。横峯経塚群(21)[川上1979]では2基の経塚と陶製経筒、短刀、和鏡などの他、墨書礫も出土した。その中の一つに「長口

1 観音寺遺土	11 大塚	21 横峯経塚	31 六野瀬	41 笠岡城
2 愛宕清	12 町道土	22 横峯B	32 赤山山中世窯跡	42 清見寺窯址1号
3 小栗山	13 大曲川層	23 小山崎	33 赤松山城	43 鏡沢段地群
4 山崎窯跡	14 小倉根	24 上野林J	34 ツバタB	44 亀沢窯跡
5 寛下	15 水原館	25 上野林L	35 藤巻	45 青中北窯跡
6 榎表南	16 堀越館	26 上野林C	36 発久	46 菅の河原経塚
7 新保	17 鴨深甲	27 子代山製鉄跡	37 オガノ1号製鉄跡	47 蓬田野中世窯跡
8 住吉南南	18 分田館	28 若野A	38 基瓦三沢窯跡	48 鏡沢中世窯城
9 住吉西	19 福龍寺石仏群	29 安田城	39 上の山塚群	49 日茂沢中世窯址
10 村下	20 大坪	30 六野瀬館	40 権兵衛沢窯跡	50 村杉城

第1表 周辺の遺跡



(国土地理院地形図「新撰」「新発田」「新津」「津川」1:50,000を改変)

- | | | | | |
|------|------|-----|------|---------|
| ○ 古代 | ● 中世 | △ 塚 | ▲ 城跡 | 港 寺院・墓址 |
| □ 堀跡 | ■ 契跡 | | | |

第7図 周辺の遺跡

「茂か」の文字が認められた。この長茂とは阿賀野川流域以北（揚北）を中心に強大な権力を誇った城四郎長茂ではないかと推測されている。五頭山麓の華報寺周辺の経沢中世墓域（48）や目洗沢中世墓址（49）では中世墳墓や石塔・石仏が数多く築かれた。経沢からは龍泉窓四耳臺、景徳鎮白磁水注、目洗沢からは正安元年在銘青銅製経筒、徳治3年銘青銅製骨罌器などが出土した。これら14世紀初頭頃の遺品は華法寺墓跡出土品として、新潟県有形文化財（考古資料・工芸品）に指定されている。

14世紀になり伊豆の御家人大見氏が白河荘に入封した。その後大見氏は3つに分かれ、そのなかの安田氏が安田城（29）を築いた。堀越館（16）〔小田ほか2001〕が築かれた。

B 横峯経塚と越後平家城氏

大坪遺跡の東約900mの大字寺社字横峯甲に横峯経塚という2基の経塚があった。この経塚は平安時代末期の12世紀後半に築かれ、1号塚からは陶製の経筒、和鏡2面、短刀12振が発掘された〔川上1979〕。この1号塚より僅かに遅れて築かれた2号塚からも和鏡2面、青白磁合子2個、短刀33振のほか五鈴鈴や経巻断片等の仏具なども出土した。その墨書碑に「長口（茂か）」の文字が見えたことから、城氏一族の経塚造立が想像された。

それでは城氏とはどのような存在であったのだろうか。笹神村史と新潟県史を参照に記述する。

城氏は10世紀後半から11世紀前半に東国や東北において、権勢を誇った鎮守府將軍平維重の後裔と伝えられる。維重の長子繁貞は郎党を引き連れ越後に入ったが、越後城氏の直接の祖は維重の子、繁貞の弟繁成である。繁成は11世紀中頃に秋田城介の地位にあり、そこから子孫たちは城姓を名乗ったと考えられる。維重や繁貞を継いで越後に入った繁成の子孫は、国衙勢力と敵対しつつ阿賀野川流域以北に勢力を伸ばした。越後に定着した城氏が史料に見えるのは、1117年（永久5）繁成の孫、平永基に檢非違使庁が国司を通じて宛てた下文である。これは陸奥国から越後国へ入った源義親を自称する浮浪法師を捕らえ、使者を付け都に送るように命じたものである。しかし、容易に従わない永基は、国司・国衙勢力から相対的に自立した拠点を阿賀野川流域から以北に築き上げていたものとみられる。

12世紀に城氏が勢力を伸ばした地域は、頸城郡にある国衙から遠く、独自支配が可能な地域であった。そのようななか城氏主導により荘園も開発されたものとみられる。このうち奥山荘は城氏の本拠地であったと考えられる。このほか白河荘、東蒲原郡の小川荘の開発、さらには会津地方にも勢力を広げていたものと思われる。

本遺跡がある白河荘は1134年（長承3）8月、越後守藤原清隆が宣旨を受け国司庁宣で立荘を命じて成立したものである。その荘域は旧北蒲原郡笹神村・安田町・水原町・京ヶ瀬村および豊栄市の一部が含まれると考えられる。1197年（建久8）に藤原忠通が使者を遣わして実施した検注の「白河荘年々作田注文案」によれば、本田合わせて300町と記されている。白河荘の政務を取り仕切っていたのは城助職（長茂）であった。国人から「白河御館」と呼ばれ〔田村ほか2003〕、白河荘に拠った権力者であったことがわかる。

鎌倉幕府成立までの平氏と源氏の争いは治承・寿永の内乱と呼ばれるが、越後城氏もこれに深く係わった。1180年（治承4）信濃の木曾義仲が挙兵すると、北信濃の笠原頼直はこれを恐れ、越後の城氏を頼った。平氏と結んだ城助永に1181年（養和元）正月に源氏追討の宣旨が下された。助永は信濃進軍目前に病没し、弟の長茂が跡を継いだ。長茂は6月に大軍を率いて信濃の千曲川横田原で義仲軍と戦ったが、大敗を喫した。長茂は300余人の手勢を率い本国に還ったところ、玉葉に「為途宿意、欲渡磯元（マ

マ)問……」とあるように、頸城郡を中心とした在庁官人の反抗が待ち構えていた。そこで城氏は藍津之城に引き籠もろうとしたが、奥州藤原秀衡の遣わした者にそこも追われ、本拠に逃げ帰った(玉葉)。この記事から、越後の政治状況や城氏や奥州藤原氏の勢力範囲を推測できる。(国衙)の在庁官人の反抗は、城氏の勢力拡大を歓迎しない頸城郡を中心とした国衙勢力や中小在地領主による長年の「宿意」の発露であった。また、引き籠もろうとした藍津(会津)の城は、同地に一定の足掛かりがあることを示すとともに、藤原氏にとっても看過できない地域であったことが示されている。同年8月長茂は越後守、藤原秀衡は陸奥守に任じられた。これは源氏に対抗するための平氏政権の異例の措置で、貴族が歴任してきた国守を地方豪族に代える初めてのことであった。

1185年(文治元)平氏が滅亡し、城氏もこの間に衰退した。梶原景時に預けられた長茂は文治5年の奥州征伐への参加を許されている。その後1201年(建仁元)正月、景時の失脚後、長茂は都で挙兵したが3月に吉野で殺された。越後でも長茂に応じて、4月に助永の子(長茂甥)城資盛が奥山荘葛島城で兵を挙げた。叔母の板顔の奮戦もあったが、幕府は佐々木盛綱を派遣してこれを制圧し、越後の豪族城氏は完全に滅亡した。

横峯経塚は城氏の最盛期から没落期にかけて建立された。一方、大坪遺跡は遺構、遺物量が最も多いのが11世紀後半から12世紀にかけてである。この時期は城氏の白河荘支配確立期から最盛期を迎えつつある時期であったので、城氏とどのような関係があったのか検討する価値があるであろう。

C 寺社集落の成立と更正図

大坪遺跡のある寺社集落はその名の通り寺と社が多く立ち並ぶことからその名前がつけられた。第9図は明治時代の神社仏閣絵図であるが、明治時代においても多くの寺社が並んでいる。寺社は当初は柳島と言われており、726年(天平8年)行基が諸国修行の際に現在の福隆寺隣に千手観音を作り、その観音は柳島観音と言われるようになった。807年(大同2年)には空海が奥州に向かう途中で観音堂の隣に地藏と毘沙門像を作り、千手院を建立した¹⁾。これが福隆寺の成り立ちであり、その後鎌倉時代の1204年頃に寺領700石を拝領し²⁾、寺社という地名に改められた。福隆寺は多くの伽藍と坊を持ち、阿賀野川に船を止めて多くの人が参拝する寺となった。

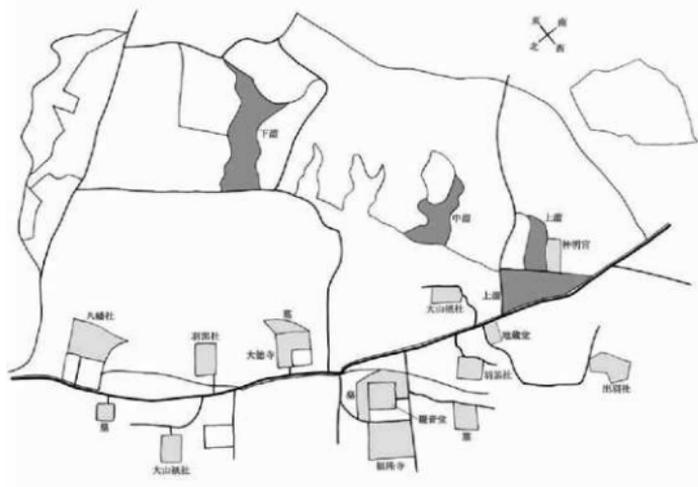
一方で、寺社は修験道の場所であり、長照寺(大藏院)や清栄寺(法正院)などの坊があった。特に長照寺(大藏院)の本多家は修験道当山派の蒲原郡における触頭であり、多くの修験者を集めていた。しかし明治政府の神仏混淆禁止令により、修験道の僧は復讐(還俗)し、神官になる者もいた。実際、当時の座主であった本多美英は1870年(明治3年)に補任職を返上し八幡神社の神官となった。その後の1872年(明治5年)には修験道は完全に禁止され、修験道の場所ではなくなった。

また大坪遺跡のSB4・5付近は周囲より地盤がやや高く、地元の人から「じょうのみや」と呼ばれていた。第9図にはそれに該当する場所に大山祇神社が見える。大山祇神社は十二の宮と呼ばれ、これが訛って「じょうのみや」と呼ばれるようになったとも考えられるが、その由来は不明である³⁾。大山祇神社はその後1911年(明治44年)に字藤堂にある神明宮に合祀された。

1) 行基や空海が柳島に観音や坊を建立した理由として、五頭山から日が昇り、赤彦山に日が沈むように見える場所で、それがあったかも柳葉浄土のような場所であるからの考え方もある『安田町史 近世編四』[廣田あさ 2004]。
2) 『安田町史 近世編一「福隆寺縁起」』[藤田1997]による。『安田町史 近世編一「寺社村風土記」』(1805年、文化2年)、『安田町史 近世編一「寺社明細帳」』(1883、明治16年)では500石と出ている。
3) 廣田康也氏のご教示による。



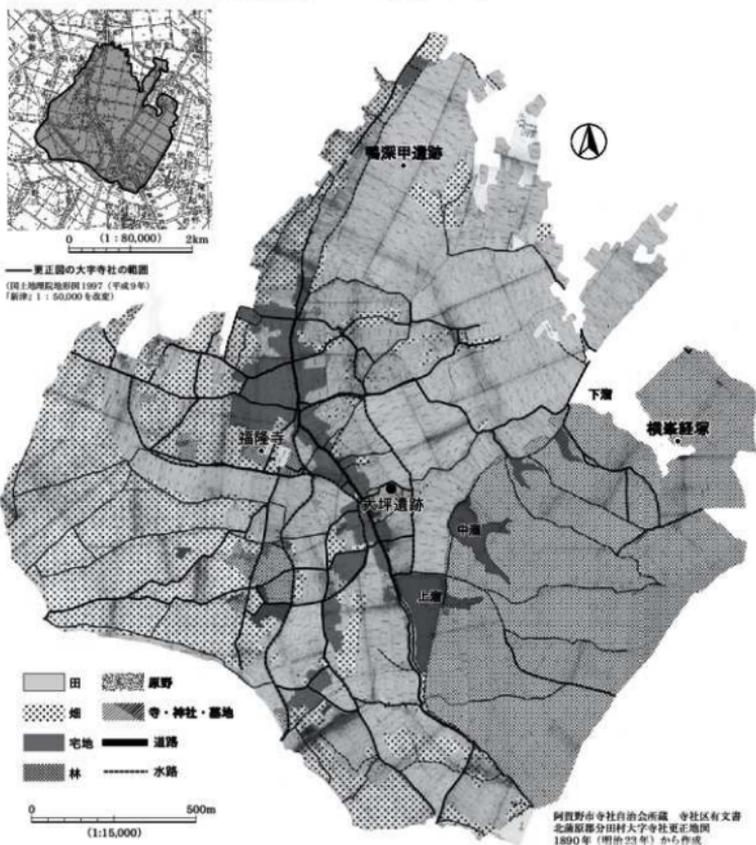
第8図 周辺の地形と遺跡分布 (1/20,000)
 (安田町役場『安田町全図』1:10,000縮刷 平成11年発行)



第9図 神社仏閣用地絵図
 (原図を複製加除)
 (阿賀野市寺社自治会所蔵 寺社区有文書 明治時代)

第10図の1890年(明治23年)大字寺社の更正図において、大字寺社の土地利用を見てみたい。蛇行した河道が水田に利用され、その周辺の自然堤防が畑として利用されている。旧河道の東岸に当たる部分には新潟と会津を結ぶ会津街道が通り、道の両側が宅地となっている。さらに宅地の東側は後背湿地となっており、水田が広がっている。後背湿地と丘陵の境に貯水地が作られて、上流から上溜、中溜、下溜の名がつけられていた。特に字鎌堂にある上溜には堰があり、用水として大坪や下流の集落に生活用水及び農業用水として用いられていた。しかし上溜の堰は領主の許可がないと放水することができなかった。

第10図の更正図と大坪遺跡の範囲とを重ね合わせると、上溜から流れ出る水路と大坪遺跡のSD1の溝跡がほぼ一致している。さらにSD1から出土している柱根が、年代測定により12世紀後半から13世紀前葉の結果が得られたことから、上溜から流れ出る水路は平安時代から明治まで一貫して使われていた可能性がある。大坪遺跡の周辺の開発史を窺うことができる例である。

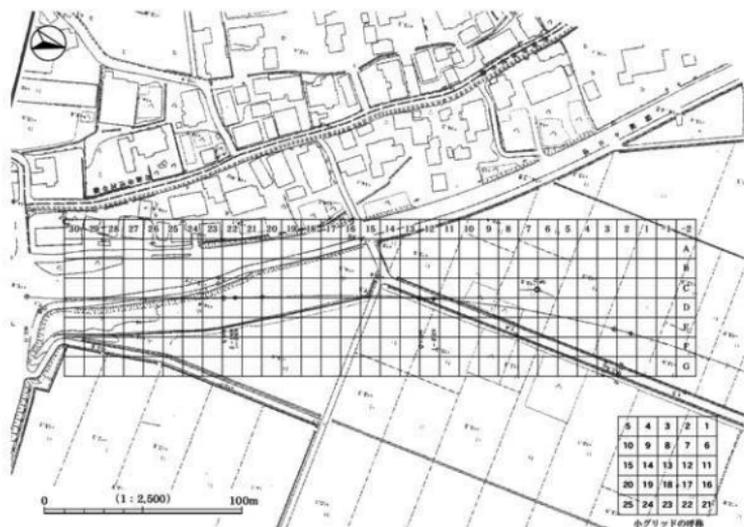


第10図 大字寺社更正図と土地利用

第三章 調査の概要

1 グリッドの設定

グリッドの設定(第11図)は、道路建設予定地内のセンター杭2点を基準に行った。まず、道路法線北側のセンター杭No.10(13Dグリッド杭、X:198914.096、Y:64193.024)を起点とし、遺跡西側のセンター杭No.5(X:198821.245、Y:64238.791)を結んだラインを基準Xとした。またこのラインとセンター杭No.10で直交するラインをY軸とし、10mのメッシュを大グリッドとした。グリッド名は北西優位とし、X軸にアルファベットA～、Y軸に数字1～とし、遺跡全体をカバーできるようにした。なお、X軸は真北から10度43分54秒西偏している。大グリッドは、図のように2mごと的小グリッドに分割した。



(新潟県道事務所安田バイパス測量平面図中心線測量平面図1:1,000に一部加筆)

第11図 グリッド設定図

2 層 序

基本土層は、調査区の北側(3D区)の土層で決定した。I層は水田耕作土であり、表土として重機で掘り上げた。II層は砂礫が混在する土層で、III層を削り込むように堆積していた。古代・中世のほか近世の遺物が出土していることや、大型溝SD1の最上に堆積することから、近世以降に人為的に形成された土層の可能性が高い。おそらく、水田の床土と考えられる。基本的に重機で掘り下げたが、III層ないしIV層直上のII層のみ残した。III層は古代～中世の遺物包含層であったと考えられる。しかし、II層に削られ

ているため、部分的に薄く認められたのみである。遺物の出土状態は良好ではなく、細片化したものが主体である。IV層は灰色シルト層で、III層黒褐色土ブロックが混在するIVa層と、これを含まないIVb層に分けた。IVa層からは主に古代および11～12世紀の遺物が出土し、当該期に整地などが行われた可能性もある。IVb層は遺物が出土せず、遺跡が形成される以前の土層であろう。

IV層の標高は3D1～3G1東西ベルト付近で約13.0mを測る。この位置から、北へ向かって標高が下がり、南に向かつては標高約13.0mで安定する。Cライン上で見ると、①で13.3mだが②では13.1mと低くなり、③・④では12.3mとさらに下がって⑤で13.3mと上がってくる。Eライン上でも⑥～⑧では13m以上の高さがあるが、⑨・⑩では13m以下になる。⑪から再び13m以上になって⑫ではさらに高くなる。このことから、16・17・18ラインの辺りではIV層が下がっていることが分かる。東西の標高を見てみると、10ライン付近では西側にある①が東側にある⑦より高くなっているが、18ラインでは④、⑬、⑭と東側に行くほど高くなっている。さらに26ラインでは東西の標高がほぼ等しくなっていることから、東西方向には緩やかにうねっている地形であることが分かる。

3 遺構・遺物の概要

遺構・遺物は調査範囲のほぼ全域で確認されたが、D区およびA・B区の南端で少ない傾向がうかがえた。出土土器は弥生時代・古代・中世・近世以降であるが、主体は古代・中世である。

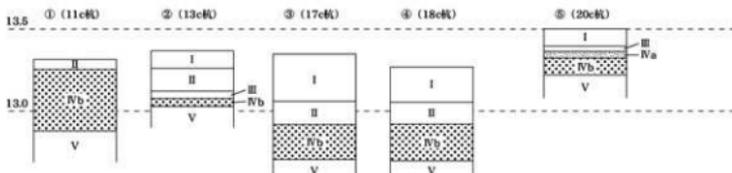
古代の遺構 土師器焼成遺構を5基検出した。平面形は長さ2m前後の隅丸方形で、深さは約10cmである。いずれも9世紀末葉～10世紀前葉にかけてのものと考えられる。

中世の遺構 調査区全域で確認され、掘立柱建物51棟、木棺墓3基・火葬墓ないし火葬場1基、竪穴状遺構6基、井戸24基、土坑95基、ピット2587基、溝195条を検出した。第IV章3で述べるように、調査区の北側と南側では遺構の種類および分布にまとまりが認められることから、調査範囲を第12図のように18グリッドを東西に流れるSD3081を境に北地区と南地区とに分けることとした。北地区では長さ10mを超える大型のもの12棟を含む39棟の掘立柱建物が認められた。また、屋敷墓と考えられる木棺墓3基を検出し、内部から漆器碗・皿が出土した。南地区では掘立柱建物15棟のほか、13世紀後半～14世紀とみられる竪穴状遺構6基を検出した。ほかに、火葬墓ないし火葬場1基や、銭貨7枚が出土した土坑墓を含む土坑群がある。このほか、調査区東側には南北約300mにわたり幅3.3m、深さ1mの溝(SD1)が検出された。明治期の土地更正地図中にある溝と合致し(第10図)、長らく使用されていたことが明らかとなった。

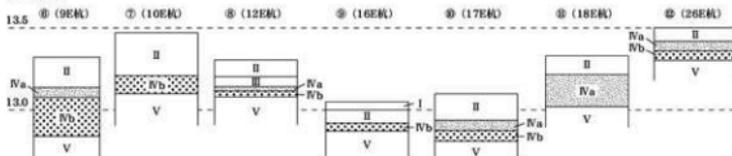
近世以降の遺構 溝が最も多いほか、掘立柱建物3棟、南地区では土坑が27基確認された。

出土遺物は、古代～中世の土師器50箱・漆器14点、中世の陶磁器10箱、中世～近世の石器13箱・木柱根53点・木製品141点・金属製品107点・銭貨54点、近世の陶磁器1箱・一分半金1点である。弥生土器もごく少量出土した。古代のものは土師器焼成遺構を中心にほぼ全域から出土しており、周辺にも遺跡が広がるものと考えられる。須恵器が少なく土師器が多いことなどから、9世紀後半以降が中心と考えられる。中世は11世紀後半～12世紀が主体であり、13～15世紀のものが若干ある。珠洲焼・珠洲系陶器はI・II期が多く、III～VI期がわずかである。輸入陶磁器は白磁203片(口禿以前179点)、青白磁13片、青磁84片のほか、高麗青磁の梅瓶1片、磁州窯系白地鉄絵巻1片など、貴重な輸入陶磁器が多数出土した。

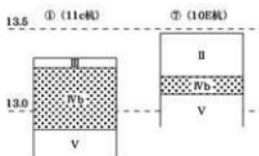
1. Cライン



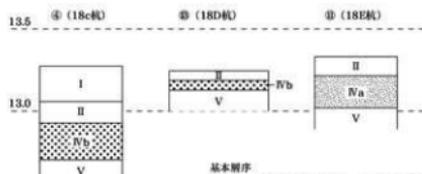
2. Eライン



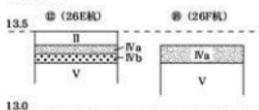
3. 10ライン近辺



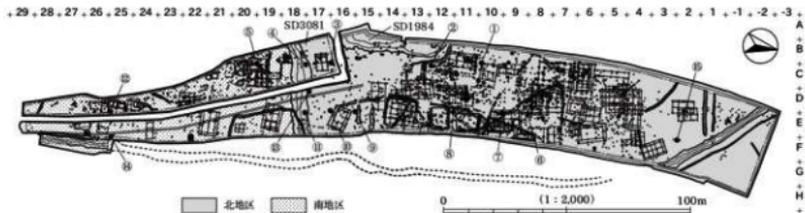
4. 18ライン



5. 26ライン



基本土層



第12図 土層柱状図と地区呼称

第IV章 遺 構

1 記述の方法

方 針

遺構の説明は、本文・観察表・図版・写真図版を用いて行う。遺跡からは主に古代、中世、近世の遺物が出土しており、遺構も同様の時期に所属することが推定される。しかし、遺構の所属時期が明確でないものが多い。本文・図版は、以下に述べる北地区、南地区の順に遺構種別ごとに記述し、掲載するものとする。詳細については観察表に委ねることとし、特徴的な点や他の遺構との関係を中心に述べることとする。

遺 構 番 号

遺構個々の名称は、遺構種類・番号の順に表記した遺構番号で表す。遺構種類は第2表のとおり略称を用いた。遺構番号は検出時に№1～4783までの通し番号を付したが、調査中に遺構でないと判断したものは番号を欠番とした。なお、掘立柱建物にはSB1～54の遺構番号付し、これを構成する個々のビット番号は検出時に付した遺構番号をそのまま用いた。

略称	遺構種類
SB	掘立柱建物
SC	段化物集申範囲
SD	溝
SE	井戸
SK	土坑・土坑墓
SS	竹篠不明遺構他

第2表 遺構略号

図 版

遺構の図版は、全体図・分割図・個別図で構成される。全体図は1/400のほか、1/700の全体略図がある。分割図は調査範囲を12分割して1/150で表した。個別図は平面図・セクション図・エレベーション図で構成される。掘立柱建物は平面図・エレベーション図を1/80、セクション図を1/40で表した。井戸・土坑・ビットは1/30ないし1/40の平面図・セクション図で表した。溝はセクション図のみを個別図版に1/40で表し、セクションポイントは分割図に示した。セクション図の土層の色調は『新版 標準土色帖』[小山・竹原1998]に基づいた。

写真図版は個別図にある遺構について掲載するよう努めたが、すべてを網羅していない。冒頭に全体写真と分割写真を掲載した後に、地区ごとに遺構個別図を掲載した。

観 察 表

観察表の項目は、位置・検出層位・所属時期・形態・規模・底面標高・覆土の堆積形状・出土物・切り合い関係などである。検出層位とは遺構を確認した際の遺構上面の層位である。深度は上端標高の最高値から底面標高を引いた数値である。切り合いは「<」「>」「=」「≠」の記号を用いて示した。記号の内容は、「<P100」とはP100に切られ、「>P100」とはP100を切っていることを示す。また、「=P100」はP100と同時期であり、「≠P100」はP100と切り合い関係があるものの、新旧が不明なことを示す。

遺構の所属時期

出土土器から当遺跡は古代～近世の遺構が存在するものと考えられる。したがって、所属時期は古代をI期、中世初頭(11～12世紀)をII期、これ以後の中世(13～16世紀)をIII期、近世以降をIV期とする。時期決定の方法は出土物を基準としたが、遺物がない場合は遺構覆土の特徴を参考にした。柱穴で認められる覆土は主に次のA～Cの3種類が認められる。Aは10YR3/2黒褐色シルトを主とし、10G6/1緑

灰色シルトを若干含む。Bは2.5Y4/2暗灰黄シルトで10G6/1緑灰色シルトをやや多めに含む。Cは10YR4/1褐灰色土で、黄灰色シルトブロックをほとんど含まない。A・BはⅢ層に由来する黒褐色土を主体とし、中世初期の主要な遺構で認められることから、Ⅱ期を中心に構築されたものが多く含まれると考える。CはⅡ層に類似しており、Ⅳ期に構築された可能性がある。以上から遺構構築時期を推定した。

2 遺構の分類

遺構の機能を検討するため、遺構の平面・断面形態(第13図)[荒川・加藤1999]・堆積形状(第14図)[荒川ほか2004]について分類した。遺構種別はこうしたデータを考慮して以下のように分類した。

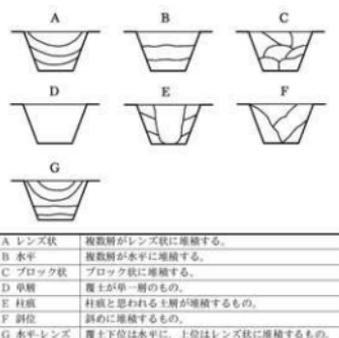


第13図 遺構の平面・断面形態の分類

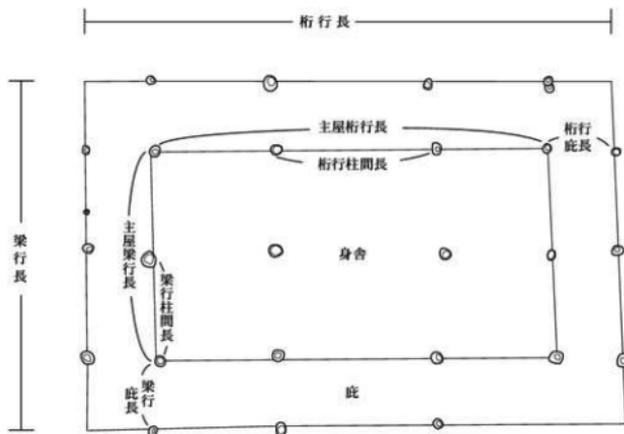
掘立柱建物(SB)

柱穴が方形ないし長方形で一定の間隔で並ぶものを掘立柱建物に認定した。認定に当たっては、柱穴の底面標高を考慮した。認定した掘立柱建物に含まれる柱穴数は、総数3,642基のうち54棟の786基で、全体の約22%に過ぎない。こうしたことから、さらに多数の掘立柱建物が存在していたことは間違いない。

各掘立柱建物の計測値について遺構観察表(1)掘立柱建物計測表に示した。規模および面積は、柱穴下端の中心および柱根下端の中心を基点として計測した。計測位置は第15図のとおりである。梁行柱間長および桁行柱間長は最も長いものを示したが、柱間長の差が大きい場合は複数の長さを記した。底のある建物の場合は、庇長のほか、身舎の面積を計測した。主軸方位は、桁行長の方角について真北を基準として東西に傾く角度を計測した。



第14図 遺構覆土の堆積形状の分類



第15図 懸立柱建物の計測位置

第16図に梁間と桁行の関係を示した。梁間2～4間の総柱建物が主体を占め、梁間一間建物〔宮本2001〕は大型建物SB5と小型の12棟のみである。周囲に庇をもつものは27棟である。規模は梁行長2.96m～9.44m、桁行長4.88m～16.28mの範囲に収まる。

竪穴状遺構 (SK)

平面径が2m前後の方形を呈する大形の土坑が検出された。いずれも覆土はIVb層ブロックを多量に含む埋め戻し土で、床面に貼り土を施しているものも認められることから、これらを竪穴状遺構とした。

土坑 (SK)・井戸 (SE)

土坑と井戸の区分については、第17図の長径と深度との関係から概ね深度60cmを境として分布が分かることから、深度60cm以上のものを井戸、それ以下のものを土坑とした。また、明らかに墓坑と分かるものは墓坑として記述する。

土師器焼成遺構 (SX)

土師器を焼成した浅い大形の土坑を土師器焼成遺構とした。

炭化物集中範囲 (SC)

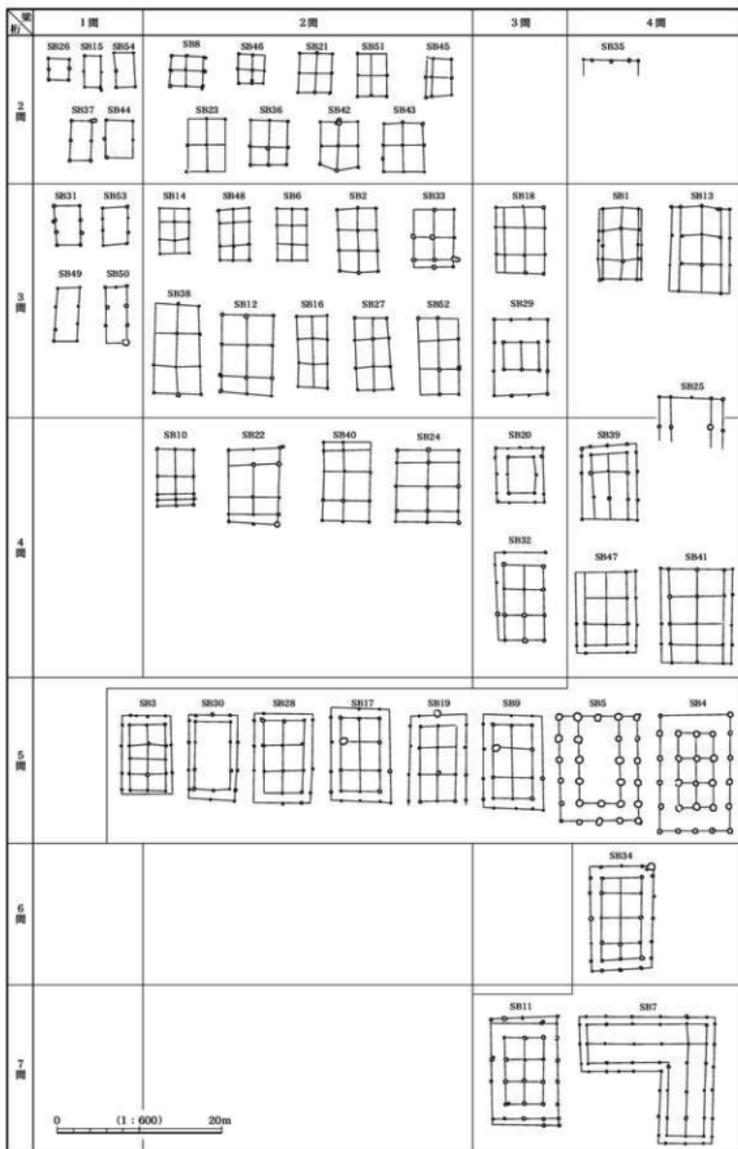
浅い掘り込みをもち、内部に炭化物が濃密に堆積するもので、地床炉の可能性はある。

水田状遺構 (SX)

方形に巡る溝に囲まれた範囲において、大粒のIVb層シルトブロックと黒褐色土ブロックが混在して堆積するものが認められた。畦は確認できなかったが、水田の可能性のあるものと考えて記述する。

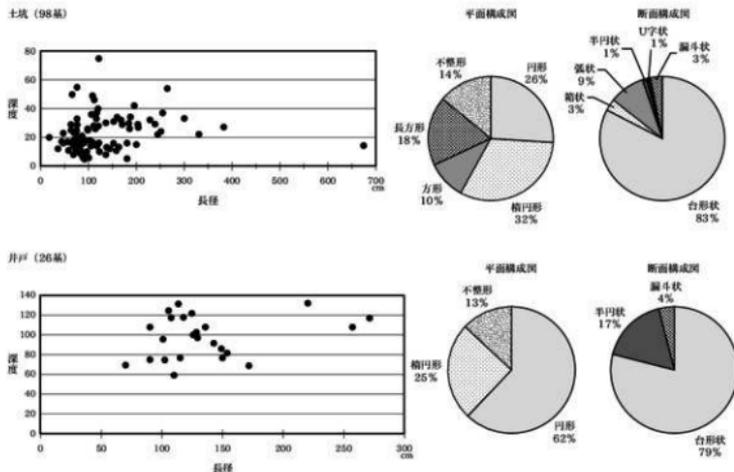
溝 (SD)

大小の溝があり、合計193条検出された。上端幅は0.63～9.76m、深度は0.02～0.74mに収まる。この中には自然流路も含まれる。



第16図 据立柱建物の柱間による分類（庇の柱間も含む）

3 地区の呼称



第17図 土坑・井戸の長深比および平・断面構成比

3 地区の呼称

検出された遺構の分布範囲を見ると、連続する自然流路と考えられるSD1984（12～16Bグリッド）とSD3081（17～18B～Eグリッド）を避けるように遺構が分布することが分かる。また、SD3081より北側では大型掘立柱建物を中心に多数の掘立柱建物や木棺墓があるのに対し、南側では19～23B～Dグリッドに竪穴状遺構や土坑群が認められており、南北における遺構分布・種類に特徴が認められる。以上から、第12図のようにSD3081より北側の範囲を「北地区」、南側の範囲を「南地区」と呼称し、遺構について地区別に述べることとする。

4 北地区の遺構

北地区では掘立柱建物38棟、木棺墓3基、土坑45基、井戸15基、土師器焼成遺構5ヶ所、水田状遺構3基、溝116条が検出された。溝については、北地区から南地区まで続く大型溝SD1がある。以下、遺構別に述べることとする。

A 掘立柱建物 (図版15～33・93～101)

SB1 (図版15・93)

2～3D～Eグリッドに位置する。桁行両側に幅0.43mの狭い庇が付く二面庇付総柱建物である。梁間は4間で5m、桁行は両側とも中央に柱1基を加えて4間となるが、棟通りは3間で8.64mある。柱間は棟通りは中央が2.72m（9尺）と広く、その両端は1.8m（6尺）であり、梁間の筋が通らない。梁間は

2.12m (7尺)である。柱穴は上端長径13～45cm、深度2～58cmで、柱根は残っていない。2D24グリッドに多量の焼土粒と炭化土粒が堆積するSC20が位置しており、柱筋と重ならないことからSB1に伴う地床がの可能性がある。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられる。SB2とほぼ同じ主軸方向で重複するが、新旧関係は不明である。

SB2 (図版15・93)

2D～Eグリッドに位置する。梁間は2間で4.8m、桁行は3間で7.72mの、庇が付かない総柱建物である。柱間は梁間が2.56m前後(約8尺)、桁行も2.54m(約8尺)である。柱穴は上端長径26～37cm、深度30～58cmで、柱根は残っていない。P73から土師器皿(図版65№122)が出土した。構築時期は出土遺物と柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられる。SB1と重複するが、新旧関係は不明である。

SB3 (図版19・93)

3～4Fグリッドに位置する。東側に隣接するSD1と長軸がほぼ並行する。四面庇付総柱建物である。梁間は4間で6.08m、桁行は中央に柱1基を加えて6間となるが、棟通りは5間で9.72mある。柱間は棟通り中央が3.76m(約12尺)と広く、桁行は2.54m(約8尺)、2.04m(約7尺)と不規則である。梁間は2.24m(約7尺)である。柱穴は上端長径15～43cm、深度15～68cmで、柱根は残っていない。P27から白磁碗(図版65№123)が出土した。構築時期は出土遺物と柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられるが、重複するSB14との新旧関係は不明である。

SB4・SB8 (図版16・89・94・95)

SB4は6～7B～Dグリッドに位置する東西に長い四面庇付総柱建物である。東側の柱3基は規模などのため検出できなかった。梁間は5間で8.56m、桁行は5間で14.2mある。柱間は身舎・庇ともに梁間が2.1～2.24m(7尺)、桁行は3m(10尺)で、桁行が長い。柱穴は身舎が上端長径58～86cm、深度18～65cmで深いのに対し、庇は上端長径38～74cm、深度6～53cmで浅いものが占める。いずれの柱穴も上端平面および土層断面で柱痕が明瞭に認められ、柱の直径は20～25cm程度と推定される。また、土層断面の観察から、柱の周囲は黒褐色土と灰色シルトを交互に薄く重ねて築き固めていることが分かった。P523から土師器皿(図版65№124)、P534から土師器小皿(図版65№125)と白磁碗(図版65№128)、P536から土師器有台皿(図版65№126)、P1484から白磁碗が出土した。構築時期は出土遺物と柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられる。SB19とほぼ同一平面で重複するが、P527がP1582に掘り込まれていることからSB4の方が古い。

SB4の北側の4～5C～Dグリッドには、梁間1間(2.24m)、桁行5間(12.9m)で南北に伸びた後に東側に2間(4.48m)曲がるL字形の廊下施設が隣接する。SB4と柱筋が通り、これに付属する可能性がある。さらに、この東端4～5C～Dグリッドには、2間(3.68m)×2間(3.88m)の掘立柱建物があり、廊下施設と柱筋が通り、これも同時期に存在していた可能性がある。この廊下施設と掘立柱建物を合せてSB8とする。P312からは土師器皿(図版65№131)が出土した。SB8も所属時期はⅡ期と考えられるが、重複するSB7・SB17との新旧関係は不明である。

SB5 (図版17・18・89・96・97)

7～8B～Cグリッドに位置する。梁間2間、桁行4間の梁間一間型を身舎とし、北面を除く3面に庇をもつ3面庇付梁間一間型建物である。梁間は4間で9.44m、桁行は5間で12.78mある。身舎の柱間は梁間が2.68m(9尺)、桁行も2.72m(9尺)と等しいが、庇の梁間は2.4m(8尺)とやや狭い。柱穴は上端長径32～96cm、深度13～57cmで、身舎と庇の差はほとんどない点が特徴である。ただし、庇南西

隅のP663・P1768のみ規模が小さい。いずれの柱穴も上端平面および土層断面で柱痕が明瞭に認められ、柱の直径は20cm程度と推定される。また、土層断面の観察から、SB4と同様に柱の周囲は黒褐色土と灰色シルトを交互に薄く重ねて築き固めていることが分かる。P1765から土師器皿（図版65№130）、P1782から土師器皿（図版65№129）が出土した。なお、P1761からは柱根が検出され、調査段階にはSB5に伴う柱根と考えていた。しかし、年代測定の結果、柱根が14世紀代のものである結果が得られた（第Ⅷ章8）。改めて図版96の土層断面写真を見ると、覆土1層と異なる黒色土が柱根の北側に重複して円形を呈しているのを観察できる。この黒色土範囲こそがSB5に伴う柱根の可能性があり、調査段階に見落としていたものと思われる。したがって、出土した柱根はこれと重複して後に構築された別の遺構である可能性が高いと考える。SB5のうち柱根が残っていたのはこれのみであることや、柱根の直径が9cmと細いことも別の遺構であることをうかがわせる。P1763・P1765はSD673に掘り込まれ、P1090もSD673に伴うSK1094に掘り込まれており、SB5はSD673より古い。構築時期は出土遺物と柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられる。

SB6（図版19・98）

4E～Fグリッドに位置する。梁間は2間で3.56m、桁行は3間で6.2mの総柱建物である。柱間は梁間が1.82m（6尺）、桁行は中央が2.38m（8尺）で広く、両側は1.92m（6尺）である。柱穴は上端長径10～26cm、深度29～86cmである。P190から柱根（図版86№630）が出土し、年代測定では11世紀後半のものである結果が得られた（第Ⅷ章8）。P192からは埋納されたと思われる土師器小皿（図版58№132）が壁際から完形で出土した。構築時期は出土遺物と柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられるが、重複するSB14との新旧関係は不明である。

SB7（図版20・89・98）

4～6D～Eグリッドに位置する。平面形は本遺跡で唯一L字形を呈する周囲に庇が付く総柱建物である。梁間4間（東端6.4m、南端6.7m）、桁行7間（北端15.38m、西端16.28m）である。平面積は168.08㎡で、掘立柱建物の中で最も広い。身舎の柱間は梁間が2.42m（8尺）、桁行は3.32m（11尺）～3.52m（約12尺）と長く、庇は1m（約3尺）である。柱穴は上端長径15～54cm、深度14～35cmである。P278から柱根（図版85№614）が出土し、年代測定では11世紀末～12世紀前半のものである結果が得られた（第Ⅷ章8）。このほかP390からも柱根が検出された。樹種はいずれもスギである。構築時期は出土遺物と柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられるが、重複するSB8・SB16・SB17との新旧関係は不明である。

SB9（図版21・89・98）

5～6E～Fグリッドに位置する。梁間は4間で7.26m、桁行は5間で11.28mの四面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.42m（8尺）、桁行は中央が3.48m（約11尺）で広く、両側は2.86m（約9尺）である。庇は1.24m（4尺）である。柱穴は上端長径19～94cm、深度8～49cmである。P608から土師器小皿（図版65№133）、P954から白磁碗（図版65№134）が出土した。構築時期は出土遺物と柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられるが、重複するSB21との新旧関係は不明である。

SB10（図版21・100）

17B～Cグリッドに位置する。梁間は2間で4.48m、桁行は4間で6.96mであり、西端に庇が2列付く総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.28m（約8尺）、桁行は東端が3.3m（約11尺）で広く、その西は2.24m（約8尺）である。庇は0.62～0.8mである。柱穴は上端長径18～36cm、深度7～67cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期以降と考えられる。

SB11 (図版 22・99)

13～14D～Eグリッドに位置する。梁間は4間で8.12m、桁行は7間で13.36mの四面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.34m(8尺)、桁行は中央が2.76m(約9尺)である。庇は1.8m(6尺)で、桁行両端には幅0.92m(3尺)の庇がもう1列加わる。柱穴は上端長径24～58cm、深度11～49cmである。土層断面で築き固めによる根固めを観察できるものや、柱痕を確認できるものが多く、柱径は15～20cmと推定される。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられるが、重複するSB36・SB37との新旧関係は不明である。

SB12 (図版 23・99)

8D～Eグリッドに位置する。梁間は4間で6.22m、桁行は3間で9.2mの総柱建物である。柱間は梁間が3m(10尺)、桁行は中央が3.88m(13尺)、東側が3.56(12尺)、西側が2.04m(7尺)と狭く、西側1面に庇が付くとも言えよう。柱穴は上端長径20～51cm、深度21～64cmである。土層断面で柱痕を確認できるものがあり、柱径は15cm程度と推定される。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB24との新旧関係は不明である。

SB14 (図版 23・98)

4E～Fグリッドに位置する。梁間は2間で3.54m、桁行は3間で5.54mの総柱建物である。柱間は梁間が1.64m(約5尺)、桁行は中央が2.04m(8尺)と広い。柱穴は上端長径15～23cm、深度14～47cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB6との新旧関係は不明である。

SB15 (図版 23・98)

4～5Fグリッドに位置する。梁間は1間で1.92m(約6尺)、桁行は2間で3.8mの梁間1間型建物である。柱穴は上端長径16～32cm、深度15～36cmである。桁行は南側に延びる可能性がある。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期以降と考えられる。

SB16 (図版 24・98)

4～5D～Eグリッドに位置する。梁間は2間で3.58m、桁行は3間で8.84mの総柱建物である。柱間は梁間が1.74m(6尺)、桁行は2.96m(10尺)である。柱穴は上端長径15～28cm、深度19～47cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB7・SB17との新旧関係は不明である。

SB17 (図版 24・98)

5C～Dグリッドに位置する。梁間は4間で7.12m、桁行は5間で10.76mの四面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.16m(7尺)、桁行は中央が3.26m(11尺)と広く、庇は1.54m(5尺)である。柱穴は上端長径19～32cm、深度14～44cmである。土層断面では根固め土を確認できるものは少ない。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられるが、重複するSB7・SB8・SB16との新旧関係は不明である。

SB18 (図版 25・89・98)

5C～Dグリッドに位置する。梁間は3間で5.84m、桁行も3間で8.14mの、西面に庇をもつ一面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.44m(8尺)、桁行は中央が3.24m(11尺)と広く、両側はやや狭くなる。庇は1m(3尺)である。柱穴は上端長径18～41cm、深度21～66cmである。P510・P579・P584・P710から柱根が出土した。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、

重複するSB20との新旧関係は不明である。

SB19 (図版25・100)

6～7C～Dグリッドに位置する。梁間は4間で6.88m、桁行は4間で10.04mだが、西端が調査区外に続いているものと推定されることから、四面庇付総柱建物と考えられる。身舎の柱間は梁間が2.16m(7尺)、桁行は東側が2.58m(約9尺)と狭く、中央は3.36m(11尺)と広い。庇は1.28m(4尺)である。柱穴は上端長径19～67cm、深度10～64cmで、庇柱が浅い。P1582がSB4-P527を掘り込んでおり、SB19のほうが新しい。SB4と同じ平面形で、ほぼ重なっていることから、建て替えをしたとも考えられよう。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられる。

SB20 (図版26・99)

6～7D～Eグリッドに位置する。梁間は3間で5.7m、桁行は4間で6.56mの、四面庇付梁間一間型建物である。身舎の柱間は梁間が2.96m(10尺)、桁行は2.28m(約8尺)である。庇は1.16m(4尺)である。柱穴は上端長径14～40cm、深度18～47cmである。P554から柱根が、P752から土師器小皿(図版65№135)が出土した。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB18との新旧関係は不明である。

SB21 (図版26・99)

6～7Eグリッドに位置する。梁間は2間で3.94m、桁行も2間で4.76mの総柱建物である。柱間は梁間が2.02m(約7尺)、桁行は2.4m(8尺)である。柱穴は上端長径15～36cm、深度27～68cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB9との新旧関係は不明である。

SB22 (図版27・100)

7～8Dグリッドに位置する。梁間は2間で6.22m、桁行は4間で9.4mの、西面に庇をもつ一面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が3.24m(約11尺)、桁行は東側から1.88m(6尺)、3.9m(13尺)、2.16m(7尺)と不規則である。庇は1.2m(4尺)である。柱穴は上端長径22～61cm、深度4～72cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB23 (図版27・99)

8E～Fグリッドに位置する。梁間は2間で4.72m、桁行は2間で6.36mの総柱建物である。柱間は梁間が2.48m(8尺)、桁行は3.22m(11尺)である。柱穴は上端長径23～34cm、深度15～58cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB24 (図版28・99)

8～9D～Eグリッドに位置する。梁間は2間で7.6m、桁行は4間で8.46mの、東西に庇をもつ二面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が3m(10尺)、桁行が3.88m(約13尺)、庇は1.46m(5尺)である。柱穴は上端長径18～48cm、深度17～75cmである。P848から精錬滓または鍛冶滓、P1497から精錬滓・鍛冶滓、P3034から小刀(図版80№534)が出土した。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB12との新旧関係は不明である。

SB25 (図版28・99)

8E～Fグリッドに位置する。梁間は4間で7.7m、桁行は1間で3.6mであるが、調査区外東側に続いているものと推定され、本来は桁行が4間の南北面に庇をもつ二面庇付総柱建物と考えられる。身舎の柱間は梁間が2.48m(8尺)、桁行は3.6m(12尺)、庇は1.4m(5尺)である。柱穴は上端長径15～62cm、深度14～65cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB26 (図版29・100)

9Cグリッドに位置する。梁間は1間で2.54m、桁行は2間で3.6mの、梁間1間型建物である。柱間は梁間が2.54m(約8尺)、桁行は1.32m(4尺)である。柱穴は上端長径28～43cm、深度14～26cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅢ期ないしⅣ期の可能性がある。

SB27 (図版29・100)

9～10B～Cグリッドに位置する。梁間は2間で4.24m、桁行は3間で8.8mの総柱建物である。柱間は梁間が2.24m(約7尺)、桁行が中央で3.4m(11尺)と長く、南側で2.74m(9尺)と短い。柱穴は上端長径17～36cm、深度12～66cmである。P4623から柱根が出土した。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB28 (図版29・100)

8～10D～Eグリッドに位置する。梁間は4間で7.04m、桁行は5間で10.68mの四面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.44m(8尺)、桁行が中央で3.2m(約11尺)と長く、両端で2.9m(約10尺)、2.72m(9尺)と短い。庇は1.22m(4尺)である。柱穴は上端長径20～47cm、深度13～42cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられる。

SB29 (図版30・100)

10～11B～Dグリッドに位置する。梁間は3間で6.48m、桁行は3間で9.26mの四面庇付梁間1間型建物だが、他の建物と構造が異なる。身舎は2間×1間だが梁間側が長い。また、庇は桁行の柱間を身舎に合わせているものの、梁間は身舎の柱間の中間に位置し、柱筋が通らない。身舎の柱間は梁間が2.16m(7尺)、桁行が3.42m(約11尺)である。庇は桁行が3.02m(10尺)と広いが、梁間は1.18m(4尺)と狭い。柱穴は上端長径20～38cm、深度12～54cmである。構築時期は柱穴覆土にA～Cが含まれており、Ⅱ～Ⅳ期と推定される。

SB30 (図版30・100)

10～11D～Eグリッドに位置する。梁間は4間で5.88m、桁行は5間で10.3mの四面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.16m(7尺)、桁行が中央で3.38m(11尺)と広く、南側で2.3m(約8尺)と狭い。庇は南側で1.42m(約5尺)と広く、他は0.68m(2尺)である。柱穴は上端長径18～46cm、深度12～37cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられる。

SB31 (図版31・101)

11Dグリッドに位置する。梁間は1間で3.08m、桁行は3間で4.88mの梁間1間型建物である。柱間は梁間が3.08m(10尺)、桁行が1.64m(約5尺)である。柱穴は上端長径28～40cm、深度17～61cmである。構築時期はP3261から近世陶磁器が出土したことからⅣ期と考えられる。

SB32 (図版31・101)

11～12B～Cグリッドに位置する。梁間は3間で5.96m、桁行は4間で10.76mであり、北西2面に庇が付くが、本来は四面庇付総柱建物である可能性がある。身舎の柱間は梁間が2.52m(約8尺)、桁行が3.26m(11尺)である。庇は北側で1.48m(5尺)、西側で0.96m(3尺)である。柱穴は上端長径14～60cm、深度18～49cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられる。

SB33 (図版31・101)

11～12C～Dグリッドに位置する。梁間は2間で4.92m、桁行は3間で6.96mであり、西面に庇が付く一面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.6m(約9尺)、桁行が東側で3.48m(12尺)、西側

で2.56m(約9尺)である。庇は北側で0.92m(3尺)である。柱穴は上端長径24～100cm、深度32～60cmである。P2039から砥石、P2859から黒色土器が出土した。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB34 (図版32・100)

12～14C～Dグリッドに位置する。梁間は4間で7.16m、桁行は6間で12.76mの四面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.4m(8尺)、桁行が中央で3.04m(10尺)に対し、両端で2.04m(7尺)と狭い。庇は1.38m(約4尺)である。柱穴は上端長径16～50cm、深度7～80cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ期と考えられ、P2861が重複するSB36～P2474を掘り込んでいることから、SB36より新しい。

SB35 (図版32・99)

13～14Eグリッドに位置する。建物の大部分が調査区外に位置する。梁間は4間で6.84m、桁行は3～5間の二面ないし四面庇付総柱建物と推測される。柱間は梁間が2.42m(8尺)、庇は1.1m(4尺)である。柱穴は上端長径18～44cm、深度31～48cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB36 (図版32・99)

14Dグリッドに位置する。梁間は2間で4.48m、桁行は2間で5.46mの総柱建物である。柱間は梁間が2.2m(7尺)、桁行が西側で3.22m(11尺)、東側で2.24m(約8尺)である。柱穴は上端長径19～44cm、深度30～92cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられ、P2474が重複するSB34～P2861に掘り込まれていることから、SB36より古い。

SB37 (図版33・99)

14Eグリッドに位置する。梁間は1間で2.6m(9尺)、桁行は2間で4.88mの梁間1間型建物であるが、調査区外東側に続いて総柱建物である可能性もある。柱間は桁行が2.46m(8尺)である。柱穴は上端長径23～76cm、深度38～50cmである。構築時期は柱穴覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB11との新旧関係は不明である。

SB38 (図版33・101)

14～15C～Dグリッドに位置する。梁間は2間で5.66m、桁行は3間で10.76mの総柱建物である。柱間は梁間が2.9m(10尺)、桁行が中央で4m(約13尺)、両端で3.4m(11尺)である。柱穴は上端長径20～30cm、深度25～56cmである。P3286・P3335・P3336・P3337から柱根が出土した。P3336の柱根の年代測定では、12世紀後半～13世紀前半に構築された結果が得られた(第Ⅶ章8参照)。したがって、構築時期はⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB39 (図版33・101)

16～17D～Eグリッドに位置する。梁間は4間で5.8m、桁行は4間で9.16mの三面庇付総柱建物である。身舎の柱間は梁間が2.4m(8尺)、桁行が中央で3.24m(11尺)、両端で2.48m(8尺)、庇が1.18m(4尺)である。柱穴は上端長径14～44cm、深度18～53cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ期と考えられる。

B 木 棺 墓 (図版34・35・102・103)

SK453 7D3～5・8～10グリッドに位置する。IVa層で検出した。上部に盛り土は確認されていない。墓坑の平面形は上端が2.45m×0.83mの隅丸長方形を呈し、深度は22cmを測る。長軸方位は西偏2°である。遺構上端の検出面において、1.86m×0.77mの長方形を呈する木棺の痕跡が認められた。木棺と墓坑との隙間は、北側で40cm、南側で20cm、東西で5～10cmである。木棺は、西壁に幅2cm前後の薄いスギの板材2点が平行に並んで残存していたことから、板材を組み合わせて作られたものと考えられる。床面にも同様の板材と見られる腐朽した木質層(16層)が認められたが、原形を留めておらず大きさ等は不明である。木棺の側壁を見ると、南壁は垂直だが、北壁は内部に向かって傾斜し、東西壁は外部に開くように傾いている。壁面および床面に板材を固定した留め具などは認められなかった。棺内の覆土を見ると、木棺床面である16層上には、シルトが薄く縮状に水平堆積する12層が認められ、6～9層も同様に薄く縮状を呈す。おそらく埋葬時に棺上などに人為的に盛られた土が崩落したものとする。これより上位にはIV層を起源とするシルトと黒褐色土がブロック状に混在する層が主体であり、墳丘状に盛り上げられた土が崩落した可能性もある。棺外の隙間にも同様のブロック状を呈する土層が堆積する。出土遺物は、棺内からは微細な土師器片が出土した以外は認められなかった。一方、棺外では南東隅から漆器椀(図版82№565)が口縁部を側壁側に斜めに向けた状態で出土した。また、南側の隙間から漆器片(図版75№566)が出土したが、トレンチ掘り下げ時に一部滅失した可能性がある。本遺構はSD673を掘り込んでいることから、これより新しく隣接するSB5よりも新しい。

SK456 8D9グリッドに位置する。IVa層で検出した。上部に盛り土は確認されていない。墓坑の平面形は上端が1.8m×0.67mの長方形を呈し、深度は16cmを測る。長軸方位は西偏6°である。遺構上端の検出面において、1.62m×0.5mの長方形を呈する木棺の痕跡が認められた。木棺と墓坑との隙間は、幅5～13cmである。木棺から板材は検出されていない。土層断面a-a'を見ると、南北壁の下端は床面の5層よりも低いことから、木棺はSK453と同様に板材を組み合わせて作られている可能性がある。木棺の側壁は、南北壁ではほぼ垂直だが、東西壁は内部に向かってやや内湾している。壁面および床面に板材を固定した留め具などは認められなかった。棺内の覆土を見ると、木棺床面である5層上には、SK453のような縮状を呈する土層はなく、IV層を起源とするシルトと黒褐色土がブロック状に混在する層が主体であり、墳丘状に盛り上げられた土が崩落した可能性もある。棺外の隙間にも同様のブロック状を呈する土層が堆積する。出土遺物は、棺内のほぼ中央から漆器皿(図版82№574)が出土したほか、漆器小皿2点(図版82№567・575)が出土した。ほかに塗膜片も多数出土したが、これらと同一個体の可能性がある。また、1層から土師器小皿(図版68№252)が出土した。棺外では北西隅から漆器小皿2点(図版82№577・578)がほぼ完形の状態で出土した。本遺構はSD673を掘り込んでいることからこれより新しく、隣接するSB5よりも新しい。

SK2732 13B25、13C5、14C1グリッドに位置する。IVa層で検出し、盛り土は確認されていない。墓坑の平面形は上端が2.05m×0.9mの隅丸長方形を呈するが、南西側が暗渠により滅失している。深度は28cmを測る。長軸方位は西偏28°である。墓坑から板材や木棺の痕跡は検出されていない。しかし、土層断面を見ると、床面および壁際に薄い6層を観察でき、木棺の痕跡と推定される。したがって、SK453・456と異なり、墓坑と木棺との間に隙間を持たせない可能性が高い。木棺の側壁は、北壁ではほぼ垂直だが、東西壁は内部に向かってやや内湾している。壁面および床面に板材を固定した留め具など

は認められなかった。覆土を見ると、床面6層上には、IV層を起源とするシルトと黒褐色土がブロック状に混在する層がレンズ状に堆積しており、墳墓状に盛り上げられた土が崩落した可能性もある。なお、覆土上端にはII層が水平に堆積しており、墓坑上面が削平された可能性を示す。出土遺物は、北壁西側から漆器皿2点(図版82№580・581)が正立して並んで出土した。また、北壁東側から器種不明の漆器(図版82№582)が出土したが、トレンチにより一部滅失している可能性がある。ほかに遺物は出土していない。

C 土 坑 (図版36～38・104～107)

北地区では45基の土坑が検出された。分布状況は柱穴の分布範囲と同様である。所属時期はII期が中心と考えられる。しかし、土坑の覆土が基本層序のII層と同じだったり、土坑が基本層序のII層を覆土にもつ溝を切ったりするものもある。このように、覆土の観察や溝との切り合い関係から判断して近世の土坑と考えられるものもある。

SK36 4E3グリッドに位置する。平面形は不整形で深度は8cmである。1層には部分的に炭化物が濃い範囲が見られる。被熱で変化した黄褐色の上も部分的に含まれることから、炉跡の可能性が考えられる。

SK153 4D15グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は楕円形で深度は30cmである。遺物は出土していない。覆土は2層で、下層からはSK181と同様のオリーブ黒色土が観察された。

SK181 4D15、5D11グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は円形で深度は23cmである。覆土は単層で隣接するSK153の2層と同じオリーブ黒色土である。

SK219 4F20・24・25グリッドに位置する。遺構の半分は調査区外にあるが、平面形は不整形を成すと考えられる。深度は36cmである。4層に黒褐色土の層があり、その前後の層にも炭化物を含む。

SK261 5C23グリッドに位置しIVa層で検出した。平面形は不整形で深度は26cmである。覆土は単一層で土師器片3片が出土した。

SK437 5E7グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は楕円形で深度は14cmである。IV期の溝であるSD295を切っており、所属時期はIV期以降である。

SK540 6E15グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は円形で深度は19cmである。土師器片が1片出土している。

SK670 (個別図なし・図版104) 10E25グリッドに位置しIVb層で検出した。遺構の半分は調査区外にあるが、平面形は楕円形を成すと思われる。長径108cm、深度49cmである。SD1968との切り合いは認められない。SK670は覆土がレンズ状に堆積し、最下層の覆土は黒褐色土に黄灰色を帯びた土が混じる。SD1968と同時にならば、SD1968に流れていた水を一度SK670に溜め、そこで土などを沈殿させ、上部の水だけを再度SD1968へと流す沈殿槽の役割をもっていた可能性がある。SK670は4層に炭化物を含む黒褐色土が堆積し、その上に大きな灰色シルトブロックを含む土が堆積している。このことから、沈殿槽の役割を終えた跡もしばらくは土坑として残っていたが、その後人為的に埋め戻されたと考えられる。北地区では、このように同時期と思われる土坑と溝が切り合っているものが3か所で見出されている。それらは全て7列から10列で大型の掘立柱建物の近くである。

SK805 6F7・12グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は楕円形で深度は14cmである。覆土は単一層で中から土師器片が7点出土した。

SK821 6F12グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は円形で深度は17cmである。2層は炭化

物が多量に含まれる黒色土である。

SK1040 7C6グリッドに位置する。平面形は円形で深度は20cmである。1層には粒状になった赤褐色の土が多量に混じる。

SK1094 7C24グリッドに位置しIVb層で検出した。長径170cm、深度は29cmである。SD673との切り合いは認められず、同時期のものと思われる。覆土はレンズ状に堆積し、最下層の覆土は黒褐色土に黄灰色を帯びた土が混じる。本遺構の東側に続くSD673では、SK1094との境界近くの底面に山形の盛り上がりが見られた。これは、SD673に流れていた水を一旦SK1094に溜め、土砂を沈殿させ、上部の水だけを再度SD673に流す沈殿槽の役割があったことを示す可能性がある。SK1094は大型の掘立柱建物SB5の柱であるP1090を切り、これより新しい。また、P1089に掘り込まれる(図版36)。

SK1701 8B15・19・20グリッドに位置しIVa層で検出した。平面形は円形で長径121cm、深度は28cmである。SD678との切り合いは認められず、同時期のものと思われる。SK670やSK1094と同様に覆土はレンズ状に堆積し、最下層の覆土は黒褐色土に灰色を帯びた土が混じる。SK1701は、SD678に流れていた水を一旦SK1701に溜め、土砂を沈殿させた後、上部の水だけ流す沈殿槽の役割があった可能性がある。

SK1803 9E9・14・19グリッドに位置する。平面形は長方形で長径382cm、深度は27cmである。SK1803の北側に接して東西に延びるSD1800がある。また覆土も、黒褐色土がII層の土と混じりながら5～15cmの深さで広がっている。これらの点は、その南側で検出されている水田状遺構SX2710に類似している。そのため、SK1803は水田状遺構の一部である可能性が考えられる。

SK1966 8C23グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は楕円形で深度は25cmである。覆土は4層で1・2層に炭化物を多く含む。遺構内から土師器片が出土した。

SK1980 10E3グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は長方形で深度は15cm断面形は箱状である。覆土は2層でどちらも灰色土でブロック状の土を含むことから、埋め戻されたものと思われる。IV期の遺構のSK1982を切るのので、所属時期はIV期である。

SK1981 10E2・3グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は長方形で深度は12cm断面形は箱状である。SK1980に切られる。覆土が灰色土でブロック状の土を含む。南側にあるSK1980・1982と同じであるため、所属時期はIV期と思われる。

SK1982 10E3グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は長方形で深度は42cmで断面形は箱状である。覆土にブロック状の土を含むことから埋め戻されたものと考えられる。近世の溝であるSD1116を切るのので、所属時期はIV期と思われる。

SK2025 11B18・23グリッドに位置する。平面形は不整形で深度は27cmである。所属時期はIV期と思われる。

SK2343 12D9・10・15グリッドに位置する。平面形は不整形で深度は40cmである。近世陶磁器が出土したSD1374を切るのので、所属時期はIV期と思われる。

SK2383 13C25、13D5、14C21、14D1グリッドに位置する。平面形は円形で深度は55cmである。覆土は4層で、1～3層に炭化物が混じる。3層の黒褐色土の厚さはおおよそ14cmあり、土師器片が出土している。

SK2628 11D24・25グリッドに位置する。平面形は不整形で深度は5cmである。東側にある水田状遺構SX2708と類似する黒褐色土がII層の土と混じりながら5～15cmの深さで広がっている。この

ことから、SK2628は水田状遺構の一部である可能性が考えられる。

SK2866 13E5グリッドに位置する。平面形は円形で深度は29cmである。覆土は4層で、1～3層までは炭化物を多量に含む層が重なる。

SK2966 13E8・9グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は円形で深度は34cmである。覆土は5層で1～4層には炭化物を含む。P3000・P3001を切ることから、SB11より新しい遺構であると考える。

SK3039 17B11・16グリッドに位置する。検出はIVa層である。平面形は方形で深度は8cmである。近世の溝SD3197を切るのでIV期の遺構と考える。

SK3171 17B24、17C4グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は楕円形で深度は14cmである。覆土は単層である。

SK3266 12B9・10グリッドに位置する。遺構の半分は調査区外へと続いているが、平面形は円形を成すものと思われる。深度は32cmである。遺構内から土師器1点と青白磁1点が出土した。SD1984を掘り込んで構築されている。

SK3295 15C23、5D3グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は楕円形で深度は14cmである。覆土は単層である。

SK3428 16C6・7グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は円形で深度は18cmである。覆土は単層である。

SK3434 15C10、16C6グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は楕円形で深度は19cmである。覆土は3層に分かれ、最下層にII層の土が含まれることから所属時期はIV期である。

SK3443 15B18グリッドに位置しIVb層で検出した。平面形は楕円形で深度は21cmである。覆土は3層で最下層にI層の土が含まれることから所属時期はIV期である。

D 井 戸 (図版38～41・108～110)

北地区の井戸は、5D～Eグリッド、8～9Dグリッド、9B～Cグリッド、11～12C～Dグリッドの4か所にまとまりが認められる。いずれも素掘りで、内部に井戸枠等の施設をもつものはない。ここでは、北側から順に述べていくこととする。

SE952 5E2グリッドに位置する。上端は150cm×136cmの楕円形で、断面形は漏斗状を呈し、深度は77cmを測る。覆土は1～5層に分けられ、5層にはシルトブロックが多量に混入する。出土遺物は3層から土師器皿(図版65№137・139)、1層から土師器皿(図版65№138)が出土した。P951・SD218に掘り込まれ、これらより古い。所属時期はII期と考えられる。

SE3002 5D17・18・22グリッドに位置する。上端は149cm×131cmの楕円形で、断面形は箱状を呈し、深度は86cmを測る。覆土は1～4層に分けられ、各層ともII層に類似する黒褐色土とシルトが大きいブロック状となって混在する。出土遺物はないが、所属時期は土層の特徴からIV期と考えられる。

SE1760 8C14・19グリッドに位置する。上端は101cm×91cmの円形で、断面形は台形状を呈し、深度は96cmを測る。覆土は1～15層に分けられ、レンズ状に堆積する。7層は焼土と見られる褐色シルトが堆積し、製錬滓(図版80№550)が出土した。また、1層から土師器皿(図版68№224)が出土した。所属時期はII期と考えられる。

SE1788 8D15グリッドに位置する。上端は106cm×101cmの円形で、断面形は漏斗状を呈し、深

度は125cmを測る。覆土は1～11層に分けられる。3層から製錬滓、2層から鍛冶滓が出土した。SD673を掘り込んでおり、これより新しい。所属時期はⅡ期と考えられる。

SE1249 9D11グリッドに位置する。上端は108cm×100cmの円形で、断面形は漏斗状を呈し、深度は118cmを測る。覆土は1～12層に分けられる。11層から磁石(図版78№509)が出土した。所属時期はⅡ期と考えられる。

SE1851 9B14グリッドに位置する。上端は110cm×103cmの円形で、断面形は箱状を呈し、深度は59cmを測る。覆土は1～5層に分けられる。5層以外は黒褐色土に黄褐色シルトブロックが多量に混入する。所属時期はⅡ期以降と考えられる。

SE1320 9C15グリッドに位置する。上端は130cm×85cmの楕円形で、断面形は台形状を呈し、深度は97cmを測る。覆土は1～21層に分けられる。下半は黒褐色土と褐色土がほぼ互層に堆積し、Ⅳ層を起源とする1層により埋め戻されている。8層からほぼ定形の珠洲系陶器の播鉢(図版65№140)と磁石(図版76№489)、2層から磁石(図版77№497)と製錬滓が出土した。所属時期はⅡ期と考えられる。

SE1322 9B24・25グリッドに位置する。上端は114cm×111cmの円形で、断面形は台形状を呈し、深度は60cmを測る。覆土は1～15層に分けられ、黒褐色土と黄灰色土がほぼ互層に堆積する。1層はSD1327の覆土である。14層から棒状木製品(図版83№596)、7層から板材(図版83№585)が出土した。所属時期はⅡ期と考えられる。

SE1328 9B25、9C5、10C19B24・25グリッドに位置する。上端は125cm×120cmの円形で、断面形は台形状を呈し、深度は122cmを測る。覆土は1～25層に分けられ、黒褐色土と黄灰色土がほぼ互層に堆積する。14層は炭化物が廃棄されたものである。所属時期はⅡ期と考えられる。なお、寄生虫卵分析を行った結果、寄生虫はわずかに検出されたのみであり、トイレ遺構ではないと判断された(第Ⅵ章7)。

SE2013 11E2・3グリッドに位置する。上端は126cm×102cmの楕円形で、断面形は箱状を呈す。深度は100cmを測るが、湧水による遺構崩壊のため正確な測量が出来なかった。覆土は1～4層に分けられ、Ⅱ層に類似する黒褐色土とシルトが大きく目のブロック状となって混入する。所属時期はⅣ期と考えられる。

SE1749 11D9・14グリッドに位置する。上端は129cm×120cmの円形で、断面形は台形状を呈し、深度は103cmを測る。覆土は1～21層に分けられる。下半は薄い黒褐色土を挟みながら壁の崩落と見られる褐色土などが堆積する。2層から珠洲焼甕(図版72№418)が出土した。所属時期はⅡ期と考えられる。

SE1998 12C11グリッドに位置する。上端は143cm×132cmの円形で、断面形は箱状を呈し、深度は92cmを測る。覆土は1～10層に分けられる。壁際には壁の崩落と見られる黄色シルトが堆積する。14層から製錬滓または鍛冶滓(図版81№558)と加工のある木片、11層から製錬滓(図版80№552・553)、10層から加工材、9層から白磁椀皿(図版70№319)が出土した。所属時期はⅡ期と考えられる。

SE1996 12C6・7グリッドに位置する。上端は102cm×90cmの円形で、断面形は漏斗状を呈し、深度は75cmを測る。覆土は1～10層に分けられ、レンズ状に堆積する。7層から磁石(図版76№490)が出土した。所属時期はⅡ期と考えられる。

SE1999 12C6・7グリッドに位置する。上端は102cm×90cmの円形で、断面形は漏斗状を呈し、深度は75cmを測る。覆土は1～9層に分けられ、レンズ状に堆積する。所属時期はⅡ期以降と考えられる。

SE1997 12C9グリッドに位置する。上端は136cm×126cmの円形で、断面形は箱状を呈し、深度は108cmを測る。覆土は1～23層に分けられる。17層以下には炭化物が多量に含まれるほか、多数の大形礫の廃棄が認められる。19層から珠洲系陶器掻鉢（図版65№143）・加工窯（図版78№504）・加工のある木片、17層から白磁皿（図版65№142）、7層から土師器小皿（図版65№141）などが出土した。所属時期はⅡ期と考えられる。

SE3034 18B11・16グリッドに位置する。上端は258cm×156cmの不整形で、断面形は上端が大きく開く漏斗状を呈する。深度は108cmを測る。覆土は1～12層に分けられ、壁の崩落と見られる褐色土と黒褐色土が堆積する。所属時期はⅡ期と考えられる。

E 土師器焼成遺構（図版42～44・90・111）

北地区で5基の土師器焼成遺構を検出した。所属時期は出土物からいずれもⅠ期である。

SX1786 8D14・15・19・20グリッドに位置する。上端は240cm×220cmの楕円形を呈し、断面形は浅い台形状を呈す。底面は北側にやや傾斜する。深度は14cmを測る。覆土は1～16層に分けられる。16層はIV層が被熱により焼土化している。3・5・9・11・13層は、IV層を起源とする褐色シルト層で構成され、この上に焼土を含む炭化物層が堆積することから、土師器焼成の際に事前に床面盛土を施した整地層と推定される。したがって、少なくとも6回以上の土師器焼成が行われたものと思われる。出土遺物は多く、土師器椀（図版60№14～27・29～35）、黒色土器椀（図版60№28）、土師器鍋（図版60№36～40・図版61№41～43）が出土しており、土師器椀・黒色土器椀・土師器鍋が焼成されていたものと考えられる。所属時期はⅠ期である。なお、完掘後、底面縁辺に沿って多数の小ピットが検出された。覆土にSX1786と同様の土が堆積していたことから、これに伴う可能性が高い。

SX1746 11D7・8・13グリッドに位置する。SD1747・1748より大きく削平されている。上端は256cm×186cmの楕円形を呈す。断面形は浅い箱状を呈し、深度は15cmを測る。覆土は1～5層に分けられる。4層および2層が焼成時に形成された土層であり、3層は焼成前の整地層と考えられ、少なくとも2回の焼成が認められる。最終的に1層により埋め戻されている。出土遺物は土師器椀（図版60№1・4・6・7）、黒色土器椀（図版60№2・3・5・8）、土師器鍋（図版60№9）が出土した。

SX1921 10C19・20・24・25グリッドに位置する。上端は124cm×122cmの円形を呈し、断面形は浅い箱状を呈し、深度は9cmを測る。覆土は1～3層に分けられる。3層は炭化物粒を含む。硬くしまっており、焼成時に形成されたものと考えられる。3層の直下は赤化している。2層はIV層に類似したシルト層で、整地層の可能性が高い。出土遺物は少なく、土師器椀（図版61№44・45）が出土した。

SX1973 10C20、11C16グリッドに位置する。上端は160cm×124cmの楕円形を呈し、断面形は浅い台形状を呈し、深度は8cmを測る。覆土は1～10層に分けられる。10層直下は赤化して硬くしまっており、9・10層が焼成時に形成された土層と考えられる。これより上位は人為的に埋め戻された可能性が高い。出土遺物はほとんどない。

SX1992 11C10・15グリッドに位置する。上端は164cm×146cmの楕円形を呈し、断面形は浅い台形状を呈し、深度は9cmを測る。覆土は1～7層に分けられる。7層は被熱により焼土化しており、5層が焼成時に形成されたものと考えられる。出土遺物は、土師器椀（図版61№46・48）、黒色土器椀（図版61№47）、土師器鍋（図版61№49）、土師器長甕（図版61№50）、須恵器甕（図版61№51・54）、須恵器長頸瓶（図版61№52・53）が出土したが、土師器椀以外は他所から廃棄されたものと考えられる。

F 水田状遺構 (図版41・110)

水田状遺構は10～12列の東側に南北に並んで3か所検出された。北側からSX2710、SX2708、SX2711と呼ぶことにする。遺構は方形を呈す。1辺の長さは10mほどでほぼ大グリッド1つ分程の広さがある。遺構と遺構の間には3m程の間隔がある。遺構の北辺または南辺には西から東に向かって溝が掘られ、遺構の東辺に突き当たると北または南へと直角に曲がる。溝の西側は南北方向に延びる溝とつながるが、水田の水口や畦は検出されていない。このように直角に曲がる溝は水田状遺構の他にもいくつか検出されていることから、この3面の他にも水田状遺構が存在したことが予想される。3基の水田状遺構は覆土にII層類似の灰色土を含んでいることから、所属時期は全てIV期と考える。

SX2708 11Eグリッドに位置する。SD1972が遺構の北辺を10E5グリッドから東に向かって延び、11E16グリッドで南へと曲がり終結する。そこからさらに南にあるSD2083へと続く可能性がある。覆土は単層で黒褐色土に灰色土が混じる。覆土の花粉分析(第4章4)では、稲の花粉や水田雑草の花粉が検出された。またプラントオパール分析(第4章5)では、高い数値で稲を検出した。この2点から、SX2708が水田であるという可能性が高まった。SD1972の南側にSD1972と平行する溝SD2009が検出された。SD2009はSD1972を掘り直したものと考えられる。

SX2710 10Eグリッドに位置する。SD1801が遺構の南辺を10D23グリッドから東に向かって延び、10E19グリッドで北へと曲がり遺構の東辺に沿って9E19グリッドまで続く。覆土は単層で黒褐色土と灰色ブロックが混じる。SD1801は10D23グリッドでSD1983とつながることが予想されるが、捜査のため確認できなかった。

SX2711 12D・Eグリッドに位置する。SD2727がSX2711の南辺を12D22グリッドから東に向かって延び、12E12グリッドで南へと曲がりさらに1mほど南へ延びて終結する。覆土は単層で黒褐色土に灰色土が混じる。遺構の南側にSD2373が検出されているが、溝の規模や覆土の堆積状況が異なることから、水田状遺構とは関連がないと考える。

G 大型溝SD1 (図版3・4・45・90・112)

-2D18グリッドから3G4、27・28E、26～28・Fグリッドにかけて、長さ約44mにわたり北西方向に直線的に伸びる溝を検出した。上端幅は最大5.32m、下端幅は2.52m、深さ0.84mを測る。底面標高は平均して12.5m程だが、1F3グリッド付近では5m×2.3mの台形を呈する範囲が平均12.2mと周より30cmほど深くなっている。本遺構と南地区の26～28E・Fグリッドで検出されたSD1とは、調査区外東側のボーリングステッキによる調査によって同一の溝であることが確認され(第2回・図版1)、さらに北端から調査区外北西側にも300m以上延びていることも明らかになった。南地区SD1の底面標高が高いことから、南から北に向かって流れていたと考えられる。

3FGグリッドa-a'セクション(図版45)では、基本層序IVa層を切って構築されていることが分かる。覆土は1～7層に分けられる。III層から派生する黒褐色土を主体とした7層・5層が左岸側に堆積し、これを切って褐色粗砂を主体とした4層・3層が堆積する。そして、これを覆うようにII層から連続する2層が堆積する。また、2層を掘り込んだ1層は、幅60cmほどの最近の溝であり、SD1に沿って認められた。-2Dグリッドa-a'セクションでは、7・5層が右岸側に認められることから、7・5層堆積後に溝が切りなおされたか、あるいは強い水流のために堆積していた土層が流されたことを示すものとする。

7層は7a～7cに細分され、最下層の7c層から遺物が多く出土した。7・5層は粗砂を含むものの、比較的安定した土質であり、水流はあまり強くないものと考えられる。しかし、4・3層は花崗岩の大粒の風化礫を含んでおり、かなり強い水流であったと考えられる。したがって、7・5層と4・3層の堆積環境は異なり、ある程度の時間差を示すものとする。

層別別の出土遺物は、最下層の7c層から土師器皿（図版66 No.151～153・156・157）・皿（図版66 No.158）、小皿（図版66 No.154・155）、珠洲焼甕（図版66 No.159）、珠洲系陶器播鉢（図版66 No.160）白磁碗（図版66 No.161）、青白磁が青磁（図版66 No.163）などの11世紀後半から12世紀を主体とする土器が出土した。7a層では青花皿（図版66 No.164）、5層では土師器皿（図版66 No.165）があり、Ⅱ～Ⅲ期の土器が含まれる。4～3層では古代の遺物が出土した。2層および1層では近世陶磁器が認められる。

以上から、SD1は1期-7・5層が堆積する段階、2期-4・3層が堆積する段階、3期-2層が堆積する段階、4期-1層の新しい溝が構築される段階、の4時期に区分できる。1期は出土遺物からⅡ～Ⅲ期と考えられる。南地区SD1内から検出された柱根の年代測定により12世紀後半～13世紀前半の結果が得られたことも矛盾しない（第六章8）。SD1の西側で東西に伸びるⅡ期の溝SD2とSD3は約3mの間隔を空けて平行に走っており、道の可能性があるが、SD1を意識するようにすぐ手前で取束している。また、この先のSD1内には台形の窪地が位置しており、何らかの関係が指摘できよう。さらに、SD1の東にはⅡ期とみられるSD32が約3mの間隔を空けて平行しており、これもSD1と同時にあった可能性が高い。2期は土層堆積状況から1期と時期差が認められることから、Ⅳ期の可能性がある。3期はⅣ期以降に位置づけられ、4期は現在の水田が作られる以前の近代ないし現代の溝と考えられる。明治時代の土地更正図に描かれる溝については、2期とした4・3層が相当する可能性があろう。したがって、SD1はⅡ期に構築され、近代まで同じ場所にあったものと推定される。

H 溝（図版41・42 105～110）

北地区では116条の溝が検出された。の中には、覆土の状況や他の遺構との切り合い、出土遺物などから近世の溝と考えられるものもある。溝は8列目辺りまでは東西方向に伸びるものが多数を占めるが、8列目以降は南北方向に伸びる溝の割合が多くなっていく。溝は、ほとんどが幅1m、長さ30m、深さ20cm以内に集中する。このことから、小規模な溝が数多くあるということが北地区の特徴といえる。これは、近世以降の水田耕作によって遺構が削平されたためと考える。そのような中で、遺跡の北西隅から南東方向に向かって延びるSD1、北地区の西側に位置する自然流路と思われるSD1984、北地区と南地区を分ける自然流路SD3081は規模の大きなものとして挙げることができる。北地区の東側にはSD1801やSD2727のようにいくつかの直角に曲がる溝が見られる。これらの溝も深度は浅く長さも短い、その形態から水田状遺構に関連する施設ではないかと考えられる。

SD2（図版3・45・112・113） ID4・5グリッドから東へ1E25グリッドまで続く。深さは46cmである。覆土は1～4層に分かれるが、2層はSD3の特徴的な覆土1層に近似しており、両者が同時に埋まった可能性がある。1層から白磁片（図版66 No.180）が、2層から土師器片（図版66 No.178・179）が、3層からは珠洲焼片（図版66 No.181）が出土しており、所属時期はⅡ期と考える。

SD3（図版4・45・112・113） ID3グリッドから1E18グリッドへと東西に延びる溝で幅61cm、深さ20cmである。南側には平行してSD2があり、2つの溝の幅は3m程である。この2つの溝はSD1との切り合わずに終結するが、その東側のSD1内に台形の窪地がある。2つの溝の間隔などの状況から、

この2つの溝の間は道であったと思われる。

SD28 (図版3・45・113) 2C20グリッドから南東方向へ4D22グリッドまで続く。深さは40cmである。覆土は3層で1・3層に黒褐色土を含む。遺物は出土していない。覆土の観察から、所属時期はⅡ期である

SD32 (図版4・45・113) 2D1グリッドから南東へ2G10グリッドまで続く。深さは17cmである。SD1に平行して続き、調査区外へも続いていくと思われる。2層に植物遺体少量と炭化物少量を含む。所属時期はⅡ期と考えられる。

SD118 (図版6・46・112・113) 4E18グリッドから東へ4F8グリッドまで続くが、さらに東側にあるSD203に続く可能性がある。覆土は黒褐色土の単層で深さは8cmである。遺構内から土師器片が出土した。覆土の観察や遺物から所属時期はⅢ期である。

SD173 (図版6・46・113) 4D14グリッドから東方向へ4E20まで続く単層の溝で、深さは12cmである。遺物は出土していない。SD218・SD295・SD296との切り合い関係はなく、全て同時期の溝と思われる。近世の溝であるSD550を切るため、所属時期はⅣ期以降と思われる。

SD218 (図版6・46・114) 4E5グリッドから南へ5E3グリッドまで続く単層の溝である。深さは7cmである。SD173・SD295・SD296との切り合い関係はなく、全て同時期の溝と思われる。近世の溝であるSD550を切るため、所属時期はⅣ期以降と思われる。

SD263 (図版6・46・114) 5C2グリッドから南東へ伸び、7E24グリッドでSD786に切られる。深さは18cmである。覆土は単層で灰色を帯びる。遺物は出土していないが、覆土の観察からⅣ期以降の遺構と思われる。

SD281 (図版6・46・114) 4C24グリッドから南東方向へ5D6グリッドまで続く。深さは7cmである。覆土は単層で黒褐色シルトに灰色シルトが混じる。覆土の観察から、Ⅱ期に構築されたものと思われる。

SD295 (図版6・46・114) 5D16グリッドから東へ5E12まで続く。深さは6cmである。SD173・SD218・SD296との切り合い関係はなく、全て同時期の溝と思われる。Ⅳ期の溝であるSD550を切るため、所属時期はⅣ期以降と思われる。

SD435 (図版5・46・114) 6B22グリッドから南東方向へ7D23グリッドまで続く。深さは14cmである。覆土は2層で1層は褐色土が、2層は灰色土が堆積している。遺物は出土していない。覆土の観察からⅣ期以降の遺構と思われる。

SD673 (図版5・8・46・114) 7F9グリッドから西に向かって伸び、7C24グリッドで南東方向へと曲がる。そのまま南東方向へ伸び、11E20グリッドで一旦調査区外へと続く。13E7グリッドで再度調査区内で検出され、西方向へと続く。13D13グリッドで南東方向へ曲がり、14E18まで続く。総延長は97.6mである。深さは33cmである。断面形は台形状ないしU字形で、7F9グリッドより東側と14E18グリッドより東側にもさらに続くと考えられる。直線的に延びるものが多い北地区の溝の中で、SD673は曲折しながら続くのが特徴である。覆土は4層で細かい斑状の土が堆積する。重複関係では、7C24グリッドではSB5を切るが、SK1094との切り合いは見られない。これは、SK1094がSD673の沈殿槽であったためと考えられる。また7D4・9グリッドでは木棺墓SK453に、8D9・10グリッドでは木棺墓SK456に切られる。1層から土師器片が出土している。

SD674 (図版5・46・114) 8D1・2・3・6・7・8・11・12・13グリッドに位置する馬蹄形

の溝で長さ9.73m、幅98cm、深さ19cmである。溝中から小刀(図版80 No.535)が出土した。形状から塚の周溝の可能性が考えられる。溝内肩の南北間距離は約3m。西側には大型のSB4・5があり、北側には木棺墓SK453が、南側には木棺墓SK456が存在することから、これらの建物や墓との関連も予想される。構築時期は不明だが、SB24-P849はこの底面で検出されており、SD674の方が新しい可能性がある。

SD675(図版5・8・46・114) 8C5グリッドから南へ10C2グリッドまで続く。深さは13cmである。溝の中から近世の遺物が出土しており、所属時期もⅣ期と思われる。

SD1116(図版5・8・46・115) 8E4グリッドから南へ9E3グリッドまで続く。そこで一旦は終結するが9E5グリッドで再度検出され10E2グリッドでSX1980に切られる。深さは12cmである。覆土は単層で褐灰シルトに灰色土が混じる。覆土の観察から所属時期はⅣ期以降と思われる。

SD1154(図版5・8・46) 8F4グリッドから西に延び8E24グリッドで南に曲がる。9E22グリッドで再度西に曲がり9E12グリッドまで続く単層の溝である。遺物は出土していない。直角に曲がる溝は水田状遺構に関連する可能性があることから、SD1154も水田状遺構との関連が予想される。所属時期はⅣ期である。

SD1327(図版8・46) 9B25グリッドから南へ10B22グリッドまで続く。深さは6cmである。9B25グリッドでSE1322を切る。覆土は単層で褐灰色シルトに灰色土が混じる。覆土の観察から所属時期はⅣ期と思われる。

SD1332(図版8・46・115) 9E11グリッドから南へ延びる。途中で確認できない部分もあるが、断続的に6C12グリッドまで続く。深さは17cmである。近世の遺物が出土しており、Ⅳ期の遺構と思われる。

SD1374(図版8・46・115) 9D22グリッドから断続的に南へ延び14E9グリッドで終結する。深さは9cmである。暗渠の南側15D7グリッドから南へ延びるSD3323につながる可能性がある。遺構内から近世の遺物が出土しており、Ⅳ期の遺構と思われる。

SD1744(図版8・46・115) 9B21グリッドから南へ10B14グリッドまで続く。北側でSD676、南側でSD1919とつながる可能性がある。9B21グリッドでSD1189を切る。覆土は単層で褐灰色シルトに灰色土が混じる。覆土の観察から所属時期はⅣ期と思われる。

SD1801(図版8・46・115) 9E19から南に伸び10E19で西へ曲がって10D2まで続く。暗黄灰色シルトの単層で深さ10cmである。水田状遺構SX2710の南辺内側と東辺内側に接しており、水田の用排水路であった可能性がある。10B23グリッドでSD1983と接するが切り合い関係は不明である。10E3グリッドでSD2485を切って重なり、10D6グリッドまで続く。重なった部分は以前からあったSD2485を掘り直したもので、SD2485とは異なるⅣ期の覆土が認められる。

SD1920(図版8・46) 11B16グリッドから東へ延び11C6グリッドまで続く。深さは15cmである。覆土は単層で黒褐色土である。P2995・P4499を切っており、SB32よりも新しい。覆土の観察から所属時期はⅢ期と考える。

SD1968(図版8・115) 10E14グリッドから東へ延び10E19グリッドでSK670に続くが、SK670との切り合い関係が認められない。2つの遺構が同時期に存在し、SD1968がSK670の中央部を通過していることから、SK670は、SD1968に流れていた水を土坑内に溜め、そこで土などを沈殿させ、上部の水だけを再度SD1968へと流す沈殿槽の役割をもっていた可能性も考えられる。10E19グリッドで

SD1801に切られるが、その北側にあるSD2485へと続き、13D3グリッドでSD1801と重なる。このSD1801と重なる部分はSD2485が掘り直されたもので覆土が異なる。この溝の西側は一旦10D6グリッドで取束するが、北西方向にあるSD678へと続く。SD678はさらにSK1701へとつながる。

SD1971 (図版8・46・115) 10E19グリッドから東へ延び、調査区外へと続く。調査区内の長さは1.62mだが、さらに延びることが予想される。単層で深さは12cmである。10E19グリッドでIV期の溝のSD1801に切られる。

SD1972 (図版8・46) 10E5グリッドから東へ延び11E16グリッドで南に曲がって終結する。覆土は黒褐色土上に灰色土が混じる。単層で深さ6cmである。10E5グリッドでSD1969に切られる。11E19グリッドからSD2083に続く可能性がある。水田状遺構SX2708の北側と東側に接しており、SD1801同様水田の用排水路であったと考えられる。所属時期はIV期である。

SD1984 (図版7・10・47・116) 調査区の西側に位置し12B7グリッドから南へ16B8グリッドまで続く自然流路で深さは33cmである。1層からは珠洲焼、白磁、青磁が出土しているが、2・3層からはI期の土師器しか出土していない。遺物の時期差があることから、中世以前からあった自然流路が、土砂の堆積で多少浅くなりながらも、中世の時期にも存在していたものと思われる。

SD2061 (図版7・47・115) 12B6グリッドから東に延び12B22グリッドで南に曲がって13B24グリッドまで続く。覆土は黒褐色土上に灰色土が混じる。単層で深さ10cmである。土師器片が出土している。

SD2232 (図版7・47・115) 12C7グリッドから南へ12C9グリッドまで続く。単層で灰色の土が堆積し、深さは3cmである。12C9グリッドでSE1997を切る。覆土の観察からIV期以降の遺構と思われる。

SD2292 (図版7) 12D3・4グリッドから西へ延び12C23・24で南へと直角に曲がる。覆土は単層で、黒褐色土上に灰色土が混じる。水田状遺構は検出されていないが、溝の形状から、水田の用排水路であった可能性が考えられる。

SD2422 (図版7・47) 13D9グリッドから南へ延び、14D9グリッドまで続く。14D10グリッドで暗渠南側のSD3324へとつながる可能性がある。覆土は2層で1層は褐灰色土、2層は黒褐色土である。深さは5cmである。遺構内から土師器片が出土した。遺物から所属時期はIII期と思われる。

SD2470 (図版10・47・116) 14B3グリッドから東へ14D2グリッドまで延びる。深さは13cmである。遺構内から12世紀から13世紀の頃の珠洲焼が出土している。しかし、近世の遺物が出土しているSD1374との切り合い関係が認められないため、SD1374と同じく所属時期はIV期であると思われる。出土した珠洲焼は近世以降に流れ込んだものとする。

SD2728 (図版7・47・115) 11D19グリッドから南へ延び12D20グリッドで一旦取束するが、13D14グリッドで再度検出され南へ14D14グリッドまで続く。深さは11cmである。12D16・17グリッドでSD2727と合流することから、水田状遺構SX2711の水利に関連する遺構と考えられる。遺構内から土師器片が出土しているが覆土にII層類似の灰色土が含まれており所属時期はIV期である。

SD3077 (図版9・47・117) 17C1グリッドから南へ17C6グリッドまで続く。深さは8cmである。覆土は基本層位のII層に類似しており、IV期以降の遺構と思われる。

SD3078 (図版9・47・117) 16B20グリッドから南へ延び17B21グリッドまで続く。覆土は3層で1・2層は灰色を帯びた土、3層は黒褐色土が堆積する。深さは10cmである。北側にあるSD3429と

つながる可能性がある。覆土の観察から所属時期はIV期と思われる。

SD3081 (図版9・47・117) 18B6～9グリッドから東へ18E21・22・23グリッドまで続く自然流路である。幅5m、深さ32cmである。覆土は2層でどちらも黒褐色シルトと暗黄灰シルトの混合土である。SD1984に連続する可能性もある。切り合い関係ではSD3097とSD3538に切られる。

SD3347 (図版10・47・116) 15D20グリッドから東へ15E10グリッドまで続く。単層で黒褐色の覆土が堆積する。深さは6cmである。切り合いはなく、遺物も出土していないが、覆土の様子からIII期の溝と思われる。

SD3348 (図版10・47・116) 15C7グリッドから南東方向へ16E23グリッドまで続き、さらに調査区外へと延びる。深さは35cmである。砂層とシルト層の重なりが検出されており、水の流れによって覆土が堆積したことが確認された。遺構内から近世の遺物が出土しており、IV期以降の遺構と考えられる。

SD3349 (図版10・47・116) 13B15グリッドから南へ14B12グリッドまで続く。深さは7cmである。1層には基本層序のII層に類似する灰色の土が、2層には基本層序のI層に類似する黒褐色土が堆積していることから、所属時期はIV期以降と考える。

SD3400 (図版10・47・116) 15B16・21グリッドから南へ15B19グリッドまで続く。単層で褐灰色土が深さ8cmにわたって堆積する。遺物は出土していないが、覆土の観察から所属時期はIII期と思われる。

SD3402 (図版10・47・110) 16C18グリッドから南へ延び16D17グリッドまで続く。単層で褐灰色土が深さ7cmにわたって堆積する。遺物は出土していないが、覆土の観察から所属時期はIII期と思われる。

SD3429 (図版10・47・117) 15B20・23グリッドから南南西に向かい、16B16グリッドで南へと曲がり16B23グリッドまで続く。深さは17cmである。さらに南側にあるSD3078へと続く可能性がある。近世の溝であるSD3457を切るので所属時期はIV期と考える。

SD3433 (図版10・47・117) 15C4グリッドから南へ延び16C7グリッドへと続く。単層で基本層序のI層に類似する黒褐色土が堆積する。深さは9cmである。覆土の観察から所属時期はIV期と思われる。

SD3536 (図版9・117) 17D17・18グリッドに位置する。覆土は単層で灰色を帯びた覆土が深さ10cmにわたって堆積する。遺物は出土していないが、覆土の観察から所属時期はIV期と思われる。

SD4473 (図版4・45・112) -2F19グリッドから南西方向へ-2F10グリッドまで続く。深さは3cmである。本遺跡では北東から南西へと続く溝は少なく特徴的である。SD32と直交する方向へと伸びており、SD1やSD32と関連する可能性がある。

5 南地区の遺構

A 掘立柱建物 (図版48～52・118～120)

SB13 (図版48・119)

18～19D～Eグリッドに位置する。梁間は4間で7.14m、桁行は3間で10.26mの、南北に庇が付く二面庇付総柱建物である。柱間は梁間が2.56m (約8尺)、桁行が3.5m (約11尺)、庇が1.22m (4尺)で

ある。柱穴は上端長径15～36cm、深度6～57cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ期と考えられるが、重複するSB45との新旧関係は不明である。

SB40 (図版48・118・119)

19～20Cグリッドに位置する。梁間2間で5.68m、桁行は4間で9.52mの、北面に庇が付く総柱建物である。柱間は梁間が東側で3.18m(約11尺)、西側で2.5m(8尺)、桁行が中央で3.52m(12尺)両端で2.52m(8尺)、庇が1m(9尺)である。柱穴は上端長径13～38cm、深度27～60cmである。P3122から柱根が出土した。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と推定される。重複するSB43との新旧関係は不明である。

SB41 (図版49・118)

19～20B～Cグリッドに位置する。梁間4間で8.72m、桁行は4間で11.52mの、南北面に庇が付く二面庇付総柱建物である。柱間は梁間が2.46m(約11尺)、桁行が中央で3.76m(約12尺)東側で3.12m(約10尺)、西側2間で2.36m(8尺)、庇が1m(9尺)である。柱穴は上端長径18～42cm、深度19～45cmである。P3122から柱根が出土した。構築時期はP4176がSD3224を掘り込んでいることから、Ⅳ期と考えられる。

SB42 (図版49・118)

19～20B～Cグリッドに位置する。梁間2間で4.6m、桁行は2間で5.56mの総柱建物である。柱間は梁間が2.38m(8尺)、桁行が2.94m(10尺)である。柱穴は上端長径22～60cm、深度12～48cmである。構築時期はP3160がSD3115を掘り込んでいることから、Ⅳ期の可能性が高い。重複するSB41との新旧関係は不明である。

SB43 (図版49・118)

19～20Cグリッドに位置する。梁間2間で4.92m、桁行は2間で5.84mの総柱建物である。柱間は梁間が2.52m(約8尺)、桁行が東側で3.26m(11尺)、西側で2.58m(約8尺)である。柱穴は上端長径18～37cm、深度14～53cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB40との新旧関係は不明である。

SB44 (図版50)

24～25Dグリッドに位置する。梁間1間で3.28m(11尺)、桁行は2間で4.56mの梁間1間型建物であるが、調査区外西側に続く総柱建物の可能性もある。柱間は桁行が2.32m(8尺)である。柱穴は上端長径22～40cm、深度21～55cmである。構築時期はP4352がSK4311に掘り込まれていることから、Ⅱ期ないしⅢ期と考えられる。

SB45 (図版50・119)

19Eグリッドに位置する。梁間2間で2.96m、桁行は2間で4.88mの東面に庇が付く一面庇付総柱建物である。柱間は梁間が2.2m(7尺)、桁行が東側で2.3m(8尺)、庇が0.76m(約3尺)である。柱穴は上端長径19～24cm、深度12～52cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられるが、重複するSB13との新旧関係は不明である。

SB46 (図版51・119)

20Eグリッドに位置する。梁間2間で2.96m、桁行は2間で3.62mの総柱建物である。柱間は梁間が1.6m(5尺)、桁行が3.16m(約10尺)である。柱穴は上端長径18～30cm、深度16～41cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB47 (図版 50・119)

21～22D～Eグリッドに位置する。梁間4間で7.16m、桁行は4間で9.84mの三面庇付総柱建物であるが、西面にも庇が付く可能性がある。柱間は梁間が2.64m(9尺)、桁行が中央で3.16m(約10尺)、東端で2.5m(8尺)、庇が1.14m(4尺)である。柱穴は上端長径18～39cm、深度9～55cmである。P3654から白磁(図版65頁136)が出土した。構築時期は覆土の特徴からⅡ期と考えられる。

SB48 (図版 51・119)

22～23Dグリッドに位置する。梁間2間で3.8m、桁行は3間で6.36mの総柱建物である。柱間は梁間が1.94m(約6尺)、桁行が中央で2.8m(9尺)、両端で1.92m(6尺)である。柱穴は上端長径18～32cm、深度20～59cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB49 (図版 51・119)

24E～Fグリッドに位置する。梁間1間で2.82m(9尺)、桁行は3間で6.52mの梁間1間型建物である。柱間は桁行が2.32m(8尺)である。柱穴は上端長径20～29cm、深度24～45cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB50 (図版 51・120)

25～26Dグリッドに位置する。梁間は1間で1.88m(6尺)、桁行は3間で6.96mの梁間1間型建物であるが、調査区外西側に続く総柱建物である可能性がある。柱間は桁行が2.46m(8尺)である。柱穴は上端長径30～76cm、深度14～56cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。重複するSB52より古い。

SB51 (図版 52・120)

24～25Dグリッドに位置する。梁間2間で3.56m、桁行は2間で5.2mの総柱建物であり、西側に続く可能性がある。柱間は梁間が1.88m(6尺)、桁行が2.64m(9尺)である。柱穴は上端長径18～32cm、深度20～59cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB52 (図版 52・120)

25～26Dグリッドに位置する。梁間2間で4.84m、桁行は3間で9.28mの総柱建物であるが、東西に続く可能性がある。柱間は梁間が2.46m(8尺)、桁行が北側から3.08m(10尺)、3.45m(約11尺)、2.72m(9尺)である。柱穴は上端長径10～30cm、深度2～19cmである。重複するSB50より新しくSD3947との新旧関係は不明である。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期以降と考えられる。

SB53 (図版 52)

26Dグリッドに位置する。梁間1間で2.98m(10尺)、桁行は3間で4.56mの梁間1間型建物である。柱間は桁行が1.82m(6尺)である。柱穴は上端長径16～36cm、深度12～46cmである。P4489から柱根が出土した。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

SB54 (図版 52)

26Eグリッドに位置する。梁間1間で2.36m(8尺)、桁行は2間で4.24mの梁間1間型建物である。柱間は桁行が2.24m(約7尺)である。柱穴は上端長径19～36cm、深度28～43cmである。構築時期は覆土の特徴からⅡ～Ⅲ期と考えられる。

B 竪穴状遺構 (図版53・54・120・121)

竪穴状遺構は6基検出された。平面形は、方形が5基、長方形が1基である。竪穴は底面に薄く粘土が貼られている。また内部から焼土跡や柱穴跡等は検出されず単純な構造である。重複関係は方形竪穴同士では見られない。しかし、方形竪穴と長方形竪穴では重複関係があり (SK4311・SK4312) 長方形の方が新しい (SK4312)。出土遺物は極めて少なく、土器の小破片や破砕礫等が散見される程度であった。そんな中で、SK3793の古瀬戸、SK3915の白磁は特筆される。前者は13世紀頃、後者は14世紀頃のものと思われる。竪穴状遺構の構造が単純であることを考えると、竪穴の造営年代が13世紀～14世紀もの長期にわたるということは考えにくい、大まかな年代を知る手がかりとして有効である。

SK3793 (図版53・120) 20C18・19・23・24グリッドに位置する。規模は長径2.65m、短径2.13m、深さ0.54mである。主軸は東偏3°と僅かに東に傾く。平面形状は隅丸長方形、断面形状は弧状で、底面はやや平坦である。覆土は上位は黒褐色土、中位は褐灰色土、最下位に暗青灰色粘土層が厚さ約5cm検出された。この粘土層は粘性が強く、しまりがあまり強くなかった。内部は、貼床・焼土跡・炭集中部、上屋構造を示すような柱穴跡などの内部構造物は検出されず、単純な構造の竪穴遺構である。また壁は、遺構検出時にはなだらかな状態であり、崩落したものと考えられる。重複関係はP3902、SD3750に切られる。遺構内からは13世紀代の瀬戸焼陶器片 (古瀬戸)、破砕礫 (花崗岩) が出土した。遺構の年代は、出土土器から13世紀頃と考えられる。

SK3915 (図版53・120) 21C8～10・13～15グリッドに位置する。規模は長径2.52m、短径2.12m、深さ0.24mである。主軸は西偏88.5°とおおよそ東西方向を向いている。平面形状は隅丸長方形、断面形状は逆台形である。底面全体に1～3mmの厚さの黒褐色粘土層が検出されたことから、床面に粘土を貼っていたと考えられる。北西隅では、貼床の上から炭化物集中部が検出されたが焼土は確認されなかった。その他の柱穴跡等の内部構造物は一切検出されなかった。覆土は単層で、褐灰色土とIVb層地山土の混合土であり、埋め戻したものである。遺物は極めて少なく、白磁片が1点出土している。遺構の年代は、出土土器から14世紀代と考えられる。

SK4252 (図版53・120) 21C15・20、22C11・16グリッドに位置する。規模は長径2.03m、短径1.90m、深度0.29mである。主軸は東偏15°でやや東に傾く。平面形はやや不整な隅丸長方形で、断面形は台形状、立ち上がりは急斜度である。底面全体に厚さ1～3mmの黒褐色粘土層が検出されており、床面に粘土を貼っていたと考えられる。底面上の薄い粘土層の他には内部構造物は一切検出されていない。覆土は2層以下に地山のIVb層の土が多量に含まれることから、埋め戻されたものである。遺物は出土しなかったが、他の方形竪穴と形状や埋め戻された覆土などの共通点があることから中世の遺構だと思われる。

SK4259 (図版54・121) 21C25、22C21、22D1グリッドに位置する。規模は長径1.86m、短径1.8m、深度0.26mである。主軸は東偏71.5°で、おおよそ東西方向を向いている。平面形状はやや東側が張り出した不整な隅丸長方形で、断面形状は台形状である。立ち上がりは緩やかだが、これは壁面が崩落したためと思われる。底面の一部に厚さ1～3mmの黒褐色粘土が検出されており、底面に粘土を貼った痕跡と考える。その他の内部構築物は一切検出されなかった。覆土は、1層は自然堆積だが、2・3層にはIVb層に由来する土が含まれており、埋め戻したものである。出土遺物はなかった。重複関係は、P4386を切り、SD4206に切られる。近世の溝であるSD4206に切られていることから、遺構の

構築時期は近世以前と考える。

SK4311 (図版53・121) 24D14・15・18・19・20・24グリッドに位置する。規模は長径2.39m、短径2.03m、深度0.29mである。主軸は東偏12.5°でほぼ南北方向に向いている。平面形はやや北辺が拡大した不整な隅丸方形、断面形は台形状である。立ち上がりは緩やかだが、これは壁面が崩落したためと思われる。覆土はブロック状に堆積する。内部構築物は一切検出されていない、SK4312に切れ、P4352を切る。遺構内から土師器が出土しており、Ⅲ期の遺構だと考える。

SK4312 (図版53・121) 24D15・20グリッドに位置する。規模は長径2.55m、短径1.51m、深度0.37mで、平面形は東辺が僅かに狭いやや不整な隅丸長方形である。主軸は西偏88°でほぼ東西方向に向いている。断面形は台形状、立ち上がりは急斜度である。覆土がブロック状に堆積する。内部構築物は一切検出されていない。遺構内から土師器が出土しており、構築時期はⅢ期と考える。

C 火 葬 墓 (図版54・122)

南地区で火葬墓が1基検出された。火葬墓は19C4・5グリッドにあり、19～20C～Dグリッドの土坑群の中に位置する。北地区の墓は棺を伴い、副葬品が納められたのに対して、南地区の墓は棺がなく、副葬品も納められていない。

SK3477 20C4グリッドに位置する。平面形は長方形で、底面は平坦である。立ち上がりは、長径方向は緩やかだが、短径方向は急斜度である。長径1.22m、短径0.81mの大きさを成し、主軸はN-1°Wと南北方向を向く。土坑は、最初に箱形に10cmの深さまで荒掘りし、そこに6cmの厚さまで3回に分けて土を戻し、突き均して底面を形成する。底面形成後の断面形は弧状を成し、深さは4cmである。底面は総面積の7割以上が被熱を受け、火床面を形成し、硬化する。その直上には、厚さ1～5mmの炭化物が被る。炭化物の中心部には焼骨の破片が少量認められた。骨の大きさは1～3mm程で、最大でも1.2cm程度であった。また炭化物集中範囲の外側には、焼け残りと思われる炭化木片が土坑壁際に沿うように検出された。このことから、SK3477は火葬墓と思われる¹⁾。覆土は1層が黒褐色シルトとⅣb層地山の灰オリブシルトの混合土である。2層は炭化物を含んだⅣb層地山土である。3～5層は火床面を形成するための埋め戻し土であり、黒褐色シルトとⅣb層地山の灰オリブシルトの混合土が主体で、砂粒を含んだりⅣb層地山の割合が変わったりする。3層上面に焼土が存在する。土坑のすぐ東の20Cグリッド中央部では多数の土坑が重複しながら密集して検出されている。しかしこの土坑はそれらの土坑との切り合いはなく、P4300を切るのみである。出土遺物は焼骨・炭化木片のほか、微細な土師器片が出土した。人為堆積でないⅠ・2層の覆土が、近世の溝SD4206に切られる中世の竪穴状遺構SK4259と類似していること、土師器片が出土したことから、遺構の年代は中世以降と考える。

D 土 坑 (図版54～56・122～126)

1) 19～20B～Cグリッドの土坑群

南地区からは50基の土坑が検出された。そのうち南地区と北地区を分ける自然流路SD3081の南側、19・20B・Cグリッドからは30基の土坑が集中して検出された。これは南地区土坑全体の60%に当

1) 火葬墓については、「茶甕に付した後拾骨を行い、蔵骨器に取め埋葬するのが一般的な形態だが、茶甕に付した後火葬場へ直接埋葬したという考えもある」〔浅野2001〕。今回の調査では蔵骨器を取めた埋葬施設が検出されなかったため、後者の考えを採用し火葬墓とした。だが、調査区外に蔵骨器を取めた埋葬施設が存在する可能性はあるため、後の調査でそれが検出された場合、この土坑は火葬跡または火葬施設となろう。

る。しかし、土坑の中には、出土遺物や他の遺構との切り合いから近世の遺構と思われるものも多く存在する。近世の土坑は、南地区の北西部にまとまる傾向が見られた。形状は円形または楕円形が2/3を占め、残り1/3が長方形である。円形・楕円形・長方形の土坑が互いに重複しており、形状ごとに時期差は認められない。また、ほとんどの土坑は近世の溝を切っていた。遺物はほとんど出土していないが、SK3181からキセルが出土しており、遺構の所属時期を知る上で手がかりになる。

SK3148 19C10グリッドに位置する。覆土は4層でレンズ状に堆積する。3層は炭化物の堆積層である。近世の溝であるSD3224を切ることから、近世以降の遺構であると考えられる。

SK3151 19C5グリッドに位置する。長径136cm、深度30cmである。平面形は南辺が弧状、東辺が内歪するやや不整な長方形で主軸はN-0°と南北方向を向く。覆土は2層で、ともに褐灰色土にIVb層地山土を少量含む土がレンズ状に堆積する。SK4178に切られ、SK3890、SD3224を切る。近世の溝であるSD3224を切ることから、構築時期はIV期以降と思われる。

SK3154 19C4・5グリッドに位置し長径64cm、深度36cmである。平面形は楕円形を呈す。覆土は3層で、どの層にもIVb層地山土を含みレンズ状に堆積する。III期の遺構SK3208を切るが、出土遺物はなく構築時期は不明である。

SK3181 19B25グリッドに位置し、長径76cm、深度29cmである。平面形は楕円形を呈す。覆土は3層でレンズ状堆積であるが、3層は薄い。切り合いはないが、1層の土坑中央付近からキセル吸口が出土しており、IV期の遺構であると思われる。

SK3205 19B20グリッドに位置する。長径113cm、深度26cmで、平面形は楕円形である。覆土は2層でレンズ状に堆積する。下層に基本層序1層に類似する覆土があることから、遺構の構築時期はIV期以降と考える。

SK3208 19C5グリッドに位置し、長径116cm、深度33cmである。平面形は楕円形を呈す。覆土は4層で、全て褐灰色土にIVb層の土が混じる。堆積はレンズ状である。SK3154、SD3222に切られ、SK4179を切る。覆土の観察から、所属時期はIII期である。

SK3225 19B12・13グリッドに位置する。長径75cm、深度22cmで平面形は方形である。覆土は2層で、1層が黒褐色土、2層は褐灰色土にIVb層地山土を大量に含む土が認められる。堆積はレンズ状である。遺物は出土していないが、近世の溝であるSD3115を切るため、所属時期はIV期以降である。

SK3481 20B16グリッドに位置する。長径66cm、深度は50cmで平面形は円形である。覆土は2層でどちらもIVb層地山土をブロック状に含む土が見られることから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。SD3482と切り合うが前後関係は不明で、遺物も出土していないため所属時期は不明である。

SK3720 19C10・20C6グリッドに位置する。長径90cm、深度16cmで平面形は円形である。覆土は2層で、レンズ状に堆積する。P4169、SK3721・3887を切る。SK3887はIV期の遺構であるため、所属時期はIV期以降である。

SK3749 20C23、20D3グリッドに位置する。長径112cm、深度28cmである。平面形は長方形である。主軸は西偏64°を向く。覆土は3層で、最下層に砂を含むことが特徴である。1層から流れ込みと思われる珠洲焼陶器片が出土している。近世の溝であるSD3754・3899を切っていることから、所属時期はIV期以降と思われる。

SK3771 20C1グリッドに位置し、長径80cm、深度15cmである。平面形は円形を成す。覆土は単層で、褐灰色土にIVb層地山土を少量含む。近世の溝であるSD3733を切るため、所属時期はIV期以降

と思われる。

SK3772 20C13グリッドに位置し、長径112cm、深度46cmである。平面形は円形である。覆土は3層でほぼ水平に堆積する。全ての層に炭化物を含む。覆土の観察や近世の土坑であるSK4202を切っていることから、所属時期はIV期以降である。

SK3773 20C12・13グリッドに位置し、長径82cm、深度9cmである。平面形は楕円形である。覆土は単層で、黒褐色土である。20C13グリッドでSK3772に切られる。覆土の観察から、所属時期はIII期と思われる。

SK3779 20C7グリッドに位置し、長径96cm、深度10cmである。平面形は円形である。覆土は単層で、褐灰色土にIVb層地山土を少量含む。P3808・3809を切る。覆土の観察から所属時期はIV期以降と思われる。

SK3780 20C9・14グリッドに位置し、長径84cm、深度10cm、平面形は円形である。覆土は単層で、褐灰色土にIVb層地山土を中量含む土である。重複関係はないが、覆土の観察から、所属時期はIV期以降と思われる。

SK3786 20C5、21C1グリッドに位置し、長径74cm、深度11cmである。平面形は円形である。覆土は単層で、褐灰色土にIVb層地山土を多量に含む土である。重複関係はないが、覆土の観察から所属時期はIV期以降と思われる。

SK3840 20C24・25、20D4・5グリッドに位置し、長径149cmである。平面形は長方形で主軸は東偏15°である。覆土は4層で全ての層に極少量の炭化物を含む。近世の溝であるSD3754・4295を切ることから所属時期はIV期以降である。

SK3890 19C5グリッドに位置し、長径70cm、深度23cmである。平面形は円形を成す。覆土は単層で、褐灰色土にIVb層地山土を微量含む。近世の土坑であるSK3151に切られる。覆土の観察から、構築時期はIV期である。

SK3898 20C22、20D2グリッドに位置し、長径100cm、深度6cmである。平面形は不整な円形である。覆土は黒褐色土の単層である。近世の溝であるSD4189を切ることから所属時期はIV期以降である。

SK4179 19C4・5グリッドに位置し、長径80cm、深度12cmである。平面形はやや不整な円形を呈す。覆土は褐灰色土の単層である。土坑南壁際の底面直上から開元通寶を一番上にして古銭が7枚重なり、銹化のため一体となった状態で出土した。古銭の表面は一部に融解が見られ、被熱を受けた可能性がある。この古銭は六道銭と考えられることから、SK4179は墓塚と思われる。遺構はSD3222、SK3208に切れ、最下位に位置する。また開元通寶が中世に流通していることから、遺構の構築時期も中世と考える。

SK4202 20C13・18グリッドに位置し、長径106cm、深度16cmである。平面形は楕円形である。覆土は単層でIVb層地山土に褐灰色シルトを中量含む。SD3734に切れ、近世の土坑であるSK3772を切ることから、所属時期はIV期と思われる。

2) その他の土坑

南地区の土坑は、21列以南になると集中する様子は見られず、広い範囲にほぼ均等に散在するようになる。22列西端の土坑(SK4319・4320)は、2基とも長方形で、互いに重複していた。遺物は、近世陶

磁器以外出土していない。このように、21列以南になっても遺物はほとんど出土していない。

SK3718 21C1・2グリッドに位置し、長径122cm、深度75cmである。平面形は円形を呈す。覆土は2層で、1層は黒褐色土にIVb層系地山土ブロックを斑状に含む土が厚さ約60cmで堆積する。2層は黒褐色土にIVb層系地山土を頁状に含む厚さ約10cmのレンズ状堆積層であった。1層は人為堆積層、2層は自然堆積層と考えられ、土坑が放棄された後時間を置いてから埋め戻されたと思われる。近世の溝であるSD3724・3732を切るため所属時期はIV期以降と思われる。

SK3742 21C6・7グリッドに位置し、長径121cm、短径51cm、深度16cmである。平面形は長方形で主軸は西偏20°を向く。覆土は3層で、全てレンズ状堆積である。近世の溝であるSD3733を切ることから、所属時期はIV期以降である。

SK3781 21C16・17グリッドに位置し、長径88cm、深度6cmである。平面形は楕円形である。覆土は単層で、褐灰色土にIVb層地山土を中量含む土である。重複関係はないが、覆土の観察から、所属時期はIV期以降と思われる。

SK3784 21C16・21グリッドに位置し、長径152cm、深度16cmである。平面形は長楕円形である。覆土は上下2層でレンズ状堆積である。1・2層ともに褐灰色土にIVb層地山土を含むが、2層の方がIVb層地山土をより多く含む。P4338、SD3750を切る。SD3750は近世の溝であり、SK3784の所属時期もIV期以降と思われる。

SK3936 27D21グリッドに位置し、長径57cm、深度17cmである。南半部は攪乱のため失われていたが平面形は円形を成していたと思われる。覆土は単層で黒褐色土にIVb層地山土を中量含む土である。加工材と加工の形跡のある木片が出土した。覆土の観察から所属時期はIII期である。

SK3937 27D12・13・17・18グリッドに位置し、長径181cm、深度17cmである。平面形は不整形を呈し、主軸は西偏11°を向く。覆土は単層で、にぶい黄褐色粘土に赤褐色砂層を含む。覆土の観察から所属時期はIII期である。

SK4248 23D13グリッドに位置し、長径58cm、深度11cmである。平面形は円形である。覆土は2層でレンズ状に堆積する。1・2層ともに黒褐色土にIVb層地山土を少量含むが、1層の方が地山土を含む割合が多い。覆土の観察から所属時期はIII期である。

SK4265 23D3・4・8・9グリッドに位置し、長径66cm、深度17cmである。平面形は不整形である。覆土は2層に分けられ、どちらも黒褐色土にIVb層地山土を少量含むが、2層の方が地山土を含む割合が多い。覆土の観察から所属時期はIII期である。

SK4298 24D18グリッドに位置する。長径92cm、深度9cmで平面形は方形である。主軸は東偏16°を向く。覆土は単層で、黒褐色土にIVb層地山土を含む。覆土の観察から所属時期はIII期である。

SK4299 24D18グリッドに位置する。長径138cm、深度13cmである。平面形は方形を成し、主軸は東偏20°である。覆土は単層で、黒褐色土に褐灰色土が混じる。覆土の観察から、所属時期はII期である。

SK4319 22C16・17グリッドに位置する。平面形は長方形で、長径157cm、短径101cm、深度31cmである。主軸は東偏23.5°を向く。覆土は7層である。7層からは厚さ2～5cmの褐灰色粘土層が検出された。覆土の1層から混入と思われる13～14世紀頃の瓷器系陶器片が出土している。近世の溝であるSD3756を切ることから、所属時期はIV期以降と思われる。

SK4320 22C17・18グリッドに位置し、長径300cm、深度33cmである。平面形は長方形を成し、

主軸は東偏26.5°を向く。覆土は7層で、1～3層に黒褐色土に褐色土をブロック状に含む土が堆積する。4～6層では褐色土にIVb層地山土をブロック状に含む土である。底面上には、貼り床の可能性のある褐色土粘土層が厚さ2～6cmにわたり検出された。覆土の1層から近世陶磁器が出土した。近世の土坑であるSK4319を切っていることから、所属時期はIV期以降と思われる。

E 井 戸 (図版57・126・127)

南地区で8基の井戸が検出された。井戸は掘立柱建物の近くにあり、すべて素掘りである。平面形はほとんどが円形か楕円形だが、1基のみ不整形のものが見られた。断面形は台形と半円のみで、台形が半数以上を占めた。検出個数が少ないため傾向を見いだすことは難しいが、長径と深さの關係に着目すると、長径が大きいものが必ずしも深いとは限らない。堆積形状はすべてレンズ状である。

SE3650 21E18・19・23・24グリッドに位置する。平面形は円形で深度は75cmである。9層に炭化物が混じり、その前後の層にも少量ずつ炭化物が含まれる。遺構内から土師器を出土しており、所属時期はII期と考える。

SE3651 21D25グリッドに位置する。平面形は楕円形で深度は69cmである。遺構の半分は矢板に切られる。平面の長径に対して深さが浅いのが特徴である。遺構内から土師器(図版62 №75・86)を出土しており、所属時期はII期と考える。

SE3683 22E23・24、22F3・4グリッドに位置する。平面形は楕円形で深度は117cmである。22F23グリッドでSD3682に切られる。井戸の中から多量の木の枝が出土した。また、土師器(図版65 №144～147)、須恵器、白磁(図版65 №148)などの土器や板(図版83 №589)、柄(図版83 №595)などの木製品も出土した。出土した遺物から、所属時期はII期と考える。

SE3794 20C10・15グリッドに位置する。平面形は円形で深度は118cmである。5・7・10層に炭化物の堆積が見られる。遺構内から土師器、籾(図版77 №494)、板材などの遺物が出土した。遺物から、所属時期はII期と考える。

SE3906 19D24グリッドに位置する。平面形は円形で深度は70cmである。SD3538の底面で検出されたが、新旧関係は不明である。SE3906の3層からは完形の土師器の皿が出土している。所属時期はII期と考える。

SE3938 26D23グリッドに位置する。平面形は円形で深度は108cmである。4層に炭化物の堆積が見られる。3層からは珠洲焼片が、5層からは木製品(図版83 №599・図版84 №600・601・603)が出土した。出土した遺物から、所属時期はII期と考える。

SE4037 26E19・20・24・25グリッドに位置する。平面形は不整形で深度は132cmである。ほとんどの井戸の1層が黒褐色土なのに対して、SE4037の1層は暗灰黄色なのが特徴である。井戸の中から須恵器(図版63 №105)や白磁(図版69 №276)、杭(図版84 №605・606)や棒状の木製品(図版83 №597・図版84 №602)が出土した。出土した遺物から、所属時期はII期と考える。

SE4375 21B21グリッドに位置する。平面形は楕円形で深度は80cmである。遺構の半分は矢板に切られる。覆土がほぼ均等な厚さでレンズ状に堆積していることから、自然に堆積したものと思われる。覆土の観察から、所属時期はII期と思われる。

F 大型溝SD1・橋脚状遺構(図版13・14・58・59・131・132)

SD1 26～28E～Fグリッドにおいて、南北方向で直線的に約25mにわたり検出された。暗果により部分的に削平されているが、上端幅4.4m、深度72cmを測る。底面標高は12.8mほどである。本章4.Gで述べたように、北地区で検出されたSD1と同一のものである。

覆土は1～16層に分けられる。26E20・25グリッドa-a'セクション(図版59)に認められる16層は腐植土を含む黒褐色土で、部分的にしか認められないが、北地区のSD1-7層に相当する可能性がある。13～7層は、層厚の薄い褐色土を狭にし、にぶい褐色粗砂が厚く堆積することから、北地区の4・3層に相当すると見られる。6層はII層に相当し、これを掘り込む1～5層は北側の1層と同様の新しい溝である。このように、堆積順序は北地区とおおむね一致する。SD1の西側に並行するSD4006はSD1構築以前のものであるが、同一方向にであることから、SD1以前に規模の小さい溝が構築されていた可能性もある。

遺物は少なく、14層から土師器皿(図版66№176)、13層から白磁甕(図版66№177)が出土した。このほか、14層から須恵器甕(図版63№100・104)が出土している。下位層からは近世陶磁器が出土しておらず、北地区と共通する。

橋脚状遺構 26F6・7グリッドのSD1底面のほぼ中央にP4024～P4027の柱根(図版85・86№620～623)4本が方形に並んでいるのが検出された。北側にSD1と直行するようにP4024とP4025が48cmの間隔を空けて並び、その76cm南側にP4026・4027が28cmの間隔を空けて並ぶ。4本を結ぶ平面形は台形状を呈す。柱根は幅10.8cm～15cm、厚さ4.6cm～9.6cmの薄く幅の広いもので、樹種はすべてクリ材である。下端は尖っており、打ち込みによるものと考えられる。いずれも幅の広い面を南北に向ける共通性が認められ、同一時に構築されたものと考えられる。溝の中心にあることからSD1に伴う橋脚の可能性が高いが、この東西からはこれと連続する遺構が検出されておらず、性格は不明である。なお、P4024の柱根について年代測定を行った結果、12世紀後半～13世紀前半との結果が得られた(第VI章8)。したがって、橋脚状遺構はSD1に伴う可能性が高いことから、SD1がII期に構築されたことを裏付けるものと考えられる。

G 溝(図版51・52・121～125)

南地区では80余の溝が検出された。溝は西側に集中し、東側にはごく僅かしかない。また24列を過ぎると溝の数が極端に少なくなる。ほとんどの溝は幅1m、長さ20m、深さ30cm以内に集中し、北地区以上に溝の規模が小さいことがうかがえる。さらに南地区の溝は、覆土の状況や他の遺構との切り合い、出土遺物などから近世の溝と考えられるものが多い。北地区で見られた直角に曲がる溝は南地区にも存在し、北地区と同じように水田状遺構に関連する施設と考えられる。しかし、南地区では水田と思われるような遺構は見つかっておらず、予想の範囲を脱し得ない。南地区の東側にあるSD3538から200点を超す遺物が出土したことは、南地区の溝の中で特筆すべきことである。

SD3115(図版12・59) 19B13グリッドから東へ19C9グリッドまで続く。深さは14cmである。覆土は2層で1層に黒褐色土、2層に褐色土が堆積している。覆土の観察から所属時期はIV期と考える。

SD3222(図版12・59・129) 19B14グリッド東へ19C5グリッドまで続く。19C5グリッドでSK4179を切る。覆土は2層で1層に褐色土、2層に基本層序のI層に類似した黒褐色土が堆積してい

る。覆土の観察から所属時期はⅣ期と考える。

SD3232 (図版12・59・129) 19B22グリッドから東へ19C17グリッドまで続く。深さは14cmである。遺構内から土師器片が一片出土している。しかし、他の遺構との切り合いや覆土の様子からⅣ期以降の遺構である可能性が高い。

SD3482 (図版12・59・129) 20B16グリッドにある長さ80cmの溝である。覆土は単層で灰色を帯びた土が堆積する。溝の長さが短いのは、耕作による削平が原因であろうと思われる。覆土の観察から所属時期はⅣ期と考える。

SD3538 (図版58・128) 調査区東側から続いてきており、18E21グリッドで検出した。さらに西に向かって伸び、18D23グリッドで南に曲がる。そのまま南に伸び、20E5グリッドで東に向かって折れ、21E21グリッドから調査区外へと続く。18D・EグリッドでSD3081を切る。19D23グリッドでP3913に、19D24グリッドでP4091に切られており、SB13よりも古い溝である。21E1グリッドではSD3576に切られる。長さ43.1m、深さ48cmで南地区では最も長い溝である。溝の中からは、土師器(図版67№182～210)須恵器(図版63№93)石製品(図版76№481・482、図版77№500、図版78№511、図版79№516)、木製品など計200点以上の遺物が出土した。遺物は2層から4層までのどの層からも出土している。北側の18D・Eグリッドでは遺物の量は少ないが、南北に伸びる18D23～20E5グリッドでは遺物の量が多くなる。とくに19D21グリッドから南側での出土数が多い。20E5・10グリッドや21Eグリッドでは18D23～20E5グリッドに比べて遺物の量が少なくなるものの、北側の18D・Eグリッドよりも多くの遺物が出土している。出土した遺物から、所属時期はⅡ期である。なお、北地区のSD673と規模や断面形が類似しており、これと同一のものである可能性がある。

SD3576 (図版12・59・129) 20E1グリッドから東へ19E25グリッドまで続く。覆土は2層で、どちらの層にも灰白シルトが多量に混じる。深さは9cmである。20E1グリッドでSD3538を切る。覆土の観察から所属時期は近世と考える。

SD3682 (図版11・59・130) 22E3グリッドから東へ22F4グリッドまで続く。覆土は3層に分かれ、1層には灰色を帯びた土が堆積し炭化物が混じる。2層は黒褐色土に黄灰シルトが混じる。3層は灰色シルトに黒褐色土が混じる。深さは28cmである。22E23グリッドでSE3683を切る。矢板より西側のSD3763とつながることが予想される。覆土の状況から近世以降の遺構と思われる。

SD3733 (図版12・59・129) 20C1グリッドから東へ21C8グリッドまで続く単層の溝で深さは10cmある。近世の溝であるSD3224を切ることから、所属時期は近世と考える。

SD3734 (図版12・59・129) 20C13グリッドから南へ21C17グリッドまで続く。覆土は単層で灰色を帯びた土が堆積する。深さは11cmである。近世の土坑であるSK4202を切る。覆土の観察や他の遺構との切り合いから所属時期は近世と考える。

SD3744 (図版12・59・130) 21C12グリッドから東へ21C22グリッドまで続く。覆土は単層で灰色を帯びた土が8cmにわたって堆積する。覆土の観察から所属時期は近世と考える。

SD3745 (図版12・59・130) 20D3グリッドから南方向へ20D10グリッドまで続く。覆土は3層で、全ての層に灰色を帯びた土が堆積する。深さは24cmである。近世の遺構であるSD4189を切る。他の遺構との切り合いや覆土の観察から所属時期は近世と考える。

SD3747 (図版12・59・130) 19B17グリッドから東へ伸び20C18グリッドまで続く。覆土は3層に分かれ、1層には炭化物が混じる。2層には基本層序1層に類似する土が、3層には基本層序2層に類似

する土が堆積する。深さは17cmである。近世の溝であるSD3183を切るの、所属時期は近世と考える。

SD3756 (図版11・59・130) 21D6グリッドから南西方向へ22C17グリッドまで続く。覆土は3層に分かれ、1層は黒褐色土に灰色シルトが微量混じる。2・3層には灰色を帯びた土が堆積する。深さは29cmである。遺構内から須恵器や珠洲焼が出土しているが、近世の陶磁器も出土しているため、近世以降の溝に須恵器や珠洲焼が流れ込んだと考える。

SD3763 (図版11・59・130) 22C19グリッドから東方向へ22D19グリッドまで延び、さらに矢板東側のSD3682とつながることが予想される。覆土は3層に分かれ、1・2層は黒褐色土が堆積し、3層は黒褐色土に灰色シルトが混じる。深さは33cmである。遺構内から土師器や白磁が出土しているが、他の遺構との切り合いから近世以降の遺構と思われる。

SD3930 (図版13・59・132) 28D14グリッドから南東へ28E5グリッドまで続く。覆土は2層で1層は黒褐色土が、2層は青灰色シルトが堆積する。深さは25cmである。出土遺物はなく構築時期は不明である。

SD3935 (図版13・59・132) 17D19グリッドから北東方向へ17D22グリッドまで続く。深さは12cmである。覆土は2層で、1層は黒褐色土、2層はにぶい黄橙のシルトが堆積する。覆土の観察から所属時期はIV期以降と思われる。

SD3939 (図版13・59) 26D9グリッドから東へ延び、26D23グリッドまで続く。覆土は単層で、灰色を帯びた土が11cmにわたって堆積する。覆土の観察から所属時期はIV期と思われる。

SD3940 (図版13・59) 26D13グリッドから東へ26D23グリッドまで続く。単層で灰オリーブ土が堆積する。深さは11cmである。覆土の観察から所属時期はIV期と思われる。

SD3947 (図版14・59) 25D22から西へ延び25D17で南に曲がり25D13・18まで続く。覆土は単層で灰色を帯びた土が堆積する。深さは11cmである。溝の深さや途中で直角に曲がる形態が北地区のSD1801などとよく似ているが、水田状遺構と思われるような遺構は検出されなかった。

SD4006 (図版13・59・132) 26F3グリッドから南へ28E19・24まで続く。単層で黒褐色土が堆積する。深さは27cmである。26F3グリッドでSD1に切られる。遺構内から須恵器(図版56№103)、土師器(図版57№121)、石製品(図版72№513)が出土した。出土遺物からII期の遺構と考える。

SD4029 (図版13・59) 27E16グリッドから南へ27E23グリッドまで続く。単層で褐灰色シルトが堆積する。深さは14cmである。覆土の状況から所属時期はIV期である。

SD4206 (図版11・59) 21C24グリッドから南へ延び23D4グリッドまで続く。覆土は4層に分かれ、1層から赤褐色砂が検出されていることが特徴である。遺構内から土師器が出土しているが、同時に近世陶磁器も出土しているため、IV期以降の遺構であると考えられる。

SD4251 (図版14・59) 23D18グリッドから南西方向に24D8グリッドまで続く。単層の溝で黒褐色シルトに灰色を帯びた土が混じる。深さは13cmである。近世の溝であるSD4378を切ることから所属時期はIV期と考える。

SD4287 (図版14・59) 24D13グリッドから北東へ24D21グリッドまで続く。覆土は単層で黒褐色土に灰色土の混ざった土が深さ11cmにわたって堆積する。遺構内から土師器片や白磁(図版62№301)が出土しており、II期の遺構と考えられる。

SD4378 (図版14・59) 23D14グリッドから南西方向に24D6グリッドまで続く。深さは4cmである。覆土は2層で、基本層序のII層に類似する土が堆積していることから、所属時期はVI期と考える。

第V章 遺 物

1 土 器

A 出土状況

土器は弥生時代・古代・中世・近世のものが出土した。弥生土器は1～2Cグリッドと7Cグリッドで2個体出土したのみである。古代～中世の種類および出土点数を第3表に示した。また、第18図に土師器、須恵器、珠洲焼・珠洲系陶器、白磁（口先以前）、青磁の大グリッド別出土点数を示した。土師器・黒色土器は古代と中世のものの総数であり、4～6D～Fグリッド、10～15B～Eグリッド、17～20Fグリッド、22～28Dグリッドに分布の中心が認められる。特に、古代の土師器焼成遺構の周辺で多い。須恵器は11～13B～Cグリッドに集中するが、全体的に出土数は少ない。珠洲焼・珠洲系陶器は13B～Cグリッドや22CDグリッドでやや多いが、全体的にまばらである。白磁はほぼ全体から出土しているが、北地区に多いと言えよう。青磁は白磁より少なく、まばらである。なお、近世以降のものはⅡ層を中心に遺跡全体から浅箱4箱ほどが出土した。

接合関係は最長で180m離れたもの（図版63 №92）、100m離れたもの（図版70 №336）、60m離れたもの（図版66 №161）のように、遠距離での接合も認められた。また、遺物包含層出土のものはほとんどが細片であることから、基本層位Ⅱ層の形成時に古代～中世の遺物包含層が割平・攪乱されたと推定される。

B 記述の方法

土器の説明は、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いて行う。観察表ですべてについて記載を行い、代表的なものについて本文で解説することとする。本遺跡では、弥生時代の土器、8～10世紀の古代の土器、11～16世紀の中世の土器、近世の土器が出土している。中心となる古代の土器と中世の土器については、それぞれ器種分類を行い、主な遺構出土のものについて述べた後に、その他の遺構出土土器および包含層出土土器を合わせたものをその他の土器として記述する。その後、近世の土器、弥生時代の土器の順に記述する。なお、土器は第四章のような地区別には分けずに記述する。

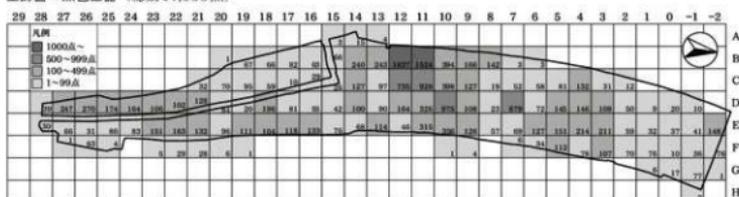
図面図版の縮尺率は基本的に1/3であり、一部大型品について1/4で表した。口径が推測可能な資料はできるだけ復元した。断面図における「輪積み痕」は破線で示し、欠損部は波形で表した。また、実測図および断面図の実存部分は細線でくくり、推定部分と実存部分の境界は間隔を空けた。写真図版も図面図版と同じ縮尺になるように掲載した。

観察表は図版に掲載したすべての土器について観察項目を設定し、その内容を記した。なお、不明なものには空白とした。出土地点および層位はすべて記した。器種・器形・分類は各分類の項を参照していただきたい。口径は器形の外寸を計測し、器高・口縁部径・底部径などをcm単位で記した。色調は内外面の色調を標準土色帖〔小山・竹原1998〕に基づき記した。胎土は金雲母・雲母・長石・石英・角閃石・海

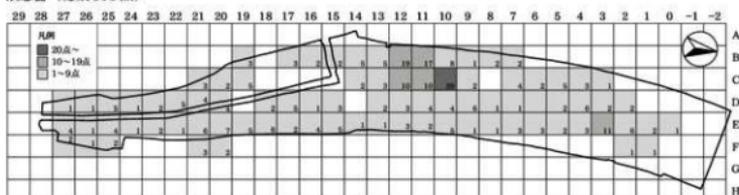
種 類	破片数
土師器・黒色土器	17,335
須恵器	335
区輪陶器	1
白磁（口先以前）	179
白磁（口先以降）	24
青白磁	13
青白磁か白磁	2
青花	8
青磁	84
福洲系黒白地鉄絵	1
高麗青磁	1
中国大目	6
中国陶器	1
山手銅	9
瀬戸・美濃	32
珠洲焼・珠洲系陶器	424
淡路系陶器	39
合 計	18,496

第3表 古代～中世の土器出土破片数

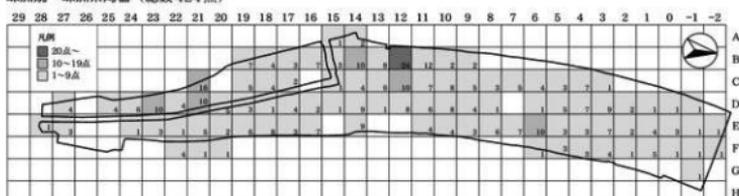
土師器・黒色土器（総数17,335点）



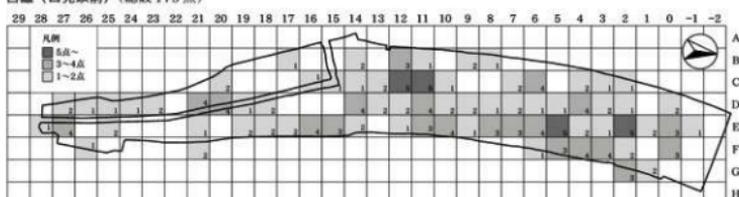
須恵器（総数335点）



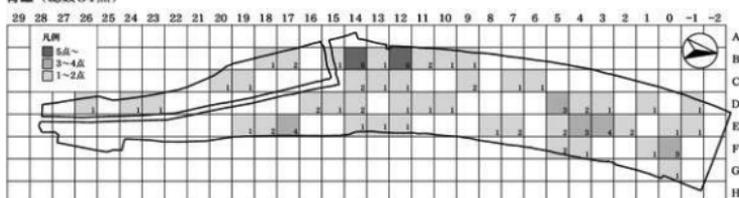
珠洲焼・珠洲系陶器（総数424点）



白磁（口髷以前）（総数179点）



青磁（総数84点）



第18図 土器・陶磁器類の出土状況

0 (1:2,200) 100m

錐骨針などの鉞物を中心に記した。なお、種類不明の不透明な白色の粒子は白色粒子として表した。土師器の回転方向は主に底部切り離し痕から判断した。また、底部調整は切り離し技法や再調整を記した。外面および内面の調整・施文等は部位別に記した。使用痕跡は主に二次的に付着した炭化物について記した。備考は上記以外の特長について記した。

C 古代の土器

1) 器種分類

古代の土器は須恵器無台杯・長頸瓶・壺・甕、土師器無台碗・小甕・長甕・鍋、黒色土器無台碗・有台碗、灰軸陶器がある。また、輸入陶磁器である白磁Ⅰ-Ⅰ類が1点出土しており(図版69№276)、古代に属する可能性があるが、中世の白磁に一括して説明することとする。土師器は土師器焼成遺構を中心にある程度出土しているが、須恵器は少ない。器種分類は春日真実氏の分類〔春日2003〕に従った。土師器無台碗はロクロ成形のものをA類とし、底部・体部・口縁部のいずれかにケズリ・ミガキなどの再調整を行うものをB類とする。また、口径が12～14cm前後のものをⅠ、14～16cm前後のものをⅡ、17～20cm前後のものをⅢとする。黒色土器無台碗もこれに準ずる。

2) 主な遺構出土土器(図版60～64・133～135)

SX1746・SD1748出土土器(図版60・133)

土師器焼成遺構SX1746の出土量は少ないものの、無台碗A類(1・6)、B類(4・7)のほか、黒色土器無台碗B類(2・3・5・8)が多い点特徴である。黒色土器はいずれも内面全面に黒色処理が行き届いておらず、口縁部内面にのみ認められることから、不良品が残された可能性がある。黒色処理が認められない4・7も内面にミガキ、体部下位外面にロクロケズリが施されており、黒色土器の可能性が高い。

SD1748はSX1746を切って構築されたものだが、出土土器はSX1746に帰属するものが含まれると考える。無台碗A類(10)のほか、黒色土器無台碗B類(11・12)がある。小甕(13)は体部下位～底部外面にヘラケズリが施される点特徴である。

SX1786出土土器(図版60・61・133)

土師器焼成遺構SX1786は数回の焼成が行われており、層別別に異物の取り上げを行った。土師器無台碗AⅠ類(14・17・22～25・29・31)・AⅡ類(16・18・19～21・34・35)、B類(26・30)、黒色土器無台碗BⅡ類(28)、鍋(36～43)が認められる。層別別の形態変化を見ると、土師器無台碗は15～8層の下位層から出土しているものは器壁が薄く、体部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がるのに対し、7～1層の上位層では底部や体部が厚めで、体部は直線的に立ち上がる傾向が認められる。鍋は数が少なく層別別の形態変化が明確ではないが、1層出土のものは比較的器壁が厚く、42のような体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるものが含まれる。また、36・37の底部資料から、本遺構の鍋は平底で、底部外面をヘラケズリで仕上げる点特徴と言える。

SX1921出土土器(図版61・133)

出土遺物は少なく、無台碗A類(44・45)が認められる程度である。いずれも二次的な焼成の被熱により底部内面にハジケが観察できる。

SX1992出土土器(図版61・133)

本遺構では土師器無台碗AⅠ類(46・48)、黒色土器BⅢ類(47)、鍋(49)、長甕(50)のほか、須恵

器長頸瓶(52・53)・甕(51・54)があり、土師器焼成遺構内に廃棄された遺物が混在する。47は底部外面にヘラケズリが加えられる。須恵器はすべて小泊産の可能性が高い。

SD1984出土土器(図版62・134)

自然流路からまともに出て出土した資料である。土師器無台碗AⅡ類(55)・AⅢ類(56)、黒色土器無台碗B類(57～60)、長甕(61～64)、鍋(65)があり、黒色土器が多い傾向がうかがえる。長甕63は平底で、底部から体部下半にかけてヘラケズリされており、SX1786の鍋37などと同様の特徵と言える。本資料はSX1786・1992と接合関係認められることから、これらの土師器焼成遺構とほぼ同時期のものと考えられる。

3) その他の土器(図版62～64・134・135)

食膳具 須恵器無台杯(66～68)は図示したもののみである。66は焼成不良のもので、底部切り離しはヘラ切りである。器高が低く、底径が広い形態から、[春日1999]のⅣ～Ⅴ期のものと推定される。67は口縁端部が内面側に丸く収まる。68は底部回転糸切り後にヨコナデが加えられている。67・68は小泊産であろう。

土師器無台碗(69～80)は土師器焼成遺構の周辺を中心に調査区全体から出土しているが、中世のものとの別が難しいものもあり、実数は不明である。AⅠ類(69～72)、AⅡ類(73～75)を図示した。形態は土師器焼成遺構出土のもの共通するものが多い。しかし、74は底径が小さく、器壁は厚めで、内面にロクロナデによる凹凸が著しいものであり、後出的要素がうかがえる。

黒色土器無台碗(81～87)は量が少ない。BⅠ類(81)、BⅡ類(82～84)、BⅢ類(85・86)を図示した。黒色土器の出土地点は土師器焼成遺構の周辺であり、形態や調整の特徴も土師器焼成遺構から出土しているものに類似する。

黒色土器有台碗(88・89)は図示したもののみ出土しており、点数は少ない。

煮炊具 土師器小甕(108)、土師器長甕(109～112)、鍋(113～119)を図示した。112は頸部の屈曲が鋭く、一般的な形態ではない。鍋は115・117・118のような体部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる形態が特徴的である。また、土師器焼成遺構出土のものと同様に平底で、外面をケズリ調整を加えるものも本遺跡の特徴である。

貯蔵具 須恵器長頸瓶(90・91・94・96・97)、須恵器広口瓶(92・93)がある。95も長頸瓶、98は壺瓶類と見られる。107は灰軸陶器の長頸瓶と見られる。

須恵器甕(99～106)を図示した。SD1から出土した104は、タタキ具および当て具に縄を巻き付けたものが使用されており、注目される。

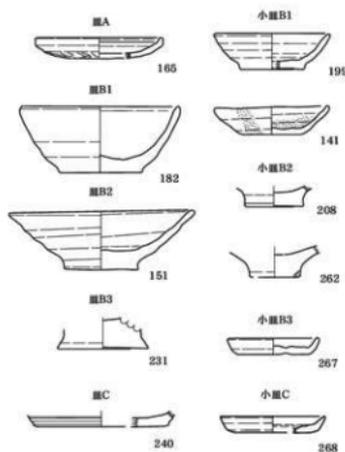
その他 120は粘土紐の輪積み痕を明瞭に観察できるもので、製塩土器の可能性が高い。121は底部外面をケズリ調整したもので、あるいは120のような製塩土器の底部の可能性もある。

D 中世の土器

1) 器種分類

土師器・珠洲焼(系陶器)・瓷器系陶器・山茶碗・瀬戸美濃・輸入陶磁器(白磁・青白磁・青磁・青花・天目・高麗青磁・磁州窯系白地鉄絵)があり、これらの種類と器形により大別した。珠洲焼(系陶器)は吉岡康暢氏の分類[吉岡1994・2003]に従った¹⁾。なお、胎土が、①硬質の長石や白色砂粒を多く含み、な

かには径5mm程度の礫を含むものもある。②焼成は良好でかなり硬質である。③色調は灰色で青みや緑みがない、の3点の特徴を有するものは、能登産の珠洲焼胎土と明らかに異なることから、珠洲系陶器とした。白磁・青磁は山本信夫氏の分類〔山本2000〕を基準とし、森田勉氏の分類〔森田1982〕、上田秀夫氏の分類〔上田1982〕を併用した²⁾。青花は小野正敏氏の分類〔小野1982〕に従った。土師器皿・小皿については品田高志氏の分類〔品田1997〕を参考に、成形技法や形態により細分した。口径10cm以上のものを皿、口径10cm以下のものを小皿とする。そして、手づくねのものをA類、ロクロ成形で底部糸切りのをB類、ロクロ成形で底部ヘラ切りのをC類とし、B類については形態から以下のように細分する(第19図)。なお、土師器は全形を知り得るものが少なく、古代のものとの分別が難しいことから、



第19図 土師器皿・小皿分類図

図示したもののうち古代のものが含まれる可能性があることをあらかじめ断っておく。

- 皿 B1 類：器壁が厚く、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる深身のもの。口縁部は直線的なものとやや外傾するものがある。底部は内面にロクロナデによる盛り上がりをもつものが多い。
- 皿 B2 類：体部が開き直線的に立ち上がるもので、B1類より浅身である。口縁部は外反するものが多い。底部は厚く総高台状となる点の特徴である。
- 皿 B3 類：柱状高台となるものである。底部の厚さは2cm以上のものが多く、底面から底体境までの高さは1cm以上あり、1cm未満の総高台状B2類と区別する。
- 小皿 B1 類：底部から体部から口縁部が長く直線的に立ち上がるものである。器高が高いものと低いもの、器壁が薄手のものと厚手のものがある。
- 小皿 B2 類：底部が柱状高台となるものである。総高台状のものを含める。
- 小皿 B3 類：底径が大きく、器高が低いもの。

2) 主な遺構出土の土器

掘立柱建物出土土器 (図版65・91・135)

掘立柱建物の柱穴から出土した主な土器について述べる。

SB2からは土師器皿B2類(122)、白磁碗IV-1類(123)が出土しており、11世紀後半～12世紀前半に位置付けられよう。

SB4は土師器小皿B1類(124・125)がある。125は底径が小さいものであろう。土師器有台皿(126)は古代の可能性もある。このほか、11世紀後半～12世紀前半に特徴的な玉縁口縁の白磁碗IV類(127)、

1) 珠洲焼および珠洲系陶器の鑑定、分類は吉岡康暢氏からご教示いただいた。

2) 輸入陶磁器の鑑定、分類は山本信夫氏からご教示いただいた。

底部内面がくぼむ白磁Ⅳ-b類(128)がある。

SB5では土師器皿B1類(129・130)がある。129は口縁部内面に稜をもち、器壁が厚いことから中世の所産と考えるが、胎土・焼成の特徴は古代のものに近い。130は古代の可能性もある。

SB6の土師器小皿B1類(132)は灯明皿と考えられる。器壁が厚めで、体部にふくらみをもち、底径が広い。柱穴の壁際から完形で出土したことから、SB6横架の際に埋納されたものであろう。

SB8は皿B1類(131)がある。

SB9は土師器小皿B1類(133)、小さな玉縁をもつ白磁碗Ⅱ-1類(134)があり、11世紀後半～12世紀前半の特徴をもつ。

SB20は土師器小皿B1類(135)がある。

SB47は白磁Ⅳ～Ⅷ類いずれかの体部片(136)が出土した。

SE952出土土器(図版65・135)

土師器皿B1類(137～139)がある。139は口縁部が外反する点に特徴がある。

SE1320出土土器(図版65・136)

珠洲系陶器の播鉢が1個体出土した(140)。口縁部は方頭で面をもち、卸し目が施されず、I期の所産と考えられる。底部切り離しは静止糸切りである。

SE1997出土土器(図版65・91・136)

覆土7層から土師器小皿B1類(141)がほぼ完形で出土した。器壁は薄く、底径が大きい点が特徴である。17層から白磁皿Ⅳ-1a類(142)、19層から珠洲系陶器I期の播鉢(143)が出土し、いずれも12世紀後半に位置付けられよう。

SE3683出土土器(図版65・136)

土師器皿B1類(146)・皿B2類(144)・小皿B1類(145・147)がある。144は体部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がり、内外面ともロクロナデによる凹凸が目立つ。このほか、白磁Ⅱ-1類ないしⅢ類の皿(148)がある。

SE3906出土土器(図版65・136)

完形の土師器小皿B1類が1点出土したのみである。灯明皿と考えられる(149)。器壁が薄めで、器高が低く、底径が小さい点が特徴である。SE3906とSD3538の前後関係は明確ではないが、こうした特徴をもつ小皿がSD3538から出土しておらず、時期差を示すものと考えられる。

P3948出土土器(図版65・136)

150は柱穴から完形で出土した小皿B1類であり、埋納されたものであろう。器壁が厚めで、体部にふくらみをもち、底径が広い。底面中央に径3mmほどの穿孔が施される。

SD1出土土器(図版66・91・136)

151～175は北地区、176・177は南地区で出土したものである。それぞれ下位層から層位順に図示している。

北地区では、最下層の7c層から土師器皿B2類(151～153・156・157)・皿B3類(158)、小皿B1類(154)・小皿B2類(155)が出土している。151・152はともに皿B2類の典型例で、底部が厚く、体部が直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反する。底径/口径指数は0.4で、底径が小さい点が特徴である。154は器壁が厚めで、体部に丸みを有する。このほか、珠洲焼甕T種(159)、珠洲系陶器播鉢(160)があり、160は卸し目があることからII期のものと考えられる。また、白磁碗Ⅳ類(161)、青白磁が青磁

の袋物体部(163)がある。なお、161は6E18グリッド出土の破片と接合した。以上から、7c層出土土器は13世紀前後の珠洲焼・珠洲系陶器片を含むものの、11世紀後葉～12世紀前半の遺物が主体と言える。7a層は青花皿C群が出土しているが、5c層からの紛れ込みの可能性もある。6層では白磁碗Ⅳ類(162)、5層では当遺跡唯一の土師器皿A類(165)、白磁碗Ⅴ-4類ないしⅧ-1か3類(166)、白磁皿Ⅵ類(167・168)があり、11世紀後葉から16世紀にかけての土器が含まれる。2層では近世の肥前系磁器(169)、1層では土師器有台皿(170)、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(172)と14世紀代の皿(171)、近世陶磁器(173～175)が出土した。したがって、近世のものは2層以上で確認できる。このほか、古代の遺物として7a層から土師器鍋(116)、4層から須恵器長頸瓶(96)が出土している。

南地区では遺物が少なく、14層から土師器皿B3類(176)、13層から白磁Ⅷ類(177)が出土した。このほか、14層から須恵器甕(100・104)が出土している。下位層からは近世陶磁器が出土しておらず、北地区と共通する。

SD2出土土器 (図版66・91・136)

土師器皿B2類(178)のほか、白磁碗Ⅳ～Ⅷ類の破片(179・180)がある。珠洲系陶器の甕T類(181)はI期の可能性がある。従って、SD1-7c出土土器と同じ傾向が認められる。

SD3538出土土器 (図版67・91・136・137)

当遺跡で最も良好な一括資料である。覆土3・4層から完形のものを含む土師器がまとまって出土した。皿B1類(182～193・205)が主体を成す。器壁が厚く、体部の立ち上がりが急で、口縁部がやや内湾するもの(182)や外反するもの(183・184・188・189・190)が含まれる。底径/口径指数は0.47～0.51と高く、底径が大きいと言える。また、底部外面は外反したのちに体部下位にふくらみを持ち、底面内面にロクロナデによる盛り上がりを残すものが多い点も特徴的である。さらに、SD1出土皿B2類に比べると、胎土は金雲母を主とする粗い好物を多量に含み、焼成が軟質である点も特徴的である。皿B2類(194～198)は底部のみであるが、皿B1類と同様に底径が大きめで、胎土・焼成の特徴も類似する。小皿はB1類(199～204)がある。199は小皿の中では身が深く、199・200は底径/口径指数が0.52～0.54と大きめである。B3類(208)も認められる。206は口径が大きい浅身の皿と見られる。器壁が薄く、胎土に大粒の鉱物を含まない。有台皿(207)は底部が極めて厚く、高台径が大きいもので、胎土は皿B1類に類似する。このほか、2層から白磁碗Ⅱ類(210)と、15世紀代のもつと見られる瀬戸・美濃の皿(204)が出土している。2層は基本層Ⅱ層に接して紛れこむ可能性もあり、3・4層出土遺物には伴わないものとする。

3) その他の土器

a 土 師 器 (図版67・68 137・138)

皿はB1類(211～219・225～229・235～239)、B2類(220～223・245～249・256～260)としたが、口縁部片のみのものは判断が難しい。219は体部に丸みをもっており、別器種の可能性がある。B3類(230～234)もわずかに認められるが、全形を知り得るものはない。C類(240・241)は図示した程度しか出土していない。

小皿はB1類(242～244・250～255・261)が定量ある。B2類(262～265)も量は少ない。B3類(267)は唯一の資料であり、内面にロクロナデによる凹凸を明瞭に残す。C類(266・268・269)は図示した3点のみ確認できた。

有台皿は高台径の小さいもの(270～273)と大きいもの(274・275)があり、高台器壁の薄い270～272は古代の可能性もある。

b 輸入陶磁器(図版69～71・91・138)

白磁(図版69・70・91)

ここでは、[山本2000]で編年されているA～G期の順に従って述べることとする。

椀はI-1類(276)が中世の井戸SE4037から1点出土した。小さな玉縁口縁をもち、胎土・軸は白色に近い。[山本2000]によれば、A期9世紀末葉～10世紀初頭のものである可能性が高く、古代の土器と時期的に符合することから、古代のものである可能性もある。

次にC期(11世紀後半～12世紀前半)とD期(12世紀中頃～後半)の椀について述べる。破片数は179点である。II類(277)はC期の標識で、高台内面が深く削られるもので、体部外面下位から高台に施軸されない。IV類(278～295)もC期の標識で、最も多い。口縁部は大きめの玉縁で、直下にヘラケズリ痕を残すものも認められる。軸は透明のものが多く、体部下位以下に施軸されない。また、器面に気泡が認められるものも多い。292～295は高台内部のケズリが浅いIV-1類であり、293は底部内面に沈線をもつIV-1a類である。口縁端部を丸く取めるV-1類(300)もC期で、V類底部(296)がある。口縁部が外方に引き出されるように屈折するV-4類ないしVII類(298・304・305)はD期である。このほか、V-1類ないしVII-2類(297・302・303・306)がある。V～VII類(308)は体部内面に櫛目文が施される。器高が低く、体部内面に櫛目文が施されるVI-1b類(309)とVI類底部(310)はC期である。直口縁となるVII-2類(312)、内面見込みの軸を環状に掻き取ったVII類底部(313)、体部内面に篋描文が施される315はD期である。皿では、II類(321)、高台内部のケズリが浅いII-1類(322)、底部がケズリにより高台状となるVI類(323～327)はC期の標識である。328は胎土・軸が良質で、B～D期に含まれる可能性がある。口縁部が直口縁のV～VII類(331)はC期ないしD期である。壺ではII類(340～342)と小壺(339)がある。

次に、CD期以降のものについて述べる。総数24点である。口縁部周辺の軸を掻き取る椀区類(318～320)および皿区類(329・330)はF期(13世紀中葉～14世紀初頭前後)の標識である。森田D群の多角杯(332)、椀皿(333)、皿(334)、森田E群の椀皿(335)、皿(337)がある。皿(338)も新しい。

青白磁(図版70・91)

青白磁と見られるものは14点出土した。椀(344)は体部内面に櫛目文が施される。椀(345)は底面内面に篋描文が施される。皿(346～349)があり、349は体部内面に篋描文が施される。以上は12世紀代の可能性が高い。小壺(350)は体部外面に陽刻による花卉文が施されるもので、底部(351)とともに12～13世紀のものと考えられる。壺の体部(352)は胎土・軸が優れており、10世紀後半～13世紀の幅をもつ。小椀(353)は新しいもので、明～新代のものであろう。

青磁(図版70・71・91)

同安窯系青磁と見られるものは7点である。椀I類(354)、体部内外面に縦位の櫛目文を施す椀I-1b類(355)、I～III類(356)があり、D期のものである。

龍泉窯系青磁と見られるものは72点である。内面に区画文が施されるI-4類(357)、底面内面に片彫文が施されるI-2～4類(358・360)はD期のものである。外面に綽連弁文が施される椀II-b類(361～366)はE期(13世紀前後～前半)のものである。外面に幅の狭い綽連弁文が施されるIII-2C類

(367・368)はF期である。このほか、上田b-IV類の皿(369)、上田D-II類の椀(371)、上田E-II類の椀(372)があるほか、G期(14世紀初頭～後半)やそれ以降の椀(370～376・378)がある。

青花(図版71・138)

8点が出土した。小野B1群の皿(379～381)、C群の椀(382・383)、F群の皿(384)がある。

磁州窯系白地鉄絵(図版71・91)

酒会壺のような大形壺の体部下半と見られる破片が1点出土した。外面は白化粧の後に筆で幅の広い水平な区画線上に花文と見られる鉄絵が描かれ、透明釉が施される。内面は軸に軸はない。胎土はやや褐色がかかった灰白色を呈し、粉味で硬い。文様の特徴から13～14世紀のものと考えられる。

初期高麗青磁(図版71・91)

梅瓶と見られる瓶類の体部破片が1点出土した。外面に象嵌技法により鳥(鶴か)の脚か羽と見られる灰白色の文様が施される。内面にも薄く釉がかかる。胎土は灰色で硬く、白色粒子を含む。外面の釉の発色が12世紀前半のものに比べ劣ることから、12世紀後半～13世紀のものとの可能性がある。

中国天目(図版64・131)

いずれも椀である。393は体部下位外面の釉が描き取られる。

c 国内産陶磁器(図版71～75・138～140)

山茶椀・瀬戸・美濃(図版71・138)

山茶椀の皿(387)は尾張6型式(13世紀前葉)のものと見られる。瀬戸・美濃は端反皿(395～399)、皿(400)、天目茶入(389)、天目椀(390・391)、梅瓶と見られる瓶類の体部(394・401)がある。

珠洲焼・珠洲系陶器(図版72～74・138～140)

四耳壺(402)は珠洲系陶器で、横位に付く把手は剥がれてなくなっている。I期のものである。ロク口成形の壺R種(403～405)、底部(414～416)、体部外面に平行タタキ目を残す壺T種(411～409)があり、403・406はI期、407はIII期、405はIV期であろう。

甕(410～413・417～419)のうち、417は珠洲系陶器である。時期は417・418がI～II期、410がII期、532がIII期、411・412がIV期である。

鉢はI～II期の420・421のうち420が珠洲系陶器である。口縁部が外方につまみ出される422はIII～IV期と考えられる。

播鉢は卸し目のないI期(423～427)があり、このうち珠洲系陶器は423～425である。II期(428～436)のうち、珠洲系陶器は428・430・433・434・436である。430は長石の混和量が非常に多く、器面にざらつきが認められる当遺跡で認められる一般的な珠洲系陶器と異なる。426は漆継ぎ痕が認められる。437は口縁部が外方に引き出される形態からIII～IV期、438はIII期と考えられる。IV期のものは比較的多く、439～450が該当する。胎土中に海綿骨針を含む珠洲焼特有の胎土で、珠洲系陶器は含まれない。このほか、V期(451～453)、VI期(454～457)のものがある。

瓷器系陶器(図版75・140)

瓷器系陶器は39片が出土した。458～463は甕である。460・461は押印から赤坂山窯産と考えられる。越前焼(464～466)は、17片出土した。464・465は15世紀後半と考えられる。

E 近世の土器 (図版75・140)

近世の土器はⅡ層を中心に遺跡全体から出土している。SD1出土土器に見られるような肥前系陶器が主体を占める。唐津焼(467～471)が17片出土した。

F 弥生土器 (図版75・140)

472は高杯で、体部下位に平行沈線文と縄文LRが施される。脚部外面はほぼ垂直に立ち上がり、平行沈線文が3条施される。597・598は深鉢の体部で同一個体と見られる。外面に条痕文が体部上位に向かって縦位から斜位に施されるものであろう。いずれも弥生時代前期竪立式のものと思われる。

2 土製品 (図版75・140)

ここでは、土製遺物のうち土器以外の製品を扱う。分布と出土状況の項で全体を概観し、各説の項で個別に記述する。観察項目は、肉眼観察で確認できる外形・整形技法・胎土の属性を扱う。

土製品は土鍾2点、土器片円盤1点が出土した。土鍾は1列と12列の遺構外から1点ずつ出土した。出土層位は近世以降～現代の耕作層であった。また、土器片円盤は12E13グリッド性格不明遺構からの出土で(SX2373)、覆土上層から検出された。

476・477は土鍾である。形状は中央が影らむ円筒型で、手づくね成形。表面に削痕を有する。両端部を貫通するように穿孔されている。胎土は土師質。1は半分が破損のため失われている。

475は土器片円盤である。珠洲焼甕型土器の破片を転用している。縁辺を土器表面側からの加撃によって剥離整形し、ほぼ円形に仕上げている。表面は摩滅し、甕外面の叩き痕が失われている。

3 石製品 (図版76～79・141・142)

A 記述の方法

ここでは大坪遺跡出土石製品について、初めに分布と出土状況の項で全体を概観し、各説の項で図化したものを個別に記述する。観察項目は、肉眼観察で確認できる原石形状・外形・使用痕・加工痕・石材・付着物等の属性を扱う。

出土石器の分類：各器種の分類の基準を以下に示す。分類に当たっては使用痕を重視して行った。

砥石 砥面・砥痕を有する石を砥石とした。砥面には平坦状と壺曲状、溝状、鏡面状のものがある。砥痕には断面形状が弧状またはU字状の溝状痕、V字状の線条痕がある。砥石は製品砥石と自然礫転用砥石に分かれる。

製品砥石は、概念としては砥材を産出する鉱山等で一定の形状に切り出され、ある程度の地域に流通していたものをさす。形態上では、角柱状・表面に成形・整形加工痕等を有する点が挙げられる。

自然礫転用砥石は、概念としては自然礫の中で砥石使用に適した石材のものを拾い、砥石として使用されたものをさす。形態上では、外形に自然礫の形状を残し、砥面以外の表面上にローリング痕などの自然面を残す。

加工礫

目的のために加工を施された礫を総称する。形態上では、表面に成形・整形加工痕、剥離痕を有する自然礫。加工痕には、剥離痕・ハツリ痕・敲打痕がある。また、使用痕（磨痕、凹痕、炭化物付着）を有する場合もある。

なおここでは、成形とは、原型を大きく変える加工のことを指し、整形とは、成形によって生じた表面の凹凸等を平坦にする加工を指す。また、調整は微細剥離を用いた整形作業のことを指す。

磨石

表面に磨痕を有する自然礫を磨石とした。

タタキ石

表面に敲打痕を有する礫を敲石とした。

B 分布と出土状況

1) 出土分布

石製品は合計43点出土した。

器種別出土数は砥石24点、加工礫9点、磨石2点、敲石7点、使用痕のある礫1点である。砥石が圧倒的に多く、全体の5割強を占め、加工礫が2割強、敲石がそれぞれ2割弱を占める。

石製品の出土分布傾向は、北・南地区全体からまんべんなく出土する。遺構種類ごとの出土数では、溝20、井戸9、土坑1、ピット6、性格不明遺構1、遺構外6点で、様々な種類の遺構から出土しているが、特に溝からの出土数が多い。全体の4割弱を占める。

器種別の遺構別出土傾向は、砥石は溝12、井戸5、性格不明遺構1、ピット3、遺構外3点である。溝出土は、すべて覆土中から出土。覆土上位から出土するものが多く、半数を占める。井戸出土は、覆土中から出土。

加工礫は溝3、井戸2、遺構外1、ピット3点である。

敲石は溝3、土坑2、遺構外2点である。磨石は溝から1点、土坑から1点出土した。使用痕のある礫は、溝から1点出土している。出土傾向として、砥石は様々な種類の遺構から出土しているが、特に溝からの出土数が多く、5割を占める。加工礫・敲石は、共に様々な遺構から出土し、遺構別出土数は平均している。

2) 石 材

石製品の石材別出土数は、凝灰岩27点、砂岩6点、安山岩5点、閃緑岩1点、凝灰質流紋岩1点、軽石2点、泥岩1点である。圧倒的に凝灰岩が多く約60%を占め、以下砂岩・安山岩で25%を占める。

器種別石材数では、砥石が凝灰岩19点、砂岩2点、安山岩1点、閃緑岩1点、凝灰質流紋岩1点である。加工礫は凝灰岩4点、砂岩2点、安山岩3点。磨石が軽石2点。敲石は泥岩1点、凝灰岩4点、安山岩1点、砂岩1点。使用痕のある礫は砂岩1点である。器種別使用石材傾向として、砥石と敲石の使用石材には圧倒的に凝灰岩が多く、前者が約8割、後者が約6割を占める。しかし、そのほかの器種は器種別石

	砥石	加工礫	磨石	敲石	使用痕のある礫	小計
凝灰岩	18	5		1		24
砂岩	2	2			1	5
安山岩	2	1		1		4
閃緑岩	1					1
凝灰質流紋岩	1					1
軽石			1			1
泥岩				1		1
小計	24	8	1	3	1	37

第5表 石製品石材別出土数

材選択傾向はみられない。これは、砥石以外の器種の出土点数が少ないことも関係しているよう。

C 各 説

ここでは図化した39点について述べる。

砥石

478～486は、製品砥石である。478は上州砥沢産の石材で、主として表面のみを使用し、裏面・側面・上面に平刃鑿痕を残す。表面の鑿痕から、中世の所産と考えられる。479は砥面・砥痕を全く有さないが、482と石質が酷似するため砥石とした。表面には荒削痕のみ観察され、鑿等による整形はなされていない。未使用。480は木口以外の全ての面に砥面を有し、特に表裏面を多く使用。幅・大きさ共に製品砥石の中で一番小さい。手持砥と思われる。481は半分欠損している。小口と割れ口以外全ての面に砥面を有するほか、表面と木口に何条もの溝状砥痕を有する。482は半分欠損。表裏・左右側面に平坦な砥面を有する。特に表裏面を多く使用。裏面中央には幅広のごく浅い溝状砥面を有する。483は木口以外の表裏・左右側面に砥面を有する。表面と側面には、軸線に対し斜方向の線状痕を複数有する。裏面には粗削痕を残す。484は破片を使用。表面に外歪する砥面のほか、多数の溝状痕を有する。溝状痕は大よそ長軸方向を向く。485は砥石の先端部破片である。他の製品砥石と比較して幅広で砥面が平坦なため、置き砥として用いられたと思われる。486は先端部破片。主に表裏2面を使用。左側面が厚く、右側面が薄いため、偏った研ぎ減りをしている。側縁には長さ2～3mmの短い線状痕を多数有する。

487～498は、自然礫を転用した砥石である。487は円礫破片を使用する。側面に砥面を有し、表裏面に線状痕を有する。手持砥と思われる。488は円盤礫破片を使用する。表面に線状痕を有する。489は円礫破片を使用する。側面に砥面、表面に溝状痕・線状痕を有する。手持砥と思われる。490は円礫破片を使用する。表面と割れ口に溝状痕を有する。491は破片である。円盤礫使用。表裏両面に砥面・線状痕、側面に敲打痕を有する。敲打石としても使用される。492は破片である。表面に砥面を有する。493と接合する。493は礫破片を使用。表面は長軸方向に外歪する弧状の砥面を有し、側面には線状痕を有する。492と接合し、側縁を剥離で調整していることから、原礫を分割し、破片を砥石に使用していると思われる。494は亜角礫を使用。表裏と下面に平坦な砥面を有し、側面に線状痕を多数有する。置き砥と思われる。495は楕円礫を使用。下端部欠損。表裏両面に砥面、表面全面・割れ口に線状痕を有する。496～498は鏡面状砥面を有する砥石である。496は石製品の破片を使用。側縁を敲打により整形。石製品底面の挟りが砥石表面に遺存し、底面の挟りにはタガネ痕が多数みられる。石製品の種類は不明。表面と右側面に、微妙に凹凸する鏡面状砥面を有する。497は破片である。表面に鏡面状砥痕を有する。上面は剥離により平坦に加工されている。498は楕円礫の破片を使用。表面に、長さ2.5cm程度の鏡面状砥痕を5面有する。

加工礫

499～507は加工の施された礫である。

499～505はハツリ痕を有する加工礫である。499は球礫表面の片平面をハツリ、一部磨きも加えて整形している。加工面中央部に環状に炭化物が付着する。500は扁平楕円礫を使用。表面中央にハツリを施す。ハツリの施された範囲とほぼ同範囲に炭化物が付着。501は扁平円礫の破片を使用。表面はハツリを施して平坦に仕上げている。側縁の一部には、ハツリ範囲を設定した際のケビキ痕とみられる立ち上がり痕が遺存する。表面中央は摩滅し、ハツリ痕が一部消滅している。また摩滅範囲とほぼ同範囲に薄く

炭化物が付着する。表面には凹痕を有する。502は扁平円鏢を使用。表裏両面の中央にハツリを施す。表面には敲打痕を有する。被熱で破損している。503は不定形な扁平円鏢の破片を使用。表裏両面・下面中央にハツリを施す。左側面には凹痕を有する。504は扁平円鏢を使用。表面にハツリを施す。破損している。505は円鏢を使用。表裏両面にハツリ痕を有する。表面に薄く炭化物付着。被熱のため破損。

506・507は剥離痕を有する加工鏢である。506は不整な円盤鏢を素材とし、側縁の一方と上辺を剥離により成形し、縁辺を細かい剥離で調整している。成形は片面剥離で、調整は両面剥離で行われている。表面は中央部にハツリ痕を有する。507は楕円鏢を素材とし、側縁の一方に片面剥離による成形が施されている。

磨石

508は、軽石の破片を使用している。表面に磨面を有する。

敲石

509～514は敲石である。509は球鏢を用い、表面中央に多数の敲痕を有する。510は扁平円鏢を用い、側縁と表裏両面中央部に敲痕を有する。また、表面に多数の線条痕を有する。砥石としても使用されたとと思われる。511はやや中央の厚い扁平円鏢を用い、側面に敲痕を有する。512はやや中央の厚い扁平円鏢を用い、表面と側面に敲痕を有する。513は楕円鏢を用い、両側縁に敲痕を有する。514は表面中央に敲痕を有する。515は棒状の楕円鏢を用い、両端に敲痕を有する。また、表面に重複する7枚の磨面を有する。砥石としても使用されていると思われる。

使用痕を有する石

516は扁平円鏢を用い、表面中央に炭化物が付着する。両側縁に剥離痕を有する。

4 金属品 (図版72・73・135)

A 銭貨

大坪遺跡からは中国銭28枚、近世貨幣26枚の計54枚出土した。中国銭の8枚が遺構出土となっており、それ以外は包含層のⅡ、Ⅲ層で出土している。出土地点にも偏りは見られず、各地区に点在している。掲載した古銭の図版は鋳造された年の古い順に並べてあるが、記述は遺構出土のものから行う。

1) 中国銭 (図版79・142)

中国銭は全部で28枚出土した。種類は11種(第4表)で最古銭は開元通寶(初鑄年621年)、最新銭は洪武通寶(初鑄年1368年)である。この2種類を除き全て北宋銭である。最も枚数の多いのが皇宋通寶で(初鑄年1038年)あり、次は開元通寶(初鑄年621年)である。その中で最も保存状態の良いものを1枚ずつ掲載した。聖宋元寶(初鑄年1101年)と大觀通寶(初鑄年1107年)は破損が著しく、報告書には掲載しなかった。

SK4179 (19C5) 出土の中国銭 (図版79・142)

中国銭が7枚重なったまま1層より出土した。1番上は開元通寶であるが、下6枚は剥離が不可能で銭種も判明できなかった。六道銭として利用されていた可能性がある。

貨幣名	初鑄年	王朝	枚数
開元通寶	621	唐	4
淳化元寶	990	北宋	1
景祐元寶	1004	北宋	1
皇祐元寶	1034	北宋	1
皇宋通寶	1038	北宋	5
治平元寶	1064	北宋	1
熙寧元寶	1068	北宋	1
元豐通寶	1078	北宋	3
元祐通寶	1086	北宋	1
聖宋元寶	1101	北宋	1
大觀通寶	1107	北宋	1
洪武通寶	1368	明	2
不明			6
		合計	28

第4表 中国銭一覧

SD1984 (13B9) 出土の中国銭 (図版79・142)

SD1984の自然流路の1層より皇宋通寶が出土している。

2) 近世銭貨 (図版79・142)

近世通貨は全部で26枚出土した。元禄一分判金(初鑄年1695年)が1枚出土した他は全て寛永通寶である(第5表)。寛永通寶の内訳は1期(初鑄年1636年)のものが5枚、2期(初鑄年1668年)のものが3枚、それ以外は全て3期(初鑄年1697年)のものである[永井1998]。その中に真鍮四文銭(初鑄年1768年)が1枚含まれる。全てが包含層出土で層位はII、III層が多い。

元禄一分判金 (図版79・92)

表の一が直線であることや、光次の右肩に元の字が見えるために元禄一分金と思われる。

寛永通寶 (図版79・142)

528の寛永通寶は1期の古寛永である。529は2期の一文銭である。3個の一文銭のうち2つは同じジリッドから出土している。530は真鍮四文銭であるが、赤みを帯びた色をしているため、文政期以降の真鍮四文銭であろう。

B 金属製品 (図版80・142)

1) 記述の方法

分布と出土状況の項で全体を概観し、各説の項で個別に記述する。観察項目は、肉眼観察で確認できる外形・表面状況・内部構造・材質等の属性を扱う。

2) 分布と出土状況

全部で18点出土した。うち遺構から出土したものは3点である。器種別出土数は、小刀類7点、工具類3点、農具類2点、鍋1点、鏝1点、キセル4点である(第6表)。

遺構から出土した鉄製品は、小刀が溝・ビットから1点ずつ(SD674、P3034)、キセルが土坑から一点出土した

(SK3181)。小刀は2点とも覆土上位からの出土で、キセルは単層覆土の中位から出土した。

遺構外出土の鉄製品は、4～12列の範囲と19～24列の範囲に、密度は高くはないがまとまる傾向がある。

3) 各 説

532～538は小刀類である。532は小刀で、切っ先のみ刃を有し、切出形の刃部である。茎は欠損。533は刀子である。両端は欠損し、刃部の一部のみ遺存する。刃幅が約1cmと狭く、かなり研ぎ減りしていると思われる。534は茎である。腐食が著しい。刃部・茎末端部欠損。平面形状は幅が刃部側は広く、付け根側が狭い。535は茎から刃にかけての部分である。刃は片刃である。錆び膨れが著しい。刃部・茎末端部欠損。536は茎と思われる。平面形状は長方形。目釘孔を2つ有する。刃部側目釘孔の位置

貨幣名	初鑄年	時期	枚数
寛永通寶	1636	1	5
寛永通寶	1668	2	3
寛永通寶	1697	3	17
元禄一分判金	1695		1
合計			26

第5表 近世銭貨一覧

	小刀類	工具類	農具類	鍋	鏝	キセル	小計
溝	1						1
土坑						1	1
ビット	1						1
遺構外	5	3	2	1	1	3	15
小計	7	3	2	1	1	4	18

第6表 金属製品器種・遺構別出土数

で断裂し、刃部が失われている。537は茎である。平面形状は三角形で、刃部側が垂直に近い角度で広がっている。包丁と思われる。

538は斧である。頸部のみ遺存し、柄と先端は欠損。

539・540は器種不明。両端部は半円形で、断面形状は半円形である。縁辺は丸みを帯びており、刃部未形成。540も前者と同じ形態上の特徴をもつため、同種の金属製品と思われる。破損が著しい。

541は槍砲である。先端部は反り返る。先端は使用で研ぎ減る。基部欠損。

542は鎌である。刃部と茎部の一部は失われ、頸部のみ遺存。

543は馬具の轡の一部である。環状の部品と軸状部品の2点で構成されている。環状部は基部が幅広く平坦である。真ん中だけ幅の広い鉄棒を丸く折り重ね合わせて作られている。軸部は細い鉄棒を先端で2つ置き重ね、薄い鉄板で巻きつけて固定している。末端は鉗子状に開いており、環状であったと思われる。

544は鍋の把手である。上端に突起があり、全体に多数の孔が空けられている。穴の断面形は台形である。铸铁製。

545は鍔である。形状は左右非対称である。一端が外側に折れ曲がっている。

546～549はキセルである。全て銅製で銅板を折りまけて作られ、表面に接合痕を残す。546は雁首である。頸部径が小さい。江戸時代前半頃の所産である。547は吸口である。内部に木質を残す。吸口径が小さく、細身である。江戸時代前半頃の所産である。548は雁首である。頸部が太く短い。江戸時代後半以降の所産である。549は吸口である。接続部径は太く、吸口部は内歪形である。江戸時代後半以降の所産である。

C 製鉄・鍛冶関係遺物 (図版80・81・143)

1) 記述の方法

ここでは大坪遺跡から出土した、鉄滓・フイゴ羽口・炉壁等の製鉄・鍛冶関係遺物について扱う。説明は、分布と出土状況の項で全体を概観し、各説の項で図化した15点を記述する。観察項目は、肉眼観察で確認できる属性、形状・表面状況・表面付着物等を記述する。また、鉄滓の名称には特殊なものが多いため、以下に解説しておく。

なお、鉄滓の分類は、金津丘陵製鉄遺跡群 居村遺跡E・A・C地点・大入遺跡A地点出土鉄滓を検討した渡辺氏の分類に拠った〔渡辺1997〕。以下に再掲する。また、8点について金属学的分析調査を行ったので、第Ⅵ章1を併せて参照願いたい。

製 錬 滓：岩鉄や砂鉄から特定の製錬炉を用い、木炭などの還元剤の助けを借りて有用金属を分離、抽出する際に発生する第1次工程の還元滓をこう呼んでいる。鍛冶滓などと対比される。

砂鉄焼結塊：還元初期段階で金属鉄として還元しきっておらず、顆粒状に焼結した砂鉄の塊、あるいは焼結砂鉄が厚く付着した滓や炉壁。

マグネタイト系遺物：表面には銀色の光沢があり、磁着度が極めて強い。炉内の羽口先端周辺の高温度で生成されたと見られる。

炉 内 滓：炉内で形成された滓全般を指し示す用語である。木炭痕の激しい炉内滓や流動状の炉内流動滓が代表的。含鉄のものもあり、鉄塊系遺物はここから割り分けて選別される。

炉 底 塊：各種の炉の底部に形成された滓をさす。炉底滓（炉床滓）が滓を主体とする認識であるのに対し、古代の製鉄遺跡より出土する炉底塊は鉄と滓が共存するという、近世のケラに近い意

味合いを持つ。半地下式整形炉の炉内生成物もこれに相当。生成された鉄はこの炉底塊を削ることにより分離・分別され、鉄塊系遺物となる。

炉底滓(炉床滓)：各種の炉の底部に形成された盤状の滓。滓を炉内にとどめて炉底の保熱をかねた場合と失敗品の場合がある。古代の製鉄炉の底に残されている物は後者の場合が多い。炉底塊ともいう。

流出滓：炉外に流れ出した流動上の滓。炉内にも流動状の滓は存在するが、これとは生成位置が異なることから区別される。粘り強いものから流動状のものまで幅広い。その形状によって生成位置が特定できる場合には流出孔滓・流出溝滓などと呼び分けられる。

含鉄鉄滓：鉄滓中に還元された金属鉄が含まれた場合の、滓としての名称である。含まれている鉄の量で区別されるものではなく、あくまでもその状態によって滓からは区別される。広義には鉄塊系遺物などもその中に含まれる。

鉄塊系遺物：製錬で作られた鉄塊や鉄滓交じりの小鉄塊、さらに鍛冶で滓分を分離したり、鉄質を変えたりすることによりできるほとんど未鍛造の鉄塊。その多くは1～2cm大の不定形な滓混じり鉄塊。古代の鍛冶遺跡の素材として広く流通していたことが最近判明してきた。分類には鉄滓と同様、標準磁石による磁着度や特殊金属探知機によるメタル度などを用いる。

鍛冶滓：鍛冶作業の折に排出される滓の総称。特徴的なものに鍛冶炉の底付近に形成される椀形鍛冶滓がある。なお、粒状滓や鍛造剥片も鍛冶滓の一種。

炉壁：人為的に鉱石や金属を還元したり、加熱したりする場合に設けられる炉の壁。保熱や酸化・還元空間の確保に加えて、溶媒剤の役割を果たす場合が多い。

磁着度：製鉄遺跡から多量に出土する各種の鉄滓や鉄塊系遺物などを効率的に分類・判別し、遺跡の評価や遺跡間の情報を共通化するために採用された評価基準である。鉄滓分類用の標準磁石を定められた方法で用いて、資料の磁着反応を1～8までの数値で表す。数値が大きいほど磁着性が強いことを意味する。

2) 分布・出土状況

製鉄・鍛冶関係遺物は110点出土した。遺構出土が30点、遺構外出土が80点である。内訳は製錬滓18、鍛冶滓17、製錬または鍛冶滓4、鉄塊系遺物2、不明鉄滓59、フイゴ羽口5、炉壁3、鍛造鉄器片2である。うち遺構出土14点、遺構外出土1点を図化した。

出土傾向は、-2～2列、6～11列、12～17列、20・21列にかけての区域に分布の集中がある(第20・21図)。この中で6～10列、12～17列集中部は数・量共に突出し、非常に大きい。また、-2～2列集中部は、遺跡内を大きく区画するSD1の区画外外縁に位置し、20・21列集中部は南地区唯一の集中分布域である。

-2～2列集中部は、製鉄・鍛冶関係遺物が4点出土している。内訳は鉄滓2点、炉壁1点、フイゴ羽口1点である。鉄滓総重量は559gであり、鉄滓1点当たりの平均重量は279.5gである。他の集中部と比較すると出土点数は少ないが、この範囲では大型の鉄滓に分類できる製錬滓(554、441g)が出土している。出土分布は、溝から製錬滓が1点出土しているが、他は全て遺構外でまばらに出土している。

6～11列集中部は総点数25点で、内訳は鉄滓23点、鉄塊系遺物1点、フイゴ羽口1点である。鉄滓は製錬滓が11点と多く、砂鉄焼結塊、含鉄鉄滓・マグネタイト系遺物・炉内滓・流出滓などであり、製

鉄滓の種類は多岐にわたっている。鍛冶滓は小片のみで少なく、椀形鍛冶滓・鍛造鉄器片などが4点出土している。鉄滓出土総重量は605gである。鉄滓1点当たり平均重量は26.3gであり、大坪遺跡では平均的な大きさである。8Dグリッドを中心に分布している(第20図)。出土地点は、製錬滓が溝・ビット、木棺墓・土坑など多様な遺構から出土している。鍛冶滓はビットと性格不明遺構、遺構外から出土しているが、いずれも小片である。その他、フイゴ羽口、鉄塊系遺物の小片が遺構外から出土している。

12～17列集中部は、総点数55点で、内訳は鉄滓51点、鉄塊系遺物1点、フイゴ羽口3点である。鉄滓総重量は1,764.5gで、鉄滓1点当たり平均重量は34.6gである。大坪遺跡では平均的な大きさである。出土分布は、製錬滓では井戸から大型炉内滓、自然流路からマグネタイト系遺物が出土している。鍛冶滓はビット、溝、自然流路から小片が出土している。そのほか、遺構外から多数の摩滅鉄滓が各グリッドに散らばるように出土している。フイゴ羽口は溝と遺構外から出土している。

20・21列集中部は、総点数26点で、内訳は鉄滓24点、炉壁2点である。鉄滓は鍛冶滓が3点と鍛造鉄器片1点の他は、表面が摩滅し詳細が不明なものである。鉄滓総重量は121gである。鉄滓1点当たり平均重量は4.7gであり、ほとんどが小片である。出土分布は、鉄滓が遺構外で出土しているが、21Cグリッドに集中する。炉壁は井戸(SE3651)から出土している。

3) 各 説

550～556は製錬滓である。550は砂鉄凝結塊である。表面の1/3は溶融している。551はマグネタイト系遺物である。不整な楕円形で、底面形状はV字状である。表面は気泡を有し、気泡内部は錆化している。552は炉内滓である。不整な五角形で、表面には気泡が多数見られ、木炭片を残す。気泡内部は錆化している。

553・554は炉底塊である。553はやや膨張した立方体形で、表面全体が錆化している。また、表面の一部に木炭片、気泡を有する。554は不整な五角形で、表面は凸凹で、底面は弧状でなだらかである。全面に1～5mm大の灰白色の不純物の塊が多数付着している。また、表面に木炭片を含む。

555・556は含鉄鉄滓である。表面は全面錆化している。555は不整な五角形を成し、556は不整な楕円形である。

557～559は製錬滓または椀形鍛冶滓である。表面に気泡を有し、気泡内部は錆化している。557は方形で、底面は弧状でなだらかである。側縁の一方が破損している。558は不整楕円形で、底面は不整

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	-1	-2		
																																A
													1	11	2	1	5	1														B
							21	1						1	2	9	7				2	2		1							C	
							2						2	1	1	2				1	4	7	1	1	1						D	
				1	1								1	8				1		3			1								E	
																													1			F
																													1			G

第20図 製鉄・鍛冶関係遺物 出土分布図(点数)

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	-1	-2			
																																A	
													55	46	71	9	60	49														B	
							83	4						16	35	31	34				85	57		10							C		
							10						4	21	72	28				57	26	223	5	9	32						D		
				29	5								5	46.5				35		44			55								E		
																																F	
																												441		118			G
																												25					

第21図 製鉄・鍛冶関係遺物 出土分布図(重量:g)

な弧状でなだらかである。表面に木炭片を多数含む。559は楕円形で、底面は不整形である。

560・561はガラス質鍛冶滓である。561は不整形な立方体である。表面は全て緑がかった胎色に溶融している。

562・563は炉壁の破片である。562は表面が明黄褐色に溶融し、多数の気泡を有する。炉壁材は黒色部と赤褐色部を呈する部分に分かれ、溶融面側が黒色であり、破損面側が赤褐色である。563は、炉壁材が砂粒を含まない均一な胎土で、頁状に細かいヒビが入る。表面の片半分は明黄褐色に溶融。

564はフイゴ羽口の破片である。表面に滓が付着する。胎土に砂を微量含む。破損面は摩滅している。

5 木 製 品

A 成品・加工材 (図版83・84・143・144)

1) 記述の方法

ここでは、木製品のうち、成品・加工材について扱う。分布と出土状況の項で全体を概観し、各説の項で個別に記述する。各説の記載項目は形状・木取り・加工・工具痕などの属性について、遺物ごとに特に重要と思われる項目を記述する。形状は平面・側面・断面の形状について、木取りは用いられた材木の種類、加工は加工範囲・部位・状況、工具痕は表面に残る加工に使用した工具の刃部形状等について記述する。木取りについては新潟県青田遺跡出土の木製品を検討した猪狩氏の分類〔猪狩2004〕に準拠し、以下に説明する。

木取り

丸木取り 木口面にのみ加工が施されているもの。

半割り 樹芯を通して、2分割されたもの。

偏半割り 樹芯を通らずに2分割されたもの。芯持ちと芯去りに分けられる。

ミカン割り 樹芯を通して1/2以下に分割されたもの。断面は扇形を呈するもの。

偏ミカン割り 樹芯を通して1/2以下に分割されたもの。芯持ちと芯去りに分けられる。

削り出し 側面を削りだして、断面が円形や四角形を呈するもの。芯持ちと芯去りに分けられる。

板目 木口面において、長辺に平行するように木目が認められるもの。板材に対して用いる。

柾目 木口面において、長辺に直交するように木目が認められるもの。板材に対して用いる。

流れ柾目 木口面において、長辺に斜行して木目が認められるもの。板材に対して用いる。

2) 出土分布・出土状況

製品・加工材は65点出土した。内訳は、板材10（棺側板含む）、曲物3、箸3、柄1、棒状木製品13、不定形木製品1、加工材16、削片7、加工のある木片9である。大半の遺物は、南地区の井戸(SE3794・3938・3683・4037)の覆土の中～低位から出土している。遺構種類ごとに特定の遺物がまわって出土する傾向はなく、各種の木製品が混在して出土している。

使用樹種（第VI章3）はスギが多く見られる。スギ成品は木棺・曲物底板・箸・板材・棒状木製品等多種にわたる。その他、アスナロ（棒状木製品3点）、クリ（棒状木製品1点、加工材3点）、エゴノキ属（柄1点）、ハンノキ亜属（加工材1点）などがある。

3) 各 説

ここでは図示した27点について述べる。内訳は、板材7、曲物3、箸2、柄1、棒状木製品7、不定形木製品1、加工材4、削片2である。

583・584は木棺側板である。583は上板で、584が下板である。どちらも柾目取りで、風化・腐食が著しく、表面の整形痕等は一切不明である。

585～589は板材である。585は柾目、586は板目、587は柾目、588・589は板目取りである。586は表面に平刃工具痕を残す。

590～592は曲物底板である。いずれも破片で、側面の中心部に近い方が欠損している。縁辺は削り落とされている。590・591は柾目、592は板目である。590は表面全体に平刃工具痕を残す。591は曲物中心側の破損面に目釘孔を残す。10は風化が著しく表面の状況は明らかでないが、側面に面取りの加工痕を残す。

593・594は箸である。表面を何度も加工して多角形状に仕上げている。

595は柄である。木の枝を使用し、末端部に細かい加工を施して角を取っている。表面に樹皮を残す。

596～602は棒状木製品である。596・597は細い柱状で、表面を何度も加工し多角形に仕上げている。597は破片で、表面が炭化。598は端部の一端に加工を施し、尖頭状に仕上げている。599は端部の一端に加工を施し、切出しナイフ形に仕上げている。600・601は断面が長方形の棒状加工材である。端部的一方がやや細く仕上げられている。600は板目で、表面には樹皮を残す。601は柾目で、表面に工具痕を残す。602は扁平な角柱状の棒状木製品で、縁辺と末端部に加工痕を残す。

603は、不定形木製品である。板目取りで、旗状に仕上げている。

604～607は加工材である。604は木の幹の両端を切断して偏平削し、両端を粗加工して成形している。605は先端部破片で、枝材の末端部に加工を施し、鈍角な尖頭形に仕上げている。606は丸木取りで、材の両端に加工を施し、鈍角な尖頭形に仕上げている。端部の一端には切り残り痕を残す。607はミカン割り材の片側に加工を施し、鈍角な尖頭形に仕上げている。断面形は不整な台形で、表面には整形加工痕を残す。608・609は削片で、柾目である。表面には加工痕の切り合いが観察される。

B 柱 根 (図版77～79・137・138)

1) 記述の方法

ここでは、木製品のうち柱根類について扱う。分布と出土状況の項で全体を概観し、各説の項で個別に記述する。各説での記載事項は、新潟県青田遺跡出土の柱根を検討した猪狩氏の分類〔猪狩2004〕に準拠・参考にし、一部加筆、用語等は一部改変して使用した。木取り・断面形状・側面形状・尖度等の属性をもって記述を行う。

以下に属性を説明する。

側面形状 底面における頂点の位置を考慮し、柱根下端部の側面形態を分類したものである(第22図)。

逆三角形：頂点が樹芯部(底面の中央部)に位置し、下端部は逆三角形。

偏逆三角形：頂点が縁辺部に位置し、下端部は片側に偏った逆三角形。

平坦形：底面は平坦形に仕上げられ、側面と底面はほぼ直角に交わり、下端部は方形。

尖頭形：逆三角形のうち、尖度が2以上のもの。

またこの形態には先端部形状が2種類あり、尖るものと逆台形状のものがある。

尖 度 柱根下端部の尖り具合を、以下の式で指数化したものである(第23図)。

尖度 = 側面から見た加工面の長さ ÷ 材直径

また、木取りについては成品・加工材の項で説明しているため、そちらを参照されたい。

2) 出土・分布状況

柱根は、総数51点出土した。このうち掘立柱建物54棟からは17本、溝1条から7本出土した。

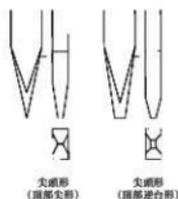
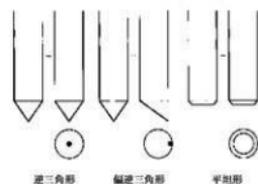
建物出土柱根の内訳は、SB5/2、SB6/1、SB7/2、SB18/4、SB20/1、SB27/1、SB38/4、SB40/1、SB53/1である。このうち形態がわかるものは3点で、SB5：P1761とSB38：P3336出土柱根は丸木材を用いる。側面形態は平坦形である。SB7：P278は板目材を用いる。側面形態は逆三角形である。しかし、大半の柱根は腐食が著しく原型をとどめていないため、建物ごとの柱根形態の傾向は不明である。

建物以外の柱穴から出土した柱根は27点であった。この中で形状がわかるものは9点である。このうち8点は丸木材で、1点がミカン割り材を用いている。丸木材を用いた柱根の側面形状は、平坦形1点、逆三角形2点、偏逆三角形3点、形状不明2点である。この他、ミカン割り材を用いた柱根は正面形態が逆三角形である。その他18点の柱根は大きく腐食し表面が失われ、形状の詳細は不明である。

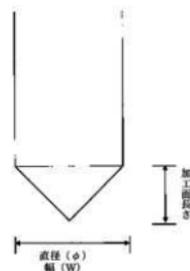
溝出土の柱根は、全てSD1出土である。形状がわかるものは6点で、全て板目材またはミカン割り材等の加工材を使用し、先端部形状が尖度2以上の強い鋭角尖頭形であった。1点は腐食が激しく形状不明であった。またこれらの柱根は、柱穴径と柱根の太さが一致していた。そのため柱穴掘り方と柱根の間に覆土が存在せず、溝の底に打ち込んだような状態で出土した。

礎板は掘立柱建物1棟から1点出土した(SB6)。この礎板はビット底面に置かれた状態で出土した。

使用樹種には、クリ・スギ・コナラ節・モクレン属・サクラ属・イヌエンジュ・カエデ・エゴノキ属等がある。樹種が判明した柱根のうち30点がクリで、スギが3点、その他は1点ずつである。分かっているものだけでもクリが全体の60%以上を占めている。樹種別木取傾向は、クリは芯持丸木と削出丸木が合計23点で、丸木材が60%を占める。角材は柾目5点、ミカン割り材2点、削出1点で、計8点のうち6点はSD1から出土した尖度2以上の尖頭形の柱根である。スギは板目・削出丸木・削出が1点ずつで、特に傾向は見られない。その他の樹種は全て芯持丸木材である。



第22図 側面形態の分類



第23図 尖度

3) 各 説

ここでは図示した21点を扱う。

610～618は、先端部の尖度が1.0以下の柱根である。610～612は、側面形態が平坦形の柱根である。全て丸木材が用いられている。613～615は、側面形態が逆三角形の柱根である。613は先端部が鈍角逆三角形の柱根である。ミカン割り材を用い、柱表面には素材整形時の加工痕を多数残す。614・615は鋭角逆三角形の柱根である。両者とも丸木材を用いる。614は正面形態が逆台形状で、615は正面形態が箱型である。616～618は側面形態が偏逆三角形の柱根である。全て丸木材が用いられている。

619～625は正面形態が尖頭形の柱根で、尖度1.0以上の柱根である。このうち、620～623は尖度2.0以上のもので、先端部は炭化。619・619はミカン割り材を使用した柱根で、断面形状が台形である。619は先端部の整形加工を主に側面に行っているのに対し、620は先端部の加工を全周に行っている。そのため、柱根下端部の断面形は、619が五角形なのに対し、620はより多角形である。621～623は板目材を用いた柱根で、断面形は長方形である。624は板目材を使用した柱根である。625は先端部のみ遺存。側面・裏面は粗割成形痕を有し、表面は整形加工痕を全面に有する。先頂部は尖る。

626は正面形態が不定形な柱根である。先端部が階段状に成形されている。成形加工根は頂部周辺にのみ有する。丸木材を使用。

627～629は、先端部腐食のため側面形状が不明な柱根である。627・628は丸木材を用いる。629はミカン割り材を用いる。

630は礎板である。不定形な板状で、表面に大きな整形加工痕を残す。

6 漆 器 (図版82・92)

出土した漆器は、SK453・456・2732の木棺墓に副葬されていたものである。すべての漆器は木地が腐朽してなくなっており、塗膜だけで原形を留めている。また、土圧によって潰れているものが多く、元来の器形を知り得ないものもある。したがって、図版には出土状況図のほか、遺存する薄い塗膜から推定復元実測図を作成し、掲載した。これらの漆器については四柳嘉章氏に塗膜分析ならびに赤外分光分析をしていたが、その結果を第VI章2に掲載してあるので参照願いたい。漆器の分類については第V章1D中世の土器に準じ、口径10cm以上のものを皿、10cm以下のものを小皿と呼ぶこととする。また、体部下位が張り出す稜椀がある。なお、第VI章2では皿・稜椀を盤、小皿を皿と呼んでいるが、用語の統一は行わない。以下、遺構別に述べる。

SK453 出土漆器 (565・566)

565・566はいずれも棺外から出土したものであり、566は調査中に一部滅失している。565は短い高台をもつもので、体部下位が張り出す稜椀である。この張り出し部に平行沈線文が3条施される。口縁部はわずかに外反する。566は塗膜片だが、裏面に柘目ないし板目のネガ文を観察でき、大きさから小皿の可能性はある。

SK456 出土漆器 (567～579)

本遺構では棺内から皿1点・小皿4点、棺外から小皿2点が出土した。567は小皿で、器壁は比較的厚めで、口縁部が丸く収まる。この近くから出土した568～573は567の同一個体と考えられる。574

は底径の大きい皿である。575は小皿で、完全につぶれているため器形復元ができなかったが、577と同様の器形であろう。576は575と同一個体と見られる。579は塗膜片で、柀目のネガ文が観察できることから、上記いずれかの皿と同一個体であろう。577・578は棺外から出土した小皿で、578は柀目と見られるネガ文を明瞭に観察できる。

SK2732出土漆器 (580～582)

遺構北端から稜腕2個体が並んで出土したほか、その東側から大形の不明漆器1点が出土した。580は高台の付く稜腕で、体部から口縁部が緩やかに立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。581は高台が外方に張り出し、体部上位から口縁部にかけて緩やかに外反する。582は不明漆器としたもので、長さ23.7cm、幅12cmの楕円形を呈する。漆表面は平滑で、発色が極めて良好であり、他の腕皿と異なる。図の左上縁辺では3重の塗膜が山折りにより6重となる部分が観察できるほか、図の右端縁辺でも2重の塗膜が山折りにより4重となり、その下にも1重の塗膜が山折りで2重となる部分が見られる。また、図の中央下では螺旋状に4回の折目が付付けられて5重となり、図中央でも2重の折目を観察できる。以上の折目は、亀裂が入らずに鋭角に曲がっていることから、もともと折れ曲がっていた可能性が高い。塗膜裏面も平滑で、素地を示すネガ文を観察できず、腕皿類ではないと考えられる。

第VI章 科学分析

1 大坪遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査

大澤正己・鈴木瑞穂（株式会社 九州テクノリサーチ・TACセンター）

A いきさつ

大坪遺跡は新潟県阿賀野市に所在する。多数の掘立柱建物跡をはじめとする、平安時代末から鎌倉時代の遺構群が検出され、館跡や寺院に関連する遺跡と推測されている。

調査区内では、製鉄あるいは鍛冶作業を直接証明する遺構は検出されていない。しかし、土坑・溝・井戸等の遺構や包含層から、100点を超える鉄生産関連遺物が出土した。ここに当遺跡ないし周辺地域の鉄・鉄生産の実態を検討する目的から、金属学的調査を実施する運びとなった。

B 調査方法

1) 供試材

第7表に示した。外観観察の結果、当遺跡から出土した鉄生産関連遺物には、ごく微細な炉壁片、円筒状の羽口の小破片、鉄滓（製錬滓・鍛冶滓）、小塊状の鉄塊系遺物、鍛造鉄器（鉄刀）片、鋳造鉄器片等が確認された。

なお鉄滓は、製錬工程と鍛冶工程での派生物の混在である。さらに磁着する滓の割合が高いことが特徴といえる。以上の観察結果をもとに、製鉄・鍛冶関連遺物8点を選択し、分析調査を実施した。

2) 調査項目

(1) 肉眼観察

遺物の外観上の観察所見を簡単に記載した。これらの所見をもとに、分析試料採取位置を決定している。

(2) 顕微鏡組織

滓中に晶出する鉱物、および鉄部の調査を目的として、光学顕微鏡を用い観察を実施した。観察面は供試材を切り出した後、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000およびダイヤモンド粒子

符号	遺跡名	出土位置	遺物No.	遺物名称	想定年代	計測値		磁着	メタル度	調 査 項 目								
						大きさ (mm)	重量 (g)			マクロ組織	顕微鏡組織	ピッカース断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	赤ロリ	備考
OTB-1		SE3651	30	炉壁片	12c	30×15×15	8	なし	なし	○								
OTB-2		SK1760	6	炉内滓 (製錬滓)		30×30×25	38	強	なし	○	○		○	○				
OTB-3		SD01	1	炉内塊 (製錬滓)		100×95×40	441	なし	なし	○	○			○				
OTB-4	大坪	P948	7	流出滓滓? (製錬滓)		63×48×30	101	なし	なし	○	○			○				
OTB-5		SE1998	22	桶形鍛冶滓		120×90×45	452	強	H (○)	○				○				
OTB-6		SK1984	23	炉内滓 (製錬滓)		45×32×25	30	強	なし	○	○							
OTB-7		SD637	3	炉内鉄滓 (製錬系)		18×12×12	10	強	H (○)	○	○			○				
OTB-8		P1497	9	鉄塊系遺物		25×20×15	13.0	弱	酸化(Δ)	○								

第7表 供試材の履歴と調査項目

の3 μ と1 μ で順を追って研磨している。なお金属鉄の調査では腐食 (Etching) 液に5%ナイトル (硝酸アルコール液) を用いた。

(3) ビッカース断面硬度

鉄滓中の鉱物組成同定と、金属鉄の性状調査を目的として、ビッカース断面硬度計 (Vickers Hardness Tester) を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除いた商を硬度値としている。試料は顕微鏡を用いて併用した。

(4) EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) 調査

化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定を目的とする。

分析の原理は、真空中で試料面 (顕微鏡試料併用) に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。

(5) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO) : 容量法。

炭素 (C)、硫黄 (S) : 燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化珪素 (SiO₂)、酸化アルミニウム (Al₂O₃)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K₂O)、酸化ナトリウム (Na₂O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO₂)、酸化クロム (Cr₂O₃)、五酸化リン (P₂O₅)、バナジウム (V)、銅 (Cu) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法 : 誘導結合プラズマ発光分光分析。

C 調査結果

OTB-1 : 炉壁

(1) 肉眼観察 : 熱影響を受けて、内面表層がガラス質化した炉壁の5gを測る小破片である。ガラス質部分の断面は黒色であるが、表面は灰白色で中小の気孔が点在する。胎土も熱影響を受けて、赤褐色を呈する。また素地は粘土質で、長石を主体とする砂粒が多量に混和される。

(2) 顕微鏡組織 : 第26回①~③に示す。①は橙褐色の炉壁胎土部分である。ただし熱影響が強く、素地の粘土鉱物はガラス質化している。胎土中に混在した石英・長石などの無色鉱物は、粒状の形状が保たれている。また砂鉄粒子は分解・溶化が進む。

②③は黒色ガラス質部分である。微小金属鉄粒が晶出する個所を示した。5%ナイトルで腐食したところ、白色結晶の粒界が確認された。ほとんど浸炭していないフェライト (Ferrite ; α 鉄) であった。また周囲の淡灰色短柱状結晶はファイヤライト (Fayalite ; 2FeO · SiO₂) である。

以上の結果から、当試料は鉄ないし鉄器生産に関連した炉壁片と推定される。また後述するように、分析調査を実施した当遺跡の出土鉄滓の大半が製錬滓に分類される。当試料も製鉄炉壁の小破片の可能性が高い。

OTB-2 : 炉内滓 (製錬滓)

(1) 肉眼観察 : 38gと小型の鉄滓片である。上下面は本来の自然面、側面は全面破面と推測されるが、

風化が激しく判定が難しい。上面表層には、中小の気孔が点在する。各面は光沢の強い黒色で、顆粒状の細かい凹凸が著しい。なお試料全体が非常に強く磁着するため、製鉄原料の砂鉄が溶融・分解して生じた遺物の可能性が考えられる。

(2) 顕微鏡組織：第26図④～⑧に示す。凝集気味に晶出する淡茶褐色多角形結晶は、ウルボスピネル(Ulvospinel: $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)とヘーシナイト(Hercynite: $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$)の固溶体¹⁾である。多角形結晶内には、微細な金属鉄(Metallic Fe)が散在する。⑤⑥は微小金属鉄粒の多数晶出する箇所を示した。

さらに多角形結晶の隙間を埋めるように、粒状結晶が晶出する。ウスタイト(Wustite: FeO)ないしはマグネタイト(Magnetite: Fe_3O_4)、あるいは両者の混晶であろう。ただし当試料は全体に磁着が強く、マグネタイトの割合が高いと推測される。なお反射顕微鏡下でウスタイトは白色、マグネタイトは灰褐色を呈するが、風化の影響が著しく黒ずんだ色に脱色する。

(3) ピッカース断面硬度：第26図④の淡茶褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は741Hvであった。この値から当結晶はウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体に同定される²⁾。

(4) EPMA調査：第30図①の1段目に反射電子像(COMP)を示す。1の番号をつけた粒状結晶の定量分析値は75.0% FeO - 4.0% TiO_2 - 1.5% Al_2O_3 - 1.4% MgO であった。Ti, Al, Mgなどの元素を微量固溶するため、当結晶はマグネタイト(Magnetite: Fe_3O_4)の可能性が高い。また総計が84.4%と減衰した値を示したが、これは風化の影響によるものである。2の淡茶褐色多角形結晶の定量分析値は、64.9% FeO - 27.9% TiO_2 - 5.6% Al_2O_3 - 2.5% MgO - 1.2% V_2O_5 であった。ウルボスピネル(Ulvospinel: $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)に近い組成であるが、ほかにAl, Mg, Vなどを微量固溶する。

また多角形結晶内の微小白色部の定量分析値は145.7% FeO であった。酸化物定量での測定のため、100%を大きく超える値となった。金属鉄(Metallic Fe)に同定される。4の番号をつけた箇所の素地は、砂鉄粒内の脈石(無色鉱物)が溶融したガラス質で、ごく微細なファイヤライトが晶出している。定量分析値は44.9% FeO - 32.3% SiO_2 - 5.4% Al_2O_3 - 7.3% CaO - 4.6% MgO - 2.5% K_2O - 1.4% P_2O_5 - 1.1% TiO_2 - 1.0% MnO で、両者を合わせた測定値となった。さらに5の番号をつけた白色不定形結晶の定量分析値は98.3% FeO - 2.4% TiO_2 - 2.2% MgO であった。マグネタイト(Magnetite: Fe_3O_4)に同定される。さらに少量Ti, Mgが固溶する。

(5) 化学組成分析：第8表に示す。全鉄分(Total Fe) 49.76%に対して、金属鉄(Metallic Fe) < 0.01%、酸化第1鉄(FeO) 47.85%、酸化第2鉄(Fe_2O_3) 17.97%の割合であった。造洋成分($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) 7.82%と低値で、このうち塩基性成分($\text{CaO} + \text{MgO}$)は2.17%である。製鉄原料の砂鉄に由来する二酸化チタン(TiO_2)は22.55%、バナジウム(V)が0.58%と非常に高値であった。また酸化マンガン(MnO)も0.74%と高めである。銅(Cu)は<0.01%と低値であった。

符号	出土位置	遺物名称	分析部位	全鉄分 (Total Fe) (%)	全鉄分 (Metallic Fe) (%)	酸化鉄										造洋成分 (Total Fe) (%)	TiO ₂ 成分							
						酸化第1鉄 (FeO) (%)	酸化第2鉄 (Fe ₂ O ₃) (%)	酸化第3鉄 (Fe ₃ O ₄) (%)	酸化第4鉄 (Fe ₄ O ₅) (%)	酸化第5鉄 (Fe ₅ O ₆) (%)	酸化第6鉄 (Fe ₆ O ₇) (%)	酸化第7鉄 (Fe ₇ O ₈) (%)	酸化第8鉄 (Fe ₈ O ₉) (%)	酸化第9鉄 (Fe ₉ O ₁₀) (%)	酸化第10鉄 (Fe ₁₀ O ₁₁) (%)			酸化第11鉄 (Fe ₁₁ O ₁₂) (%)	酸化第12鉄 (Fe ₁₂ O ₁₃) (%)					
OTB-2	SK1760	中坪洋 (製鉄炉)		49.76	<0.01	47.85	17.97	0.74	4.86	0.09	2.08	0.03	0.02	0.74	22.55	0.24	<0.01	0.26	0.09	0.58	<0.01	7.82	0.157	0.453
OTB-3	SD1	砂定塊 (製鉄炉)		40.97	0.05	43.54	10.12	18.34	7.96	0.96	1.57	0.64	0.15	0.56	12.40	0.07	0.03	0.38	0.25	0.22	<0.01	29.62	0.723	0.303
OTB-4	PH48	炭末塊 (製鉄炉)	12c	40.79	0.18	46.79	2.73	17.71	7.56	1.59	1.58	0.92	0.29	0.81	15.02	0.02	0.06	0.30	0.10	0.10	<0.01	29.59	0.725	0.368
OTB-5	SK1908	製鉄炉内洋		49.19	0.17	28.17	38.78	13.89	0.43	0.54	0.40	0.43	0.20	0.06	0.76	0.02	0.05	0.89	0.52	0.06	<0.01	20.89	0.425	0.015
OTB-6	SK1984	砂内洋 (製鉄炉)		34.43	0.07	36.79	8.24	20.83	10.90	1.44	1.29	0.78	0.21	0.56	11.38	0.02	0.07	1.33	0.30	0.11	<0.01	35.45	1.030	0.327

第8表 供試材の組成

鉱物・化学組成の特徴から、当試料は製鉄工程での派生物に分類される。チタン (TiO₂) 含有量の高い砂鉄が、製鉄炉内で熱を受けて溶融・分解したものの、還元が進まず滓として固化したものと推定される。いわゆるマグネタイト系遺物に近い鉱物相をもつ。

OTB-3：炉底塊（製鉄滓）

(1) 肉眼観察：平面不整多角形状で、441gと大型の鉄滓である。炉底塊（炉内滓）の側面破片と推定される。上下面は試料本来の表面であるが、側面はほぼ破面となる。表面は風化気味で、色調は灰褐色である。全体に磁着は弱い。また上面は凹凸が著しく、最大長さ30mm程の木炭を噛み込む。下面表層灰白色の炉床土が点々と固着する。

(2) 顕微鏡組織：第27図①～⑤に示す。①～③は滓部である。発達した淡茶褐色多角形結晶はウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体で半還元砂鉄粒子の痕跡を止める。さらに淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite: 2FeO・SiO₂) が素地の暗黒色ガラス質滓中に晶出する。砂鉄製鉄滓の晶癖といえる。

また②③の微小明灰色粒は、金属鉄である。さらに黒色点状の凹部は、晶出した微小金属鉄粒が錆化・剥落した痕跡である。

④⑤は滓中に散在する被熱砂鉄粒子を示した。当試料中には同様の被熱砂鉄粒子が多数散在している。灰褐色部は磁鉄鉱 (Magnetite: FeO・Fe₂O₃) で粒内の格子状ないし微細な点状の茶褐色部は、チタン磁鉄鉱³⁾ (Titanomagnetite) と推定される。こうした被熱砂鉄粒子の点在から、当鉄滓もチタン (TiO₂) 含有量の高い砂鉄を製鉄した際の派生物に分類される。さらに⑤のように、暗色の脈石鉱物が内部に散在する砂鉄粒子も多くみられる。

(3) ビッカース断面硬度：第27図①の淡茶褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は717Hvで、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体に同定される。

(4) 化学組成分析：第14表に示す。全鉄分 (Total Fe) 40.97%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.05%、酸化第1鉄 (FeO) 43.54%、酸化第2鉄 (Fe₂O₃) 10.12%の割合であった。炉材や砂鉄中の砂分から供給される造滓成分 (SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O) は29.62%と高値で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は2.53%を含む。製鉄原料の砂鉄に由来する二酸化チタン (TiO₂) は12.40%、バナジウム (V) が0.22%と高値であった。また酸化マンガン (MnO) も0.56%と高めで、銅 (Cu) は<0.01%と低値であった。

当試料は砂鉄に由来するチタン (TiO₂) の影響が強い。また内部に被熱砂鉄粒子を多数残存していて、砂鉄製鉄滓に分類される。

OTB-4：流出溝滓（製鉄滓）

(1) 肉眼観察：平面が不整四角形状で、101gとやや小型の鉄滓片である。偏平な流出溝滓と推測される。ただし外観からは小型の楕円錠治滓の可能性も残る。上下面と側面2面は本来の試料表面で、残る側面2面は直線状の破面である。表層部は風化気味で、色調は灰褐色を呈する。全体に磁着は弱い、一部磁着の強い箇所がある。また表面や破面には中小の気孔が若干散在するが、全体に緻密で重量感のある滓である。

(2) 顕微鏡組織：第27図⑥～⑧に示す。淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライトが素地の暗黒色ガラス質滓中に晶出する。砂鉄製鉄滓の晶癖である。また滓中には微小金属鉄

粒が多数散在する。

(3) **ピッカース断面硬度**：第27図④の淡茶褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は661Hvで、ウルボスピネルに同定される。

(4) **化学組成分析**：第14表に示す。全鉄分 (Total Fe) 40.79% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.18%、酸化第1鉄 (FeO) 49.79%、酸化第2鉄 (Fe₂O₃) 2.73% の割合であった。炉材や砂鉄中の砂分から供給される造滓成分 (SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O) は29.59%と高値で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は3.17%を含む。製鉄原料の砂鉄に由来する二酸化チタン (TiO₂) は15.02%と高値であるが、バナジウム (V) は0.10%とやや低めであった。また酸化マンガン (MnO) は0.81%と高めで、銅 (Cu) が<0.01%と低値であった。

当試料も鉱物・化学組成の特徴から、砂鉄製錬滓に分類される。

OTB-5：梘形鍛冶滓

(1) **肉眼観察**：平面が不整形円形で452gと大型の梘形鍛冶滓である。側面に小さな破面が連続するが、ほぼ完形に近い。試料表面は風化が進んでおり、灰褐色を呈する。上面は比較的平坦で、多数の木炭を噛み込んでいる。木炭は最大で長さ2cm程である。下面は中小の気孔が散在し、微細な凹凸が見られるが、木炭痕は微かである。また、試料全体が強く磁着するが、特殊金属探知機での反応はない。

(2) **顕微鏡組織**：第28図①～⑤に示す。①は滓中の微細な木炭片である。木口面が観察できる破片を提示した。年輪に沿って大導管が並ぶ広葉樹の環孔材である。さらに孔圏外には小導管が多数分布する。また放射組織は単列で目立たない。以上の木炭組織の特徴から、当試料はクリ材の黒炭の可能性が高い。

②③は滓中の錆化鉄部である。垂析組織の痕跡が残っている。素地の灰色部はフェライト、黒色層状部分はパーライトで、炭素含有量は0.2%程度の軟鉄と推定される。

④⑤は滓部である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライトが、素地の暗黒色ガラス質滓中に晶出する。なおウスタイト粒内には、微細な淡褐色の晶出物が点在するが、ヘーシナイトとウルボスピネルの固溶体である。鍛冶滓の晶癖といえる。

(3) **化学組成分析**：第14表に示す。全鉄分 (Total Fe) が49.19%と高値であった。金属鉄 (Metallic Fe) は0.17%、酸化第1鉄 (FeO) 28.17%、酸化第2鉄 (Fe₂O₃) 38.78% の割合であった。造滓成分 (SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O) は20.89%で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は0.94%を含む。製鉄原料の砂鉄に由来する二酸化チタン (TiO₂) は0.76%、バナジウム (V) が0.05%と低値であった。また酸化マンガン (MnO) 0.06%、銅 (Cu) <0.01%も低値である。酸化鉄の割合が高く、砂鉄由来の脈石成分 (TiO₂, V, MnO) が非常に低減した成分系であった。

当試料中には、製鉄原料の砂鉄に含まれるチタン (TiO₂) の影響がほとんどみられなかった。製錬工程で派生する不純物の除去を終えた、鉄器製作の鍛錬鍛冶工程での派生物と推定される。高温沸し鍛接時の排滓である。

OTB-6：炉内滓（製錬滓）

(1) **肉眼観察**：平面は不整形円形で、30gを測るごく小型の鉄滓である。明瞭な破面はなく、滓の地の色調は明灰色を呈する。黒色ガラス質滓部分があり、炉壁周辺で生じた炉内滓ないしは梘形鍛冶滓双方の可能性をもつ。試料表面には不規則な凹凸があり、細かい木炭痕が散在する。また部分的に強い磁性を持

つが、特殊金属探知機での反応はない、全体にやや軽い質感の滓である。

(2) 顕微鏡組織：第28図⑥～⑧に示す。⑥はガラス質滓部分である。被熱砂鉄が複数点在する。またごく微細な金属鉄粒が、未凝集の状態でも多数散在している。

当試料は、広範囲で⑦に示すような淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト組成が確認された。ただし⑧のように白色粒状結晶ウスタイトが晶出する箇所も部分的にみられる。

ガラス質滓の状態から、当試料は製鉄炉の壁際に近い位置で生じた可能性が高い。また部分的にウスタイトが晶出しているため、還元雰囲気はやや弱かったと推測される。

(3) ビッカース断面硬度：第28図⑦⑧中央の晶出物の硬度を測定した。⑦の淡茶褐色多角形結晶の硬度値は623Hvであった。ウルボスピネルに同定される。また⑧の白色粒状結晶の硬度値は511Hvであった。ウスタイトの文献硬度値の上限を若干上回るが、粒内の微小晶出物の影響と推定される。白色の素地部分はウスタイトの可能性が高い。

(4) 化学組成分析：第14表に示す。全鉄分 (Total Fe) 34.43% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.07%、酸化第1鉄 (FeO) 36.79%、酸化第2鉄 (Fe₂O₃) 8.24% の割合であった。また炉材や砂鉄中の砂分から供給される造滓成分 (SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O) は35.45% と非常に高い割合を示した。このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は2.73% である。製鉄原料の砂鉄に由来する二酸化チタン (TiO₂) は11.26% と高値であるが、バナジウム (V) 0.11% とやや低めであった。さらに酸化マンガン (MnO) は0.56% と高めで、銅 (Cu) は<0.01% と低値であった。

当試料は砂鉄に由来するチタン (TiO₂) の影響が強い。また内部に被熱砂鉄粒子が多数確認されるため、砂鉄製錬滓に分類される。

OTB-7：含鉄鉄滓（製錬系）

(1) 肉眼観察：10gと小型で不定形の含鉄鉄滓である。表面は微細な凹凸のある黒褐色の滓部で、部分的に茶褐色の黒錆が広がる。特殊金属探知機のH(○)で反応があり、内部には僅かに金属鉄の遺存している可能性が高い。

(2) 顕微鏡組織：第29図①～③に示す。滓中に散在する微細な灰色部は錆化鉄で砂鉄粒子の痕跡を留める。試料全体に未凝集の微細な鉄部が散在するが、鍛冶原料となり得る品位ではなく、滓として廃棄されている。

また滓中の淡茶褐色多角形結晶はスピネル類の鉱物で、ウルボスピネルとスピネル (Spinel: MgAl₂O₄) を主な端成分とする固溶体である。さらに白色針状結晶イルミナイト (Ilmenite: FeO · TiO₂)、淡褐色片状結晶シュードブルーカイト (Pseudobrookite: Fe₂O₃ · TiO₂) が晶出する。これは砂鉄を高温製錬したときに派生する滓⁴⁾の晶癖である。なお鉱物組成に関しては、EPMA調査の項で詳述する。

(3) ビッカース断面硬度：第29図②③の淡茶褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は②が729Hv、③は767Hvであった。高値傾向がみられるため、ウルボスピネル (Ulvospinel: 2FeO · TiO₂) 組成ではなく、Al、Mgなどさらに硬度を上昇させる元素が固溶していると推測される。

(4) EPMA調査：第30図の2段目に反射電子像 (COMP) を示す。6の番号をつけた素地のガラス質滓の定量分析値は36.9% SiO₂ - 16.6% Al₂O₃ - 12.5% CaO - 4.8% MgO - 3.9% K₂O - 11.5% FeO - 6.8% TiO₂ - 1.4% MnO - 1.2% P₂O₅であった。

7の番号をつけた淡茶褐色多角形結晶の定量分析値は32.1% FeO - 13.4% Al₂O₃ - 13.0% MgO -

30.7% TiO₂ - 4.7% V₂O₅ - 2.4% MnOであった。スピネル類の鉱物であり、ウルボスピネル (Ulvospinel: 2FeO · TiO₂) とスピネル (Spinel: MgAl₂O₄) を主な端成分とする固溶体に同定される。さらにV、Mnも微量固溶している。また8の番号をつけた淡褐色片状結晶の定量分析値は11.4% FeO - 4.1% Al₂O₃ - 8.4% MgO - 75.7% TiO₂ - 1.3% V₂O₅ - 1.1% ZrO₂であった。チタン (TiO₂) の割合が高く、ルチル (Rutile: TiO₂) に近い組成の鉱物といえる。さらに9の番号をつけた白色針状結晶の定量分析値は31.3% FeO - 8.7% MgO - 3.2% MnO - 57.2% TiO₂であった。若干FeをMg、Mnが固溶しているが、イルミナイト (Ilmenite: FeO · TiO₂) に近い組成である。

以上の鉱物組成から、当試料は高温下で派生した砂鉄製錬滓に分類される。また鉄部は砂鉄痕跡を留めた未凝集の微細な鉄粒で、鍛冶原料となり得る品位ではない。むしろ製鉄炉の炉内生成物から、鉄塊を選別する過程で派生した製錬滓の小破片の可能性が考えられる。

OTB-8：鉄塊系遺物

(1) 肉眼観察：歪な球状を呈する、13gと小型の鉄塊系遺物である。表面は薄く黄褐色の酸化土砂で覆われており、微かに黒錆の滲みが見られる。表面には明瞭な滓部の固着はなく、鉄主体 (錆化鉄) の遺物となる。なお特殊金属探知機での反応はなく、鉄部は完全に錆化している。

(2) 顕微鏡組織：第29図④～⑧に示す。当試料は表層に全く滓が固着していない、球状の小鉄塊であった。錆化が進行しており、内部に金属鉄の遺存はなく、金属組織の痕跡が観察された。④～⑥は過共析組織痕跡が残存する個所である。柱状黒色部はセメンタイトが剥落した痕跡である。また⑦⑧は亜共晶組成 (C<4.23%) 白鉄組織の痕跡が残存する個所である。網目状の黒色部はセメンタイト、および錐の巣状のレデブライトが剥落した痕跡である。

当試料は浸炭の進んだ高炭素鋼～鋳鉄組織を呈する小鉄塊であった。純度の高い鍛冶原料鉄 (製錬系鉄塊) であった可能性が高い。

D ま と め

中世に比定される、大坪遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の調査の結果、次の点が明らかになった。

(1) 分析調査を実施した出土鉄滓は、1点を除き製錬滓 (OTB-2～4、6) に分類される。いずれもチタン (TiO₂) 含有率が10%を超えており、製鉄原料は高チタン (TiO₂) 砂鉄 (塩基性砂鉄) と推定される。

第24図は当遺跡から出土した製錬滓の化学組成を、周辺の笹神丘陵 [大坪1981; 穴沢²⁰⁾1992] および金津丘陵 [新津市教育委員会1997; 大坪1998] の製鉄遺跡の分析資料と比較したTiO₂-SiO₂-FeO三角図である。当遺跡の出土製錬滓は、両製鉄遺群の製錬滓とほぼ近似する組成を示しており、周辺地域に賦存する砂鉄が製鉄原料であったと推定される。

ただし製錬滓の出土が、即遺跡内での鉄生産を証明するものではない。大坪遺跡の鉄滓は最大でも500g程の小破片が主体であり、製鉄炉の操業中に排出された炉外流出滓や大型の炉壁片がみられないため、調査地区内で鉄生産を行っていた可能性は低いと考えられる。

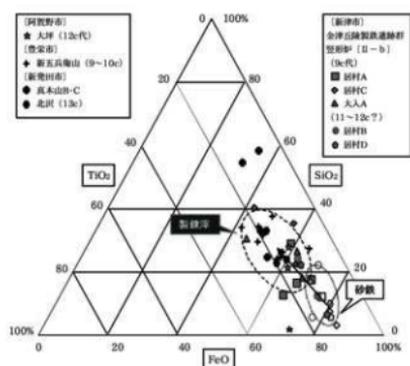
なお周辺地域では丘陵部のみでなく、平野部でも製錬滓が出土する事例がある。豊栄市に所在する新五兵衛山遺跡 [大坪1989・1996] では、やはり製鉄・鍛冶関連遺物双方が出土している。この製鉄関連遺物に関しては、丘陵部の製鉄遺跡から鍛冶原料 (製錬系鉄塊) に混じり搬入されたとする

説と、流動滓（炉外流出滓）が多数出土しているため、時代が下ると平野部でも鉄生産が行なわれた可能性を考える説【大澤 1998】がある。地域の鉄・鉄器生産全体の流れを把握するために、今後平野部の遺跡から出土した鉄生産関連遺物の分析調査事例の蓄積が待たれる。

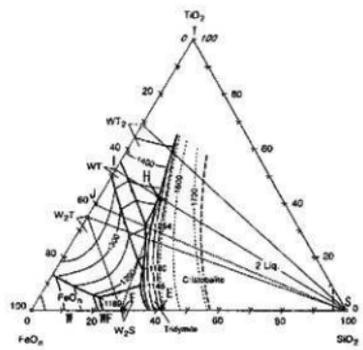
- (2) 含鉄鉄滓（OTB-7）は、製錬滓中に未凝集の微細な鉄粒が多数散在する状態で、鍛冶原料となり得る品位ではなく、滓として廃棄されたものと推定される。鍛冶作業の前作業として、鉄塊に固着する製錬滓を叩き落とした小破片の可能性も考えられる。

鉄塊系遺物（OTB-8）は付着滓のない、歪な小球状の鉄塊であった。鍛冶原料鉄と推定される。また試料全体が錆化していたが、過共析組織～白鉄組織の痕跡が確認された。1点の調査結果を鍛冶原料全般の性状と考えることはできないが、少なくとも一部は浸炭の進んだ高炭素鋼～铸铁が用いられたと推察される。

- (3) 梶形鍛冶滓（OTB-5）は、鉄器製作工程で派生した高温沸し鍛接時の鍛錬鍛冶滓に分類される。調査地区ないしは近接地域で鍛冶作業が行われたことを示す遺物といえる。なお、今回分析調査は実施していないが、調査地区内からは羽口先端付近の小破片も3点程出土している。これらも鍛冶作業に伴う遺物の可能性が高い。



〈化学分析確認文献〉
 大澤正己 1989 「新五兵衛山遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『新五兵衛山遺跡』I 豊田市教育委員会
 大澤正己 1996 「新五兵衛山遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『新五兵衛山遺跡』II 豊田市教育委員会
 大澤正己 1981 「真木山遺跡出土の鉄滓・鉄塊の調査」『真木山製鉄遺跡』豊田町教育委員会
 穴沢義功・藤花慎一郎・田口勇・齋藤智・吉田邦夫・小林祐一・大橋隆雄・木月尚生・今村肇雄・六角康晴 1992 「新潟県北沢遺跡出土製鉄関連遺物の検討」『北沢遺跡群』新潟県豊田町教育委員会
 大澤正己 1998 「金津石炭製鉄遺跡群出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『金津石炭製鉄遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会



〈参考〉TiO₂-SiO₂-FeO 系状態図
 大塚正義「出土物の科学分析手順による製鉄行程の分類」『鉄と鋼』Vol.1 2005

第24図 新潟県下の製鉄・鍛冶遺跡出土鉄滓・製錬滓の化学分析結果

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成 (%)								所見		
						Total Fe	FeOx	塩基性成分	TiO ₂	V	MnO	ガラス質成分	Cu			
OTB-1	SE3651	伊壁片			溶土：ガラス質還元層行、微小金属炭（フエライト）+ 溶出	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	製鉄が初期の小鏡片の可能性が高い
OTB-2	SK1760	伊内洋（製鉄滓）			UとHの固溶体+M、微小金属炭	49.76	17.97	2.17	22.55	0.58	0.74	7.82	<0.01	—	—	砂鉄製錬滓（原料：高チタン(TiO ₂)塩基性砂鉄）
OTB-3	SD1	伊成堀（製鉄滓）			溶熱砂鉄粒子散在、UとHの固溶体+F、微小金属炭（+硫化銅硫化物）散在	40.97	10.12	2.53	12.40	0.22	0.56	29.62	<0.01	—	—	砂鉄製錬滓（原料：塩基性砂鉄）
OTB-4	PS48	流出溝?（製鉄滓）			U+F、微小金属炭散在	40.79	2.73	3.17	15.02	0.10	0.81	29.59	<0.01	—	—	砂鉄製錬滓（原料：塩基性砂鉄）
OTB-5	SE1998	鞍形鍛冶滓	12c		未溶片：広葉網羅孔材、クリ材か、W（粒内微細目とUの固溶体）+ F、硫化鉄部：亜共析組織鉄部	49.19	38.78	0.94	0.76	0.05	0.06	20.89	<0.01	—	—	鍛冶製錬滓（給炭原料：砂鉄）高温焼し鍛冶原料になり得る品位ではない
OTB-6	SK1984	伊内洋（製鉄滓）			ガラス質滓・溶熱砂鉄粒子散在、U+W（粒内微細目とHの固溶体）+ F、微小金属炭（+硫化銅硫化物）散在	34.43	8.24	2.73	11.26	0.11	0.56	35.45	<0.01	—	—	砂鉄製錬滓（原料：塩基性砂鉄）
OTB-7	SD637	含鉄鉄滓（製鉄系）			滓部：UとSの固溶体+I+Ps、微小硫化鉄多数散在	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	砂鉄製錬滓（原料：砂鉄、高温製錬での派生物）鉄部：未鍛冶で鍛冶原料になり得る品位ではない
OTB-8	P1497	鉄塊系遺物			硫化鉄：過共析組織～亜共析組成白鉄組織鉄部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	滓との分離が良好な小鉄塊（鍛冶原料）だが、炭素が過剰な高炭素鋼～鉄炭

F: Fayalite (2FeO · SiO₂), U: Uvospinel (2FeO · TiO₂), H: Hercynite (FeO · Al₂O₃), M: Magnetite (Fe₃O₄), W: Wüstite (FeO)
 S: Spinel (MgAl₂O₄), I: Ilmenite (FeO · TiO₂), P: Pseudobrookite (FeO₂ · TiO₂)

第9表 出土遺物の調査結果のまとめ

- 1) 黒田吉益・諏訪兼位 1983 『偏光顕微鏡と造岩鉱物』第2版 共立出版株式会社 第5章 鉱物各論 D. 尖晶石類・スピネル類 (Spinel Group) の記載に加筆

尖晶石類の化学組成の一般式はXY₂O₄と表記できる。Xは2価の金属イオン、Yは3価の金属イオンである。その組み合わせでいろいろの種類のものがある。(略)

スピネル (Spinel: MgAl₂O₄)、ヘーシナイト [鉄スピネル] (Hercynite: Fe²⁺Al₂O₄)、

マグネタイト [磁鉄鉱] (Magnetite: Fe²⁺Fe³⁺O₄)、クロム磁鉄鉱 (Chromite: Fe²⁺Cr₂O₄)、

マグネシオクロマイト (Magnesiochromite: MgCr₂O₄)、ウルボスピネル (Ulvospinel: TiFe²⁺O₄) またこれを端成分とした固溶体をつくる。

- 2) 日刊工業新聞社 1968 『焼結組織写真および識別法』

ウスタイトは450～500Hv、マグネタイトは500～600Hv、ファイヤライトは600～700Hvの範囲が提示されている。ウルボスピネルの硬度値範囲の明記はないが、マグネタイトにチタン (Ti) を固溶するので、600Hv以上であればウルボスピネルと同等している。それにアルミナ (Al) が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため700Hvを超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。

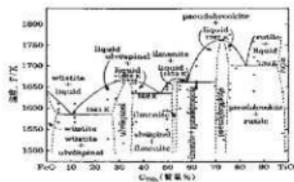
- 3) 前掲注 (1) 第5章 鉱物各論 E. 磁鉄鉱 (Magnetite)

磁鉄鉱は広義のスピネル類に属し、FeO · Fe₂O₃の理想組成をもっているが、多くの場合Tiをかなり多く含んでいる。(略) ウルボスピネル (Ulvospinel: 2FeO · TiO₂) と連続固溶体をつくり、この固溶体の中間組成のものをチタン磁鉄鉱 (Titanomagnetite) とよぶ。

- 4) J.B.Mac chesney and A. Murau : American Mineralogist, 46 (1961), 572

[イルミナイト (Ilmenite: FeO · TiO₂)、ルチル (Rutile :

TiO₂) の晶出はFeO - TiO₂二元平衡状態図から高温化操業が推定される。]

第25図 FeO-TiO₂二元平衡状態図

OTB-1

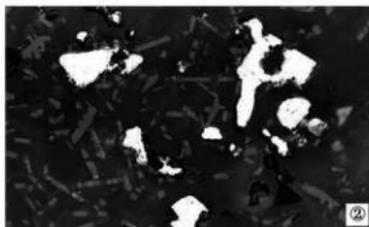
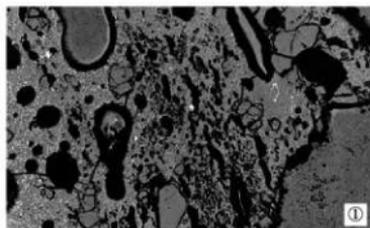
炉壁

①×50 粘土部分、粘土配物
ガラス質化、粘土中の砂鉄粒子
分解・浮化②③×400 暗黒色ガラス質部分
微小金属鉄品出、ナイタルetch
フェライト準相

周囲：ファイヤライト晶出



S = 3/4



OTB-2

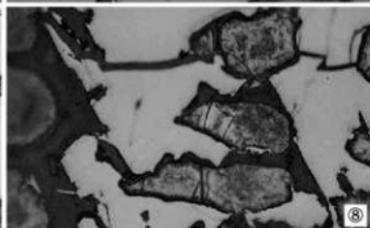
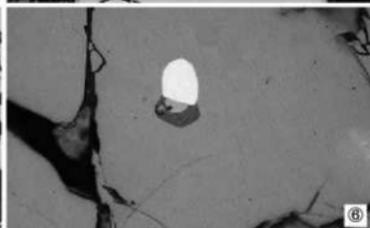
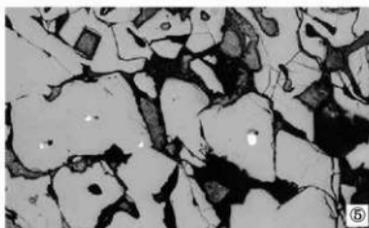
炉内滓 (製煉滓)

④×200 硬度試験：741HV
ウルボスピネルとヘーシタイトの固溶体⑤×100⑥×400 明白色部：微小
金属鉄

ウルボスピネルとヘーシタイトの固溶体・ウスタイト (風化進行)

⑦×100⑧×400 ウルボスピネル
とヘーシタイトの固溶体・ウスタイト

S = 1/1



第26図 炉壁・炉内滓の顕微鏡組織

1 大坪遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査

OTB-3

伊庭塊 (製錬滓)

①×200 硬度圧痕: 7171HV

ウルボスピネルとヘンシナイトの固溶体

体

②×100 ③×400 白色粒: 金属鉄

黒色部: 金属鉄 酸化銅系磁珠

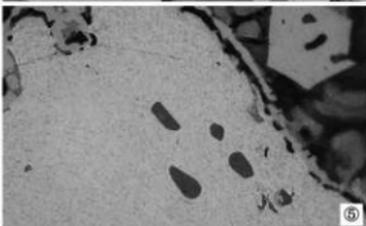
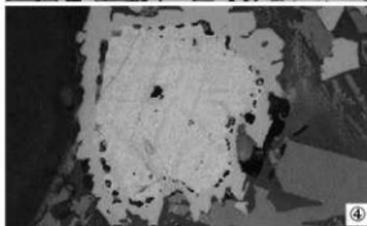
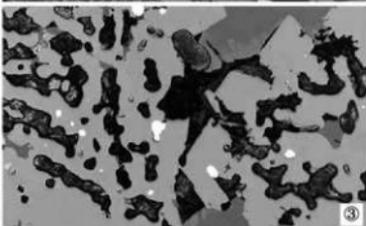
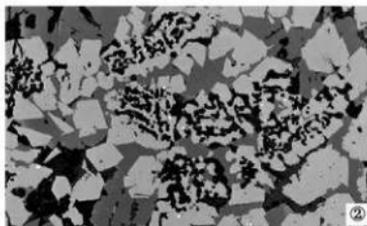
ウルボスピネルとヘンシナイトの固溶体・ファイヤライト

④⑤×400 明色部: 凝結砂鉄

外周部: 消滅・浮化



S = 1/1



OTB-4

流出溝滓 (製錬滓)

⑥×200 硬度圧痕: 6611HV

ウルボスピネル

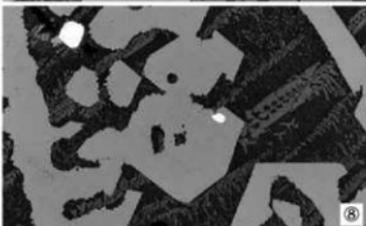
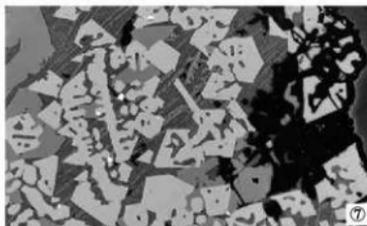
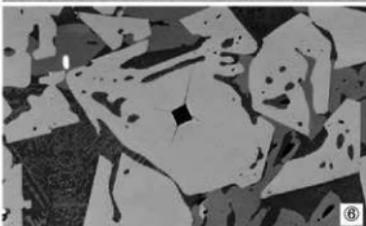
⑦×100 ⑧×400

白色粒: 微小金属鉄

ウルボスピネル・ファイヤライト



S = 2/3



第27図 炉底塊・流出溝滓の顕微鏡組織

OTB-5

極形鏡冶萍

①×50 本鏡片本口面、広葉樹

環孔材、クリ材か

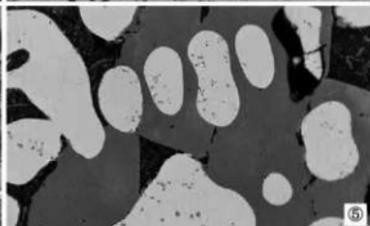
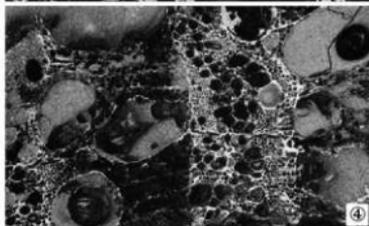
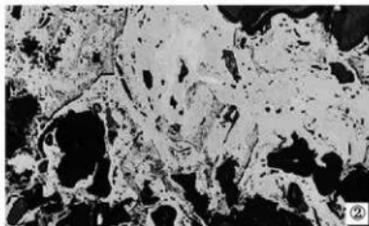
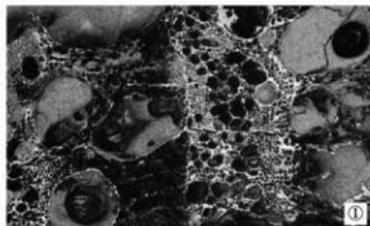
②×100③×400 誘化炭部

亜共析組織炭部

④×100⑤×400 ウスタイト（脱
内微小晶出物）・ファイヤライト



S=1/1



OTB-6

炉内萍（加練萍）

⑥×100 暗黒色ガラス質萍部分

凝結砂鉄粒子

微小金属粒子散在

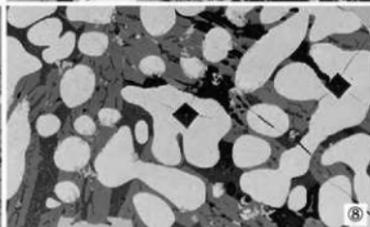
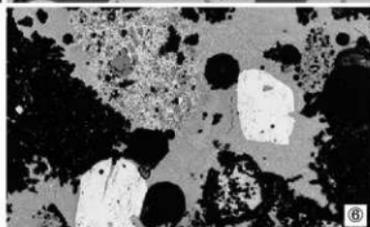
⑦⑧×200 萍部 硬度圧痕：

⑦623Hv、ウルボスピネル

⑧511Hv、ウスタイト（脱内微小晶
出物）+ファイヤライト



S=1/3



第28図 極形鏡冶萍・炉内萍の顕微鏡組織

OTB-7

含鉄鉄滓

①×100 不定形灰色部：錳化鉄
ウルボスピネルとヘンシナイトの固溶体・イルミナイト・シユードブルーカイト

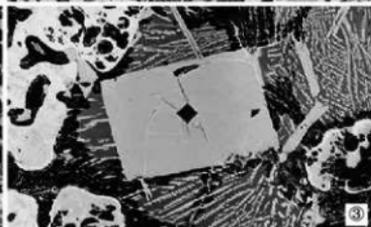
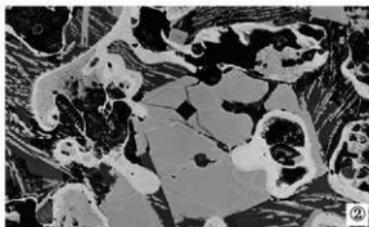
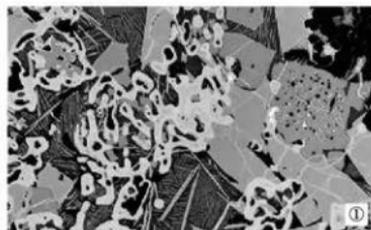
②③×200 硬度直照：

②729Hv、③767Hv

ウルボスピネルとヘンシナイトの固溶体



S = 2/3



OTB-8

鉄塊系遺物

④×100 錳化鉄

透共析組織残跡

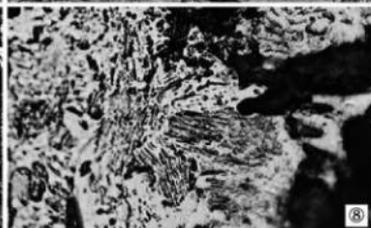
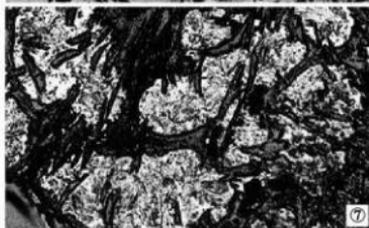
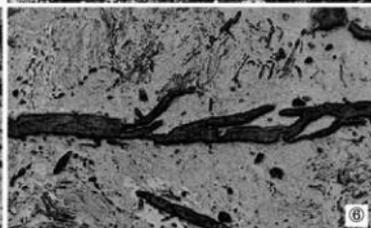
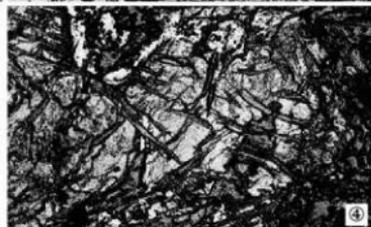
⑤×100⑥×400 同上

⑦×100⑧×400 錳化鉄

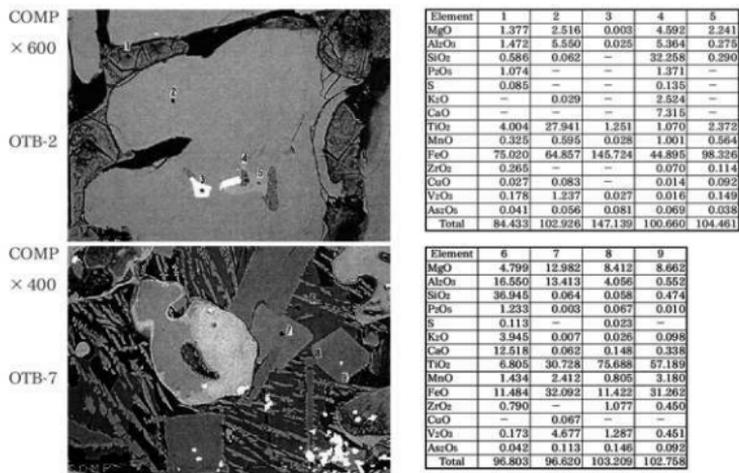
亜共晶組成白鉄組織残跡



S = 1/1



第29図 含鉄鉄滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織



第30図 EPMA調査結果 反射電子像 (COMP) [70%縮小] および定量分析値

参考文献

- 大澤正己 1981 「真木山遺跡出土の鉄滓・鉄塊の調査」「真木山製鉄遺跡」豊浦町教育委員会
- 穴沢義功・藤尾慎一郎・田口勇・齋藤努・吉田邦夫・小林祐一・大橋英雄・永井尚生・今村家雄・吉岡康暢 1992
『新潟県北沢遺跡出土製鉄関連遺物の検討』『北沢遺跡群』新潟県豊浦町教育委員会
- 新津市教育委員会 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』
- 大澤正己 1998 「金津丘陵製鉄遺跡群出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ(分析・考察編)』新津市教育委員会
- 大澤正己 1989 「新新五兵衛山遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『新五兵衛山遺跡Ⅰ』豊栄市教育委員会
- 大澤正己 1996 「新新五兵衛山遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『新五兵衛山遺跡Ⅱ』豊栄市教育委員会

2 大坪遺跡出土漆器の科学分析

四柳 嘉章（漆器文化財科学研究所）

A 分析の方法

漆器は階層や価格に応じた各種の製品が生産され、その品質が考古学的には所有階層復元の手がかりとなる。この品質差を材料や技術的側面から評価する場合、肉眼による表面観察では使用や廃棄後の劣化を含めた表面の塗りや加飾部分でしか判断できず、それも専門的な経験に左右される。しかし漆器本来の耐久・堅牢性は塗装工程にあり、この塗膜の下に隠された情報は、塗膜分析によって引き出される。

塗膜分析は漆器の内外面数箇所から数mmの塗膜片を採取し実体顕微鏡で観察した後、ポリエステル樹脂に包埋後その断面を研削のうえプレパラートに接着し、さらに研削を加えて（#100～3000）金属・偏光顕微鏡で観察する方法である。サンプルである手板試料と比較検討しながら塗装工程や下地材料の同定を行うが、これによって表面観察ではわからない時代的地域的特色や製品の品質が把握できるので、遺跡における所有階層の推定や製品の流通問題にも迫ることができる〔四柳2003〕。塗料及び下地膠着剤の分析は、フーリエ変換赤外分光分析（FT-IR）を行った。

なお、本稿で用いる用語については基本的には漆工用語に従うこととし、意味が曖昧で誤解をまねくものについては、以下のように規定して使用する。

① 黒色漆と黒色系漆

黒色の顔料である炭素粒子（油煙・松煙）や鉄系化合物粒子などを含むものを「黒色漆」、黒色顔料を含まないものを「黒色系漆」として区別する。なぜならば「黒色系漆」においては、黒色顔料を含まずとも漆自体の表層が茶黒色に変質し、さらに下地色を反射して肉眼では黒色に見えるからである。筆者の調査では古代以来こうした方法が一般的と考えられるので、技術や材料科学の上からも両者の区別が必要である。未同定の場合は、はじめに「黒色漆（未同定）」とことわる。内外面とも黒色漆の場合は「総黒色漆」、同じく黒色系は「総黒色系漆」（いわゆる「総黒」は両者を含んだもの）、内面赤色外面黒色は「内赤外黒色漆」、同じく「内赤外黒色系漆」とする。赤色顔料が同定されている場合は「内朱外黒色漆」あるいは「内赤（ベンガラ）外黒色漆」などと呼称する。

② 下地の分類 - 漆下地と洗下地

一般の粗い砥物粒子を用いたものは「地の粉漆下地」、珪藻土使用は「珪藻土漆下地」、より細かい砥の粉類似は「サビ漆下地」、膠使用は「地の粉またはサビ膠下地」、炭粉は漆を用いたものは「炭粉漆下地」、柿渋を用いたものは「炭粉洗下地」とする。

B 分析結果

塗膜分析は1点につき内外面各3点の試料を作成し平均値を算出した。したがって必ずしも図版のスケールとは一致しない。下地の炭粉粒子は下記のように3分類する。

細粒…破碎工程が中粒炭粉より細かく炭粉粒子は均一で、針葉樹などの木口組織を全くとどめないもの。

中粒…炭粉粒子は1～2 μm × 5～10 μm程度の針状粒子と長径5 μm前後の多角形粒子などからなり、針葉樹などの木口組織はごく一部にしか認められないもの。

粗粒…破砕工程が粗く針葉樹などの木口組織を各所にとどめるもの、炭粉粒子は不均一で各種形状のものを含み、長径30 μ m前後の針状ないし棒状粒子を含むことが多い。

以下、木胎(木地)から順に番号(①～)を付けて説明する。分析No.は報告する遺物番号と同じである。

塗膜分析

No.566 (SK453, 第32図)

器形・表面観察 黒色塗膜片。器形不詳。

塗膜分析 片面 木胎に漆が十分しみこんでいる。①塗層。層厚20 μ m前後で、分析片では下地粉は認められない。No.565を参考にすれば、少ない炭粉が分析部分では偶然ひつかからなかったであろう。茶褐色が強く生漆と判断される。②塗層。層厚12～37 μ m前後。表層2～12 μ mが変質。③塗層。層厚50 μ m前後。④塗層。層厚13 μ m前後。表層2 μ mが変質。⑤塗層。層厚17～30 μ m前後。全体が変質。2層に分離した部分もある。

No.565 (SK453, 第32図) : 椀

器形・表面観察 口径18cmほどの総黒色系の椀。塗膜は光沢があり、内外面が残っている。木胎(木地)は腐食している。

塗膜分析 内面①炭粉漆下地層。層厚10～34 μ m。若干の炭粉粒子(中粒)が含まれている。②塗層。層厚9～24 μ m。表層5 μ m前後が変質。③塗層。層厚14 μ m前後。表層1 μ m前後が変質。④塗層。層厚6～10 μ m。表層2 μ mが変質。⑤塗層。層厚12 μ m前後。

外面①炭粉漆下地層。層厚14～110 μ m。炭粉粒子(中粒)が沈殿。表層3 μ m前後が変質。②塗層。層厚14 μ m前後。全体が変質。③塗層。層厚10 μ m前後。表層1 μ m前後が変質。④塗層。層厚24 μ m前後。表層3 μ m前後が変質。⑤塗層。層厚12 μ m前後。表層2 μ mが変質。

No.567～569 (SK456, 第32図) : 皿

器形・表面観察 口径9～10cmの総黒色系皿。6部分に分散しており、大きさの順にNo.567～569の番号が付けられているが、全体に刷毛目痕が著しい特徴から見て同一個体と考えられる。部分的に内外面が遺存している。木胎(木地)は腐食している。なお盤と皿の呼称であるが、古代末期から中世にかけては口径10cm以上は盤、それ以下は皿としておく[四柳1997a]。

塗膜分析 内面①炭粉漆下地層。層厚122 μ m前後。炭粉粒子(中粒)は表層に多い。②塗層。層厚20 μ m前後。表層4 μ m前後が変質。③塗層。層厚20 μ m前後。④塗層。層厚31 μ m前後。表層4 μ mが変質。

外面①炭粉漆下地層。層厚不明。炭粉粒子は中粒。②③塗層。層厚105 μ m前後。層間区分は明確でないが、層厚からいって内面と同じく2層と考えられる。④塗層。層厚14 μ m前後。

No.575a (SK456, 第32図) : 皿

器形・表面観察 口径8～9cm前後の総黒色系皿。部分的に内外面塗膜が残っているが、木胎(木地)は腐食している。No.575bとNo.574にはさまれた位置にある。

塗膜分析 外面①炭粉漆下地層。層厚不明。炭粉粒子は中粒。②塗層。層厚34 μ m前後。③塗層。層厚49 μ m前後。これより上層不明。

No.575b (SK456, 第32図) : 皿

器形・表面観察 同上。

塗膜分析 外面①炭粉漆下地層。層厚不明。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚41 μ m前後。③黒色漆層。層厚29 μ m前後。中粒の炭粉粒子が含まれている。④漆層。層厚25 μ m前後。⑤漆層。層厚12 μ m前後。

No.574 (SK456, 第33図) : 盤

器形・表面観察 No.575a・575bに接して出土したもので、口径18cm前後の黒色系盤。塗膜は茶黒色で、部分的に内外面が確認できるが、木胎は腐食している。

塗膜分析 内面①炭粉漆下地層。層厚不明。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚93 μ m前後。③漆層。層厚24 μ m前後。全体に変質が進行している。④漆層。層厚17 μ m前後。全体に変質が進行している。③④層には若干炭粉粒子が含まれている。

No.579 (SK456, 第33図)

器形・表面観察 茶黒色の塗膜片。器形不詳。

塗膜分析 片面①炭粉漆下地層。層厚不明。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚61 μ m前後。③漆層。層厚36 μ m前後。④漆層。層厚17 μ m前後。

No.577 (SK456, 第33図) : 皿

器形・表面観察 口径9cm前後の茶黒色系皿。漆に付着した木理痕から、ヨコ木(柾目)取りであることが判断できる。

塗膜分析 内面①炭粉漆下地層。層厚不明。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚34 μ m前後。表層5 μ mが変質。③漆層。層厚14 μ m前後。

No.578 (SK456, 第33図) : 皿

器形・表面観察 倒置状態で出土した総黒色系皿。漆に付着した木理痕から、ヨコ木(柾目)取りであることが判断できる。

塗膜分析 内面①炭粉漆下地層。層厚24~147 μ m。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚19~73 μ m。

No.580 (SK2732, 第33図) : 椀

器形・表面観察 長径14cm前後の総黒色系椀。ゆるやかに内湾しながら立ち上がるもので、No.581に比しやや身が浅い。木胎は腐食しているが、塗膜は光沢があり内外面ともに遺存している。

塗膜分析 内面①炭粉漆下地層。層厚10~41 μ m。炭粉粒子は中粒で沈殿している。②漆層。層厚12 μ m前後。③漆層。層厚19 μ m前後。

No.581 (SK2732, 第33図) : 椀

器形・表面観察 No.580と接して出土したもので、口径15cm前後の総黒色系椀。ゆるやかに内湾しながら立ち上がる。塗膜状況はNo.580と同じ。

塗膜分析 外面①炭粉漆下地層。層厚不明。炭粉粒子は中粒でも細粒の方である。②漆層。層厚36 μ m前後。③漆層。層厚20 μ m前後。表層4 μ mが変質。

No.582 (SK2732, 第33図) : 盤

器形・表面観察 口径24cm前後の総黒色系盤。塗膜の黒色発色が良好で光沢がある。

塗膜分析 内面①炭粉漆下地層。層厚80 μ m前後。炭粉粒子は中粒。表層8 μ mが分離。②漆層。層厚30 μ m前後。③漆層。層厚34 μ m前後。表層3 μ m前後が変質。

赤外分光分析

分光学 (Spectroscopy) は「光と物質との相互作用によって生じる光の強度やエネルギー変化を調べる学問」[尾崎1997]と定義され、固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて赤外線照射してゆくと、分子の固有振動と同じ周波数の赤外線が吸収され、分子構造に応じたスペクトルが得られる。このスペクトルから分子構造を解析する方法を赤外線吸収スペクトル法 (Infrared Absorption Spectroscopy) という [山田1998]。

塗膜の分析にはフーリエ変換赤外分光法 (FT-IR) を用いる。赤外光は近赤外 (波数 $14000 \sim 4000 \text{cm}^{-1}$ 、波長 $700 \text{nm} \sim 2.5 \mu\text{m}$)、普通赤外 (波数 $4000 \sim 400 \text{cm}^{-1}$ 、波長 $2.5 \sim 25 \mu\text{m}$)、遠赤外 (波数 $400 \sim 10 \text{cm}^{-1}$ 、波長 $25 \mu\text{m} \sim 1 \text{mm}$) に分けられるが、ここでは通赤外光を用いる。波数は 1cm 当たりの波の数で、振動数を光速度で割ったものであり、波長の逆数である。

FT-IR は普通赤外の場合は波数 $4000 \sim 400 \text{cm}^{-1}$ の光を2つの光束に分割し、1つは固定し (固定鏡)、他方の光路長は可動ミラー (可動鏡) を用いて変化させる。つまり干渉計から位相の異なる光が出るわけで、2つの光束間の距離が変化すると干渉の結果、加え合わさった部分と差し引かれた部分の系列が生ずることによって強度の変化が起こる。すなわち干渉図形が得られる。フーリエ変換という数学的操作を行うと、干渉図形は時間領域から振動数領域のスペクトル点の1つに変換される。ピストンの長さを連続的に変化させ、ミラーBの位置を調節し、光束Bの光路を変化させる。この変化させた各点において、つぎつぎとフーリエ変換を行うと完全な赤外スペクトルが得られる [SILVERSTEIN・WEBSTER1999]。このようにして得られたスペクトルをあらかじめ得られている基準のスペクトルと比較することによって、塗装液の同定ができる。試料は 2mg を採取し KBr (臭化カリウム) 100mg をメノウ鉢で磨り潰して、これを錠剤成形器で加工成形したものを用いた (錠剤法)。測定条件は分解能 4cm^{-1} 、積算回数 16、アボダイゼーション関数 Cosine。第1・2表はその赤外線吸収スペクトル (ノーマライズ) で、縦軸は吸光度 (Abs)、横軸は波数 (カイザー) である (測定機器は日本分光製 FT-IR420)。

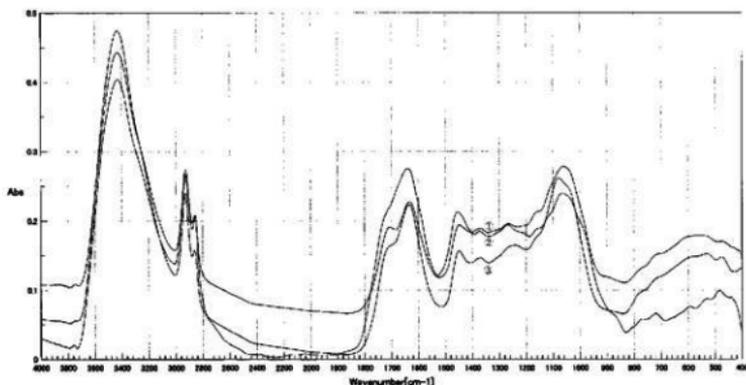
第10・11表は内外面上塗漆塗膜の赤外線吸収スペクトル (ノーマライズ) で、基準データとして黒色漆 (岩手県浄法寺産、1950年代作製) と生漆 (岩手県浄法寺産、1994年作製) の吸収を重ねたものである。全体として 2925cm^{-1} (炭化水素の非対称伸縮振動)、 2850cm^{-1} (炭化水素の対称伸縮振動)、 $1720 \sim 1710 \text{cm}^{-1}$ (カルボニル基)、 $1650 \sim 1630 \text{cm}^{-1}$ (糖タンパク)、 1465cm^{-1} (活性メチレン基)、 $1280 \sim 1270 \text{cm}^{-1}$ (フェノール性OH)、 1050cm^{-1} 前後 (ゴム質) の吸収が認められ、塗膜であることがわかる。第12表 (ノーマライズ) はゴム質の吸収が著しいものを集めた。劣化漆の基準データである新潟県田上町道下遺跡出土の生漆塗膜を重ねることによって、塗膜であると判断される。第13表は下地 (No.566・581) の赤外線吸収スペクトルで、基準データは生漆 (岩手県浄法寺産、1994年作製) である。指紋領域において炭粉の吸収と重なるためブロードな部分もあるが、前述の同定要素と顕微鏡観察所見から漆下地と判断した。

C 小 結

阿賀野川右岸の自然堤防上に営まれた大坪遺跡は、東側外縁が堀で区画された在地有力者の居館跡を含む広大な屋敷地で、白河荘に關係するものと推測されている。遺物には珍しい高麗青磁も含まれており、白磁、土師器などから12世紀前半を中心とした遺物が多い。木棺墓の副葬漆器もゆるやかに内湾する器

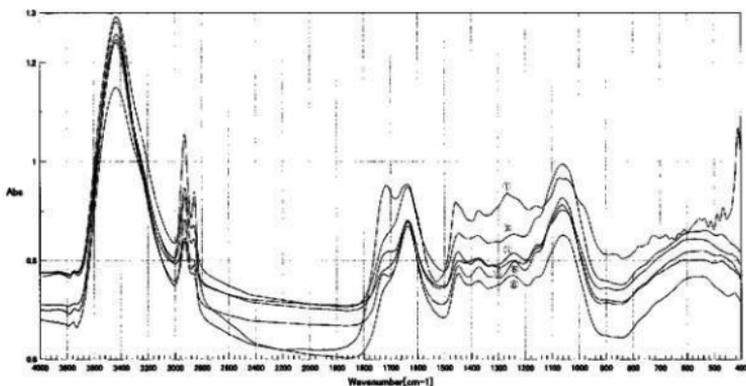
形から見て、11世紀後半～12世紀前半のなかにおさまると考えられる。細部については漆器取り上げ後、高台形態などを参考に決定しなければならないが、保存処理の関係上筆者は実現できなかったので、この点承知願いたい。以下分析結果について若干の所見を付して結びとしたい。

長方形木棺蓋の副葬漆器はSK453が椀、456が盤（大皿）、皿（小皿）、2732は椀と盤の組み合わせで



分解	4cm-1	① No.14 内面
積算回数	16	② 生漆 (1994年作製、若手組浄法寺産)
アポダイゼーション	Cosine	③ No.7 外面

第10表 赤外線吸収スペクトル



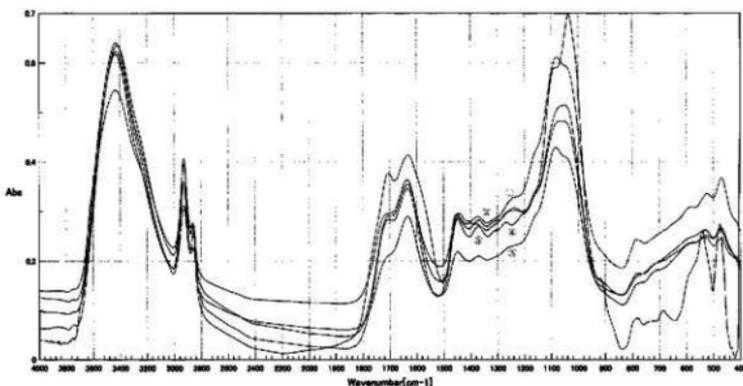
分解	4cm-1	① 上塗漆 (1950年代作製)
積算回数	16	② No.1 内面
アポダイゼーション	Cosine	③ No.13 内面
		④ No.6 外面
		⑤ No.7 内面
		⑥ No.2 外面

第11表 赤外線吸収スペクトル

ある。漆器の大半は使用痕があまりなく良好な状態であることから、生前の常用品ではなく、保管品のなかから副葬品にあてたものではないだろうか。分析によってえられた塗装工程を整理すると以下のようになる。

SK453

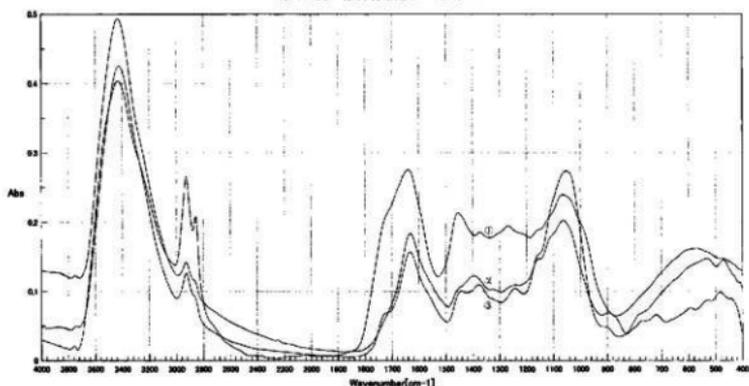
No.566 < (炭粉漆下地) + 漆4層 > 器形不詳



分解 4cm-1
積算回数 16
アボダイゼーション Cosine

- ① No.10内面
- ② No.10外面
- ③ No.11内面
- ④ 新潟県田上町道下遺跡生漆 (10世紀)
- ⑤ No.12内面

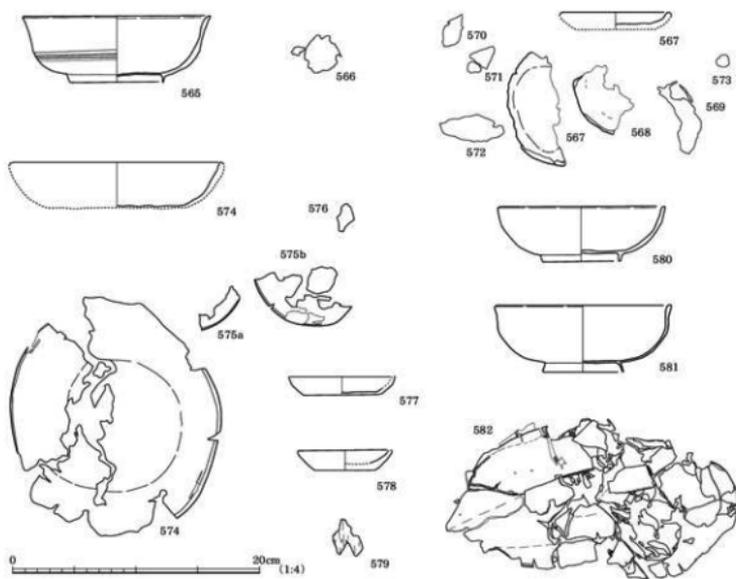
第12表 赤外線吸収スペクトル



分解 4cm-1
積算回数 16
アボダイゼーション Cosine

- ① 生漆 (1994年作製、若手県浄法寺産)
- ② No.1 下地
- ③ No.13 下地

第13表 赤外線吸収スペクトル (下地)



第31図 大坪遺跡出土漆器実測図

No.565<炭粉漆下地+漆4層> 椀

No.566では分析部分において、偶然炭粉が確認されなかったと思われるが、基本的にはNo.565と同じ工程であり、同一個体と判断される。

SK456

No.567～569内外面<炭粉漆下地+漆3層> 皿

No.575a<炭粉漆下地+漆2層+?> 皿

No.575b外面<炭粉漆下地+漆4層(うち1層は黒色漆層)> 皿

No.574内面<炭粉漆下地+漆3層> 盤

No.579<炭粉漆下地+漆3層>。器形?

No.577内面<炭粉漆下地+漆2層> 皿

No.578内面<炭粉漆下地+漆2層> 皿

以上のうちNo.567～569は内外面が炭粉漆下地+漆3層の同一工程で、同一個体と思われる。No.574・579は炭粉漆下地+漆3層の同一工程で、これも同一個体の可能性が高い。No.577・578は炭粉漆下地+漆2層の同一工程で、器形も皿だが、No.578は完形に近いので別個体。No.575bは炭粉漆下地+漆4層で、うち中塗が黒色漆層の良品である。

SK2732

No.580内面<炭粉漆下地+漆2層> 椀

No.581 外面<炭粉漆下地+漆2層> 椀

No.582 内面<炭粉漆下地+漆2層> 盤

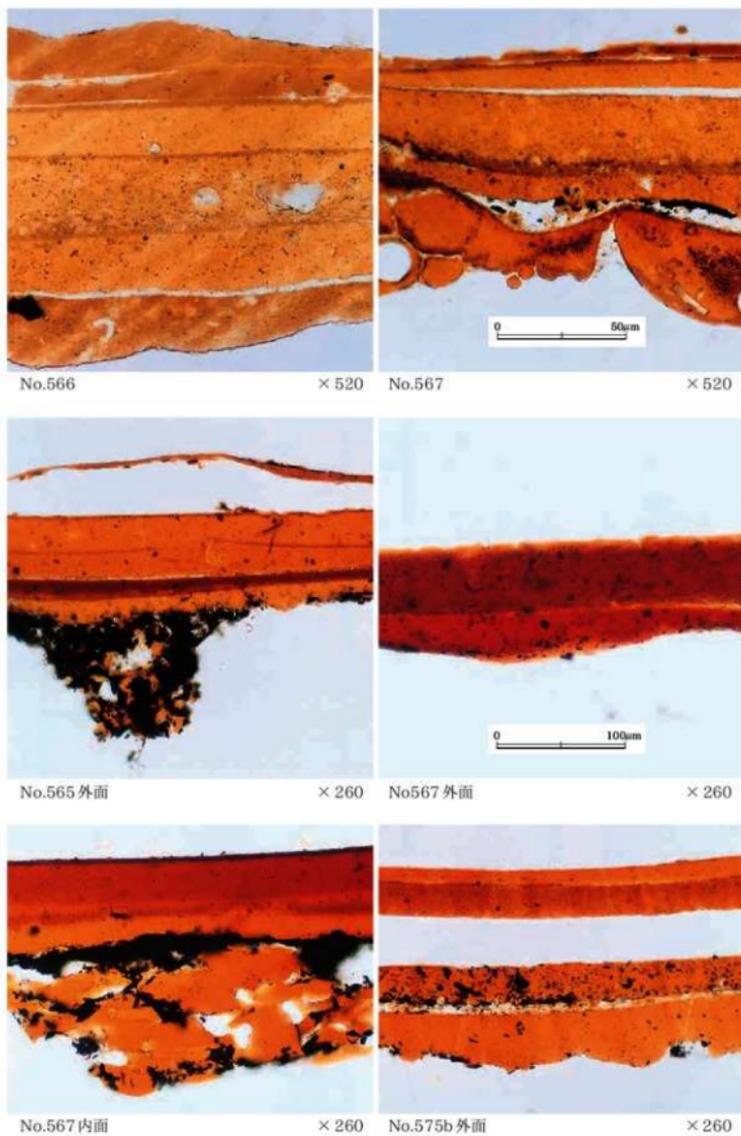
ここでは器形を問わず、すべて簡素な同一工程。

全体を通じて、下地は炭粉粒子に生漆を混ぜた炭粉漆下地で、より上質の地の粉（鉱物粒子）漆下地や柿渋を用いた普及品の漆下地例は確認できなかった。SK2732とSK456のNo.577・578が簡素な塗装工程である。SK453は炭粉漆下地+漆4層の良品であり、SK456のNo.575bは炭粉漆下地+漆4層で、中塗りに黒色漆層を用いた最も良品である。古代以降中塗りに黒色顔料を用いるのは、発色を良くする常套手段であり、顔料には油煙や松煙を用いている。だがここではそれらよりはるかに粗い炭粉粒子を用いている。油煙・松煙の煤が入りできなかったのか、今後の検討課題である。

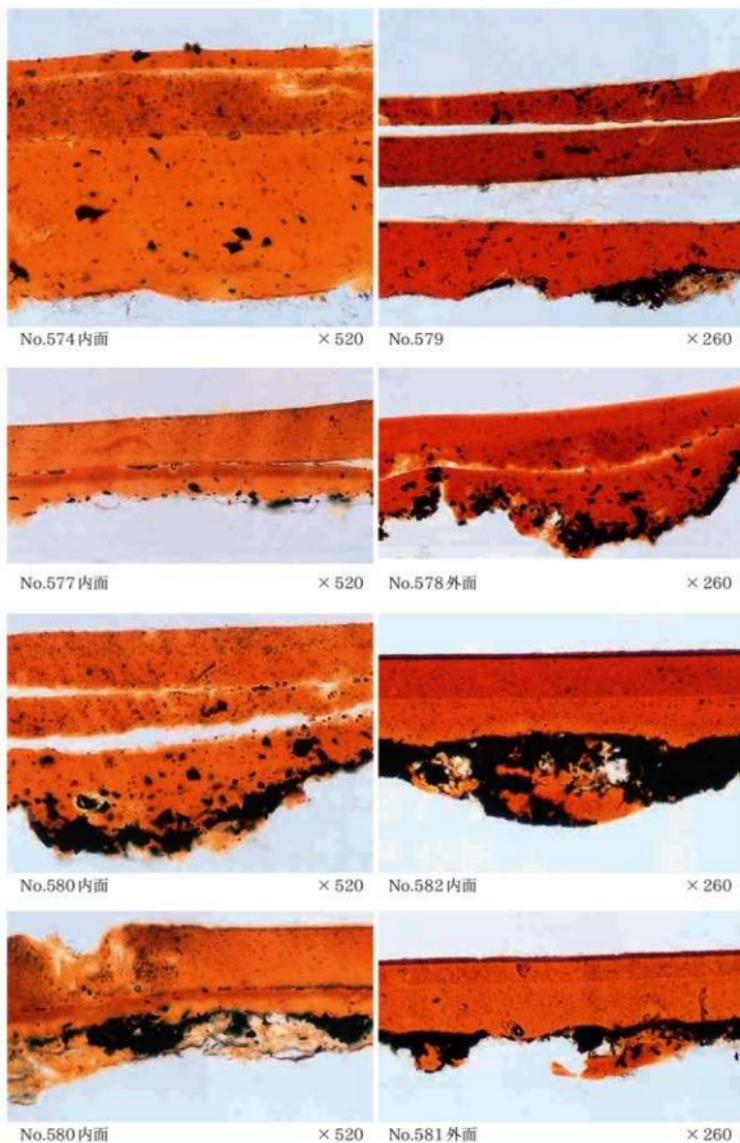
なお、長方形木棺墓は平安時代前期では畿内に分布の中心があり、漆器が副葬された例として奈良県天理市岩屋谷古墓〔山内1988〕、同高市郡明日香村平古墓の漆箱〔奈良国立文化財研究所1978〕、平安京右京三条三坊十町地区の木棺墓（SX46、9世紀）などが知られている。後者の棺内には、副葬品として北隅に「漆皮の折敷」（漆革箱か）とその上に漆器合子・皿、毛抜き、串状木製品、墨、玉2個が、中央やや北東寄りに銅鏡、南寄りに黒色土器椀、棺蓋上に土師器2枚が置かれていた〔平尾・山口ほか1990〕。中世に入ると楕円形や方形の土坑と配石（石組）墓に漆器を副葬する例が増加する。東北では中世前期から南北朝の間におさまる仙台市王ノ壇遺跡の例がある。王ノ壇遺跡の長方形木棺墓副葬漆器椀は、炭粉漆下地+漆3層で、大坪遺跡と同じ塗装工程であった〔四柳2002〕。しかし11世紀後半～12世紀前半の日本海側北部において、ほぼ漆塗膜が残る副葬漆器の全体像が知られる事例は大坪遺跡が初例であろう。石川県加賀市田尻シンバイダシ遺跡において、村落上層クラスの墓と考えられている01土坑墓（12世紀中葉）の副葬品は、白磁碗1・漆椀1・漆皿2・土師器2・箸3である。該期の食器セットをうかがう好例でもあるが、漆器はすべて漆下地であった〔四柳1997b〕。つまり、11～12世紀は漆下地から漆下地へ転換しはじめるころであるが、ここではすべて炭粉漆下地漆器の良品が副葬されていた。阿賀北地域周辺では、胎内市（旧中条町）の各種出土例をみても漆下地が中世においても盛行している。漆が豊富な地域でこそその特色、あるいは階層による差がそこに現れている。

引用文献

- 四柳嘉章 2003 「考古資料の修復と文化財科学—福井県家久遺跡・櫻塚墓出土漆器の事例から」『國學院大學博物館学紀要』第27号 國學院大學博物館学研究室
- 四柳嘉章 1997a 「輪島市釜屋谷B遺跡出土の古代漆器—古代漆器生産と出土遺跡の性格をめぐって—」『輪島市釜屋谷B遺跡』石川県輪島市教育委員会（盤と皿の区分については当文献の「木盤と漆盤の法量について」参照）
- 尾崎幸洋 1997 『分光学への招待』産業図書
- 山田富貴子 1998 「赤外線吸収スペクトル法」『機器分析のてびき』化学同人
- SILVERSTEIN・WEBSTER、荒木峻・益子洋一郎^訳 1999 『有機化合物のスペクトルによる同定法—MS、IR、NMRの併用第6版』東京化学同人
- 山内紀嗣 1988 「天理市岩屋谷の古墓をめぐって」『天理大学学報』第157輯
- 奈良国立文化財研究所 1978 「平古遺跡の調査」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』8
- 平尾政幸・山口 眞^訳 1990 『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所
- 四柳嘉章 2002 「仙台市王ノ壇遺跡出土漆器の塗膜分析」『王ノ壇遺跡』宮城県仙台市教育委員会
- 四柳嘉章編 1997b 『北陸の漆器考古学—中世とその前後—』北陸中世土器研究会



第32図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真(1)



第33图 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真(2)

3 大坪遺跡出土木製品の樹種

三村 昌史 (株式会社パレオ・ラボ)

A はじめに

大坪遺跡出土材のうち、計67点の樹種同定結果を報告する。分析対象とした出土材には掘立柱建物やビット出土の柱根が計34点、SD1から出土した橋脚の可能性のある柱根が5点と自然木1点、SK453木棺墓の木棺が2点、そのほかSE3794、SE3938、SD1、SE1322、SE4375、SE3683、SE4037、SK453の各遺構から出土した曲物底板、板材、棒状、柄、杭などの木製品が37点含まれる。

ここでは、これら出土材の樹種同定を行うことで、性格の異なる器種毎の用材傾向を明らかにし、用材選択の背景にある材質をはじめとした木材特性と製作・使用法との関連性について調査を行った。

B 試料と方法

出土木製品から直接、肉眼視できる組織や木取り等を確認しながら横断面・放射断面・接線断面の3断面を切り取り、ガムクロラール(抱水クロラール50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50ml)の割合で調整した混合液)で封入してプレパラートを作成した。検鏡は光学顕微鏡にて40~400倍で行い、現生標本との対照により同定を行った。同定後のプレパラートは比較参照にじられるように標本番号を付して保管した(NIG-507~573)。

C 結果および考察

樹種同定結果の一覧を第14・15表に示す。

次に、器種別に用材の傾向と選択の背景について考察を加えていく(第16・17・18表)。

1) 柱根等の用材

柱根の用材をみてみると(第16表)、ビット出土の34点中25点をクリが占め、またSD1の橋脚の可能性のある柱根5点にもすべてクリが見出されている。クリは全国各地で柱材の用材にしばしば見出される樹種で、硬く丈夫な上に腐り難い特徴があり、ことさら嗜好されて用いられたのであろう。県内では、古代~中世における掘立柱建物の柱材にクリがよく用いられていることが明らかになっており【川村1983；パリオ・サーヴェイ株式会社1997、2002；松葉2001；三村・植田2003】、時代的・地域的にも一定の用材傾向があったことが窺える。クリ以外で見出されているのはスギ、コナラ属、モクレン属、サクラ属、イヌエンジュ、カエデ属、エゴノキ属といった材で、全体として丈夫な部類の材が多く用いられており、材質に配慮した選択がなされているといえる。ただ、モクレン属の材はあまり丈夫とはいえない材であるが、モクレン属のなかにはホオノキなど非常に通直な伸長をする樹種があるので、モクレン属材の使用の背景には柱材に適するような通直で適度な径長の材が得やすかったなど、材質以外の要因があるのであろう。木取りでみると、スギやクリには芯持丸木を用いたもの以外に削り出して整形したものが認められ、これらの材が割裂・加工容易であることを反映した器形がとられている。なお、建物毎に柱材の用材に着目してみると(第17表)、複数点あるものはSB7とSB37のみであるが、これを見る限り同一

保管No.	樹種同定No.	地区	グリッド	遺構種類	遺構No.	部種	樹種	木取り	サイズ (cm)	実測	AMS
NIG-507	1	C	3G3	P	2660	SD1	柱根	クリ	板口	100 × 11.5 × 9.3	○
NIG-508	2	C	4D25	P	390	SB7	柱根	スギ	削出丸木	21 × 8.3 × 5	△
NIG-509	3	C	4E24	P	190	SB6	柱根	カエデ属	芯持丸木	44 × 9.5 × 8	○
NIG-510	4	C	5D6	P	278	SB7	柱根	スギ	板口	19 × 9.5 × 3.5	○ ●
NIG-511	5	C	6D15	P	554	SB20	柱根	モクレン属	芯持丸木?	28 × 5.5 × 2.5	△
NIG-512	6	C	6D22	P	510	SB18	柱根	サクラ属	芯持丸木	20.5 × 5.5 × 6.3	△
NIG-513	7	C	6D25	P	803		柱根	イヌエンジュ	芯持丸木	41 × 8 × 8.5	○
NIG-514	8	C	6E10	P	601		柱根	エゴノキ属	芯持丸木	29.5 × 9.5 × 7	○
NIG-515	9	C	7D3	P	2027		柱根	クリ	芯持丸木	27 × 10.5 × 6.5	△
NIG-516	10	C	8C23	P	686		柱根	クリ	芯持丸木	23 × 8.5 × 7	△
NIG-517	11	C	8C24	P	1761	SB5	柱根	クリ	芯持丸木	50 × 8.5 × 9.3	○ ●
NIG-518	12	C	8C25	P	683		柱根	クリ	芯持丸木	24 × 7 × 6	△
NIG-519	13	C	8D4	P	458		柱根	クリ	芯持丸木	19 × 14 × 11	○
NIG-520	14	C	8D5	P	900		柱根	クリ	芯持丸木	34.5 × 11.5 × 8	○
NIG-521	15	C	8D5	P	966		柱根	コナラ節	芯持丸木	30 × 5.5 × 5	△
NIG-522	16	C	8E5	P	1796		柱根	クリ	みかん節	66.5 × 12.5 × 11	○
NIG-523	17	C	9B25	P	4623	SB27	柱根	クリ	芯持丸木	33 × 10 × 9	△
NIG-524	18	C	9D1	P	459		柱根	クリ	芯持丸木	24 × 9 × 7.5	△
NIG-525	19	C	11D2	P	2659		柱根	クリ	芯持丸木	28 × 8.5 × 9	○
NIG-526	20	C	11D24	P	2008		柱根	クリ	芯持丸木	25.5 × 9.5 × 10	△
NIG-527	21	C	12C8	P	2235		柱根	クリ	削出	28 × 9.5 × 6.5	△
NIG-528	22	C	12C8	P	2236		柱根	クリ	芯持丸木	24 × 13 × 12	○
NIG-529	23	C	12C16	P	2704		柱根	クリ	削出丸木?	23 × 13 × 9	○
NIG-530	24	C	12D12	P	2353		柱根	クリ	削出丸木	34 × 9.5 × 6	△
NIG-531	25	C	12E7	P	2086		柱根	クリ	芯持丸木	11.5 × 7.5 × 6	△
NIG-532	26	C	13D23	P	2428		柱根	スギ	削出	23.5 × 11 × 6.7	△
NIG-533	27	B	14C20	P	3279		柱根	クリ	芯持丸木	49 × 8 × 8.5	○
NIG-534	28	C	14C21	P	2462		柱根	クリ	芯持丸木	20.3 × 7.5 × 8.5	△
NIG-535	29	C	14D4	P	3337	SB38	柱根	クリ	芯持丸木	17.5 × 9.5 × 8	○
NIG-536	30	C	15C16	P	3286	SB38	柱根	クリ	芯持丸木	44 × 10 × 8.5	△
NIG-537	31	B	15D1	P	3336	SB38	柱根	クリ	芯持丸木	41 × 10 × 8.5	○ ●
NIG-538	32	B	15D2	P	3335	SB38	柱根	クリ	芯持丸木	41 × 10 × 8.5	△
NIG-539	33	A	19C23-3	P	3122	SB40	柱根	クリ	芯持丸木	27 × 10.5 × 6.5	△
NIG-540	34	A	20D24	P	4480	SB53	柱根	クリ	芯持丸木	17 × 4.5 × 3.5	△
NIG-541	35	B	26F9	P	4028		柱根	クリ	板口	41 × 9 × 8	○
NIG-542	36	B	26F2	P	4024	SD1	柱根	クリ	板口	○	●
NIG-543	37	B	26F7	P	4025	SD1	柱根	クリ	みかん節	○	○
NIG-544	38	B	26F2	P	4026	SD1	柱根	クリ	板口	○	○
NIG-545	39	B	26F7	P	4027	SD1	柱根	クリ	板口	○	○
NIG-546	40	B	28D1	SD	1		自然木	ハンノキ属属	芯持丸木	○	○

第14表 柱根の樹種同定結果

保管No.	分析番号	地区	グリッド	遺構種類	遺構No.	階位	取り上げNo.	部種	樹種	木取り	サイズ (cm)	実測
NIG-547	1	D	-1E6-4	SD	1	7d		榍状	スギ	削出		○
NIG-548	27	C	7D9	SK	453	14		靴、上の靴	スギ	板口	69.5 × 4 × 0.3	○
NIG-549	26	C	7D9	SK	453	14		靴、下の靴	スギ	板口	66 × 1.5 × 0.6	○
NIG-550	2	C	9B24	SK	1322	7	1	板材	スギ	板口	34.8 × 10 × 0.8	○
NIG-551	3	C	9B24	SK	1322	14	3	榍状	アスナロ	削出		○
NIG-552	4	A	17B11	P	3236	1		板材	スギ	板口		○
NIG-553	5	A	20C10	SE	3794	1		側板	スギ	板口		○
NIG-554	6	A	20C9	SE	3794	7	1	曲物底板	スギ	板口	27.5 × 12.5 × 0.4	○
NIG-555	7	A	20C9	SE	3794	7		榍状	スギ	削出	21.5 × 0.5 × 0.5	○
NIG-556	8	A	20C9	SE	3794	6	8	板材	スギ	板口	25 × 7 × 0.5 × 7	○
NIG-557	9	A	20C9	SE	3794	6	8	榍状	スギ	削出	19 × 0.5 × 0.4	○
NIG-558	10	A	20C9	SE	3794	6	9	板材	スギ	板口	15 × 6 × 0.3	○
NIG-559	11	A	21B1	SK	4375	3		曲物底板	スギ	板口		○
NIG-560	12	C	22E24	SK	3683	7	60	新 樹皮付	エゴノキ属	芯持丸木・樹皮付	32 × 2 × 2	○
NIG-561	13	C	22E24	SK	3683	7	73	板材	スギ	板口		○
NIG-562	14	C	22E24	SK	3683	7	75	加工材	スギ	板口	13 × 6.5 × 0.8	○
NIG-563	15	C	22E24	SK	3683	7	78	板破片	スギ	板口		○
NIG-564	16	A	26D17	SE	3938	5		不明木製品	スギ	板口	7 × 2 × 0.7	○
NIG-565	17	A	26D23	SE	3938	5		榍状	クリ	板口	12.5 × 2.5 × 1.5	○
NIG-566	18	A	26D23	SE	3938	5		榍状	アスナロ	板口	12 × 2 × 2	○
NIG-567	19	A	26D23	SE	3938	5		榍状	アスナロ	板口	4 × 0.5 × 0.5	○
NIG-568	20	B	26E25	SK	4037	13		榍状	スギ	板口		○
NIG-569	21	B	26E25	SK	4037	18	57	杭	クリ	芯持丸木・樹皮付		○
NIG-570	22	B	26E25	SK	4037	41		榍状	スギ	削出		○
NIG-571	23	B	26E25	SK	4037	44		杭	クリ	芯持丸木・樹皮付		○
NIG-572	24	B	27F24	SD	1	14		曲物底板	スギ	板口		○
NIG-573	25	B	28F1	SD	1	14		加工材	杭	クリ	みかん節	○

第15表 木製品の樹種同定結果

の建物には同一の樹種が用いられているようである。

また、SD1出土の自然木はハンノキ亜属であった(第16表)。この自然木は根株状であり、現地性は高いと類推される。ハンノキ亜属には湿った立地に生育するものが多いので、周囲の環境と整合的な結果であるといえる。

	樹種/器種	柱	自然木	計
針葉樹	スギ	3	—	3
	ハンノキ亜属	—	1	1
広葉樹	クリ	30	—	30
	コナラ	1	—	1
	モクレン属	1	—	1
	サクラ属	1	—	1
	イヌエンジュ	1	—	1
	カエデ属	1	—	1
	エゴノキ属	1	—	1
計		39	1	40

第16表 柱根の用材

2) 木製品の用材

木製品類では、曲物底板、木棺、板材、箸状、棒状といった、板材や割材から製作される製品にスギが幅広く用いられている(第18表)。スギのような針葉樹は、無限幹とも称されるように主幹を真直ぐに伸張させる特性がある。したがって材も通直であり、

樹種/建物	SB5	SB6	SB7	SB18	SB20	SB27	SB38	SB40	SB53	計
針葉樹	スギ	—	—	2	—	—	—	—	—	2
	クリ	1	—	—	—	1	4	1	1	8
広葉樹	モクレン属	—	—	—	1	—	—	—	—	1
	サクラ属	—	—	—	1	—	—	—	—	1
	カエデ属	—	1	—	—	—	—	—	—	1
計	1	1	2	1	1	1	4	1	1	13

第17表 建物毎にみた掘立柱建物柱材の用材

樹種/器種	杭	木棺	曲物底板	箸状	板材	柄	板材/板状	棒状	計
針葉樹	スギ	—	2	3	1	1	—	8	4
	アスナロ	—	—	—	1	—	—	—	2
広葉樹	クリ	3	—	—	—	—	—	—	1
	エゴノキ属	—	—	—	—	1	—	—	1
計	3	2	3	2	1	1	8	7	27

第18表 器種別にみた木製品の用材

また木理も通直で割裂性が大きいことから原木から材を割り出すのに都合よく、加えて切り削り加工も容易であることから、このような板材、割材を利用した製品に多用されたのであろう。今回同時に実施されている花粉分析結果によれば、遺跡近辺は樹木の少ない開けた環境であったが、遺跡周辺の丘陵などにはスギが普通にみられたことが確認されており、木材資源としても豊富であったとみられる。そのほかの製品では、箸状、棒状にスギと同様の木材特性を持つアスナロの材が見出されている。

杭にはSE4037出土のものが2点、SD1出土のものが1点あり、いずれにもクリが用いられている。SE4037の杭は芯持丸木材であるが、SD1の杭はみかん割材を利用したもので、柱材にみられたようにクリ材の割裂性が生かされている。

柄にはエゴノキ属の材が用いられている。エゴノキ属の材は韧性があつて丈夫であるので、柄としての使用に耐え得るよう材質に着目した選択がなされたのであろう。

D まとめ

以上のように、柱材には主に使用の面から堅強な広葉樹材が多く用いられ、また曲物底板、箸状、棒状、木棺などの木製品には、製作の面から割裂容易な針葉樹材がそれぞれ用いられており、各器種の器形・法量や製作法などに応じて樹種が使分けられていたことが明らかになった。用材の中心となっているのが柱材・桁材に多用されていたクリ、板材状の製品に多用されていたスギで、特にスギは柱材としても用いられるなど幅広く利用されているのが特徴的である。また、新潟県内では分布の限られるアスナロ(ヒノキアスナロ)の材が見出されている事は注目され、在地のものではない可能性も想定される。

E 見出された樹種

樹種同定の結果を第14・15表に示す。67点の出土材には10分類群の樹種が見出され、内訳は針葉樹が2分類群(スギ、アスナロ)、広葉樹が8分類群(ハンノキ亜属、クリ、コナラ属コナラ節、モクレン属、サ

クラ風、イヌエンジュ、カエデ風、エゴノキ風)であった。これら見出された樹種の木材組織の特徴等は以下の通りである。

1. スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科 第34図1a-1c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部は量多く明瞭。分野壁孔はスギ型で大きく、1分野にふつう2個。

スギは高木になる常緑針葉樹で、天然分布は年間降水量の多い地域に限られ、日本海側などにはまとまった分布域が多い。新潟県には天然分布とされる地域も多く、また花粉分析からは各地でスギが古くから普通にみられたことが明らかになってきている。生育地は湿地周辺や谷部、尾根沿いなど幅広く、低地から比較的高標高のブナ林までみられる。材は通直で軽軟、保存性は中庸、適度な強度があり割裂性・加工性に優れる。

2. アスナロ *Thujaopsis dolabrata* Sieb. et Zucc. ヒノキ科 第34図2a-2c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部はしばしば量多い。分野壁孔はヒノキ型で小さく、ふつう孔口はごく狭く、1分野に2~4個。放射組織には内容物が多い。

アスナロは主に温帯に分布する高木になる常緑針葉樹である。変種に本州北部~北海道西南部に分布するヒノキアスナロがあり、新潟県での生育地は佐渡に多く、また上川村などのごく一部の山域に点在している。材は通直、軽軟で割裂・加工容易。耐久性は良好で水湿に強い。

3. ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* subgen. *Alnus* カバノキ科 第34図3a-3c

小型で放射方向に伸びたやや角ばった道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して分布する散孔材。道管の穿孔は階段状で20本程度。放射組織は単列同性でしばしば複合状のものも交える。

ハンノキ亜属には湿地内や河川の湿潤地にみられるハンノキ、崩壊の起る上流部の溪畔や山中の適湿地にみられるヤマハンノキなどが含まれる。いずれも温帯~暖温帯に分布し高木になる落葉広葉樹で、しばしば群生する。材質は種によって若干異なるが、硬さ・重さ・保存性などの性質は概して中庸である。

4. クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 第34図4a-4c

年輪の始めに大型で丸い道管が単独で1~2列に並び、晩材部では小型でやや角張った薄壁の道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。

クリは主に温帯下部・暖温帯に広く分布する落葉広葉樹で、明るい林内や向陽地に多くみられる。材質は重硬で弾性に富み、割裂は容易、対朽性が高い。

5. コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 第34図5a-5c

年輪の始めに大型の丸い道管が単独で1~2列に並び、晩材部では小型でやや角張った道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性のものに大型の広放射組織が混在する。

いわゆるナラ類の材で、高木の落葉広葉樹であるコナラ、ミズナラ、カシワ、ナラガシワが含まれる。このうちコナラは温帯下部~暖温帯に、ミズナラは温帯にそれぞれ分布し、優占した林を形成する。現在新潟県内にはコナラやミズナラが平地部から普通にみられ、カシワやナラガシワが海岸部に近い地域に点在して分布している。材は重硬で弾性を有し、保存性は中庸、割裂・加工は困難である。

6. モクレン属 *Magnolia* モクレン科 第34図6a-6c

やや小型の放射方向に伸びた丸い道管が単独あるいは数個1~2個複合してやや密に分布する散孔材。道管の穿孔は単一で、道管相互の壁孔は階段状。放射組織は同性に近い異性で1~3列。

モクレン属には林内に生育する高木性の落葉広葉樹であるホオノキ、山地の緩斜面に多い落葉低木のタ

ムシバなどが含まれる。材は軽軟で均質、加工・切削は容易である。

7. サクラ属 *Prunus*バラ科 第34図7a-7c

小型で丸い道管が単独あるいは1~数個放射方向を中心に複合して、放射方向および斜上状に連なって分布する散孔材。道管の穿孔は単一で、内腔には着色物質が詰まり、らせん肥厚が認められる。放射組織は異性で1~3列程度。

サクラ属には多くの種が含まれ、その多くが落葉樹で高木になる。分布は様々で、現在新潟県にはウヰミズザクラ・オクチョウジザクラ・ヤマザクラ・カスミザクラなどが分布している。材は重さ・硬さが中庸~やや強硬で韧性があり、均質で加工は困難でない。

8. イスエンジュ *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. subsp. *buergeri* (Maxim.) Kitamura マメ科 第34図8a-8c

年輪の始めにやや大型で丸く圧壁の道管がほぼ単独または複合して1~2列並び、その後は径を減じて丸みのある薄壁の道管が単独あるいは複合してまばらに分布し、年輪界付近では方形の小道管が集合する散孔材。木部柔細胞は周囲状~翼状で、年輪界付近ではターミナル状。道管の穿孔は単一。放射組織は同性または異性で1~6列、まばらに鞘細胞がみられる。

イスエンジュは温帯~暖温帯に分布し、やや乾燥した日当たりの良い立地にみられる落葉広葉樹で、小高木程度になる。材はやや重硬で、強韌である。

9. カエデ属 *Acer* カエデ科 第34図9a-9c

小型で丸い薄壁の道管が、ほとんど単独あるいは放射方向に1~2個複合してまばらに分布する散孔材。木繊維の壁厚の相違による紋様が確認される。道管の穿孔は単一で、内腔には着色物質が詰まり、らせん肥厚が認められる。放射組織は同性で1~5列。

カエデ属には多くの種が含まれ分布も様々であるが、国内に自生するものはすべて落葉性であり、河原や溪畔にみられることが多い。現在新潟県にはヤマモミジ・ハウチワカエデ・アカイタヤ・ウリハダカエデなどが分布している。材はやや重硬で強韌、緻密である。

10. エゴノキ属 *Syrax* エゴノキ科 第34図10a-10c

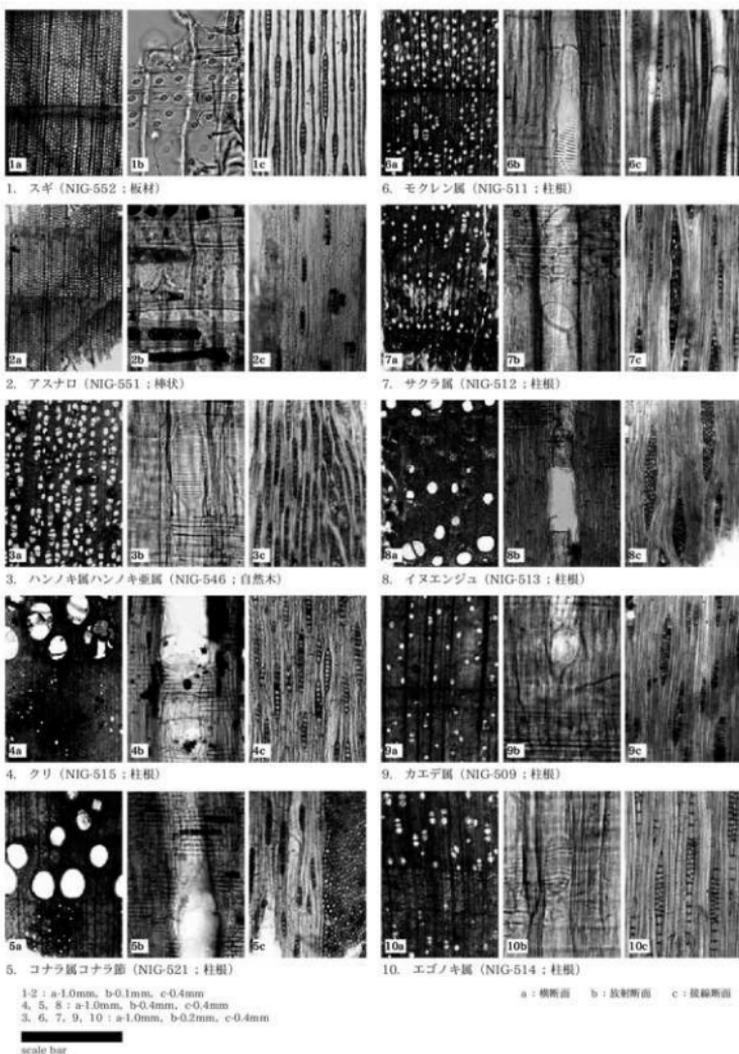
小型でやや丸い道管が放射方向に数個複合して分布する散孔材。晩材部では道管の径および分布密度が急激に小さくなり、短接線状の木部柔細胞が認められる。道管の穿孔は階段状で幅広く10~15本程度。放射組織は異性で1~3列、上下の直立細胞は数個連なる。

エゴノキ属には向陽地や湿地縁や河原などの適湿な立地に多いエゴノキ、山中にみられるハクウンボクなどが含まれ、いずれも小高木程度になる落葉広葉樹である。材はやや重硬で韧性があり、割れにくい。

引用文献

- 川村忠洋 1983 「曽根遺跡出土木材の識別」『新潟大学農学部演習林報告』16 p75-82
- 松業礼子 2001 「新保遺跡出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書103集 国営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 p78-82
- 三村昌史・植田弥生 2003 「仲田遺跡出土木製品の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書128集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅱ仲田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 p35-41表69-71
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1997 「岩田遺跡第2次調査における自然科学分析調査報告書」『越路町文化財報告書 第21輯 岩田遺跡 第2次発掘調査報告書』越路町教育委員会 p18-25

パリノ・サーヴェイ株式会社 2002 「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115
 集 一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・新潟
 県埋蔵文化財調査事業団 p45-59



第34図 出土木製品木材組織光学顕微鏡写真

4 大坪遺跡の花粉化石

鈴木 茂 (株式会社パレオ・ラボ)

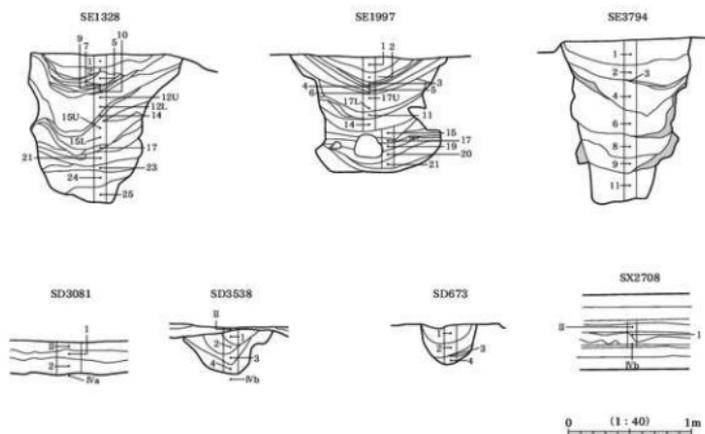
A はじめに

新潟県阿賀野市寺社に所在する大坪遺跡は阿賀野川右岸の自然堤防上に立地しており、遺跡が営まれていたころは湿地帯が広がっていたと考えられている。この大坪遺跡において行われた発掘調査で、平安時代(9世紀末～10世紀初頭)の土師器焼成遺構が検出され、周辺から土師器が多く出土している。また中世前期(11～12世紀)の遺構・遺物が多数検出されており、阿賀野川の水運を利用して反映していたものと推測されている。

この大坪遺跡において当時の環境を検討する目的で井戸遺構や溝遺構、自然流路などから土壌試料が採取され、花粉分析、珪藻分析、プラント・オパール分析および寄生虫卵分析が行われた。以下には採取された土壌試料について行った花粉分析の結果・考察を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

B 試料

花粉分析はSE1328(16試料)、SE1997(15試料)、SE3794(9試料)、SD3081(4試料)、SD3538(6試料)、SD673(4試料)およびSX2708(3試料)の総計7遺構、57試料について行った。これら試料の採取位置を第35図に示した。各遺構の位置や土相記載については第四章を参照して頂きたいが、SE1328はおおむね黒～黒褐色(下部は暗灰～暗青灰色)の砂質シルト～粘土である。SE1997もおおむね黒～黒褐色の砂質シルト～粘土で、下部は緑灰色のシルトとなっている。SE3794も黒～黒褐色の砂質シルト～粘土で、多くの層で炭片が認められる。SD3081は上部が灰オリブ色の砂質シルト、下部が黒



第35図 試料採取位置

水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間煮沸)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。鏡検はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフランニンにて染色を施した。また、花粉化石の単体標本を適宜作成し、各々にPLC.SS番号を付し形態観察用および保存用とした。

D 分析結果

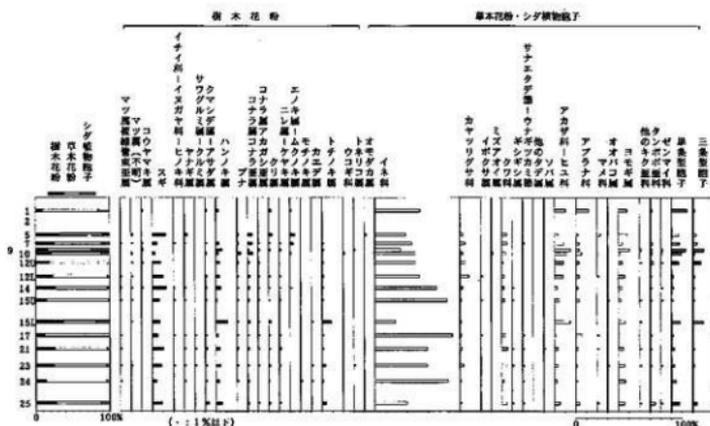
検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉45、草本花粉41、形態分類を含むシダ植物胞子5の総計91である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を第19～21表に、それらの分布を第36図(SE1328)、第37図(SE1997)、第38図(SE3794)、第39図(SD3081)、第40図(SD3538)、第41図(SD673)、第42図(SX2708)に示した。なお分布図は全花粉・胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示してあり、クワ科・バラ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括していれてある。

SE1328(第36図): 樹木花粉の占める割合が20%前後と少なく、その中でスギが10%前後を示して樹木類では最も多く検出されている。次いでハンノキ属が5%前後を示しており、コナラ属コナラ亜属やクリ属、エノキ属-ムクノキ属が上部層でやや目立って検出されている。またトチノキ属が15L層でやや突出した出現をみせている。草本類ではイネ科の圧倒的な多産が特徴的であり、大きな傾向として中央部でピークを作るように下部より上部に向かい増加・減少している。次いでアカザ科-ヒユ科が多く、上部層で多くなる傾向が認められる。同様の傾向がヨモギ属や単葉型胞子にも認められ、その他ソバ属や抽水植物のオモダカ属やイボクサ属、ミズアオイ属が若干検出されている。

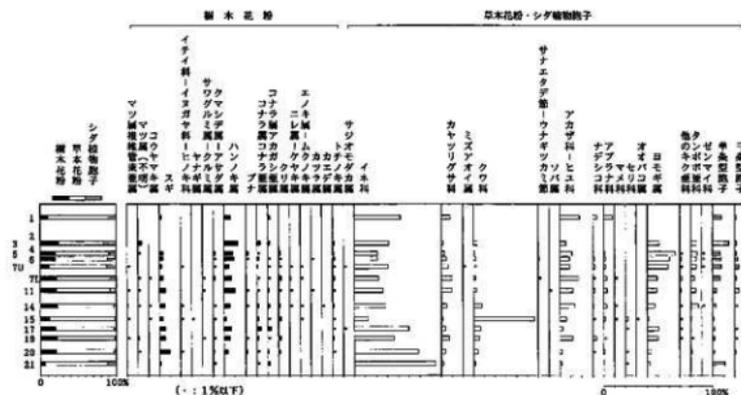
SE1997(第37図): やはり樹木花粉の占める割合は低く、その中ハンノキ属が上部で10%前後の出現率を示している。次いでスギが多く、上部に向かい減少する傾向が認められる。その他コナラ亜属やコナラ属アカガシ亜属、クリ属、トチノキ属などが多くの層より得られている。草本類ではイネ科が最も多く、21層では70%を越えている。次いでアカザ科-ヒユ科とヨモギ属が多く、アカザ科-ヒユ科は10%前後の出現率を示し、ヨモギ属は6、7層で20%前後を示している。またナデシコ科やアブラナ科、タンポポ科系科が多くの層で1%を越え、その他ソバ属や抽水植物のサジオモダカ属、ミズアオイ属が若干検出されている。

SE3794(第38図): 樹木花粉の占める割合はさらに低くなり、20%を越える層は認められなかった。その中でスギが目立って検出されており、産出傾向は上部に向かい減少している。その他ニヨウマツ類やコナラ亜属、トチノキ属などが得られている。草本類ではイネ科が20～30%の出現率を示して最も多く観察されているが、上部層では急減している。この上部ではアカザ科-ヒユ科とアブラナ科が増加し最優占している。ヨモギ属は下部層で多い傾向がみられ、カヤツリグサ科やクワ科はほぼ全層で1%を越えている。また先に記した抽水植物が若干検出され、加えてキカシグサ属(抽水-湿生)が数層より得られている。

SD3081(第39図): 先の遺構(井戸址)に比べ樹木類はやや増加し20～30%を占めている。その中ではやはりスギが最も多く、II層では約17%を示している。ハンノキ属は下部2層で10%を越え、ニヨウマツ類は上部2層でやや目立って検出されている。草本類ではやはりイネ科が最も多く、上部に向かい



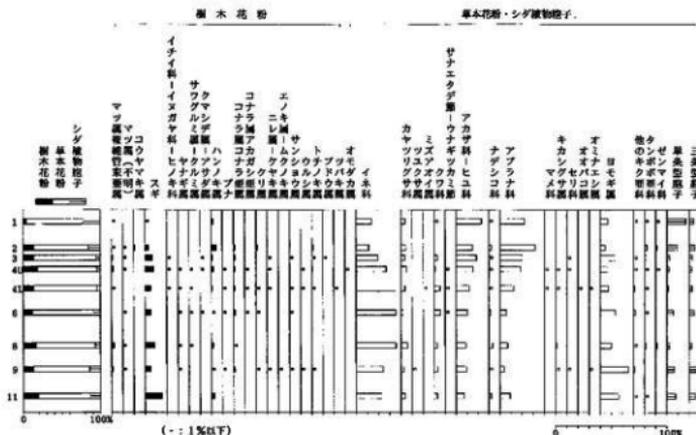
第36図 SE1328遺構の主要花粉化石分布図（出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した）



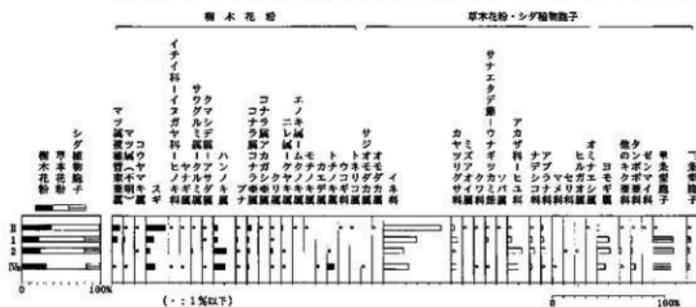
第37図 SE1997遺構の主要花粉化石分布図（出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した）

急増している。アカザ科-ヒユ科は下部層で、ヨモギ属は中央部層で10%前後を示し、単条型胞子が最上部を除き15~20%ほどを示している。その他抽水植物群が若干検出されており、ソバ属がII層で観察されている。

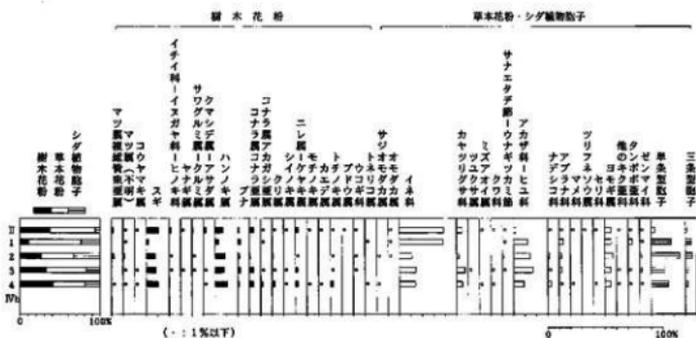
SD3538 (第40図)：樹木類ではやはりスギとハンノキ属が多く、ほぼ同様の産出傾向を示している。本遺構ではブナがほぼ全層で1%を越えるなど他の地点と比べ多く観察され、ニレ属-ケヤキ属についても同様である。草本類ではイネ科が上部2層で多産しているのが特徴的である。次いでアカザ科-ヒユ科



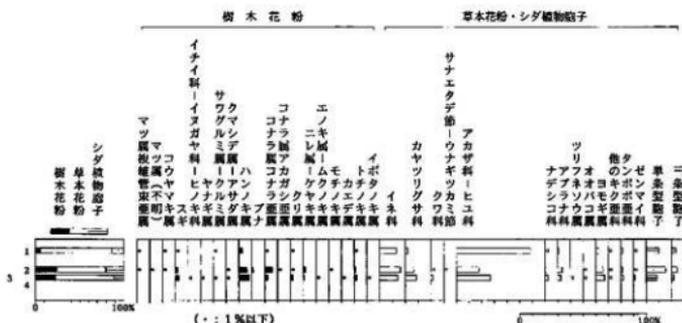
第38図 SE3794遺構の主要花粉化石分布図 (出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した)



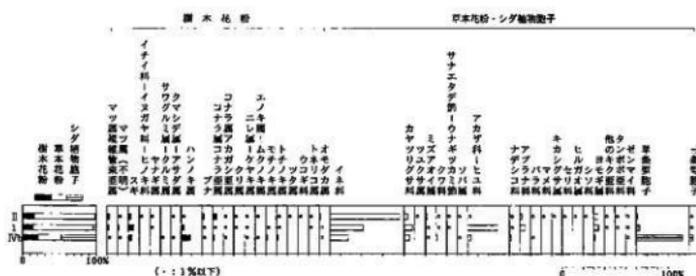
第39図 SD3081遺構の主要花粉化石分布図 (出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した)



第40図 SD3538遺構の主要花粉化石分布図 (出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した)



第41図 SD673遺構の主要花粉化石分布図（出現率は全花粉・孢子総数を基数として百分率で算出した）



第42図 SX2708遺構の主要花粉化石分布図（出現率は全花粉・孢子総数を基数として百分率で算出した）

が多く、単条型胞子も10～20%とやや多く得られている。

SD673（第41図）：樹木花粉の占める割合は低く、その中ではハンノキ属がやや目立って検出されている。その他スギ、コナラ亜属、トチノキ属などが得られている。草本類ではアカザ科・ヒユ科が最も多く、1層では60%近くまで達している。次いでイネ科が多く、出現率は10～15%である。その他ではカヤツリグサ科が上部に向かい減少する傾向が認められ、これはヨモギ属にもみられる。

SX2708（第42図）：樹木花粉の占める割合は20%前後と低く、その中でハンノキ属はIV層で10%近くを示すが、II層では1%以下に減少している。この上部層でニヨウマツ類が連続して1%以上を示しており、スギは全層1%を越えている。草本類ではイネ科の急増が特徴的であり、アカザ科・ヒユ科は1層で、また単条型胞子はIV層で突出した産出を示している。その他では抽水植物のオモダカ属やミズアオイ属が全層から得られており、ソバ属も2層から検出されている。

E 遺跡周辺の古植生

分析を行った試料は出土物などから11～12世紀の中世前期と考えられおり、この時期の大坪遺跡周辺における古植生について以下に示す。

上記したように全試料を通して樹木花粉の占める割合は低く、中世前期の遺跡近辺には樹木類は少な

つたとみられる。すなわち樹木類でやや目立って検出されているスギは遺跡からやや離れた丘陵部斜面を中心に林分を広げていたのであろう。またコナラ亜属を中心にクマシデ属-アサダ属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属、カエデ属、トチノキ属などの落葉広葉樹林もこうした丘陵部に勢力を広げていたと推測され、より標高の高いところにはブナ林が形成されていたと考えられ、これら落葉広葉樹林の下草の存在でチマキザサやチシマザサといったクマザサ属型のササ類も多く生育していたであろう（プラント・オパール分析の節参照）。さらにアカガシ亜属やシノキ属、モチノキ属などの常緑広葉樹類も一部に生育していたとみられ、これら森林の林縁部には中・低木類のクワ科やサンショウ属、ニシキギ科、ツバキ属、ウコギ科、ツツジ科、イボタノキ属、ガズミ属などが生育していた。またブドウ属やツタ属、マタタビ属、ウコギ科（キスタ？）などの蔓植物が上記の樹木類に絡まるように生育していたとみられる。

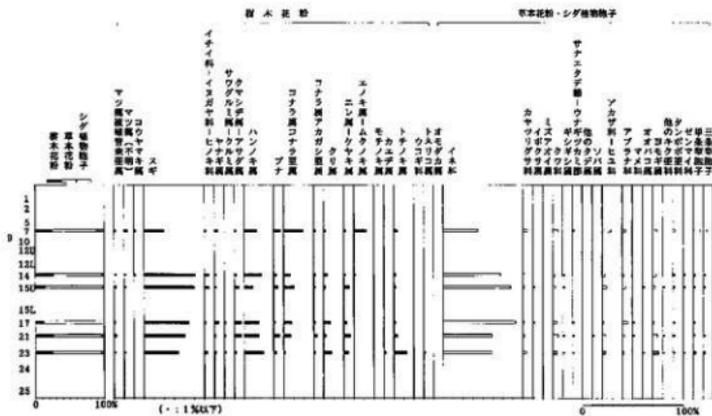
ここで樹木類の変遷をより明確に捉えるために樹木花粉が比較的多く検出されたSE1328、SD3538、SX2708の3遺構における樹木花粉の出現率について樹木花粉総数を基数として産出し、その分布図を第43～45図に示した。そのうち水田遺構が推測されている第45図のSX2708をみるとハンノキ属の急減が特徴的である。このハンノキ属は先にも記したが湿地林を形成する樹木であり、この急減は水田稲作が関係しているものと思われる。すなわちハンノキ属が生育する湿地を切り開き水田稲作が行われるようになったことが考えられよう。

また同図においてマツ属複雑管束亜属の増加も特徴的である。このマツ属複雑管束亜属、すなわちニヨウマツ類の増加はアカマツなどの二次林の拡大によるものと思われる。これは遺跡の発展にともない人間活動が活発になり、建築材や農具などの木材利用が増加し、遺跡周辺の森林が一部破壊されることが推察される。アカマツなどのニヨウマツ類はこの跡地に侵入して二次林を形成し、林分を拡大したものと推測される。

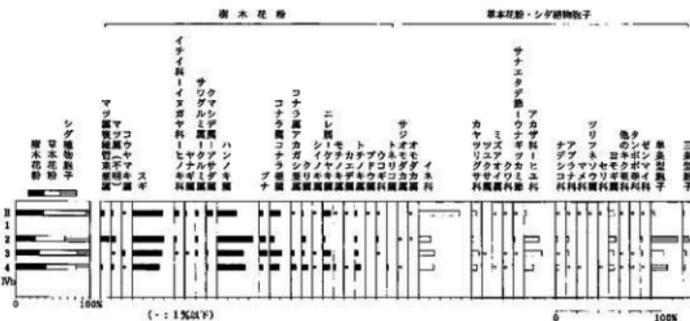
一方遺跡が成立していた低地部には湿地林構成要素であるハンノキ属がヤナギ属やサワグルミ属-クルミ属、カツラ属、トネリコ属を交え河川や溝、湿地周辺に湿地林を一部に形成していたと推測される。しかしながら先にも記したように中世前期の時期にこの湿地を切り開き水田稲作が行われるようになり、ハンノキ属を中心とした湿地林は縮小したとみられる。なお肥沃なところを好むエノキ属-ムクノキ属もこの低地周辺に生育していたのであろう。

この水田においてはサジオモダカ属（サジオモダカ）やオモダカ属（オモダカ、ウリカワ）、ミズアオイ属（コナギ）、キカシグサ属（キカシグサ）などが水田雑草として生育していたであろう。またプラント・オパール分析からタイヌビエなどのキビ族も水田雑草として成育していたとみられる。その他スズタ属（スズタ）-ミズオオバコ属（ミズオオバコ）やイボクサ属（イボクサ）、ミソハギ属（ミソハギ）などが溝内や周辺湿地に生育していたと推測され、水辺近くには好湿性のツリフネソウ属（ツリフネソウ）やゴキツル属（ゴキツル）-アマチャヅル属（アマチャヅル）などがみられたであろう。さらに溝の土手部を中心にアカザ科-ヒユ科やヨモギ属、ツクシ属、ギシギシ属、イタドリ属、ナデシコ科、カラマツソウ属、アブラナ科、フウロソウ属、ヒルガオ属、オオバコ属、キク亜科、タンポポ科などが雑草群落を形成しており、シダ植物も多く生育していたとみられる。

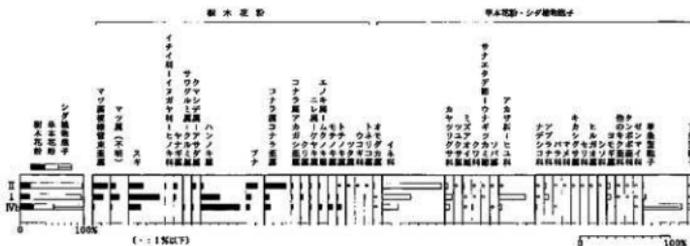
なお栽培植物としては先のイネのほかソバの栽培が予想され、アブラナ科についてもカブやダイコンなど一部栽培種が含まれている可能性が考えられる。



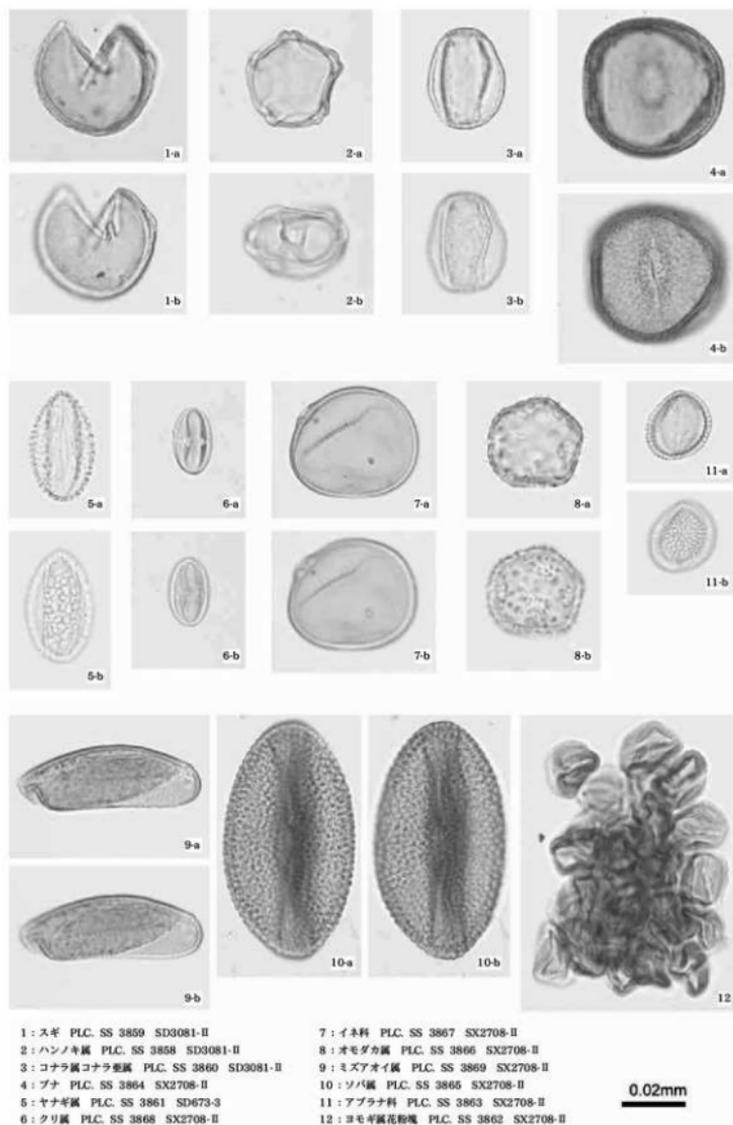
第43図 SE1328遺構の主要花粉化石分布図 (出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した)



第44図 SD3538遺構の主要花粉化石分布図 (出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した)



第45図 SX2708遺構の主要花粉化石分布図 (出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した)



第46図 大坪遺跡の花粉化石 (Scale bar : 0.02mm)

5 大坪遺跡のプラント・オパール

鈴木 茂 (株式会社パレオ・ラボ)

A はじめに

プラント・オパールとは、根より吸収された珪酸分が葉や茎の細胞内に沈積・形成されたもの(機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体などの植物珪酸体)が、植物が枯れるなどして土壤中に混入して土粒子となったものを言い、機動細胞珪酸体については藤原 [1976] や藤原・佐々木 [1978] など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壤中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稲作の有無についての検討も行われている [藤原 1984]。このような研究成果から、近年プラント・オパール分析を用いて稲作の検討が各地・各遺跡で行われている。

新潟県阿賀野市寺社に所在する大坪遺跡において行われた発掘調査で平安時代(9世紀末～10世紀初頭)の土師器焼成遺構や中世前期(11～12世紀)の遺構・遺物が検出されている。また水田が考えられている不明遺構や自然流路、溝などが検出され、それら遺構より土壌試料が採取された。この土壌試料についてプラント・オパール分析を行い、不明遺構における稲作の有無や遺跡周辺のイネ科植物について検討した。

B 試料と分析方法

試料はSD3081(4試料)、SD3538(6試料)、SD673(4試料)およびSX2708(3試料)の4遺構、17試料である。これら試料の一覧を(第35図)に示した。各遺構の位置や詳しい土相記載については第四章を参照して頂きたいが、SD3081は上部が灰オリーブ色の砂質シルト、下部が黒褐色粘土+黄灰色砂である。SD3538はおおむね黒褐色砂質粘土で、最下部は灰色粘土である。SD673は上部が褐灰色、下部が黄褐色の砂質粘土やシルトである。また水田遺構が考えられているSX2708は上部が黒褐色、下部が灰色の砂質シルト～粘土である。時期については出土遺物などから中世前期(11～12世紀)と考えられている。プラント・オパール分析はこれら17試料について下記の方法に従って行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約40 μ m)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10 μ m以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。

C 分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め(第22表)、それらの分布を第47図(SD3081)、第48図(SD3538)、第49図(SD673)、第50図(SX2708)に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当たりの検出個数である。なお、イネの穎部(籽殻)の珪酸体がバラバラの状態で見られることから、他

遺構	層位	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザザ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	他のタケ香料 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
SD3081	II	50,200	10,300	3,400	21,700	0	1,100	4,600	10,300	4,600
	1	14,300	0	2,400	75,100	0	1,200	6,000	10,700	8,300
	2	3,700	0	3,700	81,500	0	1,200	0	0	4,900
	IV a	0	0	1,200	82,100	1,200	0	1,300	1,200	0
SD3538	II	10,800	0	2,200	25,900	2,200	1,100	1,100	2,200	2,200
	1	5,600	0	1,100	36,000	0	1,100	3,400	1,100	5,600
	2	20,300	0	1,200	66,800	1,200	0	4,800	1,200	8,400
	3	2,300	2,300	2,300	30,400	0	0	1,200	1,200	5,900
	4	4,900	0	3,600	31,600	0	0	1,200	0	3,600
SD673	IV b	0	0	1,200	27,100	0	0	0	0	3,700
	1	23,600	1,100	3,400	88,800	1,100	1,100	4,500	10,100	10,100
	2	3,500	0	1,200	63,900	0	0	0	4,700	3,500
	3	4,700	0	2,300	65,100	1,200	0	4,700	4,700	5,800
SX2708	4	0	0	0	23,700	0	1,200	0	1,200	1,200
	II	49,300	2,100	3,200	45,000	0	0	6,400	6,400	18,200
	1	52,400	2,300	8,000	88,800	0	1,100	2,300	3,400	6,800
	IV b	0	0	0	10,400	0	0	0	0	0

第22表 試料1g当たりのプラント・オパール個数

のプラント・オパール同様の考え方でその破片数を数計して図表に示した。よって、その数値はあくまでも破片の数であり、粉殻数ではなく、現時点では参考程度にみて頂きたい。

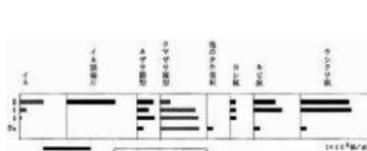
SD3081：IV a層を除く上位3層でイネのプラント・オパールが検出され、最上部のII層では50,000個を越えているが、2層では約4,000個と5,000個に達していない。またイネの穎部破片がII層より検出されている。

イネ以外について、最も多く検出されているのはクマザサ属型で、II層ではやや減少しているが他の3層では80,000個前後を示している。キビ族とウシクサ族は上部2層で急増しており、ネザザ節型は少ないながら全層から得られ、ヨシ属も最下部を除き観察されている。

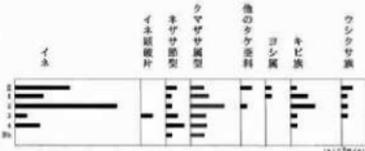
SD3538：やはり最下部IV b層を除く上位5層よりイネのプラント・オパールが検出され、3層以外ほぼ5,000個以上を示している。またイネの穎部破片がこの3層より検出されている。

イネ以外ではやはりクマザサ属型が最も多く検出されており、ほぼ30,000個前後に安定した検出個数を示している。キビ族はイネと同様にIV b層を除き産出しており、イネが最も多く得られている2層において最も高い数値を示している。その他ネザザ節型、ヨシ属、ウシクサ族などが若干検出されている。

SD673：やはり最下部4層を除く上位3層よりイネのプラント・オパールが検出され、1層では20,000個以上と多く得られているが、他の2試料では5,000個に達していない。また穎部破片最が上部試料より若干得られている。



第47図 SD3081遺構のプラント・オパール分布図



第48図 SD3538遺構のプラント・オパール分布図



第49図 SD673遺構のプラント・オパール分布図



第50図 SX2708遺構のプラント・オパール分布図

イネ以外ではやはりクマザサ属型が最も多く、上部に向かい増加する傾向がみられ、最上部では90,000個弱に達している。ウシクサ族もクマザサ属型とほぼ同様の産出傾向を示しており、最上部では10,000個を越えている。キビ族は1層と3層から4,500個ほど得られ、その他ネザサ節型やヨシ属などが若干検出されている。

SX2708：やはり最下部層IVb層を除く上位2試料よりイネのプラント・オパールが検出され、個数的には50,000個前後と高い数値を示している。またイネの穎部破片がこの2層より検出されている。

イネ以外ではやはりクマザサ属型が最も多く検出されており、1層では90,000個弱を示している。ネザサ節型も1層で最も多く検出されており、全層中でも最も高い数値を示している。キビ族とウシクサ族はII層で最も多く、6,400個を示している。またヨシ属が1層より若干検出されている。

D 稲作について

上記のように、各遺構の最下部層を除きイネのプラント・オパールが検出された。検出個数の目安として水田址の検証例を示すと、イネのプラント・オパールが試料1g当たり5,000個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている〔藤原1984〕。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。

不明遺構SX2708においては水田が推測されている1層で約52,000個と上記の5,000個をはるかに越えるイネのプラント・オパールが検出されており、検出個数のみからすると試料採取地点で稲作が行われていた可能性は高いと判断される。ここで同試料を用いて行われた花粉分析結果（第42回）をみると、イネ科花粉の急増が認められ、水田雑草が予想されるオモダカ属（オモダカやウリカワ）やミズアオイ属（コナギ）も連続して検出されている。こうしたことから発掘調査地時に推測された水田稲作を支持する結果が得られたと判断されよう。

自然流路SD3081においても最下部層を除きイネのプラント・オパールが多く検出されている。しかしながら、試料採取地点は流路内であることからそこで稲作が行われていたことは考えられず、流路周辺の稲作地よりイネのプラント・オパールが供給されたと推察される。すなわち自然流路周辺において水田稲作地が存在していたと考えることができよう。これについては他の溝試料についても同様と考えられ、大坪遺跡周辺において中世前期（11～12世紀）頃水田稲作が営まれていたと判断されよう。なおプラント・オパール分析のみからは水田耕作かどうかの判断はできず、遺構の形状や花粉分析における水田雑草を含む分類群（サジオモダカ属やオモダカ属、ミズアオイ属）の検出から判断される。

E 遺跡周辺のイネ科植物

イネと似た産出傾向がみられるキビ族について、その形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、タイヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明である。しかしながら上記したように水田稲作が予想され、そのイネと似た産出傾向がみられることから、検出されたキビ族についてここではタイヌビエなどの水田雑草類に由来するキビ族と考えられる。

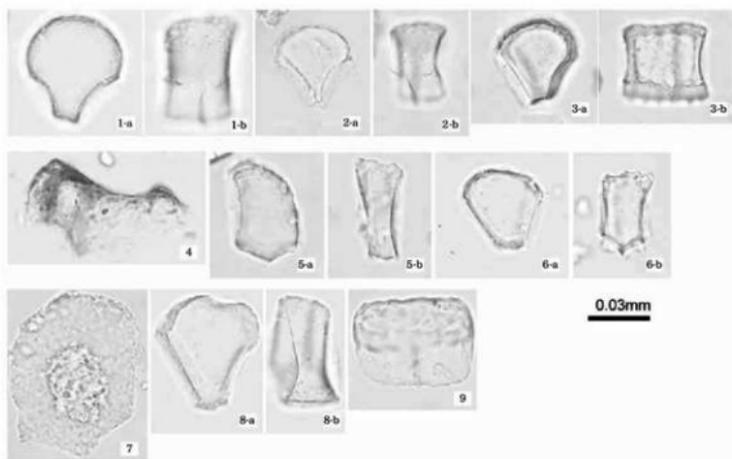
クマザサ属型が多く検出されており、このクマザサ属型のササ類（チシマザサ、チマキザサ、ミヤコザサなど）については、主に林下での生育が予想され、遺跡周辺丘陵部に成立していたと推察されたコナラ属コ

ナラ亜属を主体とした落葉広葉樹林(本章4)の下草の存在で分布を広げていたと推測される。ネザサ節型のササ類については日のある開けたところでの生育が考えられ、溝の周辺や上記森林の林縁部などにケネザサなどのネザサ節型のササ類が生育していたと推測される。またウシクサ族(ススキ、チガヤなど)も同様のところでの生育が予想され、ネザサ節型のササ類とともにケネザサススキ群集といった草地的景観をみせていたと推察される。

個数的にはそれほどではないがヨシ属も各遺構より検出されており、試料を採取した自然流路や溝内にヨシヤツルヨシといったヨシ属が一部生育していたとみられる。また上記したように水田稲作が行われていたと考えられ、ヨシ属については水田雑草として水田内にも若干生育していたことが考えられる。

引用文献

- 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) 一 数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法一」『考古学と自然科学』9 p15-29
- 藤原宏志 1984 「プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—」『考古学ジャーナル』227 p2-7
- 藤原宏志・佐々木彰 1978 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(2) —イネ(Oryza)属植物における機動細胞珪酸体の形状—」『考古学と自然科学』11 p9-20



1~3: イネ (a: 断面, b: 側面)

1: SD3081-II, 2: SD673-3, 3: SX2708-III

4: イネ葉断片 SD3081-II

5: クマザサ属型 (a: 断面, b: 側面) SD673-I

6: ネザサ節型 (a: 断面, b: 側面) SD3538-II

7: ヨシ属 (断面) SX2708-III

8: ウシクサ族 (a: 断面, b: 側面) SD673-I

9: キビ族 (側面) SD3081-II

第51図 大坪遺跡のプラントオパール (scale bar: 0.03mm)

6 大坪遺跡堆積物中の珪藻化石群集

黒澤 一男（株式会社パレオ・ラボ）

A はじめに

珪藻は淡水から海水に至るほとんどすべての水域に生息し、水域生態系の一次生産者として重要な位置を占めている。微小（0.01～0.5mm程度）ながら珪酸体からなる殻を形成するため、化石として地層中によく保存される。また種類ごとに様々な水域に適応し生息するため古環境の指標としてもよく利用されている。

ここでは新潟県阿賀野市の大坪遺跡より採取された堆積物試料を用いて珪藻化石群集を調べ、その堆積環境について検討する。

B 試料及び分析方法

分析には、大坪遺跡の3つの溝状遺構（SD3081, SD3538, SD673）、1つの水田状遺構（SX2708）、3つの井戸跡遺構（SE1328, SE1997, SE3794）から採取されたブロックサンプルを使用した。試料は、前述の7遺構より計57試料が選定され、それらに対して以下の珪藻分析を行った。

- ① 試料を湿潤重量で約1.2～1.7g程度取り出し、秤量した後にトールビーカーに移し、30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。
- ② 反応終了後、水を加え、1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てた。この作業は上澄み液が透明になるまで7回程度繰り返し行った。
- ③ ビーカーに残った残渣は遠心管に回収した。
- ④ マイクロピペットを用い、遠心管から適量を取り、カバーガラスに滴下し、乾燥した。乾燥後にマウントメディア（封入剤）で封入し、プレパラートを作成した。
- ⑤ 各プレパラートを光学顕微鏡下400～1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数を行った。なお、珪藻化石が少ない試料についてはプレパラート全面について精査した。

C 珪藻化石の環境指標種群について

珪藻化石の環境指標種群は、主に〔安藤1990〕により設定された環境指標種群に基づいた。〔安藤1990〕は淡水域における環境指標種群を設定した。なお環境指標種群以外の珪藻種については、広布種として扱った。また、破片であるため属レベルで同定した分類群は不明種として扱った。以下に〔安藤1990〕において設定された環境指標種群の概要を記す。

上流性河川指標種群（J）：河川上流の渓谷部に集中して出現する種群。

中～下流性河川指標種群（K）：中～下流域、すなわち河川沿いの河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群。

最下流性河川指標種群（L）：最下流域の三角州の部分に集中して出現する種群。

湖沼浮遊性指標種群（M）：水深が1.5m以上で、水生植物が水底には生息していない湖沼に生息する種群。

湖沼沼沢地指標種群 (N)：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群。

沼沢湿地付着生指標種群 (O)：水深が1m内外で、植物が一面に繁茂しているところおよび湿地において付着状態で優勢な出現が見られる種群。

高層湿原指標種群 (P)：ミズゴケを主とした植物群落および泥炭地の発達が見られる場所に出現する種群。

陸域指標種群 (Q)：前述の水域に対して、陸域を生息域として生活している種群（陸生珪藻）。

D 珪藻化石群集の特徴

大坪遺跡において検出された珪藻化石は、108分類群29属89種3亜種である。これらの珪藻種から設定された環境指標種群は、広布種を含め7種群である。以下にこれら種群の出現状況の特徴と堆積環境について遺構別に述べる。

SD3081（第23表・第52図）

堆植物1g中の珪藻殻数は $3.46 \times 10^3 \sim 1.67 \times 10^5$ 個、完形殻の出現率は約25～71%となる。珪藻化石分帯は2帯に区分される。

I帯 (IVa層～1層) 検出された珪藻殻が少ないが、少ないながらも湿地または陸域環境を示す珪藻種が確認されている。このことからおそらく湿地もしくはジメジメとした陸域環境であったと考えられる。

II帯 (II層) 沼沢湿地付着生指標種群 *Pinnularia viridis* が特徴的に検出され、*Pinnularia gibba* など同種群の珪藻種も検出されている。このことから沼沢地もしくは湿地環境であったと考えられる。

SD3538（第24表・第53図）

堆植物1g中の珪藻殻数は $8.36 \times 10^3 \sim 4.30 \times 10^4$ 個と全体的に少なく、完形殻の出現率は約34～53%となる。珪藻化石分帯は4帯に区分される。

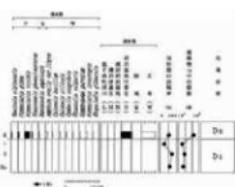
I帯 (IVb層) 検出された珪藻殻数は少ないが、少ないながらも湖沼環境で浮遊生活をする珪藻種が確認されている。このことからおそらく湖沼環境であったと考えられる。

II帯 (4層) I帯ではほとんど検出されなかった *Pinnularia viridis* や *Eumotia pectinalis* などの沼沢湿地付着生指標種群が検出されている。このことからI帯よりやや浅い沼沢地環境であったと考えられる。

III帯 (3～1層) III帯では、陸域指標種群の *Hantzschia*

分類群	種数	I	II	III	IV
<i>Adiantum crinale</i>	0	-	-	-	1
A. sp.	7	1	-	-	-
<i>Antheropsis var. filipes</i>	0	15	-	-	-
<i>Climacis aculeata</i>	0	5	-	-	-
C. sp.	0	1	-	-	-
C. sp.	7	2	-	-	-
<i>Gelechia tenuifolia</i>	0	-	-	-	1
<i>Cymbella capitata</i>	0	7	-	-	-
C. sp.	0	2	-	-	-
C. meridionale	0	1	-	-	-
C. radiata	0	1	-	-	-
C. tenuifolia	0	1	-	-	-
<i>Filamentum limicola</i>	0	1	-	-	-
F. sp.	1	-	-	-	-
<i>Hantzschia</i>	0	-	-	-	1
<i>Randia</i>	7	5	1	-	-
<i>Randia</i> sp.	7	-	-	-	-
<i>Psidium tenuifolia</i>	0	-	-	-	1
P. sp.	7	6	-	-	-
<i>Fossicola vulgaris</i>	0	3	-	-	-
<i>Phaeosphaera gracilis</i>	0	3	-	-	-
P. sp.	0	1	-	-	-
<i>Hantzschia sublineata</i>	0	6	1	1	-
H. sp.	2	1	-	-	-
H. granulata	0	1	-	-	-
H. sp.	1	1	4	1	1
H. sp.	0	0	2	-	-
<i>Horridula rufobasica</i>	0	3	-	-	1
H. sp.	0	1	-	-	-
H. sp.	0	2	-	-	-
H. sp.	0	1	-	-	-
<i>Medina biseriale</i>	0	1	-	-	-
M. sp.	0	2	-	-	-
M. sp.	0	2	-	-	-
<i>Achnanthes submontana</i>	0	2	-	-	-
A. sp.	0	1	-	-	-
<i>Filamentum limicola</i>	0	-	-	-	2
F. sp.	0	6	-	-	-
F. sp.	0	11	-	-	-
<i>Filamentum limicola</i>	0	3	-	-	-
F. sp.	0	3	-	-	-
F. sp.	0	10	-	-	-
F. sp.	0	1	-	-	-
<i>Hantzschia sublineata</i>	0	5	1	-	-
H. sp.	0	1	-	-	-
<i>Stauroneis acuta</i>	0	1	-	-	-
S. sp.	0	-	-	-	1
<i>Synedra pectiniformis</i>	0	7	-	-	-
S. sp.	7	15	1	-	-
<i>Synedra pectiniformis</i>	0	-	-	-	1
S. sp.	0	2	-	-	-
<i>Synedra pectiniformis</i>	0	-	-	-	1
S. sp.	0	-	-	-	1

第23表 SD3081における珪藻化石産出表
(種群は安藤 (1990) に基づく)

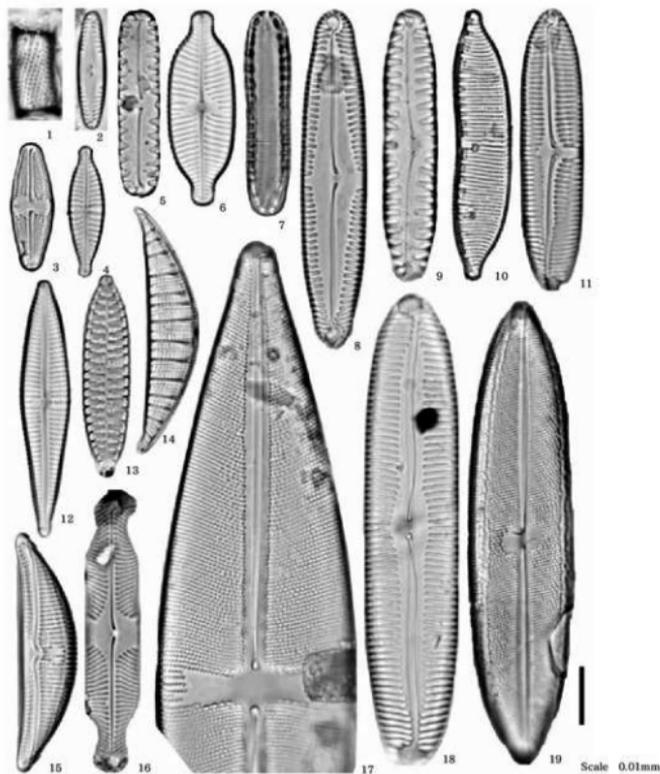


第52図 SD3081における珪藻化石分布図
(2%以上の分類群を表示)

溝状遺構の地山となるIV a層およびIV b層は検出される珪藻殻数が少ない。珪藻は水生植物であるため、水分のない環境下では生育できない。しかし少量ではあるが検出されていることから水のない環境下ではなく、堆積しにくい環境下の可能性が考えられる。他には珪藻殻が溶解して減少したとも考えられるが、完形殻の出現率が55%程度とそれほど低くないため、溶解による減少は考えにくい。また溝状遺構を覆うII層の堆積環境は概ね沼沢地もしくは湿地的な環境であった。

引用文献

安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42 p73-88



- 1 *Melosira granulata* (SE1997-19層)
 2 *Pinnularia obscura* (SE1997-2層)
 3 *Navicula mutica* (SX3794-2層)
 4 *Gomphonema parvulum* (SE1997-14層)
 5 *Pinnularia borealis* (SE1997-2層)
 6 *Navicula elgnetensis* (SX1328-10層)
 7 *Hantzschia amphioxys* (SE1997-3層)

- 8 *Pinnularia gibba* (SE3794-1層)
 9 *Pinnularia borealis* (SE1997-20層)
 10 *Hantzschia amphioxys* (SD2708-II層)
 11 *Pinnularia vilidii* (SE1997-3層)
 12 *Gomphonema gracile* (SX1328-10層)
 13 *Sarcinella angusta* (SE1997-14層)
 14 *Rhopalodia gibberula* (SE1997-2層)

- 15 *Amphora ovalis* var. *lilyca* (SX1328-2層)
 16 *Pinnularia interrupta* (SE1997-14層)
 17 *Sarcinella phoenicenteron* (SX1328-10層)
 18 *Pinnularia vilidii* (SX1328-10層)
 19 *Navium iridis* (SE3794-1層)

第59図 堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真

7 大坪遺跡の寄生虫卵

鈴木 茂 (株式会社パレオ・ラボ)

大坪遺跡において行われた発掘調査で、用途不明の遺構や井戸址とみられる遺構が検出された。一方これらの遺構は形状的にはトイレの可能性もあるのではないかと考えられ、寄生虫卵分析からその可能性について検討した。

A 試料と分析方法

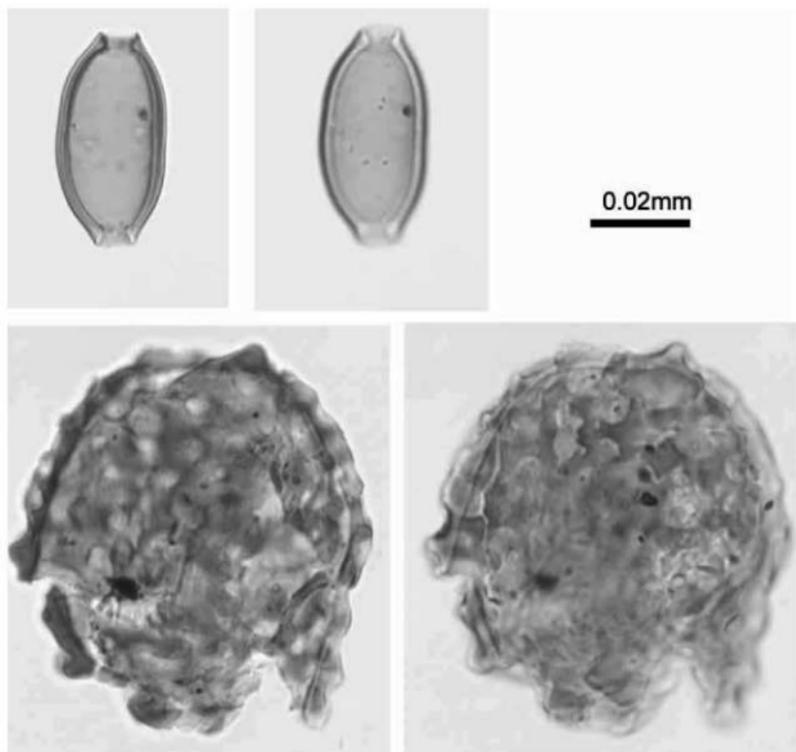
試料は (第35回) に示したSE1328、SE1997、SE3794より各層についてほぼ1試料の割合で採取した。各遺構の土相については第四章を参照して頂きたいが、SE1328はおおむね黒～黒褐色 (下部は暗灰～暗青灰色) の砂質シルト～粘土である。SE1997もおおむね黒～黒褐色の砂質シルト～粘土で、下部は緑灰色のシルトとなっている。SE3794も黒～黒褐色の砂質シルト～粘土で、多くの層で炭片が認められる。これら3遺構より採取された40試料について以下の手順に従って寄生虫卵分析を試みた。

体積を測定した試料 (約2cc～約4cc) を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離 (比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離) を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理 (無水酢酸9:1濃硫酸の割合の混液を加え3分間湯煎) を行う。この残渣に適容量のグリセリンを加えて体積を測定後保存用とした。検鏡はこの残渣より使用容量を計測したプレバラートを適宜作成し、プレバラート全面にわたり検鏡した。

B 分析結果および考察

観察の結果、SE1328遺構の24層試料より鞭虫卵が1個体検出されたが、他の39試料からは1個体の寄生虫卵も認められなかった。SE1328遺構の24層試料より1個体検出された鞭虫卵は、1cc中では7個体となる。ここで寄生虫卵個数について示すと、試料1cc中に1,000個以上の寄生虫卵があれば糞便の可能性があると考えられている [金原1997]。これに従うとSE1328遺構の24層中に糞便が混入している可能性は低いと判断され、遺構がトイレである可能性は低いと推察される。

なお24層試料より鞭虫卵が1個体検出されたことから、同試料について計測はしていないが使用量を大きくしたプレバラートを別に作成し予察的に観察したところ壊れた回虫卵が1個体認められた (第60回参照)。こうしたことから24層中に糞便が混入している可能性は低いと判断されるが、寄生虫卵で汚染されていた可能性はあるように思われる。すなわち本遺構周辺に存在した?トイレ遺構から洪水など何らかの要因で24層堆積期に寄生虫卵が混入したのではないかとと思われる。補足として、検出された鞭虫卵、回虫卵はこれらに汚染された野菜を摂取することにより感染が成立する [中村^{ほか}1994]。



1 : 鞭虫卵 PLC. SS 3856 SE1328-24

2 : 回虫卵 PLC. SS 3857 SE1328-24

第60図 寄生虫卵

引用文献

- 金原正明 1997 「自然科学的研究からみたトイレ文化」『トイレの考古学』大田区立郷土博物館編 p197-216
中村敏夫・佐藤淳夫・荒木恒治・辻 守康 1994 『医学要点双書10寄生虫病学』第2版金芳堂 p203

8 放射性炭素年代測定

小林 紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani

(AMS年代測定グループ 株式会社パレオ・ラボ)

A はじめに

ここでは、堀立柱建物およびSD1の年代について検討するため、堀立柱建物SB5、SB6、SB7、SB38から検出された柱根4点とSD1から検出された橋脚の可能性が想定されている柱根1点について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

B 試料と方法

測定試料の情報、および不純物を取り除くための調整データは第30表のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

C 結果

第31表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}C$)、同位体分別効果の補正を行った¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を、第61~65図に暦年代較正結果をそれぞれ示す。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年代較正の詳細は以下の通りである。

暦年代較正

¹⁴C年代値は、大気中の¹⁴C濃度が過去においても一定という仮定のもと、半減期としてLibbyの半減期5,568年を用いて算出される。しかし、実際には過去の宇宙線強度や地球磁場の変動により大気中の¹⁴C濃度は変動している上、Libbyの後により正確な¹⁴Cの半減期5,730 \pm 40年が得られているために、¹⁴C年代は暦年代とそのまま

測定番号	建物データ	試料データ	前処理	測定
PLD-3428	社根№3(志持丸木材) 濃縮: SB6 P190 C地区 4E24 グリッド 細輪: カエデ	試料: 材(未炭化) 性状: 外側部分数年輪 状態: wet カビ: 無		
PLD-3429	社根№4(板目材) 濃縮: SB7 P278 C地区 5D6 グリッド 細輪: スギ	試料: 材(未炭化) 性状: 外側部分数年輪 状態: wet カビ: 無		
PLD-3430	社根№11(志持丸木材) 濃縮: SB5 P1761 C地区 8E24 グリッド 細輪: クリ	試料: 材(未炭化) 性状: 外側部分数年輪 状態: wet カビ: 無	超音波洗浄、酸洗浄 アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N、水酸化ナトリウム 1.0N、塩酸1.2N)	PaleoLabo : NEC製 コンパクト AMS 1.5SDH
PLD-3431	社根№31(志持丸木材) 濃縮: SB38 P2336 B地区 14D1 グリッド 細輪: クリ	試料: 材(未炭化) 性状: 外側部分数年輪 状態: wet カビ: 無		
PLD-3432	社根№36(板目材) 濃縮: P4024 (SD1内) B地区 26P2 グリッド 細輪: クリ	試料: 材(未炭化) 性状: 最外年輪を含む数年輪 状態: wet カビ: 無		

*注: 社根№4は原木の辺縁部を用いていると推定される年輪が平年板目材で、また社根№36は最外年輪を含む板目材である。

第30表 測定試料及び処理

では合致しない。暦年代較

正はこうしたずれを補正

し、¹⁴C年代を暦年代に読

み替える作業である。具体

的には、年代既知の樹木年

輪の詳細な測定値、珊瑚の

U-Th年代と¹⁴C年代の比

較、および海成堆積物中の

縞状の堆積構造を用いて

¹⁴C年代と暦年代の関係を

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	¹⁴ C年代 ($\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
			1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-3428	-27.22 \pm 0.13	914 \pm 22	1040AD (45.8%) 1100AD, 1110AD (22.4%) 1170AD	1030AD (95.4%) 1190AD
PLD-3429	-22.1 \pm 0.13	950 \pm 22	1020AD (17.8%) 1050AD, 1080AD (50.4%) 1160AD	1020AD (95.4%) 1160AD
PLD-3430	-24.71 \pm 0.13	626 \pm 22	1300AD (30.4%) 1325AD, 1345AD (28.9%) 1370AD, 1380AD (10.9%) 1395AD	1295AD (37.8%) 1335AD, 1340AD (57.6%) 1400AD
PLD-3431	-26.17 \pm 0.13	883 \pm 23	1060AD (8.8%) 1090AD, 1120AD (8.6%) 1140AD, 1150AD (50.8%) 1220AD	1040AD (24.9%) 1100AD, 1110AD (70.5%) 1220AD
PLD-3432	-26.45 \pm 0.12	867 \pm 23	1160AD (68.2%) 1220AD	1040AD (10.1%) 1090AD, 1120AD (7.2%) 1140AD, 1150AD (78.0%) 1250AD

* 暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

第31表 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果

調べたデータにより作成された較正曲線により、¹⁴C年代を暦年代に較正する。

¹⁴C年代の暦年代較正にはプログラム OxCal3.9 を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

D 考 察

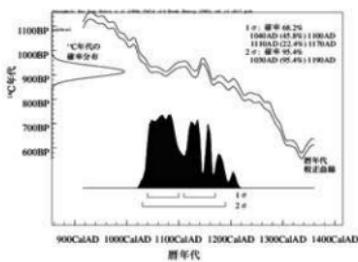
掘立柱建物の年代の検討に用いた試料は、芯持丸木材、または原木の辺縁部を用いていると推定される年輪が平行に走る板目材のそれぞれ外側数年輪を用いたものである。したがって、原木の伐採時期と得られた結果との間に大きな隔たりは生じず、また伐採時期と構築時期はほぼ同期と考えられるので、得られた結果は建物の構築時期に近いものと読み替えることができる。得られた結果は、おおまかにみるとSB6が11世紀中頃～12世紀初頭、SB7が11世紀末～12世紀中頃、SB5が14世紀代、SB38が12世紀初頭～13世紀初頭であり（なお、この範囲の中でさらにどの範囲の確率が高いかは各国の確率分布図を個別に検討されるべきである）、概して想定された年代値と整合的な結果である。ただ、大型の掘立柱建物SB5については想定された年代よりも新しく出ており、結果を踏まえて考古学的な側面からも再度検討されるべきであろう。

また、橋脚かと想定されていたSD1の柱根については、最外年輪が残っている板目材の外側数年輪が測定試料とされたので、得られた結果は伐採時期と同期であり、伐採時期と構築時期も上と同様にほとんどずれはないと考えられ、したがって得られた結果は構築の時期にごく近いものと示唆される。結果のうち最も確率が高い暦年代範囲を考慮すると、この柱材は12世紀中頃～13世紀中頃の構築とみられる。

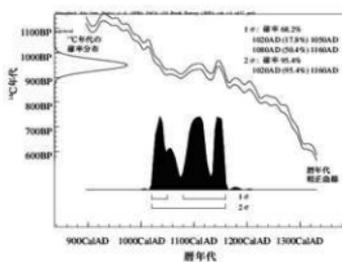
参考文献

- 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の14C年代』 p3-20
- Stuiver M., P.J. Reimer, E. Bard, J.W. Beck, G.S. Burr, K.A. Hughen, B. Kromer, G. McCormac, J. van der Plicht and M. Spurk 1998 「INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24000-0 cal BP」『Radiocarbon』40 (3) p1041-1083
- Bronk Ramsey C. 1995 「Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program」『Radiocarbon』37 (2) p425-430

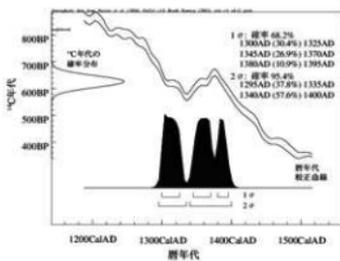
Bronk Ramsey C. 2001 「Development of the Radiocarbon Program OxCal」『Radiocarbon』43 (2A)
p355-363



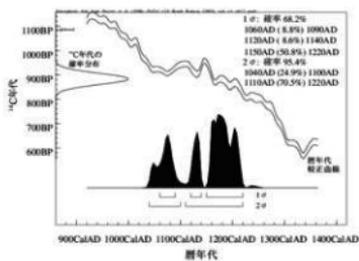
第61図 測定番号 PLD-3428 : 柱根No.3 独立柱建物
SB6のP190出土



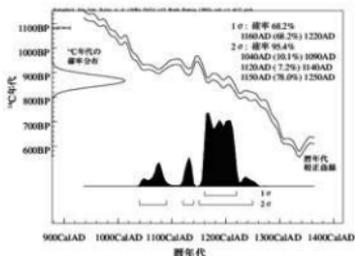
第62図 測定番号 PLD-3429 : 柱根No.4 独立柱建物
SB7のP278出土



第63図 測定番号 PLD-3430 : 柱根No.11 独立柱建物
SB5のP1761出土



第64図 測定番号 PLD-3431 : 柱根No.31 独立柱建物
SB38のP3336出土



第65図 測定番号 PLD-3432 : 柱根No.36溝
SD1のP4024出土

第七章 ま と め

1 遺跡の時期

A 古 代

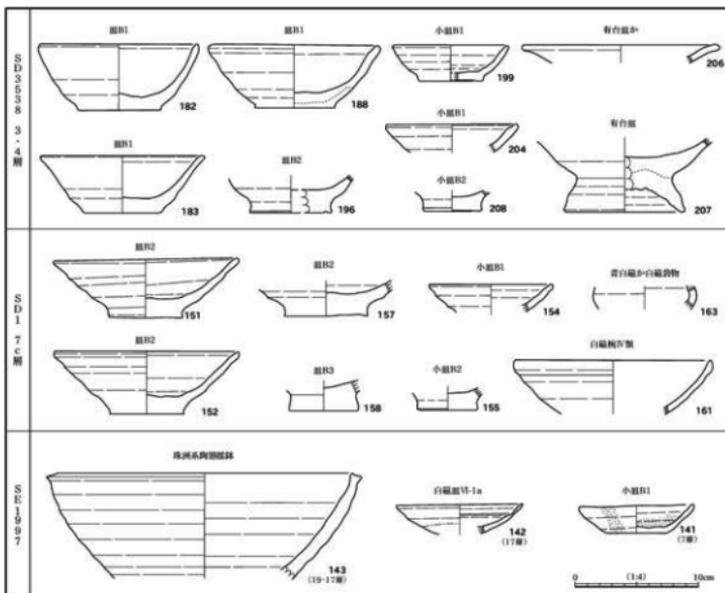
I期とした古代では土師器焼成遺構が5基検出され、このうち4基から良好な資料が得られた。SX1786は土師器無台椀・黒色土器無台椀・土師器鍋が数回にわたり焼かれていることが確認できた。土師器無台椀は下位層から出土しているものほど器壁が薄いのに対し、上位層では器壁が厚めで体部が直線的に立ち上がる形態的变化が認められた。また、土師器鍋は平底で底部にケズリを施す点は、当地域の特徴と言えよう。大坪遺跡に隣接する横峯B遺跡〔川上ほか1981〕では2軒の竪穴住居から良好な資料が出土している。春日真実氏によれば、1号竪穴住居出土資料は〔春日1999〕のVI期に、2号竪穴住居出土資料はVII期に比定されている〔春日2004ほか〕。SX1786出土資料はこの1号竪穴住居出土資料に類似し、VI期に比定される可能性が高い。他の土師器焼成遺構も同様の時期と考える。出土した須恵器は小泊産が占め、無台杯がごくわずかしかない点もこれを支持する。しかし、包含層出土資料中には№79のような器壁の厚い資料も散見されることから、VII期に下る資料も含まれる可能性がある。さらに、古代の遺物は集落本体の状況を示すものではないことに加え、当該期における同地域の資料が少ないことから、今後の資料増加を待って検討されるべきと考える。

このほか、須恵器無台杯№65が〔春日1999〕のIV期後半～V期前半に比定され、8世紀末葉～9世紀初頭に遡るものだが、この他の該期の遺物は確認できない。また、SE4037から出土した白磁椀I類276は、〔山本2000〕のA期（9世紀末葉～10世紀初頭）のものであり、古代の土器と時期的に符合する。白磁椀I類は新潟県内では上越市五反田遺跡〔渡邊ほか2005〕に次いで2例目の出土である。

B 中 世

中世の遺物は、第IV章1で述べたように土師器を中心として、珠洲焼（珠洲系陶器）などの国内産陶磁器と白磁・青磁などの輸入陶磁器がある。主体時期はII期とした11～12世紀の中世初期であり、III期とした13～16世紀のものはわずかに過ぎない。ここでは、11～12世紀の土器についてみることにする。

はじめに土器の共伴関係について確認する（第66図）。遺構からまともな出土したものが少ない中で、最も良好な一括資料が出土したのはSD3538-3・4層である。ロクロ成形底部糸切の土師器皿・小皿と有台皿が認められる。皿は第IV章1で分類した深い身のB1類が主体であり、器壁が厚く、口径は12～14cmほどである。B2類もわずかに認められるものの、196はB1類と同様に深い身をもつようである。また、小皿B1類199は器高3cmと高い。これに柱状高台の小皿B2類208と、高足高台の有台皿207が伴うことも注目される。これらは胎土に金雲母を多量に含み、器面がやや粗い点で他の土師器と区別される。形態や組成の特徴は、11世紀初頭に位置付けられる上越市一之口遺跡東地区〔鈴木ほか1994〕のSD1'出土土師器に類似するが、皿B2類が伴うことや黒色土器が認められないことから、これに後続する11世紀中葉に所属する可能性があろう。



第66図 遺構出土の土師器と供伴陶磁器

次にSD1-7c層出土土器についてみる。土師器皿は口径15～16cmほどの底部が総高台のB2類で占められ、B1類は認められない。また、柱状高台の皿B3類もある。小皿B1類は154のように器高が低く、柱状高台の小皿B2類も認められる。これらに〔山本2000〕のC期（11世紀後半～12世紀前半）に位置付けられる白磁碗IV類161が伴う。こうした様相は加賀市田尻シンペイダン遺跡〔田島ほか1979〕のO1大溝出土資料と共通することから、11世紀末葉～12世紀初頭に位置付けられよう¹⁾。

次に、SE1997-17・19層では少量ながら珠洲系陶器I期の播鉢と白磁皿IV-1a類が出土した。〔吉岡1994〕によれば珠洲焼I期は12世紀中葉～末葉に位置付けられ、白磁皿もC期のものである。また、これより上位の7層から土師器小皿B1類141が出土した。器高は2.3cmで低く、扁平化が進んでおり、同様の時期か、やや後出のものであろう。したがって、これらは12世紀後半～末葉に収まるものと考えられる。

このほか、木棺墓から出土した漆器について述べる。SK453から出土した棗椀565は、輪高台で口縁部がやや外反するものである。中条町下町・坊城遺跡C地点〔水澤2001〕に類例があり、12世紀後半～13世紀初頭に収まるものと考えられる。SK456では皿1点・小皿6点が出土した。高台を持つものは認められず、小皿が低く扁平なことから、SK453より新しい可能性がある。SK2732では棗椀が2個体出土した。いずれもSK453のものと類似することから、これと同様の時期であろう。以上から、木棺墓

1) 〔水澤2005〕の編年表には大坪遺跡SD1出土資料が11世紀末葉に位置付けられている。

は12世紀後半以降に構築された可能性が高く、その中でもSK456に後出的要素が強い。

以上の遺構出土遺物から、11世紀中葉～12世紀末葉の遺物が確認できた。遺物包含層出土のなかにも前述の特徴を示す土器があるほか、白磁は11世紀後半～12世紀後半（C・D期）に位置付けられるものが総数179片出土しており、前述した遺構の示す時期幅が遺跡の主要時期と考える。さらに、高麗青磁の梅瓶388は象嵌技法が用いられることから、[降矢2002]のⅡ期12世紀前半～13世紀中葉に位置付けられ²⁾、主要時期に収まる可能性が高い。

したがって、遺跡の時期を便宜的に次のように区分することとする。

- 1期—11世紀中葉
- 2期—11世紀後葉～12世紀前葉
- 3期—12世紀中葉～12世紀末葉

なお、掘立柱建物から出土した柱根の年代測定ではSB6が11世紀中葉～12世紀初頭、SB7が11世紀末葉～12世紀中葉、SB38が12世紀初頭～13世紀初頭との結果が得られ（第Ⅵ章8）、土器の主要時期と調和的である。

一方、土器では13世紀初頭と見られるてづくね皿A類は165の1点のみ出土しており、15世紀代と見られる皿C類や小皿B3類・C類もごくわずかである。珠洲焼・珠洲系陶器もⅡ～Ⅵ期のものが若干ある程度である。したがって、集落は12世紀末葉ないし13世紀初頭に急速に衰退したものと考えられる。

2 中世初期の遺構について

A 遺構の変遷

遺構の主体である掘立柱建物は54棟検出した。このうち中世初期に所属する可能性のあるものは、SB26・31・41・42を除く50棟である。これらの建物型式の内訳は総柱建物40棟、梁間一間型建物10棟である。総柱建物では四面庇付が9棟、一～三面庇付が14棟、平面形がL字形で六面に庇が付くものが1棟（SB7）である。また、梁間一間型建物では庇が付くものが3棟である。柱間は梁間が1～4間、桁行が2～7間のものがある（第16図）。面積は7～168㎡のものがあり、100㎡を超えるものは北地区の4棟（SB4・5・7・11）である。このうち、SB4・5は隣接して検出され、両者とも大形の柱穴をもつ中心的な建物と考えられる。また、SB4には回廊状施設SB8が付属する可能性が高い。

遺構の前後関係のうち、掘立柱建物同士で明らかなのは次のとおりである。

- ① SB19がSB4より新しい。
 - ② SB34がSB36より新しい。
- また、北地区を長く蛇行しながら流れる溝SD673との前後関係は次のとおりである。
- ③ SB5がSD673より古い。
 - ④ SB11・12がSD673より新しい。
 - ⑤ SK453・456がSD673より新しい。

2) 山本信夫氏によれば、この土器は発色がやや落ちることから12世紀後半～13世紀前半のものである可能性が高いとのご教示を得た。

⑥ SE1788がSD673より新しい。

⑦ したがって、SB11・12、SK453・456、SE1788はSB5より新しい。

以上からわかる遺構変遷は、

SB5 → SD673 → SB11・12、SK453・456、SE1788 の3段階が認められる。

1段階のSB5の出土遺物を見ると、柱穴から土師器皿B1類が2点出土している。そのうち129は器壁がやや厚い点と口縁部内面が肥厚する点で古代のものとは区別されるが、胎土は古代のものに近いことからSD3538出土資料と同時期か、それよりやや古い時期の可能性はある。建物型式も律令時代から続く古いタイプ〔宮本1999〕のものであることも矛盾しない。

次の2段階のSD673からは遺物がほとんど出土しておらず、詳細な時期は不明である。この溝は14Eグリッドから北地区を蛇行しながら北側に続いた後に、7Cグリッドで鋭角に東側に折れるものである。断面形は台形状ないしU字状で、深度は30cmほどである。こうした特徴を示す他の溝に南地区のSD3538がある。この溝も「コ」の字状に折れ曲がり、調査区外東側に続いている。これら2つの溝は覆土もよく似ていることから、同一のものである可能性もある。仮に同一のものであるとすれば、SD673は前述した1期に位置付けられることになり、大坪遺跡の中でも古いものと言えよう。

次の3段階では、前述したとおりSK453が12世紀後半～13世紀初頭、SK456はこれと同時期か新しい可能性があり、3期に含まれる。このほかは出土遺物がほとんどないため時期幅は不明である。したがって、3段階は2～3期までの長い時間幅を持つ可能性が高い。

次に、掘立柱建物の主軸方位について見ることにする。第67図は南北棟と東西棟に分けたものであり、それぞれ角度の違いにより2分している。南北棟ではSB5を基準とする西偏6°付近の一群を南北棟①とした。南北棟②はこれよりやや西側に傾く一群で、SB7を基準とする西偏10°付近のものである。一方、東西棟ではSB4を基準とする東偏86°付近の一群を東西棟①とし、SB4と重複するSB19やSB38などこれよりやや西側に傾く東偏80°付近の一群を東西棟②とする。

南北棟①には前述した1期のSB5のほか、2期以降のSB11が含まれており、時期幅を有する。

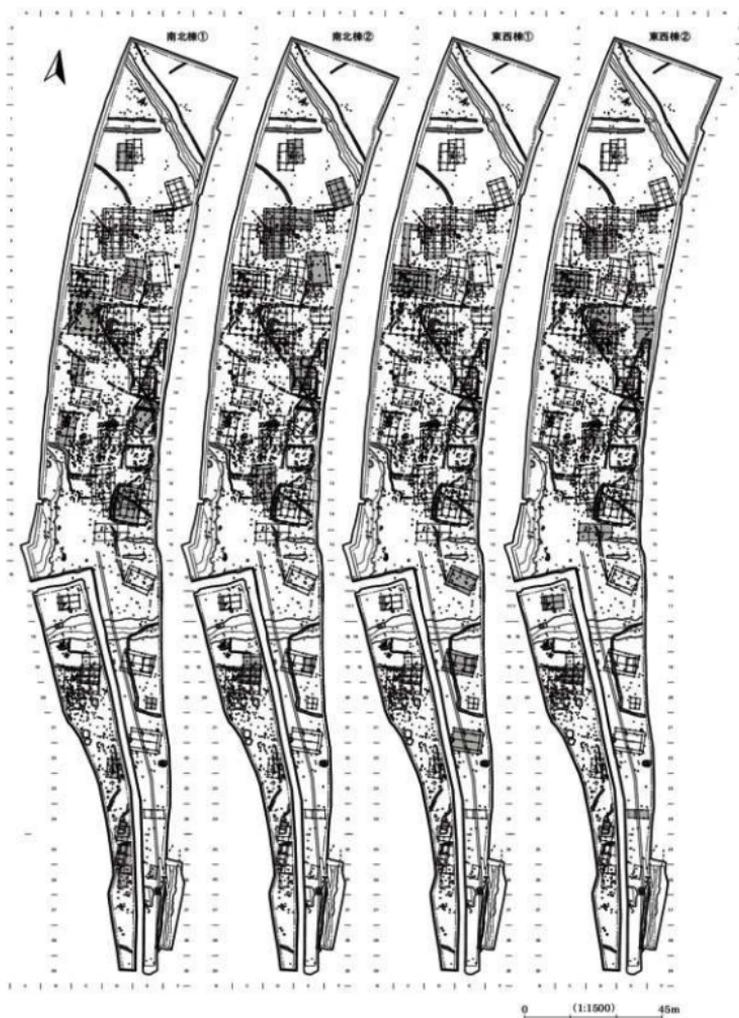
南北棟②ではSB2で2期の土師器皿が、SB3・9で2期の白磁が出土している。また、L字形の建物SB7は年代測定により2期の可能性が高い。したがって、南北棟②は2期のものが主体と言える。

一方、東西棟①ではSB4から白磁碗IV-b類128が出土しており、2～3期に位置付けられる。また、SB13はSD3538を掘り込んで構築されており、2期以降とみられる。以上から、東西棟①は2期以降の可能性が高い。

東西棟②ではSB4を掘り込んで構築されたSB19とSB12・17・21～25・33・38・44・49がほぼ同じ方位でまとまっている。このうち、SB38は年代測定により2期後半から3期の年代値が得られており、3期まで下る可能性がある。ただし、SB6は土師器小皿B1類132が2期とみられ、年代測定により1～2期の年代値が得られていることから、2期のものも含まれる。

このように、建物の主軸方位で時期を明確に分けることは難しい。しかしながら、中心的な建物の変遷はSB5→SB4→SB19と考えられることから、南北棟①の一部が1期に、南北棟②と東西棟①の一部が2期に、東西棟②の一部が3期に位置付けられる可能性がある。また、東西棟①は南北棟①とほぼ直行し、東西棟②も南北棟②とほぼ直行しており、それぞれが時間的に近接していた可能性を想起させる。

以上から推定される遺構の変遷は、下記のように推定される。



第67図 掘立柱建物の主軸方位による分類

1期－11世紀中葉

SB5・SD3538・(SD673)

2期－11世紀後葉～12世紀前葉

SD1-7c層・SB2・3・5・6・9

3期－12世紀中葉～末葉

SB19・38・SK453・456・2732

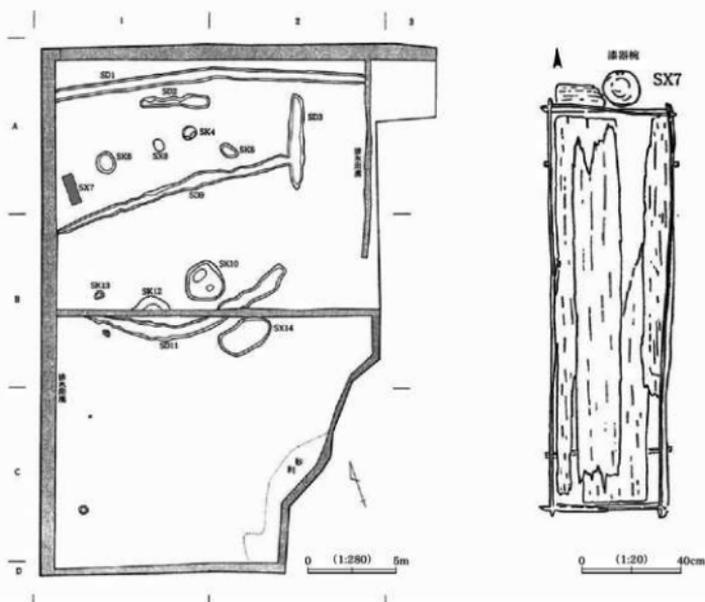
B 木棺墓について

さて、大坪遺跡の大きな特徴として木棺墓3基が検出されたことである。SK453・456はSB4・5に、SK2732はSB34の西側にそれぞれ隣接する（第68図）。こうした墓の在り方は、当時、畿内を中心とする西日本に分布する屋敷墓と共通する。橋田正徳氏によると、大坪遺跡のように家屋の側に1～2基の墓を作るものは11世紀後半に成立する屋敷墓1類となり、2基目の墓が作られる場合は別の建物に接して作られることが多いとされる〔橋田2003〕。SK453・456の構築時期は3期であるが、出土漆器からSK456のほうが新しいものと推測した。SK453の長軸方位は西偏2°であり、SB5の主軸方位やSB4の短軸方位とほぼ同じである。一方、SK456はSB28の主軸方位やSB19の短軸方位とほぼ共通する。したがって、SK456は掘立柱建物の中でも新しい時期のものを含む南北棟②・東西棟②と関連が深いものと推定される。また、SK453は時期的に近いSB4と関連する可能性がある。SK2732は長軸方位が西偏28°で、南北棟②の一群に近いと言え、3期にSB34などの建物に伴うように構築されたものであろう。

東日本における屋敷墓は、13世紀前半に宮城県王ノ塚遺跡〔小川・高橋2000、渡邊・竹田2000、田中2001〕まで分布するようになるが、関東では確認できず、波及経路は不明とされる〔橋田2003〕。一方、12世紀後半～13世紀前半の屋敷墓の可能性もあるものは、島田美佐子氏の集成〔島田1994〕を見ると富山・石川県内だけで少なくとも20基あり、大坪遺跡の屋敷墓の成立は北陸からの影響を考慮する必要もあろう。新潟県内では当期の屋敷墓は大坪遺跡以外で確認されていない。ただし、村松町茨塚遺跡において長さ1.6m、幅0.5mの木製棺SX7が検出され、枠外から漆器椀が出土している〔小鍛冶1999〕。この木棺は底面に板材を並べ、側面はおそらく板材を方形に組んだものであり、長軸方位はほぼ南北を指



第68図 屋敷墓の位置



第69図 村松町茨塚遺跡の木棺墓【小殿治1999より転載】

している（第69図）。こうした構造や木枠に接して漆器櫛が出土した特徴は、大坪遺跡の木棺墓と共通しており、木棺墓である可能性が高いと考える。遺構周辺からは9世紀末～10世紀初頭の遺物のみが出土し、掘立柱建物は検出されていない。この時期のものとするれば、古代に漆器櫛を副葬する木棺墓が成立していたことになる。しかし、調査面積は600㎡と狭く、SX7は調査区端で見つかっていることから、所属時期については検討が必要であろう。

3 中世集落の位置付け

はじめに遺跡立地の特徴について述べる。大坪遺跡は寺社集落がある自然堤防の東端に位置し、遺跡と上野林丘陵との間に後背湿地が広がる（第II章第5図）。遺跡土壌の花粉分析によれば、遺跡形成以前の土層では湿地林であったハンノキ風が多いものの、形成以後はこれが減少してニヨウマツ類の増加が顕著であることから、水田開発や周辺の森林資源利用による二次林の拡大があったものと推定される（第V章4）。第5図を見ると、自然堤防の西側に接するように旧河道が認められる。遺跡の西500mにある福隆寺は、この旧河道に接する自然堤防上にあり、福隆寺縁起によれば807年（大同2年）に千手院と号して創立されたとある〔藤田1997b〕。この縁起には「阿賀野川は、此南大門の前を流れるに、会津より上下の舟は、今の大杉に舟をつなぎ、観音堂に参りけると。」とあり、かつてこの旧河道は阿賀野川の一部であったと見られる。また、大坪遺跡の北1.5kmに位置する堀越館跡もこの旧河道沿いにあり、調査報告によれ

ばこの河道は中世の阿賀野川の河道と推定されている〔小田ほか2001〕。大坪遺跡は日本海と会津盆地を結ぶ阿賀野川のほぼ中間地点に位置し、河川交通の要衝であった可能性がある。

大坪遺跡の中世初期の集落は、11世紀中葉から始まり、12世紀末葉に衰退するものと推定される。多数検出された掘立柱建物は、面積100㎡を超える中心的な建物を含み、配置の規則性がある程度認められた。また、屋敷墓と考えられる木棺墓も存在し、副葬された漆器類はこの時期でも上質なものであることが科学分析により明らかになった（第V章2）。

ほかに注目される遺構として調査区東側で検出されたSD1が挙げられる。SD1の構築時期は2期と推定される。SD1に掘り込まれた遺構は確認されず、SD2・3やSB3のようにSD1に規制された遺構が認められたほか、調査区北側ではSD1より東側にほとんど遺構が確認されていない。したがって、SD1の構築は計画的に行われたものと考えられる。調査区外においてSD1の位置を検土杖で確認した結果、第II章第10図に示した明治23年の更正地図にある溝の位置とほぼ一致する大規模なものであることが明らかになった。この溝は地元の人によると昭和の初め頃まであったという。第II章第9図には大坪遺跡の南側に「上溜」と書かれた大きな溜池があり、その東側には湧水地もある。また、地元の人によれば湧水地の北側に「どどめきのしみず」と呼ばれた清水も湧出しており、水の豊富などころであったと言える³⁾。さらに、上溜の南側にはかつて庵地丘陵沿いに寺社川と呼ばれた川が引かれていたほか、上溜から堰を開けて放水するには領主の許可が必要であったという⁴⁾。したがって、この溝は大坪遺跡の2期に構築されて以後、現代まで利用された幹線の用水路であったと見られる。中世初期にこの溜池があったかは不明であるが、第5図のとおり溜池は南側の扇状地と後背湿地との境界に位置し、現況でも高低差があることから、用水路の起点であった可能性もあろう。仮にそうならば、起点に位置する大坪遺跡はこの溝を管理する重要な役を担っていた可能性もある。

このほか、遺跡内を蛇行するSD673も注目に値する。中心的な建物であるSB4の手前で折れ曲がっており、その角に泥の沈殿槽と見られる土坑が付随する。このように滞水により水を浄化する導水施設は、平城京や平安京の庭園跡などに見られる〔奈良国立文化財研究所1986：（財）京都市埋蔵文化財研究所2002〕⁵⁾。SD673の覆土の珪藻分析では、最下層の4層から湖沼環境を示す種群が多く検出されており、止水ないし緩やかな流れがあったものと考えられる（第VI章6）。大坪遺跡に圃池があったかは不明であるが、今後の調査により検討する必要がある。

出土遺物では、多数の白磁と高麗青磁といった当時入手が困難であった輸入陶磁器が特徴的である。口禿以前の白磁点数は179片であるが、県内では上越市至徳寺遺跡の524片、中条町政所条遺跡群の184片があり〔笹澤・水澤2001〕、これに次いで多いと言える。また、高麗青磁については、東北地方で12世紀前半～13世紀中葉のものが出土した遺跡は岩手県柳の御所跡、宮城県熊野堂大館跡の2か所のみであり〔降矢2002〕、阿賀野川上流の阿賀川沿いに位置する福島県陣が峯城跡で出土した初期高麗青磁〔吉田2004〕を入れても3遺跡に過ぎない。しかも、これらは城館跡と推定される遺跡に限定される。

以上の特徴から、大坪遺跡は有力者の居館跡の可能性が高いと考える。その有力者の候補として挙げられるのは、当時、阿賀北地域に勢力を誇っていたとされる平家の越後城氏である。県内では城氏との関係を明確に示す遺跡は発見されおらず、大坪遺跡においても城氏を指す資料はない。ここで注目されるのは、

3) 1967年の羽越大水害に伴う土石流により湧出しなくなったという。

4) 廣田康也氏のご教示による。

5) 吉田 敏氏のご教示による。

大坪遺跡の東900mの上野林丘陵上にある横峯経塚〔川上1979〕である。1号経塚からは陶製経筒や短刀のほか、「仁安カ□年カ」の墨書が認められる和鏡が出土し、12世紀後半のものとして推定されている⁶⁾。また、これより新しい12世紀末葉のものともみられる2号経塚では、和鏡・青白磁合子・短刀などが出土したほか、多数の礫の中から墨書が認められるものが10個あった。このひとつに「長茂」と読める可能性のものがあり、城長茂ではないかと考えられている。城長茂は「玉葉」治承五年(1981年)において「白川御館」と呼ばれていたとあり、現在の阿賀野市の範囲と推定される白河荘を拠点としていたと推定される。横峯経塚は大坪遺跡3期に並行し、両者が同時に存在していた可能性が高く、経塚の造営に大坪遺跡が関係していた可能性があろう。こうした居館と経塚との関係は、奥州藤原氏の柳之御所跡と金鶴山との位置関係にも類似しており、注目される。

城氏は大坪遺跡1期の11世紀中葉に活躍していたと見られる繁成の時に城家を名乗るようになったと考えられている。11世紀後葉から越後における活動が活発化したとされる〔藤田1997a〕。大坪遺跡2期にあたる長承三年(1134年)に白河荘が立荘され、これには城氏が関与していたと指摘される〔樋口2004〕。養和元年(1181年)には資職(長茂)が信州横田河原の合戦で木曾義仲に敗れ、その後、越後守に任命される。そして、建仁元年(1201年)に長茂は京都で関東追討の院宣を請うも果たせず、誅殺される。越後においても同年の鳥坂城の戦いで城氏は滅亡する。したがって、大坪遺跡3期の終わりと城氏の滅亡とが時期的に一致する。

このように、城氏と大坪遺跡の盛衰が一致し、地理的にも符合することは、両者の関連性を認める根拠と成り得る可能性が高い。いずれにしろ、阿賀北地域における城氏の時代の大規模な遺構を伴う遺跡は、大坪遺跡が初例であり、その意義は大きい。今後のさらなる調査によって、遺跡の性格が明らかになることを期待したい。

6) 鶴巻康志氏はこの経筒を窯跡の存在は明らかでないとしながらも、北越窯の北沢段階以前、つまり12世紀後半の珠洲Ⅰ期に位置付けている〔鶴巻1997〕。大坪遺跡で認められた珠洲系陶器には胎土中に海綿骨針が含まれないが、この経筒には多量に含まれる。筆者は経筒が珠洲焼である可能性を指摘したい。

要 約

- 1 大坪遺跡は、新潟県阿賀野市寺社字大坪甲 2219-2 他に所在し、阿賀野川右岸の標高約 13m の自然堤防上に位置する。
- 2 発掘調査は、国道 49 号安田バイパスの建設に伴い、平成 16 年 5 月 12 日～12 月 4 日に実施した。調査対象面積は合計 10,000m²である。
- 3 遺跡は平安時代（9 世紀末～10 世紀前葉）の土師器焼成遺構と、中世（11～12 世紀）の大規模な集落跡が検出された。
- 4 土師器焼成遺構は 5 基検出され、このうち 4 基から良好な土器が得られた。SX1786 は土師器無台椀・黒色土器無台椀・土師器鍋が数回にわたり焼かれていることが確認できた。
- 5 中世の遺構は調査区全域で確認され、掘立柱建物 54 棟、木棺墓 3 基・火葬墓ないし火葬場 1 基、竪穴状遺構 6 基、井戸 24 基、土坑 95 基、ピット 2587 基、溝 195 条を検出した。
- 6 調査区北側（北地区）では長さ 10m を超える大型掘立柱建物 12 棟を含む 39 棟の掘立柱建物が認められた。大形の柱穴をもつ SB4・5 は、当遺跡の中心的な建物であったと考えられる。これらの建物と隣接して屋敷墓と考えられる木棺墓 3 基を検出し、副葬品として良質の漆器椀・皿が出土した。
- 7 調査区南側（南地区）では掘立柱建物 15 棟のほか、13 世紀後半～14 世紀とみられる竪穴状遺構 6 基を検出した。ほかに、火葬墓ないし火葬場 1 基や、銭貨 7 枚が出土した土坑墓を含む土坑群がある。
- 8 調査区東側には南北約 300m にわたり幅 3.3m、深さ 1m の溝が検出された。明治期の土地更正図中にある溝と合致し、長らく使用されていたことが明らかとなった。
- 9 出土遺物は、弥生時代前期の土器が少量あるほか、古代～中世の土師器 50 箱・漆器 14 点、中世の陶磁器 10 箱、中世～近世の石器 13 箱・木柱根 53 点・木製品 141 点・金属製品 107 点・銭貨 51 点、近世の陶磁器 1 箱、一分判金 1 点がある。
- 10 中世の遺物は 11 世紀後半～12 世紀が主体であり、13～15 世紀のものが若干ある。珠洲焼・珠洲系陶器は I・II 期がおおく、III～VI 期がわずかである。
- 11 輸入陶磁器は白磁 203 片（口禿以前 179 点）、青白磁 13 片、青磁 84 片のほか、高麗青磁の梅瓶 1 片、磁州窯系白地鉄絵壺 1 片があり、輸入陶磁器が多数出土した。特に、高麗青磁は 12 世紀後半～13 世紀前半の可能性があり、該期のものは岩手県柳之御所跡、宮城県熊野堂大館跡の 2 か所に次いで 3 例目の貴重なものである。
- 12 当遺跡は大形のものを含む多数の掘立柱建物や、貴重な輸入陶磁器が多数出土したことから、当時の有力者の居館跡と考えられる。その板補として挙げられるのが越後城氏である。当遺跡は城氏の勢力範囲であったと推定される白河荘にあり、「白河御館」と呼ばれた城四郎資職（長茂）に関連する可能性がある横峰経塚が遺跡の東方約 900m に位置する。また、出土遺物や放射性炭素年代測定から判明した当遺跡の盛衰と城氏の盛衰が一致する。したがって、地理的・時間的に符合する両者に関連性があつた可能性があらう。

引用・参考文献

- 荒川隆史²⁰⁰⁴ 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鎌山えりか²⁰⁰⁴ 『新潟市山木戸遺跡』新潟市教育委員会
- 石川日出志¹⁹⁹² 『六野瀬遺跡1990年調査報告書』安田町教育委員会
- 伊藤啓雄 1998 『新潟県における経塚研究の現状と課題—埋経とされる経塚の遺構と出土状況—』柏崎市立博物館報 第12号 柏崎市立博物館
- 入間田宜夫 1997 『地域から中世を読む～越後白河幕府の可能性をめぐって』講演録『地理歴史・公民研究』第36集 新潟県高等学校教育研究会
- 上田秀夫 1982 『14～16世紀の青磁碗の分類』『貿易陶磁研究』第2号
- 卜部厚志²⁰⁰⁴ 『奈良平安時代の越後平野の古地理をめぐって』『資料集淳足堀の4カ年』沼垂の今昔を考える会
- 小川淳一・高橋綾子 2000 『仙台市王ノ壇遺跡』仙台市教育委員会
- 小田由美子²⁰⁰¹ 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第99集 堀越館跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 赤坂山中世窯跡・赤坂山B遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野正敏 1982 『15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代』『貿易陶磁研究』第2号
- 小野正敏 2001 『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
- 春日真実 1997 『越後における10・11世紀の土器様相』『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1999 『第4章古代 第2節土器編年と地域性』『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第97集 大武遺跡Ⅰ(中世編)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2000 『第Ⅶ章3.A.古代・中世における雑物・曲物の変遷』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第97集 大武遺跡Ⅰ(中世編)新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003 『第Ⅴ章 遺物』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区) 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実²⁰⁰⁴ 『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 加藤 学 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第128集 仲田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 川上貞雄 1977 『水原城館址及水原代官所址発掘調査報告書』水原町教育委員会
- 川上貞雄 1979 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘報告書Ⅰ 横峯経塚群』安田町教育委員会
- 川上貞雄 1979 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘報告書Ⅲ 行塚・小山崎遺跡』安田町教育委員会
- 川上貞雄 1979 『発久遺跡 発掘調査報告書』箕神村
- 川上貞雄 1980 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘報告書Ⅳ 中道遺跡』安田町教育委員会
- 川上貞雄¹⁹⁸¹ 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 横峯A・B遺跡』安田町教育委員会
- 川上貞雄 1996 『新津市文化財調査報告書 金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』新津市教育委員会
- 橘田正徳 1991 『屋敷墓試論』『中近世土器の基礎研究』Ⅷ日本中世土器研究会
- 橘田正徳 2003 『お墓が語る中世の家と社会—曲川遺跡木棺墓とその周辺—』
- 橘田正徳 2004 『中世前期の墓制—墓地、屋敷墓からみた中世前期の家・集落・社会—』『考古学が語る「中世墓地物語」』大谷女子大学
- 小池義人¹⁹⁹⁴ 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第59集 細池遺跡・寺道遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小鍛治快弘 1999 『村松町埋蔵文化財調査報告書 第6集 深塚遺跡』村松町教育委員会
- 五頭山のおいたち編集委員会 1984 『五頭山のおいたち 地学ハイキング』新潟日報事業社
- 小林昌二²⁰⁰⁴ 『箕神町史 通史編』箕神村
- 小林昌二²⁰⁰⁴ 『箕神村史 資料編—原始・古代・中世』箕神村
- 小山正忠・竹原秀雄 1998 『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
- (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002 『平安京右京三条二坊十五・十六町—「甕宮」の那七跡—』
- 坂井秀弥 1988 『新潟県における中世考古学の現状と課題』『新潟考古学談話会会報』第1号 新潟考古学談話会
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第118集 上浦遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 箕神正史・水澤幸一 2001 『伝至徳寺跡の遺物様相～中世前半を中心として～』『上越市史研究』第6号 上越市
- 品田高志 1997 『第2節越後国における土師器の変遷と諸相』『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』北陸中世土器研究会

- 品田高志 1997 『北陸における古代と中世の木製食器』『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会
- 島田美佐子 1994 『第IV章 5 墓』『梅原胡堂遺跡発掘調査報告(遺構編)』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 鈴木俊成¹⁾ 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋信一²⁾ 2003 『会津巖井北道路遺跡発掘調査報告2』福島県教育委員会
- 高濱信行³⁾ 2004 『箕神村史 資料編5』箕神村
- 田嶋明人⁴⁾ 1979 『加賀市田尻シンペイダシ遺跡発掘調査報告書』石川県教育委員会
- 田嶋明人 1988 『古代土器編年輪の設定』『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川県考古学会・北陸古代土器研究会
- 田中則和 2001 『王ノ壇遺跡』『堀立と竪穴』高志書院
- 田村 裕・矢田俊文 2003 『17「玉葉」治承五年七月一日来 国書刊行会刊本 第2章第2節中世資料』『箕神村史 資料編一原始・古代・中世』
- 鶴巻康志 1997 『北越室の年代と技術系譜』『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 鶴巻康志 2001 『越後・佐渡地方の中世竪穴状遺構』『堀立と竪穴』高志書院
- 鶴巻康志 2004 『土師器からみた中世の小地域圏—新潟県阿賀北地方を中心に—』『中近世土器の基礎研究』XVIII 日本中世土器研究会
- 永井久美男 1998 『近世の出土土器—分類図版編—』兵庫県埋蔵調査会
- 永井久美男 2002 『中世出土土器の分類研究』高志書院
- 中川成夫・川上貞雄・土井義夫 1973 『猿沢窯址群の調査』箕神村教育委員会(新潟県)
- 中川成夫・倉田芳郎 1962 『新潟県北蒲原郡における二室址の調査』立教大学文学部史学研究室
- 中川成夫・倉田芳郎・加藤晋平・森川昌和 1970 『箕神村権兵衛窯址の調査』『水原郷』新潟県教育委員会
- 中野賢任 1976 『白川荘について』『社会科学研究 第12集』新潟県高等学校教育研究会社会科部会
- 奈良国立文化財研究所 1986 『平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告』
- 長谷部楽爾 1996 『中国の陶磁 第7巻 越州窯』平凡社
- 樋口真己 2004 『中世 第1章 白河荘の成立と城氏の展開』『箕神村史』通史編 箕神村
- 廣田康也 2004 『安田町史 近世編四』安田町
- 藤田正義 1997a 『安田町史 中世編』安田町教育委員会
- 藤田正義 1997b 『安田町史 近世編一』安田町
- 古澤史史 2002 『京ヶ瀬村教育委員会発掘調査報告書 第1集 町道上遺跡』京ヶ瀬村
- 降矢哲男 2002 『韓半島陶磁の流通—高麗時代の青磁を中心に—』『貿易陶磁研究』第22号 日本貿易陶磁研究会
- 降矢哲男 2004 『日本出土の高麗時代・韓半島陶磁器の様相』『高麗青磁の生産と流通』日本貿易陶磁研究会集第25回研究会資料
- 北陸中世考古学研究会 1998 『北陸中世の金属器』『第11回北陸中世考古学研究会資料集』
- 北陸中世考古学研究会 1999 『北陸中世の石文化』『第12回北陸中世考古学研究会資料集』
- 北陸中世考古学研究会 2004 『堀立柱建物から礎石建物へ』『第17回北陸中世考古学研究会資料集』
- 水澤幸一 2001 『下町・坊城遺跡V』中条町教育委員会
- 水澤幸一 2001 『越後城址にみる「兵」の家系とその展開』『おくやまのしょう』第26号 中条町郷土研究会
- 水澤幸一・鶴巻康志 2003 『第1章 第2節 9 至徳寺遺跡(至徳寺館跡・至徳寺跡)』『上越市史叢書』8 上越市
- 水澤幸一 2005 『越後の中世土器』『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 宮本長二郎 1999 『日本中世住居の形成と発展』『建築史の空間』中央公論美術出版
- 宮本長二郎⁵⁾ 2001 『東北中世考古学会叢書2 堀立と竪穴』東北中世考古学会
- 森田 勉 1982 『14~16世紀の白磁の型式分類と編年』『貿易陶磁研究』第2号
- 山口陽子⁶⁾ 2000 『小山崎遺跡発掘調査報告書』安田町教育委員会区員会
- 山崎忠良 2003 『第V章遺物2 A土器・陶磁器』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第125集 下沖北遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山本信夫 2000 『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』大宰府市教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉岡康暢 2003 『珠洲焼瓶論』『平成15年度埋蔵文化財専門職員実務研修「講義」・「事例報告」資料集』新潟県教育庁文化行政課
- 吉田博行 2004 『陣が峯城跡の調査成果』『日本考古学』第18号 日本考古学協会
- 吉田博行⁷⁾ 2004 『蒙王寺遺跡』会津坂下町教育委員会
- 渡辺明和 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査発掘調査報告書「居村遺跡E・A・C地点、大人遺跡A地点」』新潟市教育委員会
- 渡邊 誠・竹田幸司 2000 『大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡』仙台市教育委員会
- 渡邊裕之 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第138集 五反田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

掘立柱建物計測表

	型式	東側	南行	南行長	身舎 南行長	南行 柱間長	南行柱長	南行長 (m)	身舎 南行長	南行 柱間長	南行柱長	手輪方位	身舎(m)	全体(m)	判定 西暦 時期
SH1	二面庇付総柱建物	4	4	5.00	4.14	2.12	0.43	8.64	8.64	2.72	2.80	—	—	—	—
SH2	総柱建物	2	3	4.80	—	2.56	—	7.72	—	2.54	—	—	—	—	—
SH3	四面庇付総柱建物	4	6	6.08	4.44	2.24	0.92	9.72	7.96	3.76	2.54	1.18	—	—	—
SH4	四面庇付総柱建物	4	5	8.56	4.34	2.24	2.20	14.20	9.04	3.00	2.24	—	—	—	—
SH5	三面庇付家間一翼型建物	4	5	9.44	5.02	2.68	2.24	12.78	10.72	2.72	2.20	—	—	—	—
SH6	総柱建物	2	3	3.56	—	1.82	—	6.20	—	2.38	1.92	—	—	—	—
SH7	六面庇付総柱建物	4	7	6.40	4.48	2.28	1.00	15.38	13.86	3.32	1.00	—	—	—	—
SH8	総柱建物・地下状施設	2	2	3.68	—	1.86	—	3.88	—	1.96	—	—	—	—	—
SH9	四面庇付総柱建物	4	5	7.26	4.74	2.42	1.28	11.28	9.00	3.48	2.96	1.24	—	—	—
SH10	一面庇付総柱建物	2	4	4.48	—	2.28	—	6.96	5.54	3.20	0.80	—	—	—	—
SH11	四面庇付総柱建物	4	7	8.12	4.8	2.34	1.80	13.36	11.70	3.32	1.76	—	—	—	—
SH12	総柱建物	2	3	6.22	—	3.00	—	9.20	—	3.68	3.56	—	—	—	—
SH13	二面庇付総柱建物	4	3	7.14	4.78	2.56	1.22	10.26	10.26	3.54	—	—	—	—	—
SH14	総柱建物	2	3	3.54	1.84	—	—	5.54	—	2.04	1.88	—	—	—	—
SH15	家間一翼型建物	2	2	1.92	—	—	—	3.80	—	1.92	—	—	—	—	—
SH16	総柱建物	2	3	3.58	1.74	—	—	8.84	—	2.96	—	—	—	—	—
SH17	四面庇付総柱建物	4	5	7.12	4.32	2.16	1.54	10.76	7.98	3.28	2.48	1.40	—	—	—
SH18	一面庇付総柱建物	3	3	5.84	4.84	2.44	1.00	8.14	8.14	2.24	2.62	—	—	—	—
SH19	四面庇付総柱建物	4	4	6.88	4.28	2.16	1.28	10.04	9.16	3.28	2.58	1.28	—	—	—
SH20	四面庇付家間一翼型建物	3	4	5.70	2.94	1.16	0.56	4.40	2.38	1.16	—	—	—	—	—
SH21	総柱建物	2	2	3.94	—	2.02	—	4.76	—	2.40	—	—	—	—	—
SH22	一面庇付総柱建物	2	4	6.22	6.22	3.24	—	9.40	8.20	3.90	2.16	1.20	—	—	—
SH23	総柱建物	2	2	4.72	—	2.48	—	6.36	—	3.22	—	—	—	—	—
SH24	四面庇付総柱建物	2	4	8.76	5.84	3.00	1.48	7.60	7.60	3.38	—	—	—	—	—
SH25	四面庇付総柱建物	4	1	7.70	4.94	2.48	1.40	3.60	3.60	3.60	—	—	—	—	—
SH26	家間一翼型建物	1	2	2.54	—	2.54	—	2.60	—	1.52	—	—	—	—	—
SH27	総柱建物	2	3	4.24	—	2.24	—	8.80	—	3.40	2.74	—	—	—	—
SH28	四面庇付総柱建物	4	5	7.04	4.88	2.44	1.18	10.68	8.82	3.20	2.90	1.22	—	—	—
SH29	四面庇付家間一翼型建物	3	3	6.48	4.20	2.16	1.18	9.26	3.42	3.42	3.02	—	—	—	—
SH30	四面庇付総柱建物	4	5	8.88	4.24	2.16	0.84	10.30	8.20	3.38	2.50	0.68	—	—	—
SH31	家間一翼型建物	1	3	3.08	—	—	—	4.88	—	1.94	—	—	—	—	—
SH32	二面庇付総柱建物	3	4	5.96	4.88	2.52	0.96	10.76	9.16	3.28	1.48	—	—	—	—
SH33	一面庇付総柱建物	2	3	4.92	4.92	2.60	—	6.96	6.04	3.48	2.56	0.92	—	—	—
SH34	四面庇付総柱建物	4	6	7.16	4.70	2.40	1.28	12.76	9.98	3.04	2.04	1.38	—	—	—
SH35	二一面庇付総柱建物	4	—	6.84	4.66	2.42	1.10	—	—	3.20	2.74	—	—	—	—
SH36	総柱建物	2	2	4.48	—	2.20	—	5.46	—	3.22	2.54	—	—	—	—
SH37	家間一翼型建物	1	2	2.60	—	—	—	4.88	—	2.46	—	—	—	—	—
SH38	総柱建物	2	3	5.66	—	2.90	—	10.76	—	4.00	3.40	—	—	—	—
SH39	二面庇付総柱建物	4	4	5.80	4.38	2.40	1.18	9.16	8.12	3.24	2.48	1.04	—	—	—
SH40	二面庇付総柱建物	2	4	5.68	5.68	3.18	—	9.52	8.52	3.52	2.62	1.00	—	—	—
SH41	二面庇付総柱建物	4	4	8.72	6.78	3.46	1.00	11.52	11.52	3.12	2.36	—	—	—	—
SH42	総柱建物	2	2	4.60	—	2.38	—	5.56	—	2.94	2.62	—	—	—	—
SH43	総柱建物	2	2	4.92	—	2.52	—	5.84	—	3.26	2.56	—	—	—	—
SH44	家間一翼型建物	1	3	3.28	—	—	—	4.56	—	2.32	—	—	—	—	—
SH45	一面庇付総柱建物	2	2	2.96	2.20	—	—	0.76	4.88	2.30	—	—	—	—	—
SH46	総柱建物	2	2	2.96	—	1.60	—	3.62	—	1.80	—	—	—	—	—
SH47	二面庇付総柱建物	4	4	7.16	5.14	2.64	1.14	9.84	8.82	3.16	2.50	0.96	—	—	—
SH48	総柱建物	2	3	3.80	—	1.94	—	6.36	—	3.80	1.92	—	—	—	—
SH49	家間一翼型建物	1	3	2.82	—	—	—	6.52	—	2.32	—	—	—	—	—
SH50	家間一翼型建物	1	3	1.88	—	—	—	6.96	—	2.46	—	—	—	—	—
SH51	総柱建物	2	2	3.56	—	1.88	—	5.20	—	2.64	—	—	—	—	—
SH52	総柱建物	2	3	4.84	—	2.46	—	9.28	—	3.48	3.08	—	—	—	—
SH53	家間一翼型建物	1	3	2.98	—	—	—	4.56	—	1.82	1.30	—	—	—	—
SH54	家間一翼型建物	1	3	2.38	—	—	—	4.24	—	2.24	—	—	—	—	—

遺構観察表 (2)

掘立柱建物の柱穴 (1)

SB1

遺構番号	グリッド	所収の土層 時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
20	2D24	Ⅱ	104 42	9	13.01			
21	2D15	Ⅱ	22 20	47	12.53			
22	2D14	Ⅱ	22 20	24	12.78	A		
51	2D12	Ⅱ	27 25	40	12.57	A		
53	2D17・22	Ⅱ	17 15	29	12.51	A		
56	2D18	Ⅱ	39 25	58	12.38	A		
57	2D13	Ⅱ	22 18	37	12.64	A		
58	2D13	Ⅱ	28 21	50	12.50	A		
60	2D24	Ⅱ	24 23	31	12.69	A		
62	2E5	Ⅱ	26 25	48	12.58	A		
72	2D22	Ⅱ	27 24	45	12.51	B		
78	2D23・2E3	Ⅱ	26 25	50	12.49			
80	2E4	Ⅱ	13 12	8	12.87			
81	2D20	Ⅱ	45 33	46	12.54	A		
87	3D11	Ⅱ	24 22	45	12.62	A		
88	3D14	Ⅱ	18 15	18	12.87			
90	2D14	Ⅱ	28 23	13	12.87	A		
91	3D16	Ⅱ	27 24	33	12.74			
92	3D21	Ⅱ	33 28	36	12.70	A		
93	3E1	Ⅱ	25 20	44	12.62	A		
107	2D15	Ⅱ	21 18	2	12.60			
337	2D25	Ⅱ	15 15	48	12.56			

SB2

遺構番号	グリッド	所収の土層 時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
52	2D21	Ⅱ	30 28	40	12.59			
55	2D23	Ⅱ	29 23	30	12.68			
59	2D24	Ⅱ	31 30	37	12.60	A		
61	2D25	Ⅱ	33 32	42	12.60	B		
64	2E10	Ⅱ	28 25	36	12.64	A		
66	2E1	Ⅱ	36 20	39	12.58	A		
67	2E6	Ⅱ	29 27	36	12.64	A		
73	2E3	Ⅱ	37 32	41	12.58	A	土師器122	
75	2E8	Ⅱ	26 25	31	12.64	A		
82	2E9	Ⅱ	35 25	68	12.40	A		
101	2E5	Ⅱ	37 32	40	12.65			
108	2E4	Ⅱ	30 28	31	12.71			

SB3

遺構番号	グリッド	所収の土層 時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
11	3F13・12	Ⅱ	26 23	42	12.63	A		
12	3F8	Ⅱ	26 24	39	12.63			
14	3F3	Ⅱ	26 23	45	12.61	A		
15	3F8	Ⅱ	25 24	38	12.65	A		
16	3F4	Ⅱ	27 26	35	12.70	A		
19	3F4	Ⅱ	28 22	43	12.64	A		
27	3F5	Ⅱ	23 22	42	12.66	A	白磁123	
30	3F13	Ⅱ	30 28	48	12.57	A		
33	3F10	Ⅱ	26 23	68	12.65	A		
34	3F14	Ⅱ	42 30	24	12.83	A		
74	4F8	Ⅱ	28 22	42	12.58	A		
104	3F19	Ⅱ	29 25	47	12.57			
105	3F19	Ⅱ	23 22	43	12.60			
204	4F7	Ⅱ	27 24	37	12.68	A		
205	4F7	Ⅱ	25 23	33	12.72	A		
212	4F12・13	Ⅱ	30 26	37	12.67			
214	4F17	Ⅱ	30 25	43	12.60	A		
233	4F11	Ⅱ	43 41	38	12.61	A		
234	4F16	Ⅱ	27 25	30	12.72	A		
235	4F21	Ⅱ	27 24	15	12.88	A		
246	4F22	Ⅱ	23 22	21	12.67			
4505	4F17	Ⅱ	15 14	17	12.80	A		

SB4

遺構番号	グリッド	所収の土層 時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
514	6C7	Ⅱ	52 43	36	12.74			<P1574
515	6C12	Ⅱ	53 53	43	12.63			<SD408
516	6C22・23	Ⅱ	74 61	13	12.97			
517	6D3	Ⅱ	33 32	18	12.82			
518	6D3	Ⅱ	66 64	26	12.88			
518	6D13	Ⅱ	60 57	22	12.92			
519	6C8	Ⅱ	65 61	49	12.67			<SD435
			19 18	56	12.48			
520	6C13	Ⅱ	79 77	24	12.90			<P511
			29 26	32	12.73			
521	6C23・24	Ⅱ	79 79	30	12.82			<SD408
			21 20	39	12.63			
522	6D4・3	Ⅱ	80 73	37	12.77			
			28 28	33	12.59			
523	6D9・14	Ⅱ	64 58	28	12.83		土師器124	
			14 13					
524	6C4・9	Ⅱ	70 68	65	12.54			
			20 18	52	12.54			
525	6C14	Ⅱ	69 67	51	12.70			
			21 16	55	12.53			
526	6C24・25	Ⅱ	58 54	33	12.80			
			26 21	32	12.62			
527	6D4・5	Ⅱ	86 81	35	12.79			<P1581
			26 24	38	12.66			<SD435
								<P1582
528	6D10・15	Ⅱ	58 56	30	12.85			<P1581
529	6C5	Ⅱ	70 64	54	12.64			
			35 25	59	12.52			
530	6C20・25	Ⅱ	78 72	43	12.69			<SD537
			22 18	31	12.44			
531	7D1	Ⅱ	78 76	44	12.70			
			26 22	50	12.54			<SD435
532	7D6	Ⅱ	57 50	36	12.67			
534	7C11・12	Ⅱ	58 56	53	12.79		土師器125, 白磁128	
			15 13	42	12.78			
535	7C17	Ⅱ	55 51	33	12.81			
536	7D2	Ⅱ	62 54	29	12.82		土師器126	
			26 20			A		
813	6C2	Ⅱ	60 57	30	12.78			
1484	7C1	Ⅱ	67 62	35	12.85		白磁127	
			19 18	39	12.70			
1505	6C15	Ⅱ	76 58	18	12.70			<SD537
			30 30	21	12.59			
1515	7D7	Ⅱ	52 49	6	12.87			
2165	7B21	Ⅱ	38 37	18	12.86			<SD442

SB5-1

遺構番号	グリッド	所収の土層 時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
449	7C17	Ⅱ	86 79	27	12.83			<SD442
			19 16	34	12.63			
663	8B22	Ⅱ	48 48	41	12.75			
			24 18	37	12.85			
896	7B24・25	Ⅱ	70 68	57	12.69			<P3003
			18 17	60	12.56			
1030	7B23・7C3	Ⅱ	92 80	49	12.76			<P890
			16 14	50	12.65			
1045	7C7	Ⅱ	97 91	44	12.83			<SD442
			21 16	39	12.73			
1046	7C8	Ⅱ	92 78	40	12.75			<P1486
			63 54	46	12.80			
1082	7C18・19	Ⅱ	66 61	36	12.77			
			18 18	51	12.55			
1084	7C20	Ⅱ	96 82					
			22 21	52	12.55			
1090	7C24	Ⅱ	70 68	34	12.74			<SD673
			18 18	34	12.70			<P1080
								<SK1094

掘立柱建物の柱穴 (2)

SB5-2

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
1205	7C2	II	80	74	47.12.75			
			24	22	45.12.66			
1344	8C2	II	78	79	47.12.77			
			24	23	60.12.58			
1481	7C22	II	76	66	13.12.75		<P1873, <SD442	
			20	18	37.12.69			
1483	8R21	II	66	56	49.12.76		*P1335	
			36	34	55.12.59			
1490	7C4・5・9・10	II	88	80	57.12.67		<P1039, <P1035, <P4692	
			21	20	57.12.60			
1767	8C7・12	II	86	84	50.12.72			
			28	22	46.12.70			
1768	8C17・18	II	90	72	28.12.83			
			41	34	34.12.68			
1769	8C13・14・18・19	II	76	71	28.12.85			
			20	17	28.12.76			
1761	8C23・24	II	70	64	34.12.95		<P690, <P4695	
			11	11	58.12.72			
1762	8C22・23	II	84	76	43.12.85		<P686	
			16	14	43.12.75			
1763	8C21	II	80	74	52.12.76			
			24	21	46.12.70			
1765	7C25	II	72	69	13.13.11		<P2831, >P2850, <SD673	
			24	23	17.12.66			
1766	8C16	II	88	76				
			24	23	53.12.59			
1767	8C3	II	62	56	30.12.86			
			22	19	30.12.78			
1768	8R23	II	32	34	29.12.92			
			16	15	24.12.88			
1769	8C1・6	II	86	70	44.12.79		<SD443, >P1848	
			31	26	45.12.67			
1782	7C12	II	82	71	56.12.78		土跡器129	<SD442
1784	8C8・9	II	94	64	27.12.94			

SB7-2

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
177	4E13	II	21	20	25.12.85	B		
			25	23	44.12.62	B		
179	4E14	II	27	22	62.12.46	A		
			27	25	48.12.61	A		
220	4E13	II	22	19	23.12.88	B		
			26	21	60.12.58	A		
267	5D1	II	15	14	24.12.91			
			33	28	37.12.77			
278	5D6	II	23	20	68.12.40			柱根614
			26	24	51.12.62	B		
294	5D7・8	II	24	18	41.12.76			
			27	26	47.12.72			
300	5D18	II	27	23	39.12.76	A		
			27	24	55.12.62	A		
322	5D20	II	20	20	17.13.01			
			21	19	64.12.46	A		
338	5D15・20	II	22	18	21.12.92			
			35	28	49.12.68			
347	5D14	II	29	17	39.12.80	B		
			29	17	39.12.80	B		
353	5E11	II	28	28	53.12.56	A		
			26	23	33.12.82	A		
390	4D25	II	20	19	42.12.64			柱根
			35	28	46.12.69			
415	5D4	II	21	18	28.12.72			<SK365
			21	18	28.12.72			<SK365
445	5D10	II	26	25	21.12.90	A		#SD447
			24	21	17.12.98	A		#SD447
497	6D1	II	24	20	19.12.97			
			24	19	21.12.96			
499	5D5	II	23	21	29.12.83	A		<SD263
			17	15	14.13.04	B		
707	5D4	II	24	22	30.12.95	A		
			30	23	39.12.65	A		
962	4D14	II	27	25	39.12.78	A		
			29	24	53.12.57	A		
973	5E6	II	30	28	38.12.75	A		
			54	33	72.12.35			
998	5E11	II	25	23	26.12.86			
			30	28	39.12.75	A		<SD263

SB6

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
95	4F8	II	25	22	29.12.69	A		
97	4F3	II	21	20	47.12.56	A		
188	4E20	II	17	15	46.12.61	A		
190	4E24	II	22	21	86.12.18	A	柱根630	
192	4E25	II	20	17	43.12.59	A	土跡器132	
207	4F9	II	25	23	64.12.48	B		
209	4F9	II	24	22	34.12.71			
221	4E18	II	26	15	46.12.56			
227	4F4	II	24	20	76.12.25	A		
228	4F5	II	15	14	53.12.48	A		
948	4E23	II	10	9	29.12.71	B		
956	4E19	II	25	22	48.12.56	B		

SB8

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
84	4C10	II	27	24	31.12.70			
182	4C25	II	27	25	40.12.69			
237	5C11	II	32	30	41.12.70			
240	5C16	II	30	34	39.12.75			
241	5C21	II	23	19	38.12.78	A		
254	5C12・13	II	39	31	43.12.68			
275	5D2	II	24	20	44.12.72	A		
312	5C15	II	32	38	64.12.55	B	土跡器131	
315	5C14	II	39	35	47.12.74	A		
316	5C22	II	39	38	35.12.76			
317	5C10	II	24	22	46.12.74	B		
355	5C9	II	40	31	27.12.86			
392	4C25	II	34	31	45.12.65	A		
432	5D1	II	28	25	30.12.82	B		
438	5D2	II	33	22	37.12.78	B		
708	5C7	II	35	31	44.12.66	A		
1006	4C15	II	28	24	38.12.60			
1008	5C6	II	26	23	40.12.70	A		
1011	4D5	II	32	23	41.12.73			
1016	5D6	II	27	20	48.12.65			
4721	5D6・7	II	33	25	58.12.49			<P273

SB7-1

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
114	4D3	II	26	23	47.12.69	B		
115	4D3	II	24	22	35.12.83	A		
116	4D3	II	33	30	30.12.81	B		
121	4D8	II	26	24	52.12.65	B		
123	4D4	II	22	20	21.12.82	A		
124	4D4	II	22	19	15.12.85	A		
125	4D8	II	23	22	22.12.95			
130	4D9	II	29	25	45.12.71			
140	4D13・18	II	28	27	70.12.45	B		
151	4D23	II	23	21	50.12.59			
152	4D23	II	22	19	58.12.58	A		
170	4E8	II	25	24	31.12.74			
171	4E8	II	25	22	67.12.46			

遺構観察表 (4)

掘立柱建物の柱穴 (3)

SB9

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
350	0E17・22	Ⅱ	34 30	49	12.63		加工漆507	
359	5E20	Ⅱ	20 19	21	12.91	A		
422	5E20	Ⅱ	33 28	37	12.75			
423	5F5	Ⅱ	19 17	30	12.75	A		
424	5F5	Ⅱ	34 30	35	12.69			
538	0E12	Ⅱ	94 74	43	12.73			
585	0E12	Ⅱ	30 23	45	12.73	A		
593	0E14	Ⅱ	30 28	23	12.87	A		
599	0E15	Ⅱ	35 32	27	12.77	B		
606	0E14・19	Ⅱ	37 30	49	12.64			
607	0E24	Ⅱ	38 32	35	12.74	A		
608	0F3	Ⅱ	30 28	37	12.63	A	土師器133	
609	0F3・8	Ⅱ	42 40	23	12.70	A		
706	0F2	Ⅱ	45 33	39	12.65	B		
734	0F5	Ⅱ	46 38	29	12.71			
739	0E25	Ⅱ	20 14	31	12.64	A		
747	5E15	Ⅱ	27 25	18	12.93	A		
854	5E15	Ⅱ	41 32	43	12.68	A	白磁134	
1965	0F10	Ⅱ	21 21	23	12.77	A		
2093	0E25	Ⅱ	20 18	11	13.00	A		
2094	0E15, 7E16	Ⅱ	25 20	10	12.97	A		
4571	0E20	Ⅱ	27 24	8	12.76	A		
4690	0F5	Ⅱ	24 20	9	12.92			

SB10

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
3040	17B16	Ⅱ	26 24	60	12.53	A		
3041	17B16	Ⅱ	26 22	25	12.87	A		
3042	17B13	Ⅱ	26 22	19	12.99			
3044	17B17・18	Ⅱ	26 24	25	12.92			
3045	17B17	Ⅱ	18 16	7	13.09			
3047	17B23	Ⅱ	26 22	37	12.72	A		
3058	17B22	Ⅱ	26 22	17	12.98	A		
3062	17B19	Ⅱ	26 24	28	12.91	B		
3063	17C8	Ⅱ	30 27	30	12.81	A		
3064	17C7	Ⅱ	23 19	25	12.71			
3079	17B21	Ⅱ	32 24	67	12.42	B		
3164	17B19	Ⅱ	32 26	50	12.69			
3166	17C6	Ⅱ	36 28	46	12.62			
3167	17B19	Ⅱ	31 28	34	12.84	A		
3187	17B11	Ⅱ	20 17	21	12.86	A		<SK3039

SB11-1

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
2391	13D15	Ⅱ	32 37	24	12.69			
2395	13D18	Ⅱ	30 18	17	12.92	A		
2432	13D24	Ⅱ	40 40	47	12.69			<P2948, <P2962
2437	13E4・5	Ⅲ	40 38	67	12.59	A		
2507	14D22	Ⅱ	42 40	65	12.54			
2510	14E1	Ⅱ	29 22	36	12.76			
2513	14E2	Ⅱ	44 40	70	12.49			
2515	14E6	Ⅱ	42 36	55	12.60	B		
2523	14E7	Ⅱ	40 34	76	12.43			
2567	14D11・12	Ⅱ	30 28	48	12.75	B		
2570	14D13	Ⅱ	31 29	55	12.68			
2573	14D9	Ⅱ	26 20	28	12.97	B		<SD2728
2578	14D17	Ⅱ	42 40	56	12.60			
2580	14D18	Ⅱ	42 37	66	12.58			
2589	14E5	Ⅱ	30 30	54	12.46			
2594	14E4	Ⅱ	32 28	61	12.61			
2678	14D21	Ⅱ	24 20	37	12.72			>SD673
2681	13D20	Ⅱ	42 40	49	12.54			<SD2476
2863	14E4・5	Ⅱ	34 30	42	12.72	A		#SD2583
2891	13D18	Ⅱ	58 44	41	12.69	A		<SD2476
2894	13E10	Ⅱ	44 37	56	12.57			
2896	14D24	Ⅱ	34 34	45	12.74			#SD2583

SB11-2

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
2898	14D14	Ⅱ	34 24	32	12.85	A		#SD2802
2923	14E3	Ⅱ	38 38	52	12.68			
2968	13D23	Ⅲ	34 18	39	12.71	A		
2999	13D13	Ⅱ	32 30	45	12.60	G		
3001	13E8	Ⅱ	30 21	13	12.70			<SK2966
3259	14D19	Ⅱ	43 36	48	12.75	A		#SD2583
3260	14D25	Ⅲ	38 36	41	12.77	D		
4577	13E8	Ⅱ	34 18	11	12.93	B		

SB12

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
702	8D3	Ⅱ	26 25	49	12.75			
845	8D10	Ⅱ	36 33	53	12.67			>SD673
859	8D5	Ⅲ	20 17	21	12.99	F		
904	8D7	Ⅱ	25 21	64	12.60			
907	8D8	Ⅱ	40 36	49	12.70			
912	8D17	Ⅱ	34 31	30	13.77			
914	8D18	Ⅱ	26 24	63	12.54			
938	8E2	Ⅱ	40 36	53	12.50			
941	8E3	Ⅱ	51 43	44	12.71			
1157	8E5	Ⅱ	31 29	60	12.53	A		
1799	8D2	Ⅱ	45 33	30	12.98	A		#P697
4701	8D20	Ⅱ	32 28	61	12.60			#SX1786, <P3033

SB13

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
3543	19E1	Ⅱ	29 25	57	12.65	B		
3545	19E16	Ⅱ	28 26	35	12.90	A		
3552	19E16	Ⅲ	29 26	53	12.72	A		
3555	19E9	Ⅱ	22 21	41	12.85	A		
3557	19E9	Ⅱ	30 28	56	12.70	B		
3559	19E19	Ⅱ	35 30	55	12.79	B		#P3560
3567	18E5	Ⅱ	15 11	6	13.23	A		
3568	19E17	Ⅱ	36 23	25	13.01	A		
3569	19E18	Ⅱ	33 36	46	12.78	A		
3571	19D13・18	Ⅱ	28 24	47	12.73	B		
3575	19E8	Ⅱ	20 18	43	12.82	B		#P3561
3616	19D22, 19E2	Ⅱ	34 32	46	12.74	B		
3655	19E15	Ⅱ	28 22	45	12.82	B		
3656	19E11	Ⅲ	22 20	23	13.03	C		
3913	19D23	Ⅱ	18 14	23	12.71			>SD3538
4091	19D24	Ⅱ	16 16	23	12.80			>SD3538, <P4900
4145	19D16	Ⅱ	20 20	17	12.98			
4735	18E20	Ⅱ						

SB14

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
180	4E17	Ⅱ	19 18	47	12.66	A		
183	4E22	Ⅱ	17 15	40	12.69			
186	4E19・24	Ⅱ	22 20	37	12.66	A		
191	4E24	Ⅱ	22 21	47	12.59	A		
197	4F4	Ⅱ	21 19	43	12.62	A		
208	4F9	Ⅱ	20 18	28	12.78	A		
229	4F7	Ⅱ	16 13	14	12.93			
946	4F3	Ⅱ	23 20	42	12.63	A		
947	4E23	Ⅱ	15 14	25	12.73	A		

掘立柱建物の柱穴 (4)

SB15

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	厚土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
200	4F5	Ⅱ	32	21	36	12.71		
370	5F1	Ⅱ	23	20	30	12.73	B	
420	5F6	Ⅱ	18	15	30	12.73	A	
427	5F2	Ⅱ	20	14	16	12.91	B	
463	5F6	Ⅱ	30	19	27	12.77		
955	4F10	Ⅱ	16	15	15	12.82	A	

SB16

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	厚土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
138	4D17	Ⅱ	24	19	40	12.74	A	
148	4D20	Ⅱ	23	17	47	12.70	B	
150	4D22	Ⅱ	15	13	28	12.89	A	
154	4D24	Ⅱ	25	22	45	12.71	A	
164	4D25	Ⅱ	17	14	34	12.81		
166	4E2	Ⅱ	21	18	40	12.71		
167	4E4	Ⅱ	25	20	30	12.92	A	
168	4E5	Ⅱ	19	18	33	12.77	A	
226	4D19	Ⅱ	28	20	46	12.69		
287	5D17	Ⅱ	18	18	19	12.96		
334	5E2	Ⅱ	25	24	37	12.78		

SB17

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	厚土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
248	5C22	Ⅱ	19	16	32	12.84	A	
249	5D1	Ⅱ	22	19	35	12.81		
251	5D2	Ⅱ	24	24	47	12.69		
252	5D3	Ⅱ	32	28	36	12.78	A	
253	5D7	Ⅱ	22	20	35	12.79	A	
258	5C23	Ⅱ	22	19	34	12.83		
262	5C24	Ⅱ	28	24	33	12.84		
270	5D8	Ⅱ	28	25	29	12.85	A	
272	5D6	Ⅱ	31	27	31	12.82	A	
286	5D11	Ⅱ	23	18	32	12.83	A	
289	5D17	Ⅱ	25	18	37	12.77	A	
303	5D22	Ⅱ	31	25	16	12.93		
306	5D22	Ⅱ	25	23	19	12.93	A	
309	5D19	Ⅱ	25	23	20	12.94		
314	5D4	Ⅱ	23	21	35	12.81	A	
324	5D18	Ⅱ	25	20	30	12.89		>P325
327	5D23	Ⅱ	28	23	39	12.75	B	
329	5D10	Ⅱ	28	20	39	12.77	B	
434	5D9	Ⅱ	26	24	23	12.76	B	<SX265
713	5D20	Ⅱ	21	20	19	12.94	A	
964	5D21	Ⅱ	20	17	38	12.76	A	>P965
980	5D24	Ⅱ	31	27	45	12.66	A	
4672	5D24	Ⅱ	26	25	44	12.64	B	<SD550
4673	5D5	Ⅱ	20	16	14	12.92	A	

SB18

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	厚土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
487	6D19	Ⅱ	41	25	29	12.87	B	<SD263
509	6D21	Ⅱ	28	25	35	12.83	B	
510	6D22	Ⅱ	27	25	58	12.59	B	柱眼
566	6D17	Ⅱ	22	19	43	12.76	B	
570	6D24	Ⅱ	18	16	45	12.70		
579	6E7	Ⅱ	21	19	53	12.58	A	柱眼
584	6E1	Ⅱ	23	21	66	12.45		柱眼
602	6E10	Ⅱ	32	26	39	12.68		
710	6E24	Ⅱ	20	20	53	12.57		<SD466
722	6E5	Ⅱ	18	17	21	12.93		<SD263
725	6E4	Ⅱ	29	28	63	12.55	A	
807	6E9	Ⅱ	25	23	41	12.71	A	
810	6E6	Ⅱ	39	34	50	12.62	A	

SB19

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	厚土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
405	6C4	Ⅱ	20	18	13	12.82		<SD637
414	6C23	Ⅱ	22	20	29	12.81		
469	6C3	Ⅱ	37	35	34	12.73		
478	6C18	Ⅱ	30	27	48	12.66	A	
481	6C5	Ⅱ	32	27	61	12.61	A	
545	6C19・20	Ⅱ	24	19	29	12.91	A	
547	6C24	Ⅱ	30	25	34	12.76	B	<SD408
824	6C25	Ⅱ	30	28	36	12.69	A	<SD435
835	6C8	Ⅱ	20	17	17	13.03	A	
836	6C8	Ⅱ	30	20	59	12.58	A	<SD435
1086	7C6	Ⅱ	32	25	33	12.99		
1487	7C21	Ⅱ	25	22	10	12.81		<SD637
1570	6C9・10	Ⅱ	67	40	64	12.63		
1582	6D5	Ⅱ	22	15	24	12.80		>P527
1592	7C1	Ⅱ	28	24	33	12.94	A	
2032	6C10	Ⅱ	23	21	53	12.59		
2048	7C16	Ⅱ	19	17	27	12.90	B	
2789	6D3・4	Ⅱ	23	16	21	12.94		
4578	6C18	Ⅱ	30	17	30	12.87	A	<SD408
4579	6C3	Ⅱ	25	24	36	12.74	A	<SD435
4679	7C21	Ⅱ	24	19	25	12.74		<SD637

SB20

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	厚土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
554	6D15	Ⅱ	22	18	56	12.57		柱眼
556	6D14	Ⅱ	25	23	40	12.75	B	
572	6D20	Ⅱ	35	30	36	12.76	B	
573	6D19	Ⅱ	14	10	30	12.83	B	
720	6E5	Ⅱ	40	30	20	12.89		<SD263
752	6D24	Ⅱ	20	17	31	12.84	A	土師器135
753	6E4	Ⅱ	27	23	47	12.69		
802	6D25	Ⅱ	27	20	28	12.82		
860	7D12	Ⅱ	21	20	34	12.80		
863	7D12	Ⅱ	32	32	39	12.64		<SD435
881	7D21	Ⅱ	26	22	41	12.66	A	
883	7D22	Ⅱ	28	27	29	12.77	A	
884	7D23	Ⅱ	24	20	26	12.83	A	
1489	7D12	Ⅱ	31	27	19	12.80	B	<SD537
1640	7E3, 7D23	Ⅱ	20	19	42	12.69	A	
1641	7E2	Ⅱ	23	22	37	12.73	B	
1928	7D11	Ⅱ	24	20	18	12.92	B	<SD409
4582	7D16	Ⅱ	24	20	23	12.62	A	<SD408
4690	7D12	Ⅱ	20	18	30	12.66	A	<SD637

SB21

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	厚土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
600	6E15	Ⅱ	22	21	41	12.65	B	
638	7E11	Ⅱ	36	31	29	12.76	A	
652	7E16	Ⅱ	15	15	68	12.40		
736	6E25	Ⅱ	23	20	43	12.65		
738	6E20	Ⅱ	30	28	36	13.07	B	
767	7E21	Ⅱ	36	28	27	12.78	A	
773	7E22	Ⅱ	25	21	31	12.76	A	
1097	7E12	Ⅱ	27	22	48	12.59		<SD263
4566	7E17	Ⅱ	21	20	59	12.45	A	

遺構観察表 (6)

掘立柱建物の柱穴 (5)

SB22

遺構番号	グリッド	所属的 前期	規模 (cm) 土層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
617	7D23	Ⅱ	32 24	33	12.79	A		
696	8D1	Ⅱ	39 35	72	12.57			
796	7D5	Ⅱ	35 24	58	12.63	A		
852	7D3・8	Ⅱ	22 18	48	12.64	A		
857	7D5	Ⅱ	23 22	48	12.65	A		
859	7D10	Ⅱ	34 27	45	12.71	B		
873	7D20	Ⅱ	46 35	51	12.67	A		
888	7D25	Ⅱ	23 21	56	12.68	A		
906	8D6	Ⅲ	28 22	4	13.16	B	加工層503	
1509	8D21・22	Ⅲ	37 34	43	12.65	A		
1764	8D1	Ⅲ	61 56	19	13.10			
1791	8D16	Ⅲ	50 48	23	12.81			
2028	7D3	Ⅲ	30 28	19	12.92	B		

SB23

遺構番号	グリッド	所属的 前期	規模 (cm) 土層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
647	7E14	Ⅱ	23 20	26	12.89			
649	7E15	Ⅱ	32 25	40	12.74	A		
780	7E25	Ⅱ	25 20	42	12.79			
789	7F5・10	Ⅱ	25 22	15	12.90			
1149	8F1・6	Ⅱ	30 24	44	12.67	B	<P1150	
4722	8E21	Ⅱ	34 25	58	12.49			

SB24

遺構番号	グリッド	所属的 前期	規模 (cm) 土層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
705	8D4・5	Ⅱ	48 43	47	12.73			
843	8D23	Ⅱ	33 25	34	12.74			
848	8D3	Ⅱ	29 27	55	12.75			
949	8D8	Ⅲ	23 18	44	12.68	A	製煉洋または 鋳造洋557	<SD674
901	8D9・10	Ⅱ	35 35	42	12.78		加工層	*SD673
923	8D24・25	Ⅱ	26 25	75	12.45			<P926
1235	9D6	Ⅱ	30 21	37	12.77			
1368	9D21	Ⅱ	37 34	60	12.65			
1497	8D13	Ⅱ	45 35	60	12.67		製煉洋556、 鋳造洋	
1646	8D23・8E3	Ⅱ	45 36	44	12.67	A		
1797	8D25	Ⅱ	32 25	42	12.71	B		
2123	9E6	Ⅱ	35 28	24	12.82			
3034	8D14・15	Ⅲ	38 35	62	12.72	A	小J534	*P909, *SX1786, *P9035
4585	9D11	Ⅱ	28 26	43	12.75	B		*SD673
4654	9D22	Ⅱ	18 14	17	12.86	A		

SB25

遺構番号	グリッド	所属的 前期	規模 (cm) 土層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
840	8E17	Ⅱ	42 31	14	12.91			<SD442, <SD637
1135	8E17	Ⅱ	34 32	47	12.53			
1138	8E19	Ⅱ	35 30	25	12.82			
1143	8E22	Ⅱ	62 61	55	12.50	A		
1145	8E25	Ⅱ	45 32	50	12.64			
1152	8E23	Ⅱ	30 24	18	12.85			
1617	8E20	Ⅱ	15 10	28	12.84			*P1618
1626	8F2	Ⅲ	36 31	21	12.88			
2114	8E25	Ⅲ	36 34	30	12.88	B		
4705	8E22	Ⅲ	24 18	32	12.72			
4708	8E15・20	Ⅲ	30 25	21	12.77			

SB26

遺構番号	グリッド	所属的 前期	規模 (cm) 土層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1292	9C17	Ⅱ	32 27	18	12.94			
1294	9C16	Ⅱ	37 33	14	13.00			
1298	9C16・21	Ⅱ	36 30	21	12.94			
1300	9C21	Ⅳ	28 27	26	12.95	C		
1302	9C17	Ⅱ	43 35	24	12.93			
1306	9C22	Ⅳ	30 24	19	13.00	C		

SB27

遺構番号	グリッド	所属的 前期	規模 (cm) 土層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1280	9C12	Ⅱ	25 20	38	12.75			
1283	9C13	Ⅱ	28 25	42	12.76			
1313	9C5	Ⅱ	26 23	56	12.74			
1323	9C15	Ⅱ	27 22	19	13.06			
1696	9C2	Ⅱ	25 24	63	12.77	A		
1697	9C3	Ⅱ	30 26	52	12.84			
1705	10B21	Ⅱ	30 24	48	12.85			
1889	10C6	Ⅱ	30 30	63	12.72			
2901	10C1	Ⅱ	24 16	24	13.10			<SD675
4513	9C7	Ⅱ	20 19	21	12.93	A		
4515	9C8	Ⅱ	17 15	12	13.02	A		
4623	9B25	Ⅱ	36 26	66	12.62		柱眼	

SB28

遺構番号	グリッド	所属的 前期	規模 (cm) 土層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1330	9D22	Ⅱ	24 22	21	12.91			
1333	9D24, 9E4	Ⅱ	40 24	44	12.71			<SD1374
1334	9D22	Ⅱ	32 25	39	12.81			<SD1374
1368	8D25, 9D21	Ⅱ	21 19	14	13.04			
1372	9D24	Ⅱ	28 25	48	12.70	A		
1398	9E12	Ⅱ	25 21	35	12.81	A		
1447	9E7	Ⅱ	47 27	41	12.68			<SD1116
1792	9E14	Ⅱ	31 31	25	12.75			<SK1803, <SD1800
2076	10E7	Ⅱ	20 18	29	12.80	A		<SX2710
2112	9E5	Ⅱ	24 12	25	12.87			<SD1983
2131	9E15・20	Ⅱ	26 24	15	12.92	A		
2132	9E15	Ⅱ	23 22	38	12.68	A		
2136	9E9	Ⅱ	27 19	42	12.56	A		
2151	9D25	Ⅱ	21 17	33	12.89	A		
2482	10E12	Ⅱ	30 28	39	12.71	A		<SX2710
2484	10E12	Ⅱ	24 23	13	12.93	A		<SX2710
2489	10E12	Ⅱ	30 28	27	12.83			<SX2710
4710	9E12	Ⅱ	28 24	30	12.66			
4713	9E10	Ⅱ	34 22	40	12.67			

SB29

遺構番号	グリッド	所属的 前期	規模 (cm) 土層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
681	10C15・20	Ⅴ	24 24	29	13.07	C		
1890	10C7・8	Ⅴ	32 30	54	12.87			
1891	10C10	Ⅴ	38 38	27	13.08	C		
1895	10C10	Ⅴ	38 37	50	12.88			
1902	10C19	Ⅴ	28 18	37	13.04			
1904	10C25	Ⅴ	24 22	35	13.06			
1909	10C9	Ⅴ	34 30	38	12.90			
1915	10C24	Ⅴ	28 26	45	12.94	C		
1918	10C2	Ⅴ	24 22	33	13.04			*SD675
1953	10C18	Ⅴ	36 32	34	13.03			
2103	10B24	Ⅴ	30 30	38	12.90			
2557	10B25	Ⅴ	34 28	18	13.15	A		*SX1743
2880	10C3	Ⅴ	38 30	42	12.86	A		
4528	10C7	Ⅴ	24 22	27	13.07	A		
4529	10C17	Ⅴ	26 22	45	12.87			
4601	11C21	Ⅴ	28 22	41	12.91	C		
4609	11D7	Ⅴ	26 24	12	13.16	B		
4723	10C15, 11C11	Ⅴ	32 23	46	12.88			

掘立柱建物の柱穴 (6)

SB30

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1655	11D22・23	II	26 24	23	12.83	A		<SD2728
1658	11E9	II	18 16	28	12.85	A		<SX2708
1659	11E2	II	22 19	34	12.73	A		<SX2708
1808	10E20	II	40 30	37	12.78			
1810	10E14	II	24 22	17	13.01			
1811	10E14	II	30 28	26	12.93			
1812	10E9	II	30 28	38	12.82	A		
1815	11E11	II	28 24	33	12.78	A		<SX2708
1816	11E16	II	22 22	37	12.78			
1818	11E13	II	32 28	39	12.83			<SX2708
2041	11D23	II	46 35	16	12.96	B		
2052	11E17	II	26 19	18	12.90	A		<SX2708
2138	10E10	II	18 12	14	12.96	A		
2542	11D23	II	28 22	34	12.96			<SD2728
2547	11E2	II	30 26	28	12.80	A		<SX2708
2548	11E3	II	28 25	34	12.80	A		<SX2708
2549	11E4	II	22 20	35	12.76	A		<SX2708
2550	11E4	II	26 20	12	13.00			<SX2708
2554	11E9	II	32 18	29	12.78			*P2109, <SX2708
2606	10E10	II	34 24	61	12.68	A		
2607	11E17	II	29 28	38	12.75			<SX2708
2620	11E7	II	34 18	19	13.01			<SX2708
3013	11E10	II	24 24	17	12.97			<SX2708
4567	10E25	II	32 24	18	12.92	B		
4569	11E13	II	28 24	27	12.83			<SX2708

SB31

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1824	11D12	II	33 31	64	12.78			
1834	11D18	II	29 27	63	12.71	B		
2237	11D13	II	38 32	41	12.85			<SD1748
2818	11D7	II	28 25	17	13.16			
3241	11D8	III	32 32	44	12.75			<SD1748, >SX1746
3261	11D3・8	IV	40 36	61	12.83	C	近世陶磁器	
3263	11D12	IV	40 36	57	12.67	C		
4720	11D17	II	33 24	21	12.79			

SB32

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1926	11C2・7	II	42 41	33	13.10			
1932	11C6	II	30 24	47	12.92			
1946	11B17	II	14 14	25	13.02	A		
1951	11B13・18	III	23 18	42	12.93			
1958	11C5	II	37 29	45	12.96			
1985	11B15・20	II	46 32	41	12.98			
1986	11B18	II	22 20	43	12.91			
1988	11B15	II	46 33	18	13.23			>P2154
1990	11B23	II	28 20	46	12.92			
2072	12B16・17 ・21・22	II	60 48	33	12.99			
2163	11B17	II	48 43	28	13.08	A		*P1948
2182	12C2	II	37 33	49	12.86			
2530	11C4	II	44 30	26	13.17			
2847	11B25	II	48 42	50	12.91			*P1956
2995	11B21	II	44 26	34	13.04			<SD1920
4498	12B11	II	29 27	30	13.00	A		
4499	11B16	II	26 20	22	13.06	A		<SD1920

SB33

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
2000	11C25	II	48 46	48	12.89			
2001	11C25	II	46 36	37	13.06			
2039	11D10	II	54 52	59	12.68			褐色土層480
2274	12C21	II	26 22	35	13.06			
2277	12C21・22	II	100 52	46	12.91			
2685	11C24	II	66 32	32	13.08			
2855	11D15・20	II	38 36	34	12.82			
2859	11D9	II	58 42	60	12.83			黒色土層12 <P2007, *P2848
2984	12D11	II	24 21	45	12.79	A		
4719	12D6・7	II	27 20	47	12.85			

SB34

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
2271	13C20	II	36 26	43	12.84			
2342	12D10	II	36 34	34	12.93			
2386	13D5	II	30 28	41	13.86	A		
2390	13D14	II	28 26	29	12.93			
2410	13C24	III	42 32	36	13.96			
2424	13D6	II	46 36	32	12.87	A		
2425	13D15	II	32 26	56	12.67	A		
2598	14D6	II	40 28	59	12.97	A		<SD2422
2629	12D10・15	II	36 32	46	12.72			
2631	13D4・5	II	40 38	80	12.50			
2697	13C18	II	50 46	49	12.79			
2716	13D6	II	27 24	21	12.91			
2763	13D9	II	28 26	44	12.76	B		
2771	13D11	II	24 22	17	12.81			
2791	14C16	II	36 28	48	13.83			
2845	12D5	II	21 17	12	13.04	A		
2861	14D1	II	26 16	24	13.03	B		*P2474
2867	14C21	II	34 32	58	12.66	B		
2868	13C25, 14C21	II	32 30	46	12.85	A		
2869	14C16	II	20 17	22	13.07	A		
2964	13C16・21	II	38 34	31	12.90			<SD2729
2972	13D10	II	40 24	47	12.76			<SD1332, <SD2422
2981	12D10	II	33 28	48	12.80	A		
3027	12C20・25	II	44 22	47	12.81			
3028	12C20	II	35 28	57	12.71			
3255	13C16	II	30 28	50	12.70	B		<SD2729
3605	13C18	II	18 18	16	12.79	A		
3611	13C19	II	16 14	7	12.89	A		
4663	13D13	II	29 28	41	12.63	A		

SB35

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
2451	13E13	II	44 32	41	12.80			
2452	13E14	II	42 30	48	12.72	A		
2453	13E15	II	30 30	31	12.90			
2752	13E12・17	II	29 24	42	12.72	B		
2877	14E11	II	18 18	33	12.82			

SB36

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
2474	14D1	II	28 24	34	12.93			*P2861
2561	14D7	II	44 36	39	12.84	A		<SD2728
2564	14D6	II	30 26	45	12.80			
2571	14D13	II	28 26	50	12.73			
2576	14D11	II	32 28	33	12.87	B		
2579	14D12	II	34 26	51	12.68			
2677	14D8	II	28 28	43	12.83			<SD2728
3252	14D2	III	21 20	62	12.60			<SD9470
3256	14D3	II	19 16	30	12.71			<SD1332

遺構観察表 (8)

掘立柱建物の柱穴 (7)

SB37

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り合い
			上層長径	上層短径				
2516	14E6	Ⅱ	28	26	38	12.78	B	
2522	14E2・7	Ⅱ	29	28	39	12.81		
2595	14E3	Ⅱ	32	29	38	12.84		
2599	14E13・14	Ⅱ	34	30	50	12.69	A	
2927	14E11	Ⅱ	76	35	47	12.66		
4389	14E12	Ⅱ	23	23	43	12.66		

SB38

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り合い
			上層長径	上層短径				
3281	14C19	Ⅱ	30	20	30	12.87	A	
3286	15C16	Ⅱ	30	18	56	12.56		柱根627
3291	15C17	Ⅱ	24	23	37	12.76	B	
3307	15D21	Ⅱ	30	22	30	12.76		
3334	15D12	Ⅱ	26	20	25	12.88	B	>P3333
3335	15D2	Ⅱ	20	18	43	12.68		柱根
3336	15D4	Ⅱ	23	22	54	12.57		柱根612
3337	14D4	Ⅱ	21	20	43	12.75		柱根
3338	15D11	Ⅱ	30	28	41	12.72		
3519	15D22	Ⅱ	26	16	50	12.60	A	<SD3325

SB39

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り合い
			上層長径	上層短径				
3356	16D22	Ⅱ	26	22	24	12.92	A	<P3357
3363	16D18	Ⅱ	32	22	28	12.85		
3364	16D24	Ⅱ	28	26	53	12.58		
3367	16E2・7	Ⅱ	40	36	41	12.73	A	
3368	16E3	Ⅱ	24	22	50	12.84		
3371	16E13	Ⅱ	24	17	49	12.64	A	
3375	16E9	Ⅱ	14	12	65	12.41	A	
3382	16D19	Ⅱ	35	34	18	12.90	B	
3383	16D20	Ⅱ	26	24	52	12.56	A	
3386	16D25	Ⅱ	28	24	37	12.69	B	
3389	16E1	Ⅱ	24	24	27	12.87	A	
3393	16E13	Ⅱ	30	26	27	12.81	A	
3395	16E18	Ⅱ	22	20	56	12.52	A	
3396	16E19	Ⅱ	18	21	48	12.61	A	
3398	16D19	Ⅱ	26	24	38	12.74	A	
3403	16D22	Ⅱ	32	28	46	12.72	A	
3404	16E7	Ⅱ	25	23	73	12.42	A	
3511	17E11	Ⅱ	27	26	53	12.59	A	
3520	16E4・5	Ⅱ	44	40	39	12.73	A	
4595	16E10	Ⅱ	24	24	35	12.65		

SB40

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り合い
			上層長径	上層短径				
3114	19C11・16	Ⅱ	22	19	27	12.99	A	
3122	19C23	Ⅱ	25	25	38	12.82	A	柱根
3132	19C6	Ⅱ	23	19	40	12.87	A	
3139	19C14・19	Ⅱ	38	34	60	12.76		
3145	19C9	Ⅱ	34	30	58	12.84	A	
3200	19C11・16	Ⅱ	23	19	42	12.81	B	
3215	19C6	Ⅱ	24	20	45	12.81	A	
3228	19C8	Ⅱ	13	13	27	12.88	A	<SD9747, <SD3183
3722	20C2	Ⅱ	22	21	40	12.86	B	<SK3721
3736	19C18	Ⅱ	18	16	39	12.81	A	<SD3183
3799	20C11	Ⅱ	26	22	44	12.91		
3912	19C24	Ⅱ	28	24	37	12.76		<SD3767
3925	20C21	Ⅱ	30	22	30	12.84	A	<SD4189, <SD4175, <SD4174

SB41

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り合い
			上層長径	上層短径				
3119	19C14・19	Ⅱ	42	40	57	12.77		
3126	19C23	Ⅱ	24	22	26	12.96	A	
3130	19C24	Ⅱ	32	26	44	12.75		
3158	19C9	Ⅱ	32	31	70	12.63	A	<SD3115
3161	19C3	Ⅱ	24	22	29	12.99	B	
3174	19B19	Ⅱ	29	23	26	13.10		
3204	19B20	Ⅱ	36	26	19	13.14	B	<SD3322
3217	19C15・20	Ⅱ	34	28	52	12.85		
3230	19C3・4	Ⅱ	30	28	32	13.02		
3484	20B17	Ⅱ	22	20	36	13.03	B	
3499	20B22	Ⅱ	30	24	42	12.96		
3688	20B22	Ⅱ	26	23	25	13.12	A	
3727	20C7	Ⅱ	31	28	40	12.85		<SD3733
3891	19B25	Ⅱ	23	15	39	12.90	A	<SD3222, #SK4179
3892	20C12	Ⅱ	31	23	21	13.06	A	<SK3773
3911	19C8	Ⅱ	23	22	37	12.90	B	
4176	19C10	Ⅱ	22	20	45	12.83	B	<SK3887, >SK4167, <SD224
4187	19C25	Ⅱ	36	34	52	12.68	B	<SD4174, <SD4175
4188	20C2・7	Ⅱ	21	11	38	12.86	A	<SD3733
4364	20C22・23	Ⅱ	18	18	20	13.10	B	
4365	20C22	Ⅱ	30	29	29	12.92	B	
4368	20B17	Ⅱ	19	18	22	13.07	B	
4724	20C12	Ⅱ						

SB42

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り合い
			上層長径	上層短径				
3117	19C13	Ⅱ	25	24	48	12.82	A	
3120	19C18	Ⅱ	26	25	25	13.00		
3142	19C14・15	Ⅱ	34	34	39	13.00	A	
3150	19C4・5・9・10	Ⅱ	60	50	26	13.27	A	<P3883, <P149
3160	19C3・8	Ⅱ	22	16	13	13.16		<SD3115
3775	20C11	Ⅱ	28	22	19	13.12	A	<SD3224
3801	20C16	Ⅱ	28	28	42	12.93	A	
3884	20C1	Ⅱ	22	20	29	12.94		<SK3151, <SD3733
4357	19C20	Ⅱ	40	36	12	13.05		<SD4189

SB43

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り合い
			上層長径	上層短径				
3116	19C8	Ⅱ	37	30	41	12.88	B	
3118	19C13	Ⅱ	29	29	53	12.79		
3127	19C23	Ⅱ	20	18	23	12.99	A	
3137	19C25	Ⅱ	18	14	15	12.92		<SD3767
3141	19C15	Ⅱ	26	25	37	13.00	A	
3147	19C9・10	Ⅱ	32	28	48	12.94	A	
3909	20C11	Ⅱ	24	22	44	12.85	B	<SD3224
4166	20C21	Ⅱ	36	30	50	12.71	B	<SD4189
4169	20C6	Ⅱ	26	24	14	12.94	B	<SK3720

SB44

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り合い
			上層長径	上層短径				
3954	25D16	Ⅱ	32	29	37	13.00	A	
3955	25D21	Ⅱ	40	28	55	12.78	A	
4281	24D14	Ⅱ	23	21	34	13.05		
4340	25D11	Ⅱ	25	22	36	12.99	B	
4352	24D19	Ⅱ	22	21	21	12.95		<SK4311

掘立柱建物の柱穴 (8)

SB45

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
3549	19E16	Ⅱ	30	27	28	12.97	A	
3550	19E7	Ⅲ	19	16	12	13.13	B	
3551	19E13	Ⅱ	22	18	22	13.05	A	
3554	19E12	Ⅱ	27	23	16	13.09	B	
3560	19E19	Ⅱ	28	24	23	13.01	A	#P3559
3561	19E8	Ⅱ	34	30	52	12.73	A	#P3575
3562	19E9	Ⅱ	26	25	18	13.07	B	
3572	19E18	Ⅱ	26	22	12	13.13	B	
3573	19E14	Ⅱ	22	21	29	12.95	B	

SB49

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
4110	24E8・13	Ⅱ	20	20	30	31	13.07	B
4111	24E22	Ⅱ	22	19	37	12.98	A	
4112	24E18	Ⅱ	22	20	25	13.11	A	
4114	24E23	Ⅱ	29	27	24	13.04	A	
4119	24E6	Ⅱ	20	17	45	12.94	A	
4129	24E16・17	Ⅱ	22	20	24	13.05	A	
4130	24F2	Ⅱ	26	20	27	12.99	B	
4132	24F3	Ⅱ	34	24	24	13.04	A	

SB46

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
3583	20E18	Ⅱ	30	26	38	12.91	A	
3585	20E13	Ⅱ	28	24	29	12.97	A	
3606	20E19	Ⅱ	30	28	41	12.89	A	
3608	20E20	Ⅱ	28	28	31	12.97	A	
3618	20E20	Ⅱ	18	16	17	13.16	B	
3619	20E15	Ⅱ	28	24	34	12.91	A	
3620	20E14	Ⅱ	30	25	39	12.87	A	
4135	20E19	Ⅱ	18	15	16	13.12	B	

SB50

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
3949	25D20	Ⅱ	52	30	44	12.92	A	
3952	25D12	Ⅱ	30	28	47	12.87	A	
3975	25D19	Ⅱ	42	39	43	12.91	A	
3978	25D14・15	Ⅱ	30	26	32	13.02	A	
3979	25D17・22	Ⅱ	32	28	56	12.77	A	
3992	26D16	Ⅱ	76	66	19	13.18	A	
3998	25D13	Ⅱ	38	37	14	13.22	A	

SB47

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
3630	21E8	Ⅱ	20	18	55	12.84	A	
3631	21E9	Ⅱ	25	22	21	13.18	A	
3636	21E24	Ⅱ	24	21	29	13.04	A	
3637	21E15	Ⅱ	23	22	17	13.15	A	
3639	21E18	Ⅱ	20	18	9	13.17	A	
3641	21E14・19	Ⅱ	39	29	24	13.02	A	
3644	21E24	Ⅱ	24	22	32	12.98	B	
3646	21D23	Ⅱ	21	21	21	13.03	A	
3648	21D24	Ⅱ	26	24	23	13.09	A	
3649	21E24	Ⅱ	18	18	31	12.97	A	
3654	22E11・12	Ⅱ	30	28	25	13.13	A	白磁196
3664	22E12	Ⅱ	34	34	39	12.95	B	
3670	22E17	Ⅱ	23	22	32	12.97	A	
3675	22E17	Ⅱ	34	32	30	13.00	A	
3677	22E22	Ⅱ	24	23	17	13.11	B	
4089	21E25、22E21	Ⅱ	22	18	36	12.92	A	

SB51

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
3953	25D17	Ⅱ	22	22	34	13.07	A	
3956	25D22	Ⅱ	28	24	24	13.11	A	
4003	25D11・12	Ⅱ	29	24	21	13.12	A	
4290	24D14	Ⅱ	18	15	19	13.19	A	#P4353
4308	25D21	Ⅱ	28	22	40	12.94	A	
4351	24D15	Ⅱ	19	19	12	13.07	B	<SK4312

SB48

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
4196	22D8	Ⅱ	22	16	38	13.02	A	
4200	22D5	Ⅱ	28	27	59	12.82	A	
4303	22D10	Ⅱ	28	24	38	13.00	A	
4217	22D8	Ⅱ	20	17	45	12.83	B	<SD3755
4220	22D15	Ⅱ	29	26	36	12.97	A	#SD3762
4231	23D1	Ⅱ	24	19	35	13.04	A	
4238	23D6	Ⅱ	24	22	31	13.07	A	
4256	22D9	Ⅱ	18	16	20	13.03	B	<SD3763
4257	22D14	Ⅱ	25	16	35	12.93	A	<SD3763、<SD3764
4313	23D11	Ⅱ	32	32	33	13.00	B	<SD3755
4323	22D4	Ⅱ	19	19	23	12.89	B	<SD3763
4354	22D13	Ⅱ	30	18	39	13.02	B	

SB52

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
3942	26D22	Ⅱ	34	34	61	12.78	A	<SD3940
3943	26D17	Ⅱ	34	30	44	12.93	A	
3971	26D16	Ⅱ	20	18	47	12.89	A	
3974	25D19・24	Ⅱ	45	34	43	12.91	A	
3980	25D17	Ⅱ	28	16	52	12.85	A	#SD3947
3981	25D15、26D11	Ⅱ	27	27	26	13.08	A	
3997	25D14	Ⅱ	37	34	20	13.16	A	>P3950
4000	25D22	Ⅱ	34	30	42	12.88	A	

SB53

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
3944	26D14	Ⅱ	22	14	36	12.99	A	
3965	26D13	Ⅱ	23	21	28	13.03	A	<SD3940
3968	26D12	Ⅱ	34	30	24	13.07	A	
4344	26D23	Ⅱ	16	14	15	13.22	A	
4345	26D13	Ⅲ	17	16	16	13.06	B	
4387	26D22	Ⅱ	36	32	12	13.26	A	
4448	26D24	Ⅱ	34	21	28	13.06	A	
4489	26D23・24	Ⅱ	32	28	46	12.82	A	柱眼618

SB54

遺構番号	グリッド	所属時期	規模 (cm)		底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径				
4007	26E11	Ⅱ	19	14	38	13.06	A	
4009	26E12	Ⅱ	36	30	42	12.99	A	
4014	26E13	Ⅱ	30	24	43	12.91	A	
4021	26E18	Ⅱ	24	23	28	12.92	A	
4127	26E21	Ⅱ	22	22	38	12.95	A	

遺構観察表 (10)

竪穴状遺構観察表

遺構番号	遺構種類	グリッド	検出部位	西面方位	形 態				幅 (cm)	底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り欠き	備考		
					平面		立ち上がり	上層長径							下層長径	深さ
					平面	縦断面										
3793 SK	20C18・19・23・24	B/b	Ⅲ	長方形	台形状	急斜度	265	213	178	101	54	12.78	A	鹿戸204	<P9002, <SD0750	
3915 SK	21C8・10・13・15	B/b	Ⅲ	方形	台形状	急斜度	232	212	231	184	24	13.01	A	須倉部, 白磁329		
4252 SK	21C15・20, 22C11・16	B/b	Ⅲ	方形	台形状	急斜度	203	190	176	163	29	13.05	A			
4259 SK	21C25, 22C21, 22D1	B/b	Ⅲ	長方形	台形状	急斜度	186	180	116	146	26	13.17	A		<SD4206, >P4386	
4311 SK	24D14・15・18・19・20・24	B/b	Ⅲ	方形	台形状	急斜度	239	203	196	180	29	13.11	A	珠洲焼	<SK4312	
4312 SK	24D15・20	B/b	Ⅲ	長方形	台形状	急斜度	255	151	194	130	37	13.02	A	白磁302	>P4351, >SK4311	

木棺墓遺構観察表

遺構番号	遺構種類	グリッド	検出部位	西面方位	形 態				幅 (cm)	底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り欠き	備考		
					平面		立ち上がり	上層長径							下層長径	深さ
					平面	縦断面										
453 SK	7D3・4・8・8・9・10	B/a	Ⅱ	長方形	台形状	急斜度	245	83	228	71	22	12.93	C	漆器565・566, 煎583・584, 製鏡79	>SD673, <P854	
456 SK	8D9	B/a	Ⅱ	長方形	台形状	急斜度	180	67	153	45	16	13.09	A	土師器252, 漆器567・579	<P477, >SD673	
2732 SK	13R25, 13C1, 14C1	B/a	Ⅱ	長方形	台形状	急斜度	205	90	187	86	28	12.93	A	漆器580・582		

火葬墓観察表

遺構番号	遺構種類	グリッド	検出部位	西面方位	形 態				幅 (cm)	底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り欠き	備考		
					平面		立ち上がり	上層長径							下層長径	深さ
					平面	縦断面										
3477 SK	20C4	B/b	Ⅲ	横円形	台形状	急斜度	122	81	92	70	10	13.29	A		<P4300	

土坑観察表 (1)

遺構番号	遺構種類	グリッド	検出部位	西面方位	形 態				幅 (cm)	底面標高 (m)	層土	出土遺物	切り欠き	備考		
					平面		立ち上がり	上層長径							下層長径	深さ
					平面	縦断面										
36 SK	4E3	B/a	Ⅲ	不整形	台形状	急斜度	68	54	53	45	8	13.06	D			
103 SK	4D15	B/a	Ⅲ	横円形	台形状	急斜度	93	49	34	22	30	12.77	A			
181 SK	4D15, 5D11	B/a	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	47	46	32	22	23	12.94	A			
219 SK	4F20・24・25	B/a	Ⅲ	不整形	台形状	急斜度	106	75	52	22	36	12.61				
261 SK	5E23	B/a	Ⅲ	不整形	弧状	急斜度	98	71	56	31	26	12.93	D	土師器221		
265 SK	5D4・9・14	B/a	Ⅲ	不整形	台形状	急斜度	330	191	298	128	22	12.95	A		>P415, >P40, >P434	
421 SK	6F16	B/b	Ⅲ	目録跡	不整形	急斜度	70	35	60	19	15	13.62				
437 SK	6E7	B/b	Ⅲ	横円形	弧状	急斜度	70	41	30	22	14	13.02	D		>285	
540 SK	6E15	B/b	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	85	75	50	49	19	12.91	D	製鏡7951		
670 SK	10E25	B/b	Ⅲ	横円形	縦4状	急斜度	108	76	8	6	49	12.64			=SD1908	
805 SK	6F7・12	B/b	Ⅲ	横円形	弧状	急斜度	117	49	91	18	14	12.79	D	土師器273		
821 SK	6F12	B/b	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	85	80	58	54	17	12.68	A			
1040 SK	7C6	B/b	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	18	16	13	9	20	13.05	A			
1094 SK	7C24	B/b	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	170	110	68	60	29	12.77	A		=SD673, <P1089, >P1090	
1701 SK	8B15・19・20	B/a	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	121	112	105	66	28	12.97	A		=SD678	
1803 SK	9E9・14・19	B/b	Ⅲ	長方形	台形状	急斜度	382	144	376	136	27	12.91	A		>P1792, >P1804, >P1835	
1966 SK	6C23	V	Ⅲ	横円形	台形状	急斜度	98	57	77	27	25	13.05	A	珠洲焼	>P1967	
1980 SK	10E3	B/b	Ⅲ	長方形	縦状	急斜度	200	160	180	153	15	13.02	A		>SX2710, >SP2500, >SD1116, >SD1801, >SK1981, >SK1982, >P1979	
1981 SK	10E2・3	B/b	Ⅲ	方形	縦状	急斜度	144	144	138	129	12	12.97			>SX2710, <SK1980	
1982 SK	10E4	B/b	Ⅲ	方形	縦状	急斜度	196	168	132	130	42	12.87	A		>SD1116, <SK1980	
3022 SK	11B17・22	B/b	Ⅲ	目録跡	円形	弧状	急斜度	86	80	38	34	17	13.15	D		
3023 SK	11B22・23	B/b	Ⅲ	目録跡	横円形	7字状	急斜度	168	78	150	43	32	13.05			
2025 SK	11B18・23	B/b	Ⅲ	不整形	台形状	急斜度	204	154	74	22	27	13.05	A	須倉部101		
2026 SK	11B23	B/b	Ⅲ	目録跡	横円形	台形状	急斜度	75	60	36	21	25	13.12	A		
2305 SK	14E14	B/b	Ⅲ	目録跡	横円形	台形状	急斜度	68	54	38	47	18	13.03	A		
2343 SK	12C9・10・15	B/b	Ⅲ	不整形	台形状	急斜度	120	98	46	44	40	12.88	A		>SD1374	
2383 SK	13C26, 13D6, 14C21, 14D1	B/b	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	76	70	50	42	55	12.74	A			
2454 SK	13E11・12	B/b	Ⅲ	目録跡	横円形	台形状	急斜度	158	110	102	82	11	13.05			
2628 SK	11D24・25	B/b	Ⅲ	不整形	台形状	急斜度	180	170	140	160	5	13.06	A		<P3055, <SD2728	
2832 SK	12D25, 12E5, 13D11, 13E1	B/b	Ⅲ	目録跡	横円形	台形状	急斜度	184	126	120	40	30	12.90	A		<SX2711
2866 SK	12E5	B/b	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	63	50	12	8	29	12.82	A			
2935 SK	12E5, 13E1	B/b	Ⅲ	目録跡	横円形	台形状	急斜度	90	68	54	34	17	12.71			<SD2373
2966 SK	13E8・9	B/b	Ⅲ	目録跡	円形	台形状	急斜度	188	171	138	134	34	12.80	A		>P3000, >P3001
3039 SK	17B11・16	B/a	Ⅲ	方形	台形状	急斜度	136	129	104	101	8	13.09	D		>P3186, >P3187, >P3188, <SD3197	
3148 SK	19C10	B/b	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	76	50	32	26	29	13.13	A		>SD3224, >SD3760	
3151 SK	19C5	B/b	Ⅲ	円形	台形状	急斜度	70	62	38	34	23	13.16	D		>SK3890, <SK4178, >SD3738, >P3884, >P3884, >SD3224	

土坑観察表 (2)

通観 番号	通観 種類	グリッド	検出部位	所属 位置	形 態			尺 寸 (cm)				電 工 埋設 形状	出土遺物	切り合い	備考	
					平面	縦断面	立ち 上がり	土層 厚	土層 長	下層 厚	下層 長					埋 深
3154	SK	19C4・5	Bb	日取跡	円形	台形状	全直径	64	54	25	13.13	A		<SK2308		
3171	SK	17B24, 17C4	Ba	日取跡	楕円形	板状	全直径	104	79	62	14.296	D				
3181	SK	19B24・25	Bb	IV	円形	台形状	全直径	88	78	50	39	13.23	A	キモ5/47		
3205	SK	19B20	Bb	IV	楕円形	台形状	全直径	113	86	66	29	26	13.04	A	>P3206	
3208	SK	19C5	Bb	III	楕円形	台形状	全直径	116	89	56	33	13.05	A	<SD3222, >SK4179, >SK3154		
3225	SK	19B12・13	Bb	V	長方形	台形状	全直径	75	67	60	22	13.00	A	>SD3115		
3266	SK	12B9・10	Bb	III	円形	台形状	全直径	228	140	132	112	32	12.72	C	黒色土層5% 青白磁345	>SD1984
3295	SK	19C23, 10C3	Bb	IV	楕円形	板状	全直径	83	39	49	36	14	13.01	D		
3299	SK	15D8	Bb	III	不整形	台形状	全直径	44	38	32	26	17	12.95			
3415	SK	16B19	Ba	日取跡	不整形	板状	縦中か	36	18	28	10	12	13.01	A		
3415	SK	16B17・18・22	Bb	V	不整形	台形状	全直径	116	62	96	62	37	12.74		#SD3325	
3428	SK	16C8・7	Bb	V	円形	台形状	全直径	71	66	37	38	18	12.97	D		
3434	SK	19C10, 16C6	Bb	IV	楕円形	台形状	全直径	88	64	50	39	12.89	A	>SD3433		
3443	SK	15B18	Bb	IV	楕円形	台形状	全直径	86	62	48	28	21	12.95	A	>SD3399	
3477	SK	20C4	Bb	日取跡	楕円形	台形状	全直径	122	81	92	70	10	13.29	A	>P4300	
3478	SK	15B10, 16B6	Ba	SK19B4埋設	V	不整形	台形状	全直径	72	32	19	10	23	12.77		
3481	SK	20B16	Bb	日取跡	楕円形	台形状	全直径	66	56	46	45	50	12.78	A	>SD3482	
3505	SK	14C26, 15C16	Bb	IV	楕円形	板状	全直径	60	50	40	30	16	12.97			
3521	SK	16D21, 16E1	Bb	III	楕円形	台形状	全直径	47	26	29	17	12.99		<SD3346, >P2722		
3718	SK	20C1・2	Bb	IV	楕円形	台形状	全直径	122	84	55	42	75	12.56	A	<SK3771, >SD3733, >SD3724	
3719	SK	20C1・6	Bb	V	長方形	台形状	全直径	163	24	118	11	13	13.07	A	>SD3733	
3720	SK	20C8	Bb	IV	円形	板状	全直径	90	68	50	39	16	13.09	A	>P4169, >SK372, >SK387	
3721	SK	20C8	Bb	IV	長方形	台形状	全直径	107	39	99	25	17	13.08	A	<SK3720, >P4177	
3742	SK	21C6・7	Bb	IV	長方形	台形状	全直径	121	51	66	36	16	13.06	A	>SD3733, >P4304	
3749	SK	20C23, 20C3	Bb	IV	長方形	台形状	全直径	112	49	102	33	28	12.95	A	残埋物446	>SD3754, >SD3899
3771	SK	20C1	Bb	V	円形	板状	全直径	80	76	48	43	15	13.08	D	>SK371A, >SD3733, >SD3724	
3772	SK	20C13	Bb	IV	円形	台形状	全直径	112	101	92	72	46	12.82	A	残埋物	>SK377A, <SK4202
3773	SK	20C12・13	Bb	III	楕円形	台形状	全直径	82	56	53	48	9	13.20	D	<SK3772, >P3892	
3779	SK	20C7	Bb	IV	楕円形	台形状	全直径	80	77	76	73	10	13.17		>P3809, >P3808	
3784	SK	21C18・21	Bb	IV	楕円形	台形状	全直径	150	62	138	16	16	13.11	A	>P4338, >SD3750	
3786	SK	20C5, 21C1	Bb	IV	円形	台形状	全直径	74	66	49	42	11	13.16			
3793	SK	20C19・21・23	Bb	日取跡	長方形	台形状	全直径	265	213	178	101	54	12.78	A	瀬戸294	>P3902, <SD3750
3840	SK	20C24・25, 20D4	Bb	IV	長方形	台形状	全直径	149	134	50	22			A	>SD3754, >SD4299	
3887	SK	19C10	Bb	IV	円形	半円状	全直径	68	67	41	40	14	13.11	A	>SK4167, <P4486, >P4176, <SK3720	
3890	SK	19C5	Bb	IV	長方形	台形状	全直径	130	67	112	47	30	12.97	F	<SK3151	
3898	SK	20C23, 20C1	Bb	V	不整形	台形状	全直径	100	83	74	71	6	13.12		>SD4189	
3915	SK	21C3・10・13・15	Bb	II	方形	台形状	全直径	252	212	231	184	24	13.01	A	電線土層329	
3936	SK	26C25, 27D21	Bb	III	円形	台形状	全直径	57	53	34	30	17	13.16	D	加工のある木 片、加工材	
3937	SK	27D1・17・18 26B9・10・ 14・15・19・ 20, 27F6・ 7・11・12・ 16・17	Ba	日取跡	方形	台形状	全直径	673	589	350	176	14	13.14	A	#P4019, #P4031, #P4032, #P4033	
4167	SK	19C10	Bb	日取跡	方形	台形状	全直径	62	49	53	39			A	<SD3224, <SK3887, <P4176	
4178	SK	19C5	Bb	V	円形	台形状	全直径	76	72	49	39	33	13.04	A	>P4330, #SD3732, >SK3151	
4179	SK	19C5	Bb	II	不整形	台形状	全直径	80	74	64	53	12	13.28		遺跡埋物459, 埋設埋物461	<SD3222, <SK3208, >P3891
4202	SK	20C13・18	Bb	IV	楕円形	台形状	全直径	106	82	56	56	16	13.12	A	>SK3772, >SD3734, >P3814	
4234	SK	23D4・9	Bb	日取跡	楕円形	板状	全直径	48	40			16	13.28			
4248	SK	23D13	Bb	III	円形	台形状	全直径	58	54	40	32	11	13.05	A		
4252	SK	21C15・20, 23C1・16	Bb	II	方形	台形状	全直径	203	190	176	163	29	13.05	A		
4259	SK	21C8, 23C1, 23D1	Bb	日取跡	長方形	台形状	全直径	186	180	116	146	26	13.17	A	>SD4206, >P4386	
4265	SK	23D3・8・4・9	Bb	III	円形	台形状	全直径	66	64	50	39	17	13.29	A		
4276	SK	24D7・8	Bb	IV	楕円形	台形状	全直径	91	43	65	23	5	13.24	D		
4296	SK	16D7・12・18	Bb	日取跡	不整形	台形状	全直径	102	94	44	32	18	13.22			
4298	SK	24D18	Bb	III	方形	台形状	全直径	92	63	67	66	9	13.31	D	>SK4299	
4299	SK	24D18	Bb	II	方形	台形状	全直径	138	122	123	113	19	13.27	A	<SK4298, >SD4287	
4311	SK	24D14・15・ 18・19・20・24	Bb	日取跡	方形	台形状	全直径	239	203	196	180	29	13.11	A	残埋物	>P4352, <SK4312
4312	SK	24D15・20	Ba	日取跡	長方形	台形状	全直径	255	151	194	130	37	13.02	A	白磁302	>P4351, >SK4311
4319	SK	22C16・17	Bb	V	長方形	台形状	全直径	153	101	71	46	31	13.02	A	<SK4320, >SD3756	
4320	SK	22C17・18	Bb	V	長方形	台形状	全直径	300	150	235	113	33	13.04	A	近伊勢磁器	>SK4319, >SD3756
4383	SK	20C3	Bb	日取跡	楕円形	台形状	全直径	78	21	18	46				>P3707, <SD3732	

道構観察表 (12)

井戸観察表

道番号	道種別	グリッド	橋出位置	河渠位置	部 置			幅 尺 (cm)			底面標高 (m)	積 積 形状	土 質	上 げ 土 建 物	切り合い	備 考	
					平 面	縦断面	立ち上がり	上端長尺	下端長尺	下階長尺							深 度
952	SE	5B2	凡	Ⅱ	不整形	扇形状	急斜度	150	136	49	41	77	12.40	A	土留脚137~139	<P961 <SD1218	
1249	SE	9D11	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	108	100	27	25	118	12.12	A	基石509		
1330	SE	9C15	凡	Ⅱ	楕円形	台形状	急斜度	130	85	76	57	97	12.29	A	土留脚224、碓石489・497、 碓石52		
1322	SE	9B24・25	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	114	111	63	60	132	12.02	A	基石55、榑木製品590	<SD1327	
1328	SE	9B25、9C5、 10C1	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	125	120	22	16	122	12.11	A		<SD675	
1749	SE	11D9・14	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	129	120	104	73	103	12.27	A	碓石418		
1780	SE	8C14・19	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	101	91	56	45	27	11.99	A	土留脚224、碓石部、碓脚P550		
1788	SE	8D15	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	106	101	75	51	125	12.14	A	碓石部、碓脚P	>SD673	
1851	SE	9B14	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	110	103	89	77	59	12.57	A		#P1785	
1996	SE	12C6・7	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	102	90	43	26	75	12.64	A	基石649		
1997	SE	12C9	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	136	126	86	85	108	12.35	A	土留脚112・141、碓石高田部 143、白堀142、加工部504、加 工のあふ木3片、加工材、積石	<SD2232	
1998	SE	12C11	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	143	132	102	90	92	12.48	A	碓石部、白堀319、碓脚P552・ 553、碓脚Pまたは碓石P554、 加工材、碓石のあふ木片		
1999	SE	12C23	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	115	104	47	42	77	12.55	A	碓石高田部、碓石	<P2810	
2013	SE	11E2・3	凡	Ⅱ	楕円形	台形状	急斜度	126	102	106	92	100	13.15	A	碓石高田部、碓石	<SX2708	
3002	SE	5D17・18・22	凡	Ⅱ	楕円形	台形状	急斜度	149	131	102	75	86	12.27	A			
3094	SE	18B11・16	凡	Ⅱ	不整形	平円形	急斜度	258	158	69	55	108	12.05	A		>SD081	
3650	SE	21E18・19・ 23・24	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	90	79	48	40	75	12.50	A	碓石高田部		
3651	SE	21D25	凡	Ⅱ	楕円形	平円形	急斜度	172	110	81	95	69	12.69	A	土留脚75、碓石土留6、碓石部、 碓脚552、554		
3683	SE	22B23・24、 22F3・4	凡	Ⅱ	楕円形	台形状	急斜度	272	201	154	48	117	12.13	A	土留脚115・144・147、碓石部 58、白堀148、碓石64・碓石 512、碓石89、碓石59、碓石608・ 609、積石3片、加工材または加工材	<SD0682	
3794	SE	20C10・15	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	118	107	72	80	118	12.07	A	碓石404、碓石587・588、碓石 590、碓石594	<SD3733	
3906	SE	19D24	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	70	62	36	27	70	12.55	A	土留脚149	#SD3538	
3938	SE	26D23	凡	Ⅱ	円形	台形状	急斜度	90	80	68	68	108	12.29	A	碓石部、榑木製品599・ 600・601、平石製品594、碓石、 榑木製品605、加工材2片、積石		
4037	SE	26E19・20・ 24・25	凡	Ⅱ	不整形	平円形	急斜度	221	131	74	50	132	11.97	A	碓石部、碓石製品597・602、 加工材405・605、榑木製品		
4373	SE	21B21	凡	Ⅱ	楕円形	平円形	急斜度	154	67	48	32	82	12.13	A	碓石部、平石、加工材5.5片、碓石		

水田観察表

道番号	道種別	グリッド	橋出位置	河渠位置	部 置			幅 尺 (cm)			底面標高 (m)	積 積 形状	土 質	上 げ 土 建 物	切り合い	備 考		
					平 面	縦断面	立ち上がり	上端長尺	下端長尺	下階長尺							深 度	
2708	SX	11E1~4・ 6~9・ 11~14・ 16~19	凡	Ⅱ	方形	台形状	急斜度	852	742			12	13.08	D	碓石部	>SE2013、>P2548、>P2871、 >P1650、>P2547、>P1662、 >P2548、>P2619、>P2620、 >P1817、>P2623、>P1818、 >P4569、>P2642、>P1815、 >P2052、>P2607、>P1819、 >P2549、>P2650、>P2687、 >P2110、>P1668、>P2913、 >P2109、>P2554、>P2670、 >P2913、>P2565、>P2688、 >P2609、>P2610、>P2611、 >P2612、>P2613、>P2627、 #SD1973、>SD3873、#SD3898、 #SD2063、>P2138		
2710	SX	10E1~4・ 6~9・ 11~14・ 16~19	凡	Ⅱ	方形	台形状	急斜度	733	668			15	13.01	D	碓石部	>P1847、>P1979、>P1813、 >P2076、>P2721、>P2618、 >P2535、>P1667、>P2481、 >P2480、>P2115、>P2128、 >P2482、>P2489、>P2139、 >P1851、>P2484、>P2127、 >P2483、>P2126、>P1807、 <SK1982、<SK1986、<SK1981、 <SD1801、>SD2485、#SD1116、 >SD3673、>SD1969、>SD1968、 #SD1971、>SD1970		
2711	SX	12D17~20・ 22~25、 12E2~5・ 7~10・ 12~15、 17~20	凡	Ⅱ	方形	台形状	急斜度	865	748			17	13.04	D	碓石部	>P2355、>P2380、>P2083、 >P2366、>P2532、#P4667、 >P2359、>P2358、>P2824、 >P2625、>P2360、#P4665、 >P1664、>P2988、>P2086、 >P2014、>P2615、>P2082、 >P2382、>P2627、>P2614、 >P2364、>P2839、>P2621、 >P2622、>P2989、>P2991、 >P2978、>P2167、>P2985、 >P2814、>P2649、>P2679、 >P2624、>P2626、>SD31、 >P2827、>P2271、>P2975、 >P2993、>P2369、>P2840、 >P2394、>P2362、>P2366、 >P2367、>P2585、>P2586、 >SK2832、>P2623		

土師器焼成造構観察表

遺構番号	遺構種類	グリッド	検出部位	所属部位	幅 度 (cm)					底面 標高 (m)	直 上 層数 形状	出土遺物	切り合い	備考				
					平面	縦断面	立ち 上がり	上層 長径	上層 短径						下層 長径	下層 短径	深 度	
1746	SX	11D7-8-13	Nb	I	不整形	白形状	急斜面	256	186	200	100	15	13.15	A	土師器1・4・5・7・9, 黒色土器2・3・8, 灰陶器	<SD1747, <SD1748, #P2239, #P2240, <P2341, #P2342, <P2348, #P2142, #P2916, #P3031, #P3033, #P3034, #P3206, #P3267, #P3268, #P3586, #P3587, #P3588, #P3589, #P3592, #P3593, #P3594, #P3595, #P3596, #P3597, #P3598, #P4701, #P4702		
1786	SX	6D14・15・19・20	Nb	I	円形	白形状	急斜面	240	220	171	146	14	13.10	A	土師器14~43, 灰陶器, 灰陶器またじ織物等	<P3586, #P3587, #P3588, #P3589, #P3592, #P3593, #P3594, #P3595, #P3596, #P4701, #P4702		
1921	SX	8C30-32-35-25	Nb	I	円形	白形状	急斜面	124	122	102	112	9	13.33	A	土師器44-45, 灰陶器	<P3011, <P3012		
1973	SX	16C28, 11C16	Nb	I	楕円形	白形状	急斜面	160	124	116	87	8	13.25	G		#P1943, #P4628		
1992	SX	11C10-15	Nb	I	楕円形	白形状	急斜面	164	146	130	82	7	13.28	A	土師器46-48-50, 黒色土器47, 灰陶器	51-52 53-54		

溝遺構観察表 (1)

遺構番号	遺構種類	グリッド	検出部位	所属部位	幅 度 (cm)					底面 標高 (m)	出土遺物	切り合い	備考		
					上層 長径	上層 短径	下層 長径	下層 短径	深 度						
1	SD	.2D18-19-22-25, .2E4-5-9-10, .1E11-6-8-11-15-18-20-24-25, .1E5, .1E16-21-23, .1F1-5-7-10-14-15, .2F9-7-11-20-23-25, .2G5, .3F16-21-23, .3G1-4, .2D19-13-15, .2E23-25, .2E71-10, .2E8E21-24, .2E8F1-4	N/a	II	1066	148	1066	56	48	12.65	土師器176, 黒色土器100・104, 磨石31, 砥石479・496, 動物骨2, 加工した石607, 加工のある木片, 配石片, 柱礎本体	<P2660, >SD4006, #P4024, #P4025, #P4026, #P4027			
											土師器116-151・154-157-158-165-170, 黒色土器96, 灰陶器159, 白磁162・165・167・168-177, 青磁171・172, 肥田土陶器169・173-175, 加工土器502, 灰陶器554, 土師器152・153・162・166, 黒陶器陶器160, 白磁161, 青行磁土白磁163, 磨石164, 砥石478, 磨石木製品508				
2	SD	1D4-5-9-10-14-15-19-20-24-25, .1E5-10-15-20-25	N/a	II	1860	120	1817	53	46	12.48	土師器178, 土師器陶器181				
3	SD	1D3-8-13-18-23, .1E3-8-13-18	N/a	II	1556	81	1545	40	20	12.92					
9	SD	2E38-22-24, .2F4-9-10-15, .3F11-12-17-18	N/a	IV	1400	21	1283	6	5	12.97					
28	SD	3C20-25, .3C16-21, .3D1-2-7-13-13-14-19-20-25, .4D16-21-22	N/a	II	1950	84	1720	35	40	12.73	加工材				
32	SD	.2E11-6-8-13-15-20, .1E16-21-22, .1P2-4-9-10-15, .1F11-13-18-20-24-25, .2P21-22, .2G1-3-8-10	II	II	4480	49	4480	19	17	12.70					
37	SD	3C21-25	N/a	IV	610	22	600	9	6	13.02					
118	SD	4E38-25, .4F3-8	N/a	III	768	42	751	24	8	13.00					
173	SD	4D14-19-24, .4E4-5-10-15-20	N/a	IV	1110	10	1100	2	12	13.05		#SD218, #SD295, #SD296, >SD500			
203	SD	4F17-18-22-23	N/a	IV	175	60	167	35	17	12.86					
218	SD	4E5, .5E1-3	N/a	IV	828	30	812	18	7	13.09		>SD392, #SD173	>P487, <SD3786, >SD673, >SD841, #SD866, >SD847, #P502, >P4575, #SD296, >SD500, >P722, #SD295, >P723, >P1097, #P1091, >P576, >P757, >P1098		
263	SD	5C2-7-8-13-14-19-24-26, .6E6, .6D1-6-7-12-13-18-19-24, .6E5, .7E1-6-7-12-13-18-19-24	N/a	IV	2680	33	2680	13	18	13.03					
281	SD	4C24-25, .4D5, .5D1-6	N/a	II	655	23	649	13	7	13.11					
296	SD	5D16-21, .5E1-6-7-12	N/a	IV	777	27	765	13	6	13.08	磨石508	<SK437, >SD500, #SD173, #SD218, #SD296			
296	SD	5D13-18-23, .5E3-8	N/a	IV	866	27	846	12	10	12.07		#SD173, #SD218, #SD295, #SD296, >P723, >P757, >P5178, >P457, #SD441, #P515, >P512, >P4582, >P994, >P417, #P615, >P627, >P678			
408	SD	6C1-8-7-12-13-17-18-23-24, .6D4-9-10-15, .7D16-21-22, .7E2-3-8	N/a	IV	2750	42	2750	17	8	13.02					
409	SD	6D4-5-10-15	N/a	IV	580	30	567	23	10	13.05		>P1928, >P546			
435	SD	6E22, .6C2-3-8-13-14-19-24-25, .6D6-10, .7D6-11-12-17-18-23	N/a	IV	2176	50	2168	25	14	13.03		>P4579, >P663, >P4660, >P519, >P532, >P527, >P536			
441	SD	6E10-15, .7E6-7-8	N/a	III	657	35	645	20	11	13.04		<SD203, <SD408, >P661			

遺構観察表 (14)

溝遺構観察表 (2)

遺構番号	遺構種類	グリッド	出土層位	西側層位	幅 (cm)				底面積 (㎡)	出土遺物	切り合い	備考
					上端長	上端短	下端長	下端短				
442	SD	782I, 7C1・2・6・7・12・17・22・23, 7D3・8・13・14・19・24・25, 7E5・10, 8B6・11・16・17	Nb	N	3220	74	3198	49	20	13.08	土層第77・211・216, 磁石487	>P1045, >P449, >SD537, >SD673, =SD443, >P2140, >P2224, >P1153, >P1841, >P1939, >P1745, >P1493, >P1042, >P853, >P4620, >P481, >P1725, >P849
443	SD	7C9・10・12・13・14・17・18, 8B19・20・23・24, >2・3・6	Nb	N	2241	80	2217	64	17	13.02	土層第232, 磁石	>SD442, >SD678, >P1768, >P1769, >P1038, >P1507, >P2050
447	SD	5D10, 6D6	Nb	N	276	30	270	16	2	13.12		>SD353, #P445, #P446
454	SD	6C23・24, 6D4	Na	II	307	55	307	25	9	13.00		>SD537
466	SD	5D14・19・23・24, 5E4・5, 6E1・2・3・5・8・9・10	Na	N	1035	30	1035	10	10	13.06	近所舞鶴部	>P484, >SD480, =SD253 >P710, >P603, >P1047, >P2032
480	SD	6E10・15, 7D6・7・8	Na	N	350	13	295	5	2	13.13		>SD466
537	SD	6B24, 6C4・5・10・15・20, 7C21, 7D1・2・7・12・13・17・18・22・24, 7E10, 8B6・11・12・17	N	N	3368	100	3353	49	28	12.91	養生土層473・474, 近所舞鶴部, 磁石498, 製煉炉555	>P1497, >P405, >P4679, >P1489, >P4590, >P846, >P731, >P791, >P808, >P1495, >P2046, >P4581, >P4584, >SD454, >SD673, >SD442, >P530, >P1505
560	SD	5D14・19・23・24, 5E4	N	N	610	20	610	10	11	13.04		>SD173, >P4572, <SD1053, >P1024
631	SD	7E9	Nb	III	195	40	175	18	6	13.14		<SD673, >P634
673	SD	7F4・9, 7E4・9・14・19・24, 7D4・9・14・19・24, 7C24・25, 8C21・22, 8D2・3・4・9・10・15, 9D11・12・17・18・23・24・25, 9E5, 10E1・6・7・8・13・14・15・16・17・18・19・20, 12E15・19・20, 13E2・6・7・11, 13E13・14・18・20・22・23・25, 14E21, 14E1・2・6・7・12・13・18	Na	II	9760	30	9710	20	33	12.95	煎茶器, 珠洲焼	>P100, >P1765, =SK1094, <SD786, <SD353, <SD631, <SD837, <SD442, <SD1374, <SD1332, <SD1116, <SD1801, <SD2485, <SD1970, <SD1973, <SD3009, <SD2488, <SD2788, <SD2476, <SD2486, <SD19200, <P2490, <P1248, <P458, <P465, <SD2710, <SD3768, <SK1788, <P1089, <P2678, <P845, #P901, #P4585, #P739, #P495, #P1851, >P3055, #P3269, <P1788, <SK453, <SK466
674	SD	8D2・3・4・6・7・8・11・12・13	Na	II	973	98	918	47	19	13.09	小刀535	>P840, >P905, #P698, #P1178
675	SD	8C5・12, 9C1・5, 10C1・2	Na	N	2282	69	2254	28	13	13.12	製煉炉	>SD678, >SK1328, <P2901, <SD1189, #P1888, >P2188, >P2899, <P1326, >P18555, #P1897, #P1858, #P1851, >P4517, >P2890, >SD676
676	SD	8B25, 8C4・5	Na	N	443	55	365	27	2	13.21		>SD675
678	SD	8B20・25	Nb	II	180	35	170	12	2	13.22		>SD442, =SD1189, <SD1744, <SD675, =SK1701, #P1918
786	SD	7E24・25, 7F3・4	Nb	N	505	85	495	70	12	13.02		>SD353, >SD173
1116	SD	8E4・5, 9E1・2・3・5, 10E1・2	Nb	N	1580	38	1560	25	14	12.99		>P1447, >SK1980, >P4523, #P4525, >SD673, <SK2710
1154	SD	8F4, 8E24・25, 9E12・17・21・22	Nb	N	1109	43	1109	27	12	13.06		>P1402, >P1470
1188	SD	9E21	Na	N	151	46	142	25	4	13.19		<SD1744, >P1193
1189	SD	8B20・25, 9E21, 9C1・2・7・8	Nb	N	655	37	645	12	12	13.10		<SD1744, >SD675, =SD678
1327	SD	9E25, 10E21・22	Nb	N	440	42	432	21	6	13.24		>SK1322
1332	SD	9E1・3, 9E23・25, 10E21・24, 11D17・19, 12D12・17, 13E8・10・12・15, 14D1・4・6, 14C24・25, 15C14・19・21, 16C11・12	Nb	N	6997	34	6997	122	17	12.95	煎茶器, 近所舞鶴部	>P2972, >P2256, >SD673, <SD2485, <SD2470, <SK1374, <SD2422, >P1370, >P1377, >P1578, >P1931, >P2019, >P2628, >P2656, >P2884, >P3319
1374	SD	9D2・25, 10D16・21, 11D15・17, 12E8・15, 13D6・12, 14D1・4・6・9	Nb	N	5380	50	5380	36	9	13.13	煎茶器51, 魚洲焼, 黒島赤陶器424, 白磁280, 近所舞鶴部	>P1333, >P1334, >P1373, >P2278, >P2277, >P2078, >P2880, >P2794, >P2795, >2816, >SD2485, >SD673, <SK2086, =SK2470, >SD1332, >SD2725, >P2353
1390	SD	9E7・8	Nb	N	281	40	253	18	11	13.01		
1648	SD	11C21・22	Nb	N	98	20	94	8	6	13.34		
1649	SD	11C21・10a	Nb	N	154	27	136	10	5	13.31		
1744	SD	9B16・21, 10B13・14・16・18	Na	N	1784	53	1776	40	8	13.21		>SD1188, >SD678, >SD1189, #P1142, #P1175
1747	SD	11C23, 11D5・8・13	Nb	N	674	64	670	37	18	13.14	黒色土層3	>SK1746
1748	SD	11D3・8・13, 11C23	Nb	N	640	46	638	26	10	13.14	土層第10・13, 黒色土層5・11・12, 魚洲焼	>SK1746, >P2237, >P3239, >P3240, >P3241, >P3242
1800	SD	9E8・9・14・19	Nb	N	630	38	607	30	10	13.11		>P1792, >P1814
1801	SD	10E23, 10E3・4・9・14・10・17・18・19, 9E19・20	Nb	N	1650	34	1640	22	10	13.01		#SD1983, >SD1968, >SD2485, >SD1969, >SD673, >SD1971, >SD1973, =SK2710, >P1467, >SD1980, <SK1982
1919	SD	10E14・15, 11B7・11・12	Nb	N	470	40	462	22	15	13.04		>P2996, #P4548
1920	SD	11B16・21, 11C1・6	Nb	III	512	30	499	12	15	13.25		>P4499, >P2095, #P1921, >P4545
1968	SD	10E19	Nb	II	200	40	200	24	8	13.08		<SD1801, =SK670, <SK2710
1969	SD	10E4・5・9・10	Nb	III	458	42	450	22	9	13.11		<SD1801, >SD1972, >SD20200, <SK2710
1970	SD	10E13・17・18	Nb	III	280	56	280	30	15	12.92		<SD1801, >SD673, <SD2485, <SK2710

溝道構観察表 (3)

道標 番号	道標 種類	ブリード	地況 種別	西側 種別	縦 断 (cm)				断面 傾斜 (%)	出土遺物	切りかた	備考	
					上端 長径	上端 短径	下端 長径	下端 短径					深さ
1971	SD	10E19・24	Nb	IV	162	30	160	18	12	13.05	<SD1801, >SX2710		
1972	SD	10E5・10・15・ 11E11・7・10	Nb	IV	680	42	677	30	6	13.10	<SD1960, >SD673, *SX2708, >P2138, >P2606		
1983	SD	9E5, 10E21~25・25, 10E1, 11E21	Nb	IV	1200	38	1160	26	12	13.00	>P2500, *SD1801, >P2112		
1984	SD	12B7~10・13~15・19 ~20, 12B6~10・11~15・16 ~20, 14B1~15, 15B1~14, 16B1~3・6~8	Nb	I・II	4300	450	4000	130	33	12.87	上層部30・55・56・ 61~65・265・267, 西側上層部7・60, 東側部51・54, 東側部431・442, 西側部443・424, 白磁316・364・366, 近所陶磁器, 炭石10, P3462, P3463, P3464, また土製の洋509, 磁石, 磁石片, 製煉土片, 加工のあまる木片2片	<SX2266, *P1770, >P2258, *P3468, <SX3333, <SD3449, <SD3378, *P3409, <P3410, <P3411, <P3412, <P3413, <P3414, <P3416, <P3420, *P3421, <P3422, *P3423, *P3424, *P3436, *P3437, *P3462, *P3463, *P3464, *P3465, *P3468, <P3473, *P3474, <P3569, <P3600, *P3601, <P4648	
2000	SD	10E5・10, 11E8・11・ 16	Nb	IV	600	40	594	22	14	13.04	>SD1960, >SD673		
2061	SD	12B6・7・11・12・17・ 18・22~25, 13B21~ 24	Nb	III	1890	87	1882	59	10	13.21	溝道底 マイ子粒(156)	*SD2729, *SD2647, >P3603	
2062	SD	12B7・12~13	Nb	IV	440	60	430	40	8	13.22	>P4642		
2063	SD	11E6・7	Nb	IV	105	18	98	10	12	13.22	>SD1374, >P2158, *P4562, *P4600, >P4619		
2082	SD	11C21, 11D1・6・11・ 16	Nb	IV	690	30	677	15	10	13.23	>SD3498, *SX2708, >P2611, >P2613, >P2612		
2083	SD	11E19・20	Nb	IV	300	38	295	27	5	13.08			
2085	SD	11C22	Nb	IV	112	18	96	8	4	13.33			
2116	SD	8P5, 9P1~4	Nb	III	842	45	760	28	10	13.06	*P1440, *P1441		
2190	SD	13C2	Nb	IV	221	40	218	26	3	13.35	>P2185, P2186		
2232	SD	13C7・8・9	Nb	IV	318	46	307	34	3	13.25	>SD1998, >P2831, >P2846, >P2882		
2292	SD	13C23・24, 12D3・4	Nb	IV	320	63	308	31	9	12.17	>P2334, >P2837		
2347	SD	12D14・13	Nb	IV	148	28	134	16	4	13.13			
2373	SD	12E5・10・13・14・ 15・18・19・20, 13E1	Nb	III	980	50	950	20	32	12.86	土層片片数447	>P2369, >SX2935, >P2386, >P2387	
2378	SD	12D6	Nb	IV	73	23	72	14	6	13.24			
2381	SD	13C22・23	Nb	II	108	25	90	13	3	13.21	>P2382		
2384	SD	13C4・9・10・15・20・ 25・24・23	Nb	III	1402	35	1394	17	12	13.13	白磁317, 磨石片560	>P4906, >P2870, *P2969	
2422	SD	13E9・10・14, 14D6~9	Nb	III	1021	44	1008	22	5	13.26	磁石491	>P2972, <SD1332, >P2508, >P2563	
2470	SD	14E2・3・7・8・12・ 13・17・18・22・23, 14C7・7・13・17・22, 14D2	Nb	IV	568	58	568	26	13	13.15	煎茶壺	>SD3449, >SD472, >SD1374, >SD1332, >P2282, >P2251, >P2633, >P2624	
2472	SD	14C16・17・21・22・ 23, 14D3	Nb	IV	1091	77	1091	39	9	13.24		*SD2470	
2478	SD	13D18・19・20, 14D16	Nb	IV	725	80	712	67	19	12.90	>P2891, >SD673, >P2681, >P2688, >P2872		
2485	SD	10E6・7・12・17・18・ 23, 10E3・8・13	Nb	II	1120	30	1120	17	10	13.04	<SD1801, >SD673, >SD1970, <SD1374, <SD1332, <SD2710		
2486	SD	13D18	Nb	IV	63	30	56	18	10	13.03	>SD673		
2498	SD	11E13・14・18・19	Nb	IV	550	50	538	22	14	12.96	>SD673, <SD2083, *SX2708		
2583	SD	14D14・19・24, 14E4・8・9・10	Nb	II	985	43	968	24	8	13.12	*P2896, >SD2902, *P3259, *P3863		
2600	SD	14E8・7・8・13	Nb	IV	393	27	385	14	9	13.18	>SD673		
2646	SD	13C12・13・17・18	Nb	III	295	89	288	63	5	13.21	土層部256	*SD3647	
2647	SD	13B21・22, 13C2・7・ 12・17・22	Nb	III	889	84	889	67	11	13.14	<SD2061, <SD2729, =SD2646		
2727	SD	13D22, 12E2・7・12	Nb	IV	960	34	953	24	4	13.16	>SD2728, >P2098, >P2355, >P2356, >P2332, >P2634		
2728	SD	11D19・20・22~25, 12D19・23, 13D14・15, 14E8・9・11~14	Nb	IV	2649	60	2692	32	11	13.15	>P2561, >P2542, >SD673, *SD2727, >P2373, >P1655, >P2677, >SX2628, >P2541, >P2543, >P2544, >P2684, >P2709, >P2723		
2729	SD	13B21, 13C1・6・7・ 11~13・16・17・21・ 22, 13D1・2・6・7	Nb	III	1480	54	1480	38	12	13.13	>P2355, =SD2061, >SD2647, <SD1374, >P2664		
2748	SD	13B18・19・22・23	Nb	IV	430	61	375	46	5	13.29	近所陶磁器	<SD2749	
2749	SD	13B17~20・22, 14B16	Nb	IV	1028	78	982	44	9	13.21	>SD2748, <SD3379, <SD3378, <SD3352, >P2921		
2902	SD	14D11~14	Nb	IV	587	62	562	30	6	13.19	<SD2583		
2962	SD	17C1・6	Na	IV	365	97	367	23	8	13.06	溝道底	>P3165	
3078	SD	18E20・28, 17B16・21	Na	IV	251	57	242	31	10	13.04	>SD3197, >SD3097, >P3211		
3081	SD	17E25, 17C5・9・10・ 14・15・20, 18E2・7・ 9・11~14・16~19・21 ~23, 8C1~3・6~8・ 11~14・16~18, 17E6・10・15・20・25, 17E5・10・15・20・25, 18E1~4・6~9・11~ 14・16~18・21~23, 18E1~4・6~8・11~ 13・16~18・21~23	Na	I・II	4200	500	4200	180	32	12.88	土層部215・236, 溝道底 磁石492・493	<P3653, <P3648, <P3108, <SD3094, <SD3097, <SD3538, *P3269, <P3106, <P3189, <P3214, <P3226, <P4101, <P4103, <P4104, <P4106, <P4106, <P4107, <P4108, <P3237, <P3238, <P3627, <P4225	
3097	SD	18E23~25, 18C1・6・11, 18E21, 19C1・6・11	Na	II	1095	37	1090	19	5	13.13	溝道底435	>SD3081, <SD3078, >P3094, *P3103, *P3201, *P2681	

遺構観察表 (16)

溝遺構観察表 (4)

遺構番号	遺構種類	ブワッド	地出層位	西側層位	幅 度 (cm)				断面形状 (m)	出土遺物	切り欠い	備考
					上端長	上端短	下端長	下端短				
3115	SD	19613・18・23, 19C3・8・9	Na	IV	810	65	810	30	14	12.09	近岸溝縁部	>P3158, >P3160, >P3170, >SK3225, >P3766
3178	SD	17815	Na	IV	111	11	104	3	4	13.14		
3177	SD	19814・19	Nb	IV	117	23	98	13	7	13.19		
3183	SD	19817・22, 19C2・7・8・12・13・17・18	Nb	IV	931	68	899	47	5	13.14	真淵院, 近岸溝縁部	>P3228, >P3726, >P3916, >SD3737, <SD3232, <SD3747, >SD4189
3197	SD	16820・25, 16C3, 17816	Na	IV	596	45	595	21	8	13.13		<SK3038, <SD3078, ≠P3188, >P3192, >P3196
3222	SD	19814・15・20・25, 19C5	Nb	IV	522	45	522	25	20	13.11		>SK3208, >SK4179, >P3204, >P3911, >P3203, >4378
3234	SD	19C10・15, 20C11・16・17	Nb	IV	632	48	62	20	17	13.23		>SD3760, <SD3724, >P4175, <SD3733, >P3778, >P3969, >P3804, >P3805, >P3806
3231	SD	1986・7・11・12・17	Nb	IV	443	47	403	17	11	13.06		>SD3737, >SD3232
3232	SD	19823, 19C2・7・12・17	Nb	IV	1254	60	1234	33	14	13.07		<SD3231, >SD3183, <SD3738, >SD3746, >SD3737
3262	SD	1103・4・8	Nb	III	92	16	60	6	24	13.22		
3234	SD	1802・5・7・10, 1606・7・12・15	Nb	IV	1730	85	1720	62	6	13.06		<SD3348, <SD3402, >P3326, >P3327, >P3328
3235	SD	14D10・1086・11, 14E1, 14D11・12・16・19	Nb	III	1830	80	1820	60	15	13.00		<SK3151, <SK3248, <SD3402, <SK3148, >P3314, >P3330, >SK4167, >P3329
3325	SD	18017・22, 19C2・7・12・13・17・18	Nb	III	953	121	946	101	5	13.06		>P3519, <SK3145, >P3318, >P3329
3347	SD	18200・25, 18E5・10	Nb	III	732	99	727	86	6	13.04		
3348	SD	15C7・8・13・18・19・23・24, 18D4・9・10・15・20・25, 18D18・21, 18E3・2・6・7・12・17・18・22・23	Na	IV	2796	74	2790	44	35	12.74	青白磁353, 近岸溝縁部	>SD3323, >SD3324, >SK3521
3349	SD	13815, 14811・12	Na	IV	373	92	373	48	7	13.20	土庫跡109, 真淵院	<SD3352, <SD3378, <SD3470, <SD1984, >P3300, >P3410, >P3479
3352	SD	1486・11・16	Na	IV	356	62	340	25	7	13.22		>SD3749, >SD3378, >SD3349, >SD1984, >P3480
3378	SD	13820・25, 14810・21	Na	IV	692	95	627	80	6	13.25	真淵院	>SD1984, >SD2749, <SD3349, <SD3379, <SD3352, >P3737, >P3353, >P3602
3379	SD	14816・17	Na	IV	98	75	82	48	4	13.27		>SD3748, <SD3378
3399	SD	14819・20, 15816	Nb	IV	370	45	330	20	8	13.17		>SD3442, >P3446, >P3447, >P3453, >P3454, >P3455, >P3467, >P3469, >P3470, >P3474
3400	SD	18016・19・21	Nb	III	719	51	688	34	8	13.08		>SD3444
3402	SD	16C18・23, 16D2・3・7・12・17	Nb	III	917	46	909	30	7	13.07		>SD3323, >SD3324, >P3461
3429	SD	18020・23・25, 16816・18・20・22	Nb	IV	937	47	937	31	17	12.99		>SD3457
3433	SD	15C4・5・9・10, 16C1・2・6・7	Nb	IV	791	55	791	34	9	13.01		*SK3434
3444	SD	16813・15・18・20, 1688・11・13・16・17	Nb	IV	1250	105	1250	40	18	13.04		<SD3400
3457	SD	18823・24	Nb	IV	290	80	290	20	12	13.04		<SD3429
3460	SD	16C1・2	Nb	IV	80	14	62	10	9	13.13		
3482	SD	20816	Nb	II 段跡	80	33	75	15	10	13.18		*SK3481, >P3466
3487	SD	20817・22	Nb	IV	151	40	134	12	8	13.21		>P3488
3536	SD	17017・18	Nb	IV	376	40	353	34	10	13.04		>SD3537
3537	SD	17017	Nb	IV	104	46	102	34	8	13.06		<SD3536
3538	SD	1802・3・6・7・11・12・16・21, 18023・25, 19D16・21・25, 19E3, 20D1, 20E1・5・10・15, 21E6・11・16・21	Nb	II	4310	48	4310	16	48	12.7	土庫跡182・308, 真淵院93・102, 白磁210, 瀬戸299, 使用磁石の心磁石16, 瀬戸500, 磁石481, 482, 磁石511, 磁	*P4087, <P4088, <SD3081, <P3913, *SK3906, <P4091, <SD3576, <P4090, <P4092
3576	SD	19E10・15・20・25, 20C1・6	Nb	IV	919	35	875	10	9	13.19	加工跡506	>SD3538
3682	SD	2283・4・8・9・13・14・18・19・23・24, 2293・4	Nb	IV								>SD3683, >P3684, >P3685, >P4134, >P4136, >P4137, >P4138
3694	SD	20824・25	Nb	IV	108	35	44	24	30	13.02		>P3303
3734	SD	20C8・7・11・12・17	Nb	IV	699	50	682	30	10	13.15	真淵院	*SK3771, >P3723, >SD3224, >SD3732, >SD3750, <SD3733, <SK3718
3732	SD	20C1・2・3・4・8・9・10, 21C6	Nb	IV	1100	35	1095	20	14	13.23		*SK3178, <SD3724, <SK3718, >SK4383
3733	SD	20C1・2・6・7・10, 21C6-8	Nb	IV	1455	40	1435	28	10	13.14		>SD3724, <SD3743, <SK3719, *SK3151, >P3684, >P3727, *SK3771, <SK3149, <SD3224, >P4188, >SK3794, >P3716, >P3730, >P3731, >P3757, >P3758, >P3769, >P3774, >P3897, >P3922, >P4168, >P4703
3734	SD	20C13・14・15・18・20, 21C11・12・16・17	Nb	IV	890	107	857	73	11	13.17	青磁373	>P3813, >SD3744, >SK4302, >P3814, >P3815, >P3816, >P3850, >P3851, >P3872, >P4359, >P3873
3737	SD	19812・17	Nb	IV	338	80	338	49	17	13.04		<SD3231, <SD3232, <SD3183
3738	SD	19C16・18・21・23	Nb	IV	367	95	313	65	7	13.10		>SD3232, >SD3746, >P3923
3739	SD	21C7	Nb	IV	75	30	64	9	3	13.21		
3740	SD	21C2・7	Nb	IV	84	32	76	10	4	13.21		

溝道構観察表 (5)

道標 番号	道標 種類	グリッド	橋台 形状	西側 形状	幅 員 (cm)				路面 傾斜 (%)	出土遺物	切りかゝい	備考	
					上端 長径	上端 短径	下端 長径	下端 短径					
3743	SD	21C1・8	Nb	IV	258	29	242	15	9	13.09	>SD733, >P9735		
3744	SD	21C12・17・22	Nb	IV	303	66	303	40	8	13.11	<SD3734, <SD3750		
3745	SD	20D3・4・5・10	Nb	IV	435	60	425	28	24	12.84	<SD4189		
3746	SD	19C21・5	Nb	IV	158	47	113	16	5	13.17	<SD3738, <SD3252		
3747	SD	19B17・22・23 19C2・3・7・8・13・18	Nb	IV	887	52	870	21	17	13.08	>P928, >SD3183, >SD4189, >P9162, >P4754		
3748	SD	21D9	Nb	IV	73	22	60	9	3	13.28	>SD3755		
3750	SD	20C12・17・18・23・ 24・25, 21C21・22	Nb	IV	1111	80	1090	58	7	13.21	<SD3724, >SD3744, <SD3754, <SD4265, >SD3899, >SK3793, <SK3784, >P9810, >P9811, >P9866, >P9874, >P9920		
3754	SD	20C25, 20D3・5, 21C21・22, 21D1	Nb	IV	715	54	698	25	12	13.11	>SD3750, <SK3749, <SD4189, >SD4295, <SD3840, <SK3840, >P9875, >P4226 >P4217, >P4313, >P9894, >P9895, >P3896, >P4286, >P4214, >P4216, >P4219, >P4242, >P4285, <SD3746, <SD4249, >SD4324, >SD3762, <SD4331, <SD3763, >SD4357, >SD4335, >SD4333		
3755	SD	21D7・10, 22D6・8・ 9・14・15, 23D11・12	Nb	IV	2072	36	2061	37	10	13.28	土層部222, 白籠 304・314, 近岸溝 敷		
3756	SD	21C22・25, 21D1・2・ 6・7, 22C16・17	Nb	IV	1412	67	1356	26	29	13.05	白籠340, 裏倉敷, 溝 敷445, 溝敷部433, 近岸溝 敷		
3760	SD	19C10・15・20・25, 20C21	Nb	IV	661	66	623	37	22	13.14	近岸溝敷		
3761	SD	22D8・10	Nb	II	602	34	577	14	5	13.31	溝洲堤425		
3762	SD	22D11・15, 23D11・12	Nb	II	1175	39	1161	19	9	13.24	裏倉敷, 溝洲堤		
3763	SD	23C19・24, 22D9・9・ 14・19	Nb	IV	654	64	654	26	33	13.10	裏倉敷, 溝洲堤449, 白籠311		
3764	SD	22D14・15	Nb	II	119	47	119	18	5	13.29			
3765	SD	23C21・25	Nb	IV	476	60	476	26	11	13.27	<SD3763, <SD4206, >SD4236		
3767	SD	19C24・25, 20C21, 20D1・2	Nb	IV	627	73	614	27	8	13.07	>P9137, >SD4174, >P9912		
3899	SD	20C22・23・24	Nb	IV	238	52	217	31	8	13.11	土層部269		
3930	SD	28D14・19・24・25, 28D5	Nb	II 経線	501	87	501	22	25	12.79			
3935	SD	27D19・22・24	Nb	IV	403	54	403	22	12	13.10			
3939	SD	26D9・14・18・19・23	Nb	IV	674	45	674	23	11	13.21	>P9904		
3940	SD	26D13・18・22・23	Nb	IV	646	42	646	15	11	13.28	土層部212		
3947	SD	25D12・13・17・18・ 22	Nb	IV	536	49	526	31	11	13.26	#P9960		
4006	SD	28C24・25, 20D3・5, 27E21・25, 27F1・2, 28E16・19・21・24	Nb	II	2187	109	2103	38	27	13.01	土層部121, 裏倉敷 103, 礎石513, 加工 材39	<SD1	
4029	SD	27E16・19・21・23	Nb	IV	771	76	750	30	14	13.13			
4095	SD	23E2・6・7	Nb	IV	364	40	364	15	6	13.26	>P4097		
4096	SD	23E2・6・7	Nb	IV	342	40	342	16	7	13.27			
4174	SD	19C26, 20C21	Nb	IV	278	63	242	35	4	13.15	>P4187, <SD4180, >SD4175, <SD3767, >P9325 >P9925, >P4187, <SD4189, <SD4174		
4175	SD	19C24・25, 20C21	Nb	IV	277	50	247	13	3	13.16	>P3925, >P4357, >P4166, >P3900, >P9818, >P4226, >P4309, <SD3747, <SD4183, <SD3763, >SD4175, <SD4174, <SD3745, <SD3756, <SD3754, <SK3896		
4189	SD	19C18・19・20・24・ 25, 20C21・22, 20D2・3・4・6・10, 21D6	Nb	IV	1855	60	1850	36	12	13.07			
4206	SD	21C24・25, 21D5, 22C12・23, 22D11・5, 23C21, 23D1・4	Nb	IV	1424	77	1424	37	22	13.22	裏倉敷66, 溝洲堤437, 溝洲堤部433, 土層 部495・498, 近岸溝 敷	>SD3763, >SD3785, <SD3756, >P4302, >P9877, >SK4259, >P4227, >P4230, >P4232, >P4241, >P4266	
4239	SD	23D7	Nb	IV	64	19	40	5	7	13.20	>P4251, >P4282		
4249	SD	22D5, 21D1・6・9	Nb	IV	810	44	773	37	7	13.24	>SD4250, >SD3755, <SD3756, >P9895		
4250	SD	21D2・3・7・8	Nb	IV	244	38	244	19	10	13.27	>SD4325, <SD4249		
4251	SD	23D14・15・18・19, 24D6・7・8・11	Nb	IV	1210	40	1210	18	13	13.19	>SD4272, >SD4378		
4255	SD	23D16	Nb	II	108	36	101	15	4	13.28			
4269	SD	23D9・10・13・14・15, 24D1・2・6・7	Nb	II	788	68	780	38	9	13.31	>SD4327		
4270	SD	23D15・20	Nb	IV	98	18	88	10	13	13.24			
4271	SD	23D11・19・20・24, 24D11	Nb	IV	543	41	536	19	4	13.29			
4272	SD	23D18	Nb	IV	240	34	240	20	4	13.25	<SD4251		
4287	SD	24D13・17・18・21・ 22	Nb	II	533	55	523	31	11	13.29	白籠301		
4295	SD	20C24・25, 20D4	Nb	IV	251	60	245	44	7	13.11	>SD3750, <SD3734, >SD3899, <SK3840		
4323	SD	23C11・16	Nb	IV	79	24	60	12	14	13.21	溝洲堤		
4324	SD	21D2・4・8・10, 22D6・7	Nb	IV	1113	35	1106	19	11	13.32	<SD4325, <SD3755, >P4214		
4325	SD	21D8・10, 22D6	Nb	IV	570	27	546	11	4	13.28	>P4355, >SD4324, <SD4250		
4327	SD	23D10, 24D6・7	Nb	II	277	40	260	34	10	13.30	<SD4269		
4329	SD	22D19・20, 23D16・17	Nb	II	543	33	536	27	7	13.22	土層部218		
4331	SD	23D7・12・13	Nb	IV	300	31	283	21	4	13.28	<SD4356, >P4339 >P4682, >SD3755, <SD3763		

遺構観察表 (18)

溝遺構観察表 (6)

遺構番号	遺構種類	グリッド	検出層位	所属層位	規模 (cm)				底面標高 (m)	出土遺物	切り合い	備考
					上端長	上端短	下端長	下端短				
4333	SD	Z206・7	Ⅱb	Ⅱ	122	22			3	13.29		#SD3762, <SD3755
4334	SD	Z3013・17・18	Ⅱb	Ⅱ	258	34	250	12	6	13.26		>SD4335
4335	SD	Z3012・13・17	Ⅱb	Ⅱ	277	78	260	54	3	13.26		<SD4336, <SD4334, >SD3755, <SD4337, >P4247
4336	SD	Z3017	Ⅱb	Ⅱ	142	30	134	14	10	13.22		>SD4329, >SD4335
4337	SD	Z209・10・15, Z3011~13	Ⅱb	Ⅱ	758	34	740	28	7	13.26		>P418, <SD3763, <SD3755, >SD4335
4378	SD	Z3014・15, Z406・8	Ⅱb	Ⅱ	688	37	688	13	4	13.22		<SD4251, >P4258
4473	SD	Z210・14・15・19	Ⅱb	Ⅱ	615	35	590	15	2	12.83		

性格不明遺構観察表

遺構番号	遺構種類	グリッド	検出層位	所属層位	形態				規模 (cm)				底面標高 (m)	出土遺物	切り合い	備考
					平面	縦断面	立ち上がり	上端長	上端短	下端長	下端短	深さ				
419	SX	6C16・17・21・22	Ⅱa	Ⅲ	不整形	台形状	急傾斜	87	41	57	29	11	13.08			
1743	SX	10R25, 10CS	Ⅱa	Ⅲ	不整形			164	24	113	6				#P2557	
2117	SX	10R21	Ⅱb	Ⅲ	不整形			62	28	8	4	13	13.00			
2493	SX	13R1	Ⅱb	Ⅲ	長方形			92	71	60	37	16	12.94			>SD673

P1観察表 (1)

遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm)			底面標高 (m)	出土遺物	切り合い	遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm)			底面標高 (m)	出土遺物	切り合い
			上端長	上端短	深さ							上端長	上端短	深さ			
10	3F12	Ⅱ	21	16	35	12.69	A	122	4D4	Ⅱ	27	25	21	12.85	A		
13	3F8	Ⅱ	18	16	14	12.91	A	126	4D3	Ⅱ	20	18	14	12.93			
17	3F4	Ⅱ	18	17	37	12.70	A	127	4D9	Ⅱ	24	22	49	12.69	B		
23	2D14	Ⅱ	29	20	20	12.82	A	128	4D9	Ⅱ	23	20	25	12.92	A		
25	2E4	Ⅱ	18	15	20	12.86	A	129	4D9	Ⅱ	21	17	44	12.73			
29	3D4	Ⅱ	24	29	26	12.83	A	131	4D10	Ⅱ	23	18	22	13.04			
38	1E2	Ⅱ	23	20	9	12.78	A	132	4D10	Ⅱ	21	14	16	13.00	A		
39	1E7	Ⅱ	21	20	62	12.28	A	133	4D10	Ⅱ	27	25	45	12.68	A		
40	1E12	Ⅱ	20	18	13	12.76	A	134	4D13	Ⅱ	18	15	23	12.82	B		
41	1E7・8	Ⅱ	21	18	7	12.82	A	135	4D17	Ⅱ	30	16	15	13.01	A		
42	1D22	Ⅱ	18	14	9	12.80	A	136	4D17	Ⅱ	15	12	16	12.97	A		
43	1D21	Ⅱ	21	18	6	12.85	A	137	4D17	Ⅱ	17	15	13	13.01	B		
44	1D17	Ⅱ	25	22	17	12.76	A	139	4D18	Ⅱ	22	22	59	12.57			
45	1D17	Ⅱ	20	19	9	12.82	A	141	4D13	Ⅱ	23	21	45	12.71			
46	1D17	Ⅱ	25	23	17	12.71	A	142	4D18	Ⅱ	22	20					
47	1D19	Ⅱ	18	13	14	12.80	A	143	4D19	Ⅱ	18	17	41	12.76			
48	1D24	Ⅱ	26	22	13	12.81	A	144	4D20	Ⅱ	20	16	48	12.68			
54	2D22	Ⅱ	22	15	27	12.69	A	145	4D20	Ⅱ	26	24	31	12.87			
63	2E5	Ⅱ	18	17	56	12.49	A	146	4D20	Ⅱ	24	20	48	12.71			
65	2F9	Ⅱ	26	21	22	12.79	A	147	4D20	Ⅱ	25	24	11	13.08			
68	3D24	Ⅱ	24	20	7	13.00	A	149	4D22	Ⅱ	34	32	14	13.00	A		
69	1E5	Ⅱ	19	18	19	12.79	A	155	4D24	Ⅱ	22	17	27	12.89	A		
70	4C14	Ⅱ	22	22	36	12.68	A	156	4D24	Ⅱ	25	20	23	12.93	B		
71	2D23・24	Ⅱ	28	23	27	12.41	B	157	4D25	Ⅱ	34	18	33	12.85	A		
76	2D23	Ⅱ	23	20	41	12.58	A	158	4D25	Ⅱ	20	18	30	12.87			
77	2E7	Ⅱ	32	26	39	12.60	A	160	4E11	Ⅱ	14	13	20	12.87	A		
79	2E3	Ⅱ	24	21	50	12.48	A	161	4E11	Ⅱ	20	18	59	12.50	A		
83	2F5	Ⅱ	18	16	24	12.76	A	163	4D25	Ⅱ	21	17	16	13.02			
86	3D11	Ⅱ	37	30	34	12.70	A	165	4D25	Ⅱ	16	15	27	12.79			
89	3D14	Ⅱ	15	10	8	12.96	A	169	4E7	Ⅱ	20	17	26	12.85			
94	3E2	Ⅱ	16	11	13	12.92	A	172	4E9	Ⅱ	23	21	41	12.65	B		
96	1E5	Ⅱ	70	38	9	12.91	A	175	4E10	Ⅱ	20	14	23	12.91			
98	3E25	Ⅱ	23	22	82	12.93	A	176	4E17	Ⅱ	16	15	6	13.02			
99	3F1	Ⅱ	17	12	161	12.80	B	184	4E19	Ⅱ	14	12	12	12.91	A		
100	3F1	Ⅱ	26	23	43	12.55	B	187	4E20	Ⅱ	20	17	32	12.77	B		
102	4F3	Ⅱ	20	18	35	12.66	A	189	4E20	Ⅱ	18	18	27	12.77			
103	3F22	Ⅱ	23	18	20	12.77	A	194	4F3	Ⅱ	16	15	20	12.83	B		
106	3F20	Ⅱ	20	19	47	12.55	A	195	4F3	Ⅱ	17	14	22	12.83	A		
109	3F25	Ⅱ	24	17	29	12.73	A	196	4F4	Ⅱ	15	10	14	12.87	A		
110	3F24	Ⅱ	21	18	24	12.72	A	198	4F4	Ⅱ	14	12	8	12.93			
111	4C18	Ⅱ	16	15	21	12.89	A	199	4F4	Ⅱ	27	25					
112	4C18	Ⅱ	25	25	161	12.88	A	201	4F5	Ⅱ	17	15	20	12.85	A		
113	4C24	Ⅱ	22	16	14	12.94	A	202	4F3	Ⅱ	27	20	98	12.05			
117	4D3	Ⅱ	20	14	9	13.07	A	206	4F9	Ⅱ	17	16	26	12.79	A		
119	4D4	Ⅱ	19	14	9	12.99	A	210	4F10	Ⅱ	19	17					
120	4D7・12	Ⅱ	17	15	33	12.83	A	211	4F17	Ⅱ	28	24	29	12.76	A		

Pit観察表 (2)

遺構番号	グリッド	所属層	規模 (cm)			底面標高 (m)	出土遺物	切り合い
			上部長径	上部短径	深さ			
213	4F20	II	18	13	35	12.58	A	
215	4F18	II	15	14	29	12.68	A	
216	4F18	II	18	16	26	12.72	B	
217	4F14	II	16	12	17	12.84	A	
222	4E18	II	22	15	20	12.82	A	
223	4D9	II	26	21	36	12.81	A	
224	4C25	II	23	15	31	12.85	A	
225	4C25	II	25	19	33	12.83	A	
230	4F6	II	25	24	51	12.58	A	
231	4F6	II	15	12	14	12.93	A	
236	4F21	II	14	10	34	12.70	A	
238	5C16	II	18	14	19	12.94	A	
239	5C16	II	14	13	13	13.00	A	
242	5C21	II	23	20	30	12.85	A	
243	5C16	II	15	12	31	12.83	B	
244	5C21	II	19	16	27	12.87	A	
245	5C21	II	22	19	26	12.89	A	
247	5C22	II	37	22	27	12.89	A	
255	5C8	II	27	27	17	12.99	A	
256	5C17・18	II	31	28	34	12.82	B	
257	5C23	II	40	31	17	13.01	A	
259	5C23	II	30	28	14	13.00	A	
260	5D1	II	29	26	43	12.71	A	
264	5D3	III	69	45	25	12.91	A	
268	5D1	II	16	11	25	12.88	A	
269	5D3	II	20	18	31	12.85	B	
271	5D6	II	35	32	35	12.78	A	
273	5D6・7	II	32	28	42	12.73	B	
274	5D7	II	25	23	39	12.77	A	
276	5D7	II	28	20	33	12.83	A	
277	5D6	II	15	10	12	13.00	B	
279	5D11	II	17	13	22	12.90	B	
280	5D11	II	18	15	20	12.92	B	
282	5D11	II	20	15	28	12.86	B	
284	5D16	II	37	23	28	12.86	B	
285	5D16	II	22	20	21	12.93	B	
288	5D12	II	18	17	17	12.98	A	
290	5D11	II	15	12	18	12.97	B	
291	5D6	II	27	23	35	12.78	A	
292	5D11	II	28	20	24	12.91	A	
293	5D11	II	21	17	30	12.82	A	
297	5D17	II	30	28	52	12.60	A	
299	5D18	II	30	23	45	12.69	B	
301	5D17	II	21	19	22	12.92	A	
302	5D22	II	25	24	36	12.77	A	
304	5D23	II	31	23	45	12.72	A	
305	5D22	II	25	20	19	12.95	B	
307	5D19	II	23	20	56	12.55	A	
308	5D18	II	25	22	15	12.99	A	
310	5C20	II	24	20	30	12.86	A	
311	5C20	II	36	28	44	12.76	B	
313	5C20	II	25	23	21	12.98	A	
318	5C20	II	30	23	46	12.74	B	
319	5D7	II	22	19	16	12.98	A	
321	5D15	II	25	22	42	12.71	A	土師器108
323	5D4	II	21	21	26	12.90	A	
325	5D18	II	11	10	19	13.01	A	<P324
326	5D18	II	15	14	19	13.02	B	
328	5D23	II	18	15	22	12.91	B	
330	5D2	II	15	14	25	12.90	A	
331	5D2	II	20	16	12	13.03	A	
332	5D6	II	20	15	25	12.88	A	
333	5C20	II	22	18	25	12.91	A	土師器120
336	5E7	II	20	19	28	12.87	B	
339	5E8	II	22	20	45	12.69	A	
340	1D25	II	16	12	24	12.70	A	
341	5E8	II	25	23	36	12.79	A	
342	5E9	II	34	30	49	12.64	A	
343	5E9	II	20	16	18	12.90	B	
344	5E14	II	32	28	69	12.43	B	
345	5C10	III	20	18	52	12.68	A	
348	5E15	II	25	23	32	12.81	A	
351	5E12	II	21	18	33	12.83	B	
352	5E11	IV	21	20	40	12.74	A	
354	5C25	II	32	24	54	12.66	A	
356	5E11	II	30	30	40	12.74	A	
357	5E13	II	18	15	18	12.97	B	
358	5E20	II	14	13	19	12.92	A	#P462
360	5E19	II	28	22	38	12.73	A	
361	5E18	II	29	25	18	12.90	B	
362	5E12・17	II	21	18	24	12.92	B	
363	5E12	II	17	14	30	12.85	B	
364	5E21	II	18	16	26	12.87	A	
365	5E17・22	IV	37	33	11	13.00	A	
366	5E22	II	25	20	34	12.78	A	
367	5F3・8	II	18	16	30	12.75	B	
368	5E17	II	25	22	28	12.80	A	
369	4E4	II	23	19	27	12.87	A	
371	4F5	II	17	13	27	12.74	A	
372	4F5・10.5F1・6	II	18	14	30	12.70	B	
373	5F6	II	24	15	23	12.78	B	
374	5F6	II	16	13	34	12.73	A	
375	5F11	II	20	20	19	12.79	A	
376	5F11	III	33	29	23	12.69	A	
377	5F11	II	24	18	19	12.79	A	
378	5F14	II	22	18	34	12.71	B	
380	5F10・15	II	25	21	18	12.74	B	
381	5F10	II	23	19	25	12.68	B	
383	5E13・14	II	20	18	15	12.98	B	
385	6C16	II	41	38	34	12.82	A	
387	6C11	II	23	20	25	12.91	A	
388	4E10.5E6	II	17	14	25	12.87	A	
389	5E11	II	20	20	21	12.82	A	
391	5C21	II	23	13	21	12.91	A	
393	5C11	II	26	26	27	12.79	A	
394	6C6	II	38	34	34	12.87	A	<SD408
395	6C16	II	27	22	32	12.88	A	
396	6C17	II	26	19	22	12.94	A	
397	6C17	II	20	18	21	12.95	A	
398	5E2	II	34	23	28	12.85	A	
399	5D24	II	25	25	60	12.53	A	
400	5E16	II	21	20	40	12.70	A	
402	6C12	IV	28	20	68	12.51	A	
403	6C11	II	17	13	12	13.08	A	
404	6C11	II	23	20	19	12.97	A	
406	6C13	II	34	25	25	13.00	A	
410	6C11	II	22	18	16	13.02	B	
411	6C13	II	17	15	17	12.94	A	
417	6C12	II	23	21	49	12.63	A	<SD408
418	6D12	II	20	30	34	12.81	B	
425	5F4	II	19	18	26	12.82	A	
426	5F2	II	18	15	22	12.86	A	
428	5F1	II	22	21	10	12.94	B	
430	5F5	II	31	24	40	12.60	A	
431	5E14	II	22	18	24	12.89	A	
433	6C7	II	28	22	61	12.54	A	
450	7C2	II	24	14	12	13.16	B	
452	7C16	II	34	29	30	13.13	A	
455	8D9	II	45	30	10	13.11	A	<P457, >SD673
457	8D9	II	30	26			A	>SK456, >P455
458	8D4	II	27	25	21	12.96	A	柱礎628 >SD673
459	9D1	III	25	23	24	12.94	A	柱礎
460	5F8	II	25	22	41	12.60	A	
462	5E20	II	25	17	42	12.69	A	#P358
464	5F7	II	22	20	31	12.72	A	
465	5F7	II	19	15	27	12.76	A	
467	5C20	II	27	25	20	12.97	A	
468	6C3	II	47	34	24	12.88	A	
470	6C9	II	30	25	16	13.07	A	
471	6C14・15	IV	25	20	12	13.12	C	>P494
472	6C9	III	25	23	10	13.11	A	
473	6C9	III	35	22	6	13.16	A	

遺構観察表 (20)

Pit観察表 (3)

遺構番号	グリッド	所屬層位	規模 (cm)			底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い	遺構番号	グリッド	所屬層位	規模 (cm)			底面標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深さ								遺構番号	グリッド	所屬層位				
474	6C9	Ⅲ	26	24	27	12.99			614	7E2	Ⅱ	26	17	39	12.69				
475	6C14	Ⅳ	35	30	12	13.08	C		615	7E3	Ⅱ	20	20	19	12.87			#SD408	
476	6C14	Ⅳ	27	25	17	13.09	C		618	7E13	Ⅱ	25	17	16	12.94				
477	6C14	Ⅳ	32	31	27	12.95	C		619	7E4	Ⅱ	22	19	16	13.04				
479	6C18・19	Ⅱ	17	15	13	13.00	A		620	8E11	Ⅱ	18	17	15	12.89			<SD442	
482	6C5	Ⅱ	34	26	39	12.82	A		622	7E6	Ⅱ	38	30	44	12.65				
483	6C5	Ⅳ	17	15	21	13.02	C		623	7E6	Ⅱ	16	14	16	12.93				
484	6E1	Ⅳ	23	20	35	12.69	A	<SD466	624	7E7	Ⅱ	26	24	24	12.85	B			
486	6C9	Ⅱ	30	20	17	13.01			626	7E13	Ⅱ	23	20	35	12.73				
489	6C23	Ⅱ	21	20	35	12.80			627	7E8	Ⅱ	43	37	16	12.96			<SD408	
492	6C12	Ⅱ	25	24	10	13.06	B		629	7E8	Ⅲ	29	20	26	12.87				
493	6D2	Ⅱ	38	31	33	12.82	B		634	7E9	Ⅱ	39	25	9	13.08			>SD631	
494	6C15	Ⅱ	32	24	67	12.60		>P471	637	7E11	Ⅱ	35	32	29	12.77	A			
495	5D3	Ⅱ	22	21	22	12.92			639	7E11	Ⅱ	15	14	44	12.63				
496	6D1	Ⅱ	33	24	41	12.75	B		642	7E11	Ⅱ	32	25	18	12.90	B			
498	5D10.6D6	Ⅱ	32	26	19	12.98	B		643	7E12	Ⅱ	18	16	28	12.84	A			
500	6D1	Ⅱ	25	18	44	12.73	B		644	7E12	Ⅱ	40	27	42	12.67	B			
501	5D5	Ⅱ	22	20	21	12.83	A	<SD263	645	7E7	Ⅱ	24	18	19	12.87	B			
503	6C10	Ⅱ	24	18	19	13.02			648	7E14	Ⅱ	23	22	14	13.02	B			
504	6D7	Ⅱ	37	33	20	12.96	B		651	7E16	Ⅱ	31	28	31	12.77	B			
505	6D7	Ⅱ	21	18	19	12.97	B		654	7E17	Ⅱ	22	21	32	12.75	A			
506	5D20	Ⅱ	19	14	38	12.80	B		655	7E12	Ⅱ	32	31	43	12.66	A			
507	5D20	Ⅱ	20	19	23	12.94	A		656	7E17	Ⅱ	31	17	43	12.66	A			
508	6D16	Ⅱ	22	20	29	12.88	B		659	8B22	Ⅱ	33	27	30	12.94				
511	6D22	Ⅱ	16	15	17	13.03	B	>P620	660	8B17	Ⅱ	31	27	25	13.00				
512	6D23	Ⅱ	24	20	19	12.99	B		661	8B18	Ⅱ	40	38	19	13.07				
513	6D23	Ⅱ	35	25	32	12.85	B		664	8B22	Ⅱ	33	25	25	13.02				
530	6E13	Ⅱ	35	30	14	13.00	B		665	8B23	Ⅱ	31	23	23	13.04				
541	6C6	Ⅱ	19	17	20	12.93	B		666	8B23	Ⅱ	23	20	26	13.01				
542	6B25	Ⅱ	21	19	35	12.89	B		667	8C1	Ⅱ	29	25	25	12.97				
543	6B25	Ⅱ	22	11	15	13.08			668	8C1	Ⅱ	30	25	27	13.00				
544	6B25	Ⅱ	27	10	21	13.02	A		669	8C2	Ⅲ	25	22	29	12.98				
546	6C20	Ⅳ	26	23	9	13.13	C		671	8C8	Ⅱ	21	17	34	12.92				
548	6D10・5	Ⅱ	30	25	27	12.88	B	<SD409	672	8C8	Ⅱ	17	16	19	13.06				
549	6D9	Ⅱ	22	20	32	12.84	B		677	8C19・20	Ⅱ	36	28	43	13.05				
551	6C20	Ⅱ	27	24	12	13.06			679	8C20	Ⅱ	18	17	31	12.95				
553	6D15	Ⅱ	20	17	23	12.89	B		680	8C19	Ⅱ	28	25	29	12.93				
555	6D14	Ⅱ	20	16	14	13.01	A		683	8C25	Ⅱ	19	16	40	12.89			柱礎 >P692	
558	6D14	Ⅱ	20	16	24	12.90	A		684	8C24	Ⅱ	28	25	30	12.98	B			
559	6D13	Ⅱ	24	23	16	13.00	B		686	8C23	Ⅲ	15	14	29	12.96			柱礎 >P1762	
560	6D8	Ⅳ	13	11	31	12.83			687	8C23	Ⅱ	22	15	34	12.96	B			
561	6D14・19	Ⅱ	55	40	14	13.00	B		688	8C23	Ⅱ	23	18	22	13.07				
567	6D17	Ⅱ	16	16	31	12.89	B		690	8C24	Ⅱ	10	8	9	13.22			>P1761	
568	6D23	Ⅱ	25	18	36	12.80	B		691	8C24	Ⅱ	38	21	22	13.09	A			
569	6D23	Ⅱ	35	31	25	12.92	B		692	8C25	Ⅱ	17	15	13	13.17	A		<P683	
571	6D19	Ⅱ	17	16	44	12.68	A		693	8C20	Ⅱ	26	21	44	12.87			#P695	
574	6D19	Ⅱ	29	23	36	12.78	B		695	8C20	Ⅱ	29	19	22	13.08			#P693	
575	6D19	Ⅱ	28	11	36	12.80	B		697	8D1・2	Ⅱ	23	18	43	12.84			#P1799	
576	6D18	Ⅱ	29	18	24	12.92	B	<SD263	698	8D2	Ⅱ	33	27	26	13.03			#SD674	
577	6D18	Ⅱ	19	14	15	13.02	B		699	8D2	Ⅱ	30	29	23	13.05				
580	6E1	Ⅱ	20	18	25	12.90	B		700	8D3	Ⅱ	26	25	35	12.95				
581	6E1	Ⅱ	37	24	23	12.92	B		701	8D3	Ⅱ	25	22	33	12.97				
582	6E1	Ⅱ	23	22	41	12.73			703	8D3・4	Ⅱ	37	27	24	12.99				
583	6E1	Ⅱ	18	17	28	12.86	B		711	6F3	Ⅱ	38	25	16	12.82	B			
586	6E12	Ⅱ	15	10	33	12.84	B		712	6D14	Ⅱ	18	16	19	12.95	A			
588	6E12	Ⅱ	28	19	39	12.77	B		714	6D23	Ⅱ	12	10	28	12.90	B			
589	6E13	Ⅱ	20	16	31	12.83	B		715	6D18	Ⅱ	21	19	39	12.78	B			
590	6E13	Ⅱ	15	13	19	12.95	B		717	6E4	Ⅱ	25	20	27	12.91	B			
591	6E13	Ⅱ	16	15	53	12.58			719	6E22	Ⅱ	30	25	21	12.89	A			
592	6E14	Ⅱ	20	18	21	12.90	B		723	6D11・12	Ⅱ	61	57	49	12.68	A			
595	6E14	Ⅱ	23	22	46	12.72			727	6F8	Ⅱ	25	19	29	12.63				
596	8D1	Ⅱ	38	35	72	12.57			732	6F5・10	Ⅱ	27	24	46	12.54	A			
597	6E15	Ⅱ	25	20	17	12.72	B		733	6F5	Ⅱ	33	28	23	12.77	A			
598	6E15	Ⅱ	23	20	12	12.81	B		735	6E25	Ⅱ	16	15	20	12.87	A			
601	6E10	Ⅱ	22	20	67	12.40	A	柱礎626 <SD441	737	6E20	Ⅱ	21	20	16	12.95	B			
603	6E10	Ⅱ	28	26	57	12.57		<SD466	740	6E17	Ⅳ	25	23	33	12.70				
604	6D24	Ⅱ	21	18	23	12.90			741	6E16	Ⅱ	29	24	43	12.70				
605	6E9	Ⅱ	28	27	49	12.63			742	6E11	Ⅱ	24	22	25	12.88	B			
610	7E18	Ⅱ	30	26	33	12.75	A		743	6E4	Ⅱ	13	10	12	13.06				
611	7E1	Ⅱ	17	15	11	12.98	B		745	6E3	Ⅱ	28	26	18	13.01				
612	7E1	Ⅱ	22	19	27	12.81	A		746	6E11	Ⅱ	27	23	46	12.66				
613	7E2	Ⅱ	22	20	11	12.97	A		748	6E6	Ⅱ	28	24	20	12.90	B			

Pit観察表 (4)

道構番号	グリッド	所属 解区	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 傾度	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
749	6E3	II 区画	15 12 20		12.97			
750	6D24	II 区画	28 22 48		12.69			
751	6D24	II	13 10 22		12.93 A			
754	7E17	II 区画	13 11 43		12.66			
756	7E17	II 区画	27 20 43		12.66			
757	7E18	II 区画	28 20 48		12.63		<SD263	
759	7E19	II 区画	34 25 40		12.63		*SD673	
760	7E19	II 区画	16 15 35		12.77			
761	7E19	II 区画	60 32 52		12.58			
762	7E19・20	II 区画	30 28 35		12.77			
763	7E19・20	II 区画	23 21 36		12.76			
764	7E20	II 区画	23 20 28		12.84		<P1643	
765	7E21	II	25 20 15		12.96 A			
766	7E21	II	25 23 46		12.63 A			
768	7E21	II	21 20 30		12.74 B			
769	7E22	II 区画	38 22 28		12.81			
770	7E22	II 区画	23 18 15		12.94			
771	7E22	II	10 8 18		12.86 A			
772	7E22	II	23 20 12		12.90 A			
774	7E23	II 区画	23 21 20		12.87			
775	7E23	II	20 17 40		12.69 A			
781	7F1	II	17 15 14		12.88 A			
783	7F4	II	22 21 36		12.94 A			
787	7E25	II 区画	22 19 22		12.94			
791	7D2	II	37 26 16		12.95 A		<SD537	
792	7D2	II	27 25 68		12.55 A			
793	7D2	II	35 32 19		12.91 A			
794	7D2・3	II	30 28 19		12.93 A			
795	7D4	II	23 19 11		13.04 A			
797	6C5	II	31 27 13		13.08 A			
798	7D1・6	II	26 24 24		12.94 B			
799	7D7・8	II 区画	26 23 18		12.98			
800	7D8	II	25 20 20		12.95 A			
801	7D8	II	27 24 9		13.09 A			
803	6D25	II	21 21 61		12.48 A		柱礎615	
804	6E8	IV	25 23 50		12.61			
806	8E7	II	37 32 24		12.81 A			
808	6C10	II	25 22 21		12.98 A		<SD537	
809	6E6	II	25 19 59		12.54 A			
811	6D3	II 区画	29 17 20		12.64			
814	6C17	II 区画	17 15 17		12.97			
815	6C17	II	30 26 31		12.85 B			
816	6C12	II	37 35 29		12.88 B			
820	6C22	II 区画	25 25 10		13.03			
825	6C5	III	25 21 15		13.07			
826	6C9・14	IV	31 28 20		13.07 C		*P3024	
827	6C20	IV	18 14 10		13.12 C			
828	8E8・9	II	30 23 29		12.75 A			
829	8E4・9	II	23 18 38		12.68 A			
831	6C9	IV	30 20 10		13.21 C			
833	6C9	III	34 28 27		12.94			
834	6C8	III	25 23 13		13.08			
837	5F10	II	32 30 23		12.72 A			
838	8D22	III	28 25 16		12.95			
839	8E13	II	18 16 16		12.90			
842	8E8	II	21 20 39		12.66			
844	8D25	II 区画	30 28 30		12.88			
846	9D16	II 区画	30 26 54		12.72		<P847	
847	9D16	II 区画	46 27 23		13.05		*P846	
850	7D8	II	18 15 8		13.10 A			
851	7D8	II	33 29 31		12.85 A			
853	7E4	II 区画	18 17 11		12.96		<SD442	
854	7D5	II	18 14 20		12.95		>SK453	
855	7D9	IV	38 30 20		12.90			
856	7D9	IV	24 23 24		12.79			
866	7D14	II 区画	33 32 34		12.86			
867	7D14・15	II	30 28 40		12.80 A			
868	7D14・15	II	20 18 33		12.86			
869	7D15	II	35 34 29		12.92			
871	7D18	II	31 30 26		12.82 A			
872	7D18	II	27 24 11		12.96 A			
874	7D19・20	II	27 20 17		13.02			
877	7D5	III	17 15 44		12.86			<P2225
878	7D16	II	25 24 45		12.57 A			<SD408
882	7D21	II	23 20 29		12.78 B			
887	7D24	II	21 18 33		12.85 A			
889	7B22	III	25 14 66		12.58			
890	7B23	III	30 28 53		12.71			>P1030
893	6D20	II 区画	25 23 26		12.84			
894	7B23	III	35 22 36		12.93			
895	7B24	II	38 27 54		12.74			<P1842
898	8D5	II 区画	28 22 25		12.95			
900	8D5	III	27 27 44		12.74		柱礎611	
902	8D10	II 区画	28 25 22		12.95			
903	8D7	III	38 22					
905	8D6	II	30 34 35		12.82			<SD674
908	8D14	II 区画	19 18 9		13.23			
909	8D15	III	20 18 15		13.17 B			*P9034
910	8D20	II 区画	37 25 11		13.18			
911	8D12	II 区画	38 21 35		12.82			
913	8D17・22	II 区画	30 28 21		12.89			
917	8D23	II 区画	40 32 21		12.85			
919	8D19・24	III	40 32 50		12.64			
920	8D24	III	32 20 19		12.95			
924	8D20	II 区画	40 36 56		12.73			
925	9D16	II 区画	23 18 7		13.20			>P923
926	8D24・25	II	20 17 7		13.12 B			
927	8D25	II 区画	16 35 12.87					*P3596
928	8D20	II 区画	42 25 11		13.16			
929	8C25	II 区画	27 25 45		12.88		柱礎	
930	8C25	II 区画	19 21 13.10					
931	10R20	II 区画	24 30 15		13.17			
932	8C25	II 区画	38 27 21		13.05			
933	8D8	II 区画	30 29 63		12.56			
934	8D13	II 区画	13 9 5		13.15			
935	8D18	II 区画	29 26 21		12.99			
936	8D9	II 区画	25 22 24		12.93			
937	8E1	II	18 16 43		12.60			
940	8E3	IV	45 37 31		12.81			
942	8E6	II	34 22 22		12.84			
943	8E2	II	47 45 35		12.83 A			
945	8E2	II	34 26 29		12.83			
949	4E24.4F4	II	12 10 19		12.81 B			
950	4E25	II	24 22 16		12.88 B			
951	5E2	II 区画	34 28 33		12.83			>SE952
953	5E20	II	38 32 15		12.95 A			
957	4E3	II	27 23 22		12.80 A			
958	4D12	II	23 22 22		12.82 B			
960	4D24	II	28 21 33		12.87			
961	4D20	II	26 16 34		12.93 A			
965	5D21	II	20 8 39		12.74 A			<P964
966	8C24.8D4	II 区画	29 27 30		12.96		柱礎	
967	5D21	IV	30 20 28		12.85			
968	5D16	II	32 19 46		12.70 A			
970	5D21.5E1	II	26 25 21		12.92 A			
971	5D21.5E1	II	38 29 15		13.00 A			
972	5E6	II	25 23 40		12.75 A			
974	5E6	II	25 21 31		12.84 A			
975	5E11	II	25 15 22		12.91 A			
976	5E3	II	25 18 33		12.82 B			
977	5E3	II	25 23 39		12.77 A			
978	5E3	II	27 25 37		12.79 A			<SD296
979	5E3	II	20 18 22		12.89 A			<SD296
981	5D23	II	21 20 22		12.74 A			
982	5E5	II	25 18 30		12.84 A			*P983
983	5E5	II	20 18 36		12.77 B			*P982
984	5E9	II	19 16 21		12.97 B			
985	5E9	II	18 18 33		12.82 A			
986	5E9	II	21 18 23		12.92 B			
987	5E18	II 区画	24 19 39		12.71			
988	5E18	II	25 20 44		12.64 A			
989	5E22	II 区画	24 24 37		12.75			
990	5E22	II 区画	21 18 14		12.99			
991	5E12	II 区画	20 15 29		12.84			

遺構観察表 (22)

Pit観察表 (5)

遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ 標高 (m)	出土遺物	切り合い
992	4E20	II 瓦葺	20 11 29	12.79		
993	4E15	II 瓦葺	25 15 37	12.72		
997	4E15	II 瓦葺	21 17 21	12.86		
999	5E12	II 瓦葺	22 18 28	12.87 B		
1000	5E14 - 15	II 瓦葺	16 15 24	12.86		
1001	4E5.5E1	II 瓦葺	31 21 18	12.97		
1002	4D8	II 瓦葺	26 18 36	12.81		
1003	4C18	II 瓦葺	16 14 18	12.90		
1004	4C20	II 瓦葺	24 20 9	12.97		
1010	5C21	II 瓦葺	23 21 24	12.90		
1012	4D5	II 瓦葺	17 7 6	13.01		
1018	5D6	II 瓦葺	17 15 41	12.71 A		
1019	5D6	II 瓦葺	19 18 21	12.94		
1023	5D13	II 瓦葺	18 13 11	13.01		
1024	5D14 - 19	II 瓦葺	21 16 8	12.99		<SD550
1027	7R25.7C5	III 瓦葺	31 18 22	12.90		
1033	7C4	III 瓦葺	22 18 36	12.92		
1034	7C4	III 瓦葺	27 25 13.08			<P1573, >P1490
1035	7C4	III 瓦葺	50 25 19	13.13		
1036	7C4	III 瓦葺	20 18 16	13.11		
1038	7C10	III 瓦葺	22 14 14	13.13		<SD443
1039	7C5	III 瓦葺				>P1490
1042	7C7	III 瓦葺	28 22 36	12.93		>SD442
1043	7C7	III 瓦葺	31 24 53	12.77 B		
1044	7C7	III 瓦葺	30 23 13.07			
1047	6E10	III 瓦葺	25 25 18	12.91		<SD466
1050	7C8	III 瓦葺	27 19 41	12.86		
1051	7C8	III 瓦葺	39 38 39	12.82		
1052	7C8	III 瓦葺	29 24 9	13.15		<P1053
1053	7C8	III 瓦葺	32 30 22	13.01		>P1052
1054	7C9	III 瓦葺	48 38 17	13.06		
1055	7C9	III 瓦葺	70 45 32	12.91		
1063	7C11	III 瓦葺	45 29 23	13.08		
1064	7C11	III 瓦葺	33 30 19	13.15		
1065	7C7	III 瓦葺	31 28 49	12.84		
1067	7C12	III 瓦葺	45 28 22	13.13		
1070	7C14	III 瓦葺	45 39 27	12.79		
1074	7C15	III 瓦葺	31 27 16	12.90 A		
1078	7C16	III 瓦葺	25 20 8	13.26		
1079	7C16	III 瓦葺	35 28 25	13.05		
1085	7C20	III 瓦葺	33 30 36	12.82		#P4694
1089	7C24	IV 瓦葺	15 15 34	12.74	砥石488	>SD673, >P1090, >SK1094 >P1090
1091	7C24	II 瓦葺	30 26 16	12.93		
1092	7C24	II 瓦葺	35 31 19	12.92		
1096	7C2	II 瓦葺	24 23 39	12.90		
1098	7E12	II 瓦葺	22 17 10	12.86		<SD283
1099	7R25	II 瓦葺	32 28 57	12.75		
1100	7C5	III 瓦葺	37 29 37	12.96		
1102	7E1	II 瓦葺	16 14 27	12.80		
1104	7F4	II 瓦葺	25 20 18	12.94 A		
1105	7E11	II 瓦葺	35 29 31	12.77		
1117	8E3	II 瓦葺	48 43 38	12.81		#P1118
1118	8E3	II 瓦葺	38 35 38	12.74		#P1117
1124	8E3 - 8	II 瓦葺	13 12 38	12.74 A		
1125	8E8	II 瓦葺	25 19 30	12.77		
1126	8E5	II 瓦葺	28 24 52	12.66 A		
1129	8E8	II 瓦葺	23 17 37	12.68		
1131	8E7	II 瓦葺	40 35 23	12.82		#P2145
1132	8E7	II 瓦葺	30 25 22	12.81		
1134	8E16	II 瓦葺	25 22 5	13.07		
1139	8E18	II 瓦葺	30 24 18	12.83		
1140	8E15	II 瓦葺	28 26 35	12.76		
1142	9B17	IV 瓦葺	20 17 35	12.89		#SD1744
1146	8F3	II 瓦葺	32 30 36	12.68 A		
1150	8F1	IV 瓦葺	27 16 39	12.72		>P1149
1151	8F2 - 3	II 瓦葺	49 40 39	12.74 B		
1153	8E24	IV 瓦葺	18 17 11	12.96		
1155	8E16	IV 瓦葺	23 20 22	12.88		
1156	8E12	II 瓦葺	30 29 26	12.71		
1158	8D14	II 瓦葺	21 15 17	12.93		
1159	8D14	II 瓦葺	42 31 19	12.94		
1162	8E10	II 瓦葺	27 25 35	12.71 A		
1167	8B22	II 瓦葺	30 25 42	12.83		
1169	8B22	II 瓦葺	25 23 19	13.06		
1171	8B22	II 瓦葺	24 19 18	13.05		
1175	9B17	IV 瓦葺	28 23 29	12.91		#SD1744
1178	8D8	II 瓦葺	45 35			#SD674, >P1179, <P1178, <P1180 >P1179
1179	8D8	II 瓦葺	29 23			
1180	8D8	IV 瓦葺	40 31			C
1190	9C6	II 瓦葺	20 17 29	12.88		
1191	9C6	II 瓦葺	18 16 16	13.02		
1193	9B21 - 22	II 瓦葺	41 37 43	12.86 A		<SD1188
1194	9C8	IV 瓦葺	31 30 14	12.98 C		
1197	7E13	II 瓦葺	21 16 13	12.99		
1213	9D1	II 瓦葺	41 32 42	12.74		
1214	9D1	II 瓦葺	113 48 25	12.88		
1216	9D2	II 瓦葺	30 26 14	13.07		
1218	9D2	II 瓦葺	36 35 20	12.92		
1220	9D2	II 瓦葺	23 19 9	13.08		
1222	9D3	II 瓦葺	25 16 17	13.06		
1223	9D3	II 瓦葺	34 25 18	13.01		
1225	9D3	II 瓦葺	38 25 13	13.07		
1226	9D3	II 瓦葺	29 25 17	13.01		
1227	9D3	II 瓦葺	23 20 27	12.93		
1228	9D3	II 瓦葺	38 36 24	12.98		
1230	9D4	II 瓦葺	34 27 33	12.90		
1231	9D5	II 瓦葺	20 19 44	12.89		
1241	9D7	II 瓦葺	24 24 32	12.87		
1245	9D8	II 瓦葺	24 22 13	13.26		
1248	9D11	II 瓦葺	50 40 32	12.97		>SD673, #P1290
1250	9D11	III 瓦葺	21 20 14	13.12		
1251	9D12	II 瓦葺	28 28 33	13.02		
1253	9D12	II 瓦葺	20 15 32	13.04		
1255	9D13	II 瓦葺	20 17 26	13.11		
1256	9D13	II 瓦葺	35 27 40	12.93		
1257	9D13	II 瓦葺	29 24 68	12.71		
1259	9D14	II 瓦葺	24 22 41	12.89		
1262	9D15	II 瓦葺	28 28 38	12.93		
1264	9D10	II 瓦葺	23 20 11	13.18		
1269	9D16	II 瓦葺	44 35 15	13.13		
1270	9D16	II 瓦葺	32 25 22	13.09		
1273	9D17	IV 瓦葺	19 16 15	13.10		
1274	9D17	II 瓦葺	32 26 34	12.88		
1275	9D17	II 瓦葺	40 30 53	12.69		
1278	9C6	II 瓦葺	34 30 27	12.89		
1281	9C13	IV 瓦葺	17 15 47	12.67 C		
1285	9C12	II 瓦葺	26 23 35	12.77		
1286	9C12	II 瓦葺	24 23 16	12.97		
1287	9C12	II 瓦葺	39 27 11	13.05		
1288	9C13	II 瓦葺	21 19 17	12.98		
1290	9D11	II 瓦葺	34 24 23	13.07		#P1248
1291	9C12	II 瓦葺	27 25 17	12.96		
1293	9C18	II 瓦葺	29 24 45	12.70		
1295	9C17	II 瓦葺	25 23 23	12.93		
1297	9C18	II 瓦葺	21 20			
1299	10D13 - 14	IV 瓦葺	28 22 37	13.02 C		
1301	9C17	II 瓦葺	33 25 9	13.09		
1303	9C17	II 瓦葺	30 26 9	13.09		
1304	9E6	II 瓦葺	20 18 11	12.96		
1305	9C22	IV 瓦葺	40 32 16	13.04 C		
1308	9C23	II 瓦葺	30 27 32	12.86		
1312	9C5	II 瓦葺	38 30 17	13.15		
1314	9C14	II 瓦葺	40 35 30	13.01		
1315	9C9	II 瓦葺	28 25 44	12.91		
1316	9C9 - 10	II 瓦葺	28 24 19	13.17		
1317	9C10	II 瓦葺	22 19 13	13.21		
1318	10D9	II 瓦葺	22 20 36	13.06		

Pit観察表 (6)

遺構番号	グリッド	所属層	規模 (cm) 上部 長さ 上部 短径 深さ	底面 標高 (m)	備註	出土遺物	切り合い
1319	9E1	II	35 27 31	12.83			<SD1116
1325	9C1	II	22 19 16	13.14			
1326	9C4	IV	34 27 51	12.83			>SD675
1329	8B19	IV	34 32 30	12.92	C		>SD1801
1331	9E1	II	28 22 25	12.93			
1335	8B21	II	23 20 59	12.65		#P1483	>SD1154
1336	10D13	II	28 24 13	13.30			
1337	10D14	II	24 21 21	13.22			
1338	10D14	II	20 18 18	13.19			
1339	8B21	II	23 21 20	13.05			
1340	10D7	II	24 18 28	13.09			
1341	8B22	II	29 22 13	13.11			
1342	10D7	II	16 12 35	13.02			>P1046
1343	10D8	II	20 20 12	13.21			
1345	10D5	II	26 20 42	12.99			
1346	10D4	IV	30 24 19	13.21			<SD442
1347	10D9	II	25 22 17	13.22			
1348	10D9	II	18 15 60	12.77			<SD637
1349	10D13	II	16 12 12	13.27			
1350	10D18	II	26 22 17	13.13	A		
1351	10D1・6	II	28 22 13	13.21			
1352	7C15	II	29 26 17	13.00			<SD443
1353	10D6	II	34 32 30	13.06			
1354	7C15,8C11	II	37 33 19	12.99			
1355	10D6	II	22 18 30	13.09			
1357	9D21	II	24 22 12	13.19			
1360	9D21	II	28 20 31	12.87			
1365	9D20	II	26 18 28	12.92			
1367	9D22	II	22 18 45	12.79			
1369	9D23	II	36 36 28	12.79			
1370	9D22	II	53 38 54	12.71		<SD1332	
1371	9D23	II	32 29 29	12.89			
1373	9D23・24	II	35 32 25	12.92		<SD1374	
1377	9D25	II	34 27 24	12.96		<SD1332	
1378	9D25	II	13 9 17	13.03		<SD1332	
1381	9E2	II	31 27 21	12.94		<SD1332	
1386	9E4	II	25 24 25	12.83			
1389	9E7	II	35 31 7	12.98			
1392	9E11	II	40 35 48	12.61			
1397	9E12	II	27 25 33	12.86			
1399	9E17	II	20 17 26	12.87			
1402	9E21	II	21 20 23	12.90		<SD1164	
1406	9E18	II	36 26 31	12.85	A		
1407	9E18	II	22 18 14	13.06			
1418	9E21	II	22 22 35	12.83	A		
1419	9E21	II	23 23 26	12.93	A		
1420	9E21	II	32 28 27	12.92	A		
1422	9E22	II	47 24 53	12.66			
1423	9E23	II	35 32 32	12.79	A		
1424	9E18・23	IV	77 65 11	13.06			
1425	9E23	II	17 15 35	12.87			
1427	9E23	II	52 50 10	12.94			
1428	9E23	II	33 28 14	13.06			
1429	9E23	II	35 32 30	12.90	A		
1433	8E25	II	31 27 25	12.90			
1437	8D10	II	23 19				
1438	9E24	II	22 21 25	12.83			
1439	9E25	II	28 25 23	12.80			
1440	9F1	II	32 28 29	12.88		#SD2116	
1441	9F2	II	29 24 18	12.97		#SD2116	
1443	10D9	II	22 20 37	12.93			
1444	5D16	II	23 20 51	12.55			
1445	5D16	II	20 19 19	12.97			
1446	5D16	II	17 15 18	12.97			
1449	10D10	II	22 18 11	13.17			
1451	5E4	IV	27 21 38	12.77	C		
1452	10D4	II	26 22 12	13.26			
1453	5E1	II	29 27 15	13.01			
1454	5D22	II	22 14 16	12.93			
1455	10D10	II	16 14 31	13.08			
1456	10D10	II	21 18 28	12.93			>P764
1458	5E15	II	15 13 8	13.05			
1462	5F2・3	II	20 15 29	12.75			
1465	5F4	II	17 16 15	12.92			
1466	5F5	II	43 32 31	12.73	B		
1467	9E20	II	24 22 27	12.88	A		>SD1801
1469	5F16	II	20 11 14	12.84			
1470	9E22	II	18 9 39	12.67			>SD1154
1471	5E23	II	16 15 14	12.91			
1472	5E11	II	16 14 18	12.91			
1473	5E16	II	18 18 18	12.91			
1477	7C1	II	20 19 19	13.10	A		
1479	7C6	III	21 19 27	13.04			
1480	7C6	III	31 25 22	13.09			
1486	7C3	III	30 25 13	13.13	D		>P1046
1488	8D18	II	29 25 69	12.53			
1492	8D7	IV	35 26 16	13.06	C		
1493	7C12	II	33 28 27	12.99			<SD442
1496	8D5	II	30 26 40	12.76			
1498	7D18	II	25 15 40	12.68			<SD637
1499	8D13	II	28 22 38	12.79			
1501	8D7	II	38 32 27	12.95			
1506	8D22	IV	28 26 18	12.95	C		
1507	7C14	II	22 21 6	13.02			<SD443
1512	7C20・25	II	28 18				
1514	8D23	II	43 27 17	12.84	A		
1518	8C9・14	III	26 22 14	13.01			
1523	8C23	IV	19 16 30	13.00			
1525	8C19	II	29 28 33	12.98			
1526	8C20	II	35 23 14	13.17			
1528	8C25	II	21 18 8	13.22			
1529	9C11	II	13 13 23	12.87			
1536	8C10	II	12 28 12.85				
1539	9C22	IV	23 18 15	13.05	C		
1540	9C20	II	25 20 23	13.04			
1559	7C15	III	31 27 17	12.89			
1565	7C11	II	25 22 27	13.04			
1566	7C12	II	25 17 23	13.12			
1567	6C12	II	25 16 5	13.10			
1568	6C15	II	70 60 18	13.09			
1571	7C10	II	80 35 60	12.67			
1572	7C9	II	60 54 35	12.89			
1573	7C4	IV	24 15 12	13.13			>P1035
1574	6C7	II	22 14 34	12.76			>P614
1577	10D11	II	19 18 14	13.05			
1581	6D5	II	20 18				>P627 >P628
1593	8B21	II	25 20 15	13.13			
1596	8E4	IV	20 19 15	13.08	B		
1597	8E4	II	35 38 12.88				
1600	8E10	IV	20 17 25	12.81			
1601	8E21	IV	58 25 33	12.88			
1602	9E21	IV	23 18 19	13.00	A		
1603	9E22	II	28 24 19	13.00	A		
1604	9E22	IV	28 28 26	12.93	B		
1606	8E23	II	30 24 22	12.80	A		
1607	8E6	IV	40 35 35	12.69			
1610	8E8	II	34 31 33	12.72	A		
1612	8E4・9	II	31 25 8	12.91			
1615	9E25	IV	28 28 36	12.80	B		
1616	8E14	II	29 25 22	12.83			
1618	8E15・20	II	26 25 37	12.74			#P1617
1621	8E3・4	II	18 18 15	12.86	A		
1623	8E25	IV	21 20 60	12.57			
1624	8E5	II	16 12 14	12.93	A		
1625	8F1	IV	27 25 25	12.89			
1628	8E24	IV	18 16 12	12.93			
1629	8E24	IV	22 19 15	12.95	B		
1630	8E25	IV	32 29 30	12.86			
1633	8F3	II	43 36 19	12.84	A		
1634	8E3	II	31 25 26	12.88	A		
1642	8E21	IV	24 19 35	12.76	B		
1643	7E20	IV	15 13 27	12.85	B		>P764
1644	8D24	II	33 28 34	12.84	A		

遠構観察表 (24)

Pit観察表 (7)

遺構番号	グリッド	所属階級	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1645	8D23,8E3	II	34 31 53	12.57			
1647	9E5	II	14 14 10	12.94 A		<P2125, <SX2710	
1651	10E19	II	26 21 11	12.97 A			
1652	11D24,11E4	IV	28 23 22	12.87 B			
1653	11E5,11D25	II	31 22 18	12.93 A			
1654	11E10	II	22 20 11	12.93 A			
1656	11D20	II	16 14 16	13.09 A			
1657	11E20	II	25 23 29	12.78 A			
1660	11D22	II	11 11 21	12.87 A			
1661	11D22	II	12 11 24	12.87 A			
1662	11E3	II	28 18 24	12.92 A		<SX2708	
1663	12D21,12E1	II	20 18 49	12.76			
1664	12E2	II	18 18 43	12.67 A		<SX2711	
1665	12E2	II	20 20 49	12.66 A		<SX2711	
1667	10E8	II	14 12 31	12.77 A		<SX2710	
1685	10	IV	65 48 30	12.90 B			
1687	9B21	II	23 21 38	12.84 A			
1688	9B21	II	20 16 34	12.90 A			
1689	9B21	II	33 26 34	12.88 A			
1693	9B22	II	28 23 29	13.03 A			
1706	10B14	II	26 24 12	13.06			
1707	10B14	II	20 19 8	13.12			
1714	8E5	II	25 20 30	12.82			
1715	9E1	IV	34 27 35	12.74 B			
1716	10B20	II	22 20 9	13.15			
1718	8E1,9E6	IV	33 28 28	12.80 B			
1730	10B20	II	24 22 17	13.13			
1722	10B18 - 23	II	30 24 14	13.13			
1734	10B22	II	24 24 19	13.06 A			
1725	10B22	II	24 20 10	13.17			
1742	10B25	II	22 22 31	13.02			
1745	7B21	II	100 50 22	12.88		<SD442	
1770	12B8-9	II	21 20 37	12.69		*SD1984	
1781	7C20	III	97 84 21	12.86			
1783	9E1	II	33 27 46	12.67			
1785	9B14	II	23 17 24	12.37		*SE1851	
1790	5D21	II	22 20 28	12.84			
1793	8D24	IV	42 26 33	12.81			
1794	7D20	II	35 25 30	12.89		>P2144	
1795	7D15-20, 8D11-16	II	25 21 32	12.89			
1796	8E5	II	20.66 25.20	12.52		柱礎613	
1798	8D7	II	33 27 28	12.92			
1804	9E14	II	24 21 34	12.63		<SK1803	
1805	10E22	IV	26 26 36	12.77			
1806	10E21	II	18 14 39	12.76			
1807	10E16	II	22 20 22	12.96		<SX2710	
1809	10E19	II	22 18 27	12.90			
1813	10E6	II	24 24 38	12.74		<SX2710	
1814	9E14	II	24 19 15	12.95 A		<SD1800	
1817	11E8	IV	24 22 10	13.10		<SX2708	
1819	11E13-18	II	26 26 21	12.93 B		<SX2708	
1820	11D6	II	20 23 21	13.13			
1821	11D7	II	20 15 27	13.08			
1822	11D7	II	16 14 13	13.21			
1823	11D7	II	36 34 59	12.74			
1825	11D11	II	21 18 41	12.89			
1826	11D1-2	II	21 18 56	12.79			
1827	11D12	II	36 26 71	12.58			
1828	11D3	II	29 27 23	13.19			
1829	11D4	II	28 22 19	13.27			
1830	11D4	II	20 18 35	13.12			
1831	11D4	II	40 26 21	13.26			
1832	11D4-5	III	46 34 35	13.09			
1833	11D13-14	II	47 38 57	12.70			
1835	9E19	IV	40 38 12	12.95		<SK1803	
1837	7C6-11	III	24 21 20	13.12			
1838	7C1	III	16 13 19	13.11			
1839	7C12	III	42 40 28	13.07		<SD442	
1840	7C3	III	27 25 32	12.96			
1841	7B21,7C1	III	23 21 51	12.73		<SD442	

遺構番号	グリッド	所属階級	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1842	7B24	II	28 25 43	12.85 A			>P895
1844	7C9-10	III	56 48 29	12.93			
1845	7C3	III	17 15 17	13.10			
1846	7C5	III	40 25 36	12.94			
1847	8C1	II	56 46 27	13.00			
1848	8C6	II	24 23 31	12.86			*P1760
1849	7C9-10	II	44 24 31	12.95			
1850	8C2	II	27 22 33	12.94			
1852	8B18	II	60 43 20	13.05			
1853	8C6	II	35 30 24	12.99			
1855	9C4	II	29 29 47	12.84		<SD675	
1856	9B18	II	22 19 11	13.22 A			
1857	9C1	II	25 17 23	12.93 A		<SD675	
1858	9C1	II	22 18 16	13.04		<SD675	
1859	8C5	II	30 25 24	12.90		<SD675	
1860	7C11	II	35 28 18	13.14			
1861	7C11	II	25 20 16	13.16			
1863	7C11	II	30 23 26	13.04			
1864	7C11	II	22 18 21	13.09			
1865	7C6	II	24 22 31	13.02			
1866	7C6-7	II	25 18 27	13.06			
1867	7C16	II	15 13 14	13.19			
1871	7C19	III	50 48 18	12.91			
1872	7B5,7C25	II	27 25 35	13.02			
1873	7C22	II	18 15 13	12.75			>P1481
1875	8C1	II	19 19 22	13.03			
1877	7C14	II	21 20 18	13.03			
1878	7C13	III	22 18 13	13.09		<SD443	
1879	7C8	II	22 18 19	13.06			
1880	7C19	II	34 36 30	12.79 A			
1881	8C17	II	26 22 15	12.95			
1882	9C18	II	27 15 13.01				
1885	9B18	II	26 25 18	13.15 A			
1887	10C2	II	64 50 23	13.09			
1888	10C1	IV	36 28 29	13.07	C		*SD675
1892	10C5	II	34 22 32	13.05			
1893	10C5	II	24 20 17	13.22			
1896	10C14	II	22 22 27	13.09			
1898	10C11	IV	20 18 9	13.26	C		
1899	10C12	IV	30 26 46	12.91	C		
1900	10C13-18	II	18 16 12	13.30			
1905	9C9	II	25 21 27	13.04			
1907	8C25	II	28 25 39	12.89			
1908	8C25,8D5	IV	30 28 39	12.97	C		
1910	9C20	II	21 14 33	12.89			
1911	9C14	II	21 16 42	12.81			
1912	9C20	II	31 23 11	13.07			
1913	10C5	II	38 36 25	13.10			
1914	10C25	IV	54 51 11	13.19	C		
1916	10C23-24	II	22 20 19	13.20			
1922	11C1	II	30 16 18	13.20			*SD1920
1923	11C2	IV	26 20 15	13.24	C		
1924	11C2	IV	48 40 43	12.97			
1925	11C3	II	20 20 37	13.05			
1929	11C2-7	II	24 18 13	13.29			
1931	11C7	II	17 16 27	13.14			
1934	11C6	II	21 12 24	12.72			
1935	11C7-12	II	22 20 27	13.10			
1937	11C8	II	29 21 35	12.98			
1938	11C8-13	II	32 23 18	13.20			
1939	11C9	IV	36 30 26	13.30			
1940	11C4	II	19 18 50	12.93	痕跡跡		
1941	11C4	II	18 16 39	13.02			
1942	11C14	II	26 24 10	13.19			
1943	11C16	IV	40 40 25	13.08	C		*SX1973
1944	11C11-12	II	43 38 21	13.07			
1946	11B16	II	20 18 28	12.92 A			
1948	11B16	II	36 28 50	12.86			*P2153
1949	11B17	II	38 33 24	13.11 A			
1950	11B17-18	II	25 20 42	12.92			
1952	11B14	II	22 20 19	13.20 A			
1954	11B19	III	30 24 17	13.25			

Pit観察表 (8)

遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
1955	11B20	Ⅲ	34 28 26	13.13			
1956	11B25	Ⅱ	33 28 18	13.23		#P2847	
1957	11B25	Ⅱ	32 32 31	13.11			
1959	11C5	Ⅱ	46 30 36	13.05			
1960	11C15-20	Ⅳ	36 25 9	13.29	C		
1961	8C25	Ⅱ	16 13 14	13.11			
1962	8C25	Ⅱ	30 26 17	13.03			
1963	8C25	Ⅳ	26 25 20	13.03			
1967	8C23	Ⅱ	16 12 11	12.99		<SK1966	
1975	11B21	Ⅱ	34 24 52	13.87			
1976	11B16	Ⅱ	22 22 14	13.07	B		
1977	11B22	Ⅱ	34 30 24	13.12	A		
1979	10E3	Ⅱ				<SX2710 <SK1980	
1987	11B19	Ⅱ	32 28 50	12.88			
1993	11C10	Ⅱ	26 26 38	13.02	B		
1994	11C9	Ⅱ	26 18 29	13.06	A		
1995	6D20	Ⅱ	15 10 33	12.77	A		
2002	11C24-25	Ⅱ	39 38 38	13.02			
2003	11D5	Ⅱ	30 30 19	13.26			
2004	11D5	Ⅱ	38 36 26	13.19			
2005	11D10	Ⅱ	32 26 18	13.10			
2006	11D10	Ⅱ	24 22 29	13.03	土層層113		
2007	11D9	Ⅱ	30 24 21	13.00		>P2859	
2008	11D24	Ⅱ	20 20 34	12.77	柱根		
2014	12E6	Ⅱ	26 16 48	12.76			
2015	12E6	Ⅱ	26 20 31	12.93	B		
2016	12D1-22	Ⅱ	28 24 16	13.04	A		
2017	12D21	Ⅱ	30 22 47	12.72	A		
2018	12D16	Ⅱ	34 30 29	12.97	A		
2019	12D12	Ⅱ	33 27 18	13.07		<SD1332	
2021	11D5,12D1	Ⅱ	38 32 36	13.10			
2027	7D3	Ⅱ	9.5 19 57	12.52	B	柱根	
2029	7D3	Ⅱ	25 20 20	12.90	B		
2030	7C25	Ⅱ	33 28 24	12.94			
2031	8D1	Ⅱ	27 24 51	12.76	B		
2033	11D7	Ⅱ	28 20 10	13.23			
2034	11D7	Ⅱ	34 29 14	13.19	A		
2037	11D9-10	Ⅱ	40 23 38	13.05			
2040	11D10	Ⅱ	26 26 19	13.11			
2043	11D19	Ⅱ	30 22 17	13.08	B		
2045	11D18	Ⅱ	18 16 21	12.96			
2046	6C20	Ⅱ	17 14 59	12.45	A	<SD537	
2047	7C16	Ⅱ	17 14 9	13.07			
2049	7B25	Ⅱ	37 36 37	12.91			
2050	7C13	Ⅱ	29 23 21	13.02		<SD443	
2051	7C20	Ⅱ	29 18 6	13.01			
2055	11D25	Ⅳ	32 32 34	12.80		>SK2628	
2056	11D21-22	Ⅱ	16 16 21	12.95			
2063	12C1	Ⅱ	30 23 10	13.29		#P2181	
2067	7C7	Ⅱ	22 15 13	12.99			
2068	7B24	Ⅱ	42 36 64	12.63			
2070	12B16	Ⅳ	36 32 30	13.01			
2074	12B19	Ⅱ	19 18 20	13.12	B		
2086	12E7	Ⅱ	24 19 50	12.70		柱根	<SD12727 <SX2711
2087	13D2	Ⅱ	16 14 17	13.09	A		
2088	13D3	Ⅱ	16 13 13	13.12	A		
2089	13D3	Ⅱ	28 23 35	12.91	A		
2090	6D10-15	Ⅱ	22 18 36	12.79	A		
2091	6D25	Ⅱ	21 18 32	12.74	A		
2092	6E5	Ⅱ	15 15 10	13.00	A	#SD466	
2095	6E25	Ⅱ	21 18 26	12.82	A		
2096	11B21,13C1	Ⅱ	40 30 20	13.16	A		
2099	11D1-2	Ⅱ	13 12 38	12.97			
2100	11C5	Ⅱ	22 20 36	13.04	B		
2101	12B23	Ⅱ	27 22 25	13.08	A		
2102	11C9	Ⅱ	31 24 21	13.14	A		
2104	10C4	Ⅲ	20 18 37	12.93			
2105	11C2	Ⅱ	20 20 40	12.93			
2106	10C4	Ⅱ	38 30 35	12.98			
2107	12E5	Ⅱ	23 18 18	12.96	A	<SX2711	
2108	11D5	Ⅲ	16 14 22	13.22			
2109	11E9	Ⅱ	24 19 36	12.69	A	#P2554, <SX2708	
2110	11E9	Ⅱ	17 14 34	12.79		<SX2708	
2115	10E6-7	Ⅱ	14 12 15	12.99	A	<SX2710	
2121	9E16	Ⅱ	30 28 36	12.77			
2122	9E6	Ⅱ	49 26 41	12.64			
2124	9E6	Ⅱ	20 20				
2125	9E5	Ⅳ	10 10 5	13.01		>P1647	
2126	10E16	Ⅱ	18 16 11	12.97	A	<SX2710 >P2483	
2127	10E17	Ⅱ	22 14 12	12.96	A	<SX2710	
2128	10E7	Ⅱ	13 11 14	12.98		<SX2710	
2129	10E14	Ⅱ	20 17 29	12.76	A	<SX2710	
2133	9E15	Ⅱ					
2134	9E15	Ⅱ	25 19 16	12.90	A		
2135	9E20	Ⅱ	25 17 14	12.91	A		
2137	9E9	Ⅱ	18 16 31	12.79	A		
2141	10E18	Ⅱ	28 26 47	12.72	B		
2142	8D20	Ⅱ	30 27 66	12.63		#SX1786 >P3031	
2144	7D20	Ⅱ	17 13 9	13.11		<P1794	
2145	8E7	Ⅱ	29 20 37	12.66	A	#P1131	
2146	7D5	Ⅱ	30 28 23	13.01	B		
2147	10D12	Ⅱ	30 15 16	13.08	A		
2148	10D12	Ⅱ	18 10 13	13.16	A		
2150	9E3	Ⅱ	21 20 3	13.09	A		
2152	7D13	Ⅱ	42 35 38	12.60		<SD442	
2154	11B15	Ⅱ	8 6 14	13.24	A	<P1988	
2155	11D11	Ⅱ	32 30 36	12.99	A	<SD2082	
2167	12B21	Ⅱ	25 22 13	13.23	A		
2168	12B21	Ⅱ	34 27 36	13.01	A		
2169	12B21	Ⅱ	26 20 15	12.22			
2170	12B21	Ⅳ	34 24 41	12.95			
2172	12B22	Ⅱ	28 27 25	12.96	A	柱根	
2174	12B22	Ⅱ	30 30 16	13.15	A		
2175	12B23	Ⅱ	28 28 30	13.01	A		
2177	12C1	Ⅱ	22 18 32	13.00	A		
2178	12C1	Ⅱ	24 24 38	13.03			
2179	12C1	Ⅱ	36 19 34	13.15	B		
2181	12C1	Ⅱ	44 38 16	13.20		土層層70, 黒色土層47	#P2063
2183	12C2	Ⅱ	16 12 22	13.15	A		
2184	12C2	Ⅱ	32 20 37	12.97	A		
2185	12C2	Ⅱ	22 22 21	13.13		<SD2190	
2186	12C2	Ⅱ	36 22 34	13.12		<SD2190	
2188	9C5	Ⅱ	36 26 57	12.81		<SD675	
2191	12C3	Ⅱ	30 34 37	12.97	A		
2192	12C3	Ⅱ	30 26 16	13.18	A		
2194	12C3	Ⅱ	26 15 13	13.21			
2197	12C3	Ⅱ	18 16 26	13.09	A		
2198	12C4	Ⅱ	24 19 3	13.30		前遺跡	
2202	12C4	Ⅱ	20 19 6	13.28			
2205	12C4	Ⅱ	52 30 14	13.05	A	戦治坪4号	
2206	12C5	Ⅱ	21 21 3	13.29	A		
2207	12B25	Ⅱ	28 22 7	13.24			
2208	12C5	Ⅱ	28 22 16	13.15			
2210	12C5	Ⅱ	46 16 4	13.23	A		
2211	12C5	Ⅱ	32 22 4	13.28			
2214	12C6	Ⅱ	22 19 29	13.13	A		
2215	12C6	Ⅱ	36 14 48	12.90		#P2663	
2217	12C6	Ⅱ	34 26 55	12.84	B		
2218	12C7	Ⅱ	24 24 23	13.11			
2219	12C7	Ⅱ	40 30 30	13.08			
2221	12C7	Ⅱ	22 16 24	13.14	A		
2222	12C7-12	Ⅳ	34 22 24	13.15			
2224	7B21	Ⅱ	26 19 8	12.94		<SD442	
2225	7D5	Ⅳ	15 11 44	12.86		>P877	
2226	7D5	Ⅳ	12 12 33	12.96			
2227	8D1	Ⅱ	25 18 48	12.79		>P2228	
2228	8C21	Ⅱ	28 20 46	12.83		>P2227	
2229	8C22	Ⅱ	21 17 49	12.74			

遺構観察表 (26)

Pit観察表 (9)

遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm) 上部長径 下部長径 深さ	底面 標高 (m)	出土遺物	切り合い
2230	12C7	II	36 32 28	13.09	B	
2231	12C7-8	II	41 36 8	12.95		
2233	12C3-8	II	22 17 24	13.09		
2235	12C8	II	23 23 36	12.94	柱礎	
2236	12C8	IV	31 23 44	12.87	柱礎629	
2238	12C9	II	50 42 38	12.97		
2239	12C10	II	22 20 47	12.89		
2240	12C10	II	14 12 9	13.26	A	
2241	12C10	II	16 14 13	13.23	A	
2242	12C12	II	22 16 18	13.20	B	
2243	12C12	II	24 16 15	13.23	A	
2244	12C13	II	38 32 21	13.12		
2245	12C12	II	23 20 22	13.15		
2246	12C14	II	18 14 12	13.23	A	
2247	12C14	II	18 18 16	13.19	A	
2248	12C16	II	32 20 24	13.15		
2249	12C16	II	25 20 27	13.10		<P2704
2254	12C17-18	IV	28 24 17	13.20	C	
2255	12C17	II	30 20 28	13.10		
2256	12C17	II	40 33 29	13.04	A	
2259	12C18	II	63 56 70	12.62		
2260	12C18	II	12 10 16	13.18	A	
2261	12C19	II	22 18 17	13.17	B	
2262	12C19	II	27 23 27	13.07	A	
2263	12C19	II	28 23 19	13.15		
2264	12C19	II	30 28 28	13.04	A	
2265	12C19	II	18 16 26	13.00		
2266	12C19	II	21 14 31	13.01		
2268	12C14	IV	22 18 15	13.17		
2269	12C15	II	22 22 9	13.22	A	
2270	12C20	II	36 28 40	12.89		
2272	12C20	II	28 27 26	13.04		
2273	12C21	II	26 13 55	12.90		>P2636
2275	12C22	II	21 14 25	13.15		
2276	12C22	II	26 20 19	13.20	A	
2278	12C22	II	24 13 30	13.06		
2280	12C22	II	38 30 42	12.94		
2281	12C22	II	24 19 31	13.04	A	
2283	12C22	II	20 13 17	13.16	A	
2284	12C22-23	II	18 16 23	13.09		
2285	12C22	II	23 22 27	13.07	A	
2286	12C22-23	II	26 20 30	13.02		
2287	12C23	II	20 19 18	13.13		
2288	12C23	II	22 27 12	12.98		
2290	12C24	II	19 18 42	12.92	B	近岸陶磁器
2291	12C24	II	24 18 45	12.85		
2293	12C25	II	26 22 30	12.98	A	
2294	12C25	II	23 20 9	13.19	A	
2295	12C25	II	22 22 20	13.08	A	
2296	12C25	II	30 28 16	13.12	A	
2297	12C25	II	22 20 28	12.98	A	
2298	12D1	II	28 23 16	13.12		
2299	12D1	II	28 22 49	12.90		
2300	12D1	II	32 28 40	13.01		
2303	12D1	II	25 14 47	12.90		
2304	12D8	II	23 20 48	12.77		
2306	12D2	II	30 24 18	13.13		
2307	12D2	II	23 21 14	13.20		<P2308
2308	12D2	II	26 20 19	13.14		>P2307
2309	12D2	II	34 30 16	13.17	A	
2310	12D2	II	34 26 19	13.14		
2311	12D2	II	37 36 15	13.17	A	
2312	12D2	II	26 24 26	13.07		
2313	12D2	II	26 21 39	12.95		
2314	12D2-3	II	32 25 27	13.07	A	
2315	12D3	II	22 20 15	13.16	A	
2316	12D3	II	30 20 24	13.10	A	
2317	12D3	II	16 14 20	13.15		
2318	12D3	II	32 24 32	13.02	A	
2319	12D4	II	30 29 32	12.97		
2321	12D6	II	28 18 19	13.18		
2322	12D6	II	36 32 49	12.83		

遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm) 上部長径 下部長径 深さ	底面 標高 (m)	出土遺物	切り合い
2323	12D6	II	16 14 19	13.12		
2324	12D6	II	30 24 35	12.98		
2325	12D6	II	40 30 45	12.88	A	
2326	12D6	II	30 24 14	13.18	A	土師器227<P2327
2327	12D6	II	34 30 44	12.88	B	黒色土器1<P2326
2328	12D7-12	II	22 18 13	13.10	A	
2329	12D7-12	II	33 22 17	13.12	B	
2330	12D7	II	30 17 70	12.54		
2331	12D7	II	24 19 36	12.89	B	
2333	12D8	II	30 26 20	13.08	A	須恵器
2334	12D3-4	II	24 20 35	12.96		
2335	12D8	II	22 25 47	12.82	B	
2336	12D9	II	21 13 41	12.88		
2337	12D7-12	II	26 16 17	13.09		
2338	12D9	II	22 25 33	13.03		
2340	12D4-5-9-10	II	26 24 36	13.08		
2345	12D13	II	14 12 8	13.12		
2346	12D12-17	II	44 40 33	12.90		
2348	12D15	II	22 20 23	13.00	A	
2353	12D12	II	29 27 25	12.68		柱礎 <SD1374
2355	12D23	II	34 26 37	12.81		<SD2727 <SX2711
2356	12D22	II	28 24 15	12.99	A	<SD2727 <SX2711
2358	12D25	II	22 16 31	12.93	A	<SX2711
2359	12D25	II	22 19 6	13.00	A	<SX2711
2360	12E2	II	16 12 21	13.01	B	<SX2711
2362	12E3	II	27 25 52	12.58	A	<SX2711
2363	12E3	II	29 22 23	12.87	A	<SX2711
2364	12E4	II	38 24 36	12.93	A	<SX2711
2365	12E6	II	20 14 16	13.08	B	
2366	12E9-14	II	18 14 14	13.03	A	<SX2711
2367	12E10	II	26 22 44	12.77	A	<SX2711
2368	12E11	II	28 24 19	12.90	B	
2369	12E13	II	34 32 37	12.73		<SD2373 <SX2711
2370	12E16	II	26 20 31	12.94		
2371	12E17	II	22 10 68	12.53		<SD2727 <SX2711
2375	12D12	II	53 35 46	12.77	A	<SD1374
2376	12D13	IV	24 25 48	12.66		
2377	12D11	II	16 14 35	12.76		<SD1374
2379	8D3	III	20 19 17	13.11		
2380	12D22	II	38 29 14	12.95	A	<SX2711
2382	13C23	II	28 23 22	13.06	A	<SD2381
2396	13C6	II	34 20 35	13.07	A	
2397	13C6	II	20 12 9	13.23		
2399	13C16	II	26 23 36	12.91		
2400	13C16	II	19 16 8	13.16		
2402	13C12	IV	22 18 11	13.17	C	
2405	13C10-9	II	26 22 16	13.10	A	
2406	13C10	II	22 21 19	13.07	A	
2408	13C25	IV	30 24 46	12.83	C	<SD2384
2411	13D4	IV	20 20 38	12.96	C	
2412	13D4	II	16 12 26	13.05	B	
2413	13D3	II	28 20 30	13.04	B	
2423	13D8	II	24 20 14	12.98	A	
2426	13D15	II				柱礎
2428	13D23	II				
2429	13D23	II	32 24 50	12.60	A	
2430	13D24	II	23 17 18	13.06	A	
2431	13D24	II	22 18 33	12.86		
2435	13E5	IV	23 20 30	13.07	C	
2436	13E5	II	21 16 19	12.99	A	
2438	13E4	IV	30 24 16	12.95	C	
2439	13E4	IV	32 26 18	12.96	C	
2440	13E4	II	21 16 12	13.02	C	
2444	13E7	II	26 18 10	13.00	B	
2445	13E12	II	28 26 18	13.03		
2447	13E7-12	II	30 19 27	12.95		
2449	13E12	II	24 21 36	12.83		
2450	13E13	II	18 12 13	13.05		

Pit観察表 (10)

遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い	遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
2460	13E4	IV	40 29 33	12.81	C			2614	12E3	II	32 29 48	12.64	A		<SX2711
2461	13E5-10	II 瓦葺	30 26 55	12.74				2615	12E3	II	30 26 15	12.90	B		<SX2711
2462	14C21	IV	24 23 53	12.73	片組			2616	12E4	II	16 14 22	12.98	A		<SX2711
2463	14C16	II	26 16 27	12.89	A			2618	10E4	II 瓦葺	32 18 11	13.07			<SX2710
2464	14C23	II	26 26 20	13.07	B			2619	11E7	II	21 19 22	12.99	A		<SX2708
2465	14C23	II	13 9 7	13.15	A			2621	12E4-5	II	28 25 33	12.88	A		<SX2711
2466	14C17	II	26 22 36	12.93	A	観測溝601		2622	12E5	II	26 22 41	12.81	A		<SX2711
2467	14C6	II	26 21 24	13.08	A			2623	12E8	II	22 22 45	12.71	A		<SX2711
2468	14C6	II	22 20 24	13.07	A			2624	12E12	II	38 28 33	12.81	A		<SD2727 <SX2711
2475	14D1	II	42 28 47	12.80	A			2626	12E12	II 瓦葺	22 20 34	12.84			<SX2711
2477	13D20	II 瓦葺	24 22 34	12.72				2627	12E12	II	21 18 15	13.02	B		<SX2711
2480	10E11	II	24 20 29	12.84	A		<SX2710	2634	11B21-22	II 瓦葺	40 38 63	12.72			<SX2710
2481	10E11	II	24 22 22	12.91	A		<SX2710	2636	11C25,12C21	II 瓦葺	32 26 29	13.16		白磁328	<P2273
2483	10E16	II	22 14 22	12.84	A		<SX2710 #P2126	2637	12C21,12D1	II 瓦葺	22 21 32	13.11			
2490	13E7	II	38 26 65	12.44	A		<SD1673	2638	12D13	II 瓦葺	10 8 6	13.14			<SD1332
2491	13E14	II 瓦葺	27 19 40	12.79				2639	12D13	II 瓦葺	22 18 32	12.91			
2495	8D10	II 瓦葺	30 27 57	12.70		>SD1673		2640	12C21	II 瓦葺	24 24 23	13.14			
2499	13E7	II 瓦葺	21 16 43	12.70				2641	12C21,12D1	II 瓦葺	37 30 60	12.79			
2500	10E1	II 瓦葺	12 7 10	12.99			<SD1983 >SK1980	2642	11E6-7-11-12	II	46 40 29	12.85	A		<SX2708
2501	14D16	II	21 16 15	12.99	A			2645	14D11	II 瓦葺	19 16 58	12.66			
2502	14D21	II	23 18 21	12.95	A			2649	12E7	II	24 20 11	13.08	A		<SX2711
2504	14D21	II	22 20 35	12.85	A			2650	13D23	II	28 24 24	12.82	A		
2505	14D21	II	24 22 16	13.00	A			2651	10D15	II	34 28 18	13.06	A		#P2652
2508	14D22	II	44 28 20	12.94	A			2652	11D11	II 瓦葺	60 40 23	13.00			#P2651
2512	14E2	II 瓦葺	18 13 17	13.00				2653	11D11	II	40 26 43	12.79	A		
2518	14D6	II	24 18 28	12.92	A			2654	12B23	II 瓦葺	32 24 28	13.03			
2519	14E7	II	23 23 47	12.76	A			2656	14D7	II	34 30 52	12.77	A		<SD2726
2525	9D5	II 瓦葺	37 30 20	13.18				2657	11B22	II 瓦葺	30 22 37	13.00			
2529	12D17	II	35 30 35	12.84	A			2659	11D2	II 瓦葺	24 23 33	12.90		片組616	
2532	12D22	II 瓦葺	20 18 24	12.94			<SD2727 <SX2711	2660	3G3	II 瓦葺	15 17 61	11.82		片組619	<SD1
2533	11E13	II	21 18 33	13.09	A		<SX2708	2661	11B11	II 瓦葺	28 20 26	12.86			
2534	12D3-4	II	24 20 35	12.96	A		<SD2292	2662	11C10	II 瓦葺	44 28 38	13.00			
2535	10E9	IV	30 25 17	13.04			<SX2710	2663	12C6	II 瓦葺	24 18 45	12.91			#P2215 #P2664
2536	12D9-14	II 瓦葺	19 16 27	12.86				2664	12C7	II	26 20 27	13.09	A		#P2663
2538	12D16	II	26 24 41	12.83	A			2666	12C2	II 瓦葺	19 17 34	13.01			
2539	11D20	II 瓦葺	28 18 44	12.80				2666	10D4-5	II 瓦葺	18 16 30	13.10			
2541	11D23	II 瓦葺	26 22 37	12.77			<SD2728	2667	10D4	II	20 18 38	13.02	A		
2543	11D24	II 瓦葺	22 18 17	12.94			<SD2728 #P2544	2668	10C25	II	32 24 18	13.18	A		
2544	11D24	II 瓦葺	30 16 22	12.86			<SD2728 #P2543	2670	11E9	II 瓦葺	32 26 32	12.81			<SX2708
2545	11E1	II	30 28 25	12.82	A		<SX2708	2671	11E1	II 瓦葺	20 18 13	12.95			<SX2708
2551	11E5	II 瓦葺	30 26 33	12.80				2674	13D9	II 瓦葺	26 24 24	13.00			
2555	11E10	II	24 23 21	12.93	A		<SX2708	2676	14D1-2	II 瓦葺	22 22 42	12.83			<SD1374
2556	14D1	II 瓦葺	22 21 49	12.79				2679	12E7	II	29 23 38	12.76	B		<SX2711
2560	14D7	II	34 22 41	12.85	B			2680	14D9	II	18 10 15	13.09	A		<SD1374
2562	14D7	II	29 22 28	12.93	A			2684	13D14	II 瓦葺	16 12 18	12.82			<SD2728
2563	14D6	II	26 24 33	12.93	A		<SD2422	2686	11C24,11D4	II 瓦葺	30 24 34	13.08			
2577	14D16	II	24 21 28	12.86	A			2687	11C25,11D5	II 瓦葺	23 23 54	12.89			
2581	14D18	II	15 15 15	13.11	B			2688	14D16	II 瓦葺	11 10 8	12.97			<SD2476
2584	14E15	II	24 24 42	12.66	B			2690	13D10	II 瓦葺	36 31 67	12.56			
2585	14E15	II	21 19 46	12.65	A			2693	13D9	II	20 16 36	12.89	A		
2586	14E15	II	18 16 17	12.98	A			2694	13D8	III	18 17 34	12.87			
2588	14E15	II	24 22 12	13.05	B			2696	13C13-18	II 瓦葺	14 13 6	13.19			
2590	14E14	II	37 28 29	12.83	A			2699	13C19	II 瓦葺	18 16 12	13.15			
2592	14E14	II	26 22 14	13.03	B			2700	13C13-18	II 瓦葺	22 18 13	13.12			
2596	14E3	II	24 22 30	12.88				2701	13C18	II 瓦葺	12 10 11	13.16			
2601	14E13	II	22 20 23	12.90	A			2702	13C13-18	III	24 22 5	13.23			
2602	14E8	II 瓦葺	12 10 13	13.02				2703	13C9	II 瓦葺	18 13 23	13.02			
2604	14E12	II	30 24 10	13.05	B			2704	12C16	II 瓦葺	29 25 51	12.86		片組625	>P2249
2608	11E14	II 瓦葺	25 23 41	12.70			<SX2708	2707	12D9	II 瓦葺	30 26 43	12.85			
2609	11E14	II	17 16 35	12.77	A		<SX2708	2709	12D18	II 瓦葺	46 39 7	13.14			<SD2728
2610	11E15	II	26 22 35	12.75	A		<SX2708	2712	12D17	II	20 16 17	13.08	B		>P2713
2611	11E19	II	24 23 50	12.60	A		<SD2983 <SX2708	2713	12D17	II	23 12 59	12.65	A		<P2712
2612	11E20	II 瓦葺	30 19 47	12.55			<SD2983 <SX2708	2714	12D17	II 瓦葺	24 24 42	12.81			
2613	11E20	II	19 16 18	12.91	A		<SD2983 <SX2708	2715	12D12	II	18 16 12	13.10	A		
								2717	13D6	II 瓦葺	20 20 20	12.93			
								2718	12C16	II 瓦葺	30 26 24	13.15			
								2719	12C16	II 瓦葺	34 33 16	13.22			
								2721	10E7-8	II 瓦葺	34 18 33	12.73			<SX2710
								2722	12E6	II 瓦葺	18 12 49	12.75			>P2976
								2723	11D23	II 瓦葺	13 12 32	12.71			<SD2728

道構觀察表 (28)

Pit觀察表 (11)

道構番号	グリッド	所属区画	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m) 深さ	覆土	出土遺物	切り合い
2724	12C7	II	20 15 14	13.24	A		
2725	12C4	II	20 16 4	13.29	A		
2734	8B19	II	29 25 41	12.80	B		
2737	13B25	II 以降	19 14 15	13.12		<SD3378	>SD2384
2739	8D20	II 以降	22 19 9	13.12		*P597	
2743	13B20	II 以降	38 38 25	13.06			<SD2476
2744	13B20	II 以降	30 27 54	12.78			
2750	13E5	II	24 20 45	12.70	A		
2751	13E10	II 以降	33 30 30	12.78			
2753	13E8	II 以降	33 22 15	12.85			
2755	14C11	II	28 28 39	12.93	A		
2756	14C11	IV	18 13 7	13.25			
2762	14D14	II 以降	22 19 31	12.94			
2764	13C19	II	14 12 25	13.03	A		
2765	13E9-10	II 以降	36 36 24	12.93			
2768	13C24	III	20 20 15	13.16			<SX2708
2769	13D6	III	18 17 32	12.77			
2770	13D5	III	24 22 22	13.04			
2773	13D4	II	18 15 29	12.97	A		
2777	13D2	II 以降	16 12 50	12.73			
2780	13D1	II 以降	36 22 15	13.11			
2783	13D3-8	III	24 16 30	12.90			<SD675
2784	6C5	II 以降	18 12 25	12.98			<SD675
2787	11D21	II	12 19 52	12.66	A		
2788	11D21-22	II	20 16 61	12.58	B		
2790	14D12	II	20 19 38	12.83	A		
2792	14E1	II	18 16 25	12.92	B		
2793	14D7	II	22 18 50	12.78			
2794	14D2	II	20 16 31	12.92	B	<SD1374	<SX2708
2795	14D2	II	22 18 28	12.96	B	<SD1374	
2796	12E6	IV	38 22 29	12.91			
2804	12D10	IV	26 20 28	13.02			
2805	12E7	IV	20 18 22	12.99		<SX2711	
2808	13C21	II 以降	32 22 6	13.20			
2809	13C21	II 以降	20 18 2	13.24			
2810	12C23	II 以降	24 21 44	12.89		>SE1999	
2813	12D9-10	II	20 18 18	13.09	A		
2814	12E7	IV	18 13 33	12.88		<SX2711	
2815	11D4	II 以降	38 20 15	13.30			
2816	14D7	II	16 16 22	13.08	A	<SD1374	
2819	11D19	II	32 26 48	12.78	B		
2820	12D8	II	25 14 40	12.85	A		
2822	12D12	II	21 19 30	12.95	B		
2823	11B15	II 以降	42 29 45	12.87			
2824	12D25	II 以降	33 27 49	12.97		<SX2711	
2825	12D25	II 以降	36 20 14	13.04		<SX2711	
2827	11E19	II	27 23 10	13.04	B	<SX2708	
2828	12D11-16	IV	28 18 22	12.83			
2829	12D21	II	21 19 30	12.95	B		
2830	12D21	II 以降	20 20 88	12.88			
2831	7C25	IV	78 72			>P1765, >P2850	
2835	12E6	II	17 15 25	12.95	B		
2837	12C24	II 以降	20 18 26	13.05		<SD2292	
2838	12C8	II 以降	50 43 54	12.78		<SD2232	
2839	12E5	II 以降	24 22 40	12.80		<SX2711	
2840	12E9	II 以降	27 26 20	12.66		<SX2711	
2842	10D16	II 以降	26 22 25	13.01			
2846	12C7	II 以降	30 20 45	12.93		<SD2232	
2848	11D9	II 以降	22 17 31	13.11		*P2859	
2849	11D9	IV	30 23 26	13.04			
2850	7C25	II 以降	78 72			>SD673, <P1765, <P2831	
2851	11E10,12E6	II 以降	16 14 35	12.83	柱礎	>P2852	
2852	11E10,12E6	II	18 12 31	12.81		<P2851	
2853	12E12	II	25 14 41	12.73	B	<SX2711	
2854	12C6	II	20 16 18	13.22	A		
2856	11D19	II	22 20 37	12.73	A	<SD1332	<P2974
2857	12E3-4	II	18 16 27	12.81	A	<SX2711	<P2973
2858	12C20	II	20 13 12	13.18	A		<SX2711
2860	14D21	II	22 22 12	13.06			<P2722

道構番号	グリッド	所属区画	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m) 深さ	覆土	出土遺物	切り合い
2862	14C17	II	20 30 27	12.94	A		
2864	14E10	II	26 22 39	12.69			
2865	13D15	II 以降	36 12 17	13.06			
2870	13C23	II	28 20 14	13.11	A		
2871	13D24	II	16 14 14	12.90	A		
2872	13D19	II	28 24 21	12.74	A		
2873	13D19	II	32 18 25	12.88	B		
2875	13D25	II 以降	30 23 40	12.69			
2876	14E11	II 以降	26 25 29	12.85			
2879	10C1-2	IV	28 28 42	12.94			
2882	12C8	II 以降	36 28 29	13.03		<SD2232	
2883	12C7	II	22 20 17	13.20	A		
2884	12D12	II 以降	26 20 10	13.03		<SD1332	
2885	10C2	II 以降	22 20 19	13.13		*SD675	
2886	11D25	II 以降	20 20 44	12.66			
2887	11E5	II	32 26 37	12.65	B	<SX2708	
2888	12C7	III	14 13 22	13.14			
2890	14D2	II 以降	24 20 31	12.97			
2892	14E6	II	26 24 28	12.91	A		
2893	14C16	II	24 20 43	12.88	A		
2897	14D14	II	28 22 44	12.76	A		
2899	9C4	II 以降	27 24 8	13.16		<SD675	
2900	10C1	II 以降	43 33 21	13.10		<SD675	
2907	12D11-16	II 以降	18 14 54	12.68			
2909	11D20	II 以降	26 22 43	12.82			
2910	13D18	II	14 10 31	13.02	B		
2911	11D18-23	II	28 22 45	12.74	B		
2912	11D18-23	II	19 14 33	12.89	B		
2913	11E9	II 以降	28 13 40	12.74		<SX2708	
2914	14D11	II	16 14 19	13.00	A		
2916	8D14-19	II 以降	23 22 5	13.14		=SX1786	
2918	14D18	IV	24 20 35	12.87			
2919	13B19	II 以降	27 24 29	12.99			
2920	14D23	II 以降	15 14 9	13.12			
2921	13B19	II 以降	36 24 49	12.79		<SD2749	
2924	14E2	II	16 14 25	12.91	A		
2925	14D21	II	13 12 24	12.95	B		
2926	14E6	II	38 24 10	12.99	B		
2929	13E15	II 以降	12 8 9	13.05			
2930	13E12	II 以降	12 10 17	12.97			
2933	13E3-4-8-9	II 以降	28 20 54	12.60			
2936	13E6	II 以降					
2938	13D22	II 以降	26 17 23	12.72	柱礎		
2940	13D23	II	10 8 9	12.97	B		
2941	11C14	IV	19 16 27	13.05	B		
2942	12D9	II 以降	28 25 30	13.13			
2943	12D9	II 以降	22 20 11	13.13			
2944	12D14	II	23 18 28	12.95	A		
2945	13D24	II	22 16 12	13.03			
2946	13D24	II 以降	17 14 13	13.01			
2947	13D19-24	II 以降	24 20 71	12.40			
2948	13D24	II	18 10 18	13.00	A	>P2432	
2949	13D25	II 以降	30 24 20	12.92			
2951	13C5	II 以降	22 20 22	13.08			
2953	12D20	II	18 16 16	13.10	A		
2954	12D25	II 以降	24 18 28	12.90			
2955	12E1-2	II	16 14 9	13.12	B		
2956	13D20	II 以降	42 36 40	12.59			
2957	13D15	II 以降	21 18 46	12.75			
2959	13D15-20	II 以降	28 22 25	12.86			
2962	13D24	II	12 12 11	13.02	A	*P4666, >P2432	
2963	13D24	II 以降	18 13 17	13.10			
2965	13C13	II 以降	28 23 9	13.19			
2967	13D23	II	22 16 4	12.72	A		
2969	13C15	II 以降	40 36 32	12.95		*SD2384	
2970	13C15	II 以降	16 12 10	13.15			
2971	13C4	II 以降	29 18 23	13.03			
2973	11D25	II	16 14 21	12.92	B	<P2974	
2974	11D25	II	19 18 36	12.77	A	<P2973	
2975	12E17	II	26 22 34	12.86	A	<SX2711	
2976	12E6	II	14 11 28	12.97	A	<P2722	

Pit観察表 (12)

遺構番号	グリッド	所屬 層位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径 深径	底面 標高 (m)	備註	出土遺物	切り合い
2977	12D9	II	16 14 9	13.16	A		
2978	12E5	II	28 26 29	12.92	A	<SX2711	
2979	12E18	II	30 24 14	12.91	B		
2982	12D10	II	18 16 24	13.03	A		
2983	12D22	II	23 22 16	12.92	A	<SX2711	
2985	12E15	II	29 25 28	12.85	A	<SX2711	
2986	12E15	II	12 11 22	12.81	A	<SD2373 <SX2711	
2987	12E15	II	17 15 24	12.76	A	<SD2373	
2988	12E2	II	18 17 34	12.82	A	<SX2711	
2989	12E5	II	25 22 17	13.02	A	<SX2711	
2990	12D13	II	26 21 12	13.10	A		
2991	12E5	II	16 14 17	13.01	A	<SX2711	
2992	12E9	II	26 21 18	12.67	A	<SX2711	
2993	12E8	II	36 32 25	12.52	A	<SX2711	
2994	12E9	II	30 26 15	12.69	B	<SX2711	
2996	10B15	IV	54 34 26	12.94	C	>SD1919	
2997	14E6	II	32 30 30	12.85	A		
2998	13D1	II	24 23 22	12.97			
3000	13E9	II	18 13 21	12.61		<SK2966	
3003	7B24	II	30 25 38	12.77		>P896	
3005	7E9	II	49 32 9	13.08	B	<SD1673	
3006	7D8	IV	25 19 29	12.81	C		
3007	7D9-10	II	18 18 16	12.98	A		
3008	9D11	II	23 20 33	12.80			
3009	8F1	II	30 20 15	12.94	B		
3011	10C20-25	II	24 24 30	13.10	A	>SX1921	
3012	10C20	II	26 22 21	13.19	A	土師層45 >SX1921	
3014	6E5	II	42 29 20	12.89	A		
3015	11C10	II	36 27 32	13.09	A		
3016	11C15	II	28 22 30	13.09	A		
3017	11C15	II	29 26 34	13.05	A		
3019	7B25	II	32 22 46	12.88			
3020	6C8	II	56 30 23	12.97			
3021	7C4	II	20 15 28	12.97			
3022	9D12	II	28 24 13	13.23			
3023	6C9	II	44 30 17	13.04			
3024	6C9	II	18 15 11	13.18		*P826	
3025	6C9	II	20 20 11	13.17			
3026	6C14	II	25 25 25	13.04			
3029	13E16	IV	16 12 34	12.80	C		
3030	8D20	IV	16 8 13	12.98	C	*SX1786 >P3033	
3031	8D20	IV	22 21 17	13.08	C	*P2142 =SX1786	
3033	8D20	IV	12 7 14	13.07		*SX1786 >P3030. >P4701	
3035	8D14	III	35 25 18	13.15	A	*P3034	
3036	17B2	II	22 21 16	12.99	A		
3037	17B2-7	IV	54 50 6	13.10	A		
3043	17B15	II	37 24 16	12.98	A		
3046	17B23-24	II	27 26 33	12.85			
3048	18B20	II	36 12 3	13.18			
3049	18B15	II	72 19 3	13.15			
3050	18B25	II	38 14 6	13.16			
3051	18B25	II	28 16 5	13.16			
3052	18B19	II	22 18 2	13.19			
3053	18B20	II	23 16 2	13.18			
3054	18B15	II	40 10 5	13.13			
3055	18B15	II	65 23 5	13.15			
3056	18B20	II	28 19 3	13.19			
3057	18B15	II	18 12 2	13.14			
3059	18B19	II	40 12 2	13.20			
3060	18B19	II	32 24 2	13.18			
3061	18B24	II	23 16 2	13.17			
3065	18B24	II	40 16 4	13.16			
3066	18B19	II	72 24 3	13.20			
3067	18B19-20	II	60 26 2	13.18			
3068	18B19	II	34 28 3	13.19			
3069	18B20	II	21 16 3	13.18			
3070	18B20	II	30 18 3	13.19			

遺構番号	グリッド	所屬 層位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径 深径	底面 標高 (m)	備註	出土遺物	切り合い
3071	18B19	II	32 22 3	13.19			
3072	18B19	II	62 32 3	13.20			
3073	18B19	II	32 20 1	13.21			
3074	18B19	II	64 24 10	13.13			
3075	18B19	II	49 26 4	13.18			
3076	18B19	II	37 24 3	13.19			
3082	18B20	II	26 17 4	13.15			
3083	18B20	II	30 28 5	13.15			
3084	18B20	II	28 22 3	13.18			
3085	19B16	II	38 19 1	13.25			
3087	19B16-21	II	22 16 4	13.23			
3088	19B21	II	42 23 2	13.24			
3089	19B21	II	22 17 2	13.24			
3090	19B21	II	66 30 2	13.25			
3091	19B21	II	66 16 2	13.26			
3092	19B21	II	22 20 3	13.24		*P3093	
3093	19B21	II	30 36 4	13.25		*P3092	
3095	18B19-20	II	70 30 4	13.18			
3096	18B25	II	28 24 5	13.14			<SD3097
3098	18B25	II	26 19 2	13.18			
3099	18B18	II	20 16 9	12.96	A	>SD3081	
3100	18B13	II	9 8 5	12.99	A	>SD3081	
3103	18B25	II	9 6 8	13.07	A	*SD3097	
3108	18C13	II	18 18 23	12.90	A	>SD3081	
3109	18C19	II	22 17 21	12.87	A		
3111	18C14	II	16 12 14	13.07	A	>P8910	
3124	19C23	II	28 30 13	13.11			
3138	19C19	IV	19 16 27	13.09			
3140	19C14	IV	18 18 22	13.13			
3144	19C9-14	II	36 26 18	13.16			
3146	19C15	II	28 32 20	13.20	B		
3149	19C4-5-9-10	II	65 56 31	13.29		>P8150	
3152	19C4	IV	66 56 21	13.17		>P8153	
3153	19C4	IV	42 38 9	13.29	A	>P8152	
3155	19C4	II	28 23 36	13.01	A		
3156	19C4	II	30 28 46	12.90	A		
3157	18C15	II	16 15 16	13.01	A		
3159	19C9	II	21 20 31	13.02	A		
3162	19C8	II	26 24 6	13.23		<SD3747	
3165	17C1	II	36 25 23	12.81		<SD3077	
3168	19C12	II	34 16 4	13.17	A		
3169	19B18	II	28 24 26	13.05	A		
3170	19B18	II	28 24 12	13.13	A	<SD3116	
3172	17B23	II	66 46 37	12.79			
3173	19B19	II	30 24 38	13.31			
3176	19B19	II	26 24 9	13.23			
3178	19B20	II	16 16 9	13.26			
3179	19B25	II	26 25 10	13.28	A		
3180	19B25	II	14 10 30	13.09	A		
3182	19B24	II	24 20 30	13.05			
3186	17B11	IV	44 34 16	12.88		<SK3039 *SD3197	
3188	17B11	II	16 14 20	12.85	A	<SK3039	
3190	16C10	II	18 16 8	13.11	A		
3191	16C10	II	20 16 13	13.05	A	<SD3019	
3192	16B25	II	26 25 25	12.81	A	<SD197	
3193	16B25	II	22 19 38	12.68	A	>P3194	
3194	16B25	IV	30 24 22	12.85		>P3193	
3195	16C5	II	24 23 29	12.82	A		
3196	16C5	II	28 28 54	12.61	A	<SD3197	
3198	17C14	II	23 22 27	12.75	A		
3199	18C2	II	16 15 5	12.89	A	>SD3081	
3201	19C11	II	33 24 9	13.14		*SD3097	
3202	18C25	II	16 12 11	13.03	B		
3203	19B25	II	14 8 32	13.02	B	<SD3222	
3206	19B20	II	22 18 22	13.08	A	<SK3205	
3207	19B20	II	17 14 21	13.12	A		
3209	17B16	II	18 16 5	13.06	A		
3210	17B21	II	11 8 3	13.08	A		
3211	17B21	II	16 13 11	12.94	A	<SD3078	
3212	17C4	II	19 16 10	13.04	A		
3213	16C10	II	24 23 8	13.10			

道構觀察表 (30)

Pit觀察表 (13)

道構 番号	グリッド	所屬 解位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い	道構 番号	グリッド	所屬 解位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
3214	18B17-18	Ⅱ	26 22 29	12.69			>SD3081	3326	15D8	Ⅲ	22 18 13	12.95			<SD3323
3219	19B25	Ⅱ	23 22 30	13.10				3327	15D3	Ⅲ	18 16 30	12.80			<SD3323
3220	19B25	Ⅱ	80 22 20	13.20			#P3921	3328	15D8	Ⅲ	18 16 32	12.77			<SD3323
3226	18B13	Ⅱ	14 13 6	12.92			>SD3081	3329	15D11	Ⅲ	20 18 29	12.75			<SD3324
3227	19C15	Ⅳ	24 21 7	13.20			#SD3760	3330	15D12	Ⅲ	26 26 41	12.70			<SD3324
3229	19B20	Ⅱ	22 18 26	13.07				3331	14D5	Ⅳ	22 17 14	12.91			
3233	17B12	Ⅱ	16 14 15	13.03 B				3332	15E19	Ⅱ	16 12 15	12.96 A			
3235	17B20	Ⅱ	32 19 9	13.06				3333	15D12	Ⅱ	16 15 31	12.82 B			<P3334
3237	18B22	Ⅱ	18 10 7	12.91			>SD3081	3339	15D22	Ⅲ	22 18 29	12.68			<SD3325
3238	18B22,18C2	Ⅳ	16 8 5	12.95 C			>SD3081	3340	15D5	Ⅲ	18 18 45	12.68 A			
3239	11D8	Ⅲ	29 26 25	13.08			<SD1748 #SX1746	3341	15D8	Ⅲ	18 16 70	12.47			
3240	11D8-9	Ⅲ	70 46 46	12.94			<SD1748 #SX1746	3342	15D15	Ⅲ	22 18 43	12.77			
3242	11D8-13	Ⅱ	28 26 57	12.95			<SD1748 #SX1746	3343	15D24	Ⅲ	22 23 25	12.81			
3243	5D1	Ⅱ	25 20 19	12.99				3344	15E9	Ⅲ	17 16 15	12.89 A			
3244	5D6	Ⅱ	25 25 20	12.91 A				3345	15E9	Ⅲ	30 29 32	12.69			
3245	13E7	Ⅱ	30 28 12.68					3346	15E15	Ⅱ	20 19 32	12.74			
3248	8D14	Ⅱ	31 28 15	13.10				3350	14B12	Ⅱ	28 22 32	12.92			<SD3349
3249	8D19	Ⅱ	73 33 24	12.94			>SX1786	3351	14B12-17	Ⅱ	24 22 18	13.16			
3250	8D19	Ⅱ	19 16 14	13.02 A			#SX1786 #P3589	3353	14B16	Ⅱ	46 26 30	12.96			<SD3378
3251	14D2	Ⅱ	23 20 22	12.97 B			<SD19470	3355	16D2	Ⅲ	24 20 42	12.74 B			>P3356
3253	14D2	Ⅱ	18 16 27	13.07			<SD2470	3357	16D22	Ⅲ	18 14 31	12.86			
3254	14D2	Ⅱ	26 24 37	12.87 B			<SD2470	3358	16D6	Ⅲ	26 20 27	12.85			
3257	11B14	Ⅱ	18 16 11	13.28 A				3360	16D13	Ⅲ	32 16 20	12.98			
3258	13B14	Ⅱ	30 24 38	12.69 A			>SD1984	3361	16D16	Ⅲ	18 17 29	12.82 A			
3264	14E15	Ⅱ	20 18 37	12.74 A				3362	16D17	Ⅲ	27 26 17	12.96			
3265	14D25	Ⅱ	28 24 51	12.68				3365	16D23	Ⅱ	30 25 12.96				
3267	8D19	Ⅱ	20 18 11	13.07			#SX1786 #P3288	3366	16D23	Ⅱ	18 14 28	12.88 A			
3268	8D19	Ⅱ	13 10 12	13.04			#SX1786 #P3287	3369	16E11	Ⅲ	30 24 41	13.66			
3269	8D10	Ⅱ	26 20				#SD673	3370	16E12	Ⅲ	27 26 40	12.72			
3276	14C19	Ⅳ	28 18 33	12.86 C				3372	16E13	Ⅲ	30 19 47	12.76			
3278	14C19	Ⅱ	18 16 8	13.08 A				3374	16E9	Ⅲ	26 20 57	12.49 A			
3279	14C20	Ⅱ	16 13 58	12.58			<P3280	3376	16E9	Ⅱ	43 34 62	12.44			
3280	14C20	Ⅳ	18 18 9	13.09 C			>P3279	3380	16C17	Ⅲ	26 21 17	12.98			
3282	14C24-25	Ⅳ	20 18 17	13.00 C				3381	16D15	Ⅱ	26 22 17	12.99			
3283	14D5	Ⅱ	27 24 52	12.65				3384	16D24	Ⅱ	20 20 23	12.90 A			
3284	14C25,14D5	Ⅱ	24 22 31	12.84 B				3385	16D24	Ⅲ	24 20 29	12.83			
3285	14D5	Ⅱ	17 16 36	12.80				3387	14R21	Ⅱ	22 22 30	12.99 A			
3287	15C12	Ⅳ	31 24 29	12.83 C				3390	16E3	Ⅲ	26 24 28	12.86 B			
3288	15C13	Ⅱ	25 22 33	12.81			柱組	3391	16E5	Ⅲ	26 20 27	12.80			
3289	15C21-22	Ⅱ	26 23 26	12.86				3392	16E5	Ⅲ	16 10 32	12.83 A			
3290	15C17	Ⅱ	24 19 25	12.90 B				3394	16E9	Ⅱ	22 18 27	12.74			
3292	15C18	Ⅱ	24 22 36	12.82 B				3397	16E19	Ⅲ	22 22 32	12.77			
3293	14C25,15C21	Ⅱ	30 22 40	12.74				3401	16D7	Ⅲ	20 20 38	12.75			<SD3402
3294	15D3	Ⅳ	16 14 17	12.93 C				3405	16E7	Ⅲ	33 20 37	12.89 B			
3296	15D6	Ⅱ	24 21 26	12.86				3406	13B5	Ⅲ	30 24 19	12.86 A			>SD1984
3297	15D6	Ⅲ	21 18 66	12.45				3407	14B12	Ⅱ	18 14 19	13.12 B			
3298	15D8	Ⅲ	18 16 29	12.87				3408	14B12	Ⅱ	17 16 22	13.11 A			
3300	15D8	Ⅲ	22 21 55	13.13 B				3409	13B5-10	Ⅱ	19 18 11	12.97			>SD1984
3301	15D11	Ⅱ	23 21 30	12.84				3410	14B12	Ⅱ	29 22 16	13.06 A			>SD3340 >SD1984
3302	15D11	Ⅱ	22 20 45	12.68				3411	14B6	Ⅱ	26 24 25	12.86			>SD1984
3303	15D12	Ⅱ	26 24 44	12.68				3412	14B6	Ⅲ	22 20 15	12.96 A			>SD1984
3304	15D17	Ⅱ	22 20 50	12.62				3413	13B5-10	Ⅱ	20 14 9	12.99			>SD1984
3305	15D18	Ⅱ	26 21 45	12.68				3414	14B1	Ⅲ	26 22 31	12.79 B			>SD1984
3306	15D21	Ⅱ	24 22 63	12.49				3416	14B6	Ⅱ	42 42 10	13.00			>SD1984
3308	15D23	Ⅱ	18 12 15	12.98 A				3417	14B6	Ⅱ	42 42 10	13.00			>SD1984
3309	15E1	Ⅲ	18 17 25	12.88 A				3417	14B17	Ⅱ	16 16 21	13.10 A			
3310	15E3	Ⅲ	23 18 11	13.03 B				3419	14B4	Ⅱ	22 19 21	12.85			>SD1984
3311	15E6	Ⅲ	23 22 38	12.78 B				3420	14B8-9	Ⅳ	18 15 28	12.72			>SD1984
3312	15E7	Ⅲ	18 12 20	12.95 A				3421	14B9	Ⅱ	22 22 20	12.84			>SD1984
3313	15E7	Ⅳ	18 12 20	12.93 C				3422	14B14	Ⅱ	26 18 13	13.06			>SD1984
3314	15E3	Ⅲ	22 18 31	12.80 B				3423	14B10	Ⅱ	23 17 32	12.79			>SD1984 >P3424
3315	15E8	Ⅲ	22 20 52	12.58 B				3424	14B10	Ⅱ	18 16 25	12.74			>SD1984 <P3423
3316	15D12-13	Ⅲ	22 21 40	12.70 A			<SD3324	3425	14B15-20	Ⅲ	20 16 15	13.05 A			
3317	15E9	Ⅲ	19 18 27	12.84 A				3426	14B15	Ⅲ	102 24 3	13.17 B			
3318	15E2	Ⅲ	22 18 38	12.70 A			<SD3325	3427	15B2	Ⅲ	28 22 40	12.55 B			
3319	15C16	Ⅲ	21 15 27	12.83 A			<SD1332	3431	16C2	Ⅲ	30 26 24	12.98 B			
								3432	16C1	Ⅲ	18 14 17	13.04 B			
								3435	15C15,16C11	Ⅲ	60 46 16	12.94 A			
								3436	15B6	Ⅲ	19 20 18	12.70 B			>SD1984
								3437	15B7	Ⅲ	25 20 24	12.66 B			>SD1984

Pit観察表 (14)

道構番号	グリッド	所属 期別	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深径 深径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
3438	15B12	II	19 14 12	12.91	A			>SD1984
3439	15B12	II	22 14 13	12.93	B			
3440	15B12	II	26 26 10	13.00	A			
3441	15B13	II	28 26 16	12.96	A			
3442	15B13	II	18 17 29	12.83	B			
3445	16B6-11	II 以時跡	16 12 7	13.08				
3446	15B15	II	19 14 11	13.05	A			<SD3399
3447	15B15-20	II	19 18 29	12.83	A			<SD3399
3448	15B20	II	49 12 4	13.14	B			
3449	15B19-20	II	68 9 2	13.15	B			
3450	15B19-20-25	II	74 18 5	13.15	B			
3451	15B19	II	49 9 3	13.14	B			
3453	15B19	II	19 16 12	13.00	B			<SD3399
3454	15B19	II	12 10 44	12.69	B			<SD3399
3455	15B19	II	32 16 23	12.91	B			<SD3399
3458	15B20	II	78 14 6	13.10	B			
3459	15B20	II	76 10 4	13.12	B			
3461	16C6-7	II	26 26 50	12.65	A			
3462	15B1	II	24 22 21	12.73	B			>SD1984
3463	15B1	II	18 16 21	12.77	B			>SD1984
3464	15B6	II	19 20 20	12.65	B			>SD1984
3465	15B6	II	14 12 10	12.72	B			>SD1984
3467	16B12	II	16 12 17	13.01	A			<SD3399
3468	16A23	II	24 21 24	12.89	B			>SD1984
3469	15B18-19	II	24 16 30	12.85	B			<SD3399
3470	15B19	II	13 12 20	12.95	B			<SD3399
3471	14B20	II	76 26 3	13.19	B			
3472	14B13	II	14 14 11	13.13	B			
3473	14B7	II	18 17 38	12.70	B			>SD1984
3474	14B7	II 以時跡	16 14 29	12.82	B			>SD1984
3475	15B20-25	II	68 34 13	13.10	A			
3476	15B18	II	22 16 24	12.89	B			<SD3399
3479	14B11	II 以時跡	30 22 30	12.91	B			<P3480 <SD3340
3480	14B11	II	24 22 30	12.93	A			>SD3349 <SD3352 >P3479
3483	20B16	II	36 28 26	13.07	B			
3485	20B17	II 以時跡	26 23 27	13.01	B			
3486	20B16	II	40 25 37	12.92	A			<SD1482
3488	20B22	II 以時跡	16 13 27	13.04	A			<SD1482
3490	20B23	II 以時跡	44 40 39	12.93	A			<P3491
3491	20B23	II 以時跡	30 28 32	12.99	A			>P3490
3492	15B20(16B16)	II 以時跡	77 36 9	13.09				
3493	20B21	II	20 18 19	13.17	A			
3494	20B21	II	28 26 23	13.16	B			
3495	20B21	II	18 14 11	13.23	A			
3496	20B21	II	24 23 27	13.08	A			
3497	20B22	II 以時跡	39 38 32	13.02	B			
3498	20B22	II	16 12 23	12.87	B			
3500	20B23	II 以時跡	33 34 21	13.12	B		土師窯268	
3501	20B23	II 以時跡	33 26 41	12.90	B			
3502	20B23	II	29 26 31	13.02	B			
3503	20B23	II 以時跡	38 31 55	12.81	B	軒組		
3504	20B23	II	22 18 11	13.23	B			
3505	20B23	II	27 22 44	12.89	B			
3507	17E2	II	22 21 34	12.76	A			
3508	17E2	II 以時跡	29 26 38	12.66	B			
3509	17E8	II	22 17 31	12.80	B			
3510	17E4	II	25 24 29	12.82	A			
3512	17E12	II	27 26 25	12.88	A			
3513	17E13	II	20 18 18	12.94	B			
3514	17E13	II	19 18 20	12.92	B			
3515	17E14	II	33 26 13	13.00	B			
3516	17E15	II	23 20 22	12.90	A			
3517	17E16	II	20 20 62	12.46	A			
3518	17E21	II	36 32 32	12.77	A			
3522	17D7	III	26 23 23	12.96	B			
3523	17D23	III	27 22 33	12.80	B			
3524	17D19	II	23 21 43	12.69	A			
3525	17D11	II 以時跡	18 17 15	13.03	B			
3526	17D13	II	32 24 28	12.83	A			

道構番号	グリッド	所属 期別	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深径 深径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
3527	17D22	II	22 20 24	12.85	A			
3528	17D14	III	10 10 17	12.92				
3529	17D9	II	15 15 14	12.96	A			
3530	17D9	II	20 17 24	12.88	A			<P3548
3531	18E8-9	III	16 12 23	13.00	B			
3532	18E8	III	16 14 9	13.03	B			
3533	18D25	II	19 18 39	12.87	A			
3535	18D9	II	13 11 15	13.04	A			
3539	18D9	II	12 8 13	13.06	A			
3540	18D9	II	14 14 12	13.04	A			
3542	18D15	III	23 18 12	13.12				
3544	19E3	II 以時跡	26 18 37	12.85				
3546	19E16	II	20 16 17	13.07	B			
3547	25E10	II	32 36 31	12.94	B	近世陶磁器		
3548	18E7	II	23 20 12	12.80	A			>P3530 >SD3081
3550	18E6	IV	54 32 8	12.93				>SD3081
3556	19E4	II	29 26 31	13.05	A			
3558	19E6	II	20 16 29	12.94	A			
3563	19E20	II	18 14 18	13.08	B			
3564	19D6	II	20 16 9	13.08	B			
3565	19D12	IV	17 16 18	13.00	C			
3566	19E19	II	22 21 18	13.06	B			
3574	19E8	III	21 20 23	13.00	A	礎石483		
3577	19E4	II	24 20 18	13.07	B			
3578	19D14	IV	30 30 34	12.85	C			
3579	19D12	II 以時跡	19 19 16	13.01	B			
3580	20E11	II	22 22 12	13.15	B			
3581	20E7	II	24 22 23	13.04	B			
3582	20E7	IV	36 28 38	12.90				
3586	8D20	II 以時跡	18 16 11	13.10				=SX1786
3587	8D19	II 以時跡	25 21 11	13.09				=SX1786
3588	8D19	II 以時跡	17 14 11	13.02				
3589	8D19	II 以時跡	21 15 17	12.99				=SX1786 #P3256 <P3591
3590	8D19	II 以時跡	15 14 7	13.07				
3591	8D19	II 以時跡	23 20 13	13.03				=SX1786 >P3589
3592	8D19	II 以時跡	25 23 13	13.06				=SX1786
3593	8D14	II 以時跡	24 18 13	13.07				=SX1786
3594	8D20	II 以時跡	18 17 11	13.11				=SX1786 #P3585
3595	8D20	II 以時跡	26 20 16	13.04				=SX1786 #P3594
3596	8D20	II 以時跡	26 25 11	13.14				#P928
3597	8D20	II 以時跡	28 24 13	13.10				#P2739
3598	8D20	II 以時跡	24 15 13	13.01		土師窯80		=SX1786
3599	13B18	II	16 14 16	13.07	A			>SD1984
3600	13B18	IV	18 16 15	13.09	C			>SD1984
3601	13B19	II	14 10 13	13.10	A			>SD1984
3602	13B24	IV	14 14 18	13.08	C			<SD3376
3603	13B23	II	20 16 13	13.16	B			>SD2061
3607	20D18	II	26 24 16	13.08	B			
3609	20E20	II	23 20 18	13.10	A			
3610	20E19	II	24 25 29	13.02	B			
3612	20E6	II	17 16 25	13.05	A			
3613	20E17	III	19 20 27	12.99				
3614	20E16	II	20 17 10	13.20	B			
3615	19E3	II	26 20 31	12.92	A			
3617	20E11	II	28 24 28	12.98	A			
3621	20E8	IV	24 22 27	12.99				
3622	20E13	II	24 22 17	13.07	A			
3623	16E16	III	22 18 15	12.93				
3624	15E10	III	14 13 25	12.86				
3625	15E10	II	28 24 24	12.86	A			
3626	16D11	III	20 18 22	12.90				
3627	18E11	II	25 21 17	12.95	A			>SD3081
3628	17E10	II	28 16 17	12.94	A			
3629	21E13	II	24 22 16	13.16	A			
3632	21E19	IV	21 18 29	12.99	C			
3633	21E9	II	25 22 41	12.98	B			

Pit観察表(15)

遺構番号	グリッド	所属階層	規模 (cm)			北面 標高 (m)	出土遺物	切り合い	遺構番号	グリッド	所属階層	規模 (cm)			北面 標高 (m)	出土遺物	切り合い
			上層長	上層短	深							上層長	上層短	深			
3634	21E12	II 瓦葺	18	18	25	13.05			3753	20C4-9	II	38	30	19	12.99	A	
3635	21E22	II 瓦葺	21	21	16	13.14			3757	20C9	II	33	26	20	12.89	A	<SD3733
3638	21E24	III 瓦葺	24	21	42	12.90			3758	20C9	II	36	32	58	12.63	A	<SD3733
3640	21E9	III 瓦葺	18	18	29	13.09			3759	20C9	II	30	28	23	12.99	A	
3642	21E10	II 瓦葺	26	24	32	13.11	B		3766	19C3	II 瓦葺	20	18	9	13.23		<SD3115
3643	21E15	II 瓦葺	22	20	40	12.97	B		3768	20C10	II 瓦葺	33	32	19	13.02		
3645	21D24	II 瓦葺	30	24	34	12.97	A		3769	20C10	II	28	26	47	12.73	A	<SD3733
3647	21D23	III 瓦葺	22	20	17	13.05	A		3774	19C15	II 瓦葺	26	21	15	13.15	A	<SD3224
3652	22E6	II 瓦葺	19	18	16	13.22			3776	20C11	IV	24	23	22	13.06		
3653	22E6-11	II 瓦葺	26	24	19	13.19			3777	20C12	II	20	18	28	12.98	A	
3658	22E3	II 瓦葺	14	12	64	12.68			3778	20C12	II	26	24	13	13.12	A	
3659	22E2	II 瓦葺	22	22	33	13.00	B		3782	20C12	II	24	19	6	13.21	A	
3660	22E12	II 瓦葺	26	26	53	12.83	B		3783	20C8-13	II	36	31	39	12.91	A	
3661	22D22	II 瓦葺	23	23	27	13.06	A		3787	20C13	II	36	28	11	13.20	B	
3662	22D22	II 瓦葺	19	18	19	13.14			3788	20C13	II	42	34	54	12.77	A	
3663	22E4-5	II 瓦葺	29	24	45	12.93	A		3789	20C13	II	30	25	28	13.01	A	
3665	22D22,22E2	II 瓦葺	24	23	34	13.05			3790	20C13	II	20	18	20	13.10	A	
3666	22E12	II 瓦葺	19	18	17	13.20			3791	20C13	II	15	14	8	13.24	A	
3667	22E2	II 瓦葺	26	22	29	13.07	A	>P3668	3792	20C13	II	17	14	16	13.10	A	
3668	22E2	III 瓦葺	29	25	30	13.05	A	<P3667	3795	20C14	II 瓦葺	32	28	27	13.01		<P3796
3669	21E9	II 瓦葺	32	28	34	13.04	B		3796	20C14	II 瓦葺	38	31	9	13.22		>P3795
3671	22E17	II 瓦葺	21	18	17	13.12	B	>P3672	3797	20C13	II 瓦葺	35	29	10	13.20		
3672	22E17	II 瓦葺	21	10	31	12.99	A	<P3671	3798	20C14	II 瓦葺	15	15	46	12.75		
3673	22E4	II 瓦葺	21	21	66	12.83			3800	20C16	II	26	25	30	13.14	A	<SD4189
3674	22E22	II 瓦葺	23	22	21	13.07	B		3802	20C22	II 瓦葺	12	10	5	13.21		
3676	22E17	II 瓦葺	22	17	10	13.20	B		3805	20C16	II 瓦葺	35	24	45	12.80		
3678	22E21	II 瓦葺	26	26	47	12.80	B		3804	20C17	II	20	14	13	13.08	A	須志跡 <SD3234
3679	22E20	II 瓦葺	32	23	29	13.02	A		3805	20C17	II	22	22	30	13.14	A	<SD3234
3680	22E20	IV 瓦葺	36	30	38	12.92	C		3806	20C17	II	16	11	12	13.21	A	<SD3234
3681	22E19	II 瓦葺	20	20	19	13.11	A		3807	20C2	II	23	18	9	13.25	A	<SD3732
3684	22E18	IV 瓦葺	31	31	38	12.95		<SD3682	3808	20C7	II	17	14	18	13.02	B	<SK3779
3685	22E18-19	II 瓦葺	20	19	24	13.04	A	<SD3682	3809	20C7	II	34	32	25	12.97	A	<SK3779
3686	20E23-24	II 瓦葺	31	28	26	13.07	A		3810	20C17	II 瓦葺	20	18	21	13.08		>SD3750
3687	20E23,20C3	II 瓦葺	30	24	29	13.10			3811	20C17	II 瓦葺	31	31	19	13.14		>SD3750
3689	20E23,24	II 瓦葺	24	21	17	13.16	B		3812	20C18	II	38	32	34	12.95	A	
3690	20E23	II 瓦葺	28	23	40	12.94	B		3813	20C18	II	20	18	22	13.04	A	<SD3734
3691	20E24	II 瓦葺	32	27	32	13.01	B		3814	20C13-18	II	36	32	16	13.01	A	<SD3734
3692	20E24	II 瓦葺	34	26	27	13.07	A									<SK4502	
3693	20E24	II 瓦葺	22	22	14	12.89	B		3815	20C18	II	38	36	42	12.82	A	<SD3734
3695	20E25	II 瓦葺	26	14	10	13.20	A	<P4224	3816	20C15	II	26	25	29	12.92	B	<SD3734
3696	20E25	II 瓦葺	24	24	25	13.03	A		3817	20C21	II	22	19	36	12.95	A	<SD3734
3697	20C2	II 瓦葺	22	20	37	12.97	B		3818	20C21	II	22	22	30	13.07	A	<SD4189
3698	20C2	II 瓦葺	40	30	32	13.03	B		3819	20C22	II	26	26	26	13.00	A	
3699	20C2	II 瓦葺	24	22	26	13.11	A		3820	19B13-18	II	19	18	6	13.17	A	
3700	20C2	II 瓦葺	25	25	26	13.11			3821	19B18-19	II	16	14	5	13.18	A	
3701	20C2-3	II 瓦葺	22	22	27	13.03			3822	19B23	II	20	19	6	13.25	A	
3702	20C3	II 瓦葺	26	24	25	13.14			3823	20C22	II	26	17	34	12.98	B	<P3824
3703	20C3	II 瓦葺	24	21	18	13.20	B		3824	20C22	II	26	18				>P3823
3704	20C3	II 瓦葺	22	18	44	12.95	A		3825	20D2	II	16	15	24	12.93	A	>P3826
3705	20C3	II 瓦葺	18	18	35	13.05	A		3826	20D2	II	15	14	9	13.07	A	<P3825
3706	20C3	II 瓦葺	28	26	68	12.70	A		3827	20D2	II	22	23	7	13.09	A	
3707	20C3	II 瓦葺	24	22	35	13.02	A	#SK4383	3829	20D2	II	48	36	21	12.95	B	
3709	20C5	II 瓦葺	30	25	46	12.82	B		3830	20D2	II	49	22	35	12.92	A	
3710	20C5	II 瓦葺	20	19	26	13.01	B		3831	20D2	II	22	22	17	12.95	A	
3711	20C5	II 瓦葺	34	30	39	12.87	B		3833	20C25	II	28	22	34	12.91	A	#P3834
3712	20C4	II 瓦葺	14	11	16	13.21	A		3834	20C25	II	21	18	27	12.97	A	#P3833
3713	20C1	II 瓦葺	29	26	16	13.20	B	<P3714	3835	20D2	II	22	18	16	13.03	A	
3714	20C1	II 瓦葺	36	32	21	13.15	B	珠洲院 >P3713, >P3715	3836	21B21	II	32	30	35	12.90	A	
3715	20C1	II 瓦葺	31	26	31	13.05	A	#P3714	3837	21C1-2	II	30	22	20	13.10	B	
3716	20C6	II 瓦葺	20	16	7	13.18	A	<SD3733	3838	21C1	II	22	20	29	12.98	A	
3717	20C7	II 瓦葺	18	16	14	13.10	A		3839	21C1	II	20	14	8	13.19	A	
3723	20C6	II 瓦葺	16	14	8	13.16	A	<SD3724	3841	21C2	II 瓦葺	22	20	13	13.12		
3725	20C7	II 瓦葺	30	23	18	13.09			3842	21C2-7	II 瓦葺	26	24	29	12.95		
3726	20C6	II 瓦葺	26	24	22	13.04			3843	21C6	II 瓦葺	30	25	22	13.03		
3728	20C7	II 瓦葺	32	29	35	12.91	A		3844	21C6	II	21	16	11	13.12	A	<P3845
3729	20C7	II 瓦葺	36	28	35	12.93	A	柱観617 >P3844	3845	21C6	II	28	28	14	13.09	A	>P3844
3730	20C8	II 瓦葺	34	22	22	13.12	A	<SD3733	3846	21C8	II	21	12	13	13.04	A	
3731	20C8	II 瓦葺	30	29	34	12.89	A	<SD3733	3847	21C8	II	22	20	29	12.88	A	
3735	19C18	II 瓦葺	20	18	18	13.07	A	<SD3743	3848	21C8	II	22	22	8	13.08	A	
3751	20C8	II 瓦葺	22	21	23	12.91	A		3849	21C9	II	23	20	35	12.81	A	殿治跡
3752	20C8	II 瓦葺	25	24	32	12.82	A		3850	20C15	II 瓦葺	28	26	31	12.95		<SD3734
									3851	20C15	II 瓦葺	19	18	18	13.04		<SD3734

Pit観察表 (16)

遺構番号	グリッド	所属層	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	備 考	出土遺物	切り合い
3852	21C17-18	II	26 20 43	12.79	A			
3853	21C16	II	26 21 22	13.04	A			
3854	21D3	II 以降	25 24 35	13.04				
3855	21D8	II 以降	23 20 33	13.03				
3856	21D4	II	22 28 11	13.32	A			
3857	21D4	II	32 18 10	13.32	A			
3858	21D4	II 以降	32 28 40	13.03				
3859	21D4	II	28 26 48	12.95	A			
3860	21D6-7	II	22 20 7	13.20	A			
3861	21D6-7	II	22 21 31	12.96	A			
3862	21D9	II 以降	31 29 26	13.07				
3863	21D9	II	26 15 3	13.29	B			
3864	20C20,21C16	II	21 18 15	13.09	A			
3866	21C21	II 以降	20 20				<SD3750	
3867	20C20,21C16	II	28 24 24	13.01	A			
3868	18C19	II	32 19 16	12.92	A			
3869	18C20	II	11 10 11	12.98	A			
3870	19C15	II	12 11 9	13.30	B			
3871	19C15	II	14 12 10	13.29	B			
3872	20C13,21C11	II	40 36 12	13.12	A		<SD3734	
3873	21C11	II	24 22 19	13.04	A		<SD3734	
3874	21C21	II 以降	16 13 21	13.04			<SD3790	
3875	21C21	II	32 28 27	12.99	A		<SD3754	
3876	20C14	II 以降	20 18 31	12.89				
3877	21C24-25	II	19 16 16	13.21	A		<SD4206	
3878	21D5	II	22 20 10	13.33	A			
3879	21D5	II	24 22 25	13.14	A			
3881	18B25	II 以降	18 17 6	13.13			#SD3097	
3883	19C10	II	24 19 20	13.20	B		>P3150	
3885	20C6	II	16 14 4	13.18	A			
3886	20D10	II 以降	26 22 13	12.99				
3894	21D7	II	24 20 26	13.01	A		<SD3755	
3895	21D8	II	23 21 29	12.92	A		<SD3755 <SD4249	
3896	21D10	II	24 22 43	12.90	A		<SD3755	
3897	20C9	IV	24 18 11	13.07	A		<SD3733	
3902	20C23	II	26 23 19	13.04	B		<SD3750 <SK3793	
3903	20D4	II	24 18 26	12.98	A			
3904	21C11	II	26 22 10	13.11	A			
3905	21C11-12	II 以降	32 28 10	13.10				
3907	20C1	IV	18 17 12	13.19	B			
3908	20C2	II	27 24 43	12.93	B			
3910	18C14	II	13 11 5	13.16	B		>P3111	
3914	19C16	II	18 13 10	13.11	B			
3916	19C18	II	29 25 19	13.06	A		<SD3183	
3917	18C15	II	16 11 8	13.11	B			
3918	19C17	II	18 17 26	12.99	A			
3919	19C18	II	21 18 24	12.99	A			
3920	19E24	II 以降	26 22 27	12.98				
3921	20B21	II	20 20 29	13.13	B		#P3220	
3922	20C2-7	IV	23 19 15	13.07	A		<SD3733	
3923	19C17	II	22 16 29	12.95	A		<SD3738	
3924	19C18	II	28 22 40	12.82	A			
3926	28D11	II	52 50 28	12.93	A			
3927	28D16	II	45 43 22	12.99	A			
3928	28D17	II	46 45 21	12.98	A			
3929	19D22	II 以降	18 16 59	12.58				
3931	27D17	II	18 16 15	13.06	B			
3932	27D17	II	26 22 27	12.94	B			
3933	27D18	II	22 19 32	12.88	A			
3934	27D23	II	24 18 37	12.88	A			
3941	26D19-20	II	24 18 32	13.08	A			
3945	26D18	II	23 22 32	13.06	A			
3946	26D18-25	II	24 18 8	13.29	A			
3948	26D17	IV	39 28 50	12.86		土師器150		
3950	25D14	II	42 29 35	13.00	A		<P3997	
3951	25D13	II	28 27 33	13.03	A			
3957	25D15	II	29 24 30	13.08	A			
3958	26D15	II	24 22 56	12.79	A			
3959	26D20,27D16	II	20 21 40	12.88	A	土師器271		
3960	26D25	II	21 20 21	13.08	A			

遺構番号	グリッド	所属層	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 深さ	底面 標高 (m)	備 考	出土遺物	切り合い
	27D16-21							
3961	26D20-25	II	29 26 29	13.08	A			
3962	26D14-19	II	24 19 32	13.03	A			
3963	26D14-15	II	33 24 34	13.04	A			
3964	26D14	II	24 22 52	12.73	A		<SD3939	
3966	26D13	II	23 22 38	12.96	A			
3967	26D12	II	28 25 40	12.91	A			
3969	26D11-16	II	36 33 31	13.02	A			
3970	26D21	II	32 28 29	13.09	A			
3973	25D19-24	II	21 20 35	13.00	A			
3976	25D19	II	41 37 25	13.05	A			
3982	27D12	II	32 32 17	12.97	A			
3984	27D11	II	21 18 23	12.94	A			
3985	26D15	II	31 26 16	13.22	A			
3986	26D12	II 以降	34 30 12	13.19				
3987	26D12-17	II 以降	34 29 25	13.08				
3988	26D11	II 以降	27 26 16	13.20				
3989	26D11	II 以降	21 22 10	13.27				
3990	26D11	II 以降	23 21 12	13.25				
3991	26D11-16	II	29 24 12	13.23	A			
3993	26D21	II	25 25 40	12.96	A			
3994	25D20	II	24 24 34	13.02	A			
3995	25D15	II	22 16 14	13.22	A			
3996	25D15	II	28 21 22	13.13	A			
3999	25D14	II	24 22 10	13.28	A			
4001	25D17	II	31 18 24	13.11	A			
4002	27D11	II	16 13 22	12.95	A			
4004	26D24	II	17 14 14	13.16	A			
4005	26D25	II	21 20 22	13.10	A			
4008	26E16	II	18 18 27	12.99	A			
4010	26E21,26F7	II 以降	44 32 8	13.18				
4011	26E12	II	14 12 22	13.10	A			
4012	26E12-13	II	20 17 18	13.13	B			
4013	26E12	II	14 11 6	13.25	B			
4015	26E13	II	22 18 33	12.95	A			
4016	26E13-18	II	28 24 34	13.00	A			
4017	26E18	II	24 18 40	12.90	A			
4018	26E17	II	25 22 27	12.96	A			
4019	27E11	II	19 19 19	12.96	A		#SK4030	
4020	26E23,26F9	II	52 28 16	13.10				
4022	26E9-14	II	21 21 23	13.00				
4023	26E23	II	32 32 7	13.20	A			
4024	26F6	II	31.4 4.5 51	12.33		柱礎621	=SD1	
4025	26F6	II	9.9 9.6 40	12.40		柱礎620	=SD1	
4026	26F7	II	14.7 5.1 39	12.41		柱礎622	=SD1	
4027	26F7	II	13.6 5.6 55	12.26		柱礎623	=SD1	
4028	26F9	II 以降	7.05 1.95 40	12.64		柱礎624		
4031	27E11	II	18 16 23	12.92	A		#SK4030	
4032	27E12	II	34 32 32	12.81	B		#SK4030	
4033	27E12	II	21 19 24	12.93	B		#SK4030	
4034	27E13	II	21 19 32	12.97	A			
4035	27E13	II	24 21 40	12.89	B			
4036	27E13	II	28 28 41	12.89	B			
4040	29E11-16	II	16 16 20	12.96	A			
4041	29E11	II 以降	13 13 16	12.98	A			
4044	29E17	II 以降	50 28 34	12.81				
4087	30E10	II	22 18 22	13.05	B		#SD3538	
4088	20E3-8	III	28 21 28	13.02			>SD3538	
4090	19D24	IV	19 12 22	12.87			>SD3538 >P4091	
4092	19D24	IV	23 18 28	12.93			>SD3538	
4093	23E24	IV	32 28 22	13.06				
4094	23E10-15	II	25 22 23	13.20	A		<SD4095	
4097	23E6	II	30 27 47	12.97	A			
4098	19D24	IV	24 20 34	12.86	B			
4099	23E23	II 以降	30 28 24	13.01				
4100	18E14	IV	16 12 16	13.13				
4101	18E13	III	18 16 35	12.84			>SD3081	
4102	18E23	II	19 16 27	12.98	B			
4103	18E17	II	14 13 14	12.96	A		>SD3081	
4104	18E17	II 以降	8 6 19	12.87		柱礎	>SD3081	
4105	18E16	II	16 13 16	12.92	A		>SD3081	

道構観察表 (34)

Pit観察表 (17)

道構番号	グリッド	所属 種別	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
4106	18E12	II	16 14 12	12.93	A		>SD0981
4107	18E6	II 区画	30 27 36	12.70			>SD0981
4108	18E6	II	16 13 18	12.85	B		>SD0981
4109	24E21,24F1	II 区画	27 25 29	12.86			
4113	24E15	II	27 25 50	12.89	A		
4115	24E19-20	II	24 24 18	13.06	A		
4116	24E11	II	18 18 24	13.13	B		
4117	24E11	II	26 18 34	13.04	A		<P4118
4118	25E11	III	26 25 37	12.99			>P4117
4120	25E15	III	20 18 24	13.04			
4121	25E13	III	22 22 38	12.96			
4122	25E13	III	22 22 47	12.82	A		
4123	25E12	II	21 21 49	12.85	A		
4124	25E13	II	20 19 19	13.01	B		
4125	25E15	III	24 23 50	12.75			
4126	25E14	II	23 23 18	13.06	B		
4128	25E24	IV	32 28 37	12.87			
4131	24E21	II 区画	33 22 23	13.02			
4133	24F4-5	II	23 22 19	13.10	A		
4134	22E9	II 区画	20 16 17	13.12			<SD0982
4136	22E4	II	16 15 9	13.24	A		<SD0982
4137	22E4	II	20 18 24	13.10	B		<SD0982
4138	22E4	II	21 16 33	13.01	B		<SD0982
4140	17D9	II	25 18 26	12.86	A		
4141	17D9	II	20 18 23	12.88	A		
4143	18D10	II	18 17 24	13.04	B		
4144	18D15	II	14 14 16	13.04	B		
4146	27D13	II	29 26 32	12.89	A		
4147	16C21,22	II 区画	36 20 25	12.87			
4168	20C2-7	II	18 14 38	12.79	B		<SD0733
4170	22C23	II	36 36 11	13.28	A		
4171	22C24	II 区画	25 14 10	13.28			<SD0763
4172	22C24	II	24 22 20	13.20	A		
4173	22C24	II 区画	20 20 24	13.15			
4177	19C10	II	26 20 19	13.09	A		<SD0721
4180	22C25	II	18 16 8	13.32	B		
4181	22C25	II	14 14 12	13.28	B		
4182	22C25	II	24 18 13	13.26	B		
4183	22C25	II	18 16 31	13.09	B		
4184	22D2	III	18 18				
4185	22D2	II	25 24 35	13.10	A		
4186	20B24	II	20 18 7	13.25	B		
4190	22D6	II	20 14 28	13.09	B		
4191	22D1-6	II	28 24 58	12.80	A		
4192	22D7	II	22 18 12	13.24	B		
4193	22D2	II	25 22 35	13.07	B		
4194	22D7	II	26 20 17	13.20	B		
4195	22D3	IV	17 19 36	13.08	B		
4197	22D4-9	II	20 18 7	13.34	A		
4198	22D9	II	19 16 6	13.33	A		
4199	22D5	II	14 13 7	13.36	A		
4201	22D10	II	26 24 27	13.15	B		
4204	21C24-25	II	28 27 15	13.10	A		<SD4206
4209	21D10	II	20 21 14	13.16	A		
4210	21D10	II	21 21 2	13.25	A		
4211	21D10	II	36 31 6	13.24	B		
4212	21D15	II	22 19 31	13.00	B		
4213	22D10	II	28 22 26	13.08	A		<SD0761
4214	22D6	II	20 20 28	13.06	B		<SD0755 <SD4324
4216	22D7	II	25 24 22	13.12	B		<SD0755
4218	22D10	II	18 14 30	13.05	B		<SD4337
4219	22D15	II	20 14 21	13.04	B		<SD0755
4221	22D12	IV	40 29 43	12.92	B		<SD0755
4222	22D12	II	22 18 18	13.14	B		#SD0762
4223	20C23	II 区画	12 11 15	13.11			<SD0899
4224	20B25	II	28 26 47	12.84	B		>P695
4225	18B21,18C1	IV	24 14 9	12.94	A		<SD0981
4226	20D3	II	26 16 8	13.14	A		<SD4189 <SD0754
4227	23C22	II 区画	14 10 4	13.29			>P4228 <SD4206

道構番号	グリッド	所属 種別	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
4228	23C22	II 区画	27 25 28	12.93			<P4227
4229	23C22	II	16 12 10	13.24	A		<SD4206
4230	23D1	II	14 12 19	13.21	B		
4232	23D2	II	22 20 18	13.24	A		<SD4206
4233	23D3	II	24 20 19	13.29	A		
4235	23D6	II	20 18 45	12.96	A		
4236	22C22	II	35 28 40	12.97	A		<SD0765
4237	23D6,22D10	II	20 18 8	13.28	A		
4240	23D7	II	18 16 14	13.13	A		
4241	22D5	II	23 18 21	13.11	A		<SD4206
4242	22D6	II	28 22 36	13.08	A	土師窯219	<SD0755 #SD0762
4243	23D7	II	18 16 7	13.31	A		
4244	23D7	II	20 19 6	13.32	A		
4245	23D8	II	21 21 16	13.26	A		
4246	23D9	II 区画	26 22 28	13.15			
4247	23D13	II	16 14 5	13.29	A		<SD4355
4248	22D14	II	21 18 22	13.11	B		<SD0764
4261	23D16	II	19 17 16	13.15	A	青白磁346	<SD4329
4262	23D16	II 区画	26 23 27	12.96			<SD4329
4267	23D10	II	23 20 5	13.31	A		
4268	24D7	II	26 18 8	13.32	A		<SD4378
4274	24D16	II	28 24 4	13.35	A		
4275	24D12	II	21 16 11	13.26	A		
4277	24D13	II	30 26 29	13.11	A		
4278	24D13	II	18 18 13	13.29	A		
4279	24D8-13	II	31 23 11	13.28	A		
4282	24D14	II	9 9 4	13.33	A		
4283	24D14	II	21 20 6	13.31	A		
4284	24D15	II 区画	17 15 7	13.32			
4285	23D12	IV	18 18 18	13.17	A		>SD0755
4286	23D12	II	28 22 5	13.29	A		<SD0755
4288	24D11	II	21 18 7	13.30	A		
4291	24D14	II 区画	14 12 5	13.32			
4293	23D14	II	17 14 10	13.28	A		
4294	21C24	II	24 23 49	12.79	A		<SD0756
4300	20B24	II	20 17 60	12.74	A		<SK3477
4301	20B24	II	17 12 20	12.84	A		
4302	20B25	II	28 22 41	12.84	B		
4303	20B25	IV	33 31 32	12.97	B		>SD0694
4304	21C7	II 区画	22 19 7	13.14	A		<SK3742
4305	24D24	II	20 16 5	13.32	A		
4307	24D25	II	26 23 35	13.00	A		
4309	19C18	II	20 16 8	13.14	A		<SD4189
4310	24D24	II 区画	18 14 4	13.35			
4314	23D12	II	18 13 6	13.28	A		>SD0762
4318	24D17	II	23 20		A		
4321	22C18	II 区画	26 22 6	13.31			
4330	19C5	II	18 16 16	13.16	B		<SK4178
4338	21C16	II 区画	24 22 45	12.72			<SK3784
4339	22D20	II	18 16 10	13.21	A		<SD4329
4341	25D12	II	24 22 16	13.21	B		
4342	25D11	II	41 37 17	13.16	B		
4343	26D11	II	19 18 17	13.17	A		
4346	26D17	II	19 19 15	13.19	B		
4347	26D22	IV	20 17 17	13.19	C		
4348	26D25	II	20 17 16	13.16	B		
4349	27D23	II	35 29 15	13.05	A		
4350	27D23	II	21 21 22	12.99	A		
4353	24D14	II	21 16 28	13.12	A		#P4290
4355	21D9	II 区画	34 22 12	13.24			<SD4325
4356	20C23-24	II 区画	20 17 20	13.04			<SD0899
4358	19C19	II	18 16 18	13.19	A		
4359	21C12	II 区画	30 26 14	13.08			<SD0734
4360	25D15	II 区画	27 22 20	13.12			
4361	25D15	II	24 23 37	12.95	A		
4362	21C23	II	21 19 24	13.01	A		
4363	21C19	II	21 21 17	13.13	A		
4366	19C9	II	27 20 21	13.29	A		
4367	19B19-20	II	20 13 19	13.13	A		<SD0322
4369	20B21	IV	20 18 29	13.07	C		
4370	20B18	IV	30 26 30	12.93	C		

Pit観察表 (18)

遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径 深径	底面 標高 (m)	備 考	出土遺物	切り合い
4371	20B19	II	16 14 17	13.08	B		
4372	20B24	IV	20 16 18	13.14	C		
4373	21B22	II 記録	32 28 16	13.09			
4374	20B22	II 記録	18 16 26	13.10			
4376	19C5	II	46 37 42	12.92	B		
4377	20C8	II	18 16 7	13.12	A	<P4728	
4379	20C8	II	30 28 32	12.89	A	<P4728, >P4384	
4380	20C8	II	22 19 44	12.75	A		
4381	20C10	II	24 20 17	13.08	B		
4382	20C10,21C6	II	22 19 32	12.95	B		
4384	20C8	II	20 14 33	12.85	B	<P4728, <P4379	
4385	21C7	II	18 17 8	13.14	A		
4386	22C21	II	26 20 19	13.00	A	<SD4206 <SK4259	
4388	26D23	II 記録	22 20 16	13.22		#SD3940 <SK3784	
4421	13C4	II 記録	14 13 11	13.14			
4424	13C5	II 記録	29 18 28	12.96			
4425	14C6	II 記録	20 14 14	13.15			
4426	-1D22	II	17 16 29	12.64	A		
4427	-1D23	II	20 16 28	12.64	A		
4428	-1D23	II	19 16 18	12.76	A		
4429	-1D24	II	22 21 13	12.79	A		
4430	-1D24-25	II 記録	28 22 24	12.66	A		
4431	-1E2	II	19 18 16	12.76	A		
4432	-1E3	II	33 31 32	12.61	A		
4433	-1E3	II	24 20 32	12.62	A		
4434	-1E3	II	18 13 20	12.73	A		
4435	-1E4	II	27 26 23	12.69	A		
4436	-1E4	II	19 18 13	12.81	A		
4437	-1E3-8	II	46 22 19	12.75	A		
4438	-1E8	II	38 26 33	12.61	A		
4439	-1E8	II	19 16 34	12.60	A		
4440	-1E8	II	30 28 33	12.62	A		
4441	-1E8	II	28 26 40	12.54	A		
4442	-1E8	II	20 18 20	12.76	A		
4443	-1E5	II	28 22 23	12.68	A		
4444	-1E10	II	35 27 23	12.70	A		
4445	-1E10	II	22 21 25	12.67	A		
4446	-1E10	II	25 25 26	12.67	A		
4447	-1E10	II	32 27 37	12.58	A		
4448	-1E10	II	27 25 22	12.73	A		
4449	-1E14	II	22 21 23	12.73	A		
4450	-1E10	II	22 20 18	12.76	A		
4451	-1E10	II	32 27 21	12.71	A		
4452	-1E10	II	23 22 22	12.70	A		
4453	-1E10	II	23 16 16	12.76	A		
4454	-1E6	II	22 14 12	12.77	A		
4455	-1E10	II	23 18 15	12.78	A		
4456	-1E11	II	19 17 18	12.77	A		
4457	-1E15	II	30 29 30	12.67	A		
4458	-2E1	II	30 29 9	12.74	A		
4459	-2E2	II	22 18 16	12.66	A		
4460	-2E7	II	26 27 22	12.61	A		
4461	-2E12	II	29 27 22	12.59	A		
4462	-2E12	II	16 16 8	12.74	A		
4463	-2E12	II	17 17 11	12.72	A		
4464	-2E8	II	18 16 13	12.68	A		
4465	-2E8	II	24 20 21	12.66	A		
4466	-1F16	II	22 19 33	12.65	B		
4467	-1F21	II	26 24 14	12.73	B		
4468	-1F11	II	18 18 19	12.70	B		
4469	-1F20,1F16	II	21 19 18	12.68	B		
4471	-1F16	II	22 22 16	12.70	B		
4474	-1D22	II	20 19 29	12.61	B		
4475	-2F3	II	19 17 26	12.65	B		
4476	14E14	II 記録	16 12 8	13.10			
4486	26D24	II	22 21 15	13.18	A		
4487	26D19	II	20 20 15	13.20	A		
4490	26D13-18	II	27 26 30	13.03	A		

遺構番号	グリッド	所属層位	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径 深径	底面 標高 (m)	備 考	出土遺物	切り合い
4491	1D18	II			B		
4492	1D23	II			B		
4493	1E3	II			B		
4494	1E3	II			A		
4495	1E8	II			B		
4496	1E13	II			B		
4497	1E18	II			A		
4500	3F14	II	18 14 58	12.40	B		
4501	4D24	II	20 18 44	12.64	B		
4502	4E10	II	18 13 33	12.75	B		
4503	4E10	II	10 8 6	13.02	B		
4504	4E15	II	23 18 16	12.80	A		
4506	7C10	II	35 28 26	13.07	B		
4507	8C8	II	30 21 45	12.77	B		
4508	9D2	II	24 22 9	13.04	A		
4509	9D7	II	20 20 15	13.02	A		
4510	9D7-12	II	24 20 54	12.84	B		
4511	9C23	II	16 9 18	13.00	A		
4512	9C23	II	20 17 20	12.98	B		
4514	9D4	II	25 25 29	12.91	B		
4516	9C8	II	22 21 40	12.72	B		
4517	8C7	II	25 20 16	13.02	B		<SD675
4518	9B23	II	20 17 31	13.04	A		
4519	9B23	II	23 25 22	13.08	B		
4520	9B15	II	23 18 30	12.89	B		
4521	9B15-13	II	31 30 16	13.04	B		
4522	8D15	II	14 12 44	12.86	A		
4523	9E2	II	38 28 30	12.74	A		<SD1116
4524	9E21	II	25 18 23	12.90	A		
4525	9E1	IV	18 14 34	12.71	A		#SD1116
4526	10B16	IV	18 14 24	12.92			
4527	10B22	II	17 17 15	13.09	B		
4530	10C13	II	34 30 42	12.99	B		
4531	10B18	IV	18 16 25	12.93			
4532	10B18	IV	28 18 30	12.90			
4533	10B23	IV	23 18 14	13.06			
4534	10B23	II	22 20 38	12.88	B		
4535	10C3	II	28 22 37	12.92	B		
4536	10C14	II	20 18 12	13.24	A		
4537	10C4	II	26 26 12	13.20	A		
4538	10B24	IV	18 16 8	13.16			
4539	10C9	IV	18 16 21	13.15	C		
4540	10B20	IV	25 21 41	12.89			
4541	11B16	II	32 26 29	12.98	B		
4542	10C10	II	20 18 40	12.98	B		
4543	10C10	II	30 30 39	12.98	A		
4544	11C11	II	30 26 38	12.98	B		
4545	11C1	II	32 34 9	13.28	B		<SD1920
4546	10C4	II	20 18 21	13.14	B		
4547	11B7	IV	14 14 7	13.16			
4548	11B11	IV	22 13 3	13.07			#SD1919
4549	11B11	IV	25 20 16	13.07			
4550	11C7	IV	34 22 48	12.87	B		
4551	11D5	II	48 36 26	13.15	A		
4552	11D5	II	18 15 9	13.30	A		
4553	11D5-10	II	36 32 17	13.23	A		
4554	12C8	II	20 14 11	13.19	A		
4555	12C8	II	19 18 34	12.94	A		
4556	11C25	II	26 20 9	13.11	A		
4557	12C7	IV	16 12 16	13.15	C		
4558	11C23-24	II	22 20 24	13.04	A		
4559	12C8	II	42 29 32	12.92	A		
4560	12C13	II	14 8 25	12.89	A		
4561	12C13-18	II	22 20 13	13.00	A		
4562	11D1	IV	22 19 29	12.77	C		#SD2082
4563	13D5	II	33 30 37	12.86	B		
4565	14D6	II	20 18 16	13.08	B		
4574	4C24	II	26 22 32	12.74	A		
4581	7D1	II	18 16 18	12.80	B		<SD537
4584	7D23	II	22 20 33	12.79	B		<SD537
4586	7C23	II	24 20 36	12.76	A		
4587	7D1	II	24 20 25	12.89	A		

道構觀察表 (36)

Pt観察表 (19)

道構 番号	グリッド	所属 種別	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
4589	11C5	II	23 18 18	13.18	A		
4591	7C25,7D5, 8C21,8D1	II	20 19 16	13.10	A		
4592	8D1	II	22 21 27	13.00	A		
4593	7C18	II	27 24 46	12.71			
4594	9D16	II	31 25 42	12.83	A		
4596	17E11	II	23 22				
4597	10D2	IV	17 16 16	13.18			
4598	10D3	II	28 22 14	13.17			
4599	11C21	II	13 12 20	13.12	A		
4600	11C21,11D1	IV	14 12 15	13.19		#SD2082	
4602	10C23-24	II	18 15 65	12.67	A		
4603	11C21	II	18 16 27	13.08	B		
4605	11C21	II	19 18 42	13.03	B	土層器72	
4606	11C22	IV	20 19 42	12.99	C		
4607	11C12	II	29 26 18	13.17	B		
4608	11C21	II	30 24 33	13.01			
4610	11D7	II	26 20 20	13.11	B		
4611	10D19	III	22 22 18	13.05			
4612	11D11	II	24 16 22	13.00	B		
4613	10D12	II	22 15 44	12.84			
4614	11C12	II	22 22 38	12.92	A		
4615	9C14	II	18 15 7	13.26			
4616	10C16	II	20 16 32	12.98	B		
4617	10D10	II	20 17 26	12.96	A		
4618	11C7-12	II	24 22 20	13.10	A		
4619	11D41	II	20 15 20	12.97		<SD2082	
4620	11C2	II	26 22 44	12.94	B		
4621	10C18	IV	16 14 18	13.12			
4622	10D15	II	24 22 33	12.82	A		
4624	10C2	II	16 14 19	13.14	B		
4625	11C3	II	20 16 34	12.97	B		
4626	10C15	II	18 15 25	13.02	B		
4627	11C13	II	18 16 20	13.15	A		
4628	10C20,11C16	II	22 22 53	12.72	B	#SX1973	
4629	11B22	II	24 20 31	13.00	B		
4630	11B22	II	18 14 13	13.19			
4631	10C11	II	20 18 22	13.11	B		
4632	10C7	II	20 18 31	13.01	B		
4633	10C6	II	18 16 18	13.11	A		
4634	11B14	II	22 20 29	12.99	A		
4635	11B14	II	21 18 19	13.17			
4636	11B14-19	II	19 16 16	13.19			
4637	11D1	IV	26 25 43	12.91			
4638	11B9	II	20 18 34	12.94	B		
4639	11B10	II	20 16 11	13.20	B		
4640	11C20	II	30 28 14	13.19	A		
4641	11C20	II	14 10 13	13.06	A		
4642	12B13	II	28 25 24	13.00	A	<SD2062	
4643	12B19	II	22 20 17	13.12	B		
4644	10D5	II	24 22 35	12.93	B		
4645	12B18	II	24 20 23	13.07	B		
4646	10D5	II	26 19 19	13.16	A		
4647	11D3	II	23 20 15	12.93	A		
4648	12B14	IV	16 12 14	12.96	C	>SD1984	
4649	13D17	II	27 24 9	12.85	A		
4650	12D25	II	22 8 8	13.00	A		
4651	9D21	II	34 30 34	12.79	A		
4652	11B6-11	II	20 19 22	12.97			
4653	13D8	II	18 17 13	12.97	A		
4655	9D21	IV	20 16 34	12.71			
4656	14E2	II	22 19 20	12.93	B		
4657	14D22	II	24 20 10	13.02	A		

道構 番号	グリッド	所属 種別	規模 (cm) 上層 上層 長径 短径	底面 標高 (m)	覆土	出土遺物	切り合い
4659	7E10	II	16 12 36	12.77	A		
4660	8E7	II	18 15 9	12.92			
4661	11D10	II	38 32 23	13.04	A		
4662	14E15	II	26 22 11	12.97	B		
4664	11D4	II	25 20 52	12.90	B		
4666	13D24	II	25 23 30	12.81	B	#P2962	
4667	12D23	IV	30 26 30	12.78	C	#SX2711	
4668	12D11	II	16 14 6	13.06	A		
4669	12D11	II	19 17 8	13.10	A		
4670	12D17	II	24 18 13	12.96	A		
4671	12D17-18	II	24 20 24	12.86	A		
4672	8D4	II	25 20 13	13.14			
4673	5D4	II	30 28 14	12.99			
4674	4D20	II	36 35 23	12.82			
4676	9D5	II	18 17 19	13.19			
4677	6E14	II	29 20 26	12.82			
4678	6E14	II	24 20 18	12.90			
4680	7D11	II	34 23 18	12.82		<SD435	
4681	11C10	II	30 29 21	13.04			
4682	22D13	II	26 22 12	13.20		>SD3762 >SD4331	
4683	22D15-20	II	24 22 38	12.91			
4684	16C3	II	26 22 26	12.98	B		
4685	16C15	II	20 19 37	12.71	B		
4686	19C10	IV	14 11 8	13.18		>SK3887	
4687	6D17	II	33 20 7	13.08			
4688	6D9	II	26 20 12	12.85			
4689	6E11	II	31 19 40	12.83			
4691	6C3	II	33 20 20	12.97			
4692	7C9	II	32 16 15	13.01		>P1490	
4693	7C5	II	30 25 19	13.12			
4694	7C20,8C16	II	26 25 16	13.04		土層器244 >P1085 >P1761	
4695	8C24	II	15 13 12	13.19			
4696	8C24	II	24 22 20	13.08			
4697	8C19-20	II	22 13 15	13.12			
4698	6C9	II	32 18 14	13.02			
4699	8D11-16	II	19 17 14	13.02			
4702	8D19	II	24 17 3	13.15		#SX1786	
4703	20C1-6	II	18 18 5	13.17		<SD3733	
4704	19C8	II	24 21 10	13.12		<SD3747	
4706	21D1-2	II	30 25 27	13.07			
4707	12D7	II	26 18 27	12.84			
4709	8E19	II	40 26 44	12.67			
4711	16C16	II	18 18 16	12.99			
4712	12D7	II	26 12 12	12.95			
4714	12D8	II	17 17 32	12.82			
4715	12D7	II	18 16 28	12.83			
4716	12D7	II	13 10 15	12.88			
4717	12D6	II	16 13 16	12.94			
4718	12D6	II	26 24 25	12.84			
4725	11C15	II	32 28 20	13.14			
4726	10C23	II	34 33 11	13.28			
4727	20C8	II	21 21 50	12.69			
4728	11C22	II	10 8 6	13.34		#SD1648 >P4377 >P4379 >P4384	
4729	10C23	II	30 27 42	12.87			
4730	14E2	II	33 18 11	13.02			
4731	14D14	II	16 13 12	13.06			
4732	25D25	II	28 24 34	13.01			
4733	25D15-20	II	30 23 29	13.03			
4734	23D7	II	30 26 11	13.24			

土器観察表(1)

№	グロッツ	産地/層位	種類	器種・分類	口径	器高	器径	胎土	回転方向	底座調整	調整・文様	使用状態	備考
1	11013	SK17462	土器類	瓶白陶II	14.2			金・雲・長			クロコナデ		内外両面酸化
2	1108	SK17463	黒色土器	瓶白陶II	14.8			金・雲・長			口縁内クロコナデ縁ミガキ		内外両面酸化
3	1107・8	SK17461・ SD17471	黒色土器	瓶白陶II	16.0			金・雲・長			底縁クロコナデリ、口縁内ミガキ		
4	1108	SK17462	土器類	瓶白陶II	16.0			金・雲・長			縁内クロコナデリ		
5	1108	SK17463・ SD17483	黒色土器	瓶白陶II	16.2			金・雲・長			口縁内クロコナデ縁ミガキ		縁内ハジケ
6	1108・12	SD17481・ SK17462	土器類	瓶白陶A			5.8	金・雲・長	右	回転軸	クロコナデ		
7	1106	SK17462	土器類	瓶白陶II	16.4			金・雲・長			口縁内クロコナデ縁ミガキ		
8	1107	SK17463・2	黒色土器	瓶白陶II	19.2			金・雲・長			口縁内クロコナデ縁ミガキ		口縁再炭化物
9	11013	SK17462	土器類	罎	20.6			金・雲・長			クロコナデ		
10	1108	SD17481	土器類	瓶白陶A	13.6			金・雲・長			クロコナデ		内外両面酸化
11	1107・8	SD17481・II	黒色土器	瓶白陶II	15.0			金・雲・長			口縁内クロコナデ縁ミガキ		
12	1108・9	SD17481・ P28593	黒色土器	瓶白陶II			5.6	金・雲・長		ヘラケズリ	縁下底縁クロコナデ縁ヘラケズリ		
13	11013	SD17481	土器類	小罎			8.4	雲・長		ヘラケズリ	縁下底縁クロコナデ縁ヘラケズリ		縁下再炭化物
14	8D19	SK178615	土器類	瓶白陶A	12.0			金・雲・長			クロコナデ		
15	8D19	SK178615	土器類	瓶白陶A			8.6	金・雲・長	右	回転軸	クロコナデ		表面炭化物
16	8D19	SK178611	土器類	瓶白陶A	14.0			金・雲・長			クロコナデ		内外両面酸化
17	8D19	SK178610	土器類	瓶白陶A	12.4			金・雲・長			クロコナデ		内外両面酸化
18	8D19	SK178610	土器類	瓶白陶II	14.2			雲・長			クロコナデ		
19	8D19	SK178610	土器類	瓶白陶II	14.6			金・雲・長			クロコナデ		
20	8D19	SK17868	土器類	瓶白陶II	14.4			金・雲・長			クロコナデ		
21	8D19	SK17867	土器類	瓶白陶II	14.4			金・雲・長			クロコナデ		
22	8D19	SK17865・3	土器類	瓶白陶A	13.0			金・雲・長			クロコナデ		口縁炭化物
23	8D19	SK17866	土器類	瓶白陶A	11.7			金・雲・長			クロコナデ		
24	8D19	SK17866	土器類	瓶白陶A	12.6			金・雲・長			クロコナデ		
25	8D19	SK17864	土器類	瓶白陶A	13.4			雲・長			クロコナデ		
26	8D19	SK17866・2	土器類	瓶白陶II	13.6	3.4	7.4	金・雲・長	右	回転軸	底縁クロコナデ縁ヘラケズリ		内外口へ縁一部黒化
27	8D19	SK17866	土器類	瓶白陶A	13.8			金・雲・長			クロコナデ		
28	8D19	SK17866	黒色土器	瓶白陶II	16.4			金・雲・長			クロコナデ、内ミガキ		
29	8D19	SK17863	土器類	瓶白陶A	12.0			金・雲・長			クロコナデ		
30	8D19、12D8	SK17861・1・ SD19841	土器類	瓶白陶II	13.7	3.6	6.4	金・雲・長	右	回転軸縁ミガキ	底縁クロコナデ縁ヘラケズリ、その他クロコナデ		縁底再炭化物
31	8D19	SK17862	土器類	瓶白陶A	13.0			雲・長			クロコナデ		
32	8D19	SK17862・1	土器類	瓶白陶A			6.6	金・雲・長	右	回転軸	クロコナデ		表面黒化
33	8D19	SK17862	土器類	瓶白陶A			4.6	金・雲・長	右	回転軸	クロコナデ		底内面炭化物
34	8D19	SK17861	土器類	瓶白陶II	14.0			雲・長			クロコナデ		
35	8D19	SK17861	土器類	瓶白陶II	14.4			金・雲・長			クロコナデ		
36	8D19	SK17863	土器類	罎			12.8	金・雲・長			底縁クロコナデ縁ヘラケズリ、底縁ヘラケズリ		内ハジケ
37	8D20	SK17861	土器類	罎				雲・長			底縁クロコナデ縁ヘラケズリ		内ハジケ
38	8D19	SK178615	土器類	罎	26.6			金・雲・長			クロコナデ		縁内ハジケ
39	8D19	SK178610	土器類	罎	27.8			金・雲・長			クロコナデ		縁内ハジケ
40	8D19	SK17861	土器類	罎	30.6			金・雲・長			縁内クロコナデ縁ヘラケズリ		内外両面酸化
41	8D19	SK17861	土器類	罎	30.0			金・雲・長			クロコナデ		
42	8D19	SK17861	土器類	罎	44.2			雲・長			クロコナデ		
43	8D19	SK17861	土器類	罎	44.0			金・雲・長			クロコナデ		表面炭化物
44	10C20	SK199213	土器類	瓶白陶A			5.2	金・雲・長	右	回転軸	クロコナデ		底面内ハジケ
45	10C20	SK199211・ P90121	土器類	瓶白陶A			6.2	金・雲・長	右	回転軸	クロコナデ		底面内ハジケ
46	11C15	SK19924	土器類	瓶白陶A	13.8			金・雲・長			クロコナデ		
47	11C10、18C1	SK19924・2・ P21811	黒色土器	瓶白陶II	17.2	5.9	7.0	雲・長・白		ヘラケズリ	底縁クロコナデ縁ヘラケズリ		
48	11C15	SK19921	土器類	瓶白陶A	12.8	3.9	5.6	雲・長	右	回転軸	クロコナデ		口へ面再炭化物
49	11C15	SK19921	土器類	罎	42.2			金・雲・長			縁内・縁内クロコナデ縁ヘラケズリ		
50	11C15	SK19921	土器類	長罎	22.8			金・雲・長			クロコナデ		
51	4B13、5C7、 6D21、8D19、 6C13、11C10・ 15、12B10、 13B15・29	SD19841・ SD13741・ SK19921・6・ 2、5、8、9、II	磁器類	罎	16.6			雲・白・黒濁			口縁内クロコナデ、縁内平行帯ミガキ、内面内炭化物		
52	11C2・10	SK19923・2	磁器類	長罎				白・濁濁			クロコナデ		
53	11C10・14、 12B26、13B23、 12C7・13・20、 14B3	SK19922・IV b、5、8、9、II	磁器類	長罎				白・濁濁			クロコナデ		
54	11C10・15、 12B13	SK19924・2・ SD19841	磁器類	罎			2.5	雲・白・濁濁			縁内縁内平行帯ミガキ、内面内炭化物		表面炭化物
55	14B2	SD19843	土器類	瓶白陶II	15.0			雲・長			クロコナデ		
56	13B12	SD19841	土器類	瓶白陶II	17.6			金・雲・長			クロコナデ		
57	13B8・12	SD19841・II	黒色土器	瓶白陶II	16.0			金・雲・長			口縁内ミガキ、その他クロコナデ		
58	12B10	SD19842・ SK23692	黒色土器	瓶白陶II	15.8	4.6	6.0	金・雲・長	右	ヘラケズリ	底縁クロコナデ縁ヘラケズリ		
59	13B12	SD19841	黒色土器	瓶白陶II	15.8			金・雲・長			口縁内ミガキ、その他クロコナデ		
60	12B10	SD19841	黒色土器	瓶白陶II			6.6	金・雲・長	ヘラケズリ	底縁クロコナデ縁ヘラケズリ			
61	13B12	SD19841・II	土器類	小罎	19.2			金・雲・長			クロコナデ		
62	12B9	SD19841	土器類	小罎	15.8			金・雲・長			クロコナデ		
63	12B9・10・11	SD19842・1	土器類	長罎			8.2	雲・長	ヘラケズリ	縁下底縁ヘラケズリ、縁下内ハジケ			縁下再炭化物

遺物観察表 (2)

土器観察表 (2)

№	グッド	遺跡/層位	種類	形状・分類	口径	器高	胎土	制作 方向	底床調整	調整・文様	使用段階	備考
84	13B12-17	SD1984-1	土器類	小甕	17.0		赤-灰-黒			クロコナデ	口縁上内底化	
85	12B9-10	SD1984-2-1	土器類	甕	34.6		赤-灰-黒			條下外ヘラケズリ、体内ハケ イ		
66	22C21	SD4206-1	土器類	瓶白杯	11.6	2.75	6.4	赤-灰-黒	右	ヘラケリ	クロコナデ	底面不良
67	18E1	I	須恵系	瓶白杯	19.0		赤-白-黒				クロコナデ	
68	16K5	II	須恵系	瓶白杯			8.6	赤-白-黒	回転軸 コナデ		クロコナデ	
69	2D12	III	土器類	瓶白瓶A	12.4		赤-灰-黒				クロコナデ	
70	12C1	P2181-1	土器類	瓶白瓶A	13.6		赤-灰-黒				クロコナデ	口縁外底化
71	11109	Fa	土器類	瓶白瓶A	13.2		赤-赤-灰-黒				クロコナデ	
72	11C21	P4605-1	土器類	瓶白瓶A	13.6	3.5	6.8	赤-灰-黒	右	回転軸	クロコナデ	條下外底化
73	111015	Fa	土器類	瓶白瓶B	14.2		赤-灰-黒				クロコナデ	
74	12E2	Fb	土器類	瓶白瓶B	16.0		赤-灰-黒				クロコナデ	
75	21D25	SK3651-2	土器類	瓶白瓶B	16.0		赤-灰-黒				クロコナデ	
76	10B8	II	土器類	瓶白瓶A			5.6	赤-灰-黒	右	回転軸	クロコナデ	
77	7C12	SD443-1	土器類	瓶白瓶A			6.6	赤-灰-黒	右	回転軸	クロコナデ	
78	11C21	Fa	土器類	瓶白瓶A			7.6	赤-灰-黒	右	回転軸	クロコナデ	
79	29E18	III	土器類	瓶白瓶B	14.8	4.4	5.9	赤-灰-黒	右	回転軸	クロコナデ	
80	8D20	P3598-1	土器類	瓶白瓶B	15.6	4.3	7.4	赤-灰-白	左	回転軸	クロコナデ	
81	12D6	P2327-2	赤色土器	瓶白瓶B	13.4			赤-灰-黒			口縁内クロコナデヘラミガ キ	
82	12B15	III	赤色土器	瓶白瓶B	14.6			赤-灰-黒			口縁内クロコナデヘラミガ キ	白身底化
83	11C4	III	赤色土器	瓶白瓶B	15.6			赤-灰-黒			口縁内クロコナデヘラミガ キ	白身底化
84	11D9-10	II	赤色土器	瓶白瓶B	16.2			赤-灰-黒			口縁内クロコナデヘラミガ キ	
85	11D7	V	赤色土器	瓶白瓶B	18.6			赤-灰-黒			口縁内クロコナデヘラミガ キ	白身底化
86	21D25	SK3651-2	赤色土器	瓶白瓶B	19.2			赤-灰-黒		ナデ	白身・口縁内クロコナデヘラミ ガキ	
87	11106-7	V	赤色土器	瓶白瓶B			6.4	赤-灰-黒		ミガキ	條底内ミガキ	
88	11103	II	赤色土器	有白陶				赤-灰-黒			條底内ミガキ	
89	21E18	I	赤色土器	有白陶			9.0	赤-灰-黒			クロコナデ	
90	21F9	I	須恵系	長頸瓶	9.8		赤-赤-白-黒				クロコナデ	
91	21F10	Fb	須恵系	長頸瓶	10.8		赤-赤-白-黒				クロコナデ	
92	7C7, 25D12	Fb, I	須恵系	広口瓶	17.6			赤-白-黒			クロコナデ	
93	18D25, 19E21	SK3538-4, Fa	須恵系	広口瓶	18.8			赤-白-黒			クロコナデ	
94	8C3	Fb	須恵系	長頸瓶			6.8	赤-白-黒			クロコナデ	
95	12E2	Fb	須恵系	長頸瓶か			7.2	赤-白			クロコナデ	
96	2E1, 3E13-19, 3F21, 4E3, 11 -14, 21, 6C2, 8E25, 10E23, 12C8, 13B19	SD1-4, Fa, B, II, I	須恵系	長頸瓶			7.2	白-黒	左		クロコナデ	
97	11D17	Fb	須恵系	長頸瓶				赤-白-黒			クロコナデ	
98	22E24	SK3683-4	須恵系	巻腹瓶				赤-白-黒			クロコナデ	
99	14C6	Fb	須恵系	甕	32.0			赤-白-黒			クロコナデ	
100	28F2	SD1-14	須恵系	甕				赤-灰-白			クロコナデ	
101	11R23, 21E9	SK2025-1, I	須恵系	甕				白-黒			條下平行タタキ、体内同心円 当て具	
102	20E5	SK3538-1	須恵系	甕				赤-灰-白-黒			條下平行タタキ、体内同心円 当て具	
103	27E25	SD4006-4	須恵系	甕				赤-白-黒			條下平行タタキ、体内平行当 て具	
104	28E23	SD1-14	須恵系	甕				赤-灰-白			條下平行タタキ、体内同心円 当て具 條下平行タタキ、体内平行当 て具	
105	28E25	SK4027-12	須恵系	甕				赤-白			條下平行タタキ、体内同心円 当て具	條下外底化
106	28D23	SK3598-3	須恵系	甕				赤-灰-白			條下平行タタキ、体内同心円 当て具	
107	15C14	III	長頸内甕	長頸瓶				赤			條底外底あり、クロコナデ	
108	5D15	P321-4	土器類	小甕	13.4		赤-灰				クロコナデ	
109	14B11	SK3349-1	土器類	長甕	17.8		赤-灰-黒				クロコナデ	
110	11E3	Fa	土器類	長甕	25.2		赤-灰-黒				クロコナデ	
111	11D12, 12D19	Fb	土器類	長甕	24.4		赤-灰-黒				クロコナデ	口縁内底化
112	12C9	SK1997-7	土器類	長甕	33.4		赤-灰-黒				クロコナデ	
113	11D10	P2006-1	土器類	甕	35.2		赤-灰-黒				クロコナデ	口縁内底化
114	11B13-15-22	Fa, II	土器類	甕	33.6		赤-赤-灰-黒				クロコナデ	口内底化
115	22E24	SK3683-3	土器類	甕	33.4		赤-灰-白				クロコナデ	口内底化
116	27F19	SD1-7a	土器類	甕	21.6		赤-灰-黒				クロコナデ	口縁外底化
117	11D3 11B4	V, III	土器類	甕	36.4		赤-灰				條下外クロコナデヘラケズリ、 体内内クロコナデヘラケズリ、 体内内クロコナデヘラケズリ	條下内底化
118	12B10	Fb	土器類	甕	42.6		赤-赤-灰-黒				條下外クロコナデヘラケズリ、 体内内クロコナデヘラケズリ	口縁内底化
119	12B9	II	土器類	甕	16.6		赤-灰			ヘラケズリ	條下内底化	
120	5C20	P333-1	土器類	頸土甕か			赤-灰-黒				内底輪入	
121	27E25	SK4006-4	土器類				5.6	赤-灰-黒 赤-灰-黒 赤-灰-黒	ナデ		條下ケズリ、内ナデ	
122	2E3	SK2 P73-1	土器類	瓶口	19.4		赤-灰-黒				クロコナデ	口縁内底化
123	3F5	SK3 P27-1	白磁	瓶口	19.4		7.0	黒			條底輪入	
124	6D14	SK4 P523-1	土器類	小甕	8.6		赤-灰				クロコナデ	白身底化

土器観察表(3)

No.	グリッド	遺物/部位	種類	形状・分類	口径	器高	胎土	回転方向	底床調整	調整・文様	使用状態	備考	
126	7C12	SR4 P534-1	土器類	小皿B1	9.0		金・雲・長			ロクロナデ			
126	7E2	SR4 P536	土器類	有台皿			雲・長			ロクロナデ			
127	7C1	SR4 P1484-2	白磁	椀F	17.0		黒黒			内外気流			
128	7C11, 22F5	SR4 P534-2, 1	白磁	椀Fも	16.2		黒黒			内外気流			
129	7C12	SR5 P1782-1	土器類	皿B1	13.6		金・雲・長			ロクロナデ			
130	7C25	SR5 P1782-2	土器類	皿B1	13.6		雲・長			ロクロナデ			
131	5C15	SR8 P9125底	土器類	皿B1		5.0	雲・長	右	回転	ロクロナデ			
132	4E25	SR6 P192-1	土器類	小皿B1	9.4	2.5	金・雲・長・角	右	回転	ロクロナデ	口～底内気化	右明証か	
133	6F3	SR9 P608-1	土器類	小皿B1	14.4		角・雲・長	-	-	ロクロナデ			
134	5E15	SR9 P954-1	白磁	椀D-1	12.2		黒黒			ロクロナデ			
135	6E24	SR20 P752-1	土器類	小皿B1		4.4	雲・長	右	回転	ロクロナデ			
136	22E11	SR47 P964-1	白磁	椀F～椀			黒黒・気流			内外気流			
137	5E2	SR952-3	土器類	皿B1	17.2		金・雲・長			ロクロナデ			
138	5E2	SR952-1	土器類	皿B2	15.4		金・雲・長			ロクロナデ			
139	5E2	SR952-3	土器類	皿B2	17.2		金・雲・長			ロクロナデ			
140	13B11, 9C15	SR1320-8・3, 目	珠洲系陶器	椀鉢	33.1	13.6	12.9	雲・長・白・黒		静止	ロクロナデ		
141	12C9	SR1997-7	土器類	小皿B1	9.0	2.3	5.0	金・雲・長	右	回転	ロクロナデ	口～底外・口内気化	右明証か
142	12C9	SR1997-17	土器類	皿V-1a	10.2		黒黒			内外下段あり			
143	12C9	SR1997-19・17	珠洲系陶器	椀鉢	24.0			雲・長・白・黒			ロクロナデ		
144	22E24	SR3683-7	土器類	皿B2	12.6	4.5	6.3	黒・金・雲・長	右	回転	ロクロナデ	内外一部気化	
145	22F3	SR3683-6	土器類	小皿B1	11.8		雲・長			ロクロナデ			
146	22E24	SR3683-1	土器類	皿B1		5.2	黒・金・雲・長	右	回転	ロクロナデ			
147	22E24	SR3683-2	土器類	小皿B1		4.6	雲・長			ロクロナデ		底面斜上段台状あり	
148	22F3	SR3683-1	白磁	皿B1-1aor目	9.0		黒黒・やや黄褐色			軸元気流	内外気流		
149	19D24	SR3906-3	土器類	小皿B1	9.2	2.1	4.0	雲・長	右	回転	ロクロナデ	口～底外・内気化	右明証か
150	20D17	P2948-1	土器類	小皿B1	9.6	2.6	5.6	金・雲・長	右	回転	ロクロナデ		
151	2F11	SD1-7c	土器類	皿B2	15.1	4.9	6.0	金・雲・長	右	回転	ロクロナデ		
152	-1F4	SD1-7c	土器類	皿B2	14.8	5.1	6.0	金・雲・長	右	回転	ロクロナデ		
153	-1E14	SD1-7c	土器類	皿B2	16.6		金・雲・長			ロクロナデ			
154	2F11	SD1-7c	土器類	小皿B1	10.0		金・雲・長			ロクロナデ			
155	2E5	SD1-7c	土器類	小皿B2	4.6		金・雲・長	右	回転	ロクロナデ			
156	1E6	SD1-7c	土器類	皿B2	6.4		金・雲・長	右	回転	ロクロナデ			
157	2F18	SD1-7c	土器類	皿B2	6.8		黒・金・雲・長	右	回転	ロクロナデ			
158	2F11	SD1-7c	土器類	皿B3	5.6		金・雲・長	-	-	内外平行タタキ	内外気化	底面敷物か	
159	2F18	SD1-7c	珠洲焼	甕			黒・雲・長・白			内外平行タタキ、体内気化で気流ハケム	体内気化		
160	2E5	SD1-7c	珠洲系陶器	椀鉢			雲・白・黒			ロクロナデ、押し目あり			
161	-1E24, 6D3	SD1-7c	白磁	椀F	15.8		黒黒・気流			化断工、軸元気流、内外気流			
162	3G3	SD1-6	白磁	椀F			黒黒・気流			化断工、軸元気流、内外気流			
163	2E5-2	SD1-7c	青白磁か白磁	食物						内気化なし		3足器の可能性あり、元代のものであればやや珍しい	
164	-1E6	SD1-7a	青磁	皿C形									
165	3G1	SD1-6	土器類	皿A	10.0		金・雲			ナデ	ココナデ	口～底外気化	
166	3G1	SD1-6	白磁	皿V-4or皿V-3	15.6		気流				体内気化断文		
167	3G1	SD1-6	白磁	皿V								広底、3G1と同一か	
168	1F3-1	SD1-6F	白磁	皿V							体内気化断文	広底	
169	1F4	SD1-2	磁石系陶器	椀	9.8		黒						
170	3F21	SD1-1	土器類	有台皿		8.8	金・雲・長	右	-	ロクロナデ			
171	1F8	SD1-1	青磁	皿片以縁			黒黒				底面、縁気流		
172	1F14	SD1-1	青磁	椀D (1Bか)							外底平文		
173	1F4	SD1-1	磁石系陶器	椀		7.6	雲・白・黒			縁上再気流、ロクロナデ			
174	2F17	SD1-1	磁石系陶器	椀	33.2		雲・白			口内外気流、ロクロナデ			
175	2F24	SD1-1	磁石系陶器	椀		5.8	黒						
176	2E2F2	SD1-14	土器類	皿B3		5.2	金・雲・長	右	回転	ロクロナデ		底面再気化	
177	2F6	SD1-13	白磁	椀D	6.2		黒黒			外底気化なし、見込み縁の縁縁き取り、軸元気流			
178	1D6	SD1-2	土器類	皿B2	5.6		金・雲・長	右	回転	ロクロナデ		底面再気化・縁状気流	
179	1E15-1	SD1-1	白磁	椀F～椀			黒黒						
180	1E15-1	SD1-1	白磁	椀F～椀			黒黒			縁外下輪欠く		内外気流	
181	1D6	SD1-2	珠洲系陶器	甕			黒・雲・長・白			内外平行タタキ、体内気化で気流ハケム		底面%537と同一か	
182	19D24	SD3538-4・2	土器類	皿B1	12.6	5.4	6.5	金・雲・長	右	回転	ロクロナデ		
183	19D22	SD3538-3	土器類	皿B1	13.0	4.7	6.2	金・雲・長	右	回転	ロクロナデ		口～体内一部気化
184	19D21	SD3538-4	土器類	皿B1	11.8		金・雲・長			ロクロナデ			
185	19D21・22	SD3538-2	土器類	皿B1	12.8		金・雲・長			ロクロナデ			
186	19D23	SD3538-4	土器類	皿B1	13.0		金・雲・長			ロクロナデ			
187	19D21	SD3538-4	土器類	皿B1	14.4		金・雲・長			ロクロナデ		口内外気化	
188	19D22・23, 20E10	SD3538-4・3	土器類	皿B1	13.4	5.2	6.4	金・雲・長	右	回転	ロクロナデ		
189	20E4	SD3538-2	土器類	皿B1	16.4		金・雲・長			ロクロナデ		口内外再気化	

遺物観察表 (4)

土器観察表 (4)

№	グッド	遺構/部位	種類	形状・分類	口径	高さ	胎土	制取方向	底底調整	調整・文様	使用段階	備考
190	19023	SD03538-2	土器類	腹取1	18.4		金・雲・長			クワノナデ	口縁昇置物	口縁昇置物
191	19021	SD03538-4	土器類	腹取1		5.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ		
192	19022	SD03538-3	土器類	腹取1		6.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ		底面昇置物
193	1887	SD03538-4・3	土器類	腹取1		5.8	金・雲・長	右	回転	クワノナデ		
194	1965	SD03538-3	土器類	腹取2		5.4	金・雲・長	右	回転	クワノナデ		底面昇置物
195	19023	SD03538-4	土器類	腹取2		6.6	金・雲・長	右	回転	クワノナデ		底面昇置物
196	1965	SD03538-4	土器類	腹取2		7.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ		底面昇置物
197	1965	SD03538-2	土器類	腹取2		5.8	金・雲・長	右	回転	クワノナデ		底面昇置物
198	18024	SD03538-1	土器類	腹取2		7.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ後ヘラナデ		底面・底面内昇置物
199	19023	SD03538-4	土器類	小皿取1	9.6	3.0	5.2	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
200	20815	SD03538-1	土器類	小皿取1	9.6	2.1	3.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
201	19022	SD03538-4	土器類	小皿取1			4.8	雲・長	右	回転	クワノナデ	
202	19021	SD03538-4	土器類	小皿取1			5.8	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
203	20810	SD03538-1	土器類	小皿取1	10.8		金・雲・長			クワノナデ		底面内昇置物
204	2085	SD03538-3	土器類	小皿取1	10.4		金・雲・長			クワノナデ		口縁昇置物
205	19023	SD03538-4	土器類	腹取1	13.6		金・雲・長			クワノナデ		口縁内昇置物
206	1965	SD03538-4	土器類	腹取1	15.0		金・雲・長			クワノナデ		口縁昇置物
207	19023	SD03538-3・2	土器類	有蓋			9.6	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
208	2081	SD03538-4	土器類	小皿取2			4.7	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
209	18024	SD03538-2	瀬戸・美濃	皿	7.6			白・濃		クワノナデ		口縁・口縁内転造。係置物なし
210	19025	SD03538-2	白磁	梅目				黒		観光沢		底面内昇置物
211	7C12	SD442-1	土器類	腹取1	11.4		雲・長	-	-	クワノナデ		口縁昇置物
212	26023	SD03940-1	土器類	腹取1	11.2		金・雲・長			クワノナデ		
213	1104	Fa	土器類	腹取1	13.0		黒・金・雲・長			クワノナデ		
214	28820	II	土器類	腹取1	13.5	4.8	6.2	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	I・II体内昇置物
215	18811	SD3081-1	土器類	腹取1	13.0		雲・長	-	-	クワノナデ		
216	7C12	SD442-1	土器類	腹取1	13.8		金・雲・長	-	-	クワノナデ		
217	6F13	II	土器類	腹取1	14.0		金・雲・長			クワノナデ		
218	23016	SD4329	土器類	腹取1	15.4		金・雲・長			クワノナデ		
219	2216	PD42-1	土器類	腹取1	16.6		金・雲・長			クワノナデ		
220	26821	I	土器類	腹取2	14.3		金・雲・長	右	ヘラ切	クワノナデ		
221	5C23	SK261-1	土器類	腹取2	15.6		金・雲・長	-	-	クワノナデ		
222	23012	SD0755-1	土器類	腹取2	16.2		黒・金・雲・長		ナデ	クワノナデ		口縁昇置物
223	7B25	不明	土器類	腹取2	17.2		金・雲・長			クワノナデ		
224	8C19	SE1760-1	土器類	腹取1			5.0	雲・長		回転	クワノナデ	
225	5E10	II	土器類	腹取1	-	-	5.2	黒・雲・長	右	回転	クワノナデ	底面昇置物
226	6E19	II	土器類	腹取1			5.4	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	底面昇置物
227	1116	PD26-1	土器類	腹取1			6.2	黒・金・雲・長	右	回転	クワノナデ	底面昇置物
228	7F2	II	土器類	腹取1			6.0	黒・金・雲・長		クワノナデ		
229	6F13	II	土器類	腹取1	-	-	6.4	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
230	1D17, 2E4	II	土器類	腹取3			5.6	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	底面昇置物
231	8C4	I	土器類	腹取3	-	-	7.4	黒・雲・長	右	回転	クワノナデ	
232	8C1	SD443-1	土器類	腹取3			7.0	雲・雲・長		ナデ	クワノナデ	
233	19610	I	土器類	腹取3			7.4	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
234	21C11	Fb	土器類	腹取3			6.0	金・雲・長		回転	クワノナデ	
235	5C23, 5D3	II, II	土器類	腹取1			6.2	黒・金・雲・長		クワノナデ		底面内昇置物
236	18024, 18E2	SD3081-1, Fb	土器類	腹取1			6.3	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
237	6E12	II	土器類	腹取1			5.6	雲・長	右	回転	クワノナデ	
238	5E2	Fa	土器類	腹取1			7.2	黒・金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
239	27F13・22	Fa・II	土器類	腹取1			6.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	底面昇置物
240	21C20	Fb	土器類	腹取1			10.8	金・雲・長		ヘラ切	クワノナデ	
241	23D14	Fb	土器類	腹取1			9.4	雲・長		ヘラ切	クワノナデ	底面昇置物
242	7C19	I	土器類	小皿取1	7.8		金・雲・長			クワノナデ		
243	4F15	II	土器類	小皿取1	8.4		金・雲・長	-	-	クワノナデ		
244	8C16	PD694-1	土器類	小皿取1	9.0		金・雲・長			クワノナデ		
245	5C13	II	土器類	腹取2			5.0	雲・長		クワノナデ		
246	6E17	Fa	土器類	腹取2			5.4	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
247	4E14	II	土器類	腹取2	-	-	6.0	金・雲・長	-	-	クワノナデ	底面昇置物
248	2F2	II	土器類	腹取2	-	-	5.8	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
249	4F13	II	土器類	腹取2	-	-	6.0	雲・雲・長・白多	右	回転	クワノナデ	底面昇置物
250	9E4	II	土器類	小皿取1	9.8		金・雲・長			クワノナデ		
251	11E4	Fb	土器類	小皿取1	10.4		金・雲・長			クワノナデ		口縁昇置物
252	8E9	SK456-1	土器類	小皿取1			3.8			クワノナデ		
253	3F3	II	土器類	小皿取1			5.2	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
254	119	II	土器類	小皿取1			4.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
255	4E22	Fa	土器類	小皿取1			4.0	黒・雲・長		ナデ	クワノナデ	
256	13C17	SD266-1	土器類	腹取2			5.2	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	底面昇置物
257	4F2	II	土器類	腹取2	-	-	6.2	黒・金・雲・長	右	回転	クワノナデ	底面昇置物
258	6E7	II	土器類	腹取2			6.2	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
259	3D18	II	土器類	腹取2			7.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	底面内昇置物
260	21D24	I	土器類	腹取2			7.2	金・雲・長		回転	クワノナデ	
261	6F9	II	土器類	小皿取1			4.2	雲・長	右	回転	クワノナデ	
262	3F11	II	土器類	小皿取2			4.0	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
263	6E23	II	土器類	小皿取2			4.8	金・雲・長		ナデ	クワノナデ	
264	21D25	I	土器類	小皿取2			6.4	金・雲・長	右	回転	クワノナデ	
265	12B15	SD1984-1	土器類	小皿取2			4.8	金・雲・長		ナデ	クワノナデ	底面昇置物

土器観察表 (5)

№	グッド	遺構/層位	種類	形状・分類	口径	器高	器径	胎土	回転方向	底床調整	調整・文様	使用状態	備考
266	14021	Ⅱ	土器類	小瓶C	5.8	1.3	5.8	角-白		ヘラ切付	ロクロナデ		
267	1384	SD1984-1	土器類	小瓶B3	7.2	1.3	5.8	器-長	右	回転糸	底内カキ、その他ロクロナデ		
268	20823	P3050-2-1	土器類	小瓶C	8.3	1.3	6.2	器		ヘラ切付	ロクロナデ	底面内外炭化物	
269	20C23	SD3089-1	土器類	小瓶C	8.0	実-長		器-長	右	ヘラ切付	ロクロナデ		
270	23618	器	土器類	有首瓶		5.6	実-金-器-長	器-長			ロクロナデ		
271	27D16	P3050-1	土器類	有首瓶		6.2	金-器-長			回転糸	ロクロナデ	底面内外炭化物	
272	27D21	器	土器類	有首瓶		6.8	金-器-長			回転糸	ロクロナデ		
273	6P12	SK305-1	土器類	有首瓶		8.0	金-器-長				ロクロナデ	底面内外炭化物	台内外黒化
274	28920	器	土器類	有首瓶		8.0	金-器-長		-		ロクロナデ		
275	23613	器	土器類	有首瓶			実-金-器-長				ロクロナデ		
276	26825	SR4037-18	白磁	輪1-1	14.4					粘貼	化粧上		
277	3E11	器	白磁	輪Ⅱ		5.0					器下・底片動なし、軸透明		
278	21021	I	白磁	輪Ⅶ	11.4		高底				器内外、軸光沢		
279	4P9	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ	14.0		高底				有底		
280	13D12	SD1374-1	白磁	輪Ⅶ	14.8		高底				内外光沢		
281	6P10	器	白磁	輪Ⅶ	15.0		高底				器内外、軸透明		
282	11D13	F/a	白磁	輪Ⅶ	15.0		高底-乳濁				器内外、軸透明		
283	2065	I/b	白磁	輪Ⅶ	16.0		高底-乳濁				軸光沢		
284	21C12	器	白磁	輪Ⅶ	16.2		高底				口内外体気泡、軸透明		
285	9E15	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ	16.4		高底				口内外体気泡、軸光沢		
286	4C24	I	白磁	輪Ⅶ	16.6		高底-黄褐色				内外体多、軸光沢		
287	3B3	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ	17.0		高底				口内外光沢		
288	12E5	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ	17.0		高底-乳濁				器内外、軸透明		
289	28D11	器	白磁	輪Ⅶ	18.4		高底				器内外、軸光沢		
290	5D3	F/a	白磁	輪Ⅶ	19.0		高底				器内外		
291	3E12	器	白磁	輪Ⅶ	19.4		高底-やや黄褐色				内外光沢、軸透明		
292	28E2、29E7	I	白磁	輪Ⅶ-1a		5.9	高底-乳濁				底片動なし・ヘラナズリ痕、底内収縮文、		
293	20E8	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ-1		6.2	高底-乳濁				底片動なし、軸不透明		
294	4E24、5F19、7D19	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ-1		6.2	高底				底片動なし、底内収縮文、軸透明		
295	6E9	F/a	白磁	輪Ⅶ-1		6.4	高底				底片動なし、軸透明		
296	12D4	F/a	白磁	輪Ⅶ			気泡				底片収縮文・胎なし、軸透明		高台径大きい、窪は磁石下
297	18D16	F/b	白磁	輪Ⅶ-1orⅦ-2	13.6		高底				軸半透明		窪の可能性高い、底が深い中、蓋き取りの有無
298	11E19	F/a	白磁	輪Ⅶ-4orⅦ-5	13.2		高底					器内外	
299	1E7	Ⅱ	白磁	輪ⅦorⅦ-5	15.0		高底					器内外	
300	6E16	不明	白磁	輪Ⅶ-1	5.1		器-乳濁				内外軸透明、口内外気泡		
301	24D22	SR4287-1	白磁	輪Ⅶ	13.8		高底						
302	24D20-2・4	SK4312-3	白磁	輪Ⅶ-1orⅦ-2	16		高底				軸光沢		窪の可能性低い
303	17E3	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ-1orⅦ-2	17.4		高底				器内収縮文、軸透明		内外乳濁、窪2の可能性高い
304	21D8	SD3755-2	白磁	輪Ⅶ-4orⅦ-5	16.6		高底				軸光沢		
305	11D9	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ-4orⅦ-5	18.4		高底				器内収縮文		内外乳濁、軸光沢
306	5E21	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ-1orⅦ-2	18.8		高底				軸透明		内外乳濁
307	18E11	I	白磁	輪Ⅶ-Ⅱ	15.2		軸半透明						口肥り
308	13E21	F/b	白磁	輪Ⅶ-Ⅱ			高底				器内胎文、軸透明		内面胎文
309	28E10	I	白磁	輪Ⅶ-1b	14.2		高底				胎日文		内外乳濁
310	3C7	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ		6.0	気泡				底片動なし、軸透明		
311	22D14-3	SD3763-2	白磁	輪Ⅶ-Ⅱ			高底						器内外、器厚%273と同一か
312	11E11	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ-2	14.0		器				内外軸透明、器内外気泡		
313	5D24	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ		4.8	高底-乳濁				底面胎動なし・ケツリ、高台母材を器底均の白土付着、内底込入胎線状に蓋き取り・蓋取時の凹凸付着・胎透明		
314	22D7-3	SD3755-2	白磁	輪Ⅶ-Ⅱ			高底						内外乳濁
315	12D4	F/a	白磁	輪Ⅶ?			器				器内胎文、内外軸透明		
316	15H1	SD1984-1	白磁	輪Ⅶ			化粧上						広底外、器内外
317	13C25	SD3284程度	白磁	輪Ⅶ-Ⅱ			高底				化粧上		器内外
318	10D21	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ	21.4		高底				口内外軸線き取り、軸透明		
319	12C11	SK1968-11	白磁	輪Ⅶ	16.6		高底				口肥り		
320	15B14、15C、16B17	Ⅱ	白磁	輪Ⅶ-2		6.6	高底				内底込入胎線、器大部分に胎動、軸不透明		上質
321	3F13	Ⅱ	白磁	器Ⅱ		5.2	高底-乳濁				底片動なし、胎中不透明		
322	1F22	Ⅱ	白磁	器Ⅱ-1		5.4	高底				軸不透明		器内外
323	43T (SR23・24、6C2-5)	Ⅱ	白磁	器Ⅱ		2.6	白-器厚-乳濁				器内外ロクロナデ・胎なし、器内外不透明		
324	15C9	Ⅱ	白磁	器Ⅱ		3.0	高底				底片動なし、胎動不透明		
325	9E25	Ⅱ	白磁	器Ⅱ		3.0	高底				底片動なし、軸半透明		
326	2E7	F/b	白磁	器Ⅱ		4.2					器内外胎動なし、内軸透明		
327	28D16	F/b	白磁	器Ⅱ		4.0	胎-胎Ⅱ-胎Ⅲ併用				底片動なし、内軸半透明		
328	11C25-4	P2636-1	白磁	器Ⅱ			器				器内胎文		
329	21C141	SK3915-1	白磁	器Ⅱ	12.0		高底				口肥り		
330	5C8	概乱	白磁	器Ⅱ	12.2		陶器質-高底				口内外胎線き取り、軸不透明		

遺物観察表 (6)

土器観察表 (6)

№	グッド	遺物/部位	種類	器種・分類	口径	高さ	底径	胎土	制作 方向	底床調整	溝割・文様	使用状態	備考
331	1D17	Ⅱ	白磁	皿V～Ⅴ	12.8						軸透明		広底系
332	5D14	Ⅱ	白磁	多角形森田 D			3.6	黒灰				高台14cm位あり・底部の 丸底割、底内輪割・高台の目 線あり	
333	1D2D3	Ⅱ	白磁	陶器森田 D7		4.8		陶器灰				底外輪なし、内定輪あり	高台なし等
334	1E81	Ⅱ	白磁	皿森田D		5.0		陶器灰・黒灰				底外輪なし、内定輪あり	横置
335	2D2D0	Ⅱb	白磁	陶器森田出		7.0		黒灰				高台付軸なし	内底泡
336	5D24、1SD16	Ⅱb	白磁	陶V or V				黒				底内輪なし、内外輪透明	広底系、係外気泡
337	2D61	1b	白磁	皿森田E		7.4		黒				高台付軸なし、外気泡	
338	1E824	Ⅱ	白磁	皿		3.6						高台輪なし	内外気泡
339	3E6	Ⅱ	白磁	小壺		2.4						底外輪なし、内輪あり	広底系
340	21C22-4	SK3756-2	白磁	徳目				黒灰-気泡				内輪なし	広底
341	17E12	Ⅱ	白磁	徳目繫糸				黒灰				内輪なし	広底
342	20D2	Ⅱ	白磁	徳目?		9.2		黒灰				底外輪あり、内輪なし	広底系
343	7E24、8E25	Ⅱa、Ⅱ	白磁			5.8		黒灰				内外輪なし	横置?
344	11D25	Ⅱb	黄白磁	樽				黒灰				係内輪付文、軸透明	
345	12E10	SK3266-2	黄白磁	樽				黒灰				底内底縁文、軸光沢割	内面へつ文、高台 小、13C高半へ 13C前平だが、 13Cは少ない、平 縁にある。
346	23D16	P4261-1	黄白磁	皿		10.2		黒灰					外気泡多
347	17E18	Ⅱ	黄白磁	皿		10.2		黒灰				軸透明	
348	8E1	Ⅱa	黄白磁	皿		15.0						軸透明	
349	21E1	Ⅰ	黄白磁	皿								係内へつ文、軸透明	平底か
350	6E19	Ⅰ	黄白磁	小壺								係内輪付瓦片文・軸透明、内 輪なし	
351	4D14	Ⅱ	黄白磁	小壺				黒					帯の底
352	1F9	Ⅱ	黄白or白磁	壺								軸外輪不透明、係内輪なし、ロ クロナデ	
353	1E95	SK3348-2	白磁	小樽		7.6							おからない
354	8C10	Ⅱ	黄磁	樽?		14.2		気泡					研究?、外気泡
355	6E5	Ⅱ	黄磁	樽1-1b									同定
356	18E14	1b	黄磁	樽1～Ⅲ								底内輪透明気泡	高台山形、同定
357	1E18	Ⅱ	黄磁	樽1-4		15.4		黒灰					黒縁
358	9E5	覆土	黄磁	樽1-2～4				黒灰				底内折文、底外付付軸なし ・軸透明	黒縁
359	10H16	Ⅱ	黄磁	樽1～IV		4.6		黒灰				底内折文、軸透明、高台付 付と軸なし	黒縁
360	18E4	Ⅰ	黄磁	樽1-2～4		5.4		気泡				内底込み折文、外輪なし	黒縁
361	5D17	Ⅱ	黄磁	小樽Ⅱb		9.8		黒灰				外輪透明文、軸透明	黒縁
362	8E20	Ⅱ	黄磁	樽Ⅱb		11.2						係外輪透明文、軸透明	黒縁
363	19E22	Ⅱ	黄磁	樽Ⅱb		17.6						係外輪透明文、軸透明	黒縁
364	13E7-3	SD1984-1	黄磁	樽Ⅱb				黒灰				係外輪透明文、外気泡	黒縁
365	13E7-4	SD1984-1	黄磁	樽Ⅱb				黒灰				縦溝付文、軸光沢割	黒縁
366	15E14	Ⅱ	黄磁	樽Ⅱb				気泡				係外輪透明文、軸透明	黒縁
367	17D24	Ⅱ	黄磁	小樽ⅡC		10.0	5.3	2.8				係外輪透明文、高台付軸なし ・軸透明	黒縁、扉面縁子 肌
368	15E12	Ⅱ	黄磁	樽ⅡC		12.4		黒灰				係外輪透明文、軸透明	黒縁、直口
369	5E5	-	黄磁	樽19HⅣ		8.6		黒灰				係外輪透明文、軸透明	黒縁、外気泡
370	7C11	不明	黄磁	樽Ⅱ		14.2		黒灰					黒縁
371	10E5	Ⅱ	黄磁	樽19HⅡ		17.0						軸透明	黒縁
372	4E9	Ⅱ	黄磁	樽上9HⅡ		15.6		黒灰				軸透明	黒縁、扉面縁子 肌
373	21C11	SK3734-1	黄磁	樽Ⅱa									黒縁
374	24D19	Ⅱb	黄磁	樽Ⅱa			4.4	黒灰				係外輪透明文	黒縁
375	8E17、12B17	Ⅱ	黄磁	樽Ⅱa			5.0	気泡				内底輪割、底内輪縁縁文	黒縁
376	6D19	Ⅱ	黄磁	樽?7?			5.4	気泡				底外内輪割、軸透明	黒縁
377	14E2	Ⅱa	黄磁	樽?			7.0	黒灰				底内外輪縁き取り、軸不透明	底内高台付輪あり、内外気泡
378	1F19	Ⅱ	黄磁	樽Ⅱa			4.8					係外輪縁文底内スタンプ文、 底外輪割、軸透明	黒縁
379	6C12	Ⅱ	青花	皿H群		8.8						係外青文	
380	4C24	Ⅱ	青花	皿H群		15.4							
381	5E6	Ⅱ	青花	皿H群			6.1					内底込み青文、高台付軸 縁き取り	
382	3F2	Ⅱ	青花	樽C群?			2.6					係外花文、高台付軸縁き取 り	
383	7C	Ⅰ	青花	樽C群		12.3	5.9	6.0				係外青文、内底込み花文、 高台付軸縁き取り	扉面縁子肌
384	1E9	Ⅱ	青花	樽F群		22.2						内内輪文	扉面縁子肌
385	25E15	Ⅰ	青花	樽?			4.8					高台付軸縁き取り、器付内 底縁に鈔字	扉面縁子肌
386	7E24	Ⅱa	白磁鉄結	壺				灰-気泡				係外白化粧鉄結・施軸、係 内縁ナデ・軸なし	龍州系系、係外気 泡
387	4D14、5E9、18、 6E11	Ⅱ、Ⅱ	山青磁	皿		19.6	10.0	灰-白・黒				ヨコナデ	
388	15E3-4	Ⅱ	高麗青磁	瓦製				白色胎子・気泡				係外縁文による胎の跡が弱 か、体内深く気泡	内外気泡、発色が ぶくあまりよく ない
389	4F11	Ⅱ	藍戸・灰濁 天目	茶入		4.3		灰-気泡				内外気泡	
390	1E1020	Ⅱ	藍戸・灰濁 天目	樽				気泡				係外外輪なし、係内輪割	

土器観察表 (7)

№	グリップ	遺構/層位	種類	形状・分類	口径	器高	胎土	制作 方向	底床調整	調整・文様	使用状態	備考
391	13B9	II	瀬戸・美濃	陶	14.2		灰産				内外胎動	
392	15D14	II	天目	陶	12.0		黒				内外胎動・灰産	
393	20D9	I	天目	陶			黒				内外胎動動、右下縁縁部縁部	
394	20C19	SK3793-1	瀬戸・美濃	赤土			赤・黒				縁部一帯胎動、内外口コナデ	
395	8D1	III	瀬戸・美濃	陶瓦産	12.8		灰				内外胎動縁部	
396	9C1	IVa	瀬戸・美濃	陶瓦産	12.0		灰				内外胎動	
397	4F23	II	瀬戸・美濃	陶瓦産		6.0	灰				内外胎動動	
398	23E14	I	瀬戸・美濃	陶瓦産	12.0		黒				内外胎動動	大塚 I
399	5E1	III	瀬戸・美濃	陶瓦産		5.4	白・黒				内外胎動透明	
400	13C15	IVb	瀬戸・美濃	陶瓦産	26.8		赤・黒				内外胎動	
401	19C16	III	瀬戸・美濃	陶瓦産			灰				内外胎動・胎動、体内胎動	
402	23F2、25D19	IVb、I	珠洲系陶器	西厨産			灰・白・黒				クロロナデ	夏ハダレ
403	24E21	I	珠洲焼	徳州	10.8		海昏・灰・白・黒				クロロナデ	
404	7C10、8C5	IVa、I	珠洲焼	徳州			海昏・灰・白・黒				クロロナデ	
405	12D19、12E4	Ⅲ、Ⅱ	珠洲焼	徳州	18.4		海昏・灰・白				クロロナデ	
406	22I21	IV	珠洲焼	徳州	16.6		灰・白・黒				クロロナデ、体昇平行タタキ、 体内胎動文当て具	
407	7D25	IVb	珠洲焼	徳州			海昏・灰・白・黒				体昇平行タタキ、体内胎動文 当て具	
408	14C2	III	珠洲焼	徳州			海昏・灰・白・黒				体底昇平行タタキ、体内胎動文 当て具	
409	8E7	II	珠洲焼	徳州			海昏・灰・白・黒				体底昇平行タタキ、体内胎動文 当て具	胎内面磁石に 転刷
410	23D18	IVb	珠洲焼	徳州	42.6		海昏・灰・白・黒				クロロナデ、体昇平行タタキ、 体内胎動文当て具	
411	22C21	IV	珠洲焼	徳州	37.2		海昏・灰・白				クロロナデ、体昇平行タタキ、 体内胎動文当て具	
412	15D6	III	珠洲焼	徳州	43.6		海昏・灰・白				クロロナデ、体昇平行タタキ、 体内胎動文当て具	体昇胎動物 5132同ーカ
413	不明	不明	珠洲焼	徳州			灰・白・黒				体昇平行タタキ、体内胎動文 当て具	体昇胎動物
414	23D12	III	珠洲焼	徳州		10.0	海昏・灰・白・黒				クロロナデ	
415	17B12	IVb	珠洲焼	徳州		12.4	海昏・灰・白・黒			ハタメ	クロロナデ	
416	12D18	IVa	珠洲焼	徳州		14.0	海昏・灰・白・黒				クロロナデ	
417	15D9	II	珠洲系陶器	徳州			灰・白・黒				体底昇平行タタキ、体内胎動文 当て具	
418	11D14	SK1749-2	珠洲焼	徳州			海昏・灰・白				体昇平行タタキ、体内胎動文 当て具、内外胎動	
419	11C1	III	珠洲焼	徳州			海昏・灰・白・黒				体底昇平行タタキ、体内胎動文 当て具	胎内面磁石に 転刷
420	19C16	III	珠洲系陶器	徳州	15.2		灰・白・黒				クロロナデ	
421	23E20	I	珠洲焼	徳州	19.6		海昏・灰・白・黒				クロロナデ	
422	13B6	II	珠洲焼	徳州	21.2		海昏・灰・白・黒				クロロナデ	
423	11D15、13B18 21、17B5・7	SD1984-2、Ⅲ、 Ⅱ	珠洲系陶器	徳州	25.6		白・黒				クロロナデ	
424	11B6、13B6・ 11、13C10、 13D13	SD1984-1、 SD1374-1、 IVa、Ⅲ、Ⅱ	珠洲系陶器	徳州	24.0		灰・白・黒				クロロナデ	
425	不明	不明	珠洲系陶器	徳州	30.0		灰・白・黒				クロロナデ	
426	19E2、22E8・ 11	SD1371-2、 IVb、I	珠洲焼	徳州		10.2	海昏・灰・白・黒		静止赤		クロロナデ	胎内面胎動
427	10D10、11D20	II	珠洲焼	徳州		9.4	海昏・灰・白		静止赤		クロロナデ	
428	22E5	IVb	珠洲系陶器	徳州	27.8		灰・白・黒				胎内胎動し、クロロナデ	
429	22E18	I	珠洲焼	徳州	29.0		海昏・灰・白・黒				クロロナデ	縁部一帯胎動
430	8C4	I	珠洲系陶器	徳州	32.8		灰多・灰・白				体昇クロロナデ縁部位のクロ ロナデ、その他クロロナデ	胎土異なる
431	13B13	SD1984-1	珠洲焼	徳州	36.8		灰・白・黒				クロロナデ、胎内胎動	
432	15B10・20	II	珠洲焼	徳州	38.8		海昏・灰・白・黒				クロロナデ、胎内胎動し15 目	
433	22C22	SD1756-2	珠洲系陶器	徳州			灰・白・黒				クロロナデ、胎動し18目	体内胎動、体 内外胎動物
434	19E23	I	珠洲系陶器	徳州	14.0		灰・白・黒		静止赤		クロロナデ、胎内胎動し11 目以上	胎内胎動
435	18B15	SD3097-1	珠洲焼	徳州			海昏・角・灰・ 白				クロロナデ、胎動し19目	
436	18E16、22D4	SD4206-3、1b	珠洲系陶器	徳州			灰多、灰・白				クロロナデ、胎動し11目	胎内胎動
437	22D4	SD4206-3	珠洲焼	徳州	33.6		海昏・灰・白・黒				クロロナデ	
438	20C25	III	珠洲焼	徳州			海昏・灰・白・黒				クロロナデ、胎内胎動し17目	体内胎動
439	15B16	II	珠洲焼	徳州	28.6		海昏・灰・白・黒				口内胎動し、クロロナデ	
440	13B7	II	珠洲焼	徳州	29.4		海昏・灰・白・黒				クロロナデ、胎動し17目	
441	21I2	III	珠洲焼	徳州	30.0		海昏・灰・白				クロロナデ	
442	13B14	SD1984-1	珠洲焼	徳州	32.4		海昏				クロロナデ、胎動し18目	内胎動
443	4E7 (16E23・ 25、16E23・5)	SD1984-1	珠洲焼	徳州	30.8		海昏・灰・白・黒				クロロナデ、胎動し19目	

遺物観察表 (8)

土器観察表 (8)

№	グッド	遺物/層位	種類	形状・分類	口径	器高	器径	胎土	制作方向	底床調整	調整・文様	使用状態	備考
444	14B6	II	珠洲焼	磁鉢	33.0			海砂・灰・白・黒			ロクロナデ、体内彫し目		
445	22C22	SD3750-2	珠洲焼	磁鉢	35.0			海砂・灰・白・黒			ロクロナデ		
446	20C23, 20D3	SK3749-1	珠洲焼	磁鉢				海砂・灰・白・黒			ロクロナデ、彫し目10日以上		
447	9E14	概乱	珠洲焼	磁鉢				海砂・灰・白・黒			ロクロナデ、彫し目8日か		
448	6D14	III	珠洲焼	磁鉢				海砂・灰・白・黒			ロクロナデ、彫し目15日以上	体内炭化物	
449	22D14	SD3763-2	珠洲焼	磁鉢			9.4	海砂・灰		静止系	ロクロナデ	体内炭粒	
450	17D11	F/a	珠洲焼	磁鉢			11.0	海砂・白			ロクロナデ、底内彫し目7日	底面不直	
451	3P2	F/b	珠洲焼	磁鉢	31.6			海砂・灰・白・黒			ロクロナデ、体内彫し目		
452	15E19	II	珠洲焼	磁鉢	33.8			海砂・灰・白・黒			口内彫り文状文、ロクロナデ		
453	10C5	F/a	珠洲焼	磁鉢	36.2			海砂・灰・白・黒			口内彫り文状文、ロクロナデ		
454	15C16	II	珠洲焼	磁鉢	32.6			海砂・灰・白・黒			口内彫り文状文、ロクロナデ		
455	4D7	III	珠洲焼	磁鉢	30.0			海砂・灰			口内彫り目、ロクロナデ		
456	4F	不明	珠洲焼	磁鉢				海砂・灰・白・黒			ロクロナデ、体内彫し目10日か	体内炭化物	体内炭粒
457	6D23	F/b	珠洲焼	磁鉢	47.7			海砂・灰・白・黒			口内彫り文状文、ロクロナデ		
458	21C8・22, 22D8	SK4206-2, IV h, 要	定形系陶器	甕	31.6			灰・灰・白・黒			ココナデ		
459	19C5	SK4179-1	定形系陶器	甕			16.5	灰・灰・白・黒			ココナデ		
460	23E12	I	定形系陶器	甕				灰・灰・白・黒			條状押印、体内ココナデ	赤褐色塗か	
461	23D20	F/b	定形系陶器	甕				灰・灰・白・黒			條状押印、体内ココナデ	赤褐色塗か	
462	15C16	II	定形系陶器	甕				灰・灰・白・黒			條状押印、体内ココナデ		
463	14B25, 14D13	II	定形系陶器	甕				灰・灰・黒			條状押印、体内ココナデ		
464	6C13	F/b	磁器	磁鉢	32.4			海砂・灰・貝・赤			底内彫し目10日、ロクロナデ		
465	6D12	III	磁器	磁鉢	40.4			灰・灰			底内彫し目19日、ロクロナデ		
466	14D13	II	磁器	磁鉢			13.0	海砂・灰・貝・赤		静止系	底内彫し目19日、ロクロナデ	底面内磨減	
467	14E14	II	磁器	磁鉢	16.2			灰・白			口内彫物、口体内彫物		
468	12C3	F/b	磁器	皿	11.0	3.0	4.6	白・黒			條状押印なし		
469	19E5	1b	磁器	皿			4.6	灰・白			面内彫なし、面内彫り・目跡少		
470	2F5	II	磁器	皿			3.8	黒			面内彫なし、面内彫り・目跡少		
471	18D20	1b	磁器	皿			3.3	灰・白	右		面内彫なし、底面内彫物・砂付着		
472	17 (1-2C)		赤土上層	高柄形土器			6.6	灰・灰			体下非平行文様文・縄文其、体非平行文様文	底面磨減	
473	7D17	SD637-1	赤土上層	深鉢				灰・灰			條状系文文、内ナデ	体内炭化物	
474	7D18	SD637-1	赤土上層	深鉢				灰・灰			條状系文文、内ナデ	体内炭化物	

土製品観察表

報告No.	出土位置	遺物種類	遺物No.	部位	器種	長さ (cm)	幅/厚 (cm)	高さ (cm)	加工・調整	保存状況	備考
475	1E22			I	土縄	2.1	1.3	—	手捻糸	半分欠損、端部一部欠損	表面に付着土
476	1D19			7b	土縄	4.2	1.5	—	手捻糸	端部一部欠損	表面に付着土
477	1E13	SD	2372	I	土器片(フシ)	7.3	7.0	2.0	加勢による刃縁破損	完形	砥石部も使用、表面に使用による磨耗痕

石器・石製品観察表

報告No.	出土位置	遺物種類	遺物No.	部位	器種	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	欠損	保存状況	備考	
478	-1E14	SD	1	2	砥石	製品	凝灰質凝灰岩	6.1	3.8	2.3	80	半分欠損	上州産砥石		
479	2B223	SD	1	14	砥石	製品	凝灰岩	8.3	7.6	3.7	240		未使用		
	7C10	SD	443	1	砥石	製品	凝灰岩	4.9	2.9	4.3	68	25	先端部のみ	表・側面に砥面(2面)	
	13B14-2	SD	1984	1	砥石	製品	凝灰岩	6.4	2.1	1.5	24	50	破片	表面面に砥面	
	12C23	SX	1999	3	砥石	製品	凝灰岩	4.5	3.5	4.3	50	25	先端欠損	表面マンガン付着・砥粒痕あり	
480	12C10	SXS-P	2039	1	砥石	製品	凝灰岩	5.3	4.1	2.4	85				
481	20E5	SD	3538	2	砥石	製品	凝灰岩	7.7	2.8	1.2	35	100		砥粒、砥化物付着	
482	19D23	SD	3538	3	砥石	製品	凝灰岩	10.1	6.3	3	320	60		片断欠損	
483	19E8-2	P	3574	1	砥石	製品	凝灰岩	10.7	3.3	2.4	100	20	欠損	先端部裏に使用・側面に砥粒痕あり	
484	22E24	SE	3683	4	砥石	製品	凝灰岩	9.8	6.7	2.3	120	100	欠損	先端部浄後、裏に使用・表面に砥粒痕あり	
485	11C1				砥石	製品	凝灰岩	7	8.4	5.5	465	25	先端部のみ	表面に砥粒痕、先端部あり	
486	11C1				砥石	製品	凝灰岩	5.9	3.3	1.9	40	26	先端部のみ	表面に砥粒痕、先端部あり	
487	7D19	SD	442	1	砥石	自然産物	凝灰岩	10.3	9.9	5.7	456	100	欠損	断面部浄後、底として使用・断面部あり	
488	7C24	P	1089	1	砥石	自然産物	凝灰岩	16.4	5.5	3.2	210	100	欠損	二日月形破片の先端部を使用	
489	9C13	SE	1320	8	砥石	自然産物	凝灰岩	9.1	8.3	5.8	325	100	欠損	断面部浄後、底として使用・断面部あり	
490	12C8	SE	1996	7	砥石	自然産物	凝灰岩	10.1	9.8	6	490	100	欠損	断面部浄後底として使用・断面部あり	
491	14D7	SD	2422	1	砥石	自然産物	凝灰岩	6	5.5	2.5	81	20	欠損	表面に砥粒痕あり	
492	18E7	SD	3081	1	砥石	自然産物	凝灰岩	9.8	5.9	3.1	110	100	欠損	複製加工加工痕を残す	
493	18E7	SD	3081	1	砥石	自然産物	凝灰岩	10.7	4.2	3.6	190	100	欠損	複製加工加工痕を残す	
494	20C10-3	SE	3794	2	砥石	自然産物	凝灰岩	13.6	5.8	4.9	1500	100	欠損		
495	11D9	SD	1	V	砥石	自然産物	凝灰岩	11.2	4.7	3.8	194	60	先端部欠損	表面に砥粒痕、断面あり	
496	26F5	SD	1	13	砥石	自然産物	砂岩	10	6.4	5	620	25		断面部砥面	
497	9C13	SE	1320	2	砥石	自然産物	砂岩	16.2	13	12.4	2860	100	欠損	断面部浄後、石器部付着あり	
498	7D1	SD	537	1	砥石	自然産物	四稜岩	12.6	10.6	5.2	950	20	破片	断面部砥面、裏き痕	
499	8C1	SIS-P	1768	1	加工石	こらげ・割線・ハヅリ	砂岩	28.3	22.2	16.8	11000	100	欠損	断面に黒色付着物あり	
500	19D23	SD	3538	3	加工石	ハヅリ砥	凝灰岩	29.2	21.3	10	6800	100	欠損	表面にハヅリ痕、黒き痕あり	
501	70E1	SD		7b	加工石	ハヅリ砥	凝灰岩	26.5	19.6	4.9	2700	50	半分欠損	裏面に黒いあり・裏き痕あり	
502	19E	SD	1	3	加工石	ハヅリ砥	凝灰岩	31.1	11.6	5.2	1040	70	端部一部欠損	たつき痕	
503	80E-4	SIS2-P	906	1	加工石	ハヅリ砥	安山岩	18.9	11.2	11.7	2500	50	半分欠損	表面にハヅリ、カーボン付着	
504	12C9	SE	1997	19	加工石	ハヅリ砥	凝灰岩	17.2	12.5	7.9	1390	33		表面にハヅリ痕、黒き痕あり	
505	26E25	SE	4037	17	加工石	ハヅリ砥	凝灰岩	15.2	10.3	7.5	1450	60	片断欠損	裏方に黒き痕として使用・磨き痕あり	
506	19E15	SD	3576	2	加工石	割線砥	安山岩	18.8	16.8	8	2000	100	片断		
507	6E22	SIS-P	350	1	加工石	割線砥	凝灰岩	21.3	9.9	5.1	1500	100	欠損	片断面砥状	
508	5E12-3	SD	296	1	磨石		輝石	5.2	5.7	3.1	20	100	欠損	砥粒痕使用	
509	21C20-3	SK	4253	3	磨石		輝石	4.2	1.9	2	6	60	端部欠損		
509	9D11-2	SE	1249	11	砥石		凝灰岩	8.2	7.2	6	490	100		砥粒痕の可能性あり	
510	12E10-4	SD	1984	4	砥石		凝灰岩	9	7.4	3.7	335	100	欠損	表面に砥粒痕あり	
511	19D24	SD	3538	4	砥石		凝灰岩	8.7	8.6	5.5	530	100	欠損	表面に砥粒痕あり	
512	22E24	SE	3683	3	砥石		凝灰岩	9.7	8.1	6.2	580	100	欠損		
513	26F4	SD	4006	3	砥石		凝灰岩	10.3	6.8	5	262	100	欠損		
514	6D19			V	砥石		凝灰岩	10.6	9.7	5.9	480	50	破片	表面にハヅリ痕あり	
515	14E19				砥石		砂岩	32.4	11.2	8.8	4900	100	欠損	両面に砥粒痕、表面に磨痕	
516	18E11	SD	3538	4	使用時のあまる砥		砂岩	8.5	8.5	2.7	300			表面中央に黒色付着物	

鉄貨観察表

報告No.	出土位置	遺物種類	遺物No.	部位	出土機種	製造年	工期	表体	裏面	実水通貫 径(mm)	直径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
517	19C5-2	SK	4179	I	開元通寶乾元銭	621	唐	裏	表	2.8	0.7	21		7段が重なった状態で出土。芯のみが折れて、剥離できず、八角筒状。
518	6D2			7b	開元通寶	621	唐	裏	表	2.4	0.31	1		
519	6E8				淳化元宝	990	北宋	行唐	裏	2.5	0.1	1		
520	15C12				崇寧元宝	1004	北宋	高唐	裏	2.5	0.12	2		一部穿孔。欠損あり。
521	12B15				崇寧元宝	1034	北宋	高唐	裏	2.4	0.11	1		
522	13B9-2	SD	1984	I	寧宋通寶	1038	北宋	嘉善	裏	2.4	0.11	1		
523	6D14				治平元宝	1064	北宋	高唐	裏	2.4	0.1	1		表面のみが折れている
524	11B6				熙寧元宝	1068	北宋	高唐	裏	2.4	0.14	2		
525	6C24				元祐通寶	1078	北宋	行唐	裏	2.4	0.11	1		
526	20C20				元祐通寶	1066	北宋	嘉善	裏	2.4	0.13	1		
527	5C23				元祐通寶	1068	明	高唐	裏	2.2	0.17	2		
528	25D11			7b	寶水通寶	1636			裏	1	2.5	0.15	4	1面の欠損あり。
529	11E4				寶水通寶	1668			裏	2	2.5	0.13	3	裏に「文」の文字あり。
530	4E21				寶水通寶	1821			裏	3	2.7	0.1	1	裏に文様あり。一部欠損。芯のみあり。両端欠損であるがやがやみも磨びている。
531	14E13				元祐一分貨	1695			裏	1.35	0.21	4.46		

遺物観察表 (10)

金属製品観察表

発出%	出土位置	遺物種類	遺跡%	単位	種類	分類	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存状況	備考
532	409			個	小刀	刃部	銅鉄	12.3	1.8	0.7	29	跡の一部、非刃部	
533	24023			片	刀子	刃部	銅鉄	7.5	1.2	0.7	9	跡、非刃部	
534	8D19	SD1-P	3094	1	小刀	茎	銅鉄	11.5	2.7	3.3	65	刃部のみ	
535	8D1	SD	674	1	小刀	刃部	銅鉄	6.2	2.5	2	34	茎部のみ	
536	20824			個	小刀	茎	銅鉄	11.3	2.6	1.3	101	刃部のみ	
537	9C4			個	小刀	茎	銅鉄	5.7	2.5	0.7	11	茎部のみ	箱了
538	5D3			個	刀		銅鉄	6.5	1.2	0.7	10	先端部～柄部欠損	
539	12C12			個	棒状銅製品		銅鉄	11.7	1.5	0.8	29	刃部	工具、鑄造に刃部未形成
540	13R25			片	棒状銅製品		銅鉄	9	1.3	1.1	10	先端部欠損	工具、鑄造に刃部未形成、No.539と同じ形質
541	23D14			個	物筥		銅鉄	6.2	1.3	0.8	8	基部欠損	
542	4D12			個	鎌		銅鉄	7.7	6	1.3	15	根元～基部の一部欠	
543	9E7			個	道具		銅鉄	9	6.5	2.5	61	棒一部分欠損	鑄造、立かて成形、磨
544	-1E18			個	鎌	把手	銅鉄	5.3	4	1.2	26	把手の一部	
545	10C5			個	刀		銅鉄	16	4	2.5	122	刃部	
546	11C4			個	キセル	筒管	銅	6	2.2	1.3	9	刃部	
547	10B24	SK	3181	1	キセル	筒口	銅	5.3	1	1	5	刃部	
548	20B20			1	キセル	筒管	銅	4.5	2.3	1.2	9	刃部	
549	12D17			個	銅風	キセル	銅	5.2	1.3	1.3	11	刃部	

製鉄・鍛冶関係遺物観察表 (1)

発出%	出土位置	遺物種類	遺跡%	単位	種類	分類	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	発出状況	備考
550	8C19	SK	1780	4	製鉄炉	伊勢性製塊?		2.8	3	2.1	38	塊	
551	8B15	SK	540	1	製鉄炉	マグネサイト系遺物		4.9	4.1	2.2	66	塊	
552	7D9	SK	453	18	製鉄炉	マグネサイト系遺物		2.5	1.7	1	5	塊	
553	8C10	SD	675	1	製鉄炉	マグネサイト系遺物		3	1.8	1.3	19	塊	
554	9C15	SK	1320	2	製鉄炉	マグネサイト系遺物		2.2	2	2	11	塊	
555	13B11	SD	1984	2	製鉄炉	マグネサイト系遺物		2	1.5	1.7	5	塊	
556	13R20	SD	1984	1	製鉄炉	マグネサイト系遺物		3	2.3	1.5	11	塊	
557	12C11	SE	1998	11	製鉄炉	炉内炉		8.9	11.8	5.2	512	塊	
558	8D15	SK	1788	3	製鉄炉	炉内炉		4	3.2	3	66	塊	
559	11E1			個	製鉄炉	炉内炉		3.7	3	2.7	35	塊	
560	12C11	SE	1998	11	製鉄炉	炉内炉		6	6.2	6.3	352	塊	
561	2P20	SD	1	3	製鉄炉	炉内炉		10.1	10.2	5.1	441	なし	
562	9C2			不明	製鉄炉	炭出炉		5.5	3.1	3.4	74	塊	
563	6C10	SD	537	1	製鉄炉	台鉄炭炉		3.1	2	1.2	10	塊	
564	8D13	SD1-P	1497	1	製鉄炉	台鉄炭炉		2.2	2.1	2.1	13	塊	
565	8D9	片		個	製鉄炉	台鉄炭炉		3.5	3	2	18	塊	
566	-1F11	片		個	製鉄炉			5.3	4.5	4	118	塊	
567	17B13			個	製鉄炉			3.7	3.5	3.3	66	塊	
568	14B4			個	製鉄炉	炭床系遺物		1.5	1.2	0.7	3	塊	
569	9D19			個	製鉄炉	炭床系遺物		2.2	1.3	1	5	塊	同一
570	8D13	SD1-P	1497	1	鍛冶炉			1.8	1.2	0.7	3	なし	
571	8D15	SE	1788	2	鍛冶炉			1	0.8	0.5	3	なし	
572	8D19	SK	1786	6	製塊又は鍛冶炉	製塊(炉内) または製塊鍛冶炉		3.5	3	2.3	29	塊	
573	8D3	SD1-P	848	1	製塊又は鍛冶炉	製塊(炉内) または製塊鍛冶炉		5.2	4.7	2.6	101	なし	
574	12C4	P	2205	1	鍛冶炉			2	1.8	1.7	5	なし	
575	12C4	P	2205	1	鍛冶炉			2.3	1.5	1.5	8	なし	
576	12C4	P	2205	1	鍛冶炉			2	1.8	1.3	5	なし	
577	12C4	P	2205	1	鍛冶炉			1.5	1	0.8	1	なし	
578	12C11	SE	1998	14	製塊又は鍛冶炉	製塊(炉内) または製塊鍛冶炉		12.4	9.4	4.1	452	塊	
579	12B6	SD	1984	2	製塊又は鍛冶炉	製塊(炉内) または製塊鍛冶炉		4.8	3.2	2.4	30	塊	
580	4D15			個	鍛冶炉	輪形鍛冶炉		5	3	2.2	32	塊	
581	13B6			個	鍛冶炉	輪形炉		3	3	1.5	22	塊	破片
582	14B3			個	鍛冶炉	輪形炉		5.2	4.5	3.2	72	塊	
583	21C20			個	鍛冶炉	輪形炉		2	2.5	2.5	25	塊	破片
584	13B25	SD	2394	1	鍛冶炉	鍛冶炉(炉内スズ)		2.2	1.7	1.1	9	なし	
585	14C17	P	2466	1	鍛冶炉	ガラス製炉		3.8	2.6	2.7	30	なし	
586	14C7	片		個	鍛冶炉	ガラス製炉		3	2	1.8	15	なし	
587	9D17	V		個	鍛冶鉄片			2.5	1.8	1.2	6	塊	同一
588	24E15			1	鍛冶鉄片			4.7	3.5	0.9	29	塊	
589	13B11	SD	1984	2	鍛冶炉			2.8	2.5	1.5	8	なし	
590	21C9	P	3849	1	鍛冶炉			1.7	1	0.7	3	なし	
591	14B9			片	鍛冶炉			3.5	2	2.6	22.5	塊	
592	14B9			片	鍛冶炉			3	2.2	2.3	16	塊	
593	21D25	SE	3661	1	炉室			3	1.9	1	5	なし	破片
594	2C3			片	炉室			4.5	4.4	2.5	25	なし	破片
595	21D25	SE	3661	1	炉室			2.5	1.5	1.5	5	なし	破片
596	12B7	SD	2061	1	フイゴ部口			6.5	4.1	2.4	49	なし	破片
597	9B8			片	フイゴ部口			6	3.5	2	28	なし	先端部
598	-E10-3			片	フイゴ部口			4.5	3.5	2.5	40	なし	
599	12C20			個	フイゴ部口			4	2.7	1.8	15	なし	先端部破片
600	15B11			個	フイゴ部口			5.5	4.5	2.7	62	なし	
601	6B3			不明	鉄片			1.2	2.2	1.6	9	なし	
602	9D19			個	鉄片			1.2	1	0.8	1	塊	
603	9B2			片	鉄片			2.5	2.2	2.2	14	塊	
604	9B2			個	鉄片			2.7	2	2	11	塊	
605	9B2			個	鉄片			2	2	1.8	5	塊	

製鉄・鍛冶関係遺物観察表 (2)

番号%	出土位置	遺物種類	遺跡%	階位	種類	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	組織状況	保存状況	備考
10D1				9b	鉄片		4.6	4.1	2	67	他		
13C1-2				II	鉄片		2.2	2	1.2	3	他		
13C1-2				II	鉄片		1.2	1.3	1	3	他		
13C22				9b	鉄片		2.5	2	1.3	4	他		
13C22				9b	鉄片		2	1.3	1	1	他		
13C22				9b	鉄片		1.7	1.2	1	2	女し		
13C22				9b	鉄片		1.5	0.8	1	1	男		
13C22				9b	鉄片		1	0.7	0.3	1	男		
13C22				9b	鉄片		1.2	1	0.7	1	他		
13D				9a	鉄片		2.2	2.8	1.2	6	他		
14B4				II	鉄片		3	2	1	9	男		
14B9				9b	鉄片		1	0.5	0.5	1	他		
14B9				9b	鉄片		1	0.6	0.2	1	他		
14B9				9b	鉄片		1	0.6	0.2	1	他		
14B9				9b	鉄片		0.9	0.5	0.2	1	男		
14B9				9b	鉄片		1	0.7	0.7	1	他		
15B14				II	鉄片		2.5	2	2	9	他		
15C12				II	鉄片		3.2	3	1.7	16	不明		
15D19				9b	鉄片		2.6	2.3	1.8	21	不明	表面摩滅	
15E10				II	鉄片		2.7	1.7	1.7	5	女し		
16B7				II	鉄片		2.7	2.6	1.5	10	他		
16B7				II	鉄片		1.7	2.3	1.4	10	他		
16B7				II	鉄片		2.7	1.7	1	6	他		
16B7				II	鉄片		2.2	1.6	1.6	7	他		
16B7				II	鉄片		2.5	1.2	1.3	6	他		
16B7				II	鉄片		2	1.7	0.7	2	他		
16B7				II	鉄片		1.5	1	0.5	1	他		
16B7				II	鉄片		0.8	0.6	0.4	1	他		
16B7				II	鉄片		1	1	0.3	1	他		
16B7				II	鉄片		0.6	0.4	0.3	1	他		
16B7				II	鉄片		0.5	0.4	0.2	1	他		
16D2				1b	鉄片		1.2	1.2	0.8	2	女し		
16D2				1b	鉄片		1	1	0.5	2	女し		
20C4				9b	鉄片		2.3	1.8	1.2	4	他		
21C20				III	鉄片		2.3	2	1.5	10	他		
21C20				III	鉄片		2.3	2.3	1.5	13	他		
21C20				III	鉄片		2.2	2	1.7	5	他		
21C20				III	鉄片		2.3	1.7	1	3	他		
21C20				III	鉄片		2	1.5	1.5	5	他		
21C20				III	鉄片		2.5	1.2	1.2	3	他		
21C20				III	鉄片		1.8	1.3	1.3	5	他		
21C20				III	鉄片		1.5	1.2	1.2	2	他		
21C20				III	鉄片		2	1.2	1.2	2	他		
21C20				III	鉄片		1.7	1	1	1.5	他		
21C20				III	鉄片		1.2	1	0.6	1	他		
21C20				III	鉄片		0.6	0.8	0.4	1	女し		
21C20				III	鉄片		0.8	0.5	0.4	0.5	他		
21C20				III	鉄片		0.9	0.5	0.6	0.5	他		
21C20				III	鉄片		0.6	0.5	0.3	0.5	他		
21C20				III	鉄片		0.7	0.5	0.3	0.5	他		
21C20				III	鉄片		0.6	0.3	0.3	0.5	他		
21C20				III	鉄片		0.6	0.5	0.3	0.5	他		
21C20				III	鉄片		0.7	0.5	0.3	0.5	他		
23E14				I	鉄片		2.8	1.3	1.3	5	女し		

漆製品観察表

番号%	グロット	遺物	器種	口径	器高	直径	外面色調	内面色調	調性・文様	備考 (cm)
565	7D9	SK-453	皿	15.4	5.4	7.5	7.5YR2/2濃濁		体下昇平行沈線文3条、高台あり	
566	8D9	SK-453	小皿か				10YR2/2濃濁	7.5YR1.7/1底		長さ3.1、幅3
567	8D9	SK-456	小皿	8.8			2.5YR1.7/1赤澁			
568	8D9	SK-456	小皿 (566と同一個体か)				2.5YR1.7/1赤澁			長さ5.6、幅4.8
569	8D9	SK-456	小皿 (566と同一個体か)				2.5YR1.7/1赤澁			長さ5.0、幅4.8
570	8D9	SK-456	小皿 (566と同一個体か)				2.5YR1.7/1赤澁			長さ5.0、幅4.5
571	8D9	SK-456	小皿 (566と同一個体か)				2.5YR1.7/1赤澁			長さ5.8、幅4.8
572	8D9	SK-456	小皿 (566と同一個体か)				2.5YR1.7/1赤澁			長さ5.5、幅3.2
573	8D9	SK-456	小皿 (566と同一個体か)				2.5YR1.7/1赤澁			長さ1.1、幅1
574	8D9	SK-456	皿	16.9				2.5YR1.7/1赤澁		
575	8D9	SK-456	小皿	9.4				2.5YR1.7/1赤澁		
576	8D9	SK-456	小皿					2.5YR1.7/1赤澁		
577	8D9	SK-456	小皿	8.6	1.5	6.6	10R1.7/1赤澁			長さ2.3、幅1.4
578	8D9	SK-456	小皿	7.6	1.6	4.9	5YR1.7/1底			
579	8D9	SK-456	皿か				2.5YR1.7/1赤澁			長さ3.1、幅2.4
580	13B25	SK-2732-4	皿	13.3				2.5YR2/1赤澁	高台あり	
581	13B25	SK-2732-4	皿	14.0				7.5YR1.7/1底	高台あり	
582	13B25	SK-2732	不明				2.5YR2/1赤澁	2.5YR2/1赤澁		

建物観察表(12)

木製品成品・加工材観察表

報告No.	商品位置	建具種別	規格No.	部位	仕様	分類	前種	本取り	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	炭化	酸化	湿度	選育状況	風化	備考
583	719	SK	453	14	板	楕圓(上)	ス枠	板目	58.2	2.1	0.3				縦目		先端部に加工、楕圓状
	1F4	SD	1	7d	加工のある木片	丸形状	—	—	14.9	2.7	2.9						一部分欠損、3分箇
	3E16	SD	1	5	板	—	—	—	25.2	5	0.7						縦目、3分箇うち2分箇あり
	3E22	SD	1	7b	板	—	—	—	4.1	6.4	0.5						縦目、2分箇
	4I21	SD	28	1	加工材	—	—	—	9.2	3.9	3.1						縦目
584	719	SK	453	14	板	楕圓(下)	ス枠	板目	66.6	1.8	0.3						縦目
585	9H24	SE	1222	7	板	—	—	—	11	34.5	0.7						楕圓の一部を欠損
	8I06	P	849	1	加工材	角材	—	—	7.4	1.4	0.9						完全
586	20C10	SE	3794	1	板	ス枠	板目	53	13.4	1							上部端部食
587	20C9	SE	3794	6	板	ス枠	板目	25.4	6.9	0.7							楕圓の一部を欠損
12C9	SE	1997	19	加工のある木片	—	—	偏平型	21.8	4.5	1.8				○	完全		楕圓縁使用、先端部欠損・末端部形状加工、表面に輪象痕
12C9	SE	1997	19	加工のある木片	—	—	—	14.5	3.7	2.1							完全
12C9	SE	1997	19	加工のある木片	—	—	—	—	3.9	1.6	1.2						表面風化
12C9	SE	1997	19	加工材	—	—	側出し	7.9	2.5	0.5							完全
12C9	SE	1997	19	側片	—	—	(側出し)	44.2	9.7	0.8						表面○	完全
12C11	SE	1998	10	加工材	不定期	—	芯持丸木	14.7	9	0.8							表面一部
13C11	SE	1998	14	加工のある木片	不定期	—	芯持丸木	34.4	12.5	1.9							
13H18	SD	1984	1	加工のある木片	不定期	—	平物	7.1	1.4	0.5							
13H18	SD	1984	1	加工のある木片	不定期	—	芯持丸木	6.7	1.2	0.6						表面○	表面風化
17H11	F	3236	1	板	—	—	ス枠	板目	21.4	6.2	0.9						
19I23	SD	3538	4	加工材	—	—	—	22.5	2.9	2.7							
588	20C9	SE	3794	6	板	ス枠	板目	15.2	6.8	0.4							
589	22E24	SK	3683	7	板	ス枠	板目	7.8	7.9	1.7							
590	20C9	SE	3794	7	遺物	楕圓	ス枠	板目	27.9	12.7	0.6						
591	21B1	SE	4375	3	遺物	楕圓	ス枠	板目	16.7	4	0.7						
592	27F24	SD	14	遺物	楕圓	ス枠	板目	27.9	6.7	1.1							
593	20C9	SE	3794	7	骨	ス枠	側出し	21.7	0.7	0.8							
594	20C9	SE	3794	6	骨	ス枠	側出し	11.2	0.7	0.4							
21B1	SE	4375	5	骨	—	—	側出し	17	1.7	0.3							
21B1	SE	4375	6	加工のある木片	—	—	芯持丸木	14.9	2.6	1.7						表面一部	表面風化
21B1	SE	4375	4	板	—	—	板目	12	2.7	0.2							
21B1	SE	4375	5	板	—	—	板目	9.2	2.1	0.2							
595	22E24	SK	3683	7	前	—	芯持丸木	31.7	2.2	1.8							
22E24	SK	3683	7	側片	—	—	(板目)	26.6	2.6	0.7							
22E24	SK	3683	7	側片	—	—	(板目)	22.5	1.8	0.4							
596	9H24	SE	1222	14	棟柱本製品	アスチロ	側出し	28.9	1	0.9							
22E24	SK	3683	7	側片	—	—	(板目板目)	11.6	3.5	0.7							
597	20E28	SE	4037	—	棟柱本製品	ス枠	側出し	7.3	1.1	1							
22E24	SK	3683	7	加工材	三角材	—	板目	7	3.1	1.1							
598	1F6	SD	1	7d	棟柱本製品	ス枠	側出し	13.7	1.6	1.1							
599	26I23	SE	3938	6	棟柱本製品	クワ	板目	15.3	3.9	1.3							
600	26I23	SE	3938	5	棟柱本製品	アスチロ	板目	15.4	2.3	0.6							
601	26I23	SE	3938	5	棟柱本製品	アスチロ	板目	17.5	2.7	0.8							
602	26E26	SE	4037	13	棟柱本製品	ス枠	板目	24.7	1.5	0.2							
26I23	SE	3938	5	棟柱本製品	角材	—	板目	17.4	2	1.3							
20I23	SE	3938	6	棟柱本製品	角材	—	側出し	15.0	1.2	0.3							
26I23	SE	3938	5	棟柱本製品	—	—	側出し	10.2	0.6	0.2							
26I23	SE	3938	5	加工材	三角材	—	側出し	9.7	0.9	0.4							
26I23	SE	3938	5	側片	—	—	(板目)	9.5	2.2	1.1							
20I23	SE	3938	5	加工材	三角材	—	側出し	8.6	1.2	0.7							
26I23	SE	3938	5	棟柱本製品	角材	—	板目	6	1.9	0.8							
26I23	SE	3938	5	棟柱本製品	角材	—	側出し	5.9	1	0.6							
603	26I17	SE	3938	5	不定期本製品	ス枠	板目	7	2.1	0.8							
604	28F1	SD	1	加工材	ガンノキ遺物	芯持丸木	—	—	45.3	34.5	19.2						
605	26E26	SE	4037	—	加工材	紙	クワ	芯持丸木	17.3	5.5	4.3						
606	26E26	SE	4037	18	加工材	紙	クワ	芯持丸木	20.4	6	4.7						
26E26	SE	4037	—	棟柱本製品	角材	—	板目	10	2.5	0.8							
27I21	SK	3936	5	加工のある木片	棟柱	—	—	—	12.7	3.5	1.9						
27I21	SK	3936	5	加工材	棟柱	—	—	—	12.7	2.5	1.4						
607	28F1	SD	1	14	加工材	紙	クワ	4カン銀口	22.5	8.6	5.6						
28E21	SK	4006	5	加工材	角材	—	側出し	25	3.3	2.5							
28E21	SK	4006	5	加工材	角材	—	芯持丸木	21.9	2	1.6							
28E22	SK	4006	6	加工材	三角材	—	側出し	27.8	7.8	2.0							
608	22E24	SK	3683	7	側片	ス枠	板目	13.1	5.8	0.7							
609	22E24	SK	3683	7	側片	ス枠	(板目)	12.5	4.6	0.9							

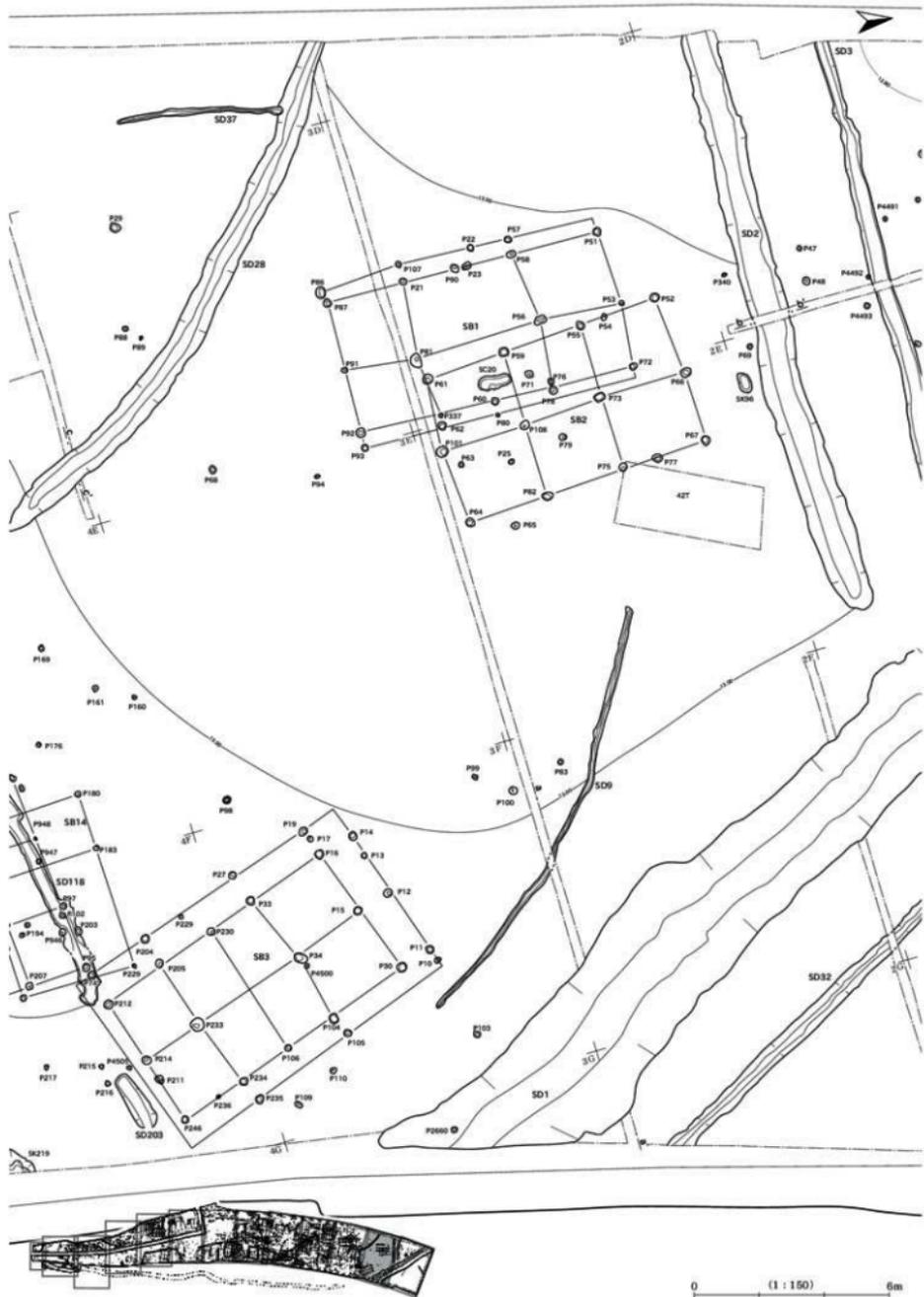
柱根観察表

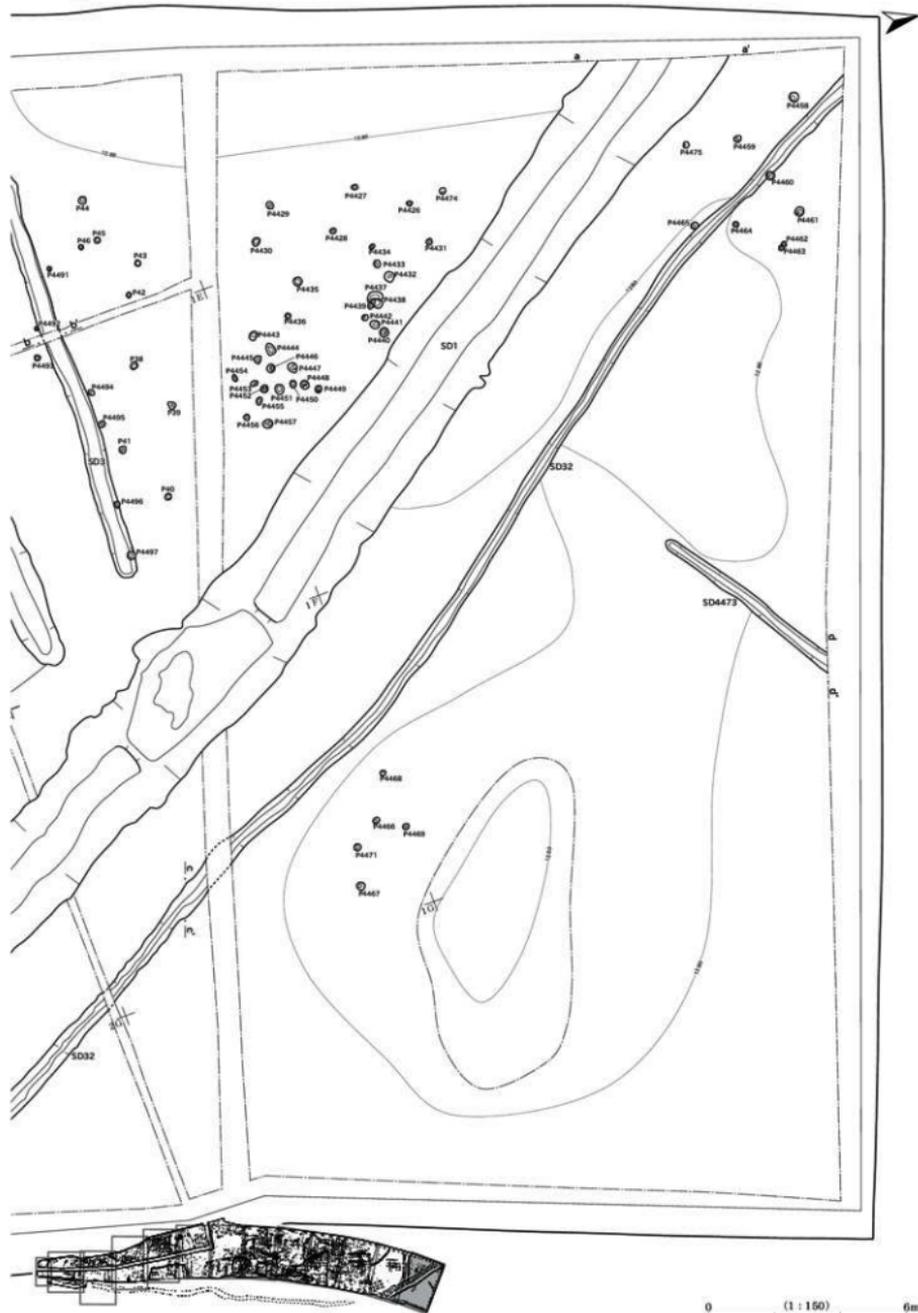
番号	出土位置	SH	遺構種類	遺構No	階位	種類	材料	木取り	長さ (cm)	太さ (cm)	厚さ (cm)	穴径	断面形状	変化	断面	備考
610	BC24	5	P	1761	1	柱根	クワ	芯持丸本	51.4	9.0	8.0	0.34	平形断面			
611	SD5		P	900		柱根	クワ	芯持丸本	34.8	11.7	7.8	0.29	平形断面			
612	15D1	38	P	3336	1	柱根	クワ	芯持丸本	42.0	9.9	8.1	0.28	平形断面			
613	BD5		P	1790		柱根	クワ	ミカン割り	68.1	13.2	9.3	0.24	逆三角形(正面)			
614	SD6	7	P	278	1	柱根	スサ	板目	45.2	9.9	7.8	0.83	逆三角形			
615	BD25		P	803		柱根	イヌスエジメ	芯持丸本	41.4	8.7	8.1	0.78	逆三角形			
616	11D2		P	2629		柱根	クワ	芯持丸本	38.2	9.0	9.3	1.068	偏逆三角形			
617	14C20		P	3729		柱根	クワ	芯持丸本	49.8	8.4	8.0	0.85				○ (反位)
618	20D24	53	P	4489	1	柱根	クワ	芯持丸本	42.0	8.4	8.1	0.63	偏逆三角形			
619	3G3	SD1	P	2660	1	柱根	クワ	板目	102.0	13.8	7.5	2.57	尖頭形(正面)	○		
620	26F7	SD1	P	4025	1	柱根	クワ	ミカン割り	94.2	10.8	9.6	1.93	尖頭形(正面)	○		
621	26F2	SD1	P	4034	1	柱根	クワ	板目	83.4	12.0	4.8	2.22	尖頭形(正面)	○		
622	26F2	SD1	P	4026	1	柱根	クワ	板目	93.6	13.8	5.4	2.79	尖頭形(正面)	○		
623	26F7	SD1	P	4027	1	柱根	クワ	板目	106.4	15.0	5.6	3.43	尖頭形(正面)	○		
624	26F9	SD1	P	4028	1	柱根	クワ	板目	37.5	7.5	2.1	2.64	尖頭形(正面)			
625	12C16		P	2704		柱根	クワ	隙間丸本?	23.6	12.3	8.3	1.56	逆三角形			
626	6E10		P	601		柱根	エゾノキ属	芯持丸本	29.4	9.3	6.6	0.96	偏逆三角形			
627	15C16	38	P	3286	1	柱根	クワ	芯持丸本	44.7	10.6	8.7	-	-			
628	8D4		P	458		柱根	クワ	芯持丸本	20.6	14.6	10.6	-	-	不明		
629	12C8		P	2236		柱根	クワ	芯持丸本	23.9	14.1	12.8	-	-	不明		
630	4E24	6	P	190	1	礎石	舟エ字属	芯持丸本	20.3	9.7	3.3	-	-	-		一部破壊
	27F24		SD	1		柱根	-	-	37.5	7.8	2.9	-	-	-		
	4D25	7	P	390	1	柱根	スサ	隙間丸本	21.3	8.4	4.5	-	-	-		
	9D1		P	469		柱根	クワ	芯持丸本	24.0	8.7	6.4	-	-	-		
	6D22	18	P	510	1	柱根	サクラ属	芯持丸本	20.4	5.5	4.7	-	-	-		
	6D15	20	P	504	1	柱根	モクレン属	芯持丸本	28.0	5.0	2.4	-	-	-		
	6E7	18	P	579	1	柱根	-	-	15.0	8.2	5.1	-	-	-		
	6E1	18	P	584	1	柱根	-	-	16.5	7.1	4.3	-	-	-		
	8C25		P	683		柱根	クワ	芯持丸本	24.3	7.3	5.3	-	-	-		
	8C23	5	P	686・ 1782	1	柱根	クワ	芯持丸本	22.8	9.0	6.5	-	-	-		
	6E2	18	P	710	1	柱根	-	-	11.5	4.8	2.6	-	-	-		
	8C25		P	929		柱根	-	-	12.7	8.5	3.4	-	-	-		
	8D5		P	966		柱根	コナラ属	芯持丸本	30.3	5.5	4.5	-	-	-		
	11D24		P	2008		柱根	クワ	芯持丸本	24.7	10.5	7.9	-	-	-		2点 同一個体
	7D0		P	2027		柱根	クワ	芯持丸本	27.5	10.5	6.9	-	-	-		
	12E7		P	2096		柱根	クワ	芯持丸本	11.2	7.7	7.5	-	-	-		2点 同一個体
	12B22		P	2172		柱根	-	-	15.0	10.2	4.1	-	-	-		
	12C8		P	2236		柱根	クワ	隙間	35.3	8.6	6.4	-	-	-		2点 同一個体
	12D12		P	2353		柱根	クワ	隙間丸本	34.7	9.6	6.2	-	-	-		
	13D23		P	2428		柱根	スサ	隙間	24.8	11.0	5.5	-	-	-		
	14C21		P	2482		柱根	クワ	芯持丸本	21.1	7.1	6.2	-	-	-		
	12E6		P	2851		柱根	-	-	9.8	3.5	1.1	-	-	-		
	13E22		P	2938		柱根	-	-	8.2	9.2	3.5	-	-	-		
	13C23	40	P	3122	1	柱根	クワ	芯持丸本	16.5	4.5	4.1	-	-	-		縦目 5分目
	15C13		P	3288		柱根	-	-	15.0	4.8	2.4	-	-	-		
	15D2	38	P	3335	1	柱根	クワ	芯持丸本	27.7	10.0	8.0	-	-	-		
	14D4	38	P	3337	1	柱根	クワ	芯持丸本	19.7	9.4	8.0	-	-	-		
	20B22		P	3503		柱根	-	-	16.8	4.0	2.7	-	-	-		
	26F9		P	4026		柱根	-	-	28.0	4.9	2.4	-	-	-		板状
	18E17		P	4194		柱根	-	-	20.1	4.1	2.0	-	-	-		
	9E25	27	P	4623	1	柱根	クワ	芯持丸本	32.6	9.0	7.7	-	-	-		

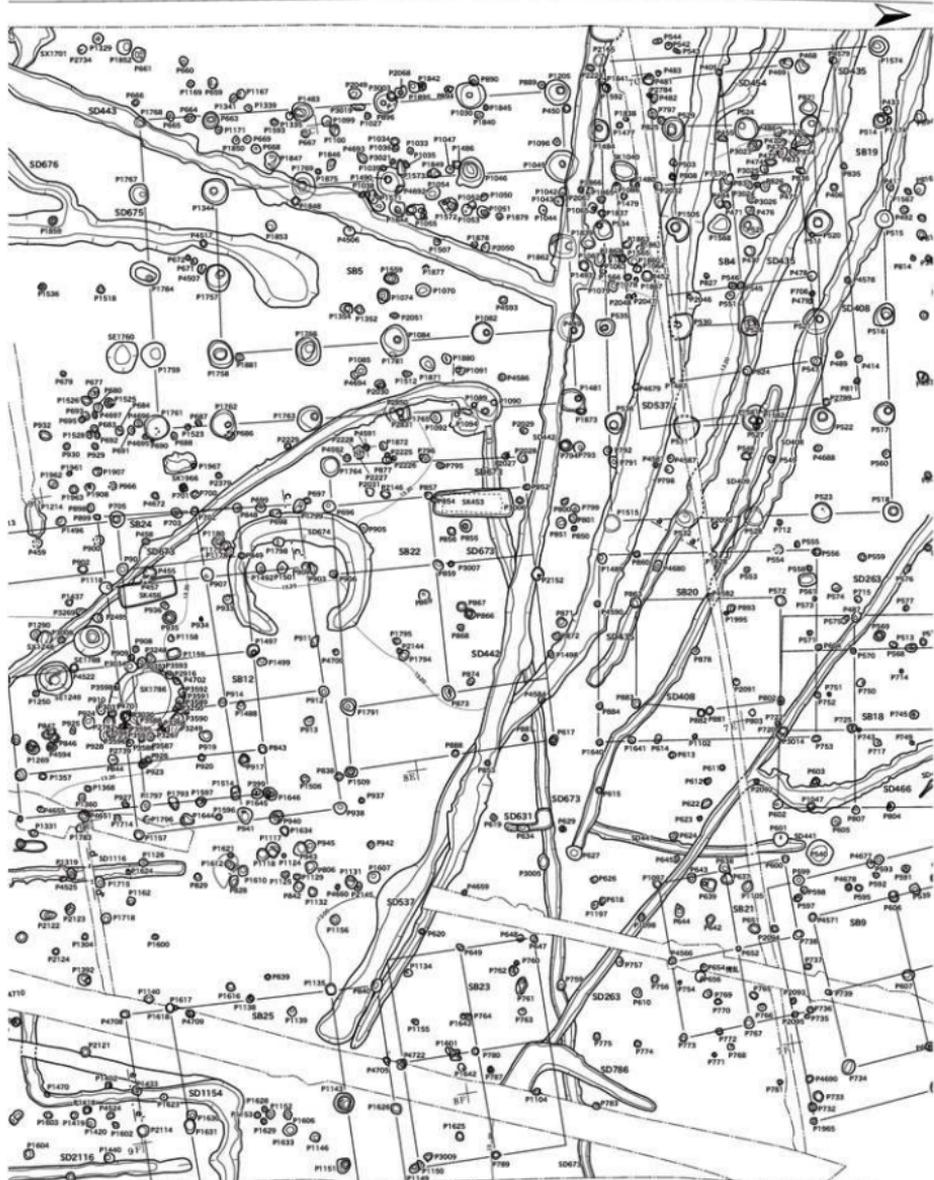
图 版



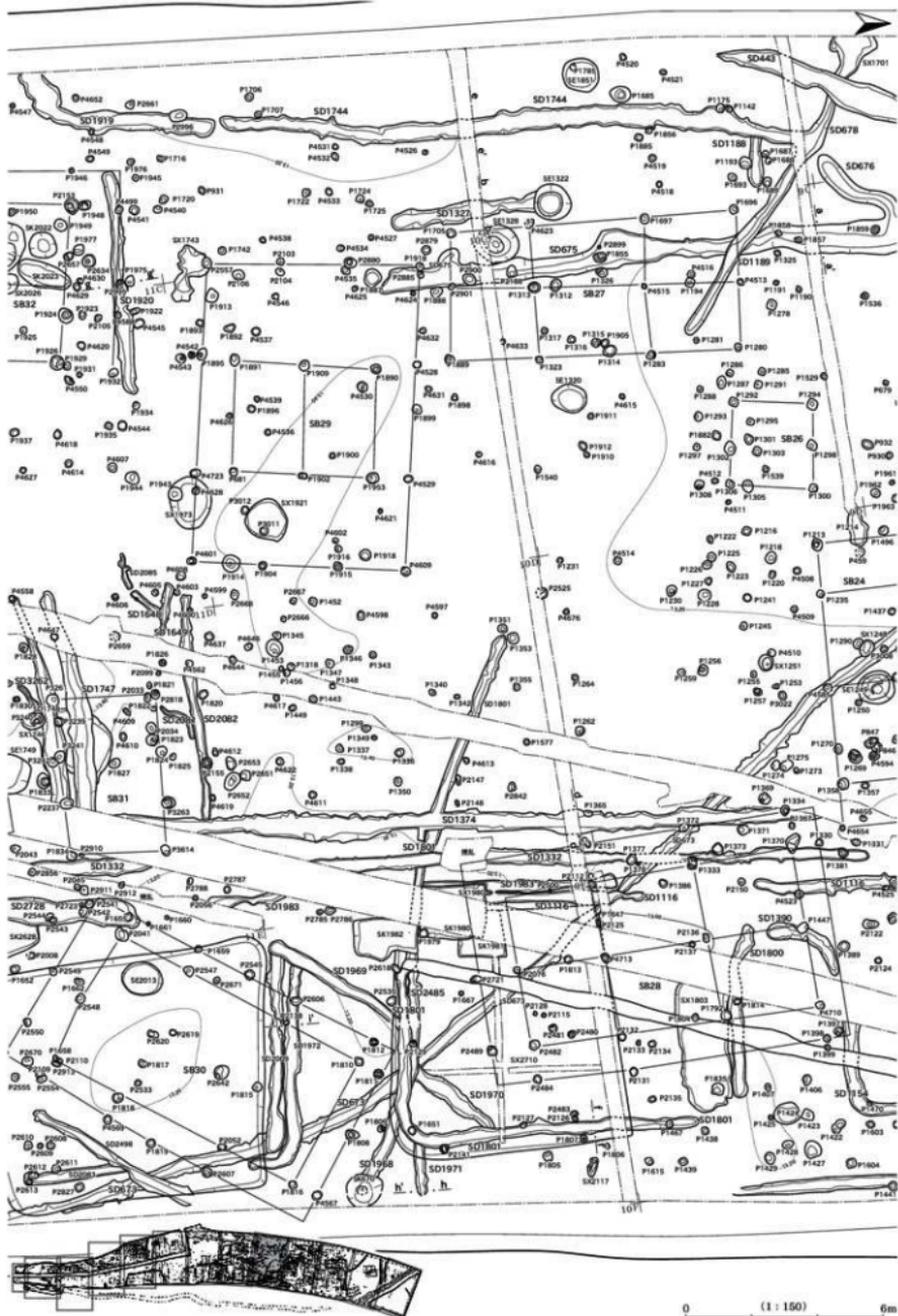




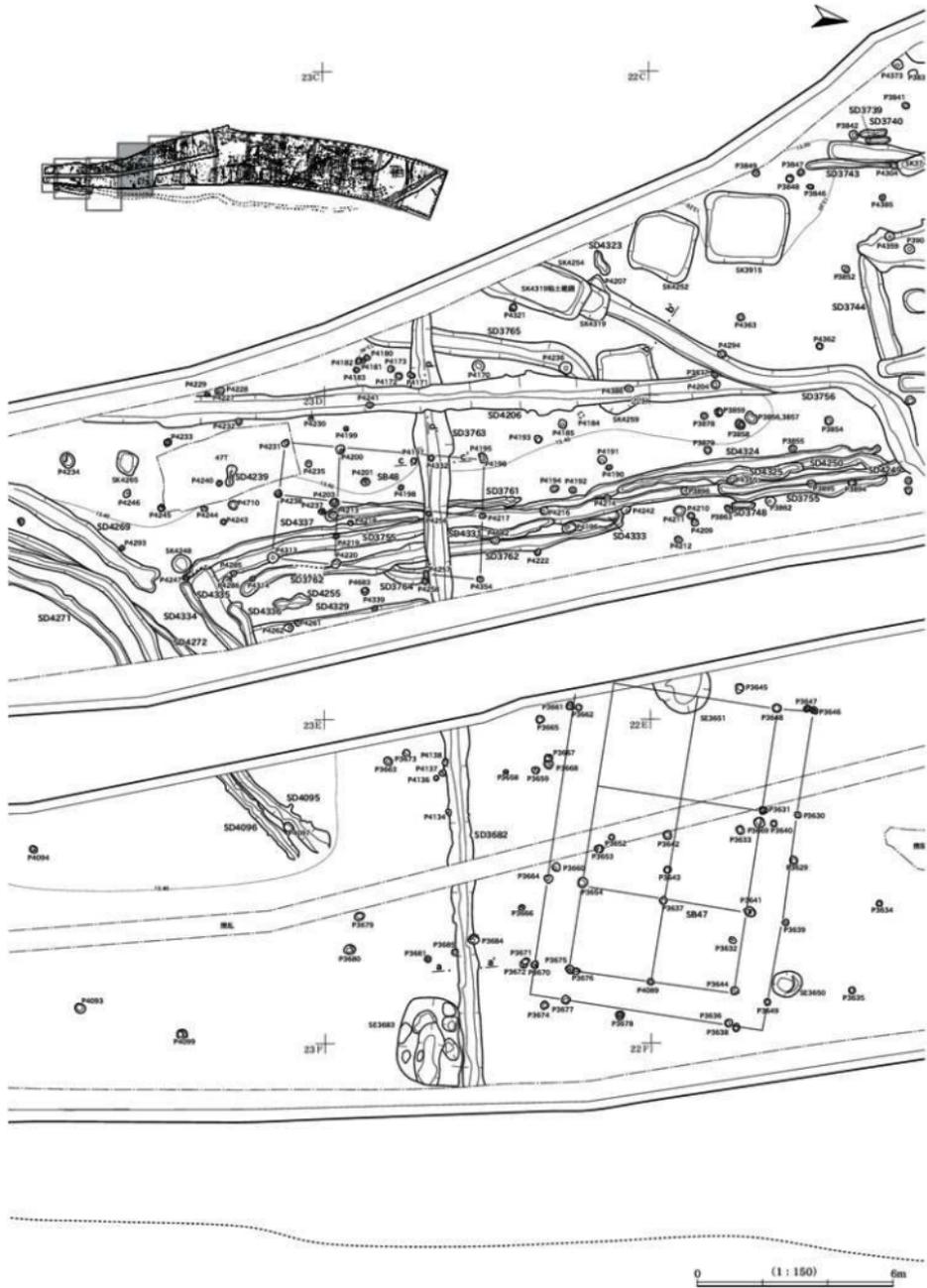


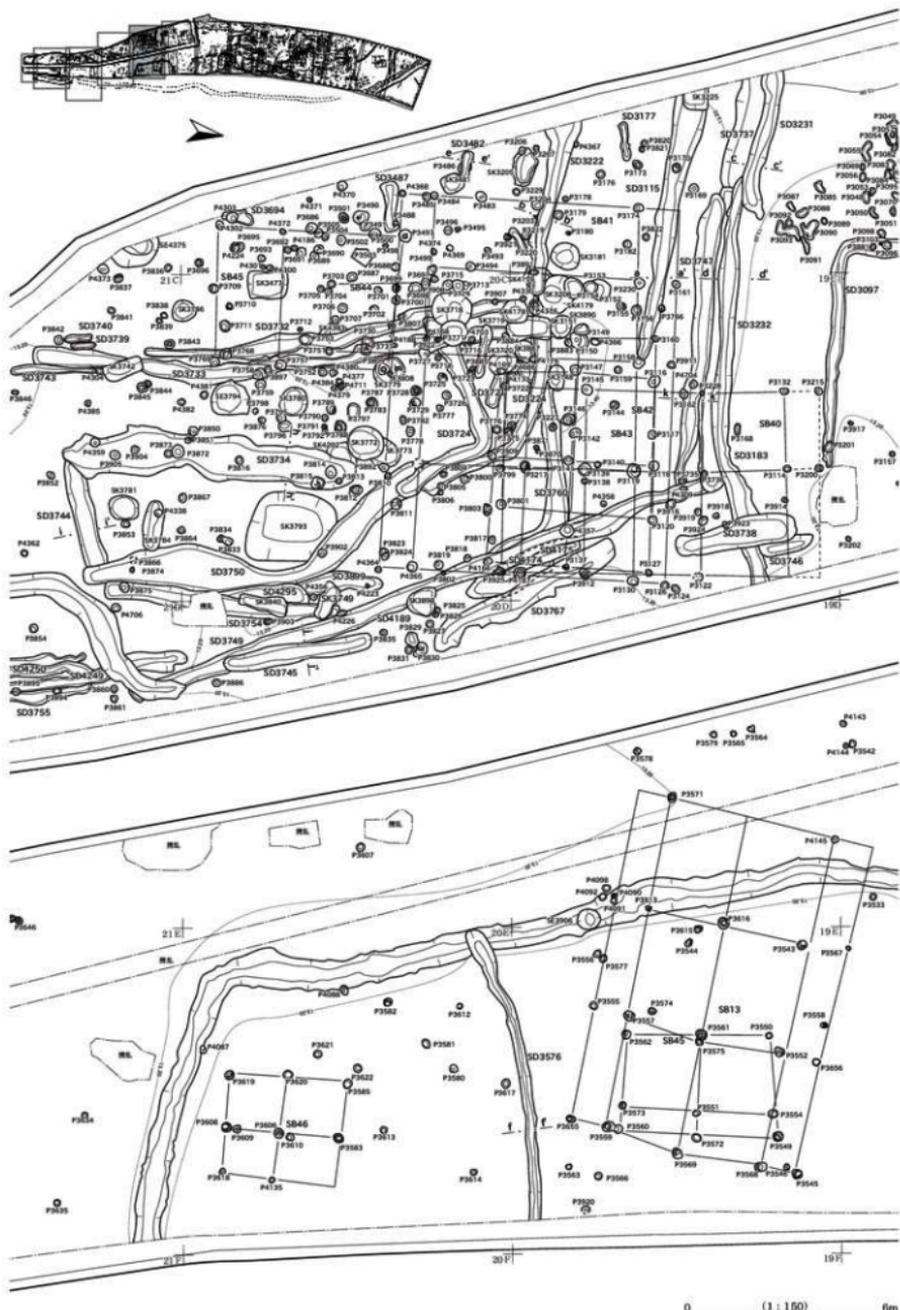


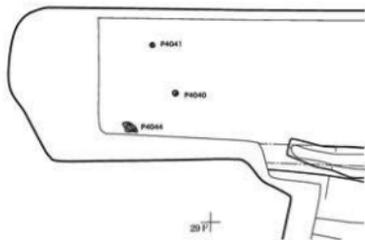
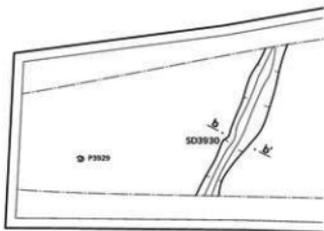
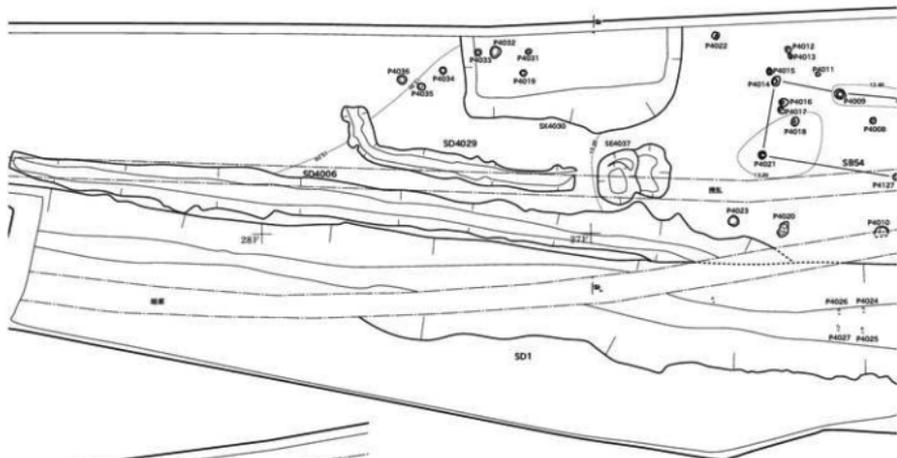
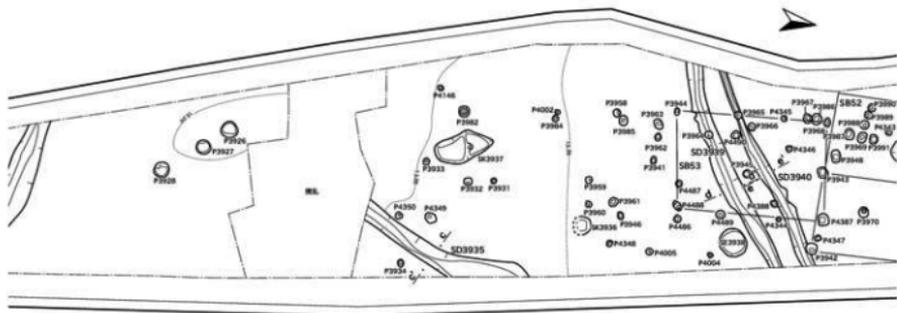


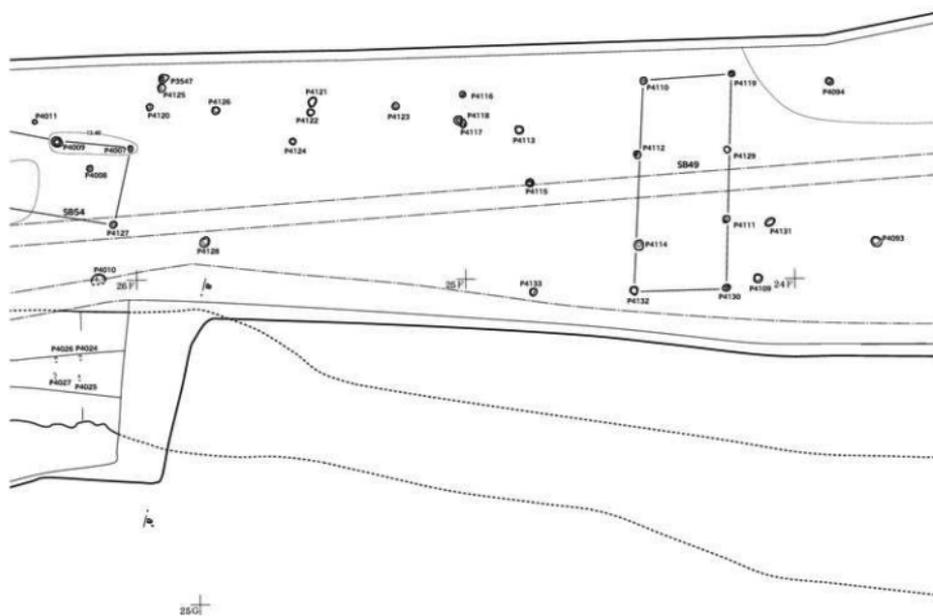
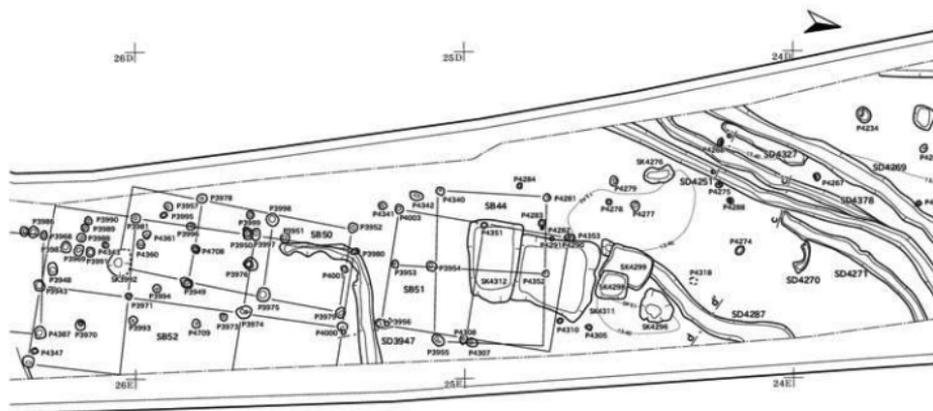




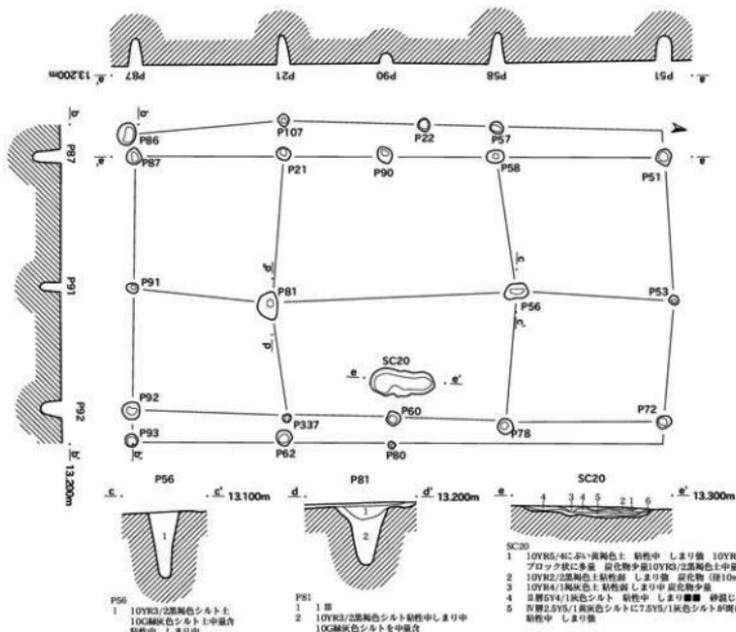




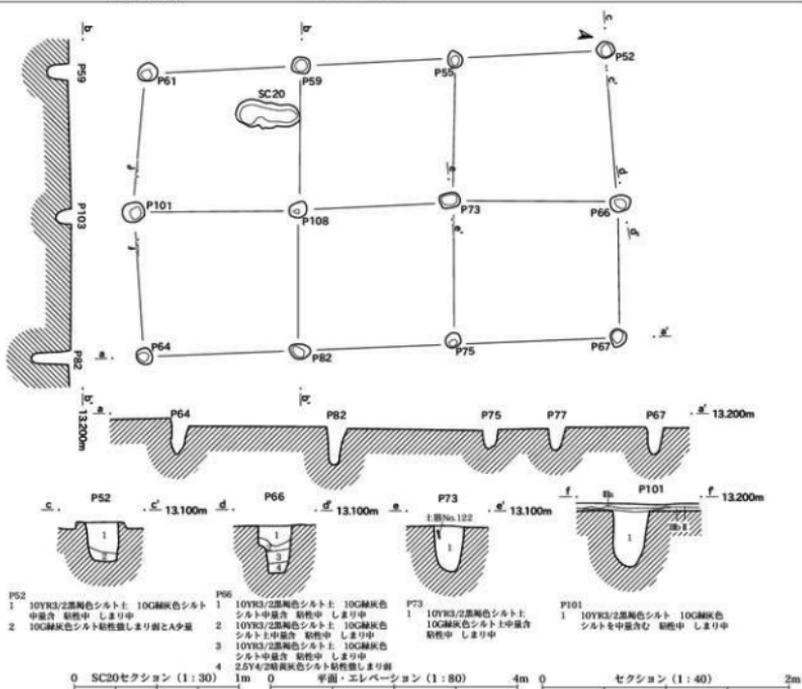




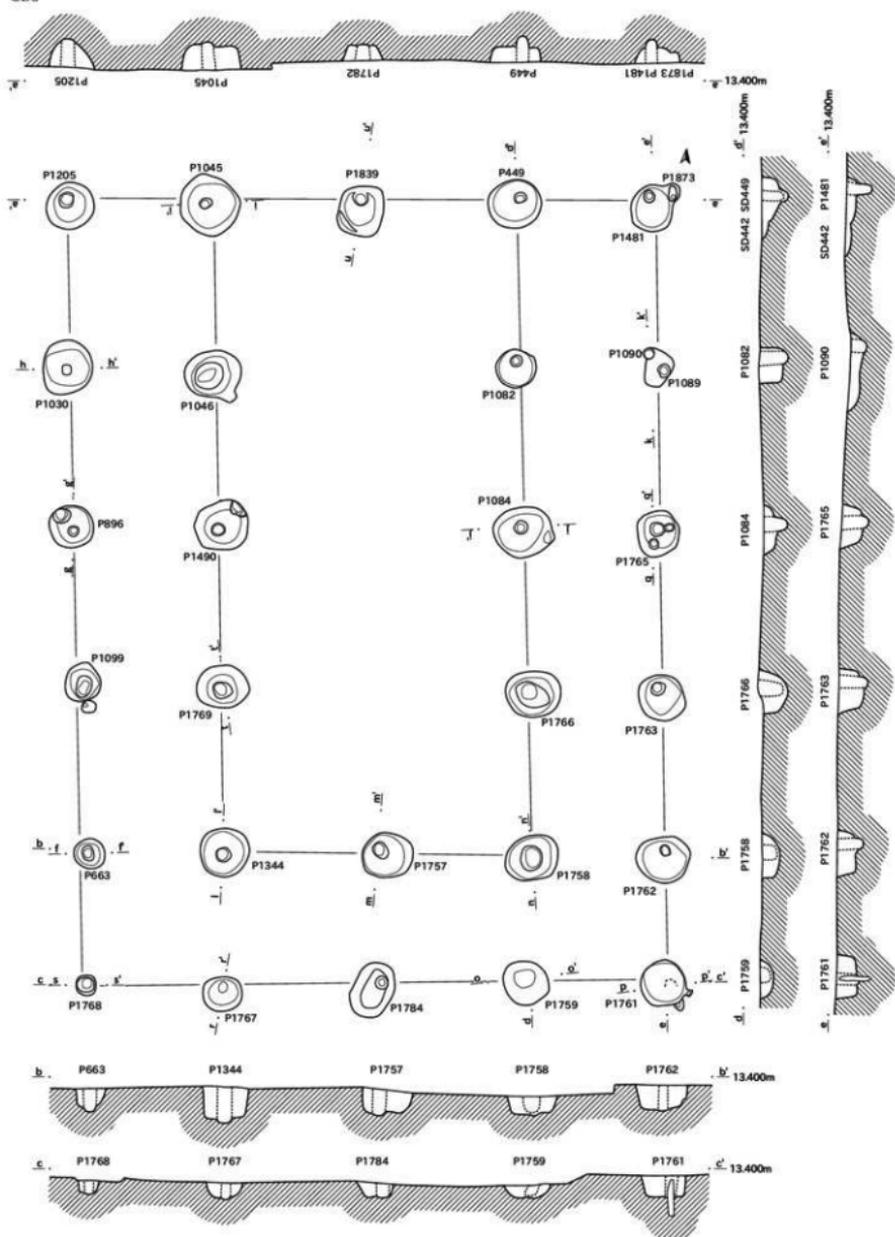
SB1

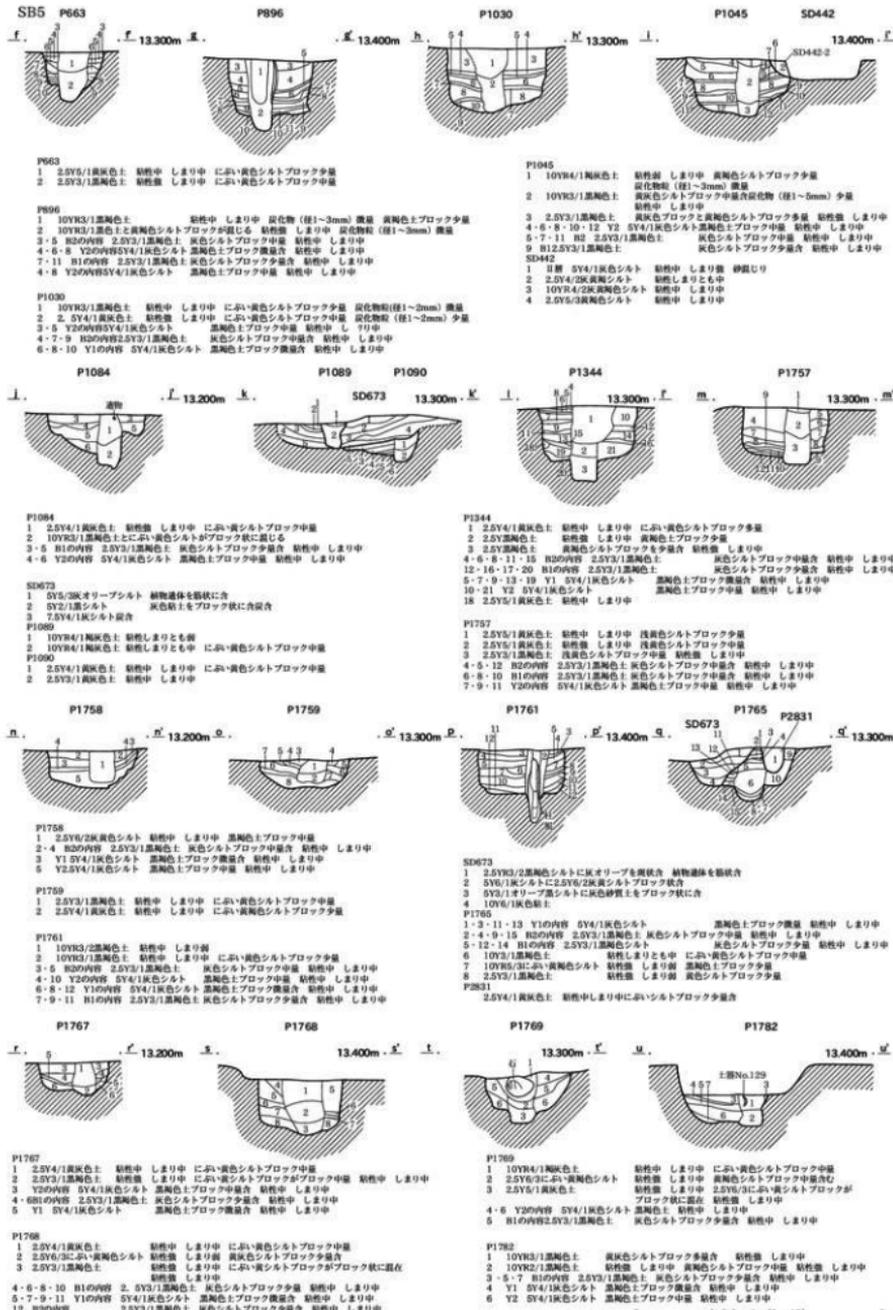


SB2

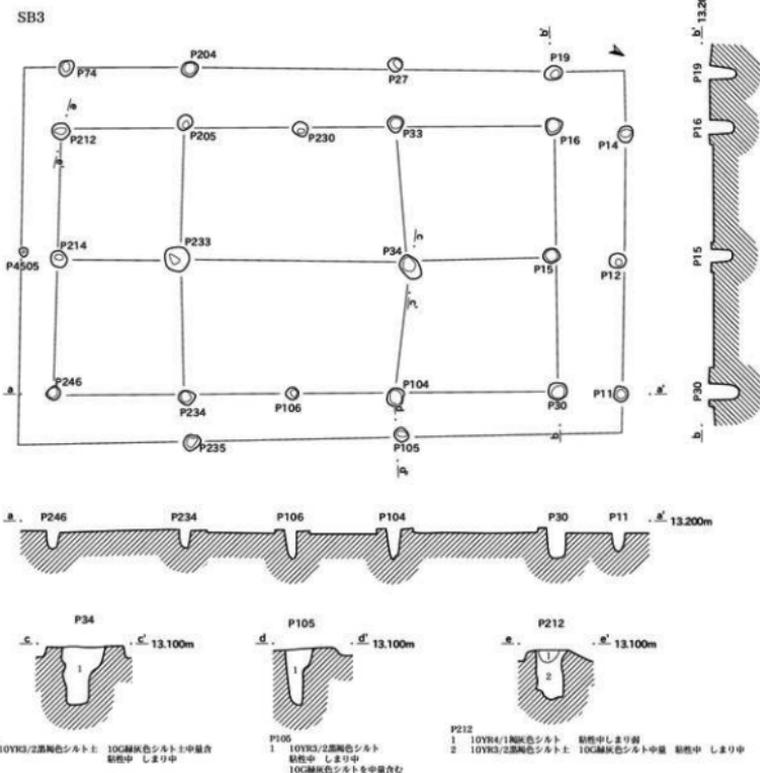


SB5

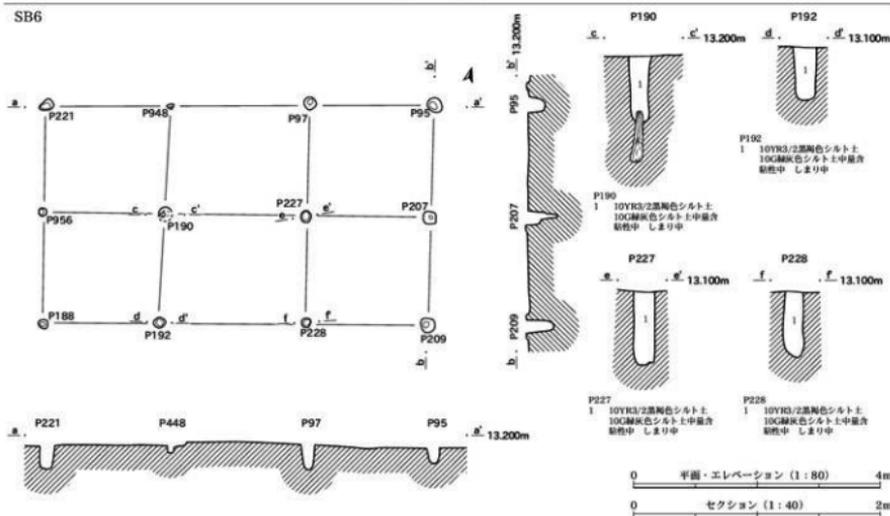




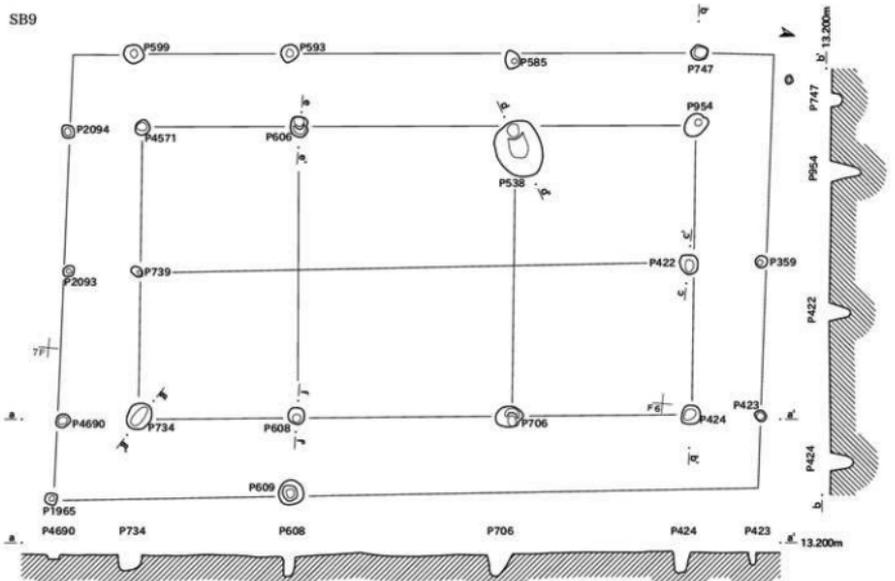
0 セクション (1:40) 2m



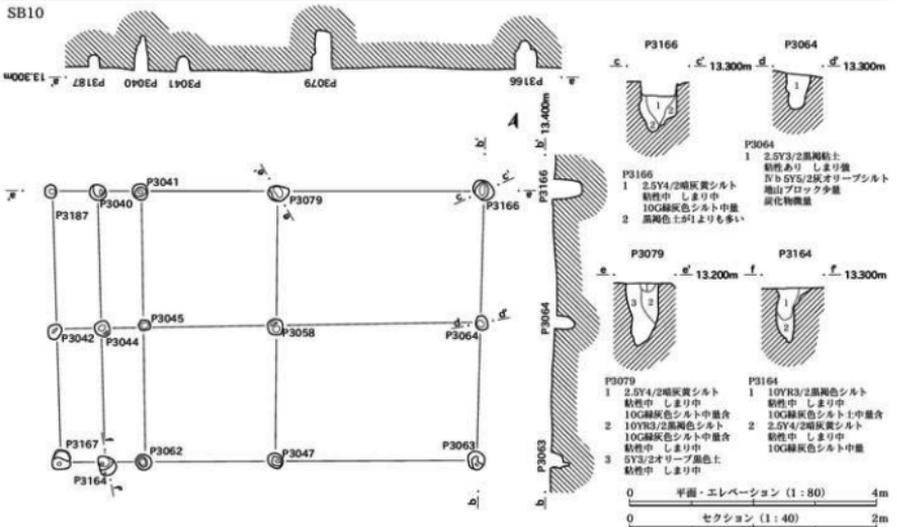
SB6



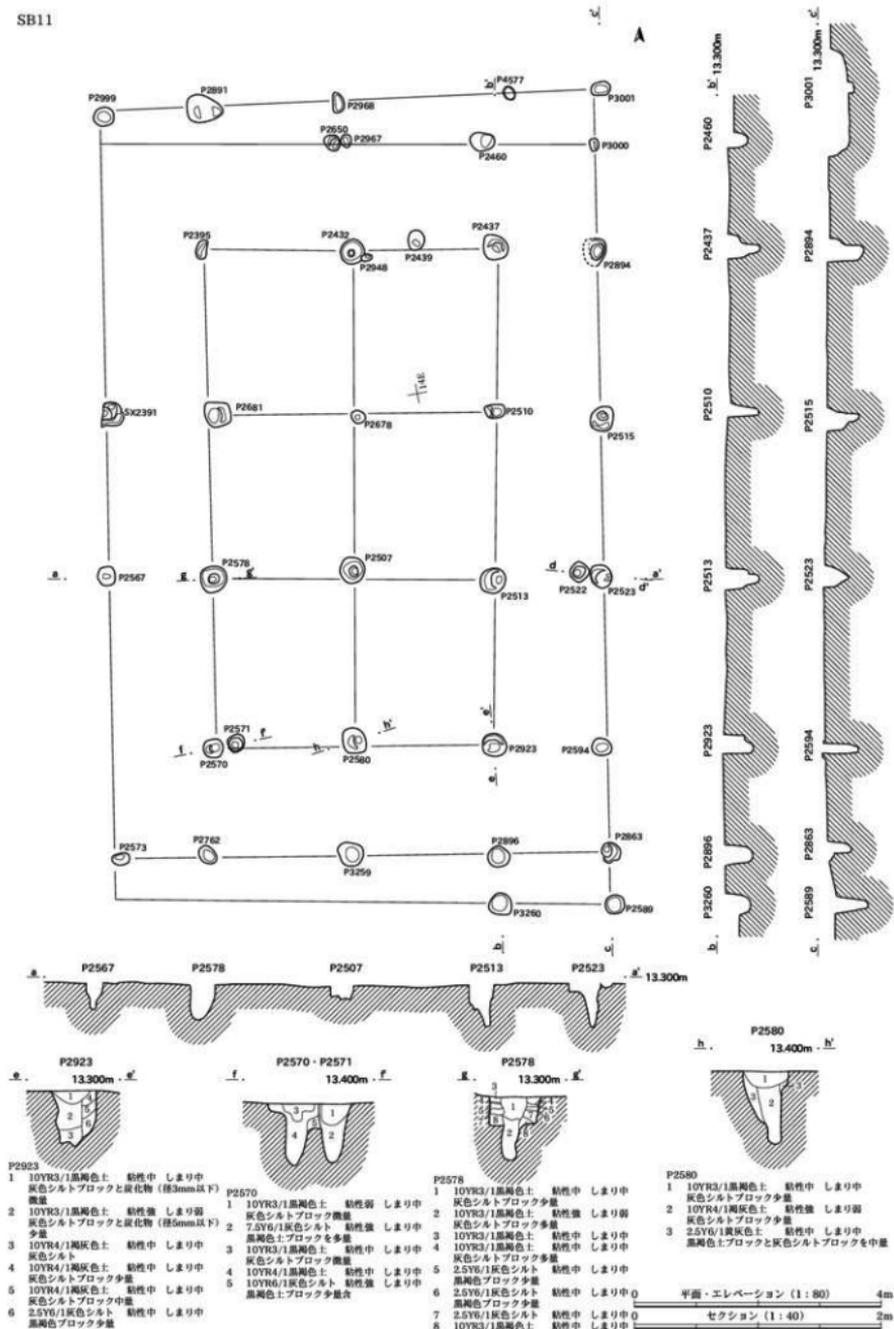
SB9



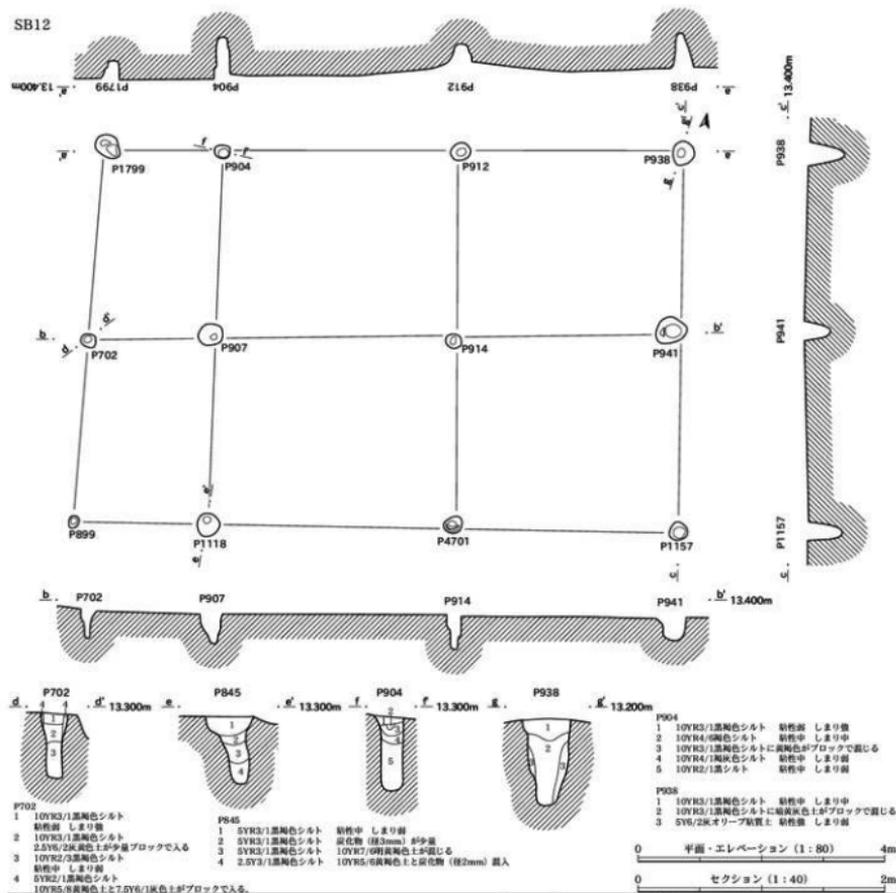
SB10



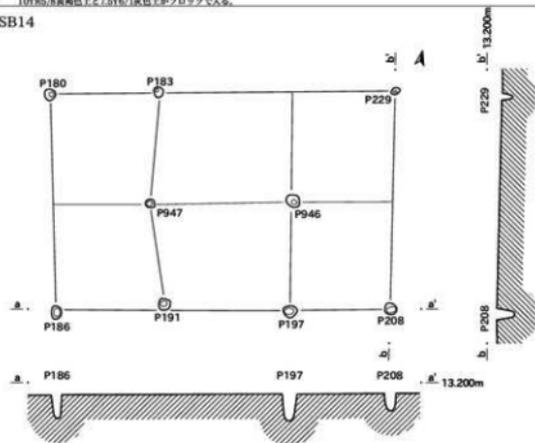
SB11



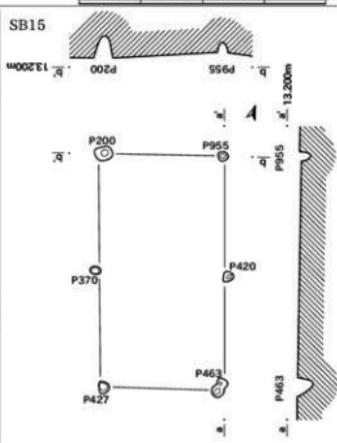
SB12

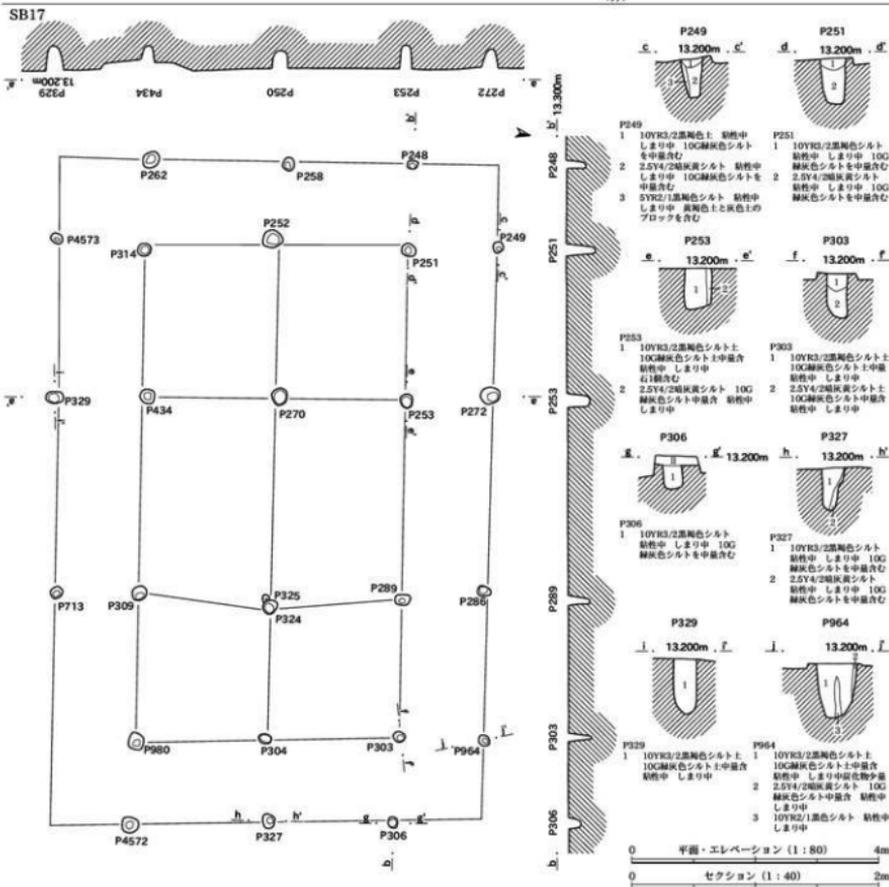
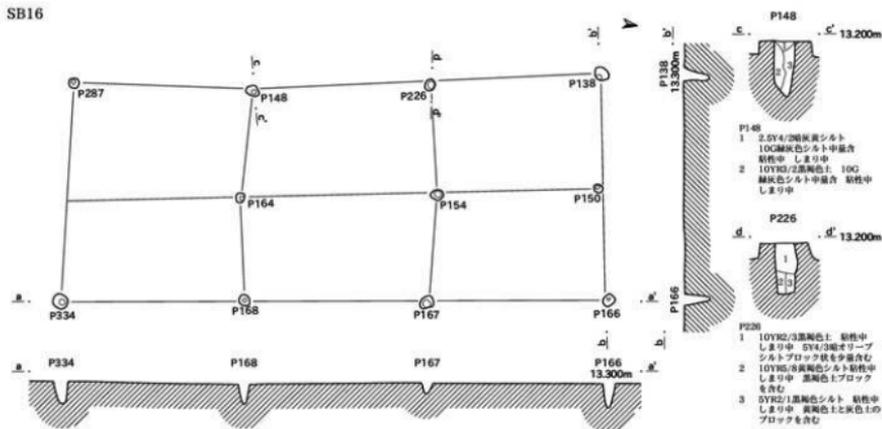


SB14

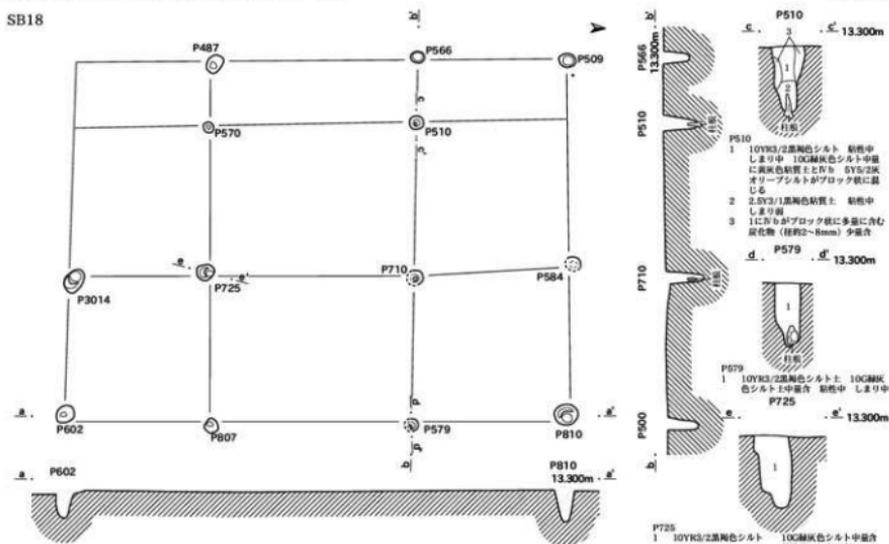


SB15

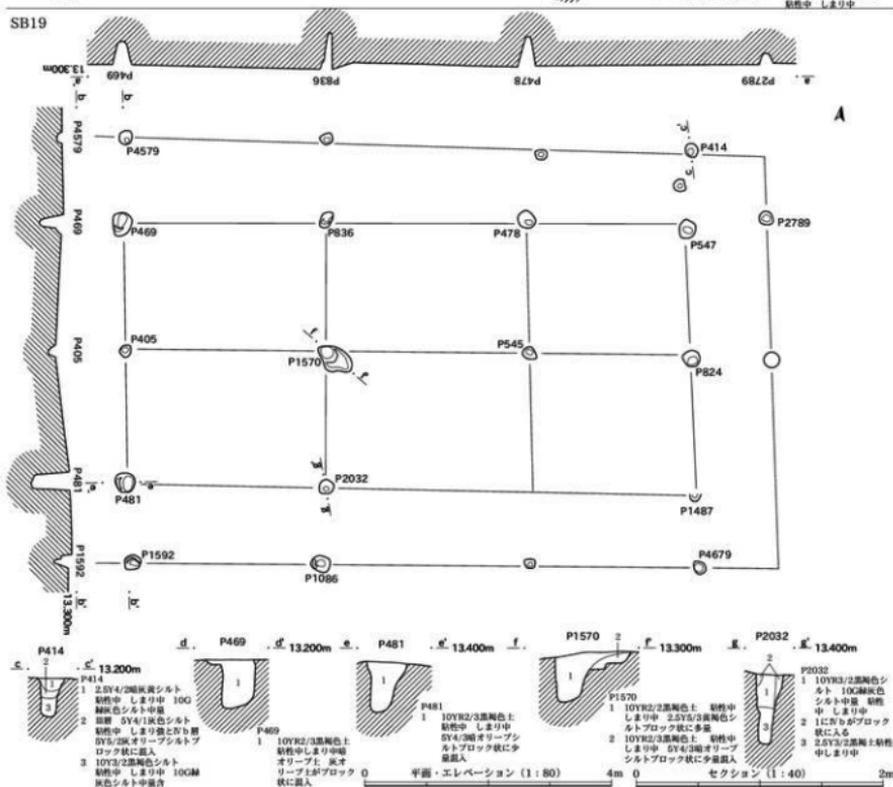




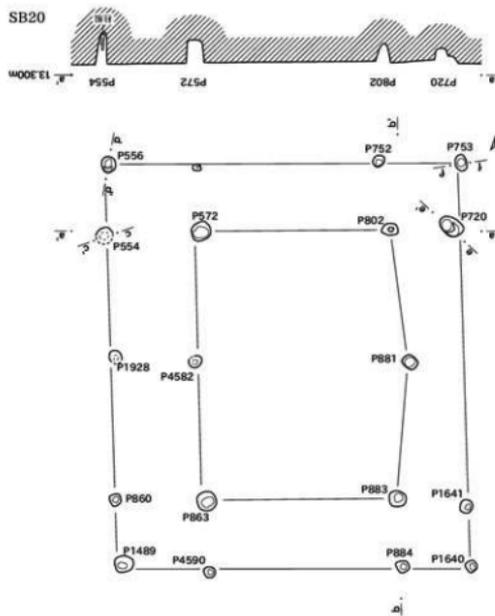
SB18



SB19



SB20



c. P554 c. 13.300m



d. P556 d. 13.300m



e. P720 e. 13.200m



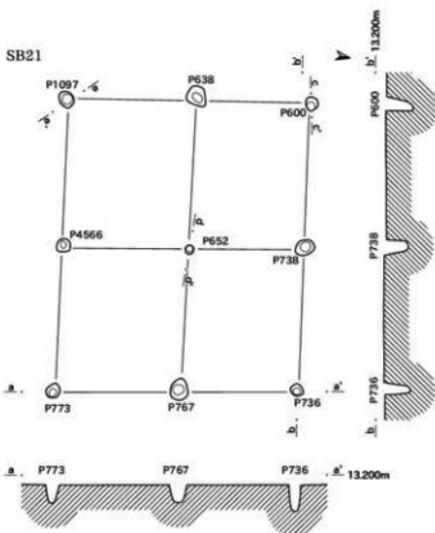
P720
1 2.5Y4/2暗灰黄シルト 10YR3/2黒褐色シルト
2 10YR3/2黒褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト

f. P753 f. 13.300m



P753
1 2.5Y4/2暗灰黄シルト 10YR3/2黒褐色シルト
2 10YR3/2黒褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト

SB21



c. P600 c. 13.100m



P600
1 2.5Y4/2暗灰黄シルト 10YR3/2黒褐色シルト
2 10YR3/2黒褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト

d. P652 d. 13.200m

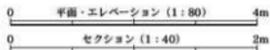


P652
1 2.5Y4/2暗灰黄シルト 10YR3/2黒褐色シルト
2 10YR4/2黒褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト
3 10YR3/2黒褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト

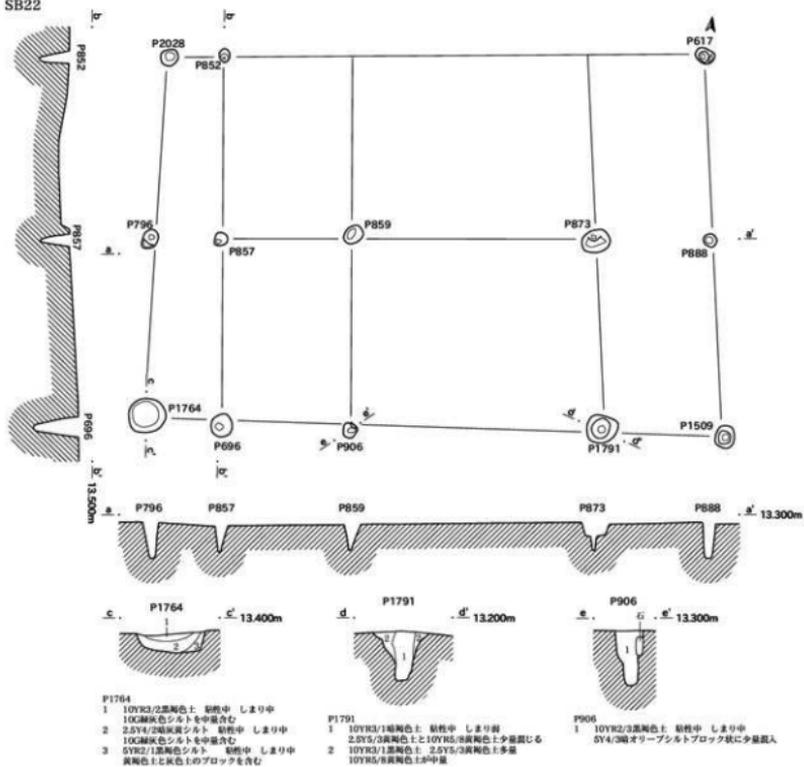
e. P1097 e. 13.200m



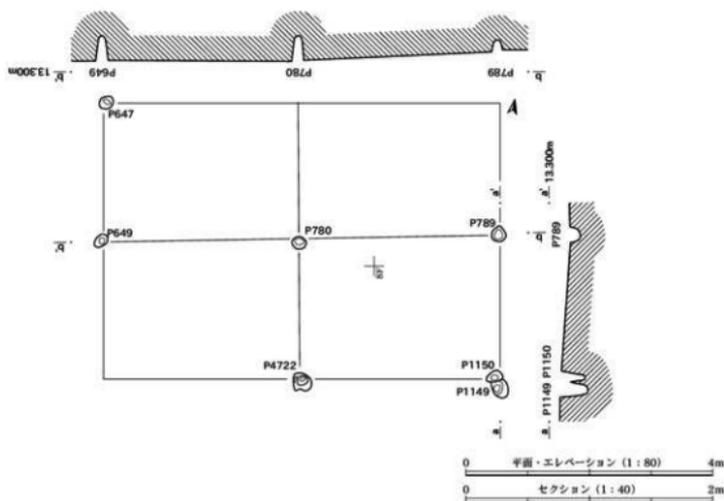
P1097
1 10YR3/2黒褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 10YR3/2黒褐色シルト



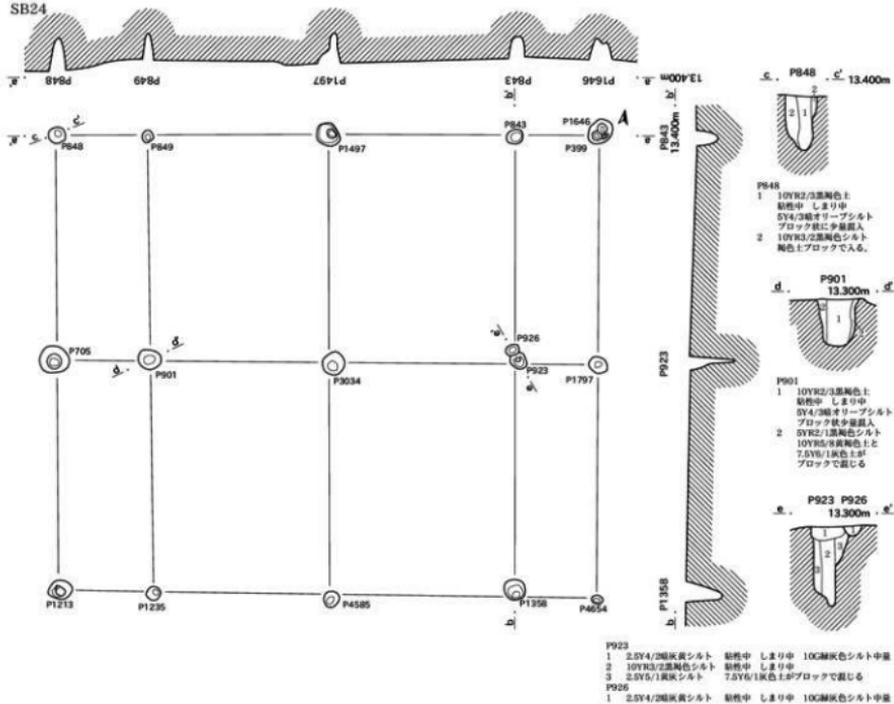
SB22



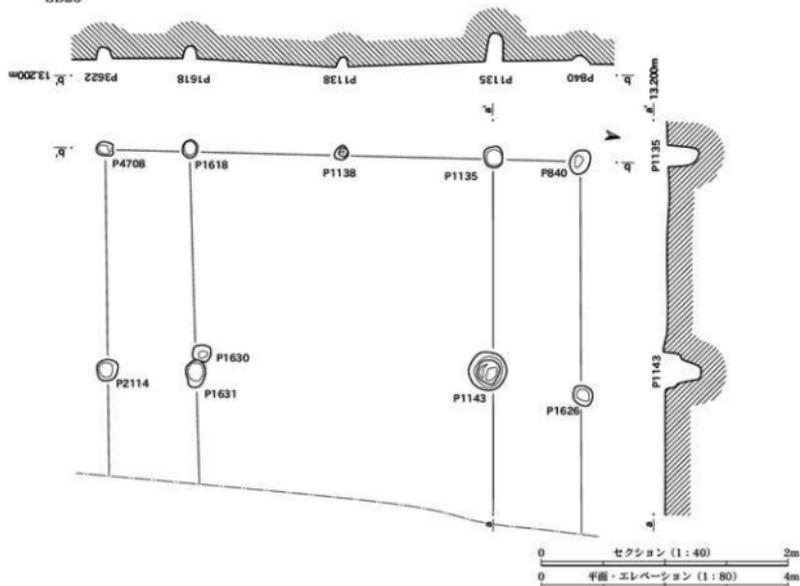
SB23

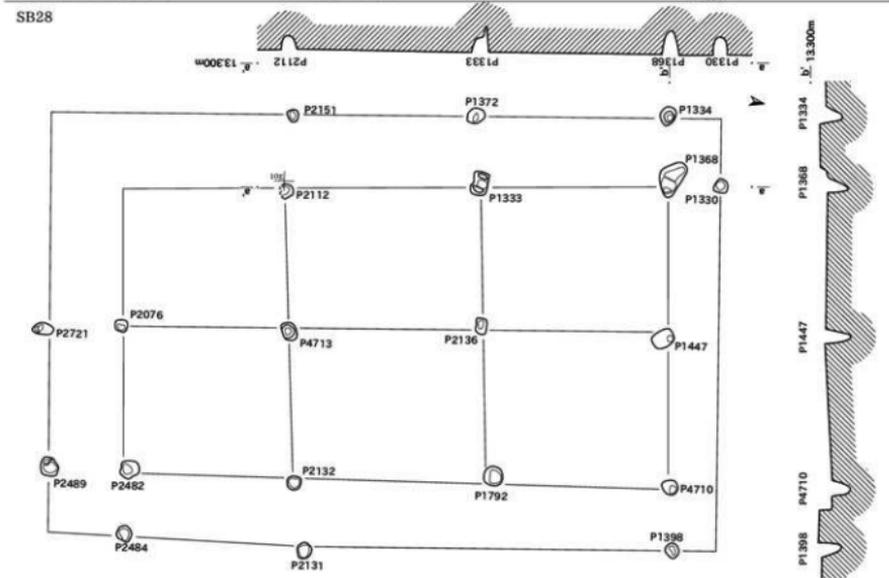
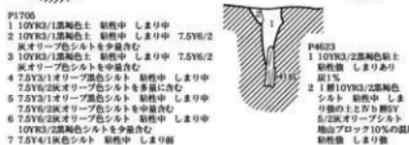
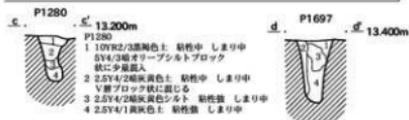
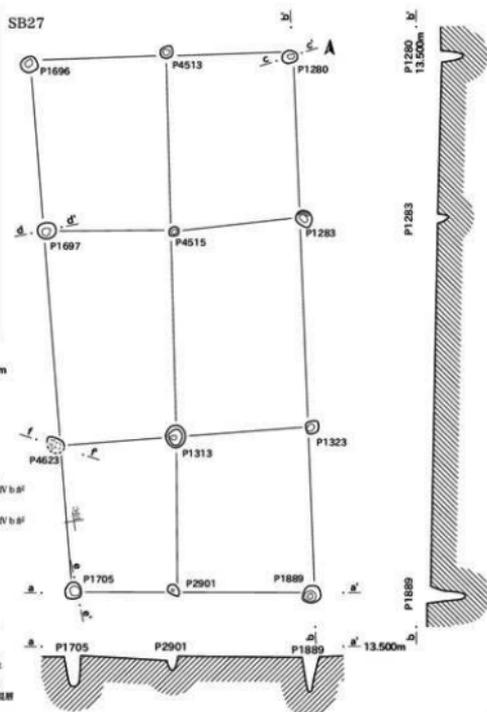
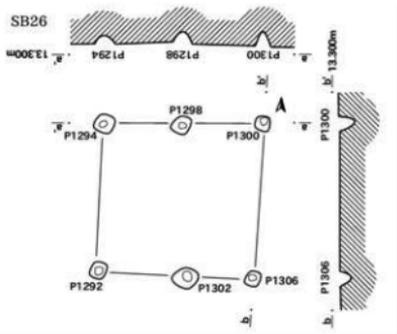


SB24

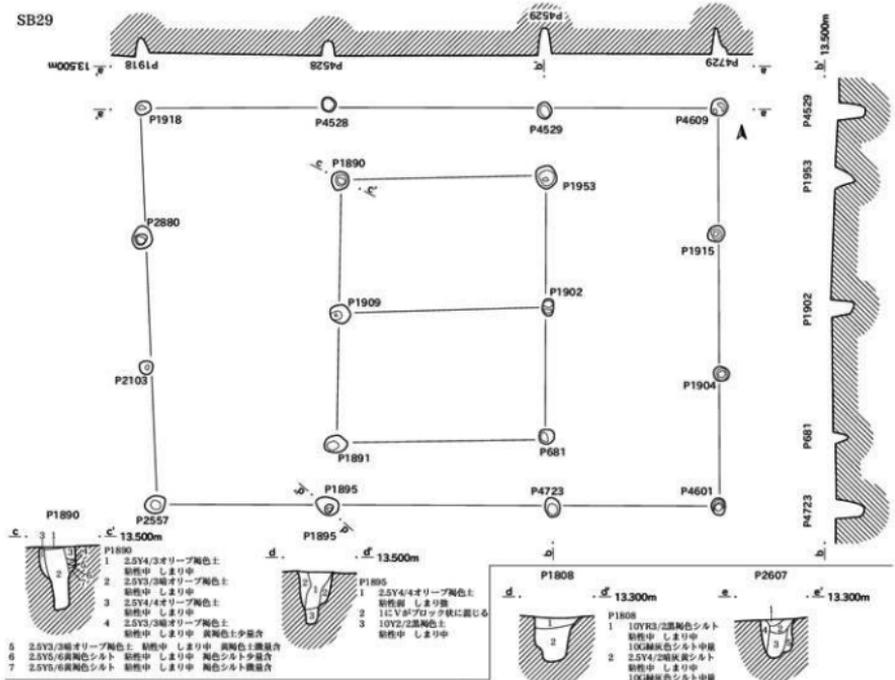


SB25

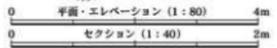
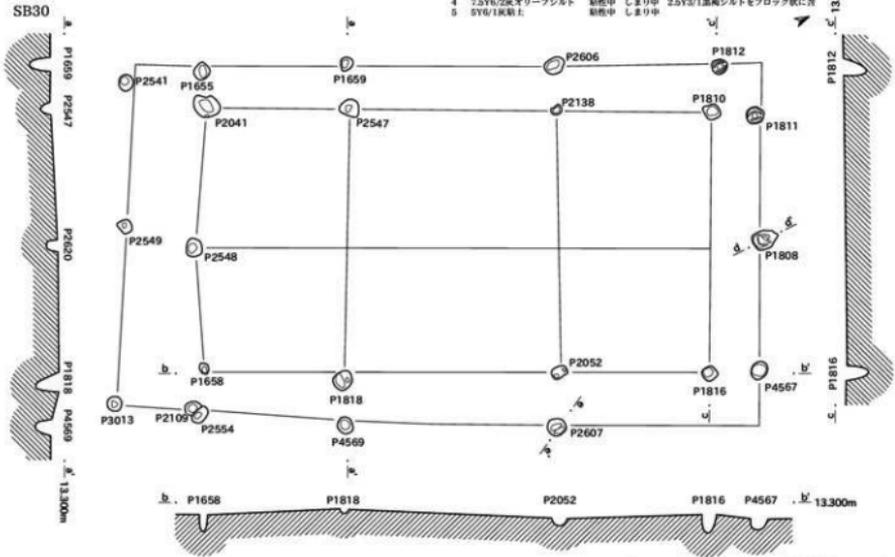


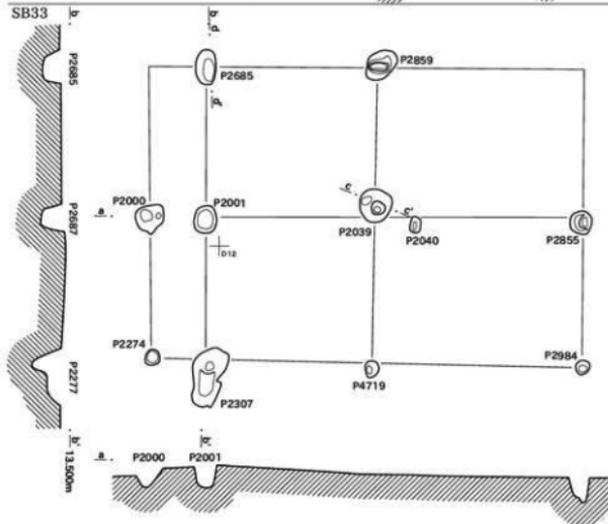
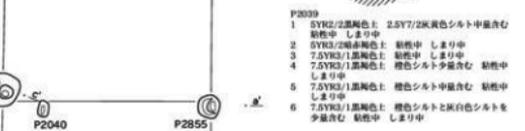
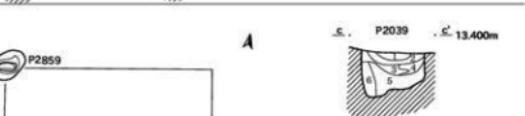
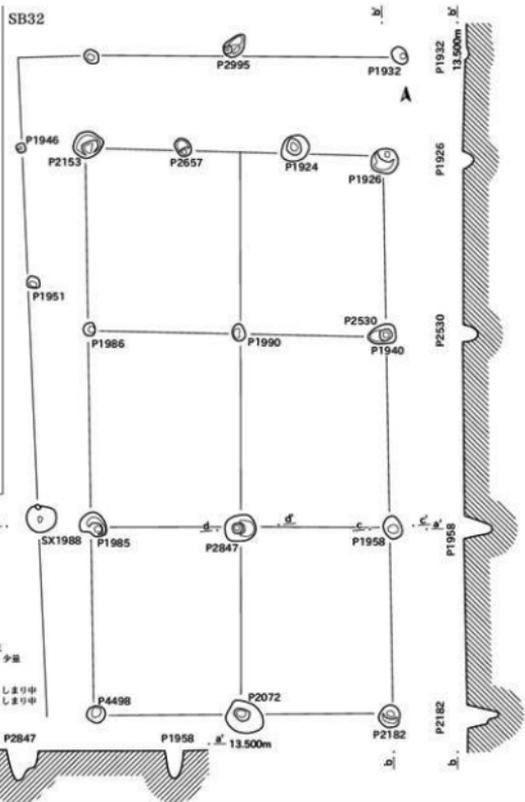
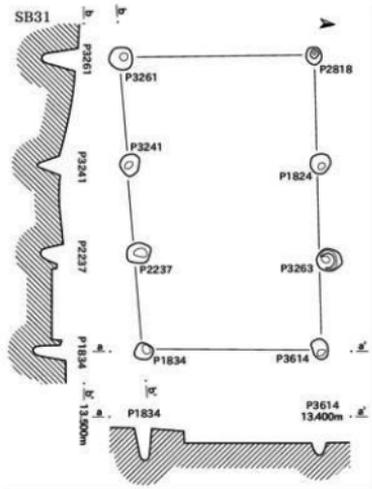


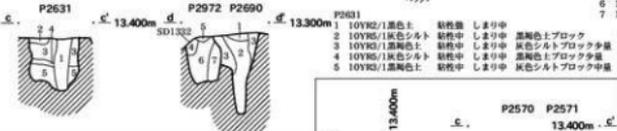
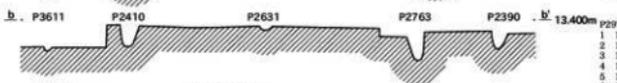
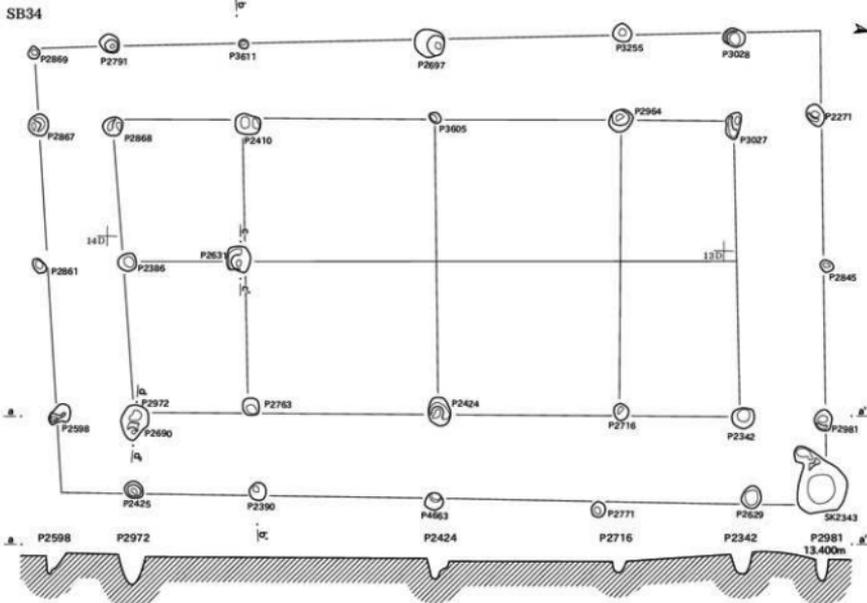
SB29



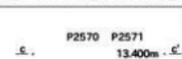
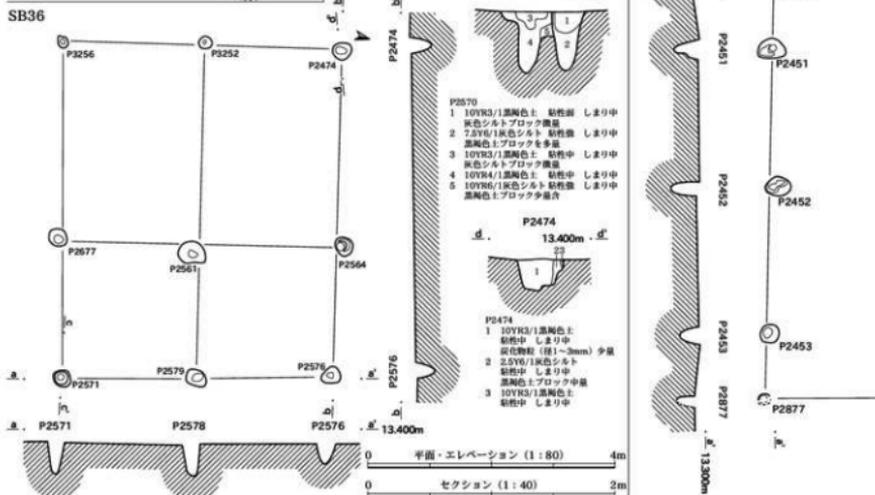
SB30



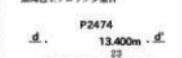




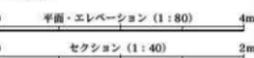
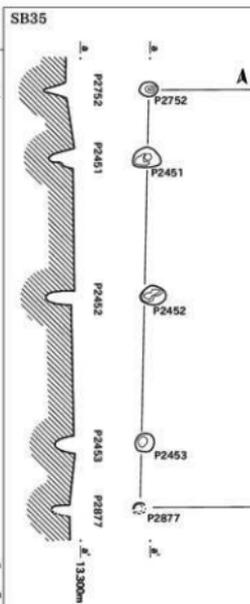
- P2972
- 1 10YR4/1黒褐色粘土 粘性しまり中 灰色シルトブロック多量
 - 2 10YR3/1黒褐色土 粘性中しまり中 灰色シルトブロック少量
 - 3 10YR3/1黒褐色土 粘性中しまり中 灰色シルトブロック少量
 - 4 10YR3/1灰色シルト 粘性中しまり中 黒褐色土ブロック少量
 - 5 10YR3/1黒褐色土 粘性しまり中 灰色シルトブロック中量
 - 6 10YR3/1黒褐色土 粘性中しまり中 灰色シルトブロック中量
 - 7 10YR3/1黒褐色土 粘性中しまり中 粘性



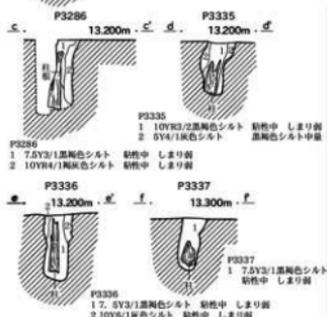
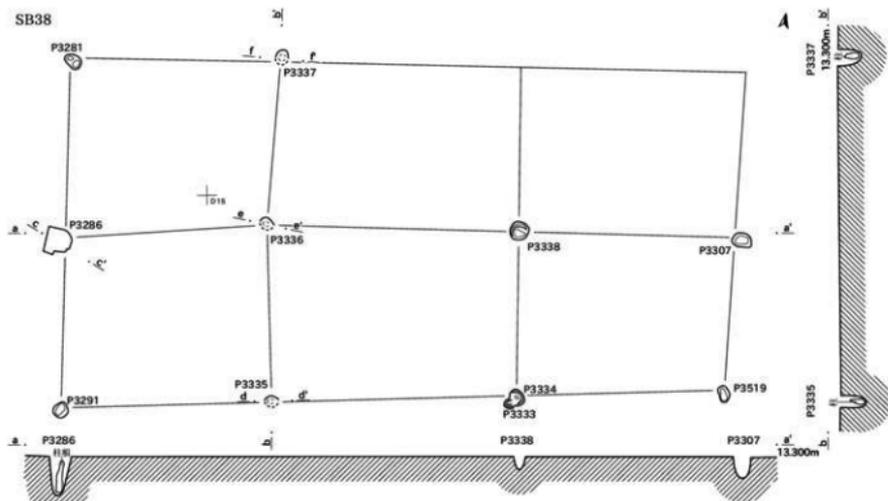
- P2570
- 1 10YR3/1黒褐色土 粘性強しまり中 灰色シルトブロック微量
 - 2 2.5YR/1灰色シルト 粘性強しまり中 黒褐色土ブロック多量
 - 3 10YR3/1黒褐色土 粘性強しまり中 灰色シルトブロック微量
 - 4 10YR4/1黒褐色土 粘性中しまり中 黒褐色土ブロック中量
 - 5 10YR6/1灰色シルト 粘性強しまり中 黒褐色土ブロック少量



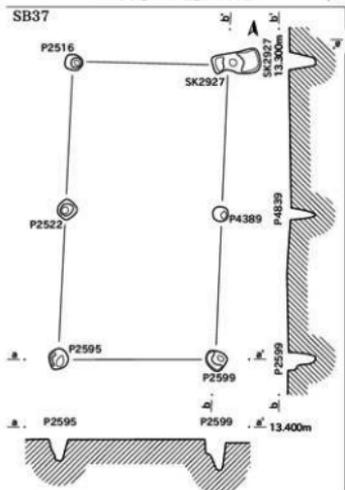
- P2474
- 1 10YR3/1黒褐色土 粘性強しまり中 灰化層(厚1~3mm)少量
 - 2 2.5YR/1灰色シルト 粘性強しまり中 黒褐色土ブロック中量
 - 3 10YR3/1黒褐色土 粘性中しまり中



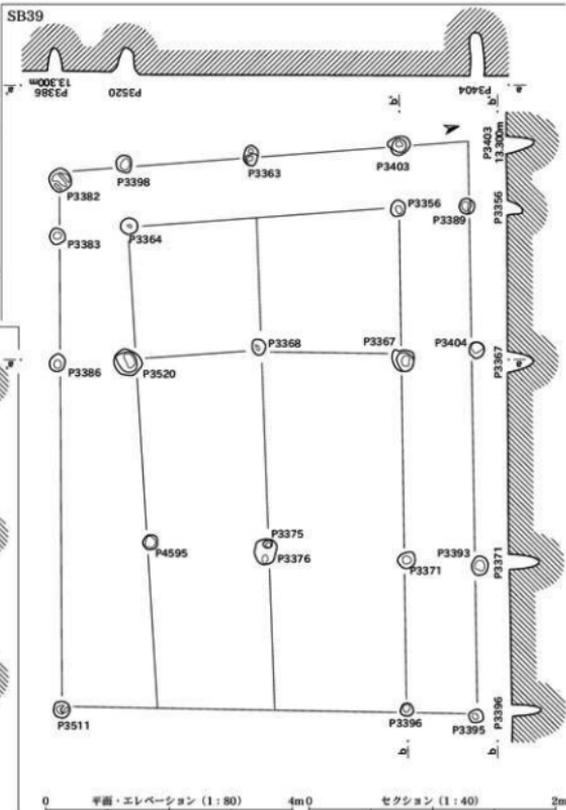
SB38



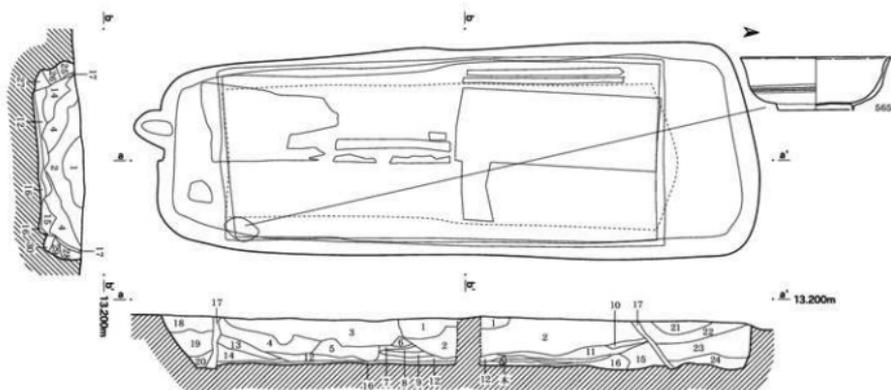
SB37



SB39



SK453 (7D3,4,5,8,9,10)

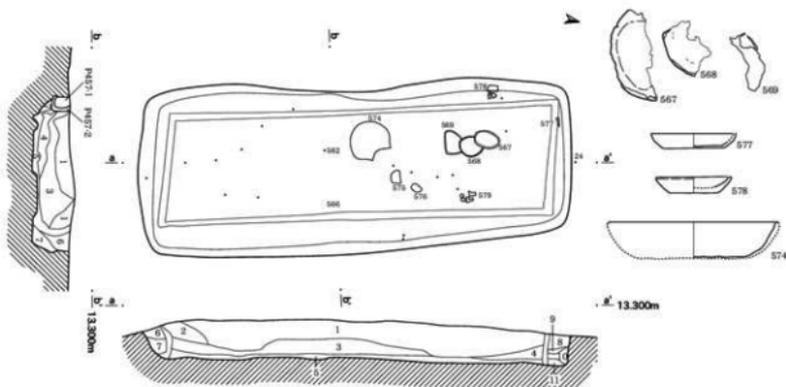


SK453

- | | |
|---|---|
| <p>1 10YR3/1黒褐色土 粘粒中 しまり割 におい黄色シルトブロック少量炭化物付 (径1-5mm) 散見</p> <p>2 10YR4/1黒褐色土 粘粒中 しまり中 におい黄色シルトブロック中量</p> <p>3 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 炭化物付 (径3mm以下) 散見</p> <p>4 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり割 黒褐色土ブロック散見</p> <p>5 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり割 黄灰色土が細かくブロック状に散在</p> <p>6 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり割 黄灰色土ブロック少量</p> <p>7 2.5Y5/1黄灰色シルト 粘粒中 しまりとも 黄灰色シルトの水平ライン確認</p> <p>8 7割におい黄色シルトブロック少量</p> <p>9 7割同層</p> <p>10 8割同層</p> <p>11 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 黄灰色シルトブロック中量</p> <p>12 8割同層</p> <p>13 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり割 黒褐色土ブロック少量</p> <p>14 10YR3/1黒褐色土 粘粒中 しまり割</p> <p>15 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり割</p> | <p>16 10YR3/1黒褐色土 粘粒中 しまり中 下層に散在の暗褐色炭化物群確認</p> <p>17 10YR4/1黒褐色土 粘粒中 しまり中</p> <p>18 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルト中量</p> <p>19 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルト多量</p> <p>20 10YR4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルトブロック少量</p> <p>21 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルト中量</p> <p>22 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルト多量</p> <p>23 10YR4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルトブロック少量</p> <p>24 2.5Y5/1黄灰色シルト 粘粒中 しまり中</p> <p>25 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルト中量</p> <p>26 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルト多量</p> <p>27 10YR4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルトブロック少量</p> <p>28 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり中 黒褐色土ブロック中量</p> <p>29 2.5Y5/1黄灰色シルト 粘粒中 しまり中</p> <p>30 10YR3/1黒褐色土 粘粒中 しまり中 におい黄色シルトブロック少量</p> |
|---|---|



SK456 (8D9,10)

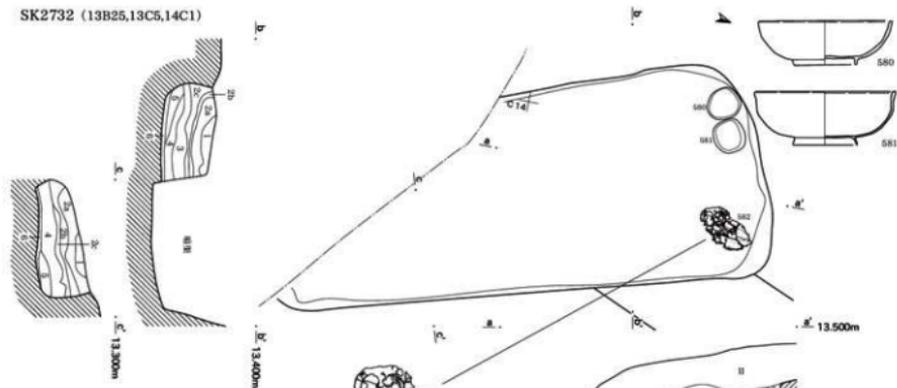


SK456

- | |
|---|
| <p>1 10YR4/1黒褐色土 粘粒中 しまり割 褐色シルトがブロック状に散在</p> <p>2 10YR4/4黒褐色シルト 粘粒中 しまり割 褐色土ブロック多量</p> <p>3 2.5Y6/3/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 黄灰色土ブロック少量</p> <p>4 2.5Y4/1黄褐色土 粘粒中 しまり中 黄灰色土が散在に暗褐色土シルトブロック少量</p> <p>5 2.5Y5/1黄灰色土 粘粒中 しまり割</p> <p>6 10YR4/1黒褐色土 粘粒中 しまり中 黄褐色シルトブロック中量</p> <p>7 10YR4/1黒褐色土 粘粒中 しまり中 黄褐色シルトブロック少量</p> <p>8 7割同層</p> <p>9 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒中 しまり割</p> <p>10 10YR3/1黒褐色土 粘粒中 しまりとも中</p> <p>11 9割同層</p> |
|---|



SK2732 (13B25,13C5,14C1)



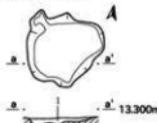
SK2732

- 1 2.5V/6/3に於い黄褐色シルト 粘粉中 しまり中 黄灰色土ブロック中層
 2a 2.5V/4/1黄灰色土 粘粉中 しまり中 に於い黄褐色シルトブロック内
 2b 2.5V/6/3に於い黄褐色シルト 粘粉中 しまり中
 2c 2a層と同じ
 3 1層と同じ
 4 2.5V/6/3に於い黄褐色シルト 粘粉中 しまり中 黄灰色シルトブロック中層
 5 2.5V/6/3に於い黄褐色シルト 粘粉中 しまり中
 6 2.5V/4/1黄灰色シルト 粘粉中 しまり中

0 遺物実測図 (1:10) 30cm

0 (1:20) 1m

SK36 (4E3)



SK36
1 10YR3/2黒褐色土 軟性腐 しまり腐
黒褐色土ブロック多量部分的に炭化物混入

SK153 (4D15)



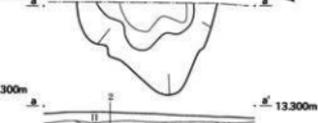
SK153
1 10YR3/2黒褐色シルト 軟性腐 しまり腐
2 5Y2/2オリーブ黒色土 軟性腐 しまり腐

SK181 (4D15,5D11)



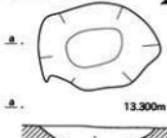
SK181
1 10YR3/2黒褐色土 軟性腐 しまり腐
5Y4/2暗オリーブシルトブロック状に少量炭入

SK219 (4F20,24,25)



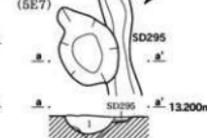
SK219
1 2.5Y4/1黄灰色土 砂層 (厚1~5mm) 少量腐 軟性腐 しまり腐
2 2.5Y6/1黄灰色シルト 軟性腐 しまり腐
炭化物粒 (径1~5mm) 少量腐 軟性腐 しまり腐
3 2.5Y6/1黄灰色シルト 炭化物粒 (径1~5mm) 少量腐 軟性腐 しまり腐
4 10YR3/1黒褐色シルト 黄灰色シルトブロック中腐食 軟性腐 しまり腐
5 2.5Y4/1黄灰色シルト 黄灰色シルトブロック中腐食
炭化物粒 (径1~2mm) 少量腐 軟性腐 しまり腐
6 2.5Y6/1黄灰色シルト 黄灰色シルトブロック多量腐食 軟性腐 しまり腐

SK261 (5C23)



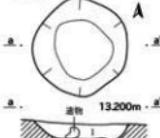
SK261
1 5Y3/1オリーブ黒シルト土 軟性腐 しまり腐

SK437 (5E7)



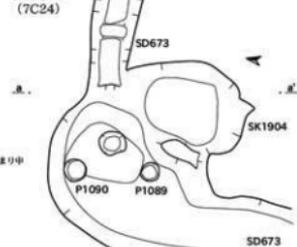
SK437
1 2.5Y4/2暗灰黄シルト土
10C黒灰色シルト土中腐食
軟性腐 しまり腐

SK540 (6E15)

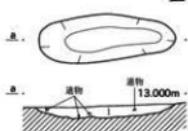


SK540
1 2.5Y4/2暗灰黄シルト土
10C黒灰色シルト土中腐食 軟性腐 しまり腐

SK1094 (7C24)



SK805 (6F7,12)



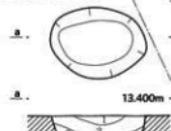
SK805
1 10YR3/1黒褐色土 軟性腐 しまり腐
にのみ黄灰色シルトブロック中腐食

SK821 (6F12)

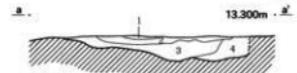


SK821
1 10YR4/1黒灰色土 軟性腐 しまり腐
2 10YR2/1黒色土 軟性腐 しまり腐
3 10YR3/1黒褐色土 軟性腐 しまり腐

SK1040 (7C6)

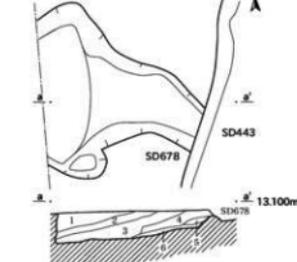


SK1040
1 2.5Y4/1黄灰色シルト 軟性腐 しまり腐
2.5Y4/6暗褐色の粘多量
2 2.5Y3/1黒褐色土 軟性腐 しまり中にも
3 2.5Y6/3にのみ黄灰色シルト 軟性腐 しまり中 黒褐色土
ブロック中腐
4 2.5Y6/1黄灰色シルト 軟性腐 しまり中



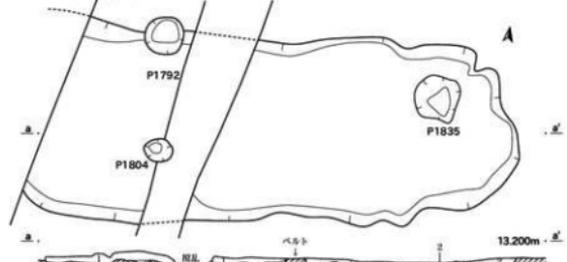
SK1094
1 10YR3/1黒褐色土 軟性腐 しまり腐 炭化物粒 (径5~10mm) 中腐
2 2.5Y3/1黄灰色土 軟性腐 しまり腐 にのみ黄灰色シルト
ブロック少量
3 2.5Y3/1黄灰色土 軟性腐 しまり腐 にのみシルトブ
ロック中腐
4 2.5Y6/2黄灰色シルト 軟性腐 しまり腐 黒褐色シルトブ
ロック多量

SK1701 (8B15,19,20)



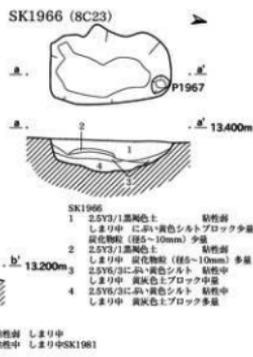
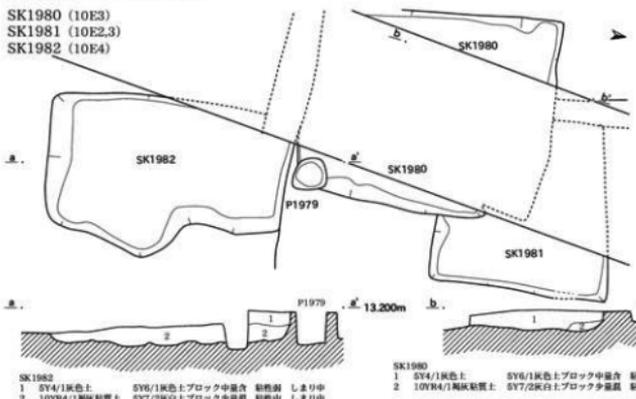
SK1701
1 10YR4/1黒灰色土 軟性腐 しまり腐 炭化物粒 (径1~10mm) 中腐
にのみ黄灰色シルトブロック少量
2 2.5Y6/3にのみ黄灰色シルト 軟性腐 しまり腐
3 10YR3/1黒褐色土 軟性腐 しまり腐 にのみ黄灰色シルトブロック中腐
4 10YR3黒褐色土 軟性腐 しまり腐 にのみ黄灰色シルトブロック多量
5 2.5Y6/3にのみ黄灰色シルト 軟性腐 しまり腐
6 4に同じ

SK1803 (9E9,14,19)



SK1803
1 5Y3/2オリーブ黒シルト 軟性腐 しまり腐 5Y4/2暗オリーブ砂質土ブロック状に腐入 炭化物 (径1~5mm) 少量
2 5Y6/2灰オリーブ砂質土 軟性腐 しまり腐 黄灰色砂質土がブロック状に腐入 炭化物 (径3mm) 少量

SK1980 (10E3)
SK1981 (10E2.3)
SK1982 (10E4)

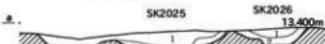
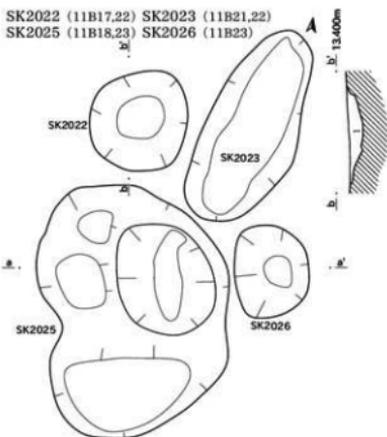


SK1982
1 SY4/1灰色土 SY6/1灰色土ブロック中量含 粘粒削 しまり中
2 10YR4/1黄灰粘質土 SY7/2灰白土ブロック少量含 粘粒削 しまり中

SK1980
1 SY4/1灰色土 SY6/1灰色土ブロック中量含 粘粒削 しまり中
2 10YR4/1黄灰粘質土 SY7/2灰白土ブロック少量含 粘粒削 しまり中 SK1981

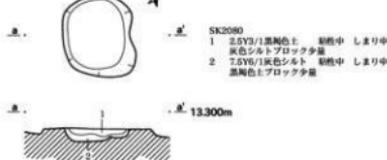
SK1966
1 2.5Y3/1黒褐色土 粘粒削 しまり中 におい黄色シルトブロック少量 炭化植物 (径5~10mm) 少量
2 2.5Y3/1黒褐色土 粘粒削 しまり中 炭化植物 (径5~10mm) 少量
3 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒削 しまり中 黄灰色土ブロック中量
4 2.5Y6/3におい黄色シルト 粘粒削 しまり中 黄灰色土ブロック少量

SK2022 (11B17.22) SK2023 (11B21.22)
SK2025 (11B18.23) SK2026 (11B23)



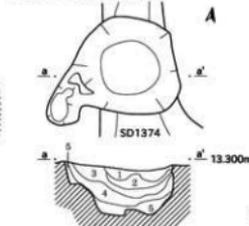
SK2022
1 10YR3/2黒褐色シルト土 10G緑灰色シルト土中量含 粘粒削 しまり中
SK2025
1 10YR4/1黒灰色土 粘粒削 しまり中 炭化物 (径2mm以下) 微量
2 10YR3/1黒褐色土 粘粒削 しまり中 におい黄色シルトブロック中量
SK2026
1 10YR2/2黒褐色土 2.5Y3/3黄褐色シルトブロック多量含 粘粒削 しまり中
2 10YR2/3黒褐色土 粘粒削 しまり中 SY4/3黄オーリーブシルトブロック少量含

SK2080 (14E14)



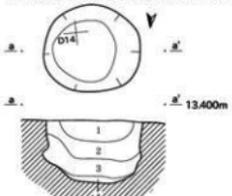
SK2080
1 2.5Y3/1黒褐色土 粘粒削 しまり中
2 7.5Y6/1灰色シルト 粘粒削 しまり中 黒褐色土ブロック少量

SK2343 (12D9,10,15)



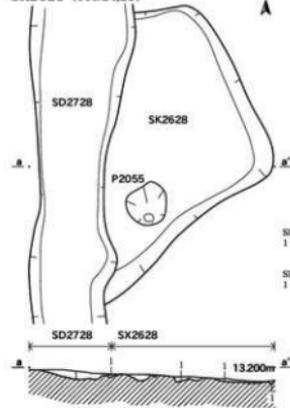
SK2343
1 10YR5/2灰黄褐色砂質土 粘粒なし しまり中
2 10YR4/1黒灰色シルト 10YR5/1黒灰色シルトが塊状に混じる。粘粒なし しまり中
3 2.5Y5/2暗黄褐色砂質土 粘粒なし しまり中
4 2.5Y3/2黒褐色シルト 粘粒削 しまり中
5 2.5Y3/1黒褐色シルト粘粒削 しまり中

SK2383 (13C25,13D5,14C21,14D1)



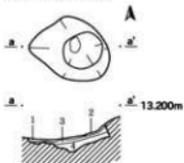
SK2383
1 10YR3/2黒褐色土 粘粒削 しまり中 灰色シルトブロック中量 炭化植物 (径5~10mm) 少量
2 10YR3/2黒褐色土 粘粒削 しまり中 灰色シルトブロック少量 炭化植物 (径5~10mm) 少量
3 10YR3/1黒褐色土 粘粒削 しまり中 炭化植物 (径5~10mm) 少量
4 7.5Y6/1灰色シルト 粘粒削 しまり前 黒褐色土ブロック少量

SK2628 (11D24,25)



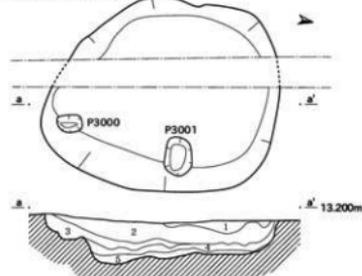
SK2628
1 10YR3/1黒褐色シルト 粘粒酸化遺存含 粘粒削 しまり中
SD2728
1 SY3/1オーリーブ褐色シルト SY6/2黄オーリーブシルトブロック含 粘粒削 しまり中

SK2866 (13E5)



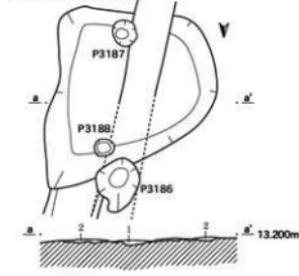
- SK2866
- 1 10YR2/1黒色土 粘粒中 しまり弱
灰化層 (径200mm以下) 多量
黒褐色土ブロック中層
 - 2 10YR2/1黒色土 粘粒中 しまり弱
灰化層 (径200mm以下) 多量
 - 3 10YR2/1黒色土 粘粒中 しまり弱
灰化層 (径200mm以下) 中量
 - 4 2.5Y5/1灰色シルト 粘粒強 しまり中
黒褐色土ブロック少量

SK2966 (13E8.9)



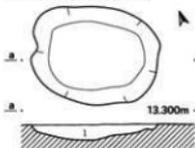
- SK2966
- 1 10YR3/2黒褐色土 粘粒中 しまり弱 灰シルトブロック少量 灰化層 (径50mm以下) 少量
 - 2 10YR3/2黒褐色土 粘粒中 しまり弱 灰化層 (径50mm以下) 少量
 - 3 10YR3/1黒褐色土 粘粒中 しまり弱 灰化層 (径50mm以下) 少量
 - 4 10YR4/1黒褐色土 粘粒中 しまり強 灰化層 (径50mm以下) 少量 灰化層 (径50mm以下) 少量
 - 5 10N6/1黄褐色シルト 粘粒強 しまり弱 黒褐色土ブロック少量

SK3039 (17B11,16)



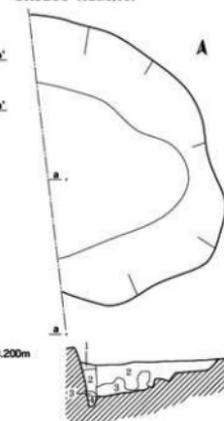
- SK3039
- 1 2.5Y3/2黒褐色粘土 粘粒あり しまり強
 - 2 5Y5/2灰オリーブシト 堆山ブロック多量に占

SK3171 (17B24,17C4)

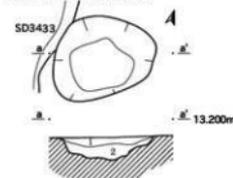


- SK3171
- 1 2.5Y4/2暗灰色シルト 粘粒中 中強
しまり中ややや 黒褐色粘土少量

SK3266 (12B9,10)

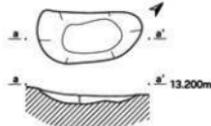


SK3434 (15C10,16C6)



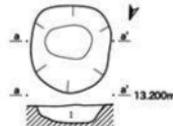
- SK3434
- 1 10YR3/2黒褐色シルト 粘粒あり しまる 砂層混合
 - 2 5Y4/1灰色シルト 粘粒強 しまる 堆山ブロック20%

SK3295 (15C23,15D3)



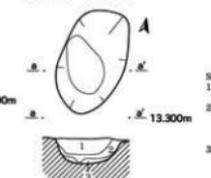
- SK3295
- 1 2.5Y4/1黄灰シルト 粘粒弱 しまり弱
灰ブロック中層

SK3428 (16C6,7)



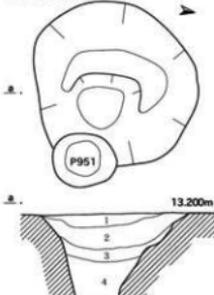
- SK3428
- 1 2.5Y4/1黄灰粘土 粘粒あり しまる
堆山ブロック60%

SK3443 (15B18)



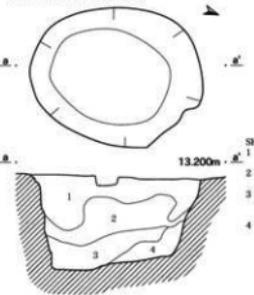
- SK3443
- 1 2.5Y3/2黒褐色シルトに灰層マンガシ少量
粘粒あり しまり強
 - 2 1層目10YR3/2黒褐色シルト
粘粒中 しまり強
砂層の間に堆山ブロックを少量含
粘粒あり しまり強
 - 3 1層目に堆山ブロック50%含
粘粒あり しまりあり

SE952 (5E2)



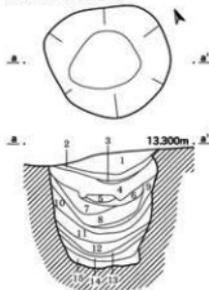
- SE952
- 1 10YR3/2黒褐色土 粘粒中 しまり強
黒褐色土層混合
 - 2 10YR3/2黒褐色土 粘粒中 しまり中
灰オリーブシルトブロック状に多量含
灰化層少量
 - 3 5Y5/2オリーブ灰色土 粘粒強 しまり中
黒褐色土と黒褐色土をブロック状に多量含
灰化層少量
 - 4 2.5Y2/2茶色オリーブ褐色土 粘粒強 しまり中
灰化層 (径5-8mm) 少量

SE3002 (6D17,18,22)



- SE3002
- 1 10YR3/2黒褐色土 粘粒中 しまり強
層を含む
 - 2 10YR3/2黒褐色土 粘粒中 しまり強
5Y5/2灰オリーブ (径30mm) 層混
 - 3 10YR3/2黒褐色土 粘粒中 しまり中
灰層ブロック状に多量混入
灰化層 (径4-10mm) 少量
 - 4 5Y5/2オリーブ灰色土 粘粒強 しまり中
5Y5/2灰オリーブ
灰層ブロック状に多量混入
灰化層 (径5-8mm) 少量

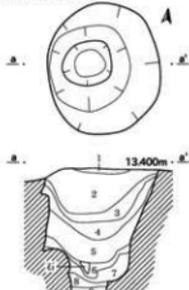
SE1760 (8C14,19)



SE1760

- 1 2.5Y4/2黄褐色土 粘状態 しまり中 黄褐色シルト
- 2 10YR3/1黒褐色土 プロック少量
- 3 2.5Y3/1黄褐色土 炭化物 (径10mm以下) 少量
- 4 10YR3/2黄褐色土 粘状態 しまり中
- 5 2.5Y3/3に赤い黄色シルト 粘状態 しまり中
- 6 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中 炭化物 (径10mm以下) 少量
- 7 10YR4/4黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 8 2.5Y3/3に赤い黄色シルト 粘状態 しまり中
- 9 10YR4/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 10 10YR3/1黒褐色土 粘状態 しまり中
- 11 2.5Y3/3に赤い黄色シルト 粘状態 しまり中
- 12 2.5Y3/3に赤い黄色シルト 粘状態 しまり中
- 13 2.5Y3/3に赤い黄色シルト 粘状態 しまり中
- 14 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 15 2.5Y4/1黄褐色土 粘状態 しまり中

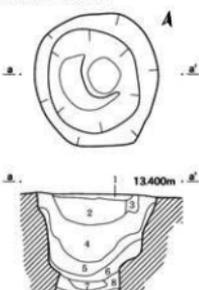
SE1788 (8D15)



SE1788

- 1 10YR2/2黒褐色シルト 粘状態 しまり中
- 2 7.5YR3/2黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 3 7.5YR3/2黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 4 7.5YR3/1黒色シルト 炭化物 (径5mm) 少量
- 5 5YR1.7/1黒色シルト 粘状態 しまり中
- 6 10YR2/2黒褐色シルト 粘状態 しまり中
- 7 5YR1.7/1黒色シルト 粘状態 しまり中
- 8 2.5Y3/1黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 9 2.5Y3/1黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 10 10YR2/1黒色シルト 粘状態 しまり中
- 11 2.5Y3/2黄褐色シルト 粘状態 しまり中

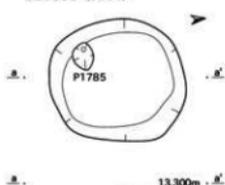
SE1249 (9D11)



SE1249

- 1 10YR3/4暗褐色シルト 粘状態 しまり中
- 2 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘状態 しまり中
- 3 10YR3/4暗褐色シルト 粘状態 しまり中
- 4 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘状態 しまり中
- 5 7.5YR3/2黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 6 5Y3/1赤い黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 7 10YR2/1黒色シルト 粘状態 しまり中
- 8 10YR7/6暗褐色シルト 粘状態 しまり中
- 9 10YR6/2黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 10 10YR7/6暗褐色シルト 粘状態 しまり中
- 11 10YR3/1黒褐色粘質土 粘状態 しまり中
- 12 2.5Y3/2黄褐色粘質土 粘状態 しまり中

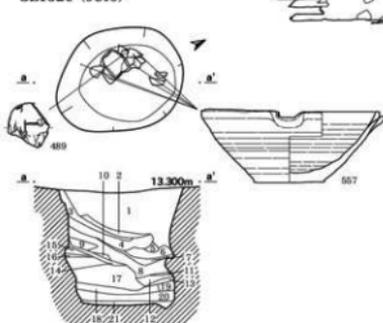
SE1851 (9B14)



SE1851

- 1 10YR4/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 2 10YR3/1黄褐色土 炭化物 (径1~5mm) 少量
- 3 10YR3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 4 2.5Y3/3に赤い黄色シルト 粘状態 しまり中
- 5 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中

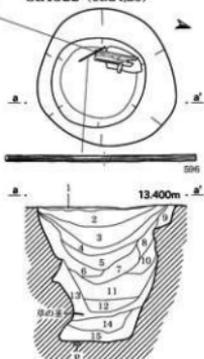
SE1320 (9C15)



SE1320

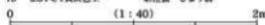
- 1 10Y3/3暗褐色土 粘状態 しまり中
- 2 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 3 2.5Y4/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 4 2.5Y3/3黄褐色シルト 炭化物 (径3mm) 粘状態 しまり中
- 5 2.5Y3/1黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 6 2.5Y4/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 7 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 8 2.5Y4/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 9 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 10 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 11 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 12 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 13 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 14 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 15 2.5Y4/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 16 2.5Y4/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 17 2.5Y3/1黄褐色シルト 粘状態 しまり中
- 18 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 19 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 20 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中

SE1322 (9B24,25)

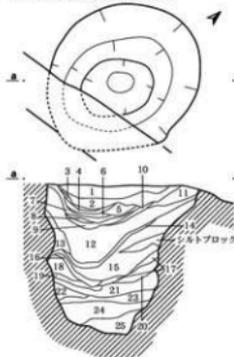


SE1322

- 1 黄褐色シルト
- 2 2.5Y4/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 3 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 4 10Y4/1黄褐色土 炭化物 (径5mm以下) 少量
- 5 2.5Y3/3に赤い黄色シルト 粘状態 しまり中
- 6 2.5Y3/3黄褐色土 粘状態 しまり中
- 7 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 8 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 9 2.5Y3/2黄褐色粘質土 粘状態 しまり中
- 10 2.5Y3/2黄褐色粘質土 粘状態 しまり中
- 11 2.5Y3/2黄褐色土 粘状態 しまり中
- 12 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 13 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 14 2.5Y3/1黄褐色土 粘状態 しまり中
- 15 2.5Y4/1黄褐色土 粘状態 しまり中

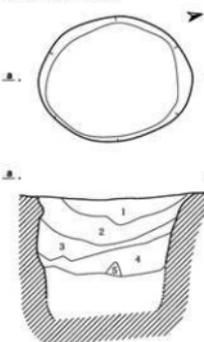


SE1328 (9B25,9C5,10C1)



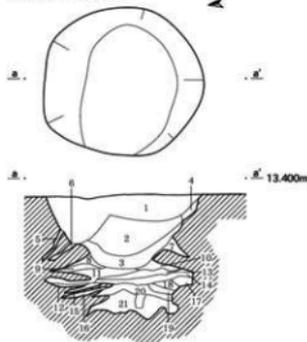
- SE1328
- | | | | | | |
|----|----------------|-----|------|------------------|------------|
| 1 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり強 | | |
| 2 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり強 | 炭化物層 (厚5mm以下) | |
| 3 | 2.5Y6/1灰色シルト | 粘液中 | しまり弱 | | |
| 4 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | | |
| 5 | 3層に同じ | | | | |
| 6 | 3層に同じ | | | | |
| 7 | 2.5Y2/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 微細な炭化物粒少量 | |
| 8 | 2.5Y2/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 微細な炭化物粒中量 | |
| 9 | 2.5Y2/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭化物層 (厚1-5mm) 中量 | |
| 10 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | 炭土少量 | |
| 11 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | | |
| 12 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | こぶみ黄色シルトブロック少量 | |
| 13 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | こぶみ黄色シルトブロック少量 | |
| 14 | 10YR1.7/1黒褐色土 | 炭化物 | 粘液中 | しまり弱 | 黒褐色土ブロック少量 |
| 16 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | こぶみ黄色シルトブロック少量 | |
| 17 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | | |
| 18 | 2.5Y6/3/1灰色シルト | 粘液中 | しまり中 | 地山の露筋 | |
| 19 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | | |
| 20 | 1層に同じ | | | | |
| 21 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | こぶみ黄色シルトブロック中量 | |
| 22 | 1層に同じ | | | | |
| 23 | 5B3/1暗青灰色シルト | 粘液中 | しまり弱 | 黒褐色土を粒状に含 | |
| 24 | 8B3/1暗青灰色シルト | 粘液中 | しまり弱 | 黒褐色土少量 | |
| 25 | 8B3/1暗青灰色シルト | 粘液中 | しまり弱 | | |

SE2013 (11E2,3)



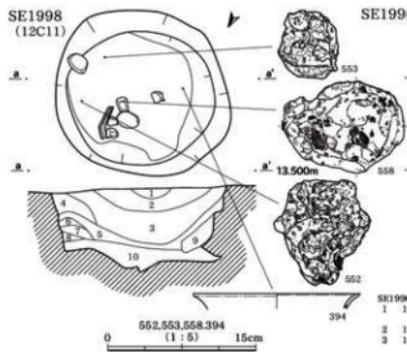
- SE2013
- | | | | | |
|---|-------------|-----|------|-------------|
| 1 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | |
| 2 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭色シルトブロック中量 |
| 3 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | 炭色シルトブロック少量 |
| 4 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | |
| 5 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | 炭色シルトブロック少量 |

SE1749 (11D9,14)



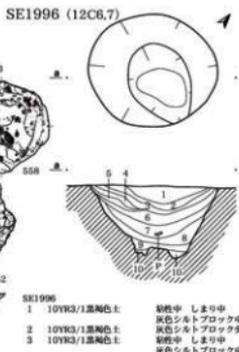
- SE1749
- | | | | | |
|----|----------------|-----|------|------------------|
| 1 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭化物層 (厚5mm以下) 少量 |
| 2 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | こぶみ黄色シルトブロック少量 |
| 3 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | |
| 4 | 10YR3/2黒褐色シルト | 粘液中 | しまり弱 | |
| 5 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | |
| 6 | 5層に同じ | | | |
| 7 | 5層に同じ | | | |
| 8 | 5層に同じ | | | |
| 9 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | |
| 10 | 5層に同じ | | | |
| 11 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | |
| 12 | 5層に同じ | | | |
| 13 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 粘液中 |
| 14 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 粘液中 |
| 15 | 5層に同じ | | | 粘液中 |
| 16 | 5層に同じ | | | 粘液中 |
| 17 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | 粘液中 |
| 18 | 10YR3/3/1灰色シルト | 粘液中 | しまり弱 | 粘液中 |
| 19 | 1層に同じ | | | 粘液中 |
| 20 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | 粘液中 |
| 21 | 18層に同じ | | | 粘液中 |

SE1998 (12C11)



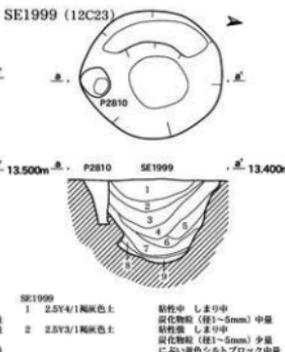
- SE1998
- | | | | | |
|----|----------------|-----|------|------------------|
| 1 | 7.5YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | こぶみ黄色シルトブロック少量 |
| 2 | 7.5YR3/2黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | こぶみ黄色シルトブロック少量 |
| 3 | 7.5YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | こぶみ黄色シルトブロック少量 |
| 4 | 2.5Y6/3/1灰色シルト | 粘液中 | しまり弱 | 黒褐色土ブロック少量 |
| 5 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | 炭化物層 (厚3mm以下) 少量 |
| 6 | 2.5Y6/3/1灰色シルト | 粘液中 | しまり弱 | |
| 7 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | |
| 8 | 6層に同じ | | | |
| 9 | 6層に同じ | | | |
| 10 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | こぶみ黄色シルトブロック少量 |

SE1996 (12C6,7)



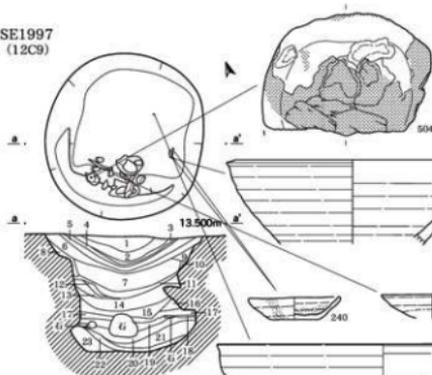
- SE1996
- | | | | | |
|----|----------------|-----|------|-------------|
| 1 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | |
| 2 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭色シルトブロック中量 |
| 3 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭色シルトブロック少量 |
| 4 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭色シルトブロック中量 |
| 5 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭色シルトブロック中量 |
| 6 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭色シルトブロック中量 |
| 7 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭色シルトブロック中量 |
| 8 | 10YR4/2灰黒褐色シルト | 粘液中 | しまり弱 | 炭色シルトブロック中量 |
| 9 | 10YR4/2灰黒褐色シルト | 粘液中 | しまり弱 | 炭色シルトブロック中量 |
| 10 | 10YR4/2灰黒褐色粘土 | 粘液中 | しまり弱 | 炭色シルトブロック中量 |

SE1999 (12C23)

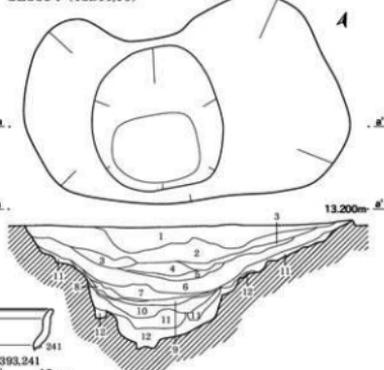


- SE1999
- | | | | | |
|---|----------------|-----|------|------------------|
| 1 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭化物層 (厚1-5mm) 中量 |
| 2 | 2.5Y3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | 炭化物層 (厚1-5mm) 少量 |
| 3 | 2.5Y3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | こぶみ黄色シルトブロック中量 |
| 4 | 2.5Y3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | こぶみ黄色シルトブロック中量 |
| 5 | 2.5Y3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり中 | こぶみ黄色シルトブロック中量 |
| 6 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | こぶみ黄色シルトブロック中量 |
| 7 | 2.5Y4/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | こぶみ黄色シルトブロック中量 |
| 8 | 2.5Y6/3/1灰色シルト | 粘液中 | しまり弱 | 粘液中 |
| 9 | 2.5Y3/1黒褐色土 | 粘液中 | しまり弱 | 粘液中 |

SE1997
(12C9)



SE3094 (18B11,16)



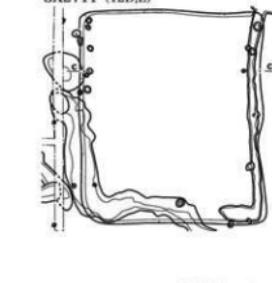
SE1997

- | | | |
|----|------------------|--------------------------------|
| 1 | 10YR3/1黒褐色土 | 新積中 しまり中 炭化物粒 (径5mm以下) |
| 2 | 10YR3/1黒褐色土 | におい黄褐色シルトブロック多量 |
| 3 | 10YR3/2黒褐色土 | 新積中 しまり中 |
| 4 | 10YR3/1黒褐色土 | 新積中 しまり中 黒褐色土 炭化物粒 (径3mm以下) 多量 |
| 5 | 10YR3/2黒褐色土 | 新積中 しまり中 におい黄褐色シルトブロック多量 |
| 6 | 10YR4/1褐色土 | におい黄褐色シルトブロック多量 新積しまりとも中 |
| 7 | 10YR4/1褐色土 | 新積中 しまり中 灰色シルトブロック多量 |
| 8 | 10YR3/1黒褐色土 | 新積中 しまり中 におい黄褐色シルトブロック多量 |
| 9 | 10YR4/1褐色土 | 新積中 しまり中 におい黄褐色シルトブロック多量 |
| 10 | 10YR4/1褐色土 | 新積中 しまり中 におい黄褐色シルトブロック多量 |
| 11 | 10YR3/1黒褐色土 | 新積中 しまり中 |
| 12 | 10GY6/1緑灰色シルト | 新積中 しまり中 炭化物粒 (径10mm) 少量 |
| 13 | 10YR4/1褐色土 | 新積中 しまり中 灰色シルトブロック少量 |
| 14 | 10YR4/1褐色土 | 新積中 しまり中 |
| 15 | 10YR4/1褐色土 | 新積中 しまり中 におい黄褐色シルトブロック多量 |
| 16 | 10YR5/4におい黄褐色シルト | 炭化物 (径5~10mm) 少量 |
| 17 | 10YR5/4におい黄褐色シルト | 新積中 しまり中 炭化物粒 (径1~5mm) 少量 |
| 18 | 10YR5/4におい黄褐色シルト | 新積中 しまり中 |
| 19 | 17層に同じ | |
| 20 | 10GY6/1緑灰色シルト | 新積中 しまり中 黒色土ブロック多量 |
| 21 | 10GY6/1緑灰色シルト | 新積中 しまり中 黒色土ブロック少量 |
| 22 | N2/黒色シルト | 新積中 しまり中 炭化物粒 (径1~10mm) 多量 |
| 23 | 10GY6/1緑灰色シルト | 新積中 しまり中 炭化物粒 (径1~2mm) 少量 |

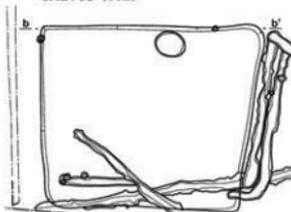
SE3094

- | | | |
|----|-----------------|--------------------------------------|
| 1 | 2.5Y3/2黒褐色シルト | 新積あり しまりあり N b 5Y5/2灰色オリーブシルト堆山ブロック% |
| 2 | 1層10YR3/1黒褐色シルト | 新積中 しまり中 砂礫りに限る 新積あり しまりあり |
| 3 | 2.5Y3/2黒褐色土 | 1層より堆山ブロック多く% |
| 4 | 10YR4/1褐色土シルト | 新積あり しまり中やあり マンガン少量 炭ごく微量 |
| 5 | 5 黄褐色土 | 新積あり しまり中やあり 炭ごく微量 |
| 6 | 5 黄褐色土 | 新積あり しまり中やあり N層より炭多く20% |
| 7 | 炭化物層 | 新積あり しまり中やあり N層より多く堆山ブロック7%含む |
| 8 | 10YR4/1褐色土シルト | 新積あり しまり中やあり N b 5Y5/2灰色オリーブシルト |
| 9 | 植物遺体層 | 堆山ブロック40% |
| 10 | 10YR6/2暗灰黄緑土 | 新積中 しまり中 |
| 11 | N b 堆山ブロック | 新積中 しまり中やあり 陶灰粒12% N b 堆山ブロック2% |
| 12 | N b | 新積中 しまり中やあり 陶灰粒土25% |
| | | 新積中 しまり中やあり 堆山ブロック灰色粒土2% |

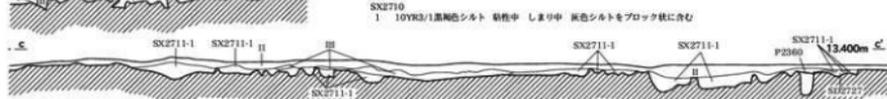
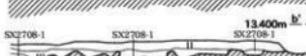
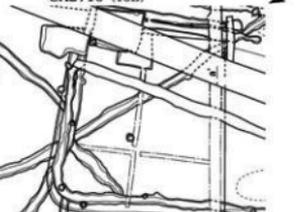
SX2711 (12D,E)



SX2708 (11E)



SX2710 (10E)



SX2711

- | | | |
|---|---------------|-------------------------|
| 1 | 2.5Y3/1黒褐色シルト | 新積中 しまり中 灰色シルトをブロック状に含む |
|---|---------------|-------------------------|

SX2708

- | | | |
|---|---------------|-------------------------|
| 1 | 2.5Y3/1黒褐色シルト | 新積中 しまり中 灰色シルトをブロック状に含む |
|---|---------------|-------------------------|

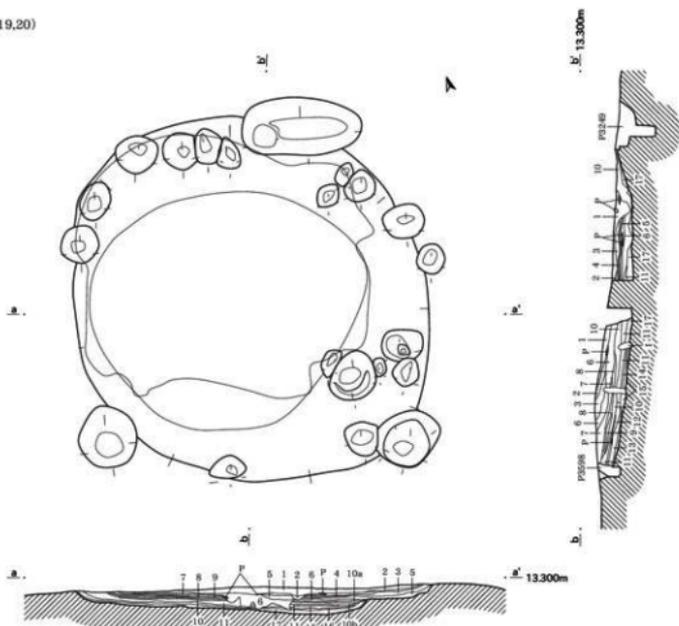
SX2710

- | | | |
|---|---------------|-------------------------|
| 1 | 10YR3/1黒褐色シルト | 新積中 しまり中 灰色シルトをブロック状に含む |
|---|---------------|-------------------------|

SX2711

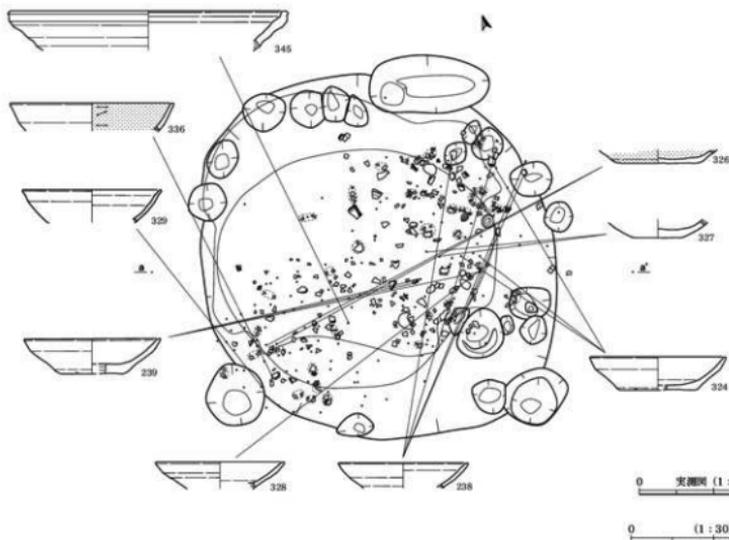
- | | | |
|---|---------------|-------------------------|
| 1 | 2.5Y3/1黒褐色シルト | 新積中 しまり中 灰色シルトをブロック状に含む |
|---|---------------|-------------------------|

SX1786 (8D14,15,19,20)

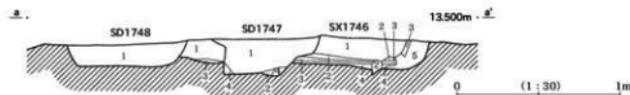
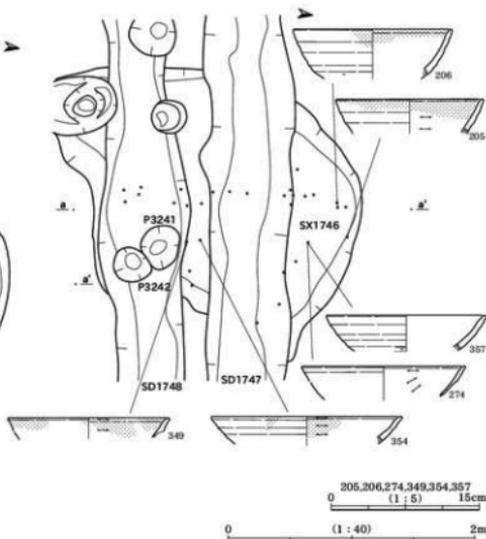
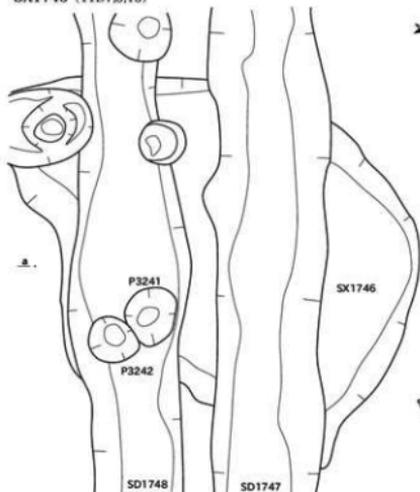


SX1786

- | | | | |
|---------------------|---|----------------------|----------------------|
| 1 7.5YR3/1黒褐色土 | 粘液中 しまり層 明褐色シルトブロック少量
炭化物粒 (径20mm以下) 中量 赤褐色粘土粒中量 | 8 7.5YR4/3褐色土 | 粘液中 しまり中 微細な砂土と炭化物少量 |
| 2 7.5YR3/1黒褐色土 | 粘液中 しまり層 明褐色シルトブロック少量
炭化物粒 (径20mm以下) 少量 | 9 10YR6/6明黄褐色シルト | 粘液中 しまり層 |
| 3 2.5YR6/3に赤い黄褐色シルト | 炭化物粒 (径5mm以下) 少量 赤褐色粘中量 | 10 7.5YR3/1黒褐色土 | 粘液中 しまり層 |
| 4 10YR3/1黒褐色土 | 粘液中 しまり中 炭化物粒 (径10mm以下) 中量 | 11 2.5YR3/2に赤い黄褐色シルト | 粘液中 しまり層 |
| 5 10YR3/2に赤い黄褐色シルト | 微細な炭化物粒少量 | 12 11層と同じ | 粘液中 しまり中 炭化物少量 |
| 6 10YR2黒褐色土 | 粘液中 しまり中 赤褐色土と炭化物中量 | 13 11層と同じ | 粘液中 しまり層 中白色の赤い砂土 |
| 7 7.5YR3/3暗褐色土 | 粘液中 しまり層 微細な砂土と炭化物中量 | 14 7.5Y2/1黒褐色土 | 粘液中 しまり層 片層が粘土化したもの |
| | | 15 7.5YR4/2赤褐色土 | 粘液中 しまり層 中黄褐色土化したもの |
| | | 16 5YR5/4に赤い黄褐色シルト | 粘液中 しまり層 中黄褐色土 |
| | | 17 2.5Y4/1黄褐色土 | |



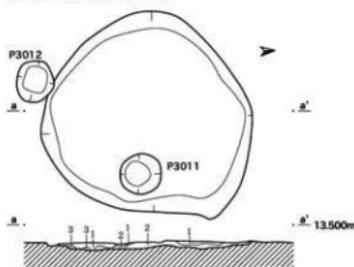
SX1746 (11D7.8,13)



SX1746

- | | | | | |
|---|----------------|-----|------|---------------------|
| 1 | 2.5Y4/4オリーブ褐色土 | 新焼中 | しまり中 | 炭化物粒 (径2mm以下) 少量 |
| 2 | 2.5Y4/1黄灰色土 | 新焼中 | しまり中 | 炭化物粒 (5mm以下) や焼土粒中量 |
| 3 | 7.5Y4/3黄褐色土 | 新焼中 | しまり中 | |
| 4 | 2.5Y4/1黄灰色土 | 新焼中 | しまり中 | やや焼土化 |
| 5 | 2.5Y4/4オリーブ褐色土 | 新焼中 | しまり中 | 炭化物 (径2mm以下) 微量 |

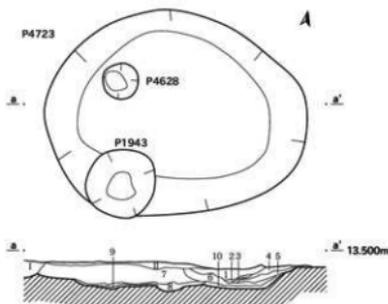
SX1921 (10C19,20,24,25)



SX1921

- | | | | | |
|---|-----------------|-----|------|---------------------------|
| 1 | 2.5Y3/1黄褐色土 | 新焼中 | しまり中 | にがい褐色の上中層炭化物粒 (径5mm以下) 少量 |
| 2 | 2.5Y3/3にがい黄色シルト | 新焼前 | しまり中 | |
| 3 | 7.5Y3/5にがい褐色土 | 新焼前 | しまり中 | 炭化物粒 (径5-10mm) 少量 |

SX1973 (10C20,11C16)

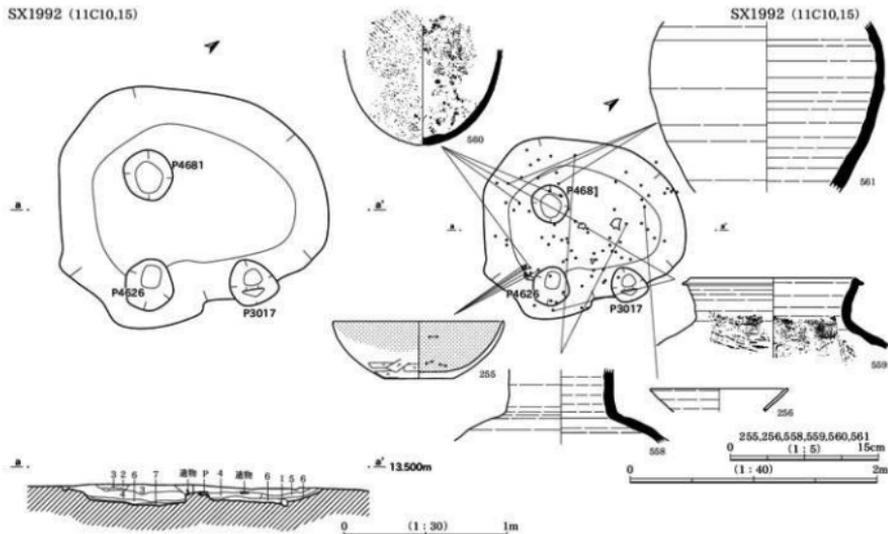


SX1973

- | | | | | |
|----|-----------------|-----|------|------------------|
| 1 | 2.5Y6/2灰黄色シルト | 新焼中 | しまり中 | 炭化物粒 (径5mm以下) 少量 |
| 2 | 2.5Y5/1黄灰色土 | 新焼中 | しまり中 | 5mm以下の炭化物粒中量 |
| 3 | 2.5Y5/3にがい黄色土 | 新焼中 | しまり中 | 炭化物 (径5mm) 少量 |
| 4 | 2.5Y5/1黄灰色土 | 新焼中 | しまり中 | |
| 5 | 2.5Y5/3にがい黄色土 | 新焼中 | しまり中 | |
| 6 | 2.5Y5/1黄灰色土 | 新焼前 | しまり中 | 炭化物 (径5mm以下) 少量 |
| 7 | 2.5Y5/3にがい黄色シルト | 新焼前 | しまり中 | 炭化物 (径5mm) 少量 |
| 8 | 10YR2/1黒色土 | 新焼中 | しまり中 | |
| 9 | 7.5Y5/4にがい黄色シルト | 新焼中 | しまり中 | |
| 10 | 2.5Y5/1黄灰色土 | 新焼前 | しまり中 | にがい黄色シルトブロック中量 |



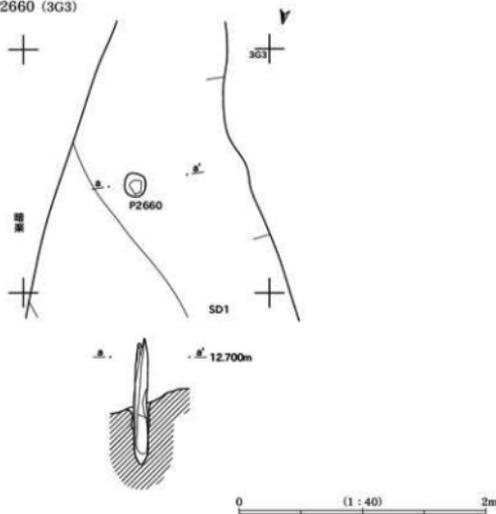
SX1992 (11C10,15)

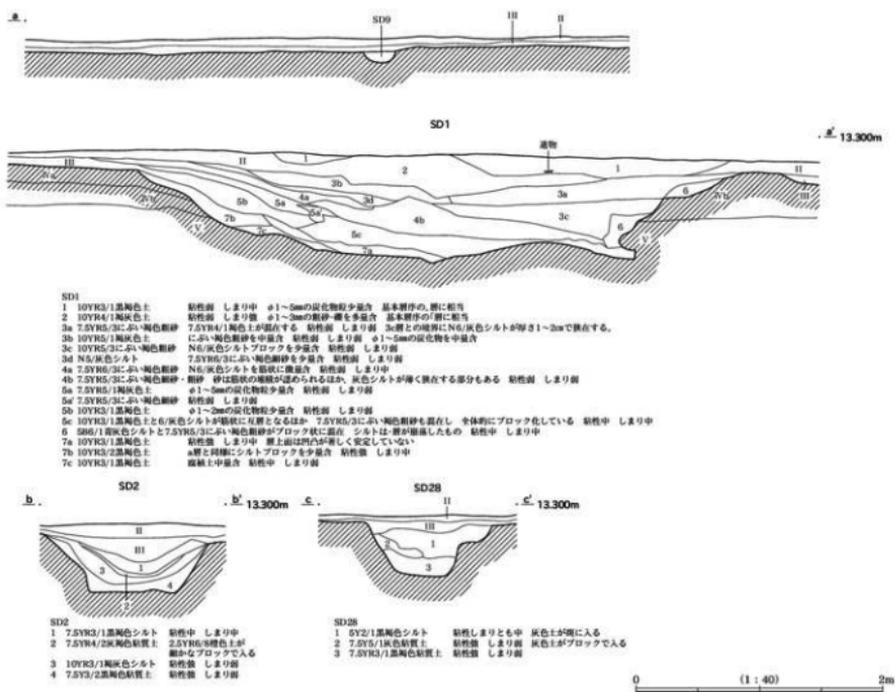
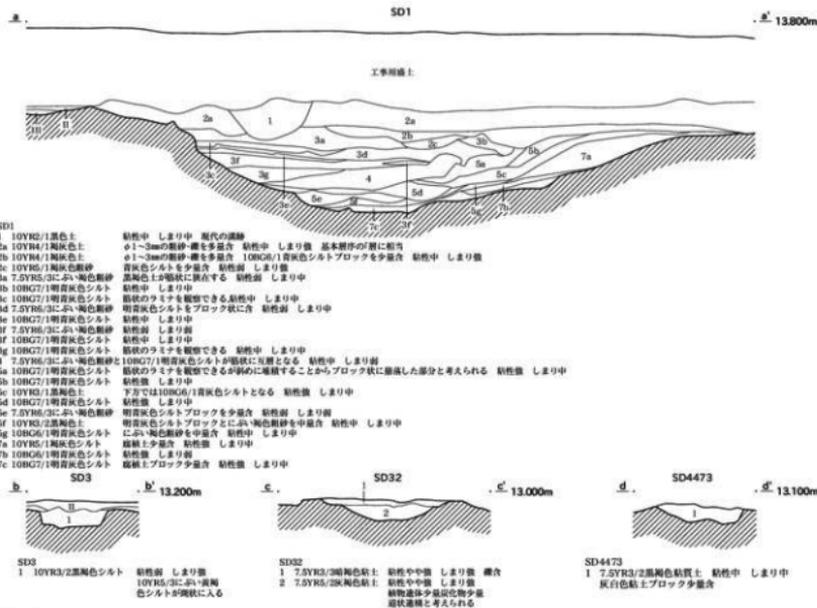


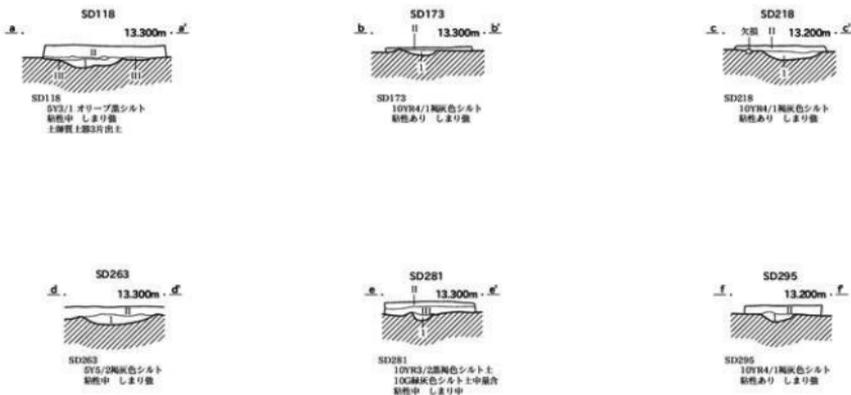
SX1992

- | | | | | | |
|---|------------------|-----|------|-----------------|-----------------|
| 1 | 10YR3/1黒褐色土 | 黏性中 | しまり中 | におい・黄色シルトブロック中量 | 炭化物 (径3mm以下) 少量 |
| 2 | 10YR4/1褐色土 | 黏性中 | しまり中 | におい・黄色シルトブロック中量 | |
| 3 | 2.5YR/3におい・黄色シルト | 黏性中 | しまり中 | におい・黄色シルトブロック中量 | 炭化物 (2mm以下) 少量 |
| 4 | 10Y4/1褐色土 | 黏性中 | しまり中 | におい・黄色シルトブロック中量 | 炭化物 (2mm以下) 少量 |
| 5 | 10YR3/3暗褐色土 | 黏性強 | しまり中 | 炭化物 (2mm以下) 少量 | |
| 6 | 2.5Y2/1黒色土 | 黏性強 | しまり中 | | |
| 7 | 7.5YR4/3褐色土 | 黏性弱 | しまり強 | | |

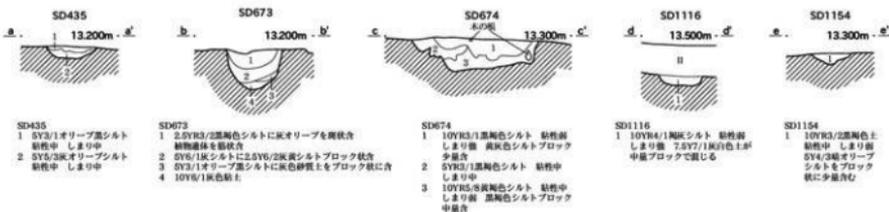
P2660 (3G3)



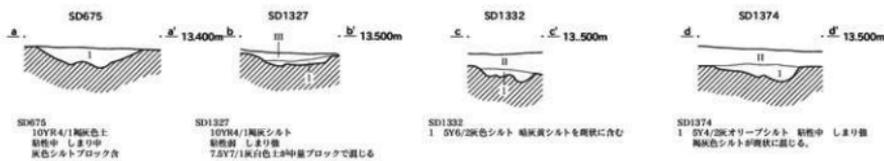




遺構分割図 (4) に対応

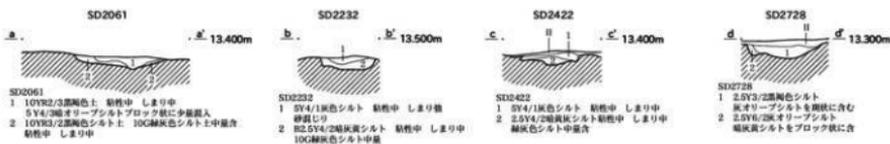


遺構分割図 (3) に対応

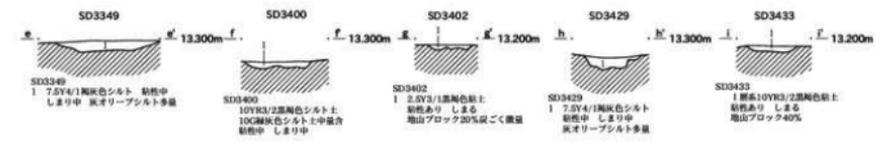
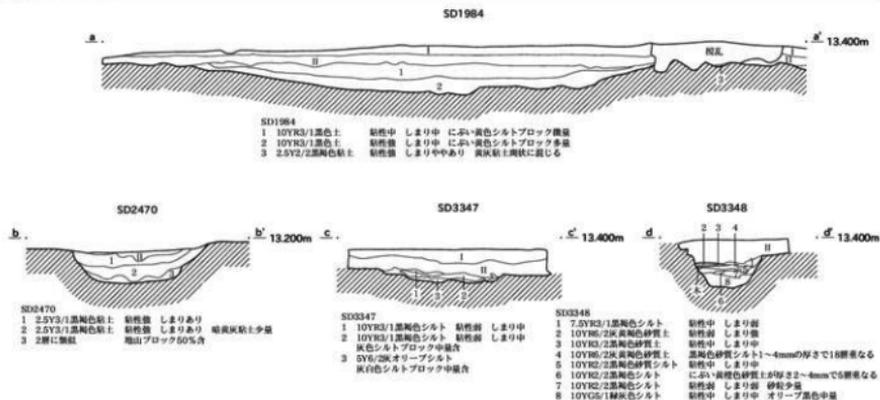


遺構分割図 (6) に対応

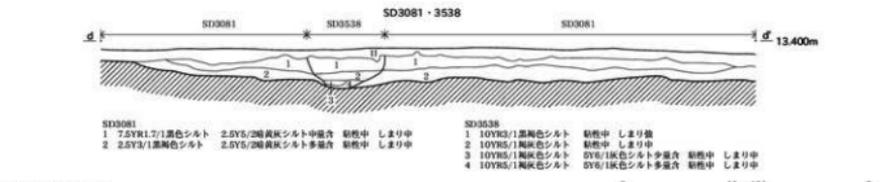
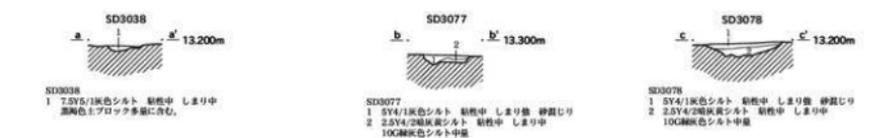




遺構分割図 (5) に対応

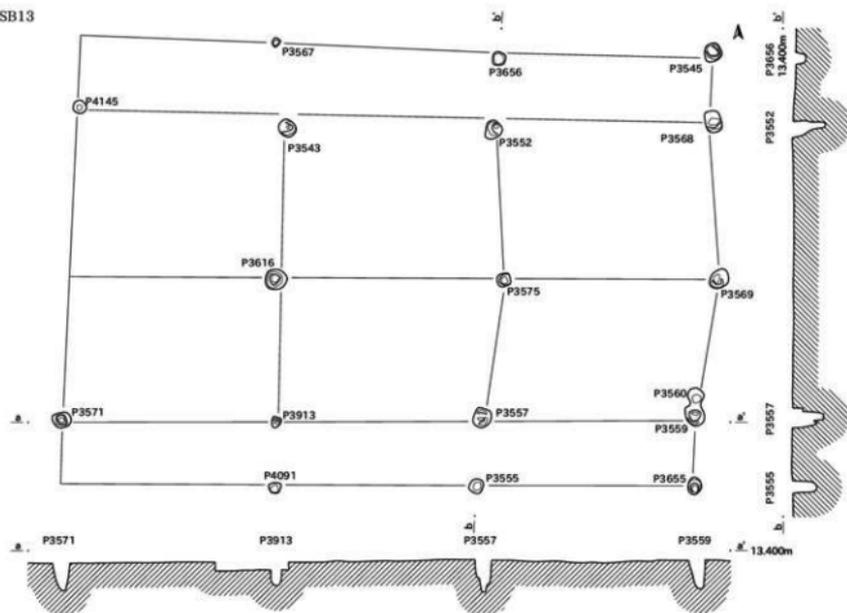


遺構分割図 (8) に対応

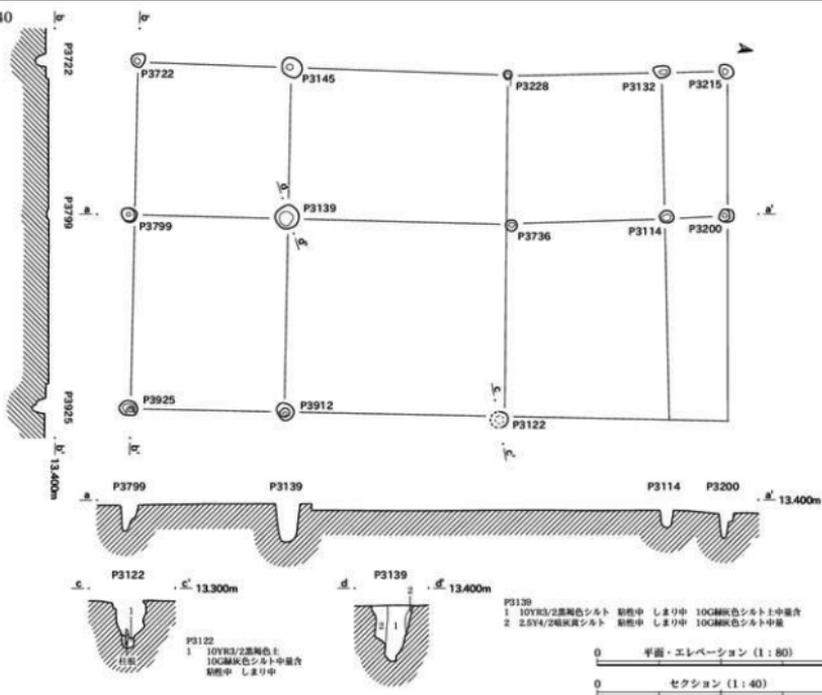


遺構分割図 (7) に対応

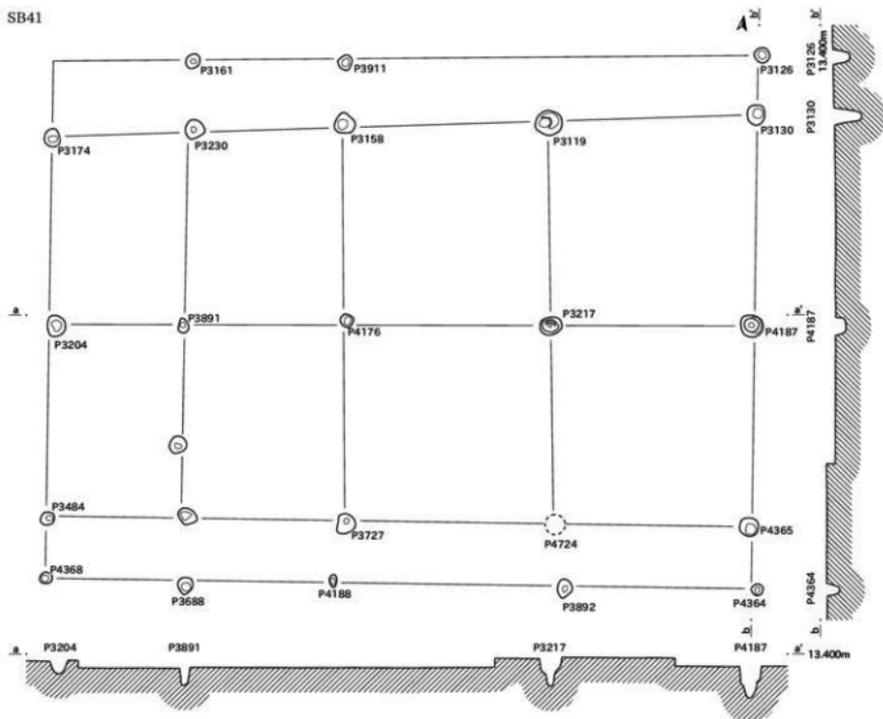
SB13



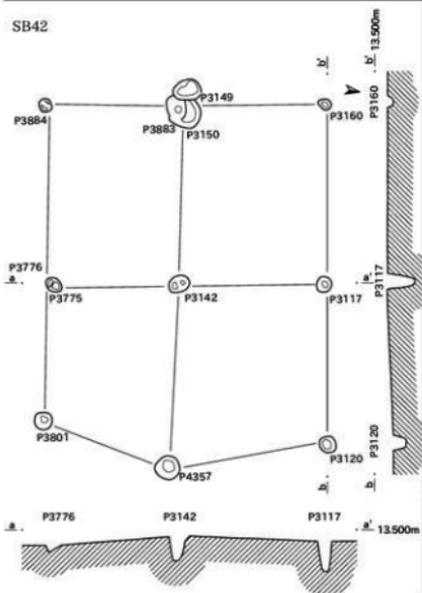
SB40



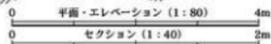
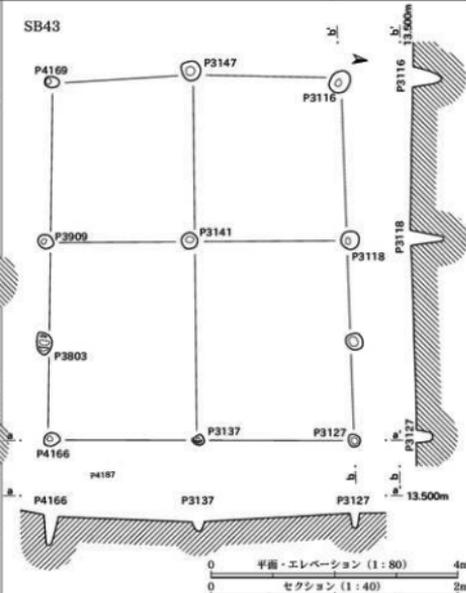
SB41

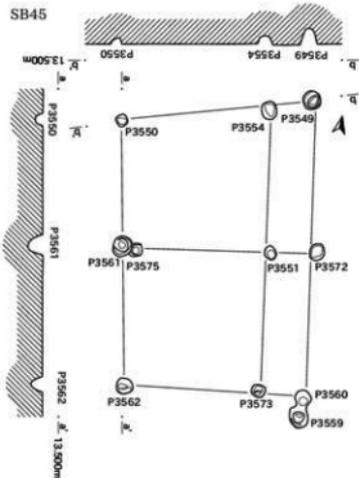
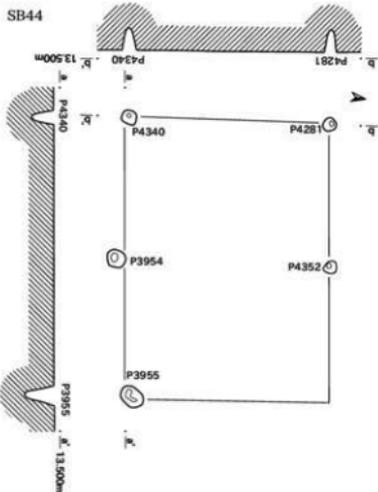


SB42

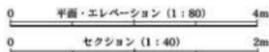
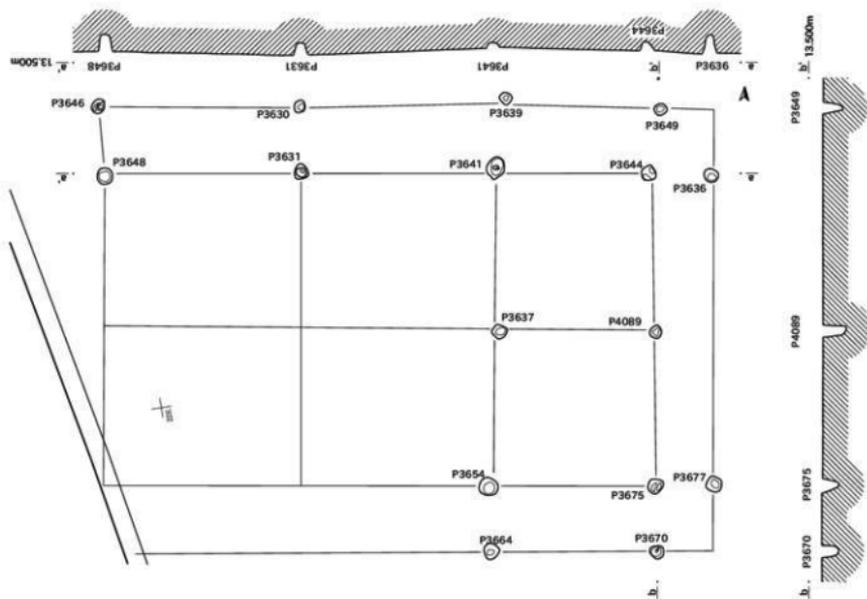


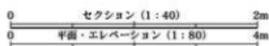
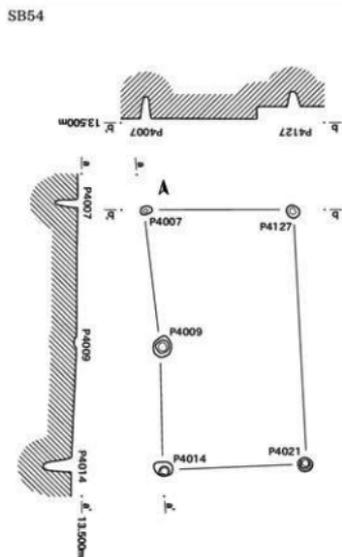
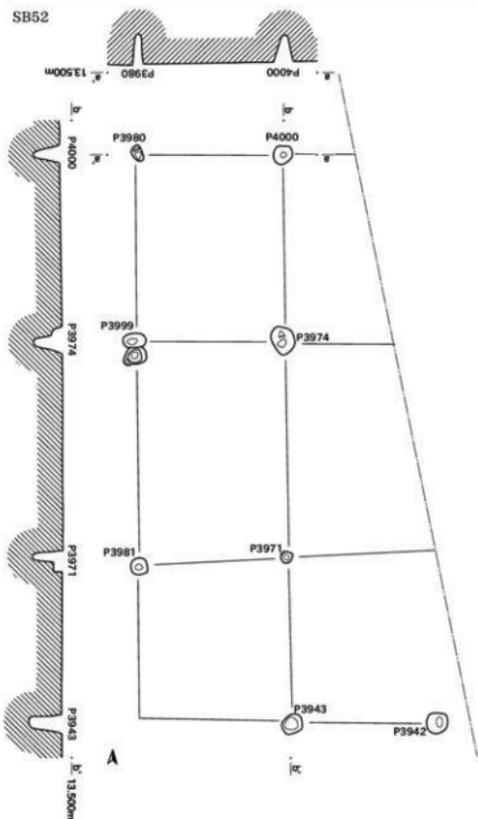
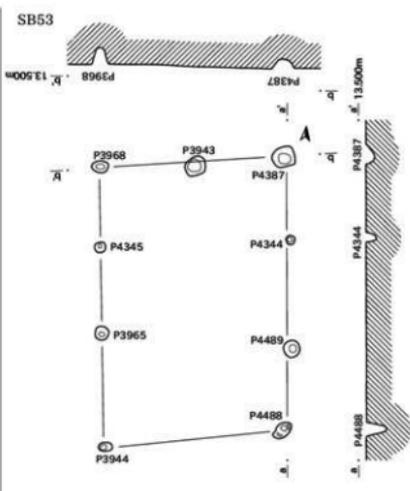
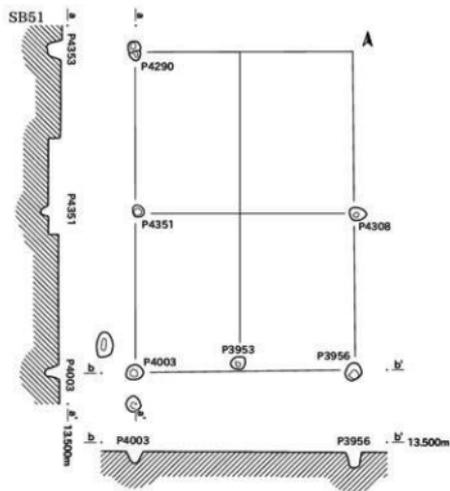
SB43



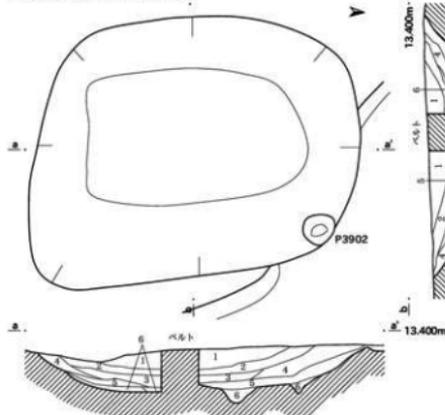


SB47



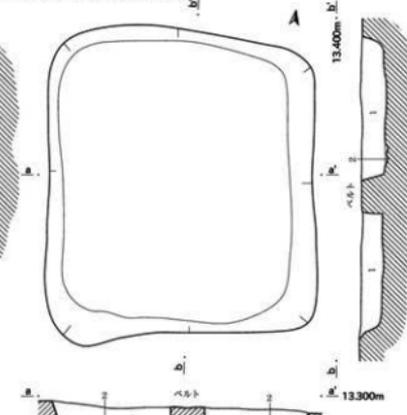


SK3793 (20C18,19,23,24)



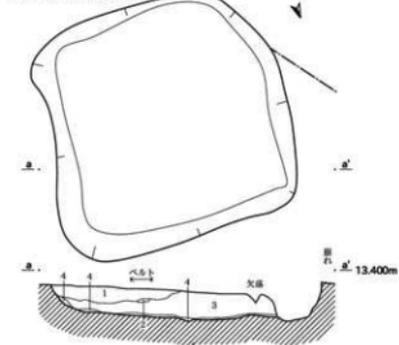
- SK3793
- | | | | | |
|---|-------------------|------------|---------|-----------------------------|
| 1 | 黒褐色シルトと褐色シルトが混在する | 粘性強 | しまり強 | 段ごくり遺構 |
| 2 | 2.5Y3/2黒褐色シルト | 粘性強 | しまりややあり | マンガン少量 炭1% |
| 3 | 10YR4/1黒褐色シルト | 粘性強 | しまりやや中 | マンガン少量 炭1% |
| 4 | 10YR4/1黒褐色シルト | 粘性強 | しまりあり | Nb層5.5%炭オリープシルト堆山ブロック7% 炭1% |
| 5 | 10YR4/1黒褐色シルト | V弱堆山ブロック2% | | |
| 6 | 褐色粘土 | 粘性強 | しまりやや中 | V弱堆山ブロック5% 炭微量土 |

SK3915 (21C8,9,10,13,14,15)



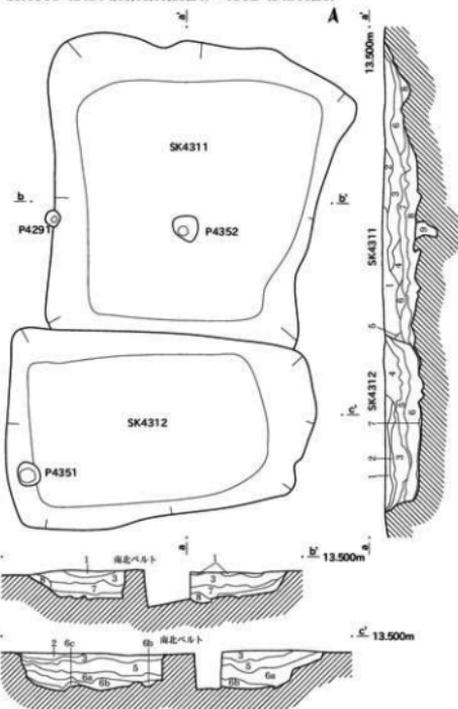
- SK3915
- | | | | | |
|---|--|-----|------|------------|
| 1 | Nb層5.5%炭オリープシルト堆山ブロックに10YR4/1黒褐色シルト40%含む | 粘性強 | しまり強 | マンガン少量 炭1% |
| 2 | 2.5Y3/1黒褐色粘土 | 粘性強 | しまり強 | |

SK4252 (18B21,18C1)



- SK4252
- | | | | | |
|---|---------------|-----|------|-----------------------------------|
| 1 | 2.5Y3/2黒褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 10YR4/1黒褐色シルトブロック状に7%含む |
| | | | | Nb層堆山ブロック2%含む 炭化物1%含む マンガン少量含む |
| 2 | 10YR4/1黒褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | Nb層堆山ブロック10%混在に含 炭化物1%含む マンガン少量含む |
| 3 | Nb層砂粒凝結粘土 | 粘性中 | しまり強 | |
| 4 | 10YR5/1黒褐色粘土 | 粘性中 | しまり中 | 堆積土 |

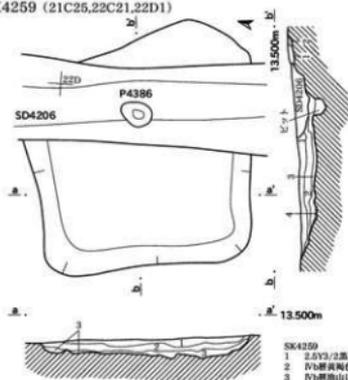
SK4311 (24D14,15,18,19,20,24)・4312 (24D15,20)



- SK4311
- | | | | | |
|---|------------------|-----|------|----------------|
| 1 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック中量 |
| 2 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |
| 3 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |
| 4 | 2.5Y6/3に白い黄色シルト土 | 粘性中 | しまり中 | |
| 5 | 2.5Y6/3に白い黄色シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 6 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |
| 7 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |
| 8 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |
| 9 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |

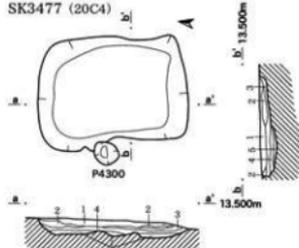
- SK4312
- | | | | | |
|----|---------------|-----|------|----------------|
| 1 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック少量 |
| 2 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | |
| 3 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |
| 4 | 10YR5/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |
| 5 | 10YR4/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルトブロック多量 |
| 6 | 10YR3/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルト多量 |
| 6a | 6c&6dと同一 | | | |
| 6b | 10YR3/1黒褐色土 | 粘性中 | しまり中 | に白い黄色シルト中量 |
| 7 | 10YR3/1黒褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | |

SK4259 (21C25,22C21,22D1)



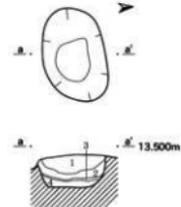
- SK4259
 1 2.0V3/2深褐色シルトにP4埋地山ブロック3% 灰色物埋藏品 マンガン少量 粘粒中 しまり盛
 2 P4埋黄褐色砂質土 褐色土ブロック1% P4埋地山ブロック1%マンガン少量炭化物混合 粘粒中 しまりやや盛
 3 P4埋地山に厚層黒褐色土を覆状に5%含 粘粒あり しまりやや盛 埋の戻し土

SK3477 (20C4)



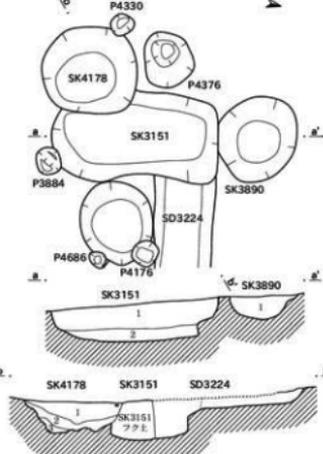
- SK3477
 1 2.0V3/2深褐色シルト 粘粒ややあり しまり盛 P4埋5V5/2灰オーリアント 地山ブロック5%
 マンガン少量 灰1%
 2 P4埋 地山ブロック5% 灰2%
 3 砂質腐植土
 4 10V/R4/1褐色シルト 粘粒あり しまりあり
 5 V埋地山ブロックに2.0V3/2深褐色シルト30% 粘粒あり しまり盛 マンガン少量 炭ごく微塵

SK3148 (19C10)



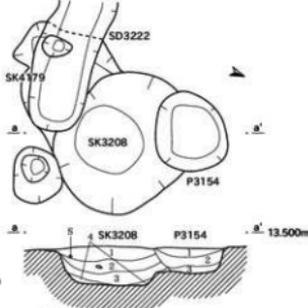
- SK3148
 1 10V/R4/1褐色シルト 粘粒しまり盛
 地山ブロック10% 炭ごく微塵
 2 10V/R4/1褐色シルト 粘粒盛 しまり盛
 マンガン少量 灰1%
 3 砂質腐植土
 4 5V5/2灰オーリアント 褐色シルト10%
 粘粒盛 しまりあり

SK3151・3890・4178 (19C5,10,20C1)



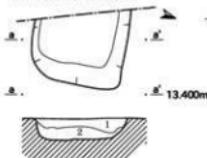
- SK4178
 1 10V/R4/1褐色シルト 粘粒あり しまり盛 5V5/2灰オーリアント
 ブロック1%含む 灰1%
 2 10V/R3/2深褐色シルト 粘粒中 しまり盛 砂質じり
 P4埋地山ブロック5% 灰5%
 3 5V5/2灰オーリアント 粘粒盛 しまり中 褐色シルト少量含
- SK3151
 1 10V/R4/1褐色シルト 粘粒盛 しまりあり 灰オーリアントブロック5%
 2 10V/R3/2深褐色シルト 粘粒中 しまり盛 砂質じり
 P4埋地山ブロック2%含む 灰1%含む
- SK3890
 1 10V/R3/2深褐色シルト 粘粒中 しまり盛 1層に埋置

SK3154・3208 (19C4・5)



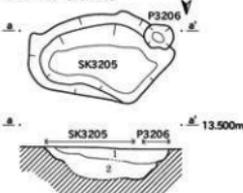
- SK3208
 1 10V/R4/1褐色シルト 粘粒あり しまりあり
 P4埋5V5/2灰オーリアント 地山ブロック3% 灰1%
 2 砂質腐植土 地山ブロック1%
 3 砂質腐植土
 4 10V/R4/1褐色シルト 粘粒あり しまり
 P4埋地山ブロック10%

SK3225 (19B12,13)



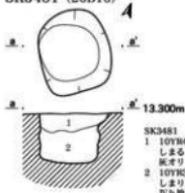
- SK3225
 1 2.0V3/2深褐色シルト 粘粒盛 しまり盛
 マンガン少量 炭ごく微塵
 2 10V/R4/1褐色シルト 粘粒盛 しまり盛
 地山ブロック50%

SK3205 (19B20)



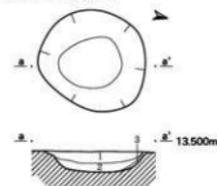
- SK3205
 1 10V/R4/1褐色シルト 粘粒あり しまり盛 炭化物微塵 5V5/2灰オーリアントブロック5%
 2 10V/R3/2深褐色シルト 粘粒中 しまり中 P4埋地山ブロック20%

SK3481 (20B16)



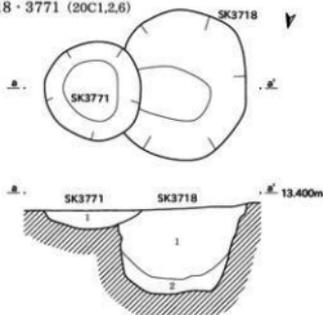
- SK3481
 1 10V/R4/1褐色シルト 粘粒あり
 しまり盛 炭ごく微塵 5V5/2
 灰オーリアント 地山ブロック10%
 2 10V/R3/2深褐色シルト 粘粒中
 しまり盛 砂質じり
 P4埋地山ブロック30%

SK3181 (19B25)



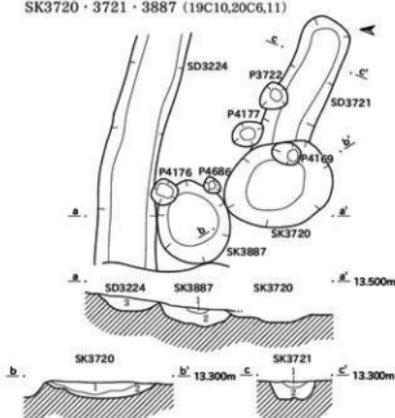
- SK3181
 1 2.0V3/2深褐色シルト 粘粒あり しまりあり
 地山ブロック3% 炭ごく微塵
 2 10V/R3/2深褐色シルト 粘粒中 しまり中
 3 5V4/1褐色シルト 粘粒中 しまり盛 砂質じり
 地山ブロック30%

SK3718・3771 (20C1,2,6)



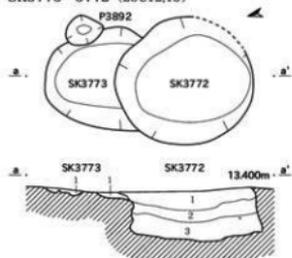
- SK3718
1 10YR4/1褐色シルト 灰色シルト
ブロックが嵌状に散じる 粘性あり しまる 底ごく濃黒
2 5Y2/1オリーブ黄シルト 灰オリーブシルトと交互に層状に堆積する 粘性あり しまりややあり
- SK3771
1 10YR4/1褐色シルト 粘性あり しまる 5Y2/2灰オリーブシルト1% 底2%

SK3720・3721・3887 (19C10,20C6,11)



- SK3720
1 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまり強 5Y2/2灰オリーブシルト少量 底7%含む
2 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまりあり 灰オリーブシルトブロック15%含む 底3%含む
- SK3721
1 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまり強 5Y2/2灰オリーブシルトブロック30%含む
2 5Y1/1灰色シルト40%含む 粘性しまり強 マンガン少量
- SK3887
1 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまりあり 灰オリーブシルトブロック15%含む
2 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまりあり 灰オリーブシルトブロック5%含む 底3%含む

SK3773・3772 (20C12,13)



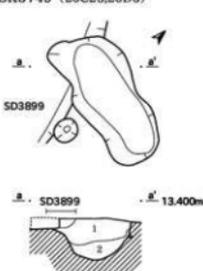
- SK3772
1 2.5Y/2濃褐色シルト 粘性 しまる 灰オリーブシルトブロック5%含む
底1%含む
2 10YR3/2濃褐色シルト 粘性 しまり強 底2%含む
3 5Y4/1灰色シルト 粘性 しまり強 砂礫じり 底7%含む
- SK3773
1 10YR3/2濃褐色シルト上 10G褐色シルト上中量 粘性 しまり中

SK3742 (21C6・7)



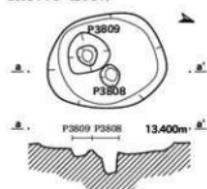
- SK3742
1 10YR3/2濃褐色シルト 粘性ややあり しまり強 底ごく濃黒
2 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまり強 灰オリーブシルトブロック2% 底1% マンガン微量
3 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまり中 灰オリーブシルト少量 底ごく濃黒

SK3749 (20C23,20D3)



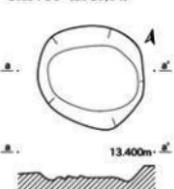
- SK3749
1 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまり強 灰オリーブシルトブロック底状7% 底1%
2 5Y4/1灰色シルト 粘性 しまり強 砂礫じり 底1%

SK3779 (20C7)



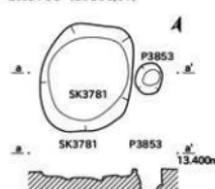
- SK3779
1 10YR4/1褐色シルト 粘性ややあり しまり強 底ごく濃黒

SK3780 (20C9,14)



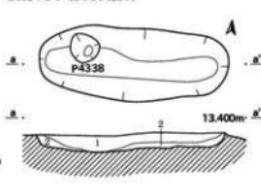
- SK3780
1 10YR4/1褐色シルト 粘性ややあり しまり強 底ごく濃黒

SK3781 (21C16,17)



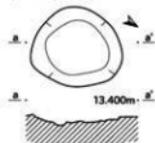
- SK3781
1 10YR4/1褐色シルト 粘性ややあり しまり強 マンガン少量 灰オリーブシルトブロック30% 底含む

SK3784 (21C16,21)



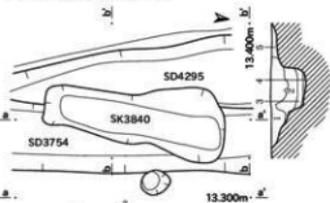
- SK3784
1 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまり強 灰オリーブシルトブロック2% 底ごく濃黒
2 10YR4/1褐色シルト 粘性 しまり強 底1%含む

SK3786 (21C15,21C6)



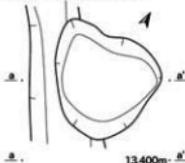
SK3786
1 10YR4/1 褐色シルト 粘性ややあり
しまり強 マンガン5%含 灰オリブ
シルト中量含

SK3840 (20C24,25,21D4)



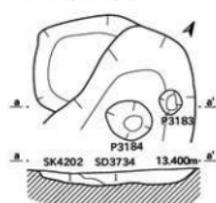
SK3840
1 10YR4/1 褐色シルト 粘性ややあり しまり強 灰オリブシルトブロック3% 炭2% マンガン微量含
2 10YR4/1 褐色シルト 粘性強 しまりあり 灰オリブシルトブロック30% 炭1% マンガン少量含
3 10YR4/1 褐色シルト 粘性強 しまりあり 灰オリブシルトブロック9% マンガン微量 炭極微量含
4 10YR4/1 褐色粘土 粘性強 しまりや強 マンガン微量 炭極微量含
5 2.5YR3/2 褐色シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルトブロック少量含

SK3898 (20C22,20D2)



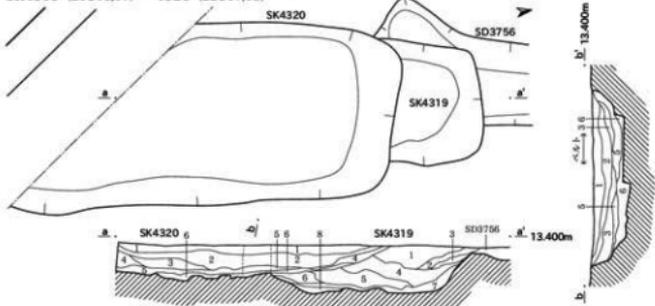
SK3898
1 2.5YR3/2 褐色シルト しまり強 炭少量含 粘性ややあり

SK4202 (20C13,18)



SK4202
1 5YR3/2 灰オリブシルト 粘性ややあり
しまり強 褐色シルト20%含 炭ごく微量含

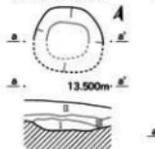
SK4319 (20C16,17)・4320 (22C17,18)



SK4319
1 2.5YR3/2 褐色シルト 黒褐色1% 炭1% マンガン少量含 粘性中 しまり中
2 2.5YR3/2 褐色シルト 褐色シルト5% 黒色1.1% マンガン少量含 粘性中 しまり強
3 2.5YR3/2 褐色シルト 褐色シルト20% 黒色1.7% マンガン少量含 炭1%含 粘性中 しまり強
4 10YR5/1 褐色粘質土 黒褐色20%含 炭微量 しまり中
5 1 膠凝土 黒色1.7% マンガン少量含 粘性中 しまり中
6 2.5YR3/2 褐色シルト 黒褐色1% 炭1% マンガン少量含 粘性中 しまり中
7 10YR5/1 褐色粘質土
8 2.5YR3/2 褐色シルト 10YR5/1 褐色粘質土15% マンガン少量含 粘性中 しまり強

SK4320
1 2.5YR3/2 褐色シルト 赤褐色シルトブロック7% 黒褐色シルトブロック2% 炭1%含 マンガン微量含 粘性中 しまり強
2 2.5YR3/2 褐色シルト 赤褐色シルトブロック7% 黒褐色シルトブロック7%含 粘性中 しまり強
3 2 膠凝土 黒褐色シルトブロック13% 赤褐色シルトブロック10%含 粘性中 しまり強
4 10YR4/1 褐色シルト 黒褐色シルトブロック10%含 炭1% マンガン少量含 粘性強 しまり強
5 10YR4/1 褐色シルト 黒褐色1.1% 赤褐色シルトブロック7%含 炭1% マンガン少量含 粘性強 しまり強
6 10YR5/1 褐色粘質土 赤褐色シルトブロック2%含 粘性強 しまり強

SK3936 (27D21,26D25)



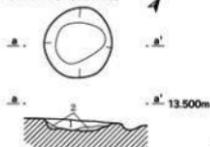
SK3936
1 10YR3/2 褐色シルト
10C 褐色シルト中量含 粘性中 しまり中

SK3937 (27D12,13,17,18)



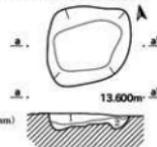
SK3937
1 10YR7/4 赤い黄褐色粘土 粘性強 しまりや強 赤褐色粘質土含

SK4248 (23D13)



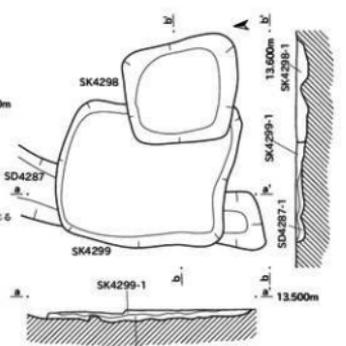
SK4248
1 2.5Y3/1 褐色シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト6% 赤褐色シルト16% 炭微量 (約5mm) ごく微量
2 10YR3/1 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色シルトと赤褐色シルトブロック約6%ずつ混じる

SK4265 (23D3,4,8,9)



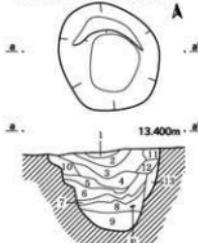
SK4265
1 2.5Y3/2 褐色シルト 粘性強 しまり中 褐色シルト7%ブロック10% 炭微量 (約5mm) ごく微量
2 2.5Y3/2 褐色シルト 粘性強 しまり中 褐色シルトブロック約9%

SK4298・4299 (24D13,14,15,18,19,20,24)



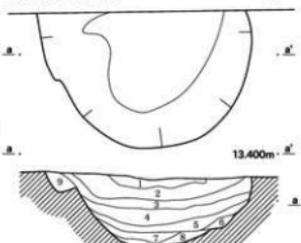
SK4298
1 10YR2/2 褐色粘土 粘性中 しまり中 暗オリブシルトブロック中に少量混入
SK4299
1 10YR3/2 褐色シルト 粘性中 しまり中 褐色シルト中量含

SE3650 (21E18.19.23.24)



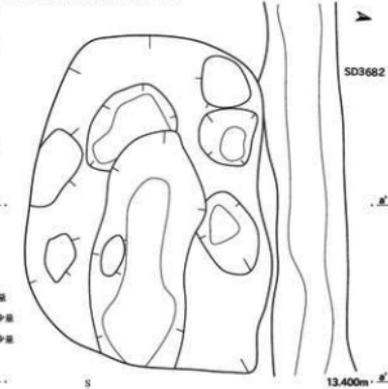
- SE3650
- 1 2.5Y3/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中
 - 2 10YR3/1黒色シルト 粘粒中 しまり中 黒灰色シルト中層
 - 3 10YR2/1黒色シルト 粘粒中 しまり中 黒灰色シルトが少量
 - 4 10YR2/2黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 洗炭シルトが少量
 - 5 2.5Y/2暗黒色シルト 粘粒中 しまり前 洗炭シルトが少量
 - 6 2.5YR3/1黒褐色シルトに洗炭シルトが少量 粘粒中 しまり前 暗褐色土が多量
 - 7 2.5YR3/2暗黒色シルト 粘粒中 しまり前 暗褐色土が多量
 - 8 10YR3/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり前 洗炭シルトが少量
 - 9 5Y4/1灰白色シルト 灰白色 (径2mm以下) が少量 灰白色シルト 5mm以下 腐植物が少量
 - 10 10YR4/1黒色シルト 粘粒中 しまり中 赤い洗炭が少量
 - 11 10YR4/1黒色シルト 粘粒中 しまり中 黒灰色シルトが多量
 - 12 2.5YR/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 赤褐色土が多量

SE3651 (21D25)



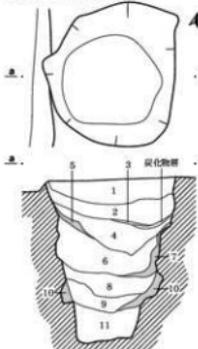
- SE3651
- 1 10YR3/1黒色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色 (径2mm以下) 腐植 黒灰色シルトが少量
 - 2 2.5Y4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色 (径5-10mm) が少量
 - 3 2.5Y4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色 (径5-10mm) が少量
 - 4 10YR3/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 黒灰色シルトが少量
 - 5 2.5Y4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルトが多量
 - 6 2.5Y4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり前 明褐色土が多量
 - 7 2.5YR3/1オレンジ系黒色シルト 粘粒中 しまり前 暗褐色シルトが少量
 - 8 2.5YR3/1オレンジ系黒色シルト 粘粒中 しまり前 暗褐色シルトが少量
 - 9 10YR4/1黒色シルト 粘粒中 しまり中 灰白色シルトが多量

SE3683 (22E23.24.22F.4)



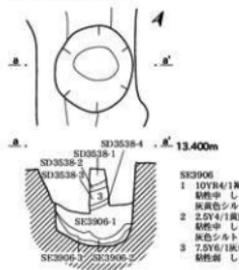
- SE3683
- 1 10Y2/1黒色シルト 粘粒中 しまり前
 - 2 7.5Y3/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 黒灰色シルトが少量
 - 3 7.5Y3/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 黒灰色シルトが少量
 - 4 2.5Y4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり中 洗炭シルトが少量
 - 5 5Y3/1オレンジ系黒色シルト 粘粒中 しまり中 暗褐色シルトが少量
 - 6 7.5Y3/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり前 灰白色 (径5mm) 少量
 - 7 2.5Y4/1黒褐色シルト マンガン多量 粘粒中 しまり前

SE3794 (20C10.15)



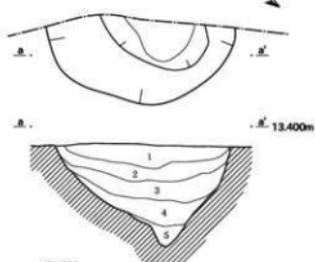
- SE3794
- 1 2.5Y3/2黒褐色シルト 粘粒あり しまり中やあり 赤土地山ブロック7% 炭3%
 - 2 10YR4/1黒色シルト 粘粒あり しまり中やあり 地山ブロック8% 炭2%
 - 3 砂鉄層あり
 - 4 10YR4/1黒色シルト 粘粒あり しまり中やあり V層地山ブロック8% 炭3% マンガン少量
 - 5 灰白色粘層あり しまり前
 - 6 10YR4/1黒色シルト 粘粒中 しまり中 赤土中やあり 炭3% 砂鉄1%
 - 7 灰白色粘層あり しまり前
 - 8 10YR4/1黒色シルト 粘粒中 しまり中 赤土中やあり 炭2% 砂鉄1%
 - 9 10YR4/1黒色シルト 粘粒中 しまり中やあり 炭1%
 - 10 灰白色粘層あり
 - 11 V層地山層 粘粒あり しまり中やあり 黒褐色シルト 10% 粘物 露出

SE3906 (19D24)



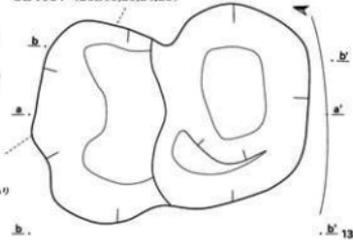
- SE3906
- 1 10YR4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり前 灰白色シルトブロック少量
 - 2 2.5Y4/1黒褐色シルト 粘粒中 しまり前 灰白色シルトブロック少量
 - 3 7.5Y6/1黒色砂質シルト 粘粒中 しまり中

SE4375 (21B21)



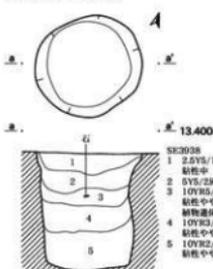
- SE4375
- 1 10YR4/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり前
 - 2 灰白系シルトブロック2% 炭2%
 - 3 10YR3/2黒褐色シルト 粘粒無 しまり前 灰白系シルト地山ブロックと炭1%未満
 - 4 5Y4/1灰色シルト 粘粒中 しまり前 砂鉄あり
 - 5 5Y3/1オレンジ系黒色シルト 粘粒無 しまり前 炭3%含

SE4037 (26E19.20.24.25)

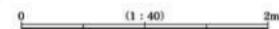


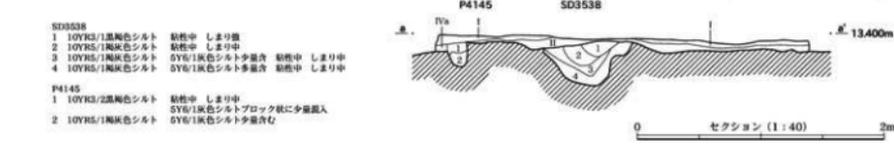
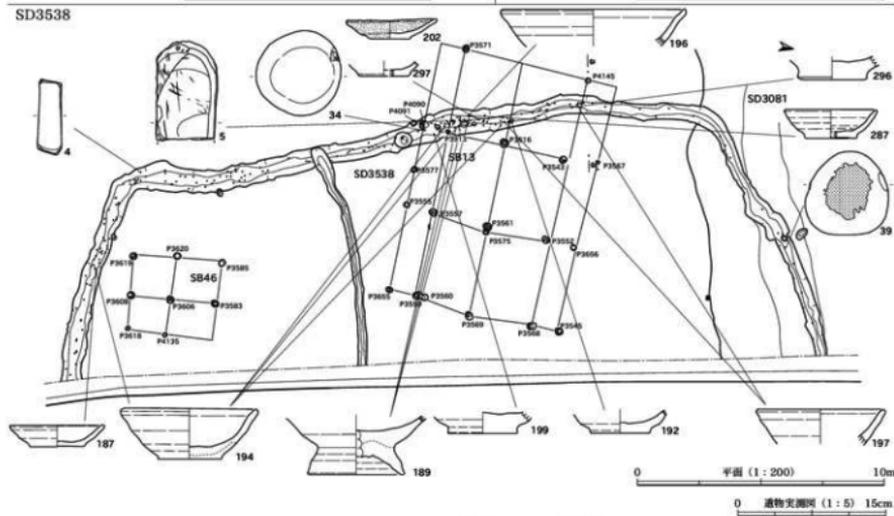
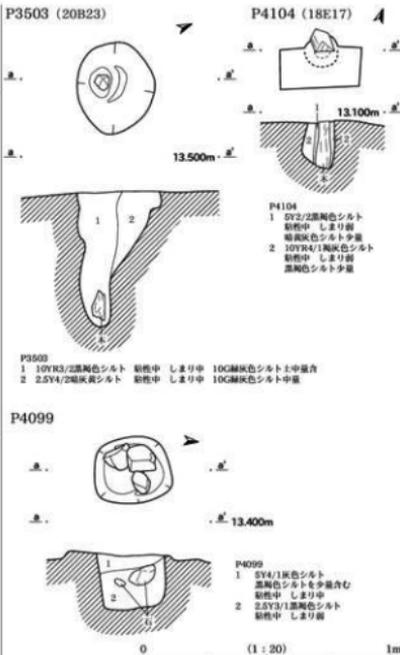
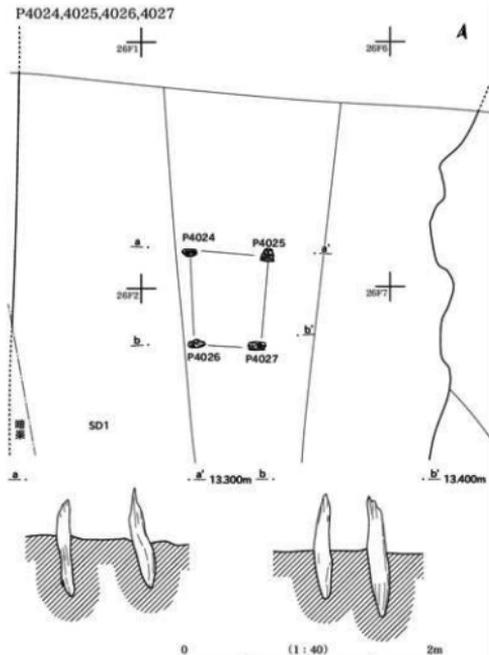
- SE4037
- 1 2.5Y5/2暗黒色シルト 粘粒無 しまり中 赤い洗炭シルトブロック中層
 - 2 2.5Y5/2暗黒色シルト 粘粒無 しまり中 赤い洗炭シルトブロック少量
 - 3 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中 赤い洗炭シルトブロック少量
 - 4 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中 赤い洗炭シルトブロック少量
 - 5 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中 灰白色 (径10mm) 少量
 - 6 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中 灰白色 (径10mm) 少量
 - 7 10YR3/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中 明褐色土 少量
 - 8 7.5Y5/1暗褐色シルト 粘粒無 しまり中 灰白色 (径10mm) 少量
 - 9 2.5Y4/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中
 - 10 2.5Y6/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中
 - 11 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中
 - 12 2.5Y2/1黒色シルト 粘粒無 しまり中
 - 13 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり中
 - 14 2.5Y2/1黒色シルト 粘粒無 しまり中 露出した灰白色少量
 - 15 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり前
 - 16 2.5Y2/1黒色シルト 粘粒無 しまり前
 - 17 2.5Y5/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり前
 - 18 2.5YR4/1黒褐色シルト 粘粒無 しまり前

SE3938 (26D23)

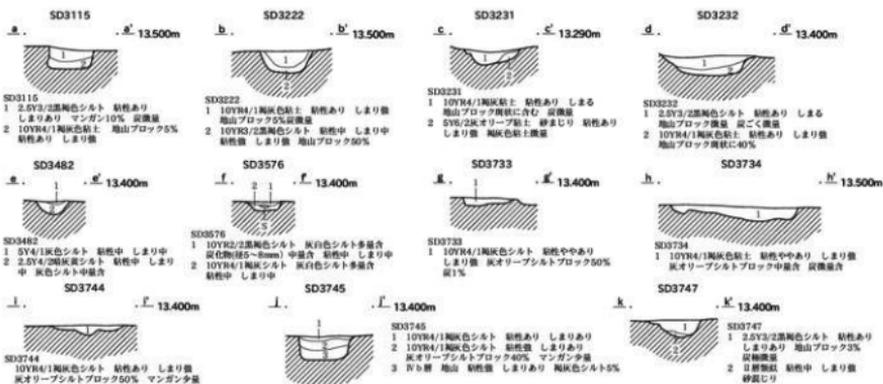


- SE3938
- 1 2.5Y5/1黒褐色シルト 黒灰色シルトが間に入る
 - 2 5Y5/2オレンジ系黒色シルト
 - 3 10YR3/2に赤い洗炭粘土
 - 4 粘粒中やあり しまり中やあり 粘物少量多量 洗炭層1.5cm
 - 5 粘粒中やあり しまり中やあり 灰白ブロック少量





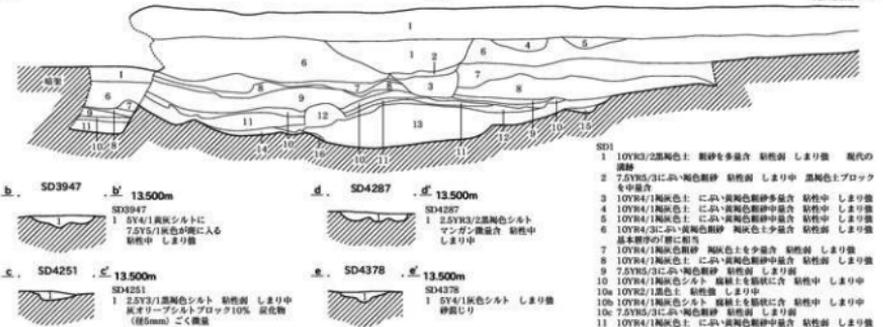
- SD3538
- 1 10YR3/2黒褐色シルト 軟性中 しまり面
 - 2 10YR5/1褐色シルト 軟性中 しまり面
 - 3 10YR5/1褐色シルト 軟性中 しまり面
 - 4 10YR5/1褐色シルト 軟性中 しまり面
- P4145
- 1 10YR3/2黒褐色シルト 軟性中 しまり面
 - 2 5Y6/1灰色シルト少量含む 軟性中 しまり面
 - 3 10YR5/1褐色シルト少量含む 軟性中 しまり面
 - 4 5Y6/1灰色シルト少量含む 軟性中 しまり面



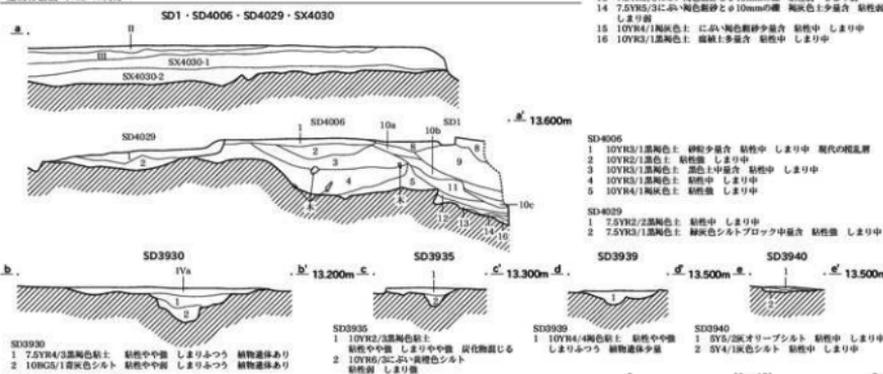
遺構分割図 (10) に対応



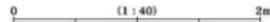
遺構分割図 (9) に対応



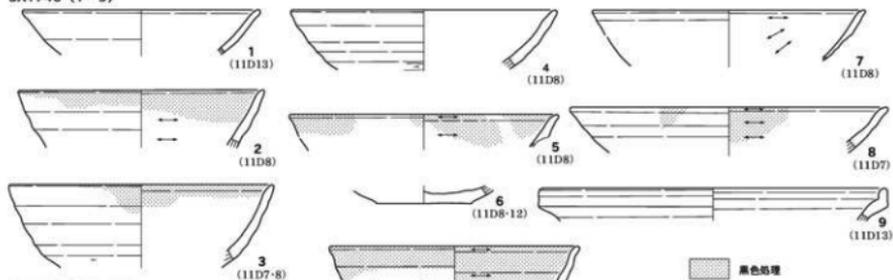
遺構分割図 (12) に対応



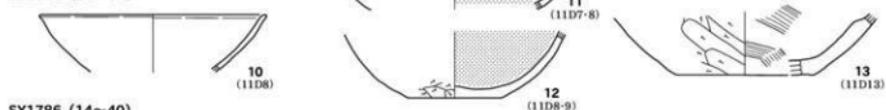
遺構分割図 (11) に対応



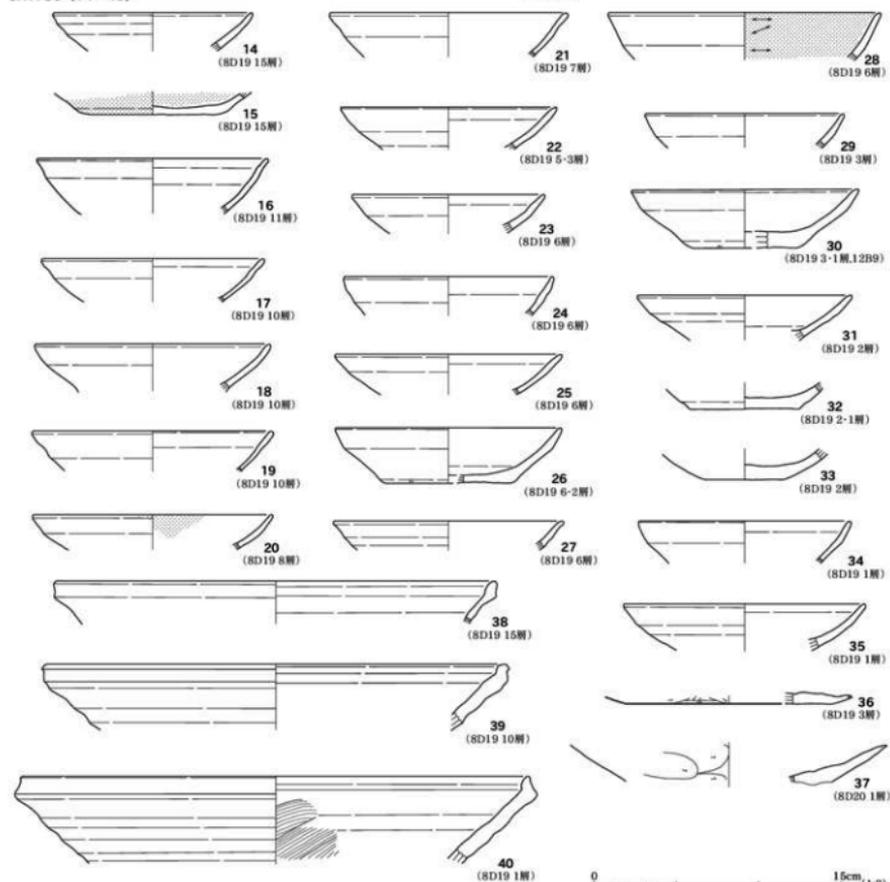
SX1746 (1~9)



SD1748 (10~13)



SX1786 (14~40)

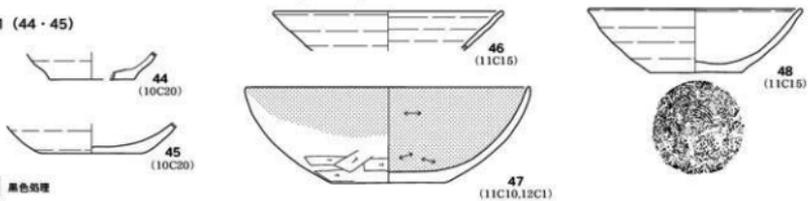


SX1786 (41~43)

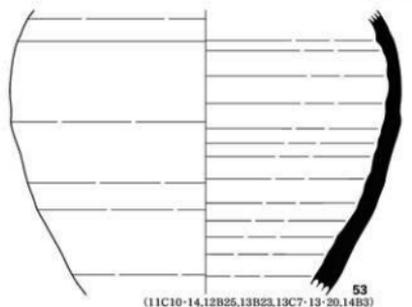
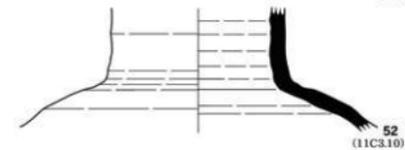
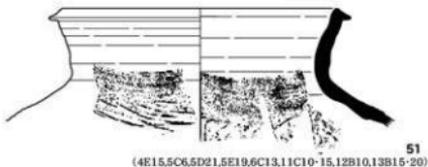
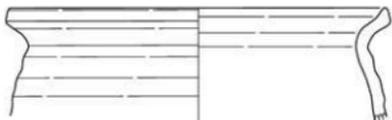
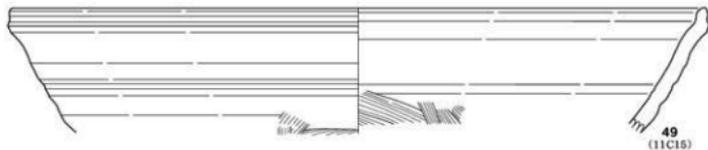


SX1992 (46~54)

SX1921 (44・45)

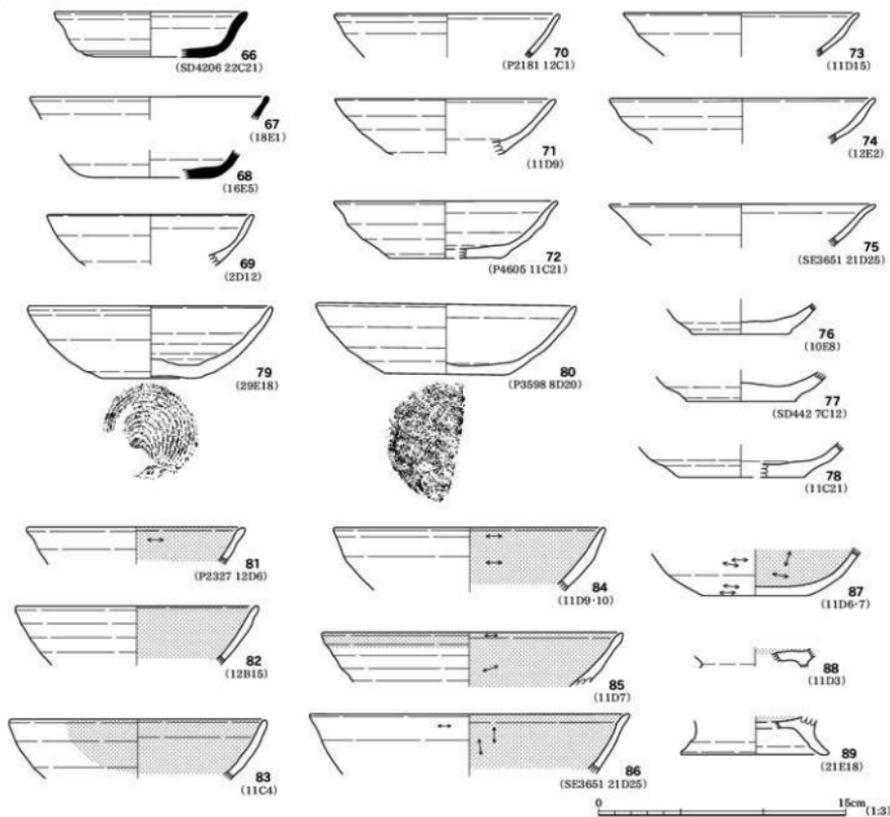
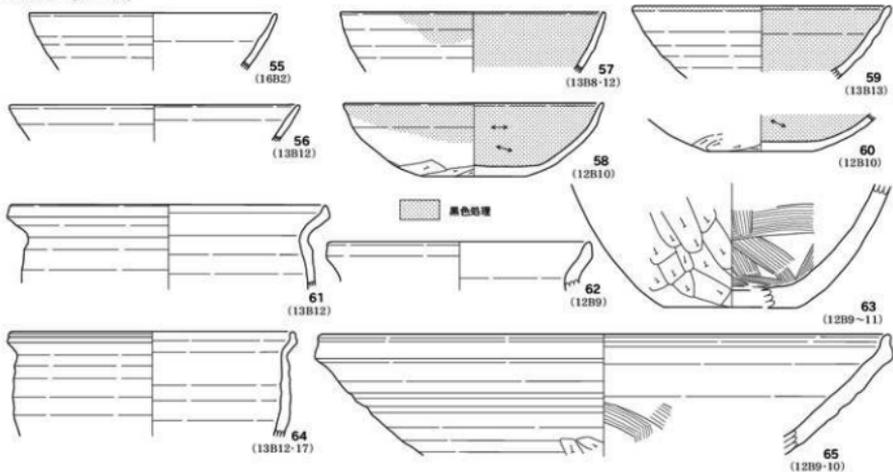


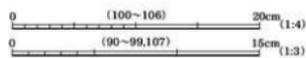
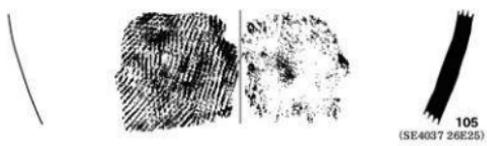
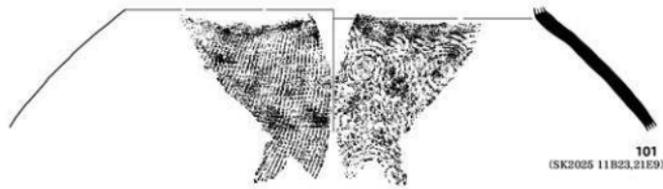
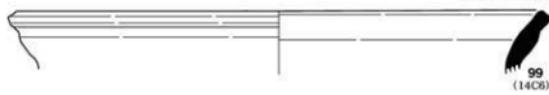
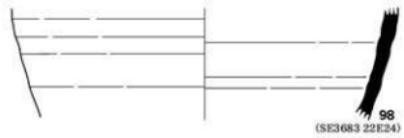
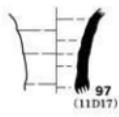
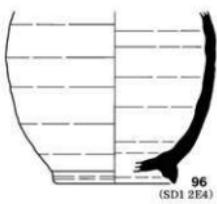
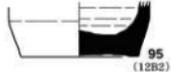
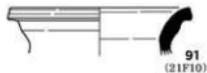
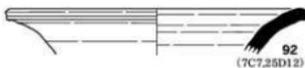
■ 黒色粘埋

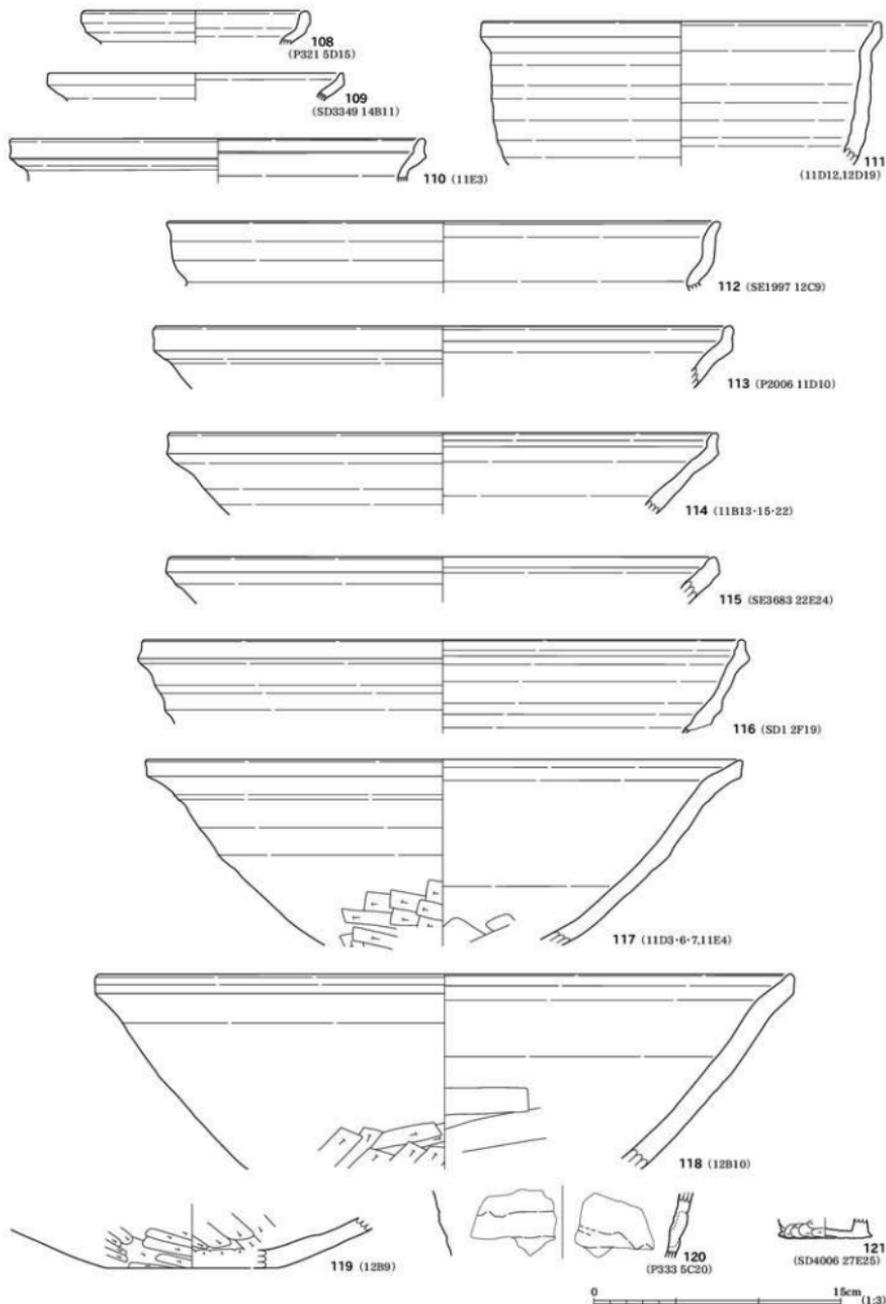


0 15cm (1:3)

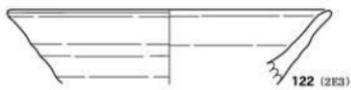
SD1984 (55~65)







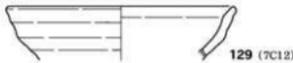
SB2 P73



SB3 P27



SB5 P1782



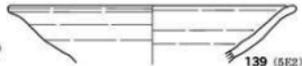
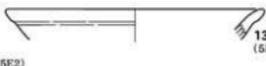
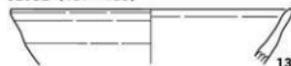
SB5 P1765



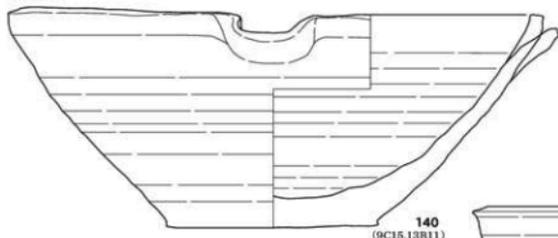
SB8 P312



SE952 (137~139)

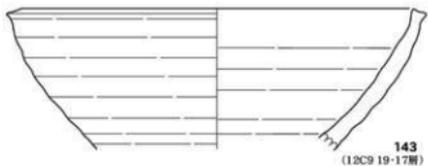


SE1320



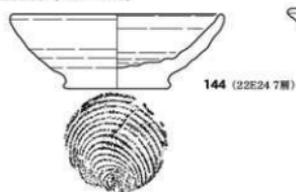
140
(9C15, 13B11)

SE1997 (141~143)

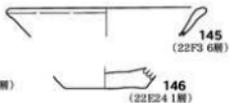


143
(12C9 19-17N)

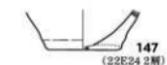
SE3683 (144~148)



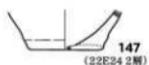
144
(22E24 7N)



145
(22F3 6N)



146
(22E24 1N)

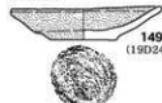


147
(22E24 2N)

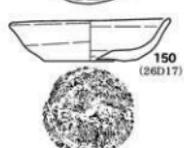


148
(22F3 1N)

SE3906

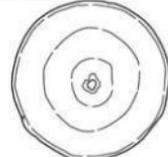


149
(19D24)



150
(26D17)

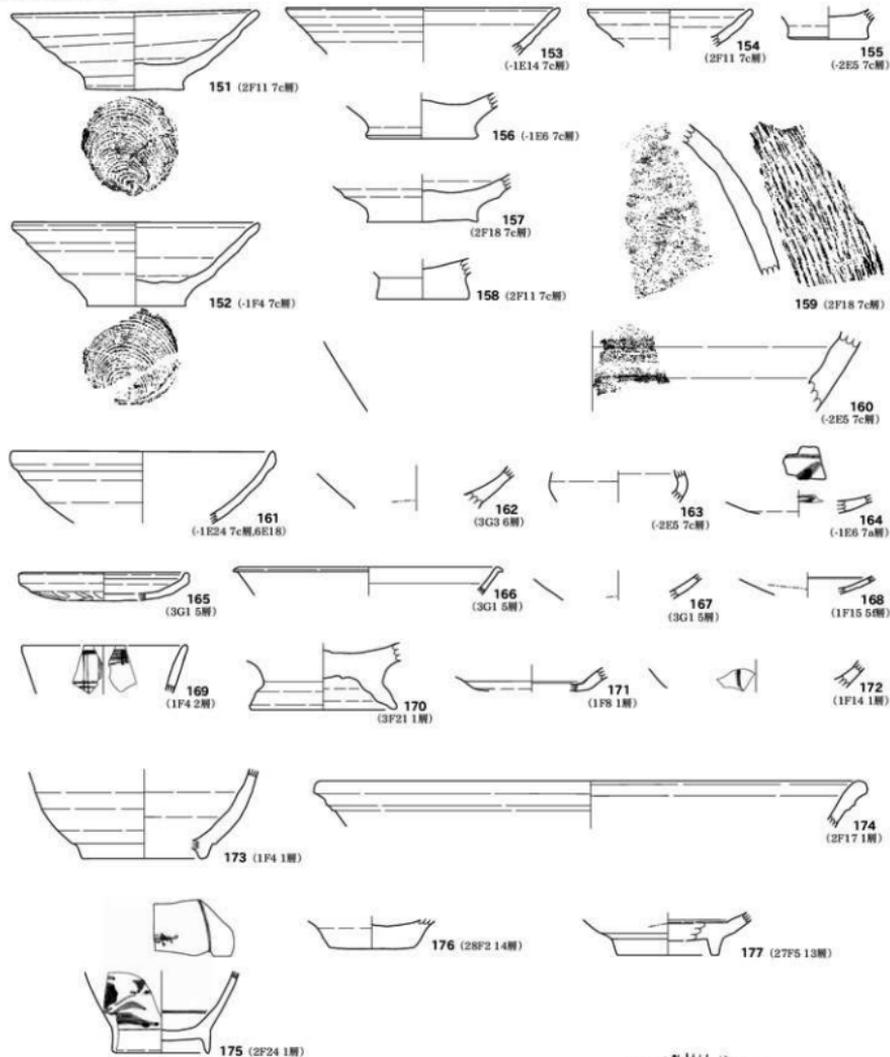
P3948



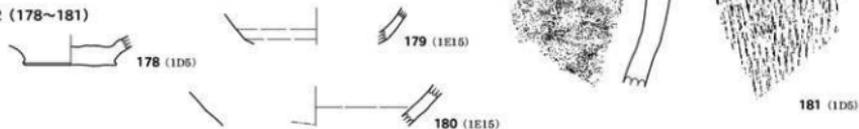
炭化物

0 15cm (1:3)

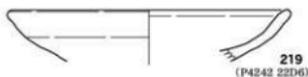
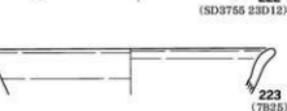
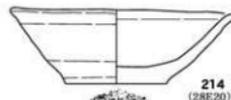
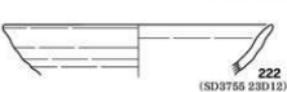
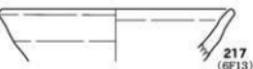
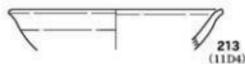
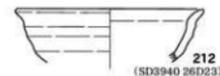
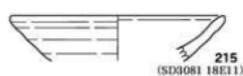
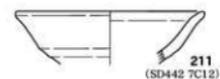
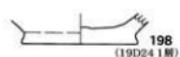
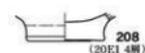
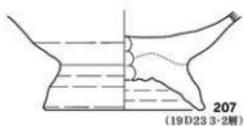
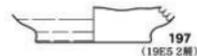
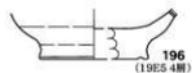
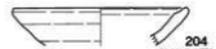
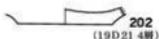
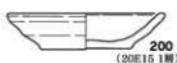
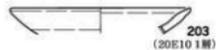
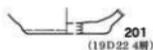
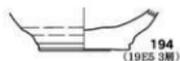
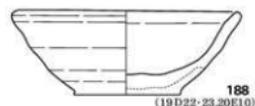
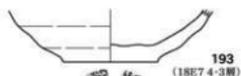
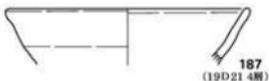
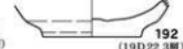
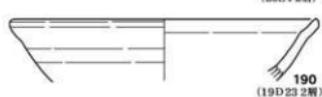
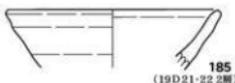
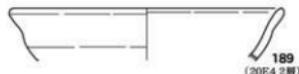
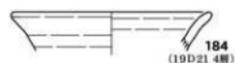
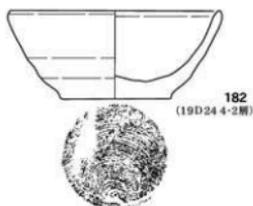
SD1 (151~177)

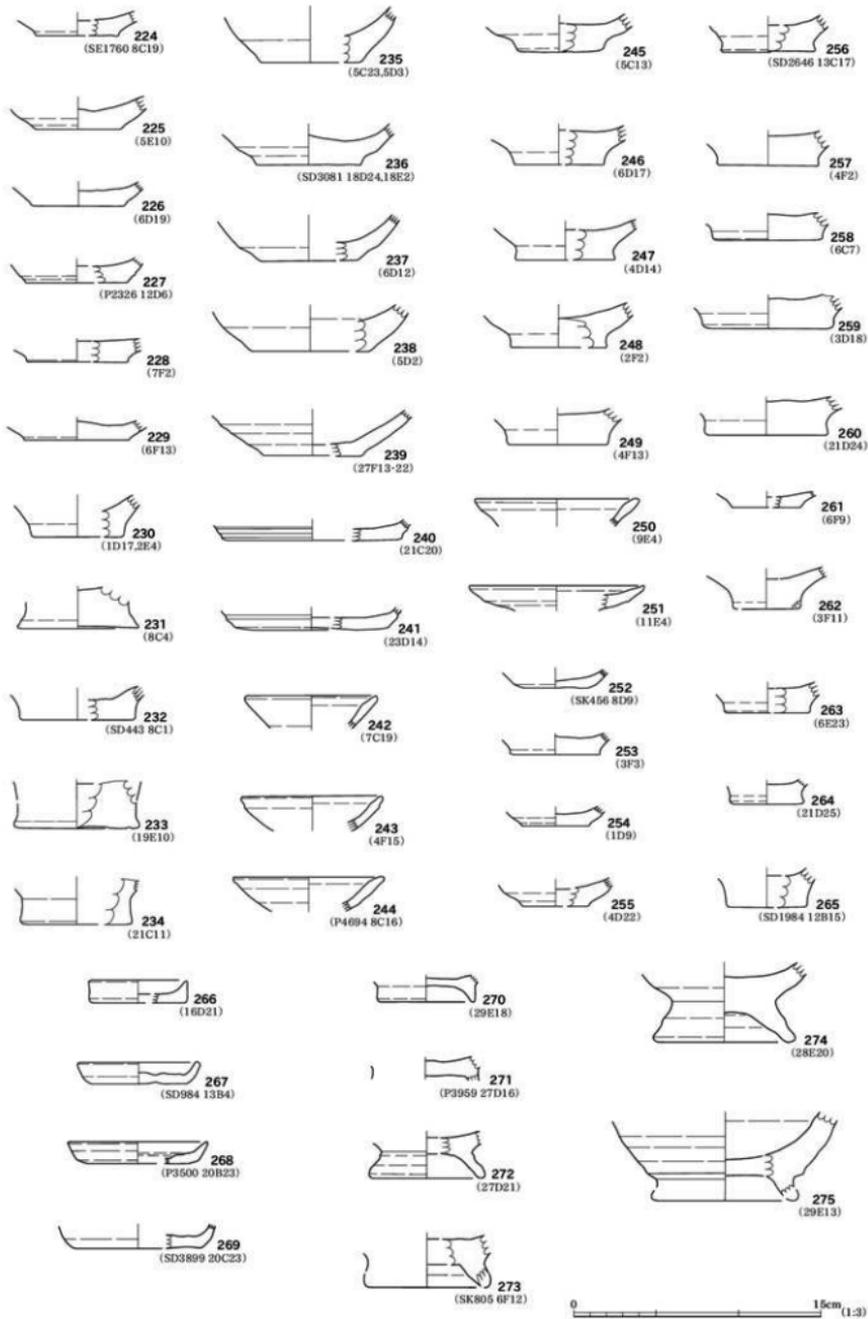


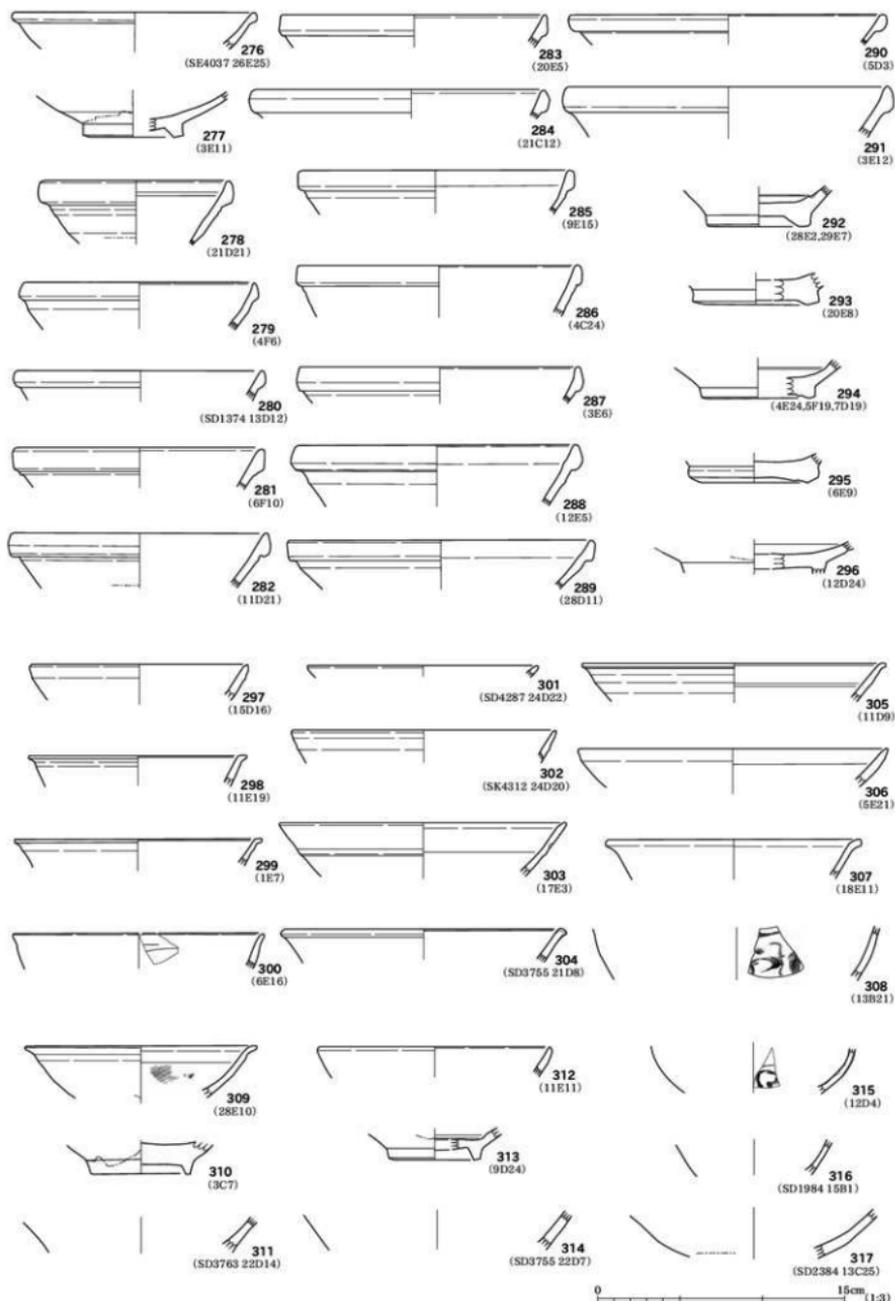
SD2 (178~181)

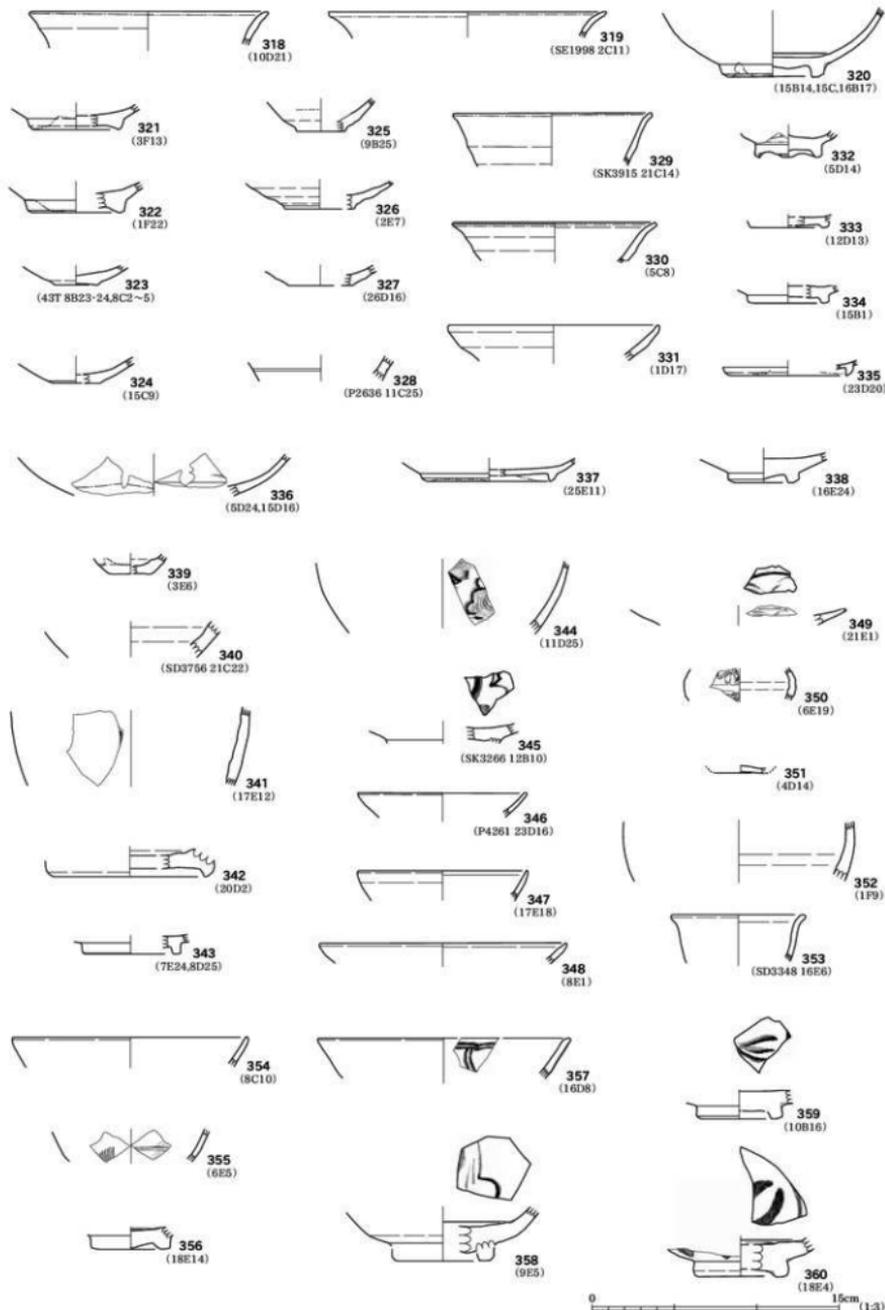


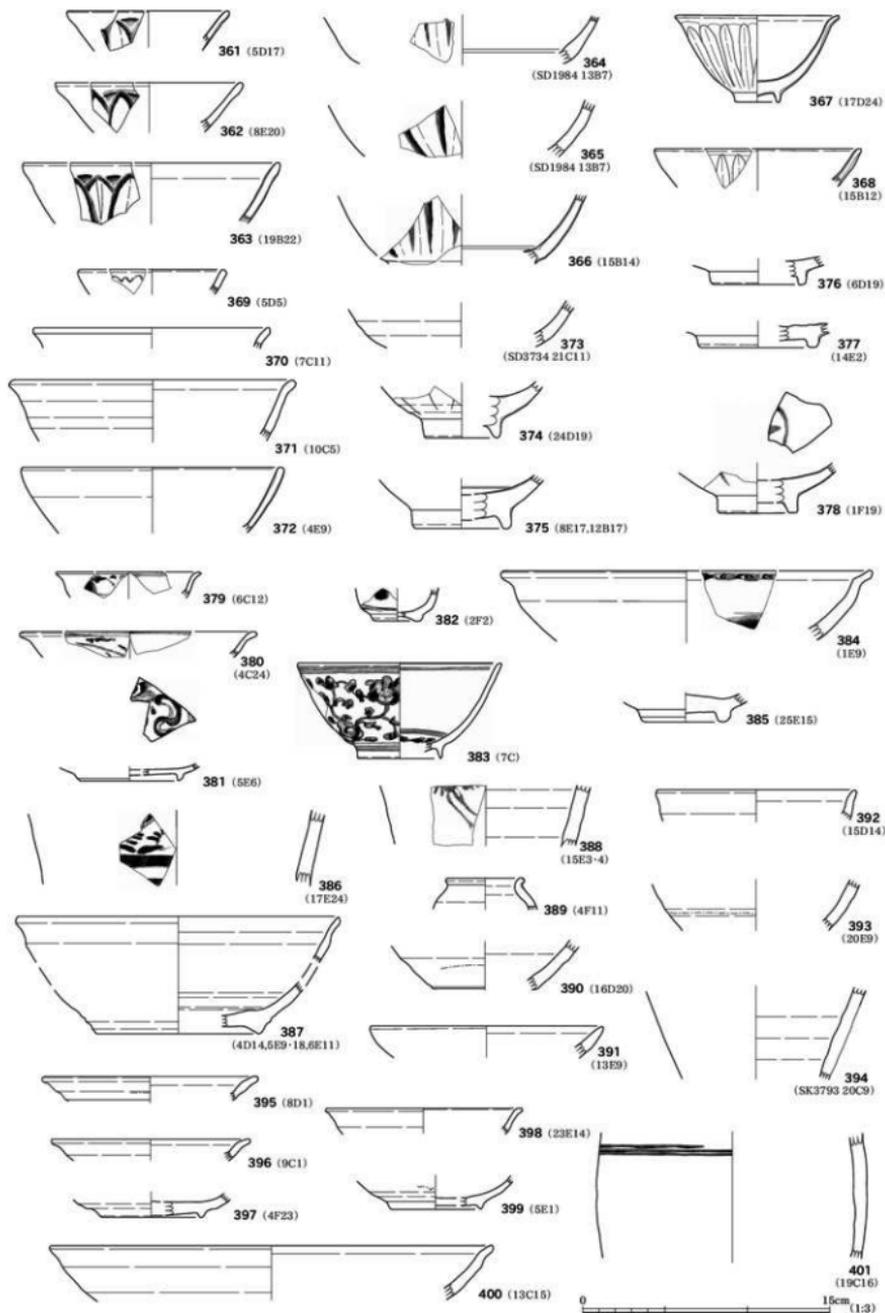
SD3538 (182~210)

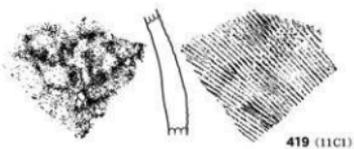
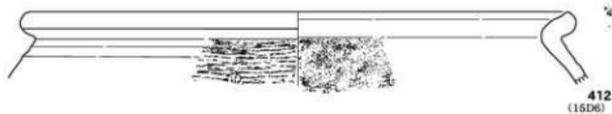
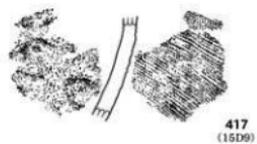
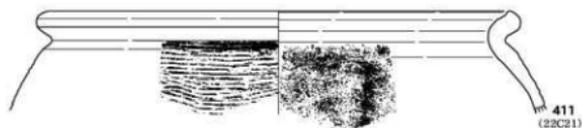
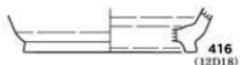
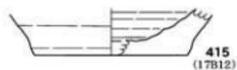
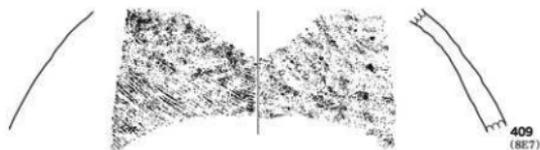
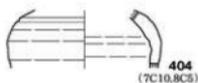
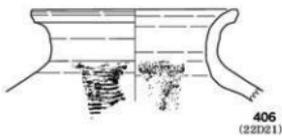
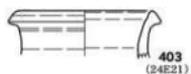
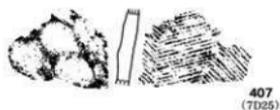
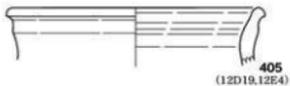
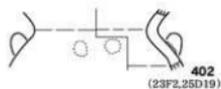


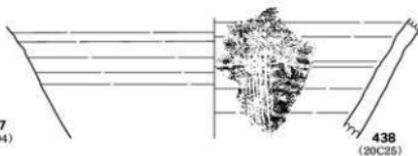
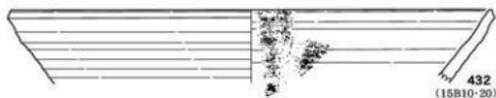
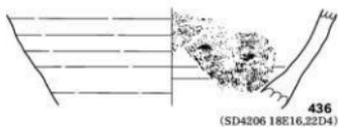
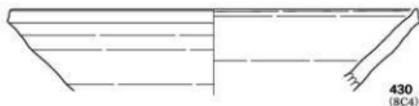
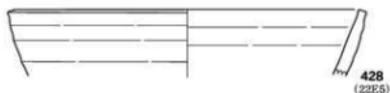
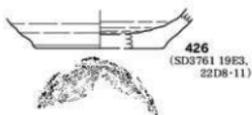
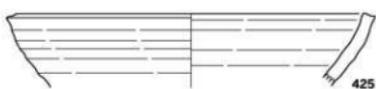
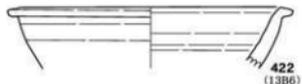


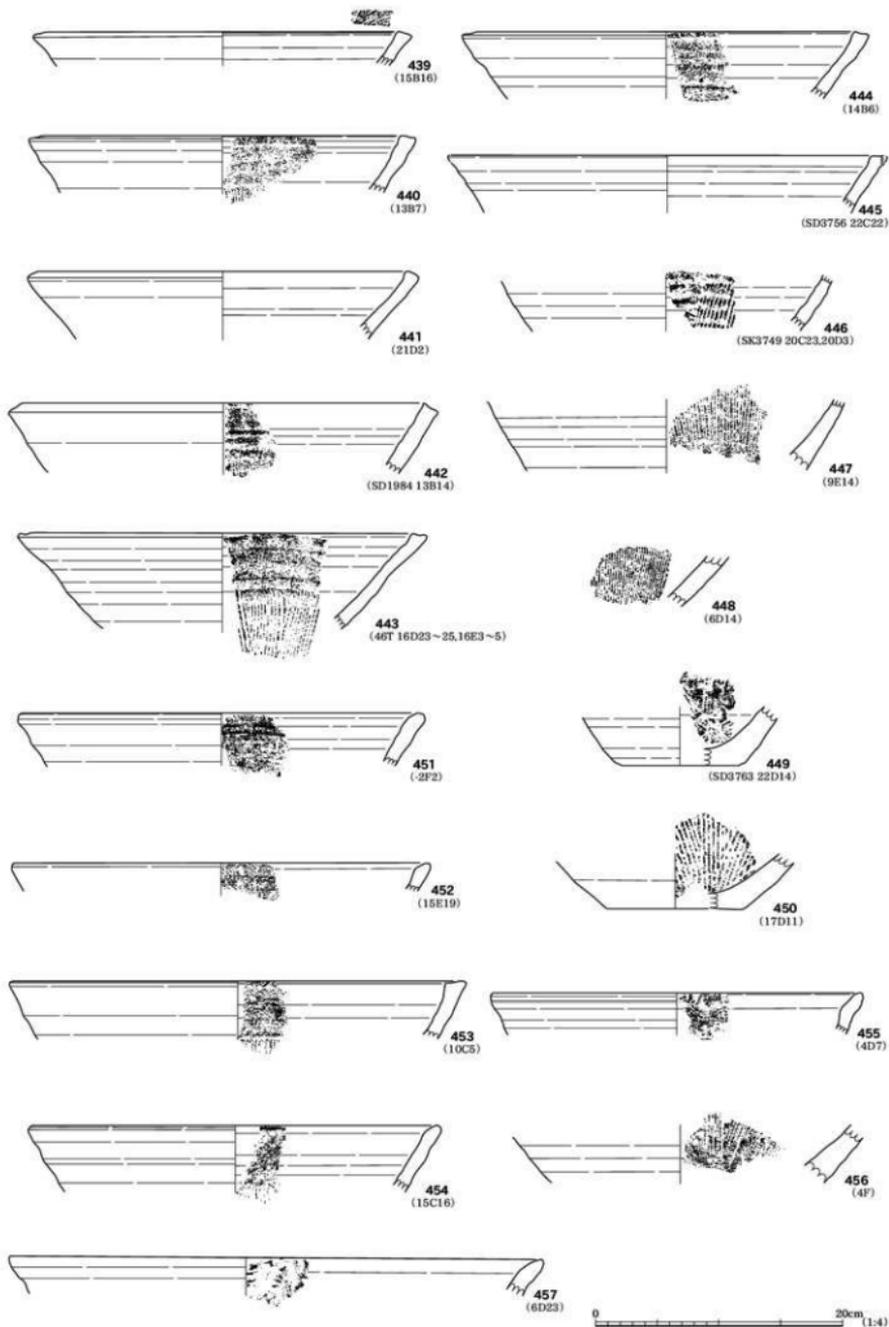


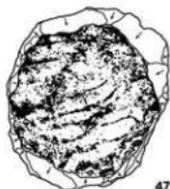
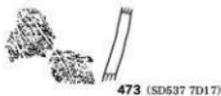
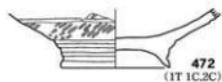
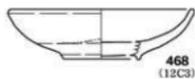
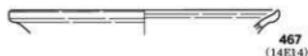
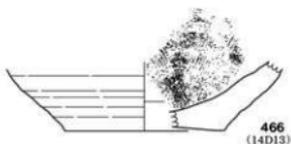
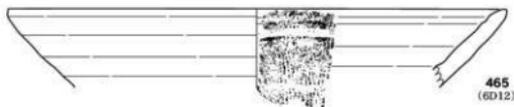
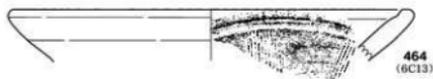
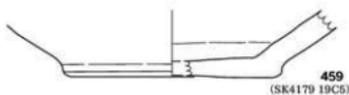
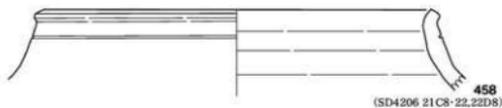




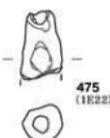




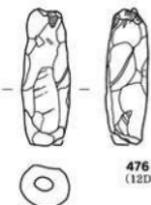




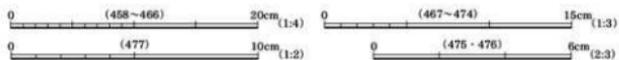
477
(SD2373 12E13)

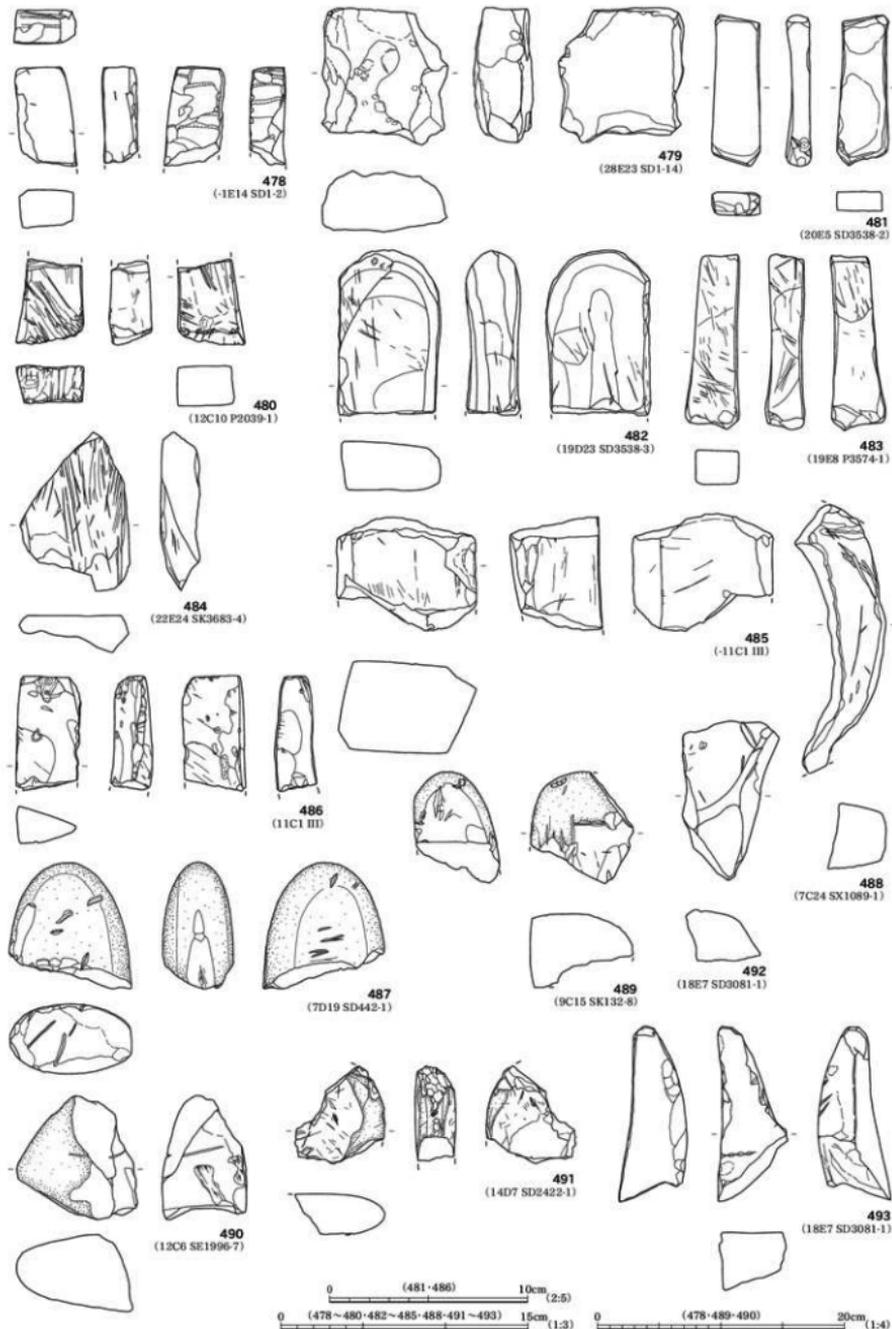


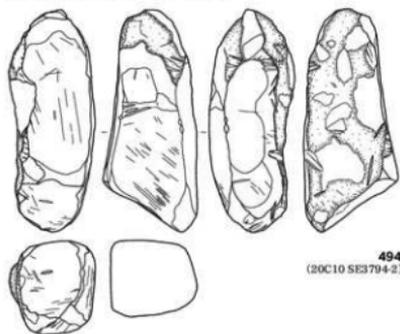
475
(1E22)



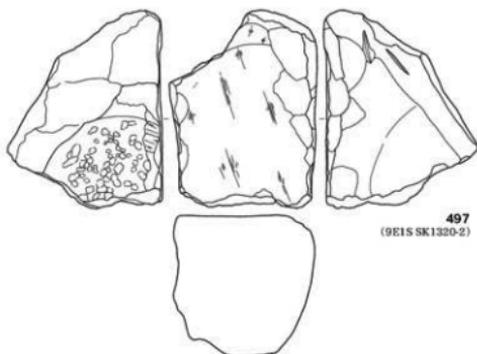
476
(12D19)



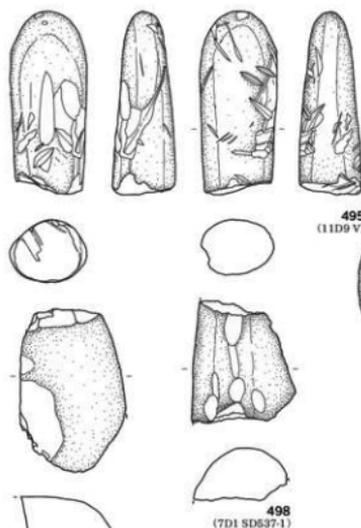




494
(20C10 SE3794-2)



497
(9E1S SK1320-2)

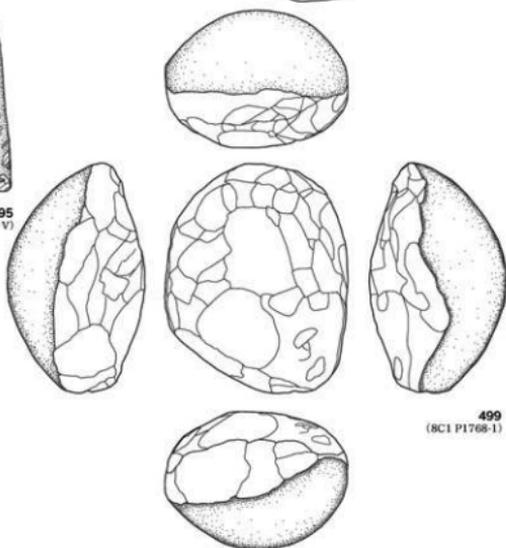


495
(11D9 V)

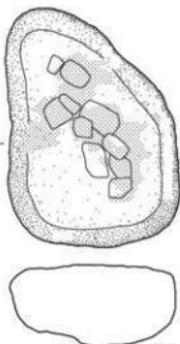
498
(7D1 SD637-1)



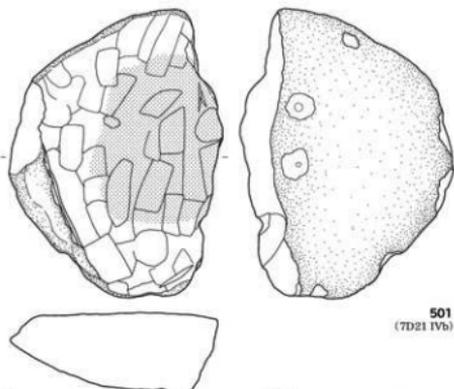
496
(26F6 SD1-13)



499
(8C1 P1768-1)



500
(19D23 SD3538-3)

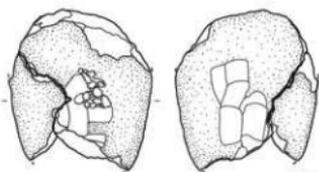


501
(7D21 IVb)

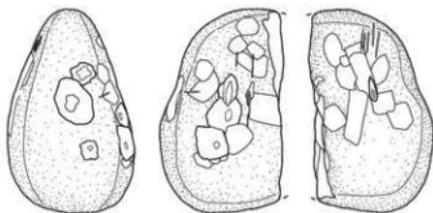
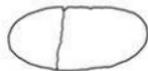
炭化物付着

0 (494~496) 15cm (1:3)
0 (497-500) 20cm (1:4)

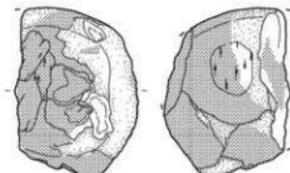
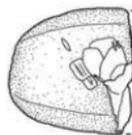
0 (498-501) 20cm (1:5) 0 (499) 30cm (1:6)



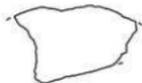
502
(1F9 SD1-3)



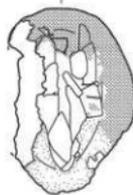
503
(8D6 P906-1)



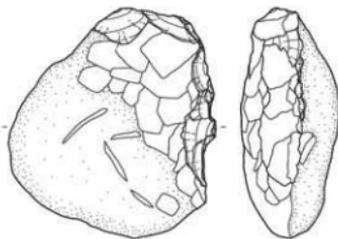
504
(12C9 SE1997-19)



炭化物付着



505
(26E25 SK4037-17)



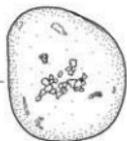
506
(19E15 SD3576-2)



507
(6E22 P360-1)



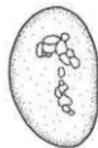
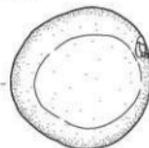
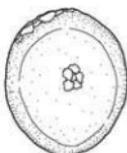
508
(6E12 SD295-1)



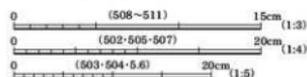
509
(9D11 SK1249-11)

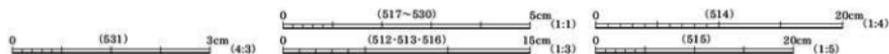
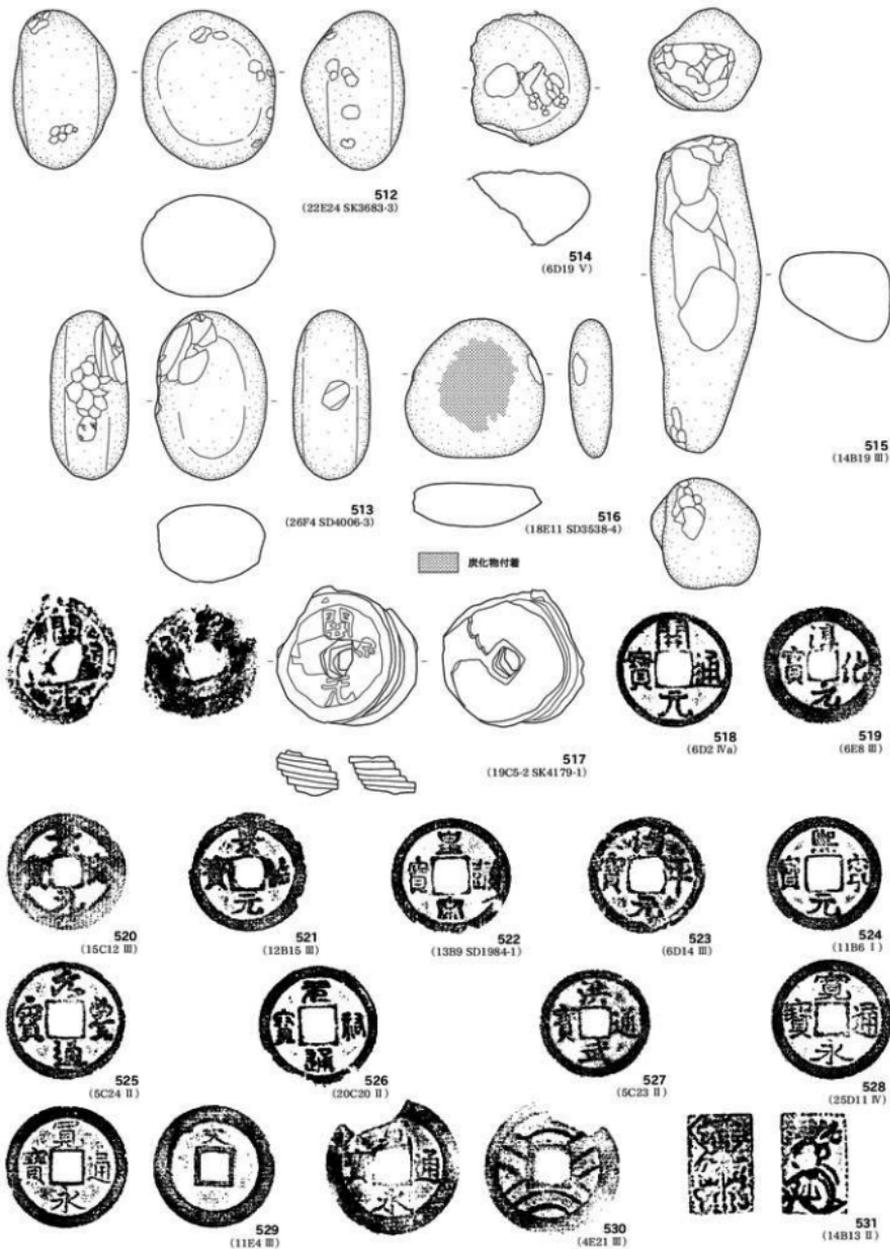


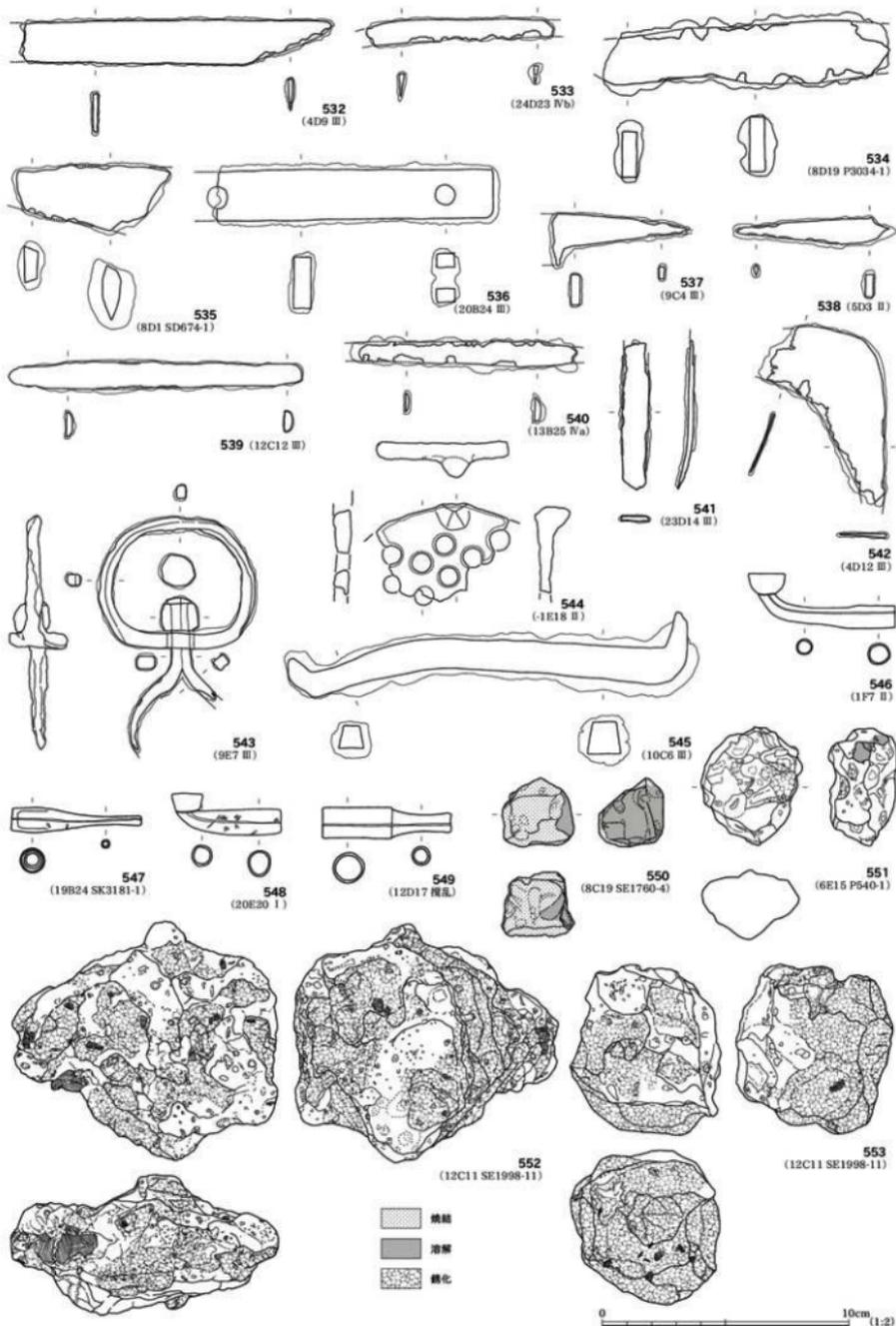
510
(12B10 SX1984-1)

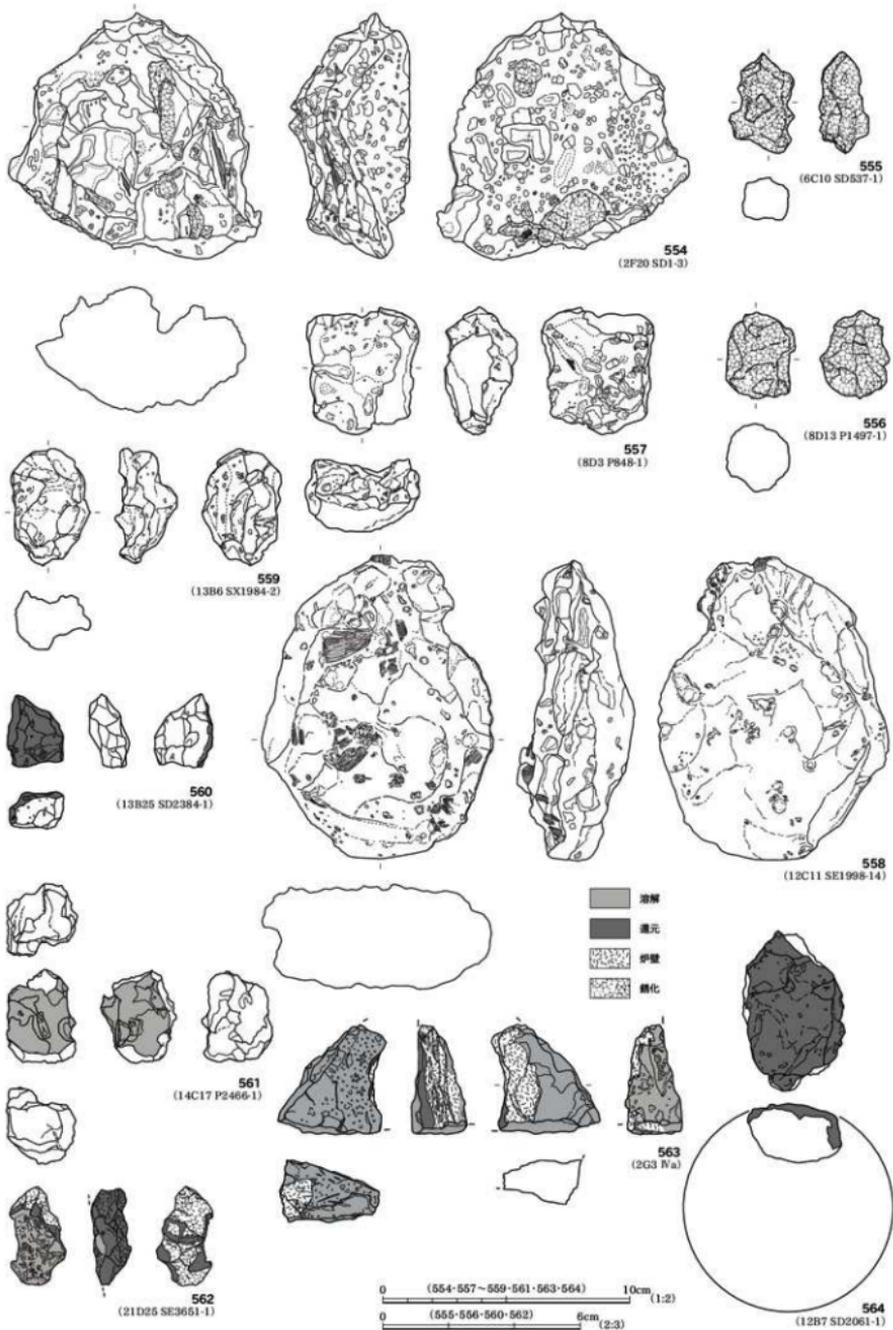


511
(10D24 SD3539-4)

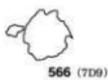
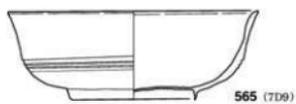




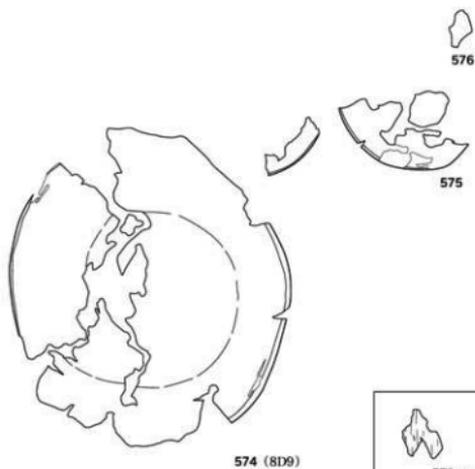
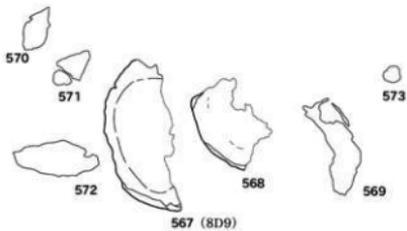
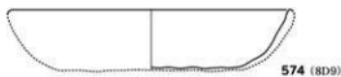




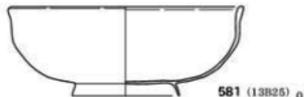
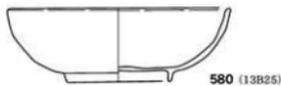
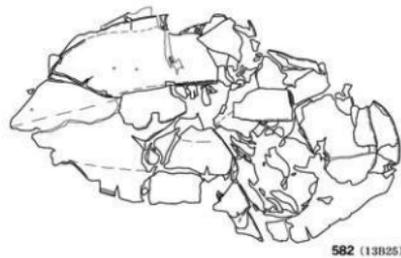
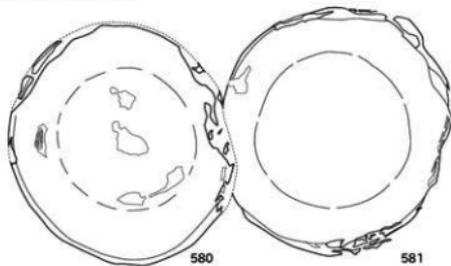
SK453 (565~566)

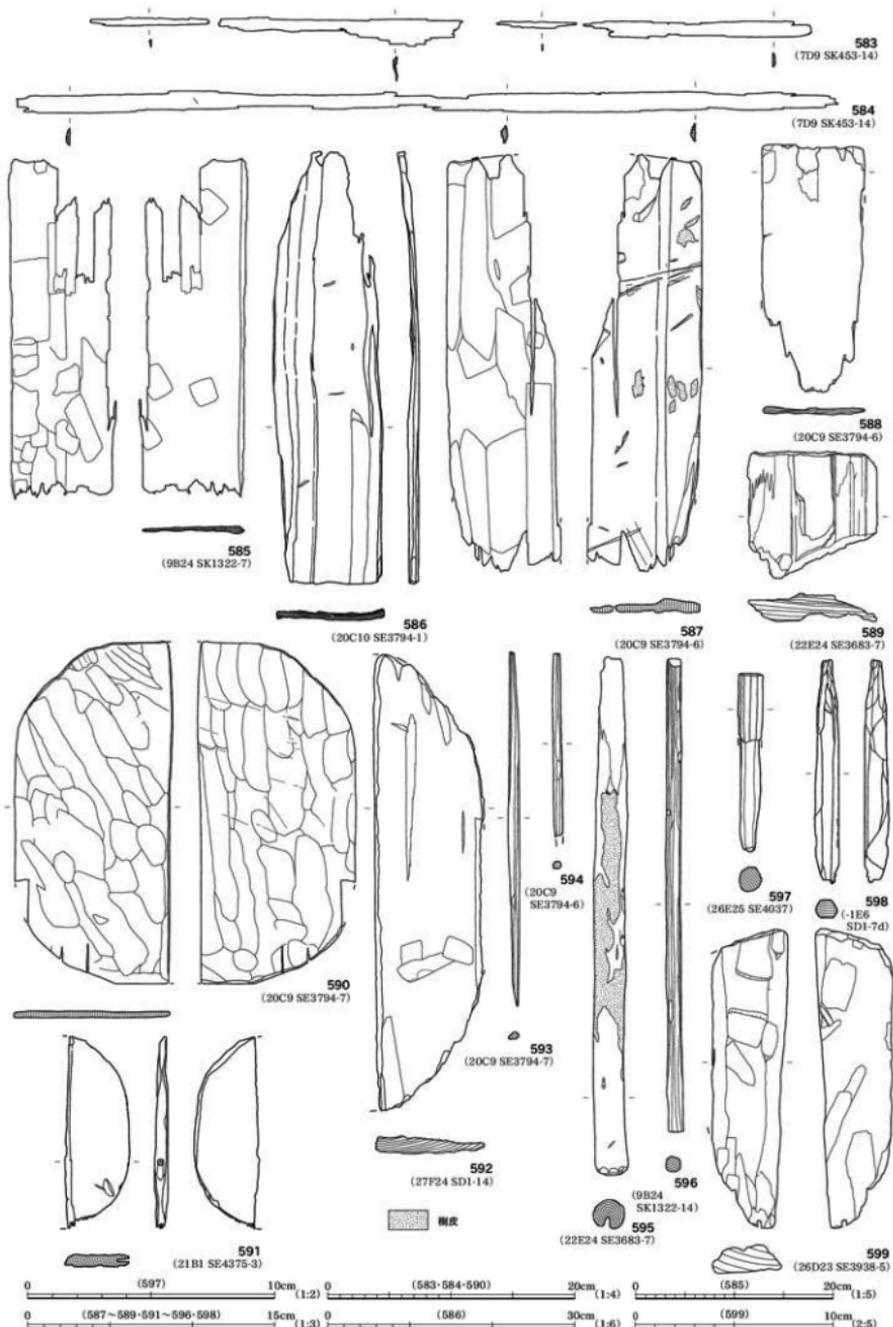


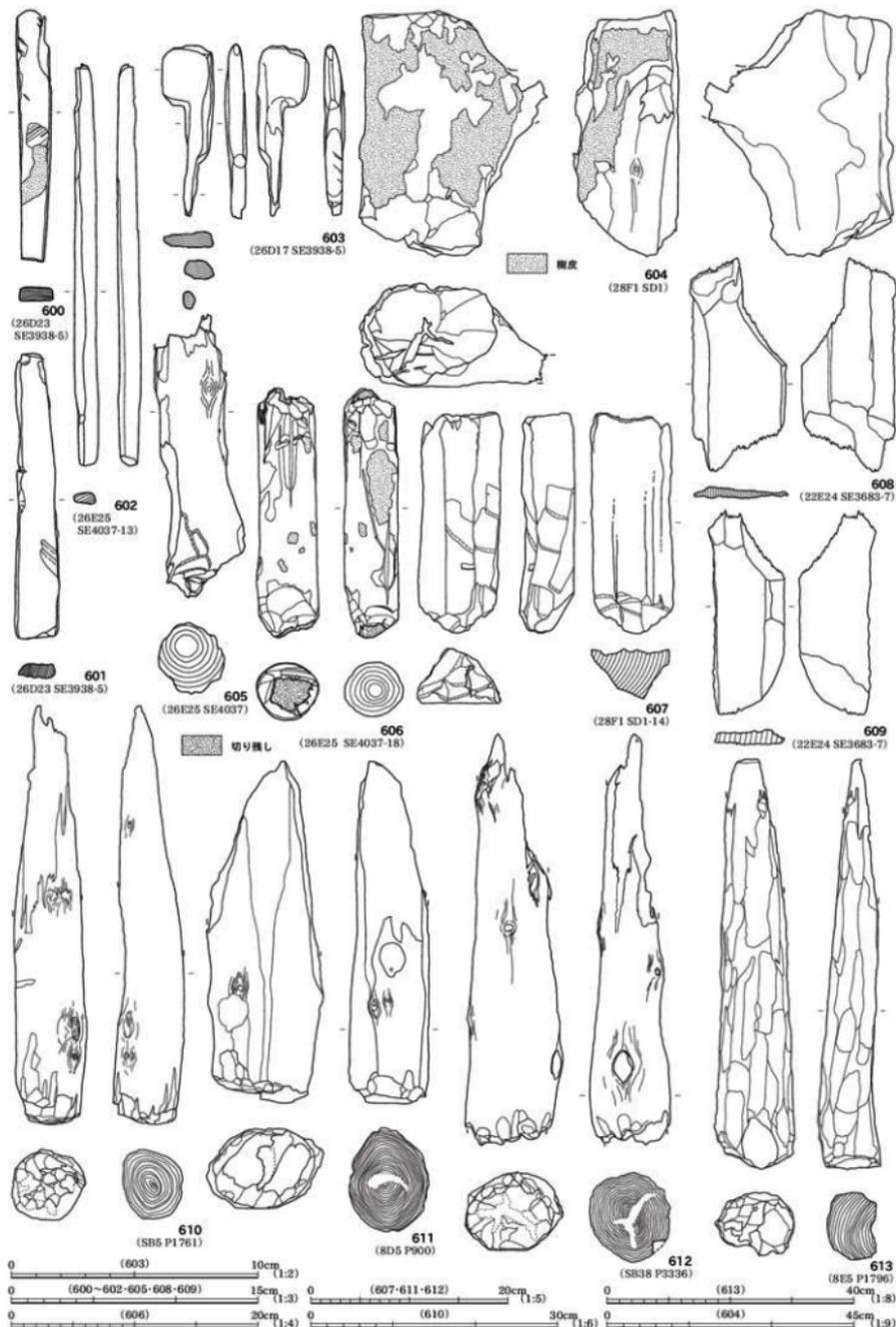
SK456 (567~579)

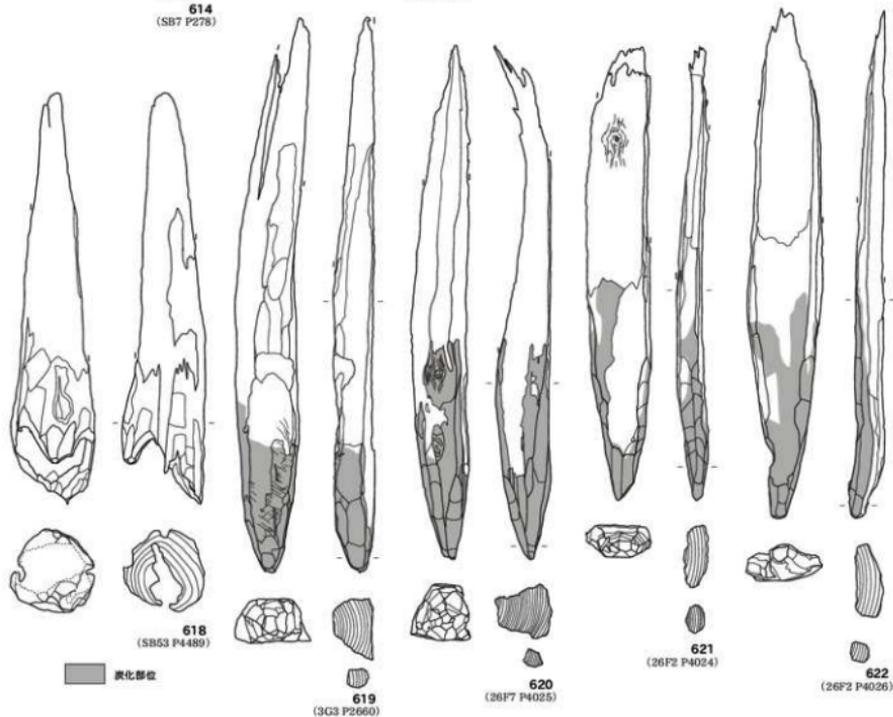
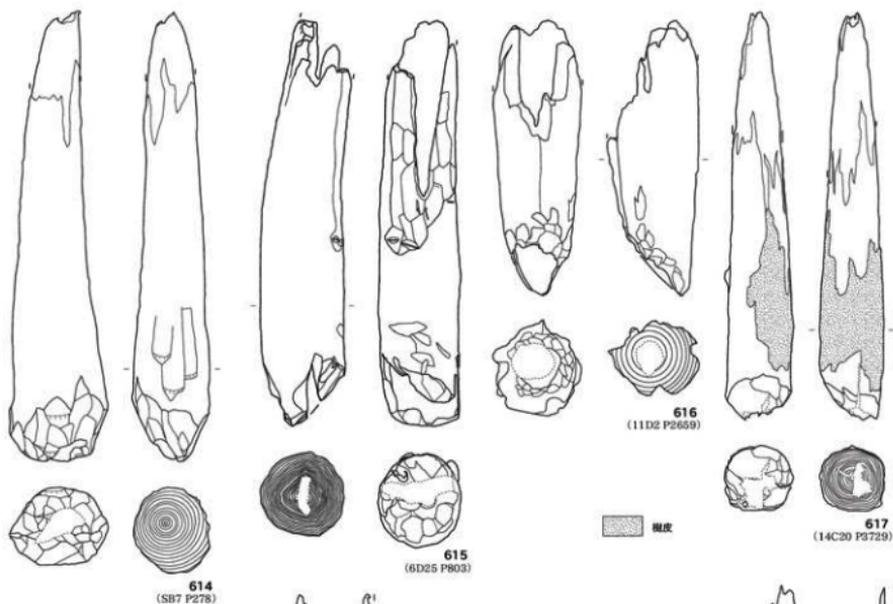


SK2732 (580~582)

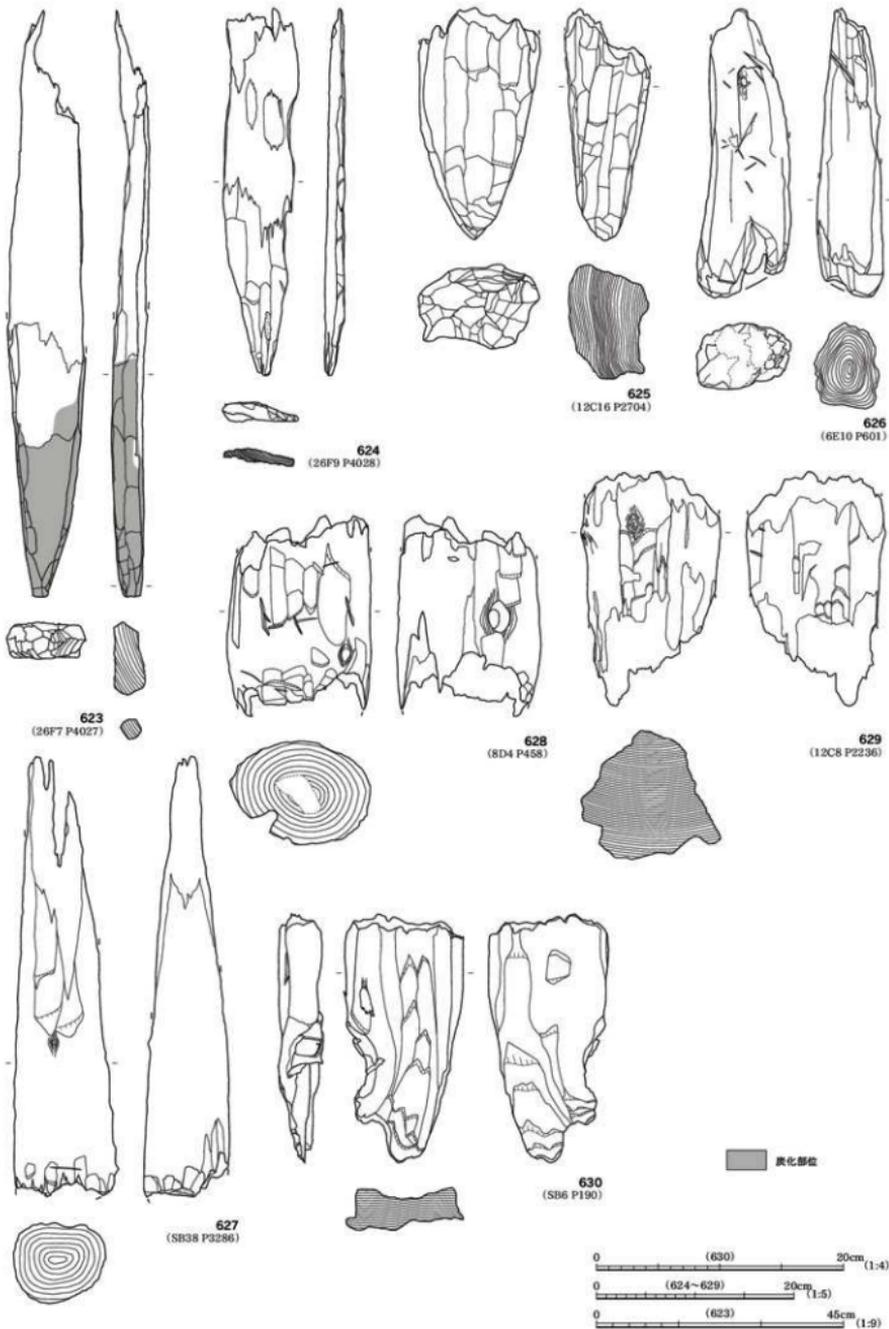








0 (614~616-618) 20cm (1:5) 0 (617) 30cm (1:6) 0 (619~622) 45cm (1:9)





遺跡遠景（西から 奥は五頭山・矢印）



遺跡遠景（東から 奥は弥彦山・角田山）



遺跡近景（北から）



北地区 究掘（北から）



北地区 掘立柱建物SB4・5・7～9・18（北から）



北地区 掘立柱建物SB4・5（東から）



SK453 完掘 (西から)



SK456 完掘 (東から)



SK2732 完掘 (東から)



SK2732 漆器出土状況 (東から)



SK3477 検出状況 (西から)



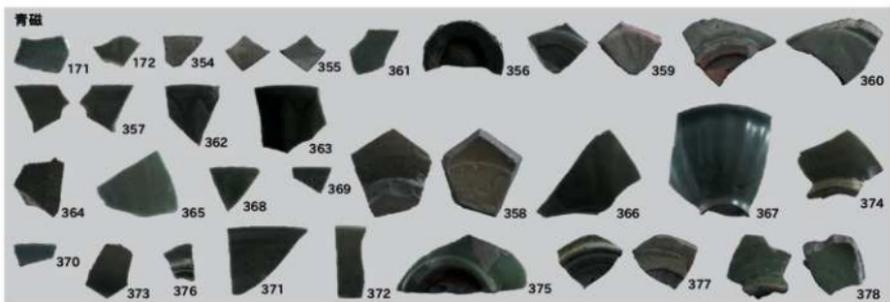
SK3915 セクション (東から)



SX1786 セクション (東から)



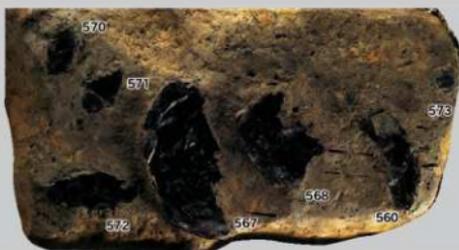
SD1 セクション (3F~Gグリッド 南東から)



SK543 (565·566)



SK456 (567~579)



SK2732 (580~582)



一分判金





SB1・2 完掘 (西から)



SB1-P81 セクション (2D20 北から)



SB1-SC20 セクション (2D24 東から)



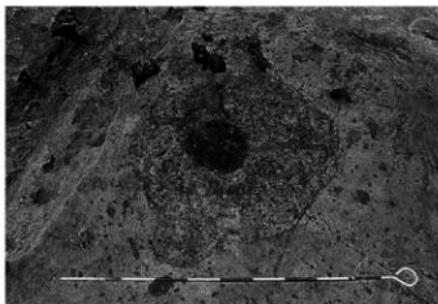
SB3・SD1 完掘 (南東から)



北地区 完掘



左からSB4・8・17・18 完圖 (東から)



SB4-P520 横出状況 (6C13 東から)



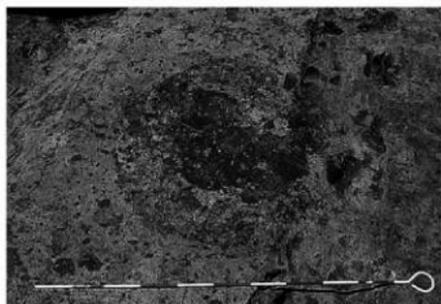
SB4-P520 セクション (6C13 東から)



SB4-P524 横出状況 (6C4・9 南から)



SB4-P524 セクション (6C4・9 北から)



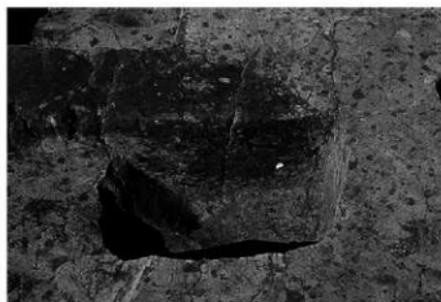
SB4-P527 検出状況 (6D4・5 東から)



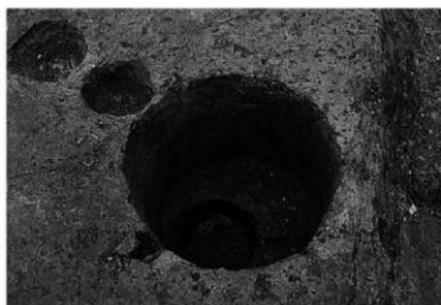
SB4-P527 セクション (6D4・5 東から)



SB4-P518 セクション (6D13 東から)



SB4-P1484 セクション (7C1 東から)



SB4-P529 完掘 (6C5 東から)



SB4-P530 セクション (6C20・25 南から)



SB8-P274 セクション (5D7 南東から)



SB8-P316 セクション (5D4 南から)



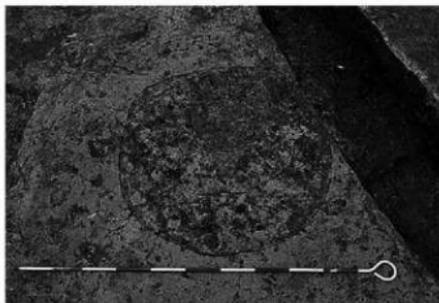
SB5 完掘 (東から)



SB5-P1761 柱根出土状況 (8C23・24 南から)



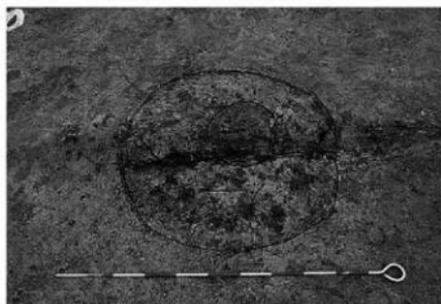
SB5-P1761 完掘 (8C23・24 東から)



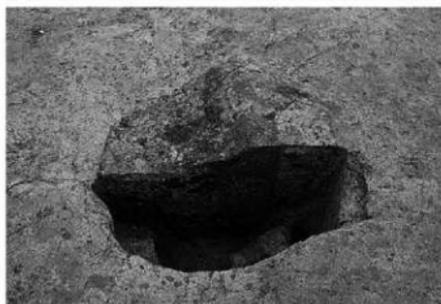
SB5-P1763 検出状況 (8C21 西から)



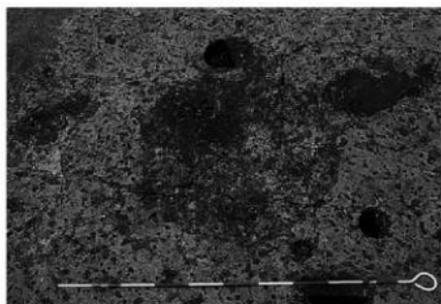
SB5-P1763 セクション (8C21 東から)



SB5-P1766 検出状況 (8C16 東から)



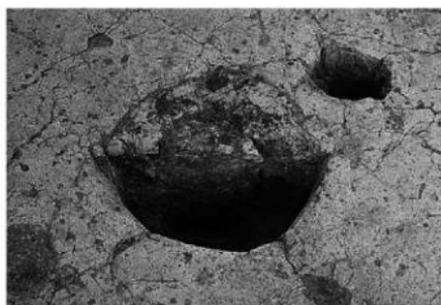
SB5-P1766 セクション (8C16 東から)



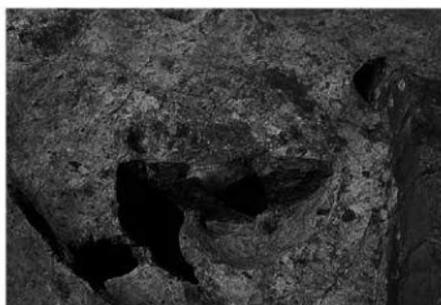
SB5-P1205 検出状況 (7C2 東から)



SB5-P1205 セクション (7C2 東から)



SB5-P663 セクション (8B22 南から)



SB5-P1769 セクション (8C1・6 東から)



SB5-P1765・2850 セクション (7C25 東から)



SB5-P1782 土師器No.125出土状況 (7C12 東から)



S86・7・14~16 完掘（東から）



S89・17・18 完掘（東から）



SB11・35～37 発掘（西から）



SB12・20・21・23～25 発掘（東から）



右から SB19・22 完掘 (北から)



SB11-P2570・2571 セクション (14D13 南から)



SB10 完掘 (北から)



SB34 完掘 (西から)



SB26～30 完掘 (南東から)



SB31～33 完掘（東から）



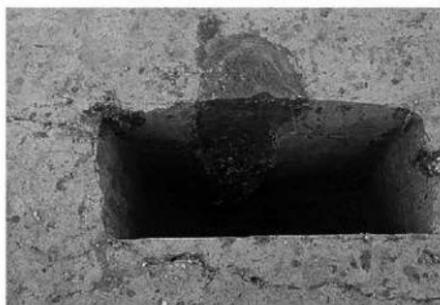
SB38・39 完掘（北東から）



SB38-P3336 柱礎出土状況（15D1 南から）



SB38-P3335 柱礎出土状況（15D2 南から）



SB38-P3337 柱礎出土状況（14D4 南から）



SK453 検出 (7D3~5・8~10 北から)



SK453 セクション (7D3~5・8~10 東から)



SK453 セクション (7D3~5・8~10 南から)



SK453 棺内完掘 (7D3~5・8~10 東から)



SK453 板材出土状況 (7D3~5・8~10 東から)



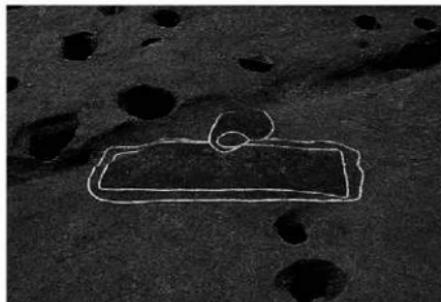
SK453 完掘 (7D3~5・8~10 東から)



SX453 漆器No.565出土状況 (7D3~5・8~10 西から)



SK453 漆器取り上げ風景 (7D3~5・8~10 西から)



SK456 横出 (8D9 東から)



SK456 セクション (8D9 東から)



SK456 セクション (8D9 南から)



SK456 漆器出土状況 (8D9 東から)



SK2732 セクション (13B25, 13C5, 14C1 東から)



SK2732 セクション (13B25, 13C5, 14C1 南から)



SK2732 完掘 (13B25, 13C5, 14C1 東から)



SK2732 漆器No.580・581出土状況 (13B25, 13C5, 14C1 東から)



SK36 セクション (4E3 南から)



SK153 セクション (4D15 北から)



SK181 セクション (4D15, 5D11 南から)



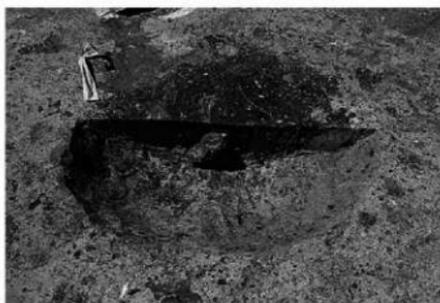
SK219 セクション (4F20・24・25 西から)



SK437 セクション (5E7 南東から)



SK261 遺物出土状況 (5C23 西から)



SK540 セクション (6E15 南から)



SK670 セクション (10E25 西から)



SK805 セクション (6F7・12 東から)



SK821 炭層検出状況 (6F12 南から)



SK1040 セクション (7C6 東から)



SK1803 セクション (9E9・14・19 南から)



SK1904・P1089 セクション (7C24 東から)



SK1094 セクション (7C24 西から)



SK1701 セクション (8B15・19・20 南から)



SK1966 セクション (8C23 東から)



SK1980 セクション (10E3 東から)



SK1982 セクション (10E4 東から)



SK2023・2026・SK2022・2025 横出 (11B 西から)



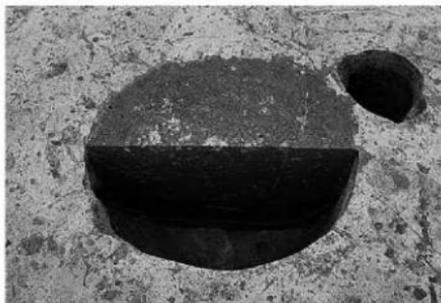
SK2025 セクション (11B18・23 東から)



SK2080 セクション (14E14 南から)



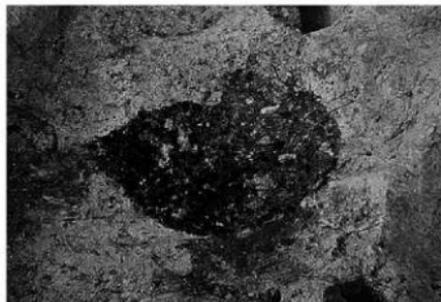
左から SK2343, SD1374 セクション (12D9 南から)



SK2383 セクション (13C, 13D, 14C, 14D 南から)



SK2966 セクション (13E8・9 東から)



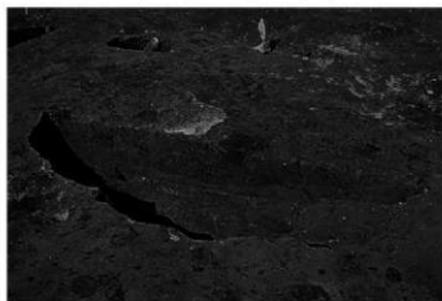
SK2866 検出 (13E5 南から)



SK2866 セクション (13E5 南から)



左から SK3039、SD3038 セクション (17B11・16 南から)



SK3171 セクション (17B24・17C4 南から)



SK3295 セクション (15C23、15D3 南から)



SK3266 セクション (12B9・10 南から)



SK3434 セクション (15C10、16C6 南から)



SK3443 セクション (15C、16C 南から)



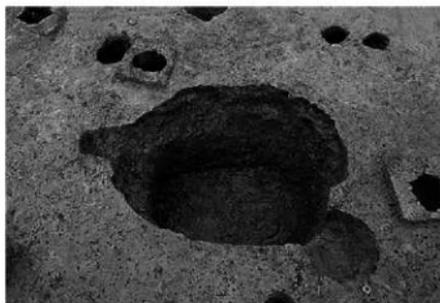
SE952・P951 セクションb-b' (5E2 北から)



SE952・P951 完鑑 (5E2 北から)



SE3002 セクション (5D17・18・22 東から)



SE3002 完鑑 (5D17・18・22 東から)



SE1760 セクション (8C14・19 南から)



SE1788 セクション (8D25 南から)



SE1249 セクション (9D11 南から)



SE1851 検出 (9B14 東から)



SE1320 セクション (9C15 南東から)



SE1320 土器出土状況 (9C5 東から)



SE1322 セクション (9B24・25 東から)



SE1328 セクション (9B9 南東から)



SE2013 セクション (11E2・3 東から)



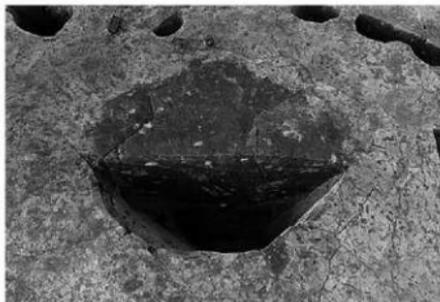
SE1749 セクション (11D9・14 西から)



SE1998 セクション (12C11 南東から)



SE1998 遺物出土状況 (12C11 南から)



SE1996 セクション (12C6・7 南から)



SE1999 セクション (12C23 東から)



SE1997 セクション (12C9 南から)



SE1997 白磁・雑出土状況 (12C9 南西から)



SE3094 セクション (18B11・16 南から)



SX2711・2708・2710 検出状況 (10・11E, 12D 南から)



SX2711・2708・2710 検出状況 (10・11E, 12D 西から)



SX2710 セクション (12D11・16・21 南から)



SX1746・SD1747・1748 セクション (11D7・8・13 東から)



SX1786 遺物出土状況 (18D14・15・19・20 北から)



SX1786 遺物出土状況 (8D14・15・19・20 南東から)



SX1786 完掘 (8D14・15・19・20 東から)



SX1921 セクション (10C19・20・24・25 東から)



SX1973 セクション (10C20, 11C16 南から)



SX1992 セクション (11C10・15 南東から)



SX1992 完掘 (11C10・15 東から)



P2660 横出 (3G3 北から)



P2660 柱根 セクション (3G3 北から)



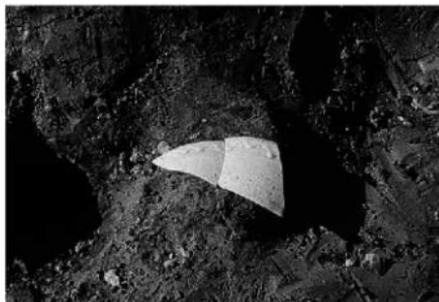
SD1・32・4473 完掘 (北から)



SD1 セクション (-1D 東から)



SD1 くぼみ部分完掘状況 (1E, 1F 西から)



SD1 白磁No.161出土状況 (-1F9 7c層 東から)



SD1 土師器No.154出土状況 (2F11 7c層 南から)



右からSD2・3 セクション (1D～E 西から)



SD2 セクション (1D25 西から)



SD3 セクション (1D24 西から)



SD32 セクション (1F19 南から)



SD4473 セクション (-2F18・24 南から)



SD28 完壁 (2・3C、3・4D 南から)



SD28 セクション (2・3C、3・4D 南から)



SD118 セクション (4F3 西から)



SD173 セクション (4E5 東から)



SD218 セクション (5E1 南から)



SD281 セクション (15D1 南から)



SD263 セクション (5D5 南から)



SD295 セクション (5D21・22 西から)



SD435 セクション (7D6 東から)



SD673 セクション (7C25 東から)



SD674 セクション (8D2・7 南から)



SD675 セクション (8・9C 南から)



SD1116 セクション (14D11 南から)



左からSD1374・1332・2422 セクション (14D1・6 南から)



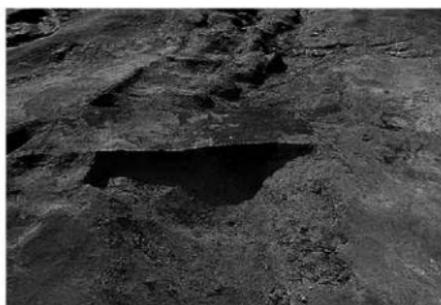
SD1774 セクション (10B11・16・21 南から)



左からSD1801・1971 セクション (10E18・19 南から)



左からSD1968・1801 セクション (10E9 東から)



SD2061 セクション (12B12 東から)



SD2232 セクション (12C7 南から)



SD2728 セクション (12D21・16 南から)



SD2470 セクション (1488 東から)



SD1984 検出 (12~16B 南から)



SD1984 遺物出土状況 (12~16B 南から)



SD1984 セクション (15B1・6・11・16 南から)



SD3347 セクション (15E5 東から)



SD3348 セクション (16E1 東から)



SD3349 セクション (1486 南から)



SD3400 セクション (15C18 南から)



SD3402 セクション (16D7 東から)



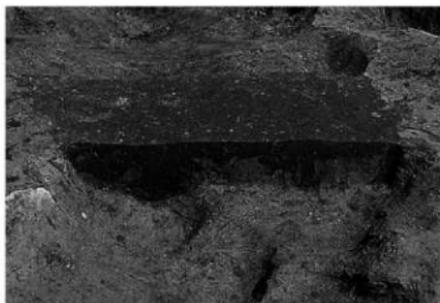
SD3429 セクション (16C22・17 北から)



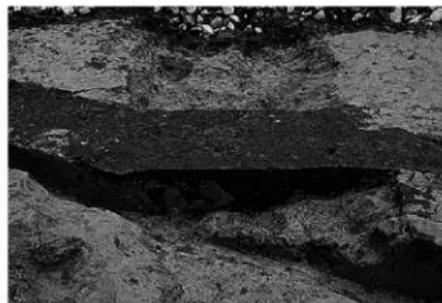
SD3433 セクション (16C1 南から)



SD3536 セクション (17D18 南から)



SD3077 セクション (17C1・6 西から)



SD3078 セクション (17B16・21 南から)



SD3081・SK3094 検出 (17B～E, 18B～E 南から)



SD3081・SD3538 検出状況 (17B～E, 18B～E 東から)



南地区 発掘（北から）



SB41・42・43・40 発掘（北から）



SB13・45～47 完掘（北から）



SB40-P3139 セクション（19C14・19 南から）



SB40-P3122 柱根出土状況（19C23 南から）



SB48 完掘（南から）



SB49 完掘（北から）



SB50 完壁 (北東から)



SB53・50・51・52 完壁 (南から)



SK3793 セクション (20C18・19・23・24 東から)



SK3793 遺物出土状況 (20C18・19・23・24 西から)



SK3915 セクション (21C8~10・13~15 北から)



SK3915 セクション (21C8~10・13~15 東から)



SK4252 セクション (21C15・20, 22C11・16 北東から)



SK4252 セクション (21C15・20, 22C11・16 南東から)



SK4259 セクション (21C25, 22C21, 22D1 西から)



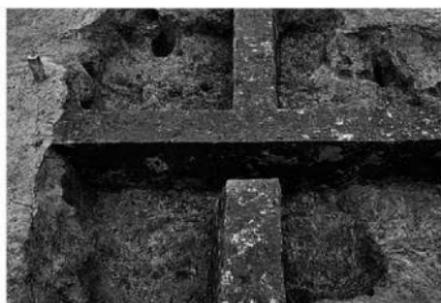
SK4312・4311 遺物出土状況 (24D14・15・18~20・24 南から)



SK4312・4311 セクション (24D14・15・18~20・24 東から)



SK4311 セクション (24D14・15・18~20・24 東から)



SK4312 セクション (24D15・20 東から)



SK4311 完掘 (24D14・15・18~20・24 西から)



SK4320・4319 セクション (22C17・18 東から)



SK4320 貼床検出状況 (22C17・18 北から)



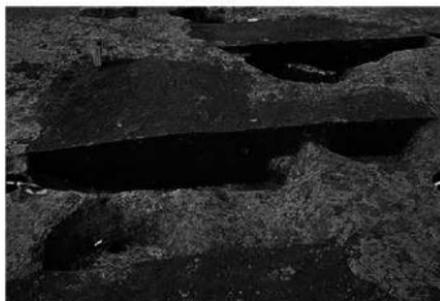
SK3477 セクション (20C4 西から)



SK3477 完掘 (20C4 西から)



SK3148 セクション (19C10 東から)



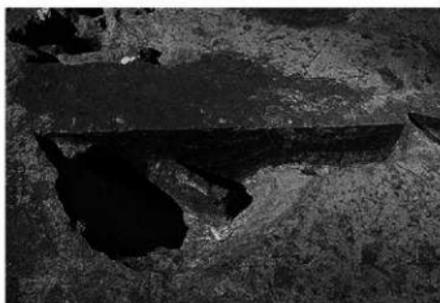
SK3151 セクション (19C5 東から)



SK3890 完掘 (19C5 北から)



SK4178 遺物出土状況 (19C5 東から)



SK3208 セクション (19C5 東から)



SK3208 木片出土状況 (19C5 北から)



SK3181 セクション (19B24・25 西から)



SK3205 セクション (19B20 北から)



SK3225 セクション (19B12・13 東から)



SK3481 セクション (20B16 南から)



SK3719 セクション (20C1・6 東から)



SK3721 セクション (20C6 東から)



SK3887 セクション (19C10 西から)



SK4178 セクション (19C5 南から)



SK3742 セクション (21C6・7 南から)



SK3749 セクション (20C23, 20D3 東から)



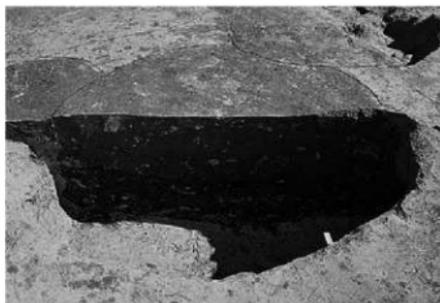
SK3718 セクション (20C1・2 北から)



SK3771 セクション (20C1 北から)



SK3773 完掘 (20C12・13 北から)



SK3772 セクション (20C13 西から)



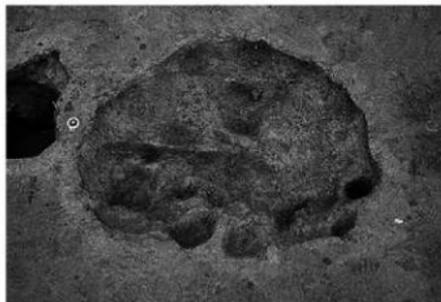
SK3779 完掘 (20C7 西から)



SK3780 完掘 (20C9・14 西から)



SK3784 セクション (21C16・21 南から)



SK3786 完掘 (20C5、21C1 東から)



SK3840 セクション (20C24・25、20D4 西から)



SK3898 完掘 (20C22、20D2 西から)



SK4202 セクション (20C13・18 南から)



SK3936 セクション (26D25、27D21 南から)



SK3937 セクション (27D12・13・17・18 東から)



SK4299 完掘 (24D18 東から)



SK4248 セクション (23D13 南から)



SK4265 セクション (23D3・8・4・9 南西から)



SE3650 遺物出土状況 (21E18・19・23・24 南から)



SE3650 完掘 (21E18・19・23・24 南から)



SE3651 遺物出土状況 (21D25 南から)



SE4375 炭検出状況 (21B21 東から)



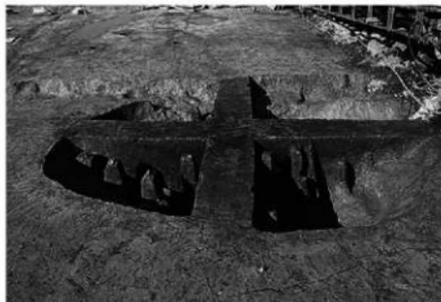
SE3906 3層土師器出土状況 (19D24 南から)



SE3906 3層土師器出土状況 (19D24 南から)



SE3683 セクション (22E23・24, 22F3・4 東から)



SE3683 遺物出土状況 (22E23・24, 22F3・4 南から)



SE3794 セクション (20C10・15 南から)



SE3794 遺物出土状況 (20C10・15 北から)



SE3938 セクション (26D23 南から)



SE3938 珠州焼片出土状況 (26D23 南から)



SE4037 セクション (26E19・20・24・25 西から)



SE4037 遺物出土状況 (26E19・20・24・25 南西から)



P3503 柱根出土状況 (20B23 南から)



P4104 柱根出土状況 (18E17 南から)



P4099 セクション (23E23 東から)



P4099 遺物出土状況 (23E23 東から)



SD3538 遺物出土状況 (18D・E, 19・20D, 21E 南から)



SD3538 セクション (19D20・25, 19E1 南から)



SD3538 遺物出土状況 (18D・E, 19・20D, 21E 南から)



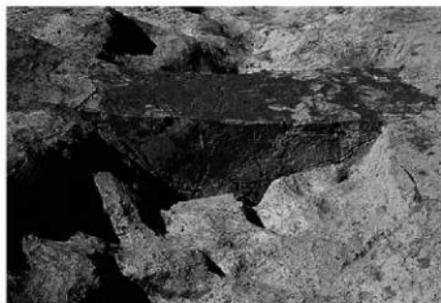
SD3538 遺物出土状況 (19D24 南から)



SD3175 セクション (17B15 南から)



SD3222 セクション (19B25 東から)



SD3231 セクション (19B17 東から)



SD3183・3232 セクション (19B22, 19C 東から)



SD3482 セクション (20B16 西から)



SD3576 セクション (20E20 南から)



SD3733 セクション (20C7 南から)



SD3734 セクション (20C14 南から)



SD3734 青磁出土状況 (20C14 東から)



SD3744 セクション (21C12・17 東から)



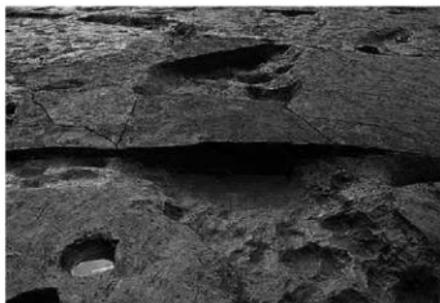
SD3745 セクション (20D4 北から)



左からSD3747・3187・3232 セクション (19C12・13 東から)



SD3682 セクション (22E18 東から)



SD3756 セクション (21D20・25 西から)



SD3763 セクション (22D8・9 東から)



SD3764・3763 セクション (22D14 東から)



SD4026 セクション (22C24, 22D2 南から)



SD4206 標・炭出土状況 (22D2 南から)



SD1 完掘 (26F, 27E・F, 28E・F 南から)



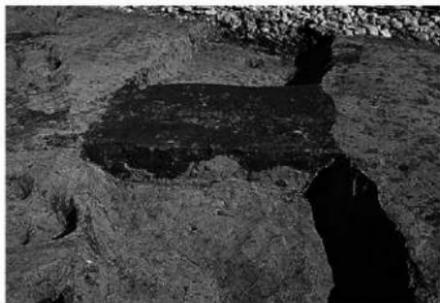
SD1 セクション (25F 南から)



SD1 セクション (26E・F 南から)



SD3947 セクション (25D22 東から)



SD4272・4251 セクション (23D18 南西から)



SD4287 セクション (24D17・22 北から)



SD4251 セクション (24D11 南西から)



SD4783 セクション (23D15 南西から)



SD4006 遺物出土状況 (27E25 南から)



SD3930 セクション (28D19・20・24・25 南東から)



SD3935 セクション (27D23 南から)



P4024・4025・4026・4027 横脚出土状況 (26F2・7 南から)

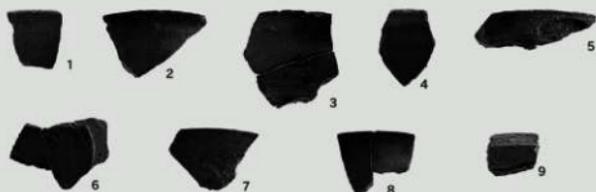


P4024・4025・4026・4027 横脚出土状況 (26F2・7 西から)

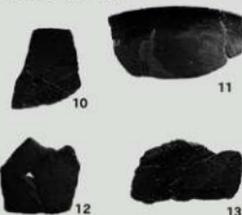


P4024・4025・4026・4027 セクション (26F2・7 南から)

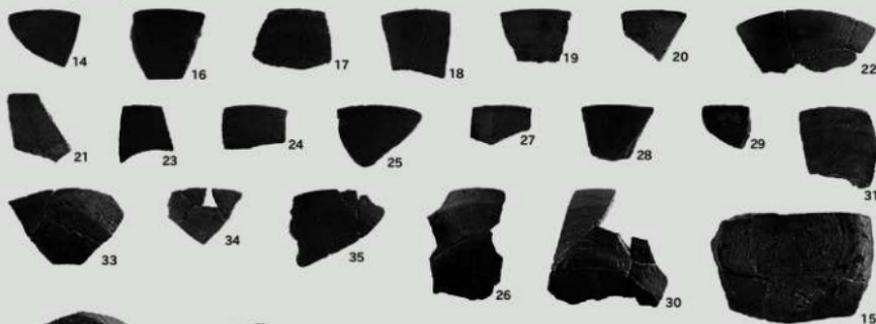
SX1746 (1~9)



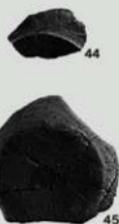
SX1746 (10~13)



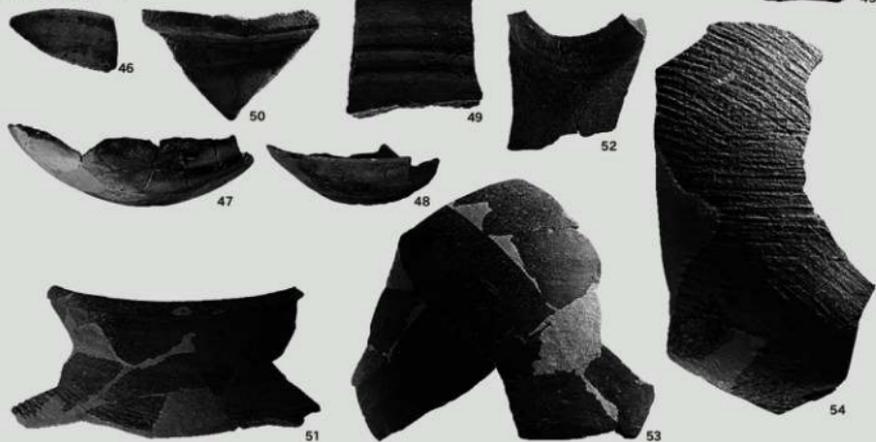
SX1786 (14~43)



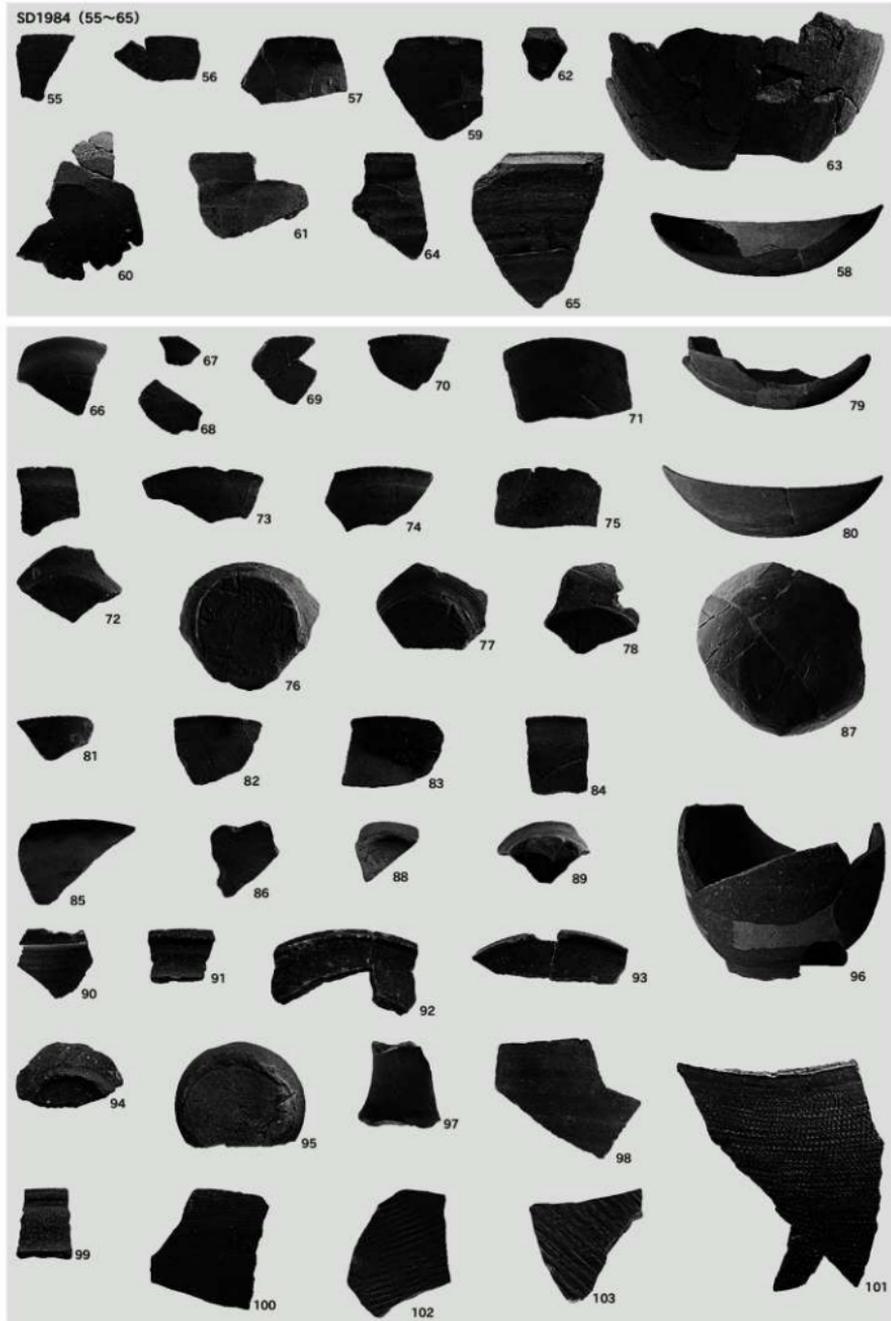
SX1921 (44·45)

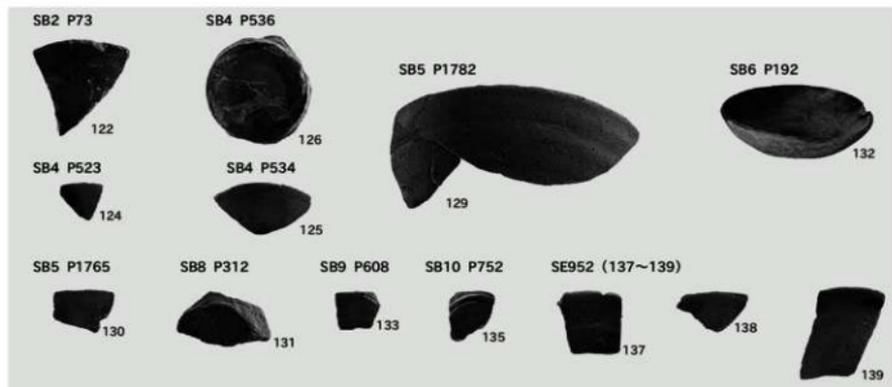
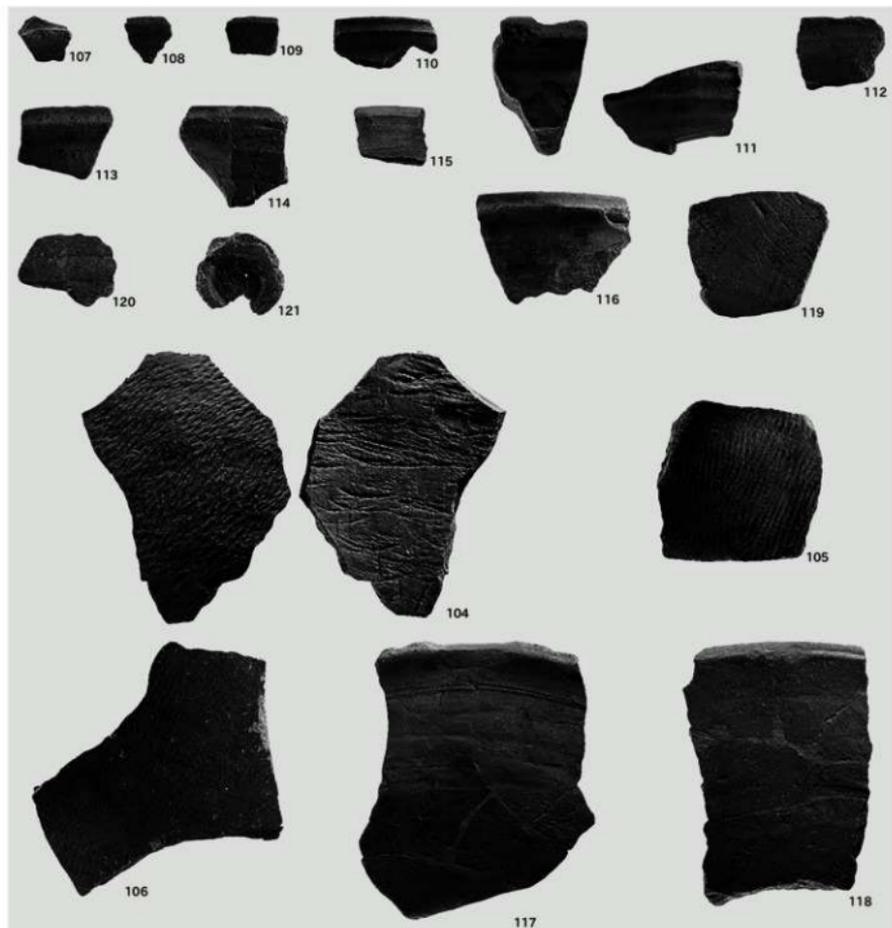


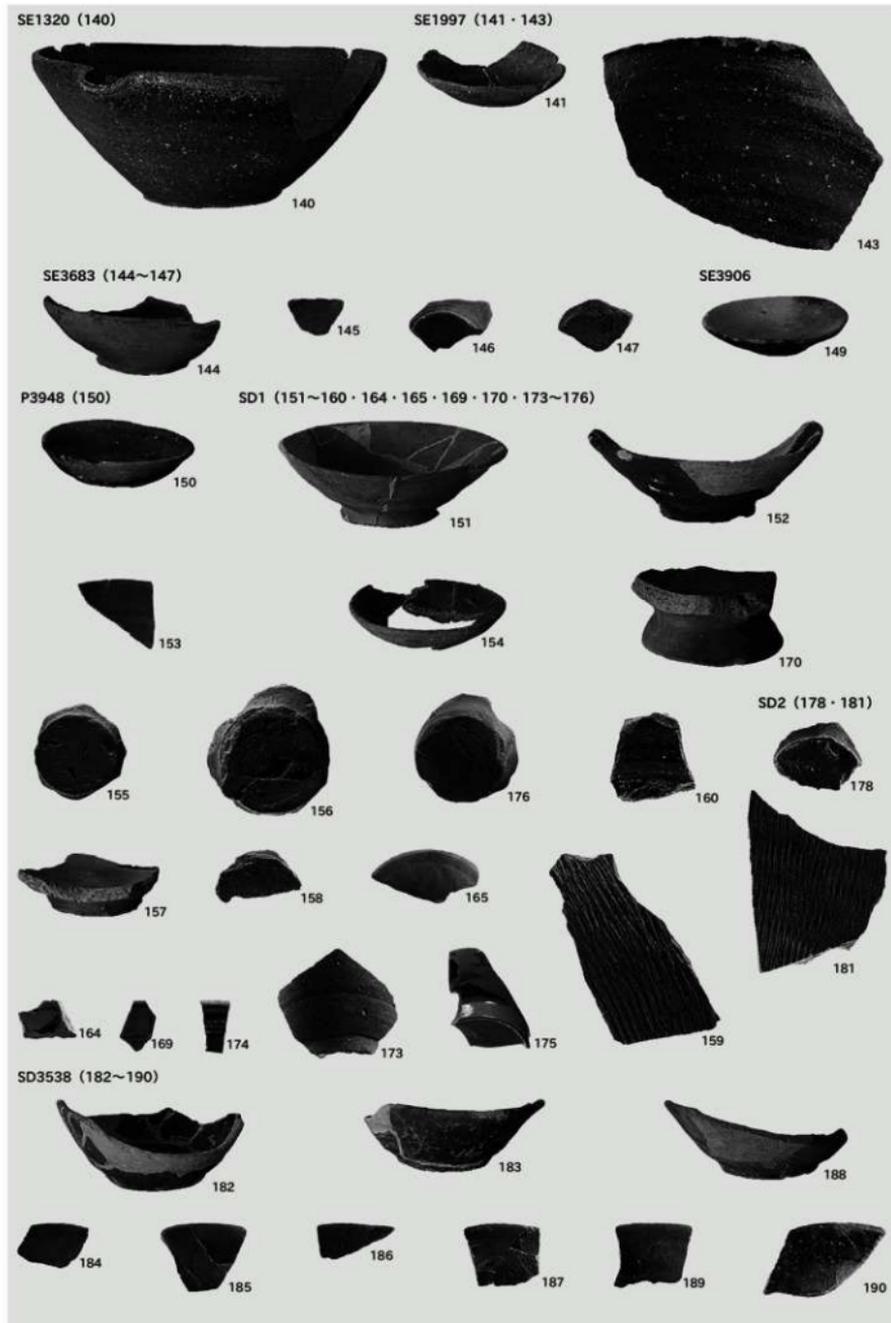
SX1992 (46~54)



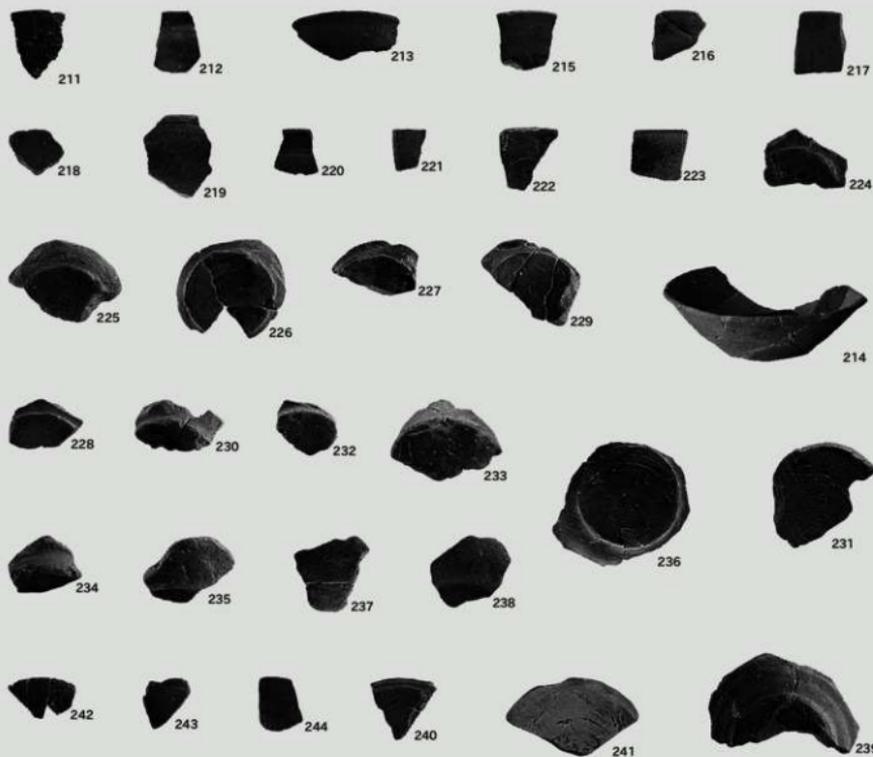
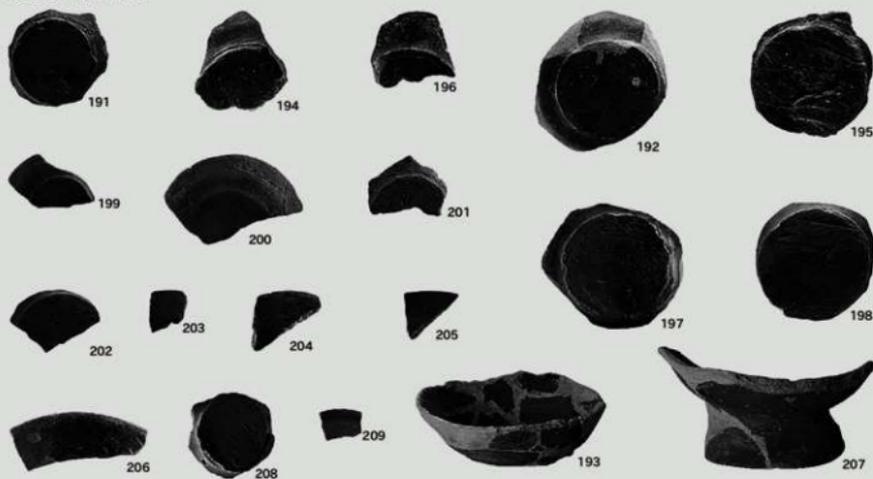
SD1984 (55~65)

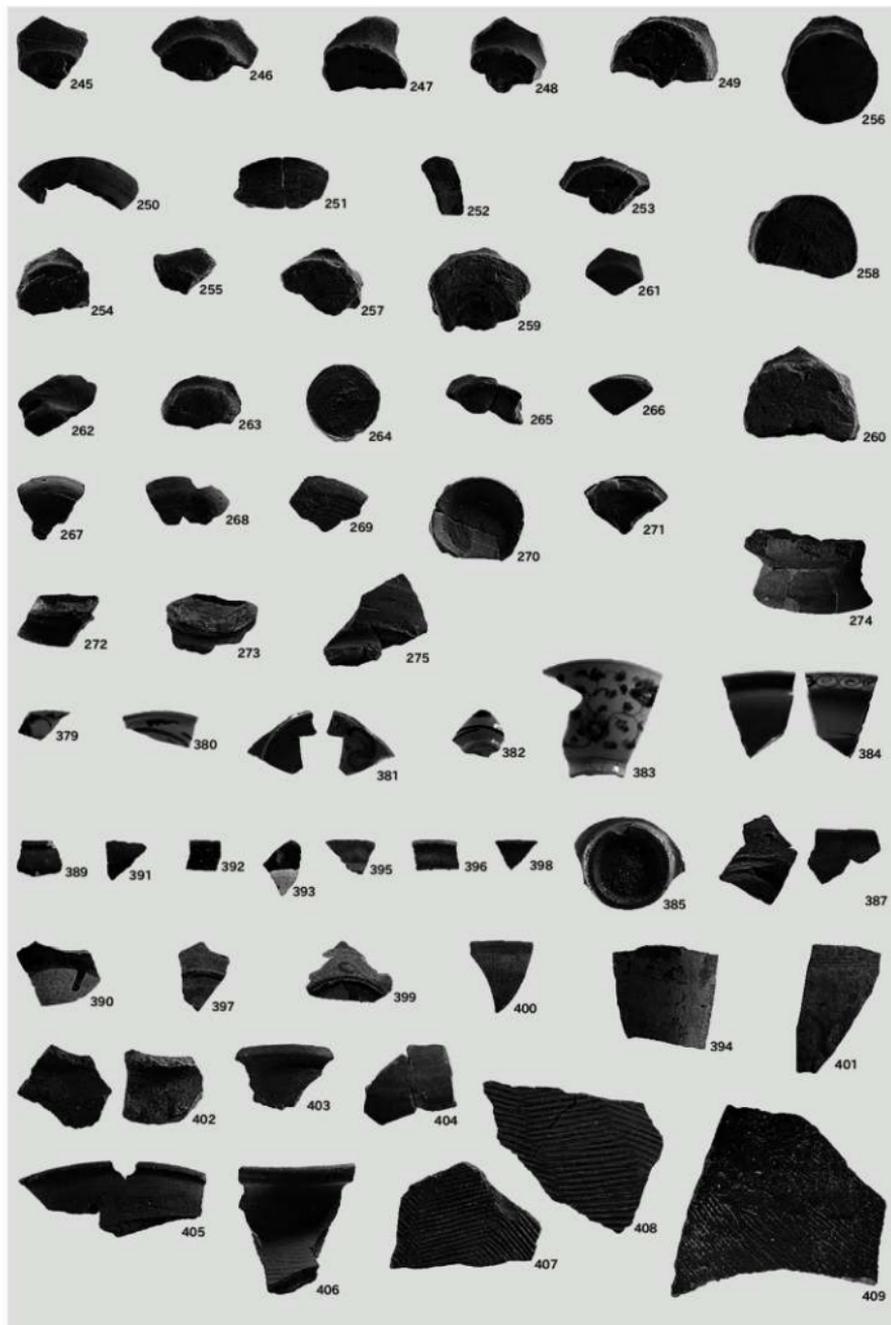


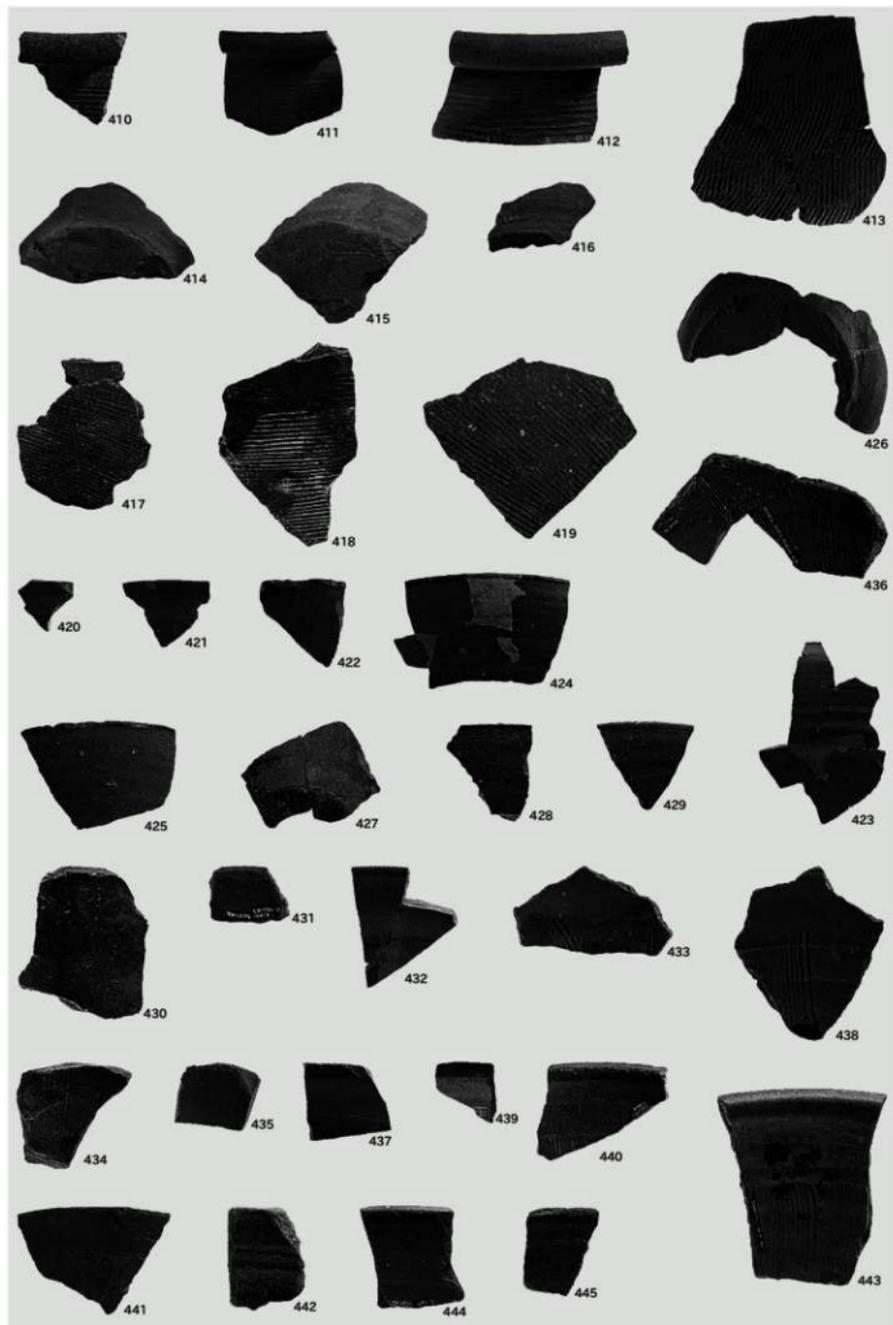


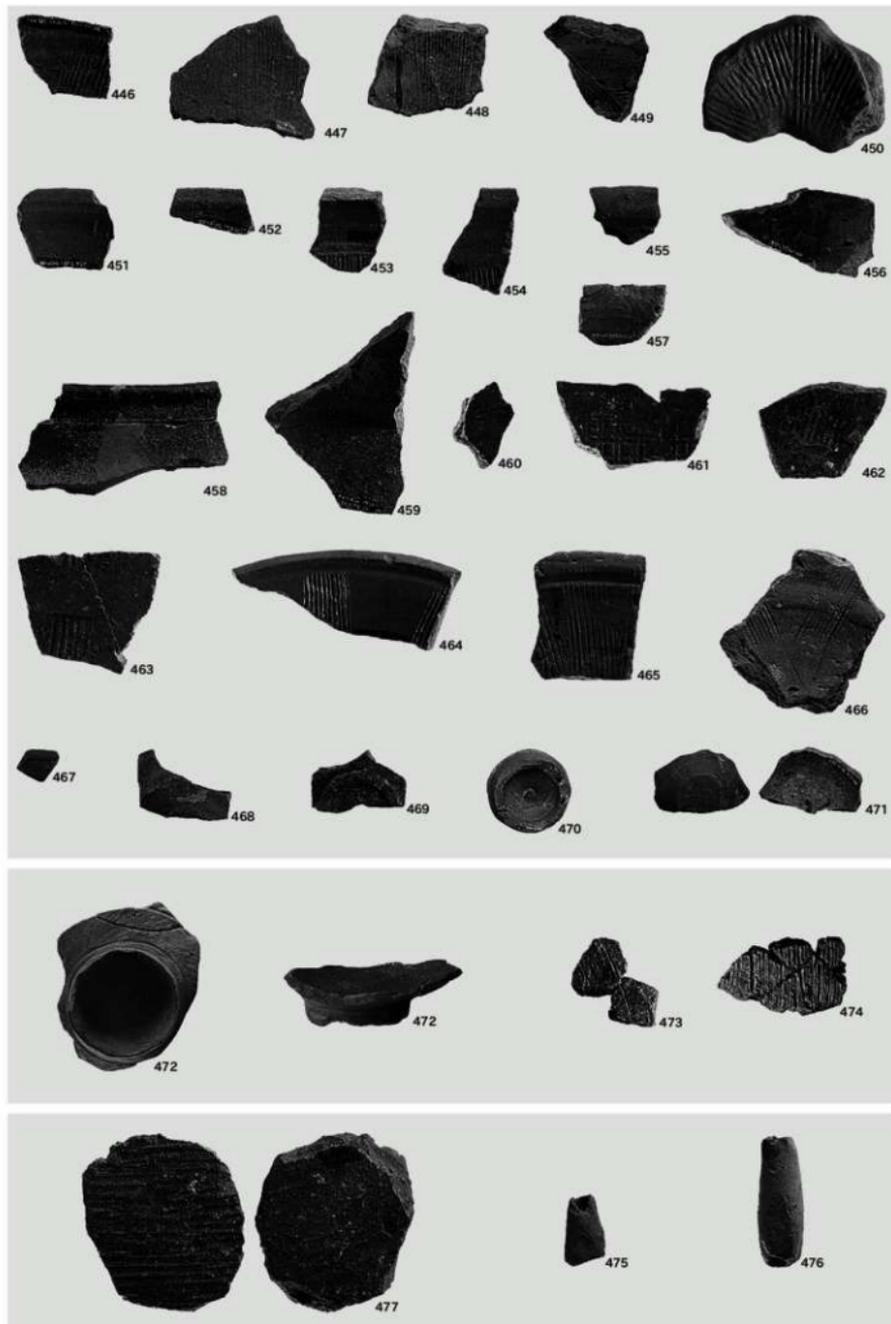


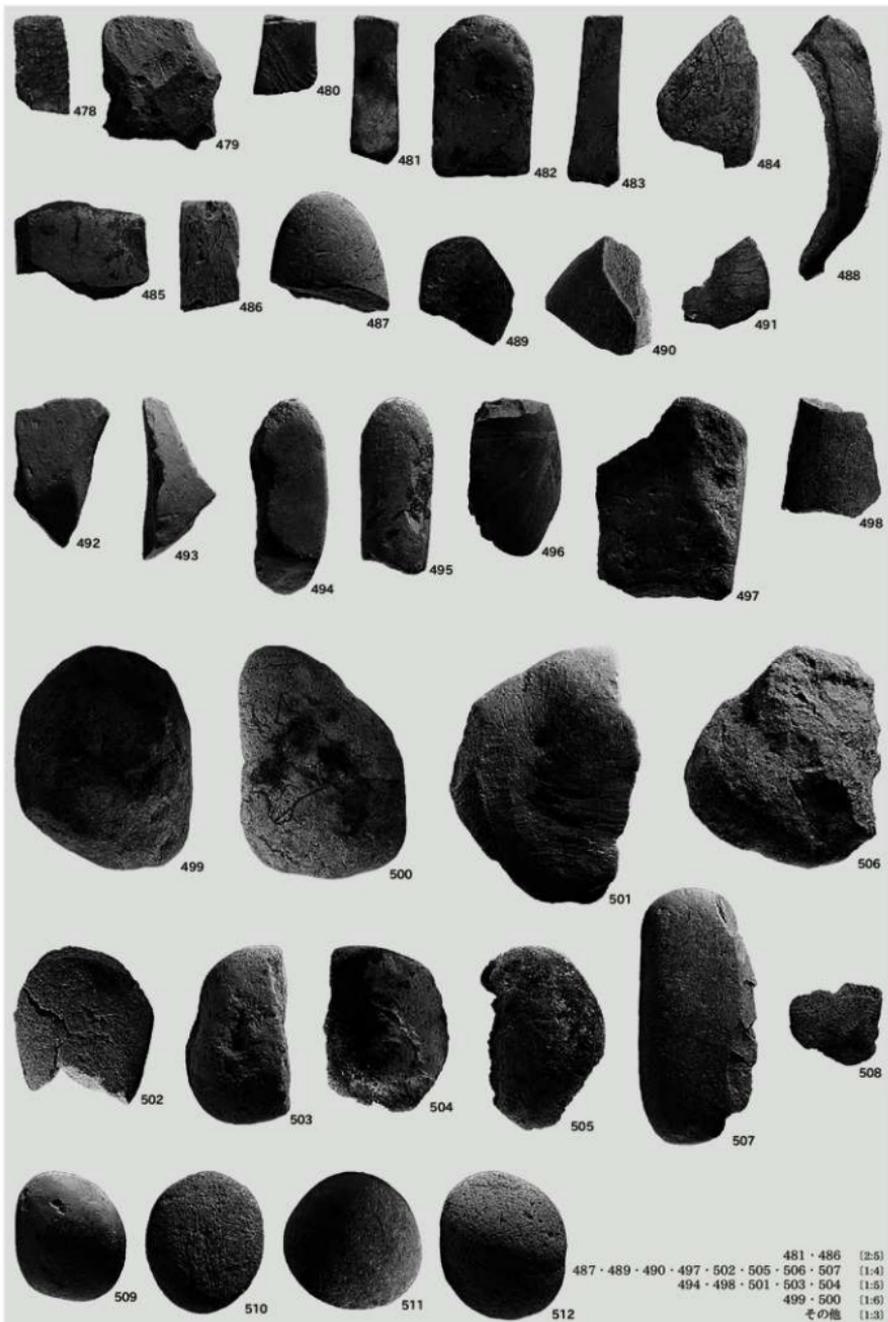
SD3538 (191~209)

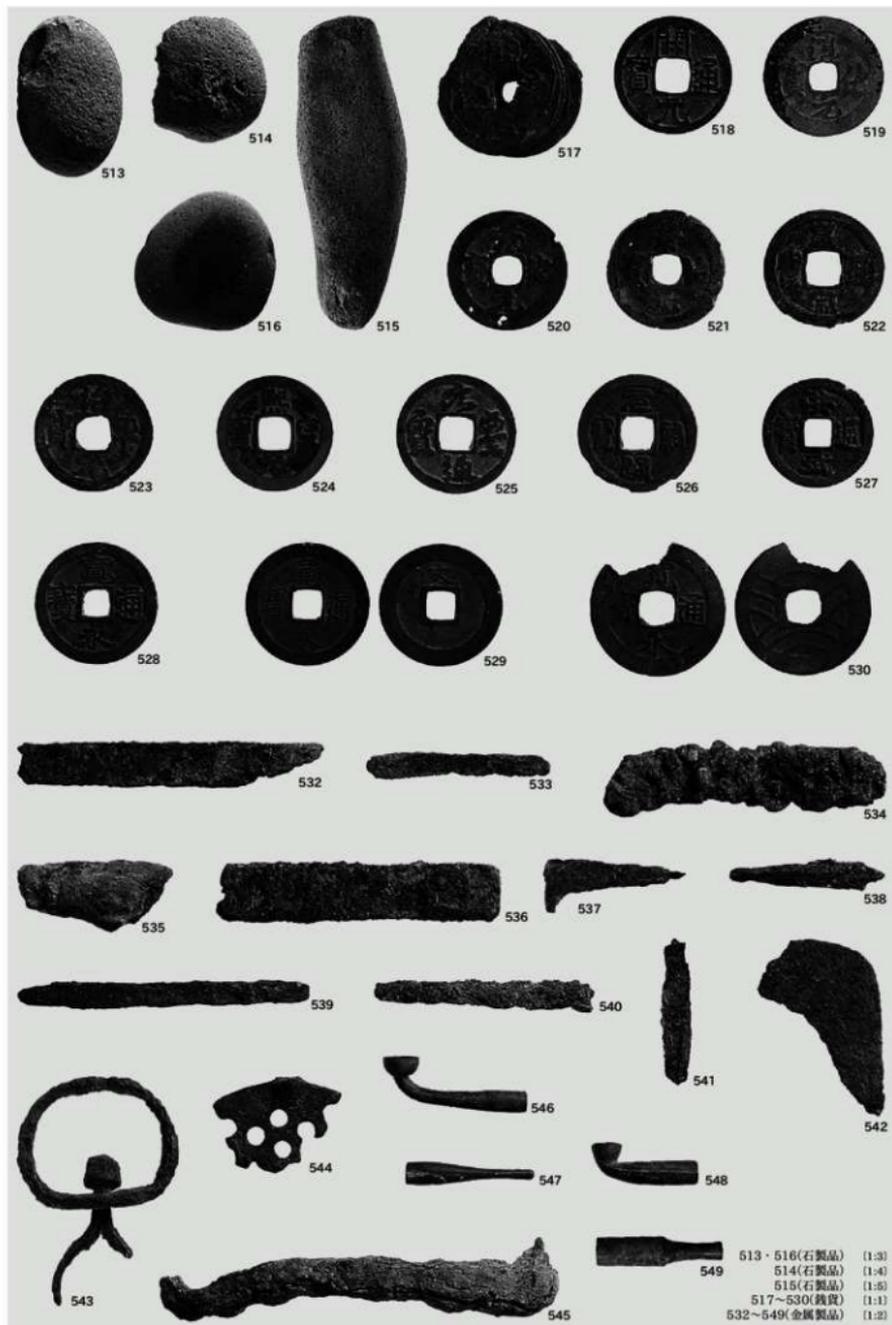














550・551・557・559・561・563(鉄滓) (1:2)
 597(木製品) (1:2)
 552・554・564(鉄滓)・599(木製品) (2:3)
 555・556・560・562(鉄滓) (2:3)
 583・584・590(木製品) (1:4)
 585(木製品) (1:6)
 586(木製品) (1:6)
 その他 (1:3)





621~623 (1:9)
624~629 (1:5)
630 (1:4)

報告書抄録

ふりがな	おおつぼいせき							
書名	大坪遺跡							
副書名	一般国道49号 安田バイパス関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第153集							
編著者名	荒川隆史・鳥津賢男・河崎昭一・清田明子・高田賢治・大澤正己・鈴木瑞穂・四柳嘉章・三村昌史 鈴木茂・黒澤一男・小林結一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・Zaur Lomtadize Ineza Jorjoliani							
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市金津93番地1 TEL 0250-25-3981							
発行年月日	2006(平成18)年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		m ²	
大坪遺跡	新潟県阿賀野市寺 社字大坪甲2219 番地2ほか	15223	100	37° 47′ 20″ ～ 37° 47′ 31″ (世界測 地系)	139° 13′ 47″ ～ 139° 13′ 45″ (世界測 地系)	20040512～ 20041204	10,000 m ²	一般国道49号 安田バイパス建 設
所収遺跡名	種別	時期	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大坪遺跡	散布地	弥生			弥生土器			
	散布地	古代	土師器焼成遺構(5基)		土師器、須恵器			
	集落	中世	掘立柱建物(51棟)、木棺墓(3基)、火葬墓ないし火葬場(1基)、竪穴状遺構(6基)、井戸(24基)、土坑(95基)、ピット(2587基)、溝(195条)など土坑		土師器、須恵器、珠洲焼、白磁、青白磁、青磁、高麗青磁、磁州窯白地鉄絵、漆器、柱根、木製品、石器、金属製品、銭貨など		大型掘立柱建物を中心とした集落跡。東側は大型の溝で区画される。白磁、青磁など貴重な輸入陶磁器が多数出土。	
	散布地	近世	土坑(27基)、溝など		陶磁器、金属製品、銭貨など			

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第153集

一般国道49号 安田バイパス関係発掘調査報告書
大坪 遺跡

平成18年3月25日印刷
平成18年3月31日発行

編集・発行 新潟県教育委員会

〒950-8570 新潟市新光町4番地1
電話 025(285)5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市金津93番地1
電話 0250(25)3981
FAX 0250(25)3986

URL <http://www.maibun.net>

印刷・製本 阿部印刷株式会社

〒959-1704 新潟県五泉市村松甲2096
電話 0250(58)5115